大阪府河内長野市

三日市遺跡発掘調査報告書

Ⅱ

1988年10月

三日市遺跡調査会

大阪府河内長野市

三日市遺跡発掘調査報告書

Ⅱ

1988年10月

三日市遺跡調査会

序　　文

大阪府河内長野市は、大阪府の東南部に位置し、住宅都市として発達してきました。

大都市通勤圏内にありながら府下でもまれなほど自然環境に恵まれた町であり、古来からの数多くの文化財を伝えている町でもあります。

しかし、住宅開発の波はおさまらず、本市の南の玄関口である三日市町駅周辺に大規模の住宅開発が急増し、ますます、都市機能の充実が必要となってきました。

このような状況下の中、住宅都市整備公団によって三日市・片添両町にまたがる丘陵地帯に特定区画整理の計画が策定されました。この為、この地域に眠る埋蔵文化財の保護が必要になり、事業に先立ち発掘調査が実施されました。

この結果、旧石器時代から江戸時代に渡る数多くの遺構や遺物が発見されました。これは、この地域の歴史を明らかにするだけでなく河内長野市の歴史を知るうえにおいても貴重な資料となり、新たな郷土史が確立されることが望まれます。

なお、本調査を実施し得たのは、調査の意義をよく理解され、御協力を賜った地域住民の方々をはじめ住宅都市整備公団関西支社、同南大阪宅地開発事務所、大阪府教育委員会、河内長野市、河内長野市教育委員会、(財)大阪文化財センターに心から感謝の意を表するものです。また、大谷女子大学、奈良大学などの学識経験者の方々にはそのつど、適切な指導・助言をいただいたことを末尾ながらここに記し、深く感謝の意を表するとともに、今後とも文化財の保護に一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げる次第です。

理事長　中尾謙二

例　　言

1．本書は大阪府河内長野市片添町及び三日市町に所在する三日市遺跡の調査報告書である。

2．調査は三日市・片添地区特定区画整理事業に先立ち行なわれたものである。

3．調査及び本書に掛る経費は日本住宅都市整備公団が負担した。

4．現地調査は昭和60年１月から昭和62年４月まで行った。

5．本報告は奈良時代以降について行った。

6．遺構実測の一部は、写測エンジニアリング株式会社に委託した。

7．調査の実施においては、下記の方々の協力を得た。

大阪府教育委員会・河内長野市教育委員会・地元地主の方々・住宅都市整備公団関西支社・同大阪府南宅地開発事務所・(財)大阪文化財センター・河内長野市都市整備部・南海三日市共同企業体・南海電気鉄道株式会社・株式会社大林組・前田建設工業株式会社・壷山建設株式会社・南海建設株式会社・地元市民の方々

8．本書の執筆は各調査担当と協議し、尾谷雅彦、四宮加容子が分担したが、一部下記のとおり、執筆を依頼した。

第５章第１節の一部　　山口誠治（(財)大阪文化財センター技師）

9．編集については前記の２名がおこない、総括責任は尾谷雅彦が負うものである。

10．本書の作成については下記の方々の協力を得た。

北野耕平・林野全孝・野堀正雄・中村浩・西山要一・山口誠治・奥田尚・パリノサーベイ株式会社・京都科学標本株式会社・北岸昌男・鳴川修・加藤博章・橋本亨・三間江津子・谷　由美・武内雅人・尾上実

特に、林野全孝氏には掘立柱建物の復元について指導・助言を得た。

11．遺物の整理、実測・トレースは四宮加容子が統轄し、遺物の写真は中西和子が撮影した。

12．調査成果品は最終的に河内長野市教育委員会が保管し、一般に広く活用できるようにする。

凡　　例

1．本書の遺構名は下記の略記号をもちいた。

ＳＢ…掘立柱建物	ＳＤ…溝	ＳＥ…井戸	ＳＫ…土壙
ＳＲ…土壙墓	ＳＮ…埋桶	ＳＬ…埋甕	ＳＵ…集石
ＳＷ…石列	ＳＹ…窯状遺構	ＳＸ…その他	ＮＶ…自然地形

2．遺構番号は、各遺構ごとに一連番号を記した。

3．地区名は、国土座標による調査地区割りに基づくものと調査工事発注に伴う調査区番号とを併用した。

4．遺物番号と写真図版の番号とは一致するようにした。

5．瓦器編年については、尾上実氏の編年をもちいた。

6．遺物実測図は、土器1/4その中で拓本を伴うもの1/2、木器1/3・1/4・1/6、鉄器1/2、1/3・1/4、石製品は1/4、瓦は1/3・1/4とした。

7．遺構図は規模により1/20・1/30・1/40・1/50・1/60・1/80・1/100・1/150・1/200・1/250とした。

8．土色については、新版標準土色帖1976.　9月による。

目　　次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次
付図目次
第１章　はじめに…… 1
　第１節　調査に至る経過…… 1
　第２節　調査の方法…… 4
第２章　位置と環境…… 7
　第１節　位置と自然的環境…… 7
　第２節　歴史的環境…… 11
第３章　遺構…… 15
　第１節　５地区…… 15
　　１．　概略…… 15
　　２．　遺構…… 15
　第２節　２地区…… 18
　　１．　概略…… 18
　　２．　遺構・遺物…… 18
　第３節　１地区…… 29
　　１．　概略…… 29
　　２．　遺構・遺物…… 29
　第４節　４地区…… 47
　　１．　概略…… 47
　　２．　遺構・遺物…… 47
　第５節　３地区…… 113
　　１．　概略…… 113
　　２．　遺構・遺物…… 113
　第６節　６地区…… 179
　　１．　概略…… 179

2．　遺構・遺物…… 179
第４章　遺物…… 217
第５章　木器の保存処理…… 227
第１節　出土木製品の保存科学的処理について…… 227
第２節　三日市遺跡出土木製遺物の樹種について…… 229
第６章　まとめ…… 233
第１節　遺跡の変遷…… 233
第２節　総括…… 238

挿図目次

第 1 図　調査区配置及び調査区画設定図…… 5
第 2 図　遺跡位置図…… 7
第 3 図　調査地区地形区分図…… 8
第 4 図　河内長野市遺跡分布図…… 9
第 5 図　ＳＢ９・ＳＢ10配置図…… 15
第 6 図　ＳＢ９ピット内遺物出土状況図（1/30）…… 16
第 7 図　ＳＢ９遺物実測図…… 16
第 8 図　ＳＢ９遺構図…… 17
第 9 図　ＳＢ10遺構図…… 17
第 10 図　ＳＢ14遺構図及び遺物実測図…… 18
第 11 図　ＳＢ15遺構図及び遺物実測図…… 18
第 12 図　ＳＢ16遺構図及び溝断面図…… 18
第 13 図　ＳＢ16遺物実測図…… 19
第 14 図　ＳＢ17遺構図及び遺物実測図…… 19
第 15 図　ＳＢ18遺構図…… 19
第 16 図　ＳＢ19遺構図…… 19
第 17 図　ＳＢ20・ＳＢ21遺構図及び溝断面図…… 19
第 18 図　ＳＥ１遺構実測図（1/30）…… 20
第 19 図　ＳＫ158遺構実測図（1/30）…… 21
第 20 図　ＳＫ161遺構（1/30）及び遺物実測図…… 21
第 21 図　ＳＫ164遺構実測図（1/50）…… 21
第 22 図　ＳＫ164遺物実測図…… 22
第 23 図　ＳＸ３遺物実測図…… 22

第 24 図　ＮＶ４下層遺物実測図（１）…… 23
第 25 図　ＮＶ４遺構実測図（1/80）…… 24
第 26 図　ＮＶ４中層遺物実測図（２）…… 25
第 27 図　ＮＶ４中層遺物実測図（３）…… 26
第 28 図　ＮＶ６遺構実測図　平面（1/100）・断面（1/80）…… 27
第 29 図　ＮＶ６遺物実測図…… 28
第 30 図　ＳＢ１遺物実測図…… 29
第 31 図　ＳＢ２遺構図…… 29
第 32 図　ＳＢ３遺物実測図…… 29
第 33 図　ＳＢ３遺構実測図（1/80）…… 30
第 34 図　ＳＢ４遺構図…… 30
第 35 図　ＳＢ１遺構実測図（1/80）…… 31・32
第 36 図　１地区建物配置図…… 33・34
第 37 図　ＳＢ６遺構図・溝断面図（1/30）・遺物実測図 …… 35
第 38 図　ＳＢ７・ＳＢ８遺構実測図（1/80）…… 36
第 39 図　ＳＢ７及びＳＢ７に伴うＳＤ９・ＳＤ10遺物実測図…… 37
第 40 図　ＳＢ８遺構図…… 37
第 41 図　ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ４溝断面図（1/30）…… 38
第 42 図　ＳＤ２遺物実測図…… 38
第 43 図　ＳＤ16溝断面図（1/30）及び遺物実測図…… 38
第 44 図　ＳＫ４遺構実測図（1/30）…… 38
第 45 図　ＳＫ５・ＳＫ６遺構実測図（1/30）…… 39
第 46 図　ＳＫ７遺構実測図（1/30）…… 39
第 47 図　ＳＫ９・ＳＫ17・ＳＫ19遺構実測図（1/30）…… 40
第 48 図　ＳＫ20・ＳＫ21遺構実測図（1/30）…… 40
第 49 図　ＳＫ22遺構実測図（1/30）…… 41
第 50 図　ＳＫ23遺構実測図（1/30）…… 41
第 51 図　ＳＫ38遺構実測図（1/30）…… 41
第 52 図　ＳＫ42遺構実測図（1/30）…… 42
第 53 図　ＳＫ45遺構実測図（1/30）…… 42
第 54 図　ＳＸ２遺構（1/30）及び遺物実測図…… 43
第 55 図　ＮＶ１遺構実測図（1/100）…… 44
第 56 図　ＮＶ２遺構実測図　平面（1/100）・断面（1/80）…… 45
第 57 図　ＮＶ１遺物実測図…… 46

第 58 図　ＮＶ２遺物実測図…… 46
第 59 図　ＳＢ25遺構図…… 47
第 60 図　４地区Ｉ－Ｈ建物配置図（１）（1/250）…… 47
第 61 図　ＳＢ26遺構実測図（1/80）…… 48
第 62 図　４地区Ｉ－Ｈ建物配置図（２）（1/250）…… 49
第 63 図　ＳＢ80遺構図…… 50
第 64 図　ＳＢ29遺構図及び遺物実測図…… 50
第 65 図　ＳＢ30遺構図…… 50
第 66 図　ＳＢ28遺構図及びＳＤ59・ＳＤ60断面図（1/30）…… 51
第 67 図　ＳＢ28及びＳＢ28に伴うＳＤ59遺物実測図…… 51
第 68 図　ＳＢ33遺構図…… 52
第 69 図　ＳＢ34遺構図及びピット１遺物出土状況図（1/30）…… 52
第 70 図　ＳＢ34遺物実測図…… 52
第 71 図　ＳＢ35遺構図…… 52
第 72 図　ＳＢ35遺物実測図…… 52
第 73 図　ＳＢ37遺構図…… 52
第 74 図　ＳＢ38遺構図…… 52
第 75 図　ＳＢ41遺構図…… 53
第 76 図　ＳＢ42遺構図…… 53
第 77 図　ＳＢ43遺構図…… 53
第 78 図　ＳＢ44遺構図…… 53
第 79 図　ＳＢ45遺構図…… 53
第 80 図　４地区Ｉ－Ｊ・Ｉ－Ｋ・Ｉ－Ｍ・Ｉ－Ｎ建物配置図（３）（1/250）…… 54
第 81 図　ＳＢ46遺構図…… 55
第 82 図　ＳＢ48遺構図…… 55
第 83 図　ＳＢ49遺構図…… 55
第 84 図　ＳＢ50遺構実測図（1/80）…… 55
第 85 図　ＳＢ51遺構実測図（1/80）…… 56
第 86 図　ＳＤ53・ＳＤ54遺構配置図（1/250）…… 57
第 87 図　ＳＤ53断面実測図・遺物出土状況図（1/30）・遺物実測図…… 57
第 88 図　ＳＤ54遺構実測図（1/30）…… 58
第 89 図　ＳＤ54遺物実測図…… 59
第 90 図　ＳＤ56遺構実測図　平面（1/250）・断面（1/30）…… 59
第 91 図　ＳＤ57遺構（1/30）及び遺物実測図…… 60

第 92 図　ＳＤ74遺構（1/30）及び遺物実測図…… 60
第 93 図　ＳＤ75遺物実測図（1/30）…… 61
第 94 図　ＳＤ75遺物実測図（１）…… 62
第 95 図　ＳＤ75遺物実測図（２）…… 63
第 96 図　ＳＤ83遺構図及び溝断面図（1/30）…… 63
第 97 図　ＳＤ87遺構（1/30）及び遺物実測図…… 64
第 98 図　ＳＤ106遺構（1/50）及び遺物実測図 …… 65
第 99 図　ＳＤ108遺構実測図　平面（1/100）・断面（1/30）…… 65
第 100 図　ＳＤ112遺構実測図　平面（1/200）・断面（1/30）及び遺物実測図 …… 66
第 101 図　ＳＤ119・ＳＤ121断面実測図（1/30）…… 67
第 102 図　ＳＤ119遺物実測図 …… 67
第 103 図　ＳＤ127遺物実測図 …… 67
第 104 図　ＳＤ127・ＳＤ128・ＳＤ130遺構実測図　平面（1/200）・断面（1/30）…… 68
第 105 図　ＳＥ２遺構（1/30）及び遺物実測図…… 69
第 106 図　ＳＥ３遺構実測図（1/30）…… 69
第 107 図　ＳＥ３遺物実測図…… 70
第 108 図　ＳＥ４遺構（1/30）及び遺物実測図…… 71
第 109 図　ＳＥ５遺構（1/30）及び遺物実測図…… 72
第 110 図　ＳＥ６・ＳＫ506遺構実測図（1/30）…… 73
第 111 図　ＳＥ６遺物実測図…… 74
第 112 図　ＳＫ173遺構実測図（1/30）…… 74
第 113 図　ＳＫ175遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 74
第 114 図　ＳＫ183・ＳＫ184・ＳＫ185遺構実測図（1/20）…… 75
第 115 図　ＳＫ183・ＳＫ184・ＳＫ185遺物実測図 …… 75
第 116 図　ＳＫ196・ＳＫ197・ＳＫ198遺構実測図（1/30）…… 76
第 117 図　ＳＫ196遺物実測図 …… 76
第 118 図　ＳＫ201遺構実測図（1/30）…… 76
第 119 図　ＳＫ201遺物実測図 …… 77
第 120 図　ＳＫ206遺構実測図（1/30）…… 77
第 121 図　ＳＫ208遺構実測図（1/30）…… 77
第 122 図　ＳＫ208遺物実測図 …… 78
第 123 図　ＳＫ210遺構実測図（1/30）…… 78
第 124 図　ＳＫ211・ＳＫ213遺物実測図…… 78
第 125 図　ＳＫ211・ＳＫ212・ＳＫ213遺構実測図（1/50）…… 79

第126図　ＳＫ222遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 80
第127図　ＳＫ228遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 81
第128図　ＳＫ231遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 82
第129図　ＳＫ236遺構（1/40）及び遺物実測図 …… 83
第130図　ＳＫ243遺構（1/80）及び遺物実測図 …… 84
第131図　ＳＫ256・ＳＫ257・ＳＫ258遺構実測図（1/20） …… 85
第132図　ＳＫ256遺物実測図 …… 85
第133図　ＳＫ257遺物実測図 …… 86
第134図　ＳＫ258遺物実測図 …… 86
第135図　ＳＫ263遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 87
第136図　ＳＫ292遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 87
第137図　ＳＫ294遺構実測図（1/30） …… 88
第138図　ＳＫ500遺構実測図　平面（1/100）・断面（1/60） …… 88
第139図　ＳＫ501遺構実測図（1/30） …… 89
第140図　ＳＫ501・ＳＫ506遺物実測図 …… 89
第141図　ＳＫ522遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 90
第142図　ＳＫ523・ＳＤ160・ＳＤ161遺構実測図（1/150） …… 91
第143図　ＳＫ523遺構実測図（1/50） …… 91
第144図　ＳＫ523遺物実測図 …… 92
第145図　ＳＲ６遺構（1/30）及び遺物（１）実測図 …… 93
第146図　ＳＲ６遺物実測図（２） …… 94
第147図　ＳＲ７・ＳＲ８遺構（1/30）及びＳＲ７遺物実測図 …… 94
第148図　ＳＲ８遺物実測図 …… 95
第149図　ＳＵ１遺構実測図（1/150） …… 96
第150図　ＳＵ１－１～ＳＵ１－４遺構実測図（1/40） …… 96
第151図　ＳＵ１－５～ＳＵ１－12遺構実測図（1/40） …… 98
第152図　ＳＵ１－13～ＳＵ１－18遺構実測図（1/40） …… 99
第153図　ＳＵ１遺物実測図（１） …… 100
第154図　ＳＵ１遺物実測図（２） …… 101
第155図　ＳＵ１遺物実測図（３） …… 102
第156図　ＳＵ１遺物実測図（４） …… 103
第157図　ＳＵ６遺構実測図（1/30） …… 105
第158図　ＳＵ７遺構実測図（1/30） …… 106
第159図　ＳＵ８遺構実測図（1/30） …… 107

第160図　ＳＵ９遺構実測図（1/30）…… 108
第161図　ＳＵ６・ＳＵ７・ＳＵ８・ＳＵ９遺物実測図…… 109
第162図　ＳＵ10遺構実測図（1/30）…… 109
第163図　ＳＵ11遺構実測図（1/30）…… 110
第164図　ＳＹ４遺構実測図（1/30）…… 111
第165図　ＳＹ４遺物実測図…… 111
第166図　ＳＹ10遺構実測図　平面（1/40）・断面（1/20）…… 112
第167図　ＳＢ59遺構図…… 113
第168図　ＳＢ60遺構図…… 113
第169図　ＳＢ61遺構図…… 113
第170図　ＳＢ63遺構図及び溝断面図（1/30）…… 113
第171図　３地区Ⅲ－Ｓ・Ⅲ－Ｙ建物配置図（1/250）…… 114
第172図　ＳＢ65遺構図…… 115
第173図　ＳＢ66遺構図…… 115
第174図　ＳＢ67遺構図及び溝断面図（1/30）…… 115
第175図　ＳＢ67に伴うＳＤ219遺物実測図…… 115
第176図　ＳＢ69遺構図…… 116
第177図　ＳＢ70遺構図…… 116
第178図　ＳＢ72遺構図…… 116
第179図　ＳＢ75遺構図…… 116
第180図　ＳＢ76遺構図及び遺物実測図…… 116
第181図　ＳＤ209遺構実測図（1/50）…… 117
第182図　ＳＤ209遺物実測図…… 117
第183図　ＳＤ213遺物実測図　平面（1/250）・断面（1/30）及び遺物実測図…… 117
第184図　ＳＤ215遺物実測図…… 118
第185図　ＳＤ215・ＳＤ217遺構配置図（1/250）…… 118
第186図　ＳＤ215・ＳＤ217遺構実測図　平面（1/80）・断面（1/40）…… 119
第187図　ＳＤ217遺物実測図（１）…… 120
第188図　ＳＤ217遺物実測図（２）…… 121
第189図　ＳＤ222遺構実測図（1/30）…… 121
第190図　ＳＤ222遺物実測図…… 122
第191図　ＳＤ226遺構実測図（1/30）…… 122
第192図　ＳＤ226遺物実測図…… 123
第193図　ＳＤ228遺構（1/60）及び遺物実測図…… 123

第194図　ＳＤ232・ＳＥ18遺構実測図（1/30）…… 124
第195図　ＳＤ232遺物実測図（１）…… 125
第196図　ＳＤ232遺物実測図（２）…… 126
第197図　ＳＤ232遺物実測図（３）…… 127
第198図　ＳＥ９・ＳＥ10遺構（1/50）及びＳＥ10遺物実測図…… 127
第199図　ＳＥ11遺構実測図（1/30）…… 128
第200図　ＳＥ11遺物実測図（１）…… 129
第201図　ＳＥ11遺物実測図（２）…… 130
第202図　ＳＥ11遺物実測図（３）…… 131
第203図　ＳＥ12遺構（1/30）及び遺物（１）実測図…… 131
第204図　ＳＥ12遺物実測図（２）…… 132
第205図　ＳＥ13遺構実測図（1/30）…… 133
第206図　ＳＥ13遺物実測図…… 134
第207図　ＳＥ14遺構（1/50）及び遺物実測図…… 135
第208図　ＳＥ15遺構（1/30）及び遺物（１）実測図…… 136
第209図　ＳＥ15遺物実測図（２）…… 137
第210図　ＳＥ15遺物実測図（３）…… 138
第211図　ＳＥ18遺物実測図…… 138
第212図　ＳＥ22遺構実測図（1/30）…… 139
第213図　ＳＥ22遺物実測図（１）…… 140
第214図　ＳＥ22遺物実測図（２）…… 141
第215図　ＳＥ22遺物実測図（３）…… 142
第216図　ＳＥ23遺構（1/30）及び遺物実測図…… 142
第217図　ＳＥ24遺構実測図（1/30）…… 142
第218図　ＳＥ24遺物実測図…… 143
第219図　ＳＫ388遺構実測図（1/30）…… 144
第220図　ＳＫ388遺物実測図…… 144
第221図　ＳＫ408遺構実測図（1/30）…… 145
第222図　ＳＫ408遺物実測図…… 145
第223図　ＳＫ416遺構実測図（1/30）…… 145
第224図　ＳＫ425遺物実測図…… 146
第225図　ＳＫ429遺構（1/40）及び遺物実測図…… 146
第226図　ＳＫ435・ＳＫ436遺構（1/30）及び遺物実測図…… 147
第227図　ＳＫ437遺物実測図…… 147

第228図　ＳＫ445遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 148
第229図　ＳＫ456遺構（1/30）及び遺物（１）実測図 …… 149
第230図　ＳＫ456遺物実測図（２） …… 150
第231図　ＳＫ458遺構実測図（1/30） …… 150
第232図　ＳＫ458遺物実測図（1/30） …… 151
第233図　ＳＫ469遺構実測図 …… 152
第234図　ＳＫ469遺物実測図 …… 153
第235図　ＳＫ470遺構（1/50）及び遺物実測図 …… 154
第236図　ＳＫ474・ＳＫ475・ＳＫ477遺構実測図（1/30） …… 155
第237図　ＳＫ475遺物実測図 …… 155
第238図　ＳＫ479遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 156
第239図　ＳＲ９遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 157
第240図　ＳＲ10遺構実測図（1/30） …… 157
第241図　ＳＲ10遺物実測図 …… 158
第242図　ＳＮ４・ＳＮ５遺構実測図（1/30） …… 158
第243図　ＳＮ６遺構（1/30）及び遺物（１）実測図 …… 159
第244図　ＳＮ６遺物実測図（２） …… 160
第245図　ＳＮ７遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 161
第246図　ＳＬ５遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 162
第247図　ＳＬ６遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 162
第248図　ＳＮ３・ＳＬ７遺構（1/30）及びＳＬ７遺物実測図 …… 163
第249図　ＳＷ３遺構実測図（1/40） …… 164
第250図　ＳＷ４遺構実測図（1/40） …… 165
第251図　ＳＷ４遺物実測図 …… 166
第252図　ＳＷ５遺構実測図（1/40） …… 167
第253図　ＳＷ５遺物実測図 …… 168
第254図　ＳＷ６遺構実測図（1/40） …… 168
第255図　ＳＷ６遺物実測図 …… 169
第256図　ＳＹ８遺構（1/50）及び遺物（１）実測図 …… 171
第257図　ＳＹ８遺物実測図（２） …… 172
第258図　ＳＹ８遺物実測図（３） …… 173
第259図　ＳＸ13遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 173
第260図　ＮＶ５遺構実測図　平面（1/150）・断面（1/60） …… 174
第261図　ＮＶ５遺物実測図（１） …… 175

第262図　ＮＶ５遺物実測図（２）…… 176
第263図　ＮＶ５遺物実測図（３）…… 177
第264図　ＮＶ５遺物実測図（４）…… 178
第265図　ＳＢ53遺構図・ピット内遺物出土状況図・遺物実測図…… 179
第266図　ＳＢ57遺構図…… 179
第267図　ＳＢ78遺構図…… 179
第268図　６地区Ⅲ－Ｎ遺構配置図（1/250）…… 180
第269図　ＳＢ175・ＳＤ176・ＳＤ177遺構実測図　平面（1/200）・断面（1/30）…… 181
第270図　ＳＤ177遺物実測図…… 182
第271図　ＳＤ179遺物実測図…… 182
第272図　ＳＤ181遺物実測図（１）…… 182
第273図　ＳＤ181遺物実測図（２）…… 183
第274図　ＳＤ186遺物実測図…… 184
第275図　ＳＤ200遺構実測図（1/60）…… 184
第276図　ＳＥ７遺構（1/50）及び遺物（１）実測図…… 185
第277図　ＳＥ７遺物実測図（２）…… 186
第278図　ＳＥ７遺物実測図（３）…… 187
第279図　ＳＥ７遺物実測図（４）…… 188
第280図　ＳＥ７遺物実測図（５）…… 189
第281図　ＳＥ７遺物実測図（６）…… 190
第282図　ＳＥ８・ＳＥ16遺構実測図（1/30）…… 191
第283図　ＳＥ25遺構（1/30）及び遺物実測図…… 192
第284図　ＳＥ26遺構（1/30）及び遺物実測図…… 193
第285図　ＳＫ305遺構（1/50）及び遺物（１）実測図…… 194
第286図　ＳＫ305遺物実測図（２）…… 195
第287図　ＳＫ309遺構（1/30）及び遺物実測図…… 196
第288図　ＳＫ310遺構（1/30）及び遺物（１）実測図…… 196
第289図　ＳＫ310遺物実測図（２）…… 197
第290図　ＳＫ311遺構（1/30）及び遺物実測図…… 197
第291図　ＳＫ323遺構実測図（1/30）…… 198
第292図　ＳＫ323遺物実測図…… 199
第293図　ＳＫ328遺構（1/30）及び遺物実測図…… 199
第294図　ＳＫ330遺物実測図…… 200
第295図　ＳＫ337遺物実測図…… 200

第296図　ＳＫ346遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 201
第297図　ＳＫ347・ＳＫ350遺構実測図（1/30） …… 201
第298図　ＳＫ347・ＳＫ350遺物実測図 …… 202
第299図　ＳＫ357遺物実測図 …… 202
第300図　ＳＫ496遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 202
第301図　ＳＮ１遺物実測図 …… 203
第302図　ＳＮ２遺物実測図 …… 203
第303図　ＳＮ１・ＳＮ２遺構実測図（1/30） …… 203
第304図　ＳＬ１遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 204
第305図　ＳＬ２遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 204
第306図　ＳＬ３・ＳＬ４遺構（1/20）及び遺物実測図 …… 205
第307図　ＳＵ12遺構実測図（1/30） …… 206
第308図　ＳＵ12遺物実測図 …… 207
第309図　ＳＵ13遺構（1/30）及び遺物実測図 …… 208
第310図　ＳＹ６遺構（1/40）及び遺物実測図 …… 208
第311図　ＳＹ７遺構実測図（1/50） …… 209
第312図　ＳＸ６・ＳＸ７遺構実測図　平面（1/40）・ＳＸ７断面（1/20） …… 210
第313図　ＳＸ６遺物実測図（１） …… 211
第314図　ＳＸ６遺物実測図（２） …… 212
第315図　ＳＸ６遺物実測図（３） …… 213
第316図　ＳＸ８遺物実測図 …… 213
第317図　ＳＸ11遺構実測図　平面・立面（1/60）・断面（1/30）及び遺物実測図 …… 214
第318図　出土輸入銭拓影 …… 225
第319図　ＰＥＧ含浸処理槽全景 …… 227
第320図　真空凍結乾燥機全景 …… 228
第321図　出土木製遺物の顕微鏡写真 …… 231
第322図　掘立柱建物配置模式図 …… 234

表　目　次

第 1 表　河内長野市遺跡地名表…… 10
第 2 表　主要出土遺物時代区分表…… 219～220
第 3 表　地区別包含層出土遺物割合表…… 221
第 4 表　出土輸入銭一覧…… 226
第 5 表　出土木製遺物の鑑定結果一覧…… 230
第 6 表　時期別遺構分布表…… 235～236

図版目次

図版 1　遺構　遺跡全景写真

図版 2　遺構　5地区　ＳＢ９全景（北東から）　ＳＢ10全景（南西から）

図版 3　遺構　2地区　ＳＢ15・16全景（東から）　ＳＢ17全景（西から）

図版 4　遺構　2地区　ＳＢ18全景（東から）　ＳＢ19全景（上が北）

図版 5　遺構　2地区　ＳＢ20・21全景（上が北）　ＳＫ158全景（南から）

図版 6　遺構　2地区　ＳＫ161全景（北西から）　ＳＫ164、ＳＸ３、ＮＶ６全景（南から）

図版 7　遺構　2地区　ＳＸ３全景（北東から）　ＮＶ４全景（南東から）

図版 8　遺構　1地区　ＳＢ１・２全景（南西から）　ＳＢ１柱穴断面

図版 9　遺構　1地区　ＳＢ３全景（北西から）　ＳＢ３柱穴断面

図版 10　遺構　1地区　ＳＢ４全景（南から）　ＳＢ６　ＳＤ１～８・28　ＳＫ38・45全景（南から）

図版 11　遺構　1地区　ＳＢ７・82・ＳＤ９・10全景（南西から）　ＳＢ７柱穴断面

図版 12　遺構　1地区　ＳＢ８　ＳＫ４～９全景（東から）　ＳＫ17～23全景（東から）

図版 13　遺構　1地区　ＳＸ２遺物出土状況（南西から）　ＳＤ16　ＮＶ１全景（南から）

図版 14　遺構　4地区　ＳＢ25・80全景（北東から）　ＳＢ28　ＳＤ57・59・60　ＳＥ２　ＳＫ196～198全景（東から）

図版 15　遺構　4地区　ＳＢ26全景（北から）　ＳＢ26柱穴断面

図版 16　遺構　4地区　ＳＢ29全景（南東から）　ＳＢ30　ＳＫ206全景（東から）

図版 17　遺構　4地区　ＳＢ33～35・37　ＳＤ74・75　ＳＥ３～５　ＳＫ208・210～213全景（北東から）　ＳＢ34－Ｐ１土器出土状況

図版 18　遺構　4地区　ＳＢ41全景（北東から）　ＳＢ42全景（北から）

図版 19　遺構　4地区　ＳＢ43・44　ＳＤ119・121　ＳＫ263全景（南西から）ＳＢ46　ＳＫ294全景（東から）

図版 20　遺構　4地区　ＳＢ48全景（西から）　ＳＢ49全景（東から）

図版 21　遺構　4地区　ＳＢ50全景（北から）　ＳＢ51全景（北西から）

図版 22　遺構　4地区　ＳＤ53中央土器出土状況　ＳＤ53西側土器出土状況

図版 23　遺構　4地区　ＳＤ54全景（南西から）　ＳＤ74全景（北から）

図版 24　遺構　4地区　ＳＤ100・101全景（北西から）　ＳＤ87全景（西から）

図版 25　遺構　4地区　ＳＥ３全景（北西から）　ＳＥ４全景（北西から）

図版 26　遺構　4地区　ＳＥ５全景（南東から）　ＳＥ６全景（北から）

図版 27　遺構　4地区　ＳＫ175全景（北東から）　ＳＫ183全景（南から）

図版 28　遺構　4地区　ＳＫ184全景（南東から）　ＳＫ185全景（北から）
図版 29　遺構　4地区　ＳＫ196全景（北東から）　ＳＫ201全景（北から）
図版 30　遺構　4地区　ＳＫ222全景（北から）　ＳＫ228全景（北から）
図版 31　遺構　4地区　ＳＫ236全景（南東から）　ＳＫ243　ＳＤ106・108全景（南西から）
図版 32　遺構　4地区　ＳＫ256全景（南西から）　ＳＫ258全景（南東から）
図版 33　遺構　4地区　ＳＫ263全景（北から）　ＳＫ292全景（南から）
図版 34　遺構　4地区　ＳＢ49　ＳＤ127・128・130　ＳＫ500・501・506・509全景（北から）ＳＫ522全景（北から）
図版 35　遺構　4地区　ＳＤ160・161　ＳＫ523全景（北東から）　ＳＲ６全景（北から）
図版 36　遺構　4地区　ＳＲ７全景（南から）　ＳＲ８全景（北から）
図版 37　遺構　4地区　ＳＵ１全景（上が南東）　ＳＵ１－１～ＳＵ１－12（北東から）
図版 38　遺構　4地区　ＳＵ６～８全景（東から）　ＳＵ７～９全景（北から）
図版 39　遺構　4地区　ＳＵ10全景（東から）　ＳＵ11全景（北東から）
図版 40　遺構　4地区　ＳＹ４全景（北から）　ＳＹ10全景（南から）
図版 41　遺構　3地区　ＳＢ59・60　ＳＥ９・10　ＳＲ９　ＳＬ５・６全景（南から）ＳＢ61全景（南から）
図版 42　遺構　3地区　ＳＢ63　ＳＤ247　ＳＥ11　ＳＫ388・435・436全景（南西から）ＳＢ65・69・72全景（南から）
図版 43　遺構　3地区　ＳＢ67　ＳＤ219・222・232　ＳＥ13・18　ＳＫ456・458・474・475・477・479　ＳＷ４　ＳＸ13全景（北東から）　ＳＢ70　ＳＤ228　ＳＥ15全景（南西から）
図版 44　遺構　3地区　ＳＤ209全景（東から）　ＳＤ215・217　ＳＥ23　ＳＫ425・429　ＳＮ６・７全景（東から）
図版 45　遺構　3地区　ＳＤ226全景（東から）　ＳＤ232　ＳＥ18　ＳＸ13全景（南東から）
図版 46　遺構　3地区　ＳＥ９全景（北西から）　ＳＥ10全景（西から）
図版 47　遺構　3地区　ＳＥ11全景（南東から）　ＳＥ11断面（北から）
図版 48　遺構　3地区　ＳＥ11遺物出土状況　ＳＥ12全景（南から）
図版 49　遺構　3地区　ＳＥ13全景（東から）　ＳＥ14全景（北から）
図版 50　遺構　3地区　ＳＥ15全景（南西から）　ＳＥ17全景（北西から）
図版 51　遺構　3地区　ＳＥ18全景（東から）　ＳＥ22土器出土状況（北西から）
図版 52　遺構　3地区　ＳＥ23全景（南西から）　ＳＥ24全景（南から）
図版 53　遺構　3地区　ＳＫ388全景（北東から）　ＳＫ408全景（東から）
図版 54　遺構　3地区　ＳＫ416 全景（北西から）　ＳＫ429全景（北東から）
図版 55　遺構　3地区　ＳＫ435全景（西から）　ＳＫ436全景（北東から）

図版 56　遺構　3地区　ＳＫ437全景（南西から）　ＳＫ445全景（北から）
図版 57　遺構　3地区　ＳＫ456全景（北東から）　ＳＫ458全景（北東から）
図版 58　遺構　3地区　ＳＫ470全景（南西から）　ＳＫ479全景（南東から）
図版 59　遺構　3地区　ＳＲ９全景（西から）　ＳＲ10全景（西から）
図版 60　遺構　3地区　ＳＮ３全景（北から）　ＳＮ４全景（東から）
図版 61　遺構　3地区　ＳＮ５全景（南から）　ＳＮ６全景（北東から）
図版 62　遺構　3地区　ＳＮ７全景（北西から）　ＳＬ５全景（東から）
図版 63　遺構　3地区　ＳＬ６全景（北東から）　ＳＬ７全景（北東から）
図版 64　遺構　3地区　ＳＷ３全景（北西から）　ＳＷ４全景（北から）
図版 65　遺構　3地区　ＳＷ５全景（北から）　ＳＷ６全景（南西から）
図版 66　遺構　3地区　ＳＹ８全景（北東から）　ＮＶ５全景（上が北）　ＮＶ５土器出土状況
図版 67　遺構　3地区・6地区　ＳＸ13全景（南から）　ＳＢ53　ＳＤ181　ＳＥ８全景（東から）
図版 68　遺構　6地区　ＳＢ57全景（南から）　ＳＤ175～179　ＳＫ309・310・328　ＳＮ１　ＳＵ12・13　ＳＹ６　ＳＸ６・７・11全景（南から）
図版 69　遺構　6地区　ＳＤ181全景（南東から）　ＳＤ186　ＳＥ７　ＳＫ337・347・350　ＳＸ８全景（南西から）
図版 70　遺構　6地区　ＳＥ７全景（南西から）　ＳＥ７断面（南西から）
図版 71　遺構　6地区　ＳＥ８遺物出土状況　ＳＥ８断面（西から）
図版 72　遺構　6地区　ＳＥ16全景（北から）　ＳＥ25全景（南東から）
図版 73　遺構　6地区　ＳＥ26全景（南東から）　ＳＫ301・305全景（東から）
図版 74　遺構　6地区　ＳＫ309遺物出土状況　ＳＫ310全景（東から）
図版 75　遺構　6地区　ＳＫ311全景（北東から）　ＳＫ328全景（北東から）
図版 76　遺構　6地区　ＳＫ337全景（東から）　ＳＫ346遺物出土状況
図版 77　遺構　6地区　ＳＫ347全景（東から）　ＳＫ350全景（南東から）
図版 78　遺構　6地区　ＳＫ357全景（南東から）　ＳＫ374全景（南から）
図版 79　遺構　6地区　ＳＮ１全景（北から）　ＳＮ２全景（東から）
図版 80　遺構　6地区　ＳＬ１全景（南東から）　ＳＬ２全景（南東から）
図版 81　遺構　6地区　ＳＬ３全景（南から）　ＳＬ４全景（北西から）
図版 82　遺構　6地区　ＳＵ12全景（北東から）　ＳＵ13全景（北西から）
図版 83　遺構　6地区　ＳＹ６全景（南から）　ＳＹ７全景（北から）
図版 84　遺構　6地区　ＳＸ６瓦出土状況（北から）　ＳＸ11石列検出状況（南東から）
図版 85　遺物　5地区　ＳＢ９（３・６・９・10・11・12・13・18・19・20・21）

図版 86　遺物　2地区　ＳＢ16（25）　ＳＫ161（29・30）　ＳＫ164（32・35・36）　ＳＸ３（39・40・41・42・43・44・45）

図版 87　遺物　2地区　ＳＸ３（46・47・48・49）　ＮＶ４（67・68・69・71・72・74・75・77・78・81）

図版 88　遺物　2地区　ＮＶ４（82・83・84・85・86・94・96・97）

図版 89　遺物　1地区　ＳＢ１（102）　ＳＢ６（104・105）　ＳＢ７（107・109）　ＳＤ16（119・120・121）　ＳＸ２（123・124・125）

図版 90　遺物　1地区　ＳＸ２（126・127・128・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138）

図版 91　遺物　1地区　ＳＸ２（139・140）ＮＶ１（143・144・145・146・147・148・149・150・151・152・153）

図版 92　遺物　1地区　ＮＶ１（155・156）　ＮＶ２（163・164・165・166・168・169・170・171・172・173・174）

図版 93　遺物　1地区・4地区　ＳＸ２（141）　ＮＶ１（158・159・160・161・162）ＮＶ２（177・178）　ＳＢ28（180・181・182・183）

図版 94　遺物　4地区　ＳＢ28（184）　ＳＢ34（188）　ＳＤ53（190・191・192・193・194・195・196・197・198・199・200・201）

図版 95　遺物　4地区　ＳＤ53（202・203・204・206・207・208・209・210・211・212）ＳＤ54（216・217）　ＳＤ57（224）　ＳＤ74（225）

図版 96　遺物　4地区　ＳＤ74（226・227・228）　ＳＤ75（229・230・231・232・233・235・236・237・238・244）

図版 97　遺物　4地区　ＳＤ87（249・250・251・252）　ＳＤ106（254・255・256・257・258・259）ＳＤ119（263・264）　ＳＤ127（268・269）

図版 98　遺物　4地区　ＳＥ３（271・273・274・275・276・277・278・279・280・281・282・283・284・285）

図版 99　遺物　4地区　ＳＥ３（286・287・288・290・291・292）　ＳＥ４（293・294・295・296・297・299・300・301）

図版 100　遺物　4地区　ＳＫ175（314）　ＳＫ183（316・317）　ＳＫ184（318）　ＳＫ185（319）　ＳＫ196（320）　ＳＫ201（321・322・323・324・325・326）　ＳＫ208（329）ＳＫ211（330）

図版 101　遺物　4地区　ＳＫ211（331・332・333・334）　ＳＫ222（338・339・340・341・342・343）　ＳＫ228（345・346・353）

図版 102　遺物　4地区　ＳＫ228（347・348・349・350・351・352）　ＳＫ231（356）　ＳＫ236（362・363・364・365・366・367）

図版 103　遺物　4 地区　S K256（370・371・373・374・375・376・377・378・379・380・381・382・383・384・385・386）

図版 104　遺物　4 地区　S K256（387・390・393・394・396・398・399・400・403・404・406・408）　S E257（411・412・414・415）

図版 105　遺物　4 地区　S K257（416・418・419・420・421）　S K258（422・423・424・426・427・428・429・430・431・432・433）

図版 106　遺物　4 地区　S K258（435・436・437・438・439・440・441・442・443・444・445・446・447・449・450・451）

図版 107　遺物　4 地区　S K258（452・453・454・455・456・457・458・460・461・462・463・464・465）　S K263（466・468・469）

図版 108　遺物　4 地区　S K263（471）　S K292（472・475・476）　S K501（478・479・480・481）　S K506（484・485）　S K522（486・487・488）　S K523（490）

図版 109　遺物　4 地区　S K523（491・492・493・494・495・496・497・499・501・502・503・505・506・507）

図版 110　遺物　4 地区　S K523（509・510）　S R 6（512・513・514・515・516・517・518・519・520・521・522・523）

図版 111　遺物　4 地区　S R 6（524・525・526・527・528・529・530・531・532・533・534・535・536・538・539・540・541）　S R 7（542）　S R 8（545）

図版 112　遺物　4 地区　S R 8（543・544）　S U 1（546・547・548・549・550・551・552・555・556・557・558・559・562）

図版 113　遺物　4 地区　S U 1（563・566・567・568・569・571・575・576・577・579）

図版 114　遺物　4 地区・3 地区　S U 1（583・585）　S D219（599・600・601・602・603・604）　S D213（615）　S D215（617・618・619）

図版 115　遺物　3 地区　S D219（605）　S D213（616）　S D217（621・622・623・624・625・626・627・628・629・630・631）

図版 116　遺物　3 地区　S D217（632・633・634・635・636・637・638）S D222（642・643）　S D228（649・650・651）

図版 117　遺物　3 地区　S D228（652・653・654・655・656・657）　S D226（658）　S D232（659・660・661・662・663・664・665）

図版 118　遺物　3 地区　S D232（667・668・669・670・671・674・675・677・678・679・680・683・684・687）

図版 119　遺物　3 地区　S D232（689）　S E11（705・706・708・709・712・715）S E12（728・729・730）

図版 120　遺物　3 地区　S E11（718・725・726・727）　S E12（731・732・733・734・735・

736)

図版121　遺物　3地区　SE12（737・738・739・740・742・743・744・746・747・748・749）SE13（755）　SE14（765）

図版122　遺物　3地区　SE12（750・752・753・754）　SE13（757・758・761・762・763）SE14（766・767・768）

図版123　遺物　3地区　SE15（769・771・772・773・774・775・776・777・778・779・782・783・785・787・790）

図版124　遺物　3地区　SE15（791・792・793）　SE18（797）　SE22（806・808・809・810・812・813・816）

図版125　遺物　3地区　SE22（814・815・817・824・825・826・827・830・832）

図版126　遺物　3地区　SE23（837）　SE24（838・839・841・842・843・844・845・846・848・850・852・853・854・855）

図版127　遺物　3地区　SE24（858）　SK425（863）　SK429（866）　SK437（875）SK445（876・877・880）　SK456（882・883・884・885・886・887）

図版128　遺物　3地区　SK456（888・889・890・891・892・893・894・895・896・897・898・899・900・902）

図版129　遺物　3地区　SK456（903・904）　SK458（907・908・909・912・913）　SK469（918・919・920・921・922・923・925）

図版130　遺物　3地区　SK469（926・927）　SK470（938）　SK475（940）　SK479（941・942・943・945・946・948）　SR9（949・950）　SR10（956）

図版131　遺物　3地区　SR10（957・958・959・960）　SN6（963）

図版132　遺物　3地区　SN6（963）

図版133　遺物　3地区　SN6（963）

図版134　遺物　3地区　SN7（965）

図版135　遺物　3地区　SL6（967）　SL7（968）　SW4（969）　SY8（981・982・985・987・991）

図版136　遺物　3地区　SX13（992・993・995・996・997・998・999・1000・1001・1002・1003・1004・1005・1006・1007・1008）

図版137　遺物　3地区　SX13（1009・1010・1013・1014・1019・1020・1021・1023）　NV5（1024・1025・1028・1029・1034・1035）

図版138　遺物　3地区　NV5（1036・1037・1041・1046・1072・1073・1074・1075・1076・1077・1079）

図版139　遺物　3地区・6地区　NV5（1086・1087）　SE7（1138・1139・1141）

図版140　遺物　3地区・6地区　NV5（1054・1055・1059）　SD179（1096）　SD181

（1098）　ＳＥ７（1133・1140・1142・1143）
図版141　遺物　６地区　ＳＥ７（1122・1123・1145・1146・1147・1148）
図版142　遺物　６地区　ＳＥ７（1149・1150・1151・1152・1153・1154・1155）
図版143　遺物　６地区　ＳＥ７（1156・1157・1159・1160・1161・1162）
図版144　遺物　６地区　ＳＥ７（1158）　ＳＥ25（1165）　ＳＥ26（1169）　ＳＫ305（1171）　ＳＫ309（1179）　ＳＫ310（1181）　ＳＫ311（1185・1186）　ＳＫ330（1190）　ＳＫ337（1193）
図版145　遺物　６地区　ＳＫ347（1195）　ＳＫ350（1196・1197）　ＳＮ２（1204）　ＳＵ12（1219・1220）　ＳＹ６（1224）　ＳＫ496（1255・1256）
図版146　遺物　６地区　ＳＬ１（1205）　ＳＬ２（1208）　ＳＬ３（1209）　ＳＬ４（1210）
図版147　遺物　６地区　ＳＸ６（1229・1233・1239・1240）
図版148　遺物　６地区　ＳＸ６（1236・1238）
図版149　遺物　６地区　ＳＸ６（1237・1241）
図版150　遺物　鉄製品　ＳＫ161（31）　ＳＸ２（142）　ＳＥ４（302）　ＳＥ５（305）　ＮＶ５（1084・1085・1088・1089・1090）　ＳＤ179（1097）　ＳＤ181（1100・1101）　ＳＤ186（1109）　ＳＥ７（1144）　ＳＬ１（1207）　ＳＸ８（1251）

付図目次

付図　1　三日市遺跡遺構全体図　５地区
付図　2　三日市遺跡遺構全体図　２地区（１）
付図　3　三日市遺跡遺構全体図　２地区（２）
付図　4　三日市遺跡遺構全体図　２地区（３）
付図　5　三日市遺跡遺構全体図　１地区
付図　6　三日市遺跡遺構全体図　４地区（１）・１－２地区
付図　7　三日市遺跡遺構全体図　４地区（２）
付図　8　三日市遺跡遺構全体図　６地区
付図　9　三日市遺跡遺構全体図　３地区・進入路

第1章　は　じ　め　に

第1節　調査に至る経過

1．遺跡の発見

本遺跡の発見は、昭和44年秋から同45年春にかけて実施された大師山遺跡及び大師山古墳の調査を契機に、同46年に実施した分布調査が端緒となった。大師山遺跡及び大師山古墳調査終了後、河内長野市教育委員会は関西大学考古学研究室の協力を得て、片添町の丘陵を分布調査した結果、土師質および瓦質の土器片が相当散布しているのが確認された。このことから、この丘陵一帯が埋蔵文化財包蔵地である可能性の高い地域であると注目されるに至った。

2．調査の原因

河内長野市は、近年大阪市のベッドタウンとして急速に発展してきた。このような状況下の中で市当局は、南海電鉄高野線三日市町駅前の整備計画を策定した。当該地域を区画整理し、駅前開発の中心地域とする方針に基づいて、その事業の実施を住宅都市整備公団へ依頼した。依頼を受けた同公団は、その後必要な用地の確保並びに地権者への説明や協力要請を行い、昭和59年度事業認可手続きのめどが立ったことから、市教育委員会を通じ府教育委員会に埋蔵文化財の取扱について協議がなされた。

これを受けて府教育委員会は、前述の分布調査をもとに当該地は埋蔵文化財包蔵地の可能性が極めて高い地域であり、試掘調査を実施しその結果に基づいて再度協議すること、合わせて調査を財団法人大阪文化財センターに委託される旨回答した。

3．試掘調査

回答を受けた公団は、数回にわたり、調査の方法や実施期間、経費について同センターと協議し、昭和58年12月5日付けで委託契約を締結した。現地における調査は昭和58年12月6日から昭和59年3月8日まで実施された。

調査は事業予定区域の200,000㎡に対し、幅2mの試掘溝を総延長1,000mにわたって設定し実施した。その結果ほぼ全域から縄文時代から近世までの遺構・遺物が確認され、大規模な遺跡であることが予想された。

4．本調査について

試掘調査の結果をもとに、府教育委員会・市教育委員会・公団の三者で、取扱についてその協議がなされ、記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなった。その協議のもとに、調査の実施機関・実施工程・調査経費等について、昭和59年9月10日づけで、三者において協定書が締結された。

これをもとに、調査の実施機関として、府教育委員会・市教育委員会・市・学識経験者からな

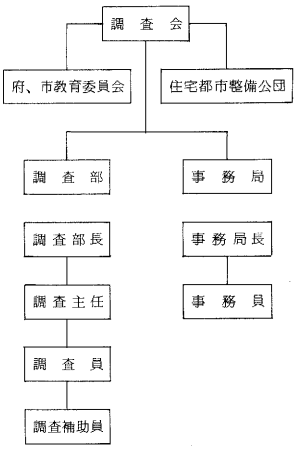
る三日市遺跡調査会が昭和59年11月１日に設立された。そして調査会と公団とにおいて昭和59年度の発掘調査業務の委託契約が締結された。ただちに昭和60年１月７日より現地調査を実施した。これ以後毎年度毎に委託契約を締結し、更に昭和60年８月15日には、公団と調査会とで、全調査費用の概算確定のため全体協定書を締結した。

現地調査は、昭和62年４月をもって一部を残し終了し、昭和63年３月に「三日市遺跡調査報告書Ｉ」を刊行し、昭和63年10月に本「三日市遺跡調査報告書II」を刊行し本事業を終了した。

５．調査組織

当該遺跡の調査は、大阪府教育委員会と河内長野市教育委員会とによって設立された三日市遺跡調査会が行っている。この組織は以下のとおりである。

理事会、事務局、調査部によって構成されている。理事は学術経験者を含め関係行政機関職員に依って構成されている。



三日市遺跡調査会機構図

理事長	河内長野市教育委員会教育長	中尾　謙二（昭和63年９月～昭和63年10月）
理事	大阪府教育委員会文化財保護課長	吉房　康幸（昭和59年～昭和63年）
理事	関西大学教授	網干　善教（昭和59年～昭和63年）
理事	大谷女子大学教授	中村　　浩（昭和59年～昭和63年）
理事	河内長野市総務部長	野手　正夫（昭和59年～昭和63年）
理事	河内長野市企画調整部長	西久保弘成（昭和59年～昭和63年）
理事	河内長野市都市整備部長	向井　　亨（昭和59年～昭和63年）
理事	河内長野市教育委員会教育次長	中谷　勝義（昭和63年９月～昭和63年10月）
理事	河内長野市教育委員会社会教育課長	田中　良治（昭和63年９月～昭和63年10月）
事務局長		釜ヶ谷正巳（昭和62年～昭和63年）
調査部長	大阪府教育委員会文化財保護課主幹	井藤　　徹（昭和59年～昭和63年）
調査主任	河内長野市社会教育課	尾谷　雅彦（昭和59年～昭和63年）
元理事長	前河内長野市教育委員会教育長	平井　義信（昭和59年～昭和63年９月）
元理事	河内長野市助役	上野　昭二（昭和63年～同年）
元理事	前河内長野市企画調整部長	芝上　利治（昭和61年～昭和63年９月）
元理事	前河内長野市教育委員会管理部長	水口　知治（昭和59年～昭和60年）
元理事	前河内長野市教育委員会教育次長	峰　　清勝（昭和60年～同年）
元理事	前河内長野市教育委員会理事	堀内　邦夫（昭和60年～昭和63年８月）
元理事	前河内長野市教育委員会社会教育課長	大谷　隆彦（昭和59年～昭和63年９月）
元事務局長		上野　英一（昭和59年～昭和60年）

元事務局長　前河内長野市教育委員会社会教育課長補佐　峰　正明（昭和61年～同年）

調査員　亀山隆（現亀山市教育委員会）　高　正龍（現京都市埋蔵文化財センター）　土師春樹（現大阪市立田辺中学校教諭）　松本高志　四宮加容子

調査補助員　谷健二　谷口和美　久保八重子　鈴木雅子　佐々木恵里　田路幸子　小泉雅代　明地奈緒美　岡山かおり　金田佳子　古池陽子　中村清美　阪本桂子　楠本真紀子　中西和子　平井令子　芝明美　松本准一　平岡祐子　福武世志子　橋本ひとみ　中西信子　吉田あけみ　奥田紀子　越膳静都子　東野麻衣子　半田香織　西本由美　北野哲也　松田友克　田中良明　枦山典子　畠山まこ　西浦賢恵　橋本美和子　坂村秀彦　東尾明美　安木真治　宮本育美　熊野祐美　向博子　福本泉　八木理子　清田実保　平井香　加嶋慶子　川原有沙　大北素代　森本良　山崎正芳　宝田忍　喜多順子　乾利夫　中村登美子　松尾寿美子　小野聡美　小川都　中野雅美　中村勝彦

第2節　調査の方法

1．調査地の策定

当該事業地はその面積が200,000㎡と広大であり、試掘の結果、遺跡はこの事業地の70％の区域に広がると予想された。

このため、全域の調査については、その費用・期間・人的体制等の現時点での条件下では不可能に近い状況であった。このため調査対象面積の縮小を余儀なくされ、事業計画に基づき、工事における切り土部分及び道路２ｍ以下の盛土部分について調査対象とした。残りの部分については盛土によって保存されるものとして調査対象から除外した。この結果、調査面積は約60,000㎡と成った。この調査地域の策定方法については、記録保存における種種の問題をはらんでおり、批判の対象となることは調査者の認めるところである。

2．調査地の区割り設定

調査の実施においては、便宜上№.１～６までの６地区の調査区を設定した。しかし、これはあくまで調査年度、人員の配置や堀削作業の発注の為であった。

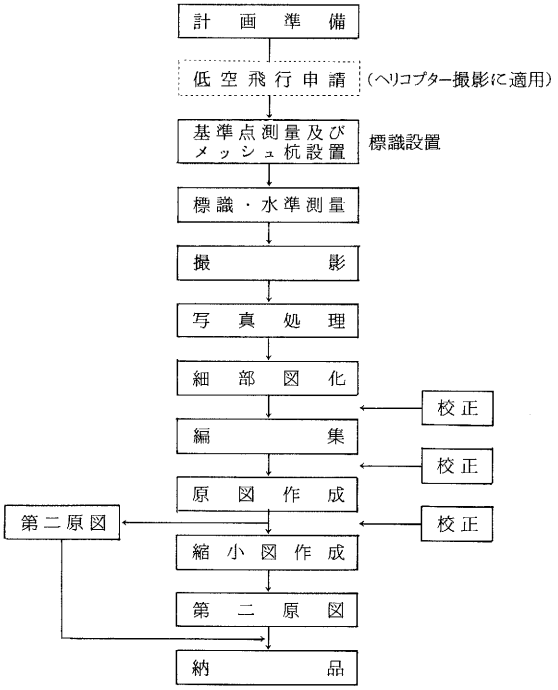
実際の調査における測図・遺物の取り上げや本書の記載については国土座標を基準（遺跡の原点はＸ＝－174.0㎞、Ｙ＝－39.0㎞）とした方角地区割り図をもとにした。一部便宜上№.１～６までの地区名を用いている。この区割りは大中小の３段階に設けた。大地区はⅠ～Ⅳに区画し、その中に100方眼のＡ～Ｐの中地区を配した。中地区は更に南北を１～20の数詞で、東西をａ～ｔで表し400等分した。つまり、小地区は５ｍ方眼とし、遺物の取り上げ等を行った。

3．航空測量について

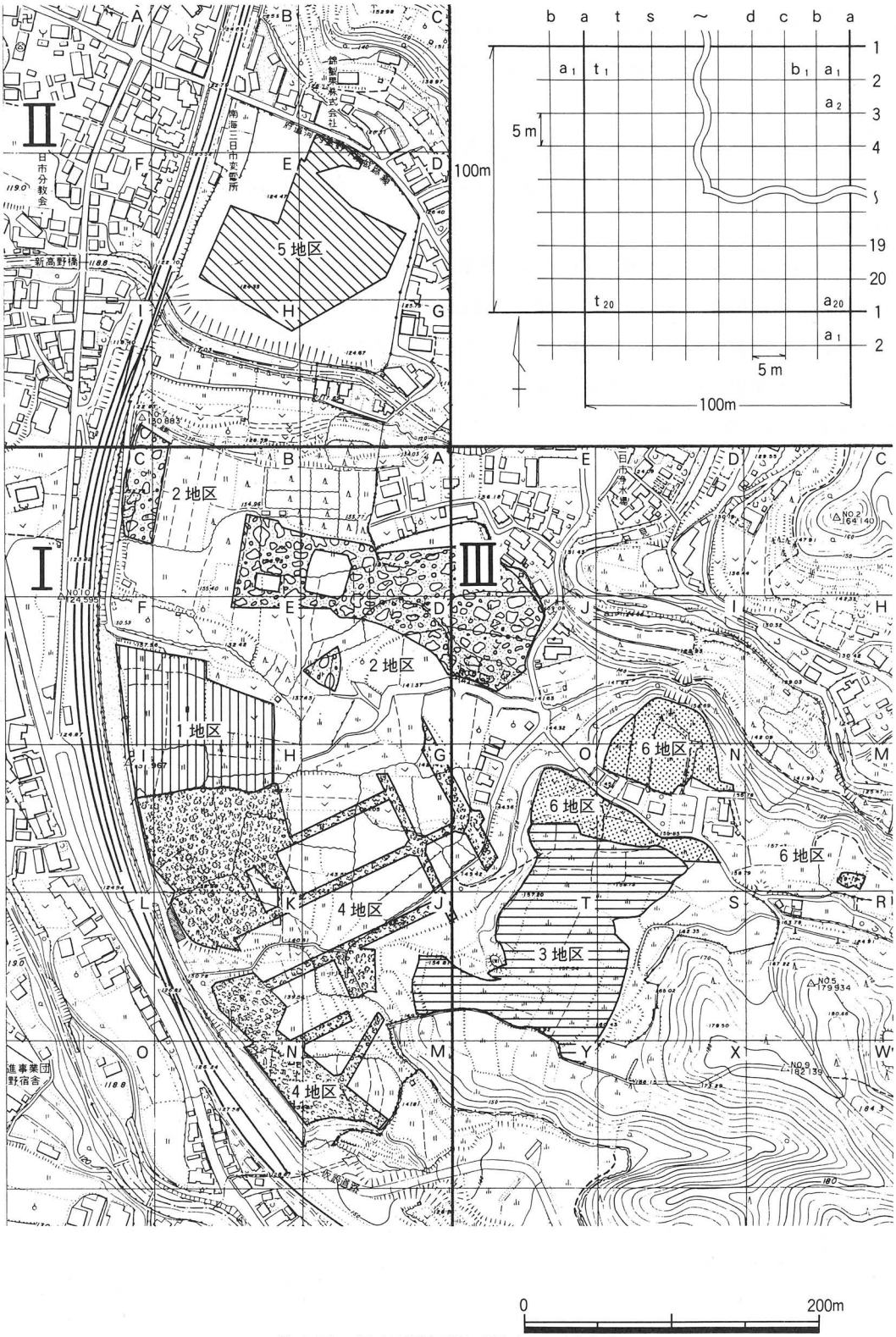
調査における測図は、１/20を基本として、方法としては航空測量と遣り方他測量をもちいた。航空測量は全域を遣り方測量は詳細図を作成するときに用いた。航空測量は当初ヘリコプターを用いたが、騒音等の問題が一部生じたところがあり、場所によってはバルーンを使用した。ヘリコプターおよびバルーンによる測量仕様は以下のとおりである。

（１）基準点について

基準点測量の座標系は大阪府適用の第Ⅳ系（原点は緯度36°　0′、経度136°　0′）を使用した。（昭和43年10月11日建設省告示第3059・昭和47年５月15日建設省告示第



作業手順（ヘリコプター・気球）



第１図　調査区配置及び調査区画設定図

952号改正）実際の基準点測量には住宅都市整備公団の成果を使用し、メッシュ杭設置の基準とした。メッシュ杭上には標識を設置し、細部図化の標定としてもちいた。標高の基準は東京湾平均海面とした。（T、P）

（2）ヘリコプター及びバルーン撮影の比較

［ヘリコプター撮影の長所］　撮影画面が大きい（23×23）。作業時間が短い。広い範囲に適用できる。

［ヘリコプター撮影の短所］　低空飛行申請が必要である（即時性にかける）。騒音・風圧がある（民家の密集地には不向き）。多繁期に機体確保が難しい（農薬散布等）。高価である。

［バルーン撮影の長所］　即作業に対応できる。滞留時間が長い。比較的廉価である。

［バルーン撮影の短所］　撮影画面が小さい（6×6）。作業時間が長い（範囲が広いと時間がかかる）。風に非常に弱い。

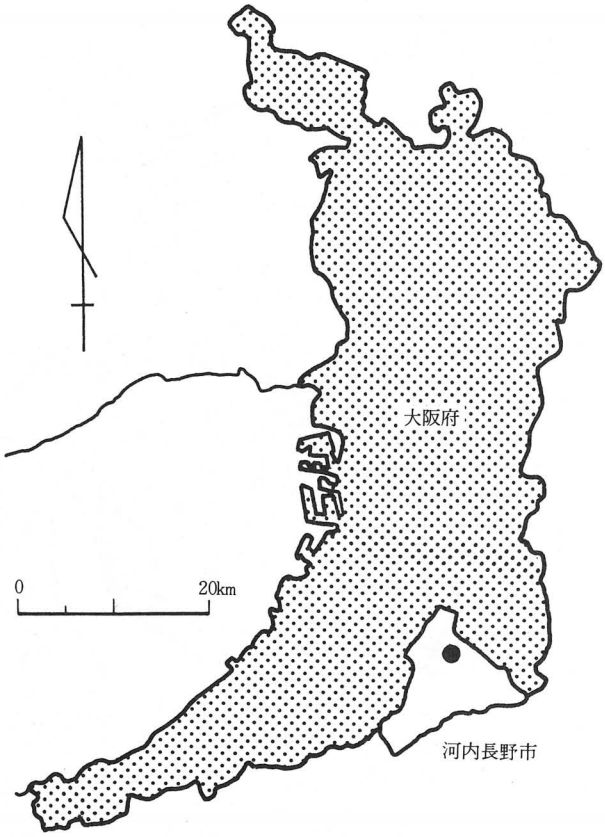
（尾谷）

第2章　位置と環境

第1節　位置と自然的環境

1．位置

当該遺跡は、大阪府の南東に位置する河内長野市三日市町及び片添町に広がる。河内長野市域は旧河内国錦部郡に該当する。遺跡は約20haにわたって分布するものである。標高は130m～160m。遺跡の西側には南海電鉄高野線及び国道310号線・旧高野街道が走り、これより天見谷を北行し紀見峠を越えて和歌山県橋本市へと至る。また、石見川谷をさかのぼれば奈良県五條市へと至る。更に西へ向けば和泉地域へ至る街道が走る。つまり、この遺跡の立地するところは、旧大和、和泉、紀伊の国へ至る街道の要所に位置する。



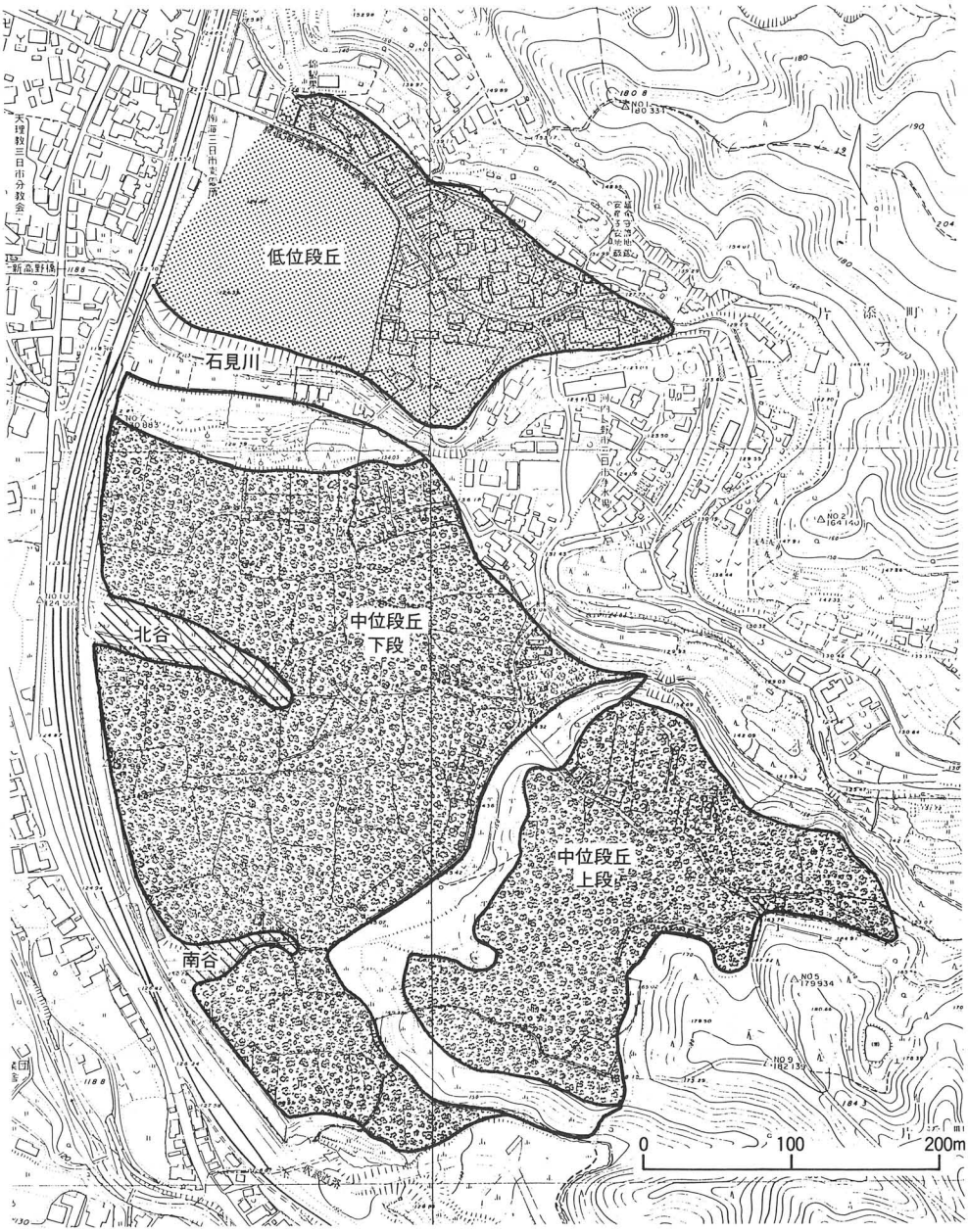
第2図　遺跡位置図

2．自然的環境

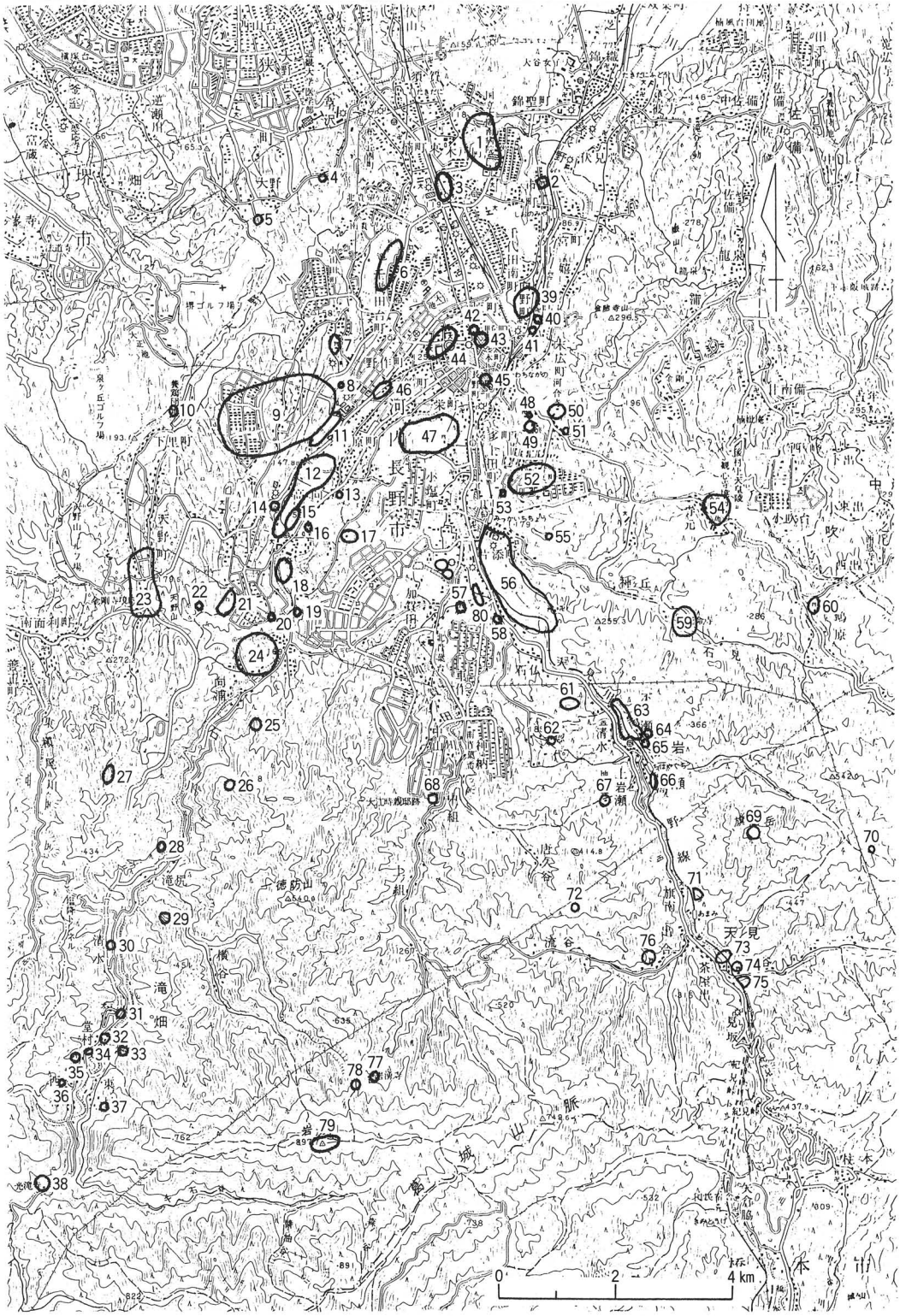
河内長野市は金剛・葛城山から派生する山地性丘陵が大部分を占めている。そして、この山系に源を発する石見川・天見川・石川・加賀田川・天野川に因って作られた狭小な谷と、天野川を除く他の小河川が合流した大和川の支流石川によって作られた河岸段丘により形成されている。

遺跡は、北西から西に流れる石見川の北川谷と南側丘陵つまり北流してきた天見川の東側丘陵に位置するところである。谷側は低位段丘、丘陵は中位段丘となる。

遺跡の立地する地形・地質を微視的に見ると、石見川の北岸標高120mが低位段丘である。そして、天見川の東側は、標高135～145mの下段と標高155～160の上段の2面から形成されている中位段丘である。この中位段丘の下段には、石見川から南に100mごとに東西に入り込む2条の小谷によって画されている。いずれの谷も調査の結果、上段と下段の段丘崖の裾まで入り込んでいるのが確認された。



第3図　調査地区地形区分図



第４図　河内長野市遺跡分布図

番号	遺　跡　名	時　代	番号	遺　跡　名	時　代
1	塩谷遺跡	弥生時代中期～中世	43	膳所藩陣屋跡	近世
2	千代田神社遺跡	中世	44	本多藩陣屋跡	近世
3	菱子尻遺跡	弥生時代～中世	45	長野神社遺跡	中世
4	小山田２号古墓	奈良時代	46	上原北遺跡	
5	小山田１号古墓	奈良時代	47	烏帽子形八幡神社本殿	中世
6	寺ケ池遺跡	旧石器時代～縄文時代		烏帽子形城跡	中世
7	住吉神社遺跡	中世		烏帽子形古墳	古墳時代
8	伝「仲哀廟」		48	末広窯跡	中世
9	長池窯跡群	中世	49	河合寺城跡	中世
10	青ケ原神社遺跡	中世	50	河合寺境内	中世
11	塚穴古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世	51	福田家住宅	近世
12	高向遺跡	古墳時代後期～中世	52	大師山遺跡	弥生時代中期
13	惣持寺跡	中世		大師山古墳	古墳時代前期
14	上原町墓地		53	大師山南古墳	古墳時代
15	高向南遺跡		54	観心寺	平安時代～
16	高向神社遺跡	中世	55	経塚	
17	宮山古墳	古墳時代後期	56	三日市遺跡・石仏遺跡	旧石器時代～近世
18	高木遺跡	旧石器時代～縄文時代	57	加賀田神社遺跡	
19	峯山城跡	中世	58	ジョウノマエ遺跡	
20	日ノ谷城跡	中世	59	延命寺	
21、22	仁王山城跡	中世	60	川上神社遺跡	中世
23	摩尼院書院		61	石仏城	中世
23	金剛寺		62	左近城跡	中世
24	日野観音寺遺跡	中世	63	清水遺跡	中世
25	稲荷山城跡	中世	64	薬師寺石造五輪	
26	旗蔵城跡	中世	65	千早口駅南遺跡	中世
27	国見城跡（小滝城跡）	中世	66	岩瀬墓地	
28	滝尻跡弥堂跡		67	地蔵寺	
29	権現城跡	中世	68	伝大江時親邸跡	
30	清水阿弥陀堂跡	近世	69	旗尾城跡	中世
31	滝畑埋墓	近世	70	葛城第18岩城経塚	
32	堂村地蔵堂跡	近世	71	天見駅北方遺跡	中世
33	中村阿弥陀堂跡	近世	72	葛城第16経塚	
34	宮ノ下内墓	近世	73	蟹井淵北遺跡	中世
35	天神社遺跡	中世	74	蟹井淵神社遺跡	中世
36	西の村阿弥陀堂跡	近世	75	蟹井淵南遺跡	中世
37	東の村観音堂跡	近世	76	流谷八幡神社遺跡	中世
38	光滝寺遺跡	近世	77	岩湧寺多宝塔	
39	向野遺跡		78	葛城第15経塚	
40	五木古墳	古墳時代後期	79	岩湧山	
41	古野古墳	古墳時代後期	80	尾崎遺跡	
42	古野町遺跡	中世	81	加塩遺跡	古墳時代
			82	小塩遺跡	古墳時代

第１表　河内長野市遺跡地名表

第2節　歴史的環境

当市内には数多くの文化財が残されている。そして、その大半は建造物などの有形文化財が占めている。しかし、最近の開発行為により埋蔵文化財の存在も注目されるようになった。

1．縄文時代

旧石器時代の確実な遺跡は知られていないが、寺ヶ池遺跡（6）からは有舌ポイントが出土しており、他にも縄文時代の石器も採取されている。また、菱子尻遺跡（3）からも石匙が出土している。最近の調査では高向遺跡（12）からもこの時代の遺物が確認されている。このような結果から、石川の最上流部においても縄文時代の遺跡が確認され、石川流域には下流域の著名な国府遺跡を初めとして全域に遺跡が分布することが判明した。

2．弥生時代

前期の遺跡はまだ確認されていないが、中期になると塩谷遺跡が出現する。この遺跡は昭和46年に調査され畿内第II様式から第Ⅳ様式の土器と石器類が出土している。後期になると石川を望む丘陵上に、大師山遺跡（52）が現れる。この遺跡は昭和45年に住宅開発において市教育委員会と関西大学によって調査された。その結果、住居跡と焼土壙が発見され、高地性集落と考えられている。

3．古墳時代

この時代に入ると大師山遺跡と同じ丘陵上に前期古墳の大師山古墳（52）が築造されている。この古墳は昭和6年の発見時の調査で多くの車輪石や鍬形石などの石製腕輪類や内行花文鏡が粘土郭から棺材とともに発見された。また、当初円墳と考えられていたが戦後の調査で前方後円墳であることが判明した。

中期の古墳は三日市遺跡から検出された以外確認されていない。

後期になると、市内においても若干の古墳が確認されている。まず、石川の本流域を見ると、北部では左岸の向野地区に五の木古墳（40）が位置していた。この古墳はすでに工場造成で削平され消滅したが、横穴式石室を有していたもので破壊される直前に奥壁部から多くの須恵器と土師器が出土している。また、この周辺部には鉄道建設によって破壊されたと伝えられる双子塚古墳・法師塚古墳などが存在していたようである。石川の左岸段丘上の上原地区には横穴式石室を有する塚穴古墳（11）がある。この古墳は、江戸時代に一度破壊を受けた後最構築されたもので、現状の石室の石材は基の石材を割って再使用している。塚穴古墳の後背の丘陵裾部には、伝仲哀天皇陵（8）と伝承されている古墳状の高まりがある。また、右岸の丘陵の裾部にも横穴式石室を有すると言われる宮山古墳が位置している。

天見川流域を見ると、石川との合流付近の左岸の烏帽子形の丘陵上には円墳の横穴式石室の烏帽子形古墳（47）が位置している。更に、右岸の大師山古墳の位置する丘陵の裾部には大師山南古墳（53）が存在する。いずれも未調査で詳細は判明しない。

古墳時代の集落遺跡は三日市遺跡以外では、天見川の左岸の段丘上から工事中に須恵器と土師器が発見された尾崎遺跡（80）が確認されているだけである。

加賀田川の左岸には、6世紀代の住居と建物、土器が出土した加塩遺跡（81）、7世紀代の遺物が散布する小塩遺跡（82）がある。

4．奈良時代～平安時代

奈良時代の遺跡は少なく、高向遺跡（12）で若干の土器が出土している。その他には、小山田地区に2基の火葬墓（4・5）が存在していたことが確認されている。

平安時代においても前述の尾崎遺跡から黒色土器を伴った掘立柱建物が一棟検出されているだけである。他には、観心寺（54）境内から古瓦の出土が伝えられているだけである。

この時期の遺跡はまだまだ未確認の状態であるが、文献上から見れば今後の開発によって増加することは間違いない。

5．鎌倉時代～室町時代

いわゆる中世の遺跡は市内各所で発見されている。集落遺跡としては東高野街道が市域に入るところの向野遺跡（39）、西高野街道沿いの古野町遺跡（42）、両高野街道が合流し天見川に沿って北行すると、南から尾崎遺跡（80）・石仏遺跡（56）・清水遺跡（63）・千早口南遺跡（66）・天見駅北方遺跡（71）・蟹井淵北遺跡（73）・蟹井淵南遺跡（75）が狭小な谷部に分布している。更に石川の左岸の河岸の段丘上には高向遺跡（12）・高向南遺跡（15）・上原遺跡（11）など面的に広がる遺跡が分布している。

寺院跡では、石川の上流部の日野地区には日野観音寺遺跡（24）、石川本流域では長野神社遺跡（45）があり瓦や中世土器が出土している。これ以外には観心寺（54）や岩湧寺（77）の境内から同様に瓦や土器が出土している。また、金剛寺（23）では旧寺域内で中世墓が調査されている。

神社では、高向神社（16）や加賀田神社（57）では中世土器が出土し、烏帽子形八幡宮（47）の修理では、文明12年銘の棟札と共に羽釜の中に土師皿が納められた地鎮具が出土している。

また、本市の特徴として南北朝から戦国時代にかけて30余りの城砦が分布している。これらの城の中で、烏帽子形城（47）と仁王山城（21・22）は河内国守護畠山氏の内紛による大永4年（1524年）の畠山植長と畠山義英との合戦の文献に登場する。植長が烏帽子形城に義英が仁王山城に拠ってたたかっている。仁王山城は和泉山脈から派生する険しい山地の尾根上に位置する。烏帽子形城は高野街道と石川と天見川との合流部を望む丘陵上に位置する。烏帽子形城はこれ以後元和8年（1622年）の廃城までこの地域一帯の要の城として一時期を除き存続していた。

前述の遺跡以外に生産遺跡としての炭焼き窯の検出がある。大師山遺跡や小山田地区長池窯跡群（9）、更には日野観音寺遺跡でも確認されている。時代をきめるべき出土遺物は少ないが平安時代から中世にかけての小型窯が多い。

7．江戸時代

市内の一部は近江膳所藩の所領となり、膳所藩の河州出張所が置かれており、近世末の染付な

どの陶磁器類が出土している。また、江戸時代末から明治時代にかけて廃寺となった近世寺院の跡も、開発によって調査対象となってきている。

（尾谷）

〔参考文献〕

○ 河内長野市教育委員会　1971　『大師山古墳・大師山遺跡発掘調査概要』

○ 河内長野市教育委員会　『大師山古墳』

○ 河内長野市教育委員会　1971．9　河内長野市文化財調査概要『長池窯跡発　掘調査概要－河内長野市小山田地区－』

○ 大阪府教育委員会　1973．3　大阪府文化財調査概要1972－11『菱子尻遺跡　発掘調査概要－河内長野市楠町東所在－』

○ 金剛寺坊跡調査会　1975．2　河内長野市文化財調査概要『天野山金剛寺　中世墓地発掘調査　河内長野市天野町所在』

○ 河内長野市教育委員会　1976．3　河内長野市文化財調査概要『棚原窯跡発　掘調査概要－河内長野市上原町所在－』

○ 関西大学　昭和52年３月　関西大学文学部考古学研究　第５冊『河内長野大　師山－大師山古墳・大師山遺跡発掘調査報告－』

○ 大阪府教育委員会　1982．3　『石仏遺跡発掘調査概要－河内長野市石仏所在－』

○ 大阪府教育委員会　1982．8　『栗山遺跡－河内長野市清見台用地内－』

○ 財団法人　大阪文化財センター　1984．3　『三日市地区特定土地区画整理　事業施工地区内　片添遺跡第１次発掘調査報告書』

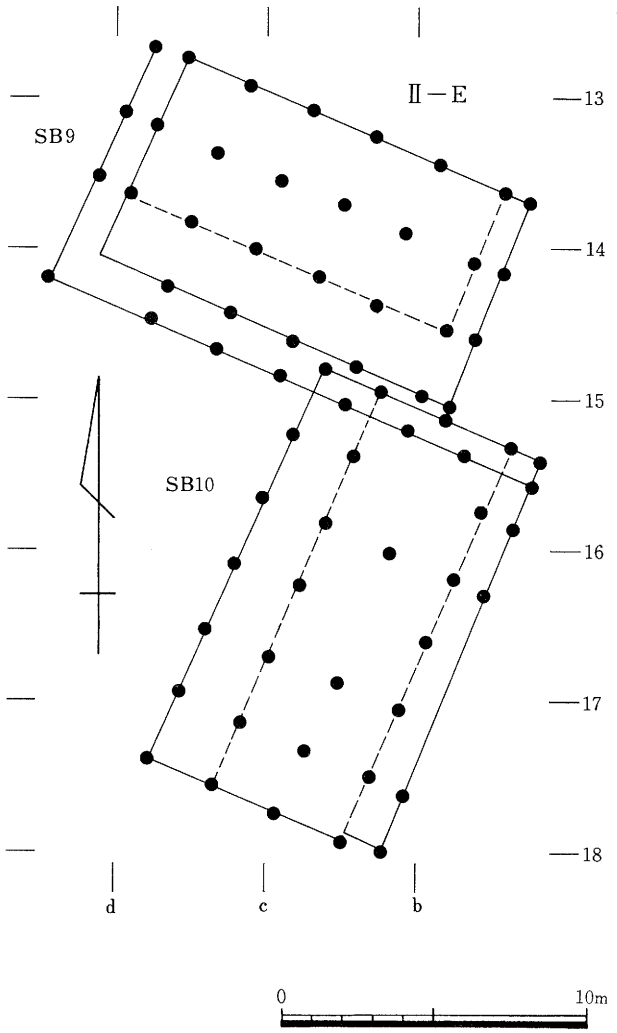
○ 三日市遺跡調査会　昭和60年３月　『三日市遺跡調査概要Ⅰ』

○ 財団法人　大阪文化財センター　1985．4　『河内長野市上原地区　区画整　理事業予定地内　分布調査報告書』

○ 河内長野市教育委員会　1987．4　河内長野市文化財調査報告書　第11輯『河内長野市埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』

第3章　遺　　構

第1節　5地区



第5図　ＳＢ９・ＳＢ10配置図

1．概略（付図1）

石見川の南側に位置する当調査地区は、三日市遺跡のなかでは南端に位置する。地形的にも、他の調査区が中位段丘上に位置するのに比べ、石見川によって開析された谷の出口に当る位置である。丘陵との比高差は約20mを計る。

遺構は、縄文から古墳時代の遺物を含む包含層上面から切込まれている掘立柱建物が2棟だけである。

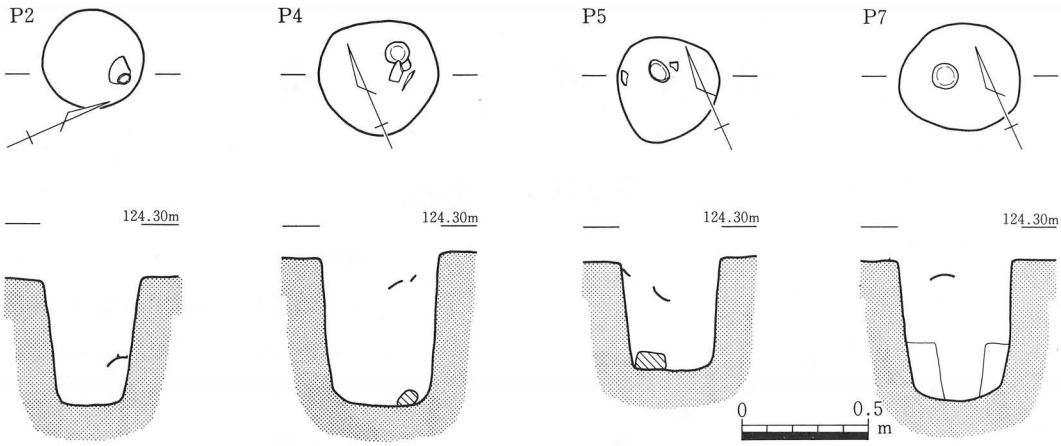
2．遺構

建物（ＳＢ）

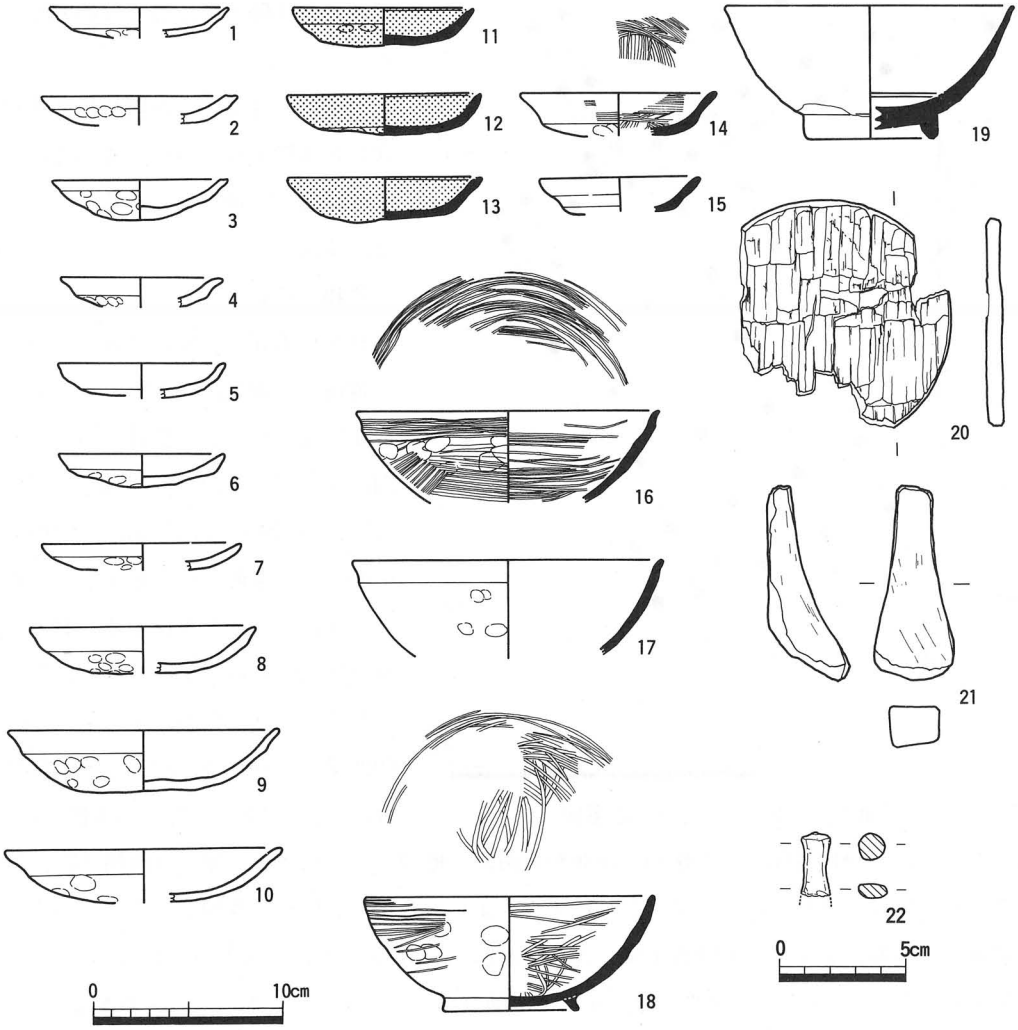
ＳＢ９（第5～8図、図版2・85）

［遺構］　調査区の中央、Ⅱ－Ｅ－ａ～ｄ－12～15付近に位置する。主軸方向はＮ－67°－Ｗを示す。桁行6間（12.7m）×梁行3間（7.2m）の建物で、南面に庇、東側に付け庇をもつ。建物は一部、ＳＢ10と重複する。Ｐ1～Ｐ9の柱穴から遺物が出土している。特にＰ7からは白磁が出土している。柱間は梁行2.5m、桁行2.3mで、付け庇幅は1.1mである。柱穴の規模は径0.4m、深さ0.5m。柱痕径0.2m。建物の西側から南側に柵列ＳＡ3を伴う。柵列は西側3間、南側7間で柱間ほぼＳＢ9の桁行と梁行と一致する。また、P10・P11から遺物が出土している。

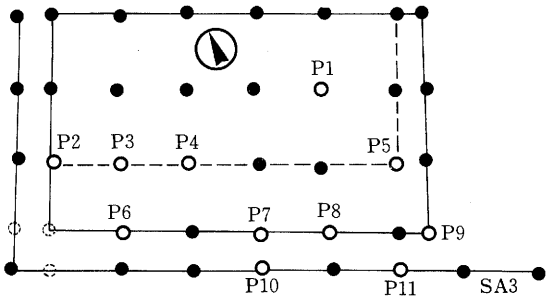
［遺物］　遺物はＰ1から土師質小皿（3）・瓦器皿（14）、Ｐ2から瓦器埦（18）、Ｐ3から土師質小皿（5）、Ｐ4から土師質小皿（6）・土師質杯（9）・黒色土器（13）・鉄製品（22）、Ｐ5土師質皿（1・8）・黒色土器（12）・瓦器埦（16）、Ｐ6から瓦器皿（15）、Ｐ7から黒色



第６図　ＳＢ９ピット内遺物出土状況図（1/30）



第７図　ＳＢ９遺物実測図



第８図　ＳＢ９遺構図

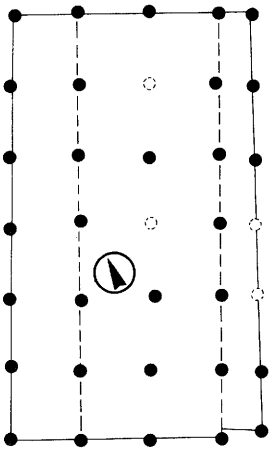
土器（11）・白磁碗（19）、Ｐ８から土師質小皿（４）・砥石（21）、Ｐ９から土師質小皿（２）・瓦器埦（17）、Ｐ10から土師質皿（10）、Ｐ11から土師質小皿（７）・木製曲物底部（20）が出土している。

ＳＢ10（第５・９図、図版２）

［遺構］　Ⅱ－Ｅ－ａ～ｄ－15～18付近に位置し、ＳＢ９の南側に一部重複する。主軸方向はＮ－24°－Ｅを示す。桁行６間（14.1m）×梁行４間（8.2m）の建物で、西面に庇、東側に付け庇をもつ建物である。東側の付け庇は北から４間と５間目が削平を受けて消失している。柱間は梁行2.3m、桁行2.3mで、付け庇幅は1.1mである。柱穴は径が0.3m、深さ0.5m。

［遺物］　柱穴から土師質皿、瓦器片が出土しているが、図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ９と10は柱穴の切り会い関係からＳＢ10が新しいと考えられるが、時期的な差は大過ないものである。

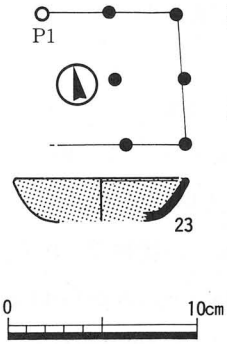


第９図　ＳＢ10遺構図

第２節　２地区

１．概略（付図２～４）

丘陵上に広がる調査区で、北側の石見川の谷と丘陵上にある南側小谷とに挟まれた地域である。遺構はそれほど密集していなく、広範囲の中で点在する。



第10図　ＳＢ14遺構図
及び遺物実測図

２．遺構、遺物

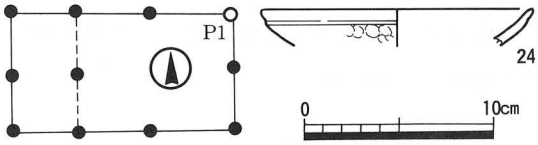
建物（ＳＢ）

ＳＢ14（第10図）

［遺構］　Ｉ－Ａ－ｎ－14～16に位置する。主軸方向はＮ－84°－Ｗを示す。南北２間（4.5m）×東西２間（4.5m）以上の建物である。一部調査区外にのびる。柱間は南北2.2m、東西2.3m。

［遺物］　遺物はＰ１から黒色土器（23）が出土している。

ＳＢ15（第11図、図版３）

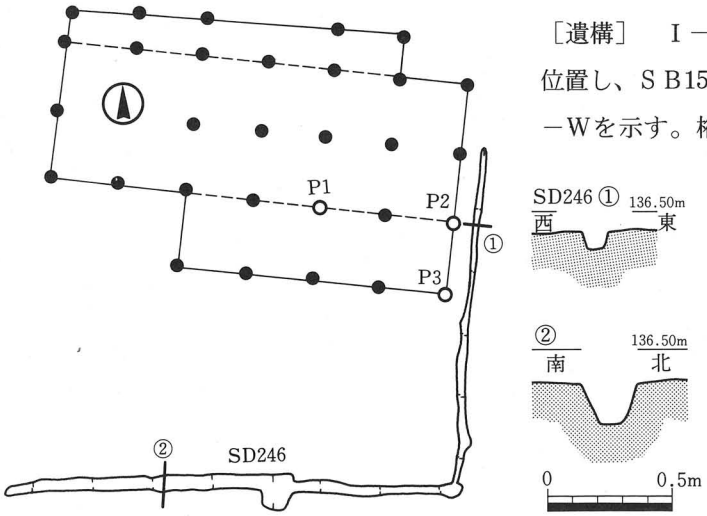


第11図　ＳＢ15遺構図及び遺物実測図

［遺構］　Ｉ－Ｂ－ａ～ｂ－19付近に位置し、ＳＢ16と重複する。主軸方向はＮ－Ｏを示す。桁行３間（7.5m）×梁行２間（3.8m）の建物である。北側から一間の梁行中央にも柱穴があり、北側と南側の２室に分けることが可能である。柱間は桁行北から2.3m、2.4m、2.8m、梁行1.8m。柱穴は径0.3m、深さ0.2m。

［遺物］　遺物はＰ１から土師質皿（24）が出土している。

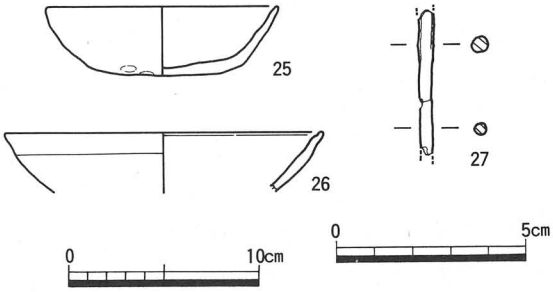
ＳＢ16（第12・13図、図版３・86）



第12図　ＳＢ16遺構図及び溝断面図

［遺構］　Ｉ－Ａ～Ｂ－ｔ～ｂ－19～20付近に位置し、ＳＢ15と重複する。主軸方向はＮ－87°－Ｗを示す。桁行６間（13.3m）×梁行４間（8.4m）で東側南から４間分が庇、西側北から５間分が付け庇である。柱間は桁行2.2m、梁行2.3m、付け庇幅1.4m。柱穴の径0.3m、深さ0.3m。

建物の東側を南から西に逆Ｌ型に幅0.22m、深さ0.15mのＳＤ246が巡っている。

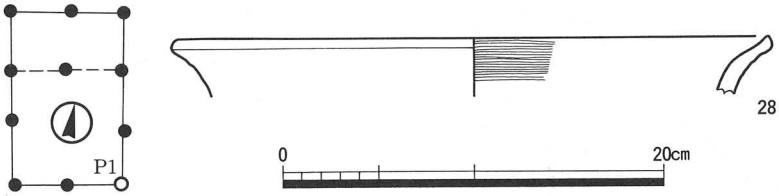


第13図　ＳＢ16遺物実測図

［遺物］　遺物はＰ１から土師質皿（26）、Ｐ２から不明鉄製品（27）、Ｐ３から土師器杯（25）が出土している。

ＳＢ17（第14図、図版３）

［遺構］　Ｉ－Ａ－ｄ～ｅ－19付近に位置する。主軸方向はＮ－12°－Ｗを示す。桁行３間（６ｍ）×梁行２間（3.8m）の建物である。北側から一間の梁行中央にも柱穴があり、北側と南側の２室に分けることが可能である。柱間は桁行２ｍ、梁行西から２ｍ、1.8m。柱穴の径0.3m、深さ0.2m。

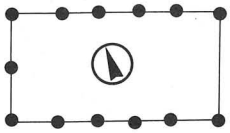


第14図　ＳＢ17遺構図及び遺物実測図

［遺物］　遺物はＰ１から土師器甕（28）が出土している。

ＳＢ18（第15図、図版４）

［遺構］　Ⅲ－Ｅ－ｔ－16付近に位置する。主軸方向はＮ－70°－Ｗを示す。桁行５間（７ｍ）×梁行２間（3.5m）の建物である。西側の梁行のみ中央に柱穴がある。柱間は桁行1.5m、1.3m、1.2m、1.3m、1.5mで不揃いである。梁行は1.75m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m。

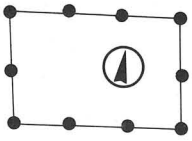


第15図　ＳＢ18遺構図

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＢ19（第16図、図版４）

［遺構］　Ⅲ－Ｊ－ｏ－３付近に位置する。主軸方向Ｎ－80°－Ｅを示す。桁行３間（5.7m）×梁行２間（3.7m）の建物である。柱間は桁行1.9m、梁行は北から1.9m、1.8m。柱穴の径0.2m、深さ0.2m。

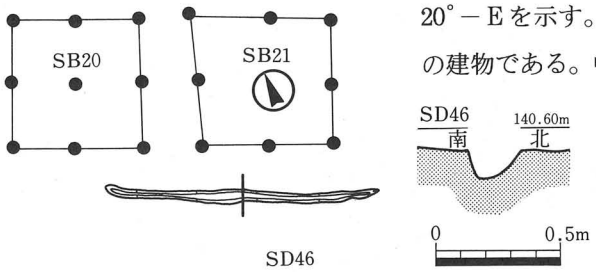


第16図　ＳＢ19遺構図

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＢ20（第17図、図版５）

［遺構］　Ⅲ－Ｊ－ｏ－10付近に位置する。主軸方向Ｎ－20°－Ｅを示す。桁行２間（4.3m）×梁行２間（4.2m）の建物である。中央に柱穴を有する。柱間は桁行2.15m、梁行は2.15m、庇幅1.1m。柱穴の径0.2m、深さ0.2m。



第17図　ＳＢ20・ＳＢ21遺構図及び溝断面図

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＢ21（第17図、図版５）

［遺構］　Ⅲ－Ｊ－ｎ－11付近に位置す

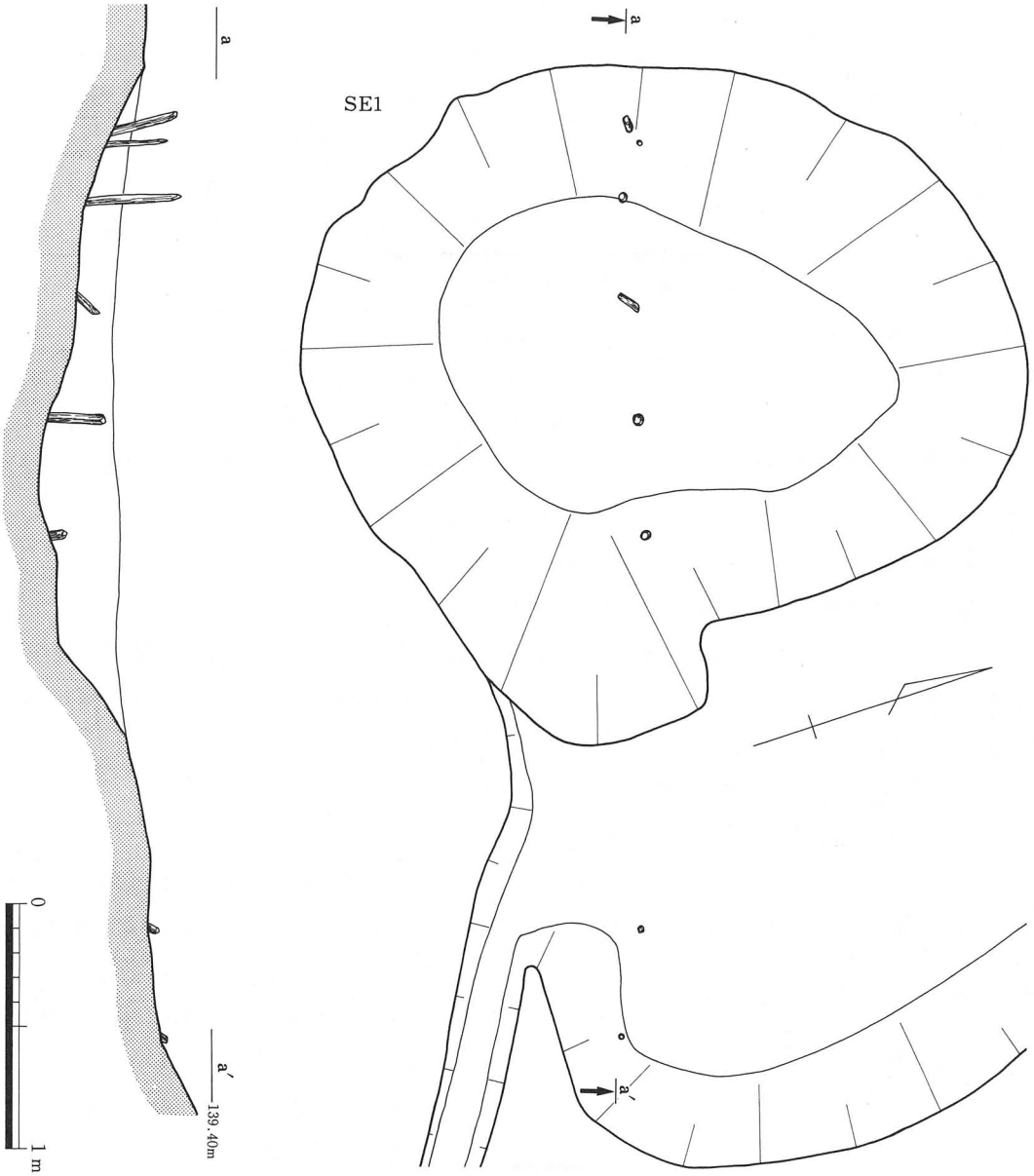
る。主軸方向N－20°－Eを示す。桁行２間（4.5m）×梁行２間（4.3m）の建物である。柱間は桁行2.25m、梁行は2.15m。柱穴の径0.2m、深さ0.2m。

［遺物］　遺物は出土していない。

井戸（ＳＥ）

ＳＥ１（第18図）

［遺構］　Ⅲ－Ｊ－ｒ－６に位置する。平面が楕円形を呈するものである。長径2.8m、短径2.3m、深さ0.7m。井戸内には南北に0.2mから0.3mの間隔で径0.03mの自然木の先端を削っただ



第18図　ＳＥ１遺構実測図（1/30）

けの杭が５本打ち込まれてあった。

［遺物］　遺物は出土していない。

土壙（ＳＫ）

ＳＫ158（第19図、図版５）

［遺構］　Ⅲ－Ｊ－ｒ－３に位置する。平面形は円形を呈する。内部には最大0.25m×0.25m程度の河原石が充填されている。径0.84m、深さ0.15m。

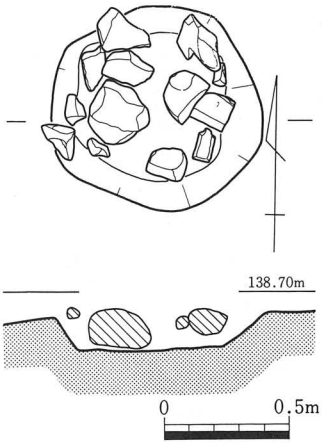
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＫ161（第20図、図版６・86・150）

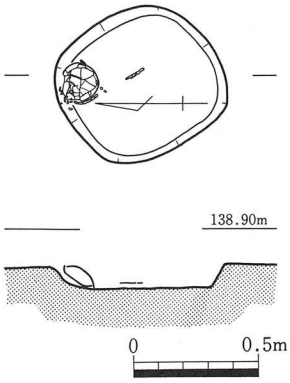
［遺構］　Ⅲ－Ｊ－Ｋ－２に位置する。平面形は隅丸の長方形を呈する。長軸0.7m、短軸0.64m、深さ0.11m、主軸方向はＮ－32－Ｗを示す。

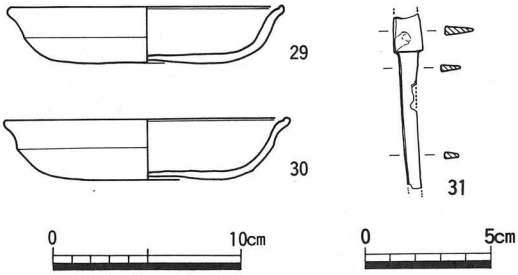
［遺物］　遺物は北東隅から土師器皿２枚（29・30）が口縁を重ねて出土し、中央部からは刃先を北に向けて鉄製刀子（31）が出土している。

ＳＫ164（第21・22図、図版６・

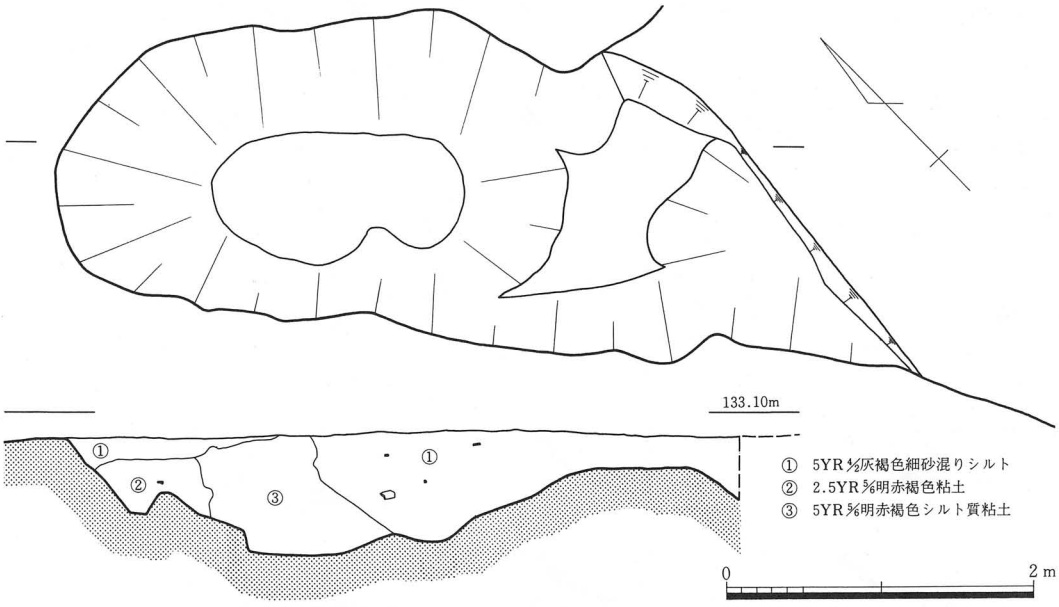


第19図　ＳＫ158遺構実測図（1/30）

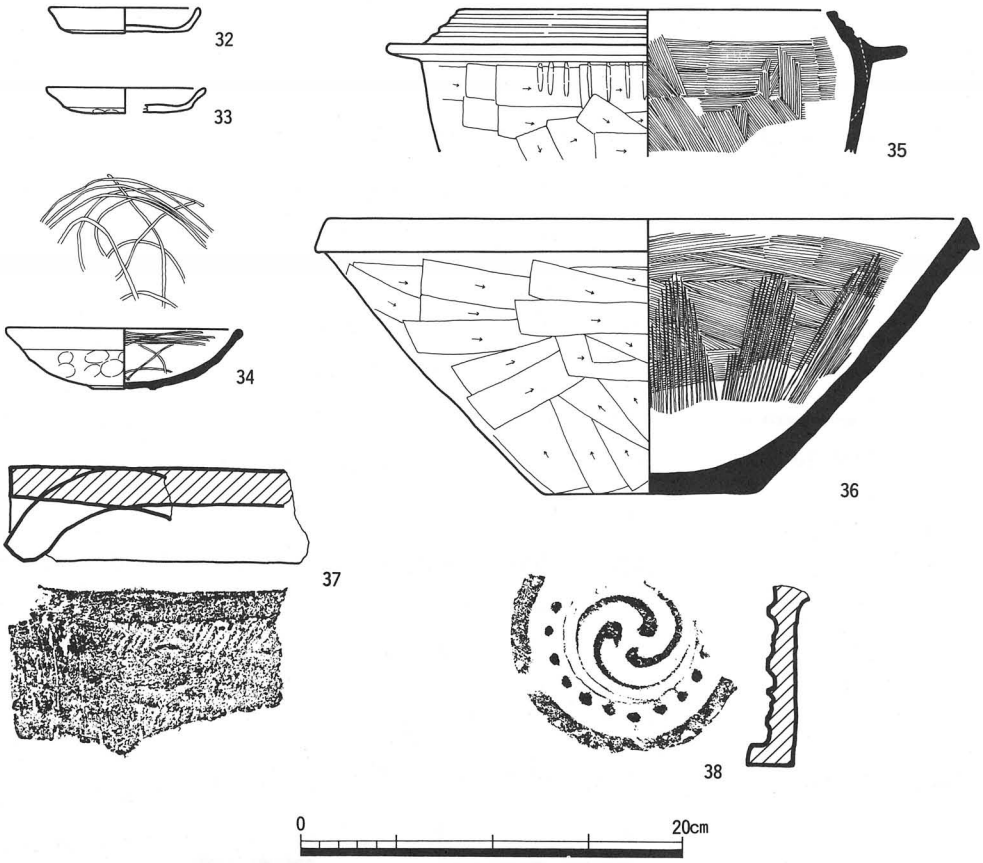




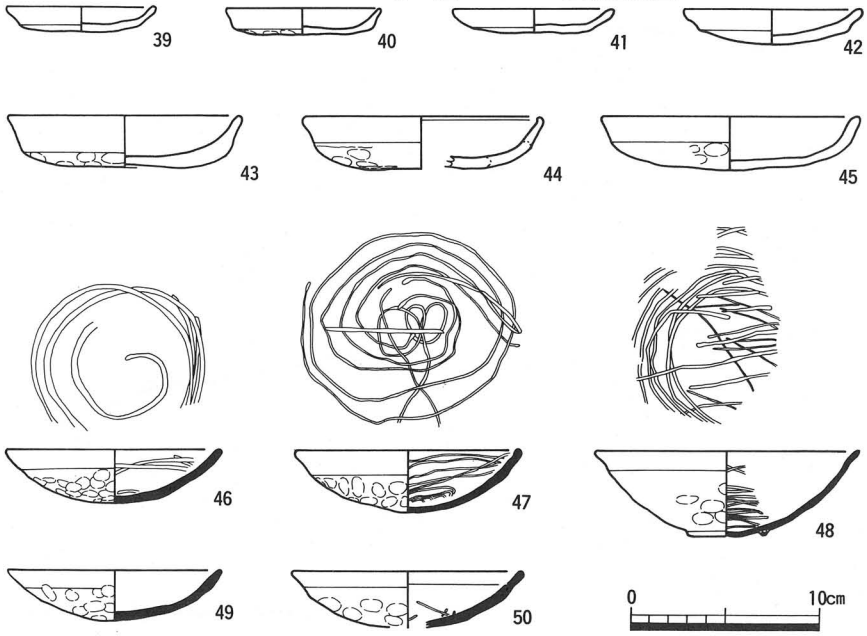
第20図　ＳＫ161遺構（1/30）及び遺物実測図



第21図　ＳＫ164遺構実測図（1/50）



第22図　ＳＫ164遺物実測図



第23図　ＳＸ３遺物実測図

86)

［遺構］　Ｉ－Ｃ－ａ－２付近に位置し、ＳＴ１の中央部に切り込まれている。平面形は長楕円形を呈る。主軸方向はＮ－32°－Ｗを示す。長径1.7ｍ、短径0.98ｍ、深さ0.87ｍ。

［遺物］　中央

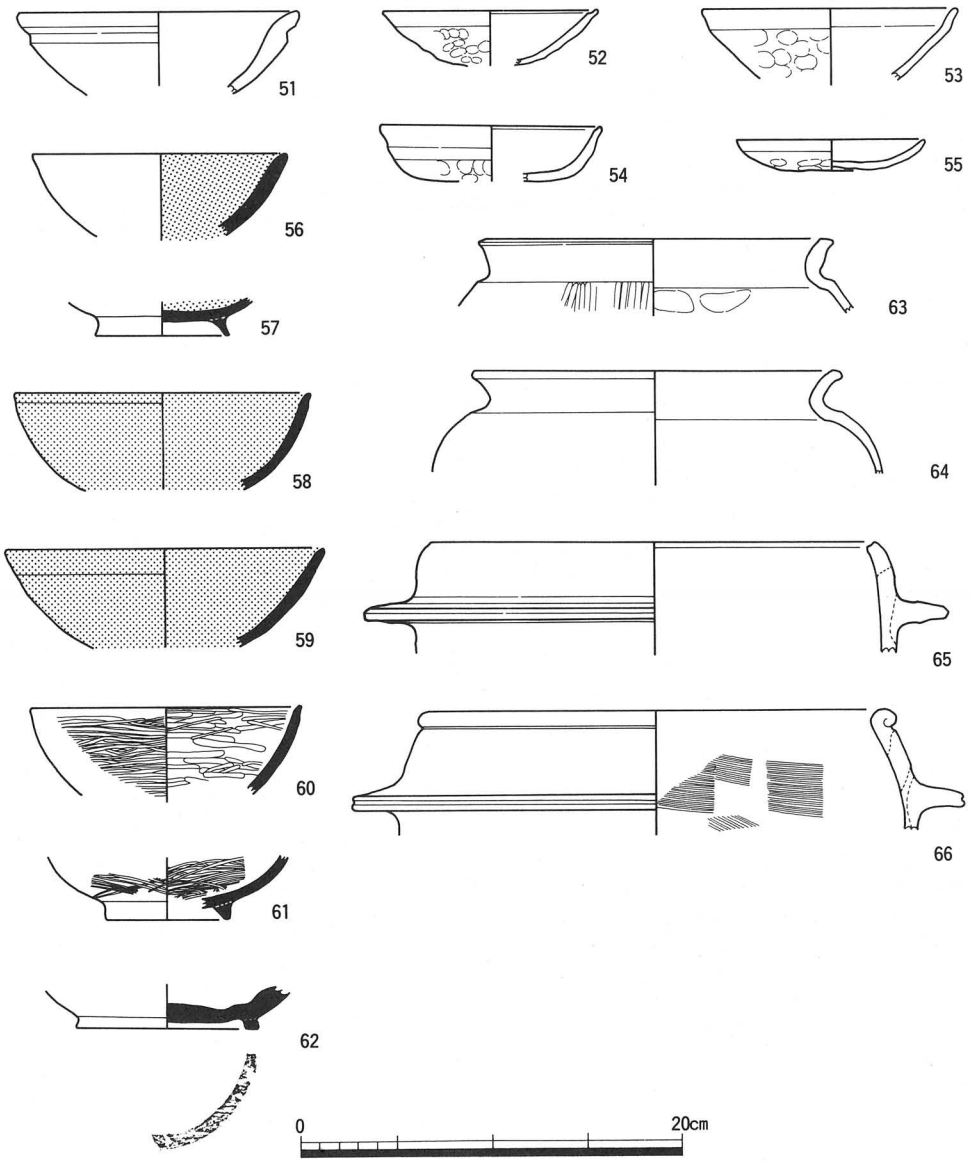
部から土師質皿（32・33）、瓦器椀（34）、瓦質羽釜（35）、瓦質摺鉢（36）、軒丸瓦（37）、丸瓦（38）が出土している。

その他の遺構（ＳＸ）

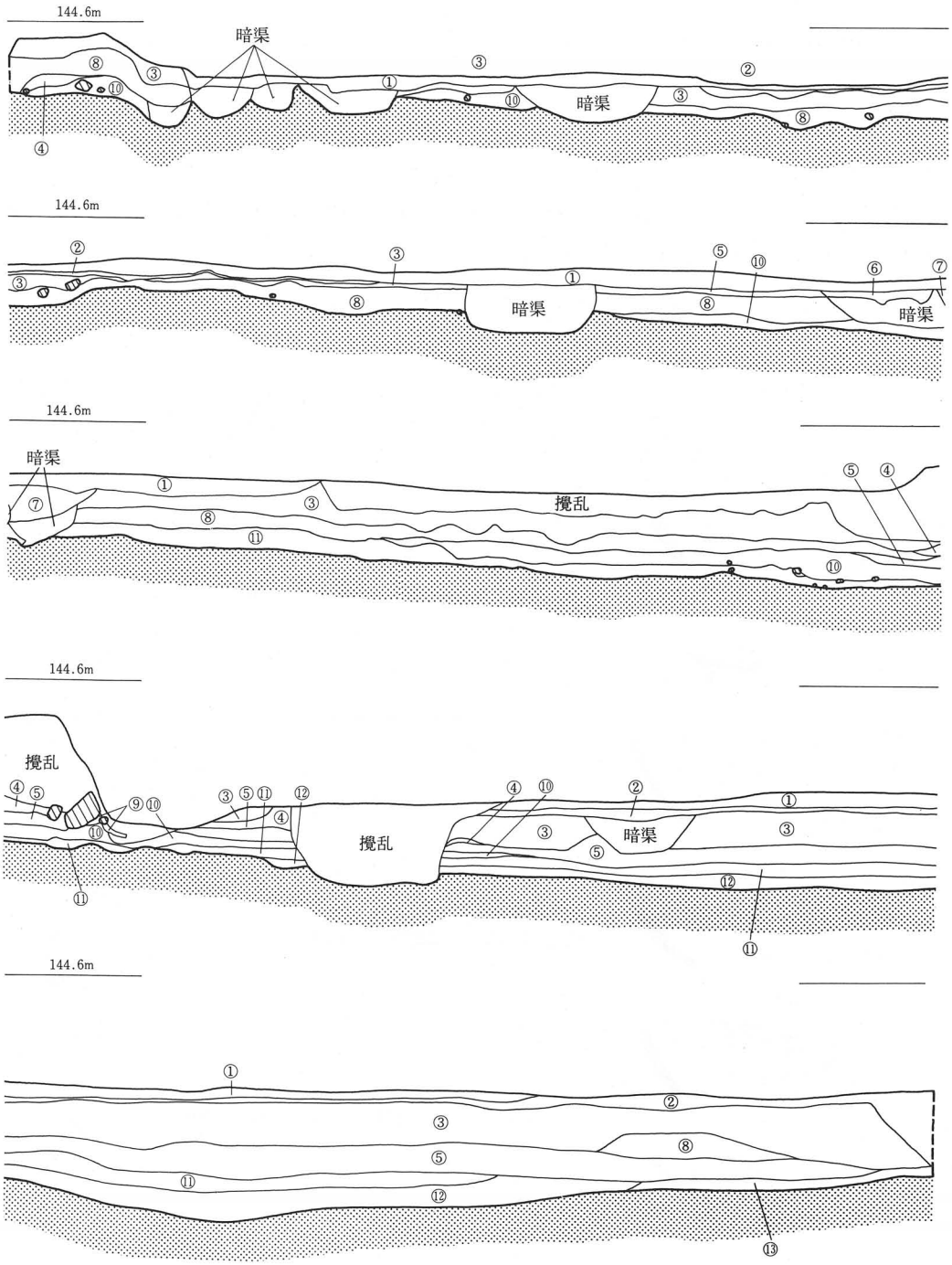
ＳＸ３（第23図、図版６・７・86・87）

［遺構］　Ｉ－Ｃ－ａ－４に位置する道状の遺構である。西側の天見川の谷から上ってきている様である。幅1.2m、深さ0.6m、検出長14m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（39～42）、土師質大皿（43～45）、瓦器椀（46～50）が出土している。



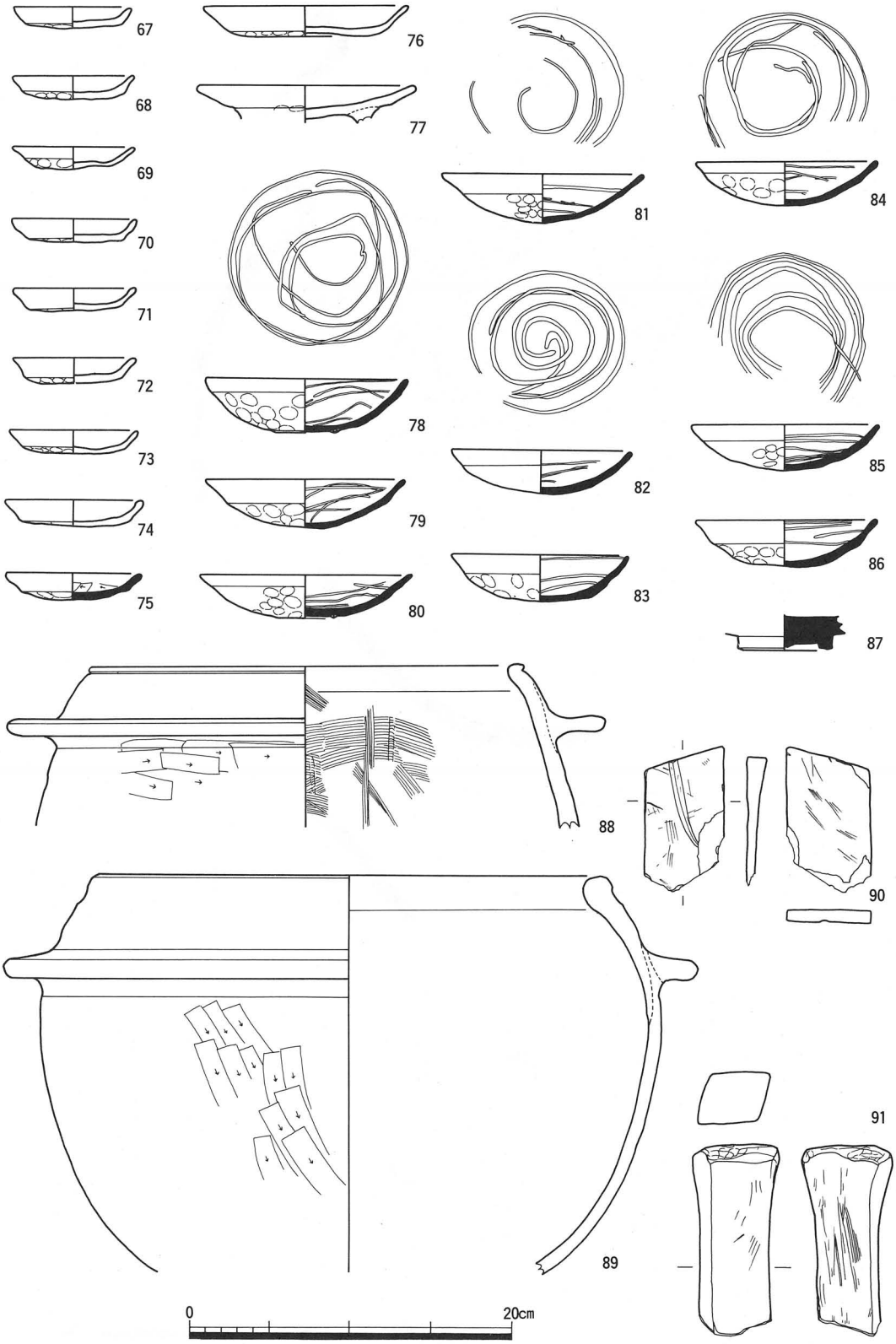
第24図　ＮＶ４下層遺物実測図（１）



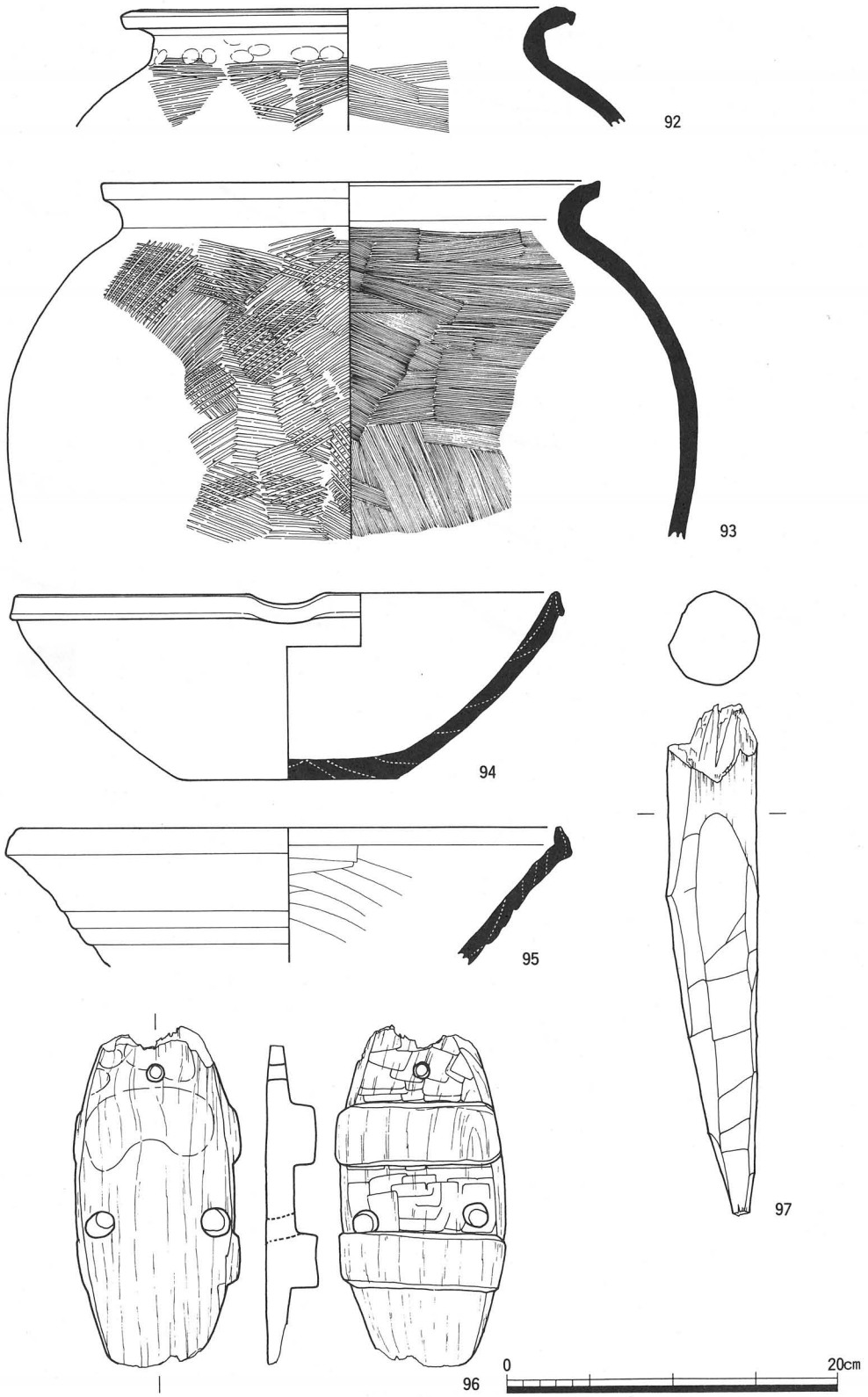
① 耕土
② 5YR7/4にぶい橙色細砂混りシルト
③ 2.5YR5/4にぶい赤褐色シルト(砂礫を含む)
④ 5YR3/2黒褐色粘質土混りシルト(細礫を含む)
⑤ 5YR3/3黒褐色粘質土混りシルト(細礫を含む)
⑥ 5YR5/6明赤褐色粗砂混りシルト
⑦ 5BG3/4暗青灰色シルト
⑧ 5YR5/4にぶい赤褐色粘質土混りシルト(細礫を含む)
⑨ 5YR3/4暗青褐色砂礫混り粘質土
⑩ 5YR3/2黒褐色粘質土(砂粒を含む)
⑪ 2.5GY3/3暗オリーブ灰色粘質土混りシルト
⑫ 10YR3/3暗褐色粘土
⑬ 5YR3/1黒褐色粘土

0 4 m

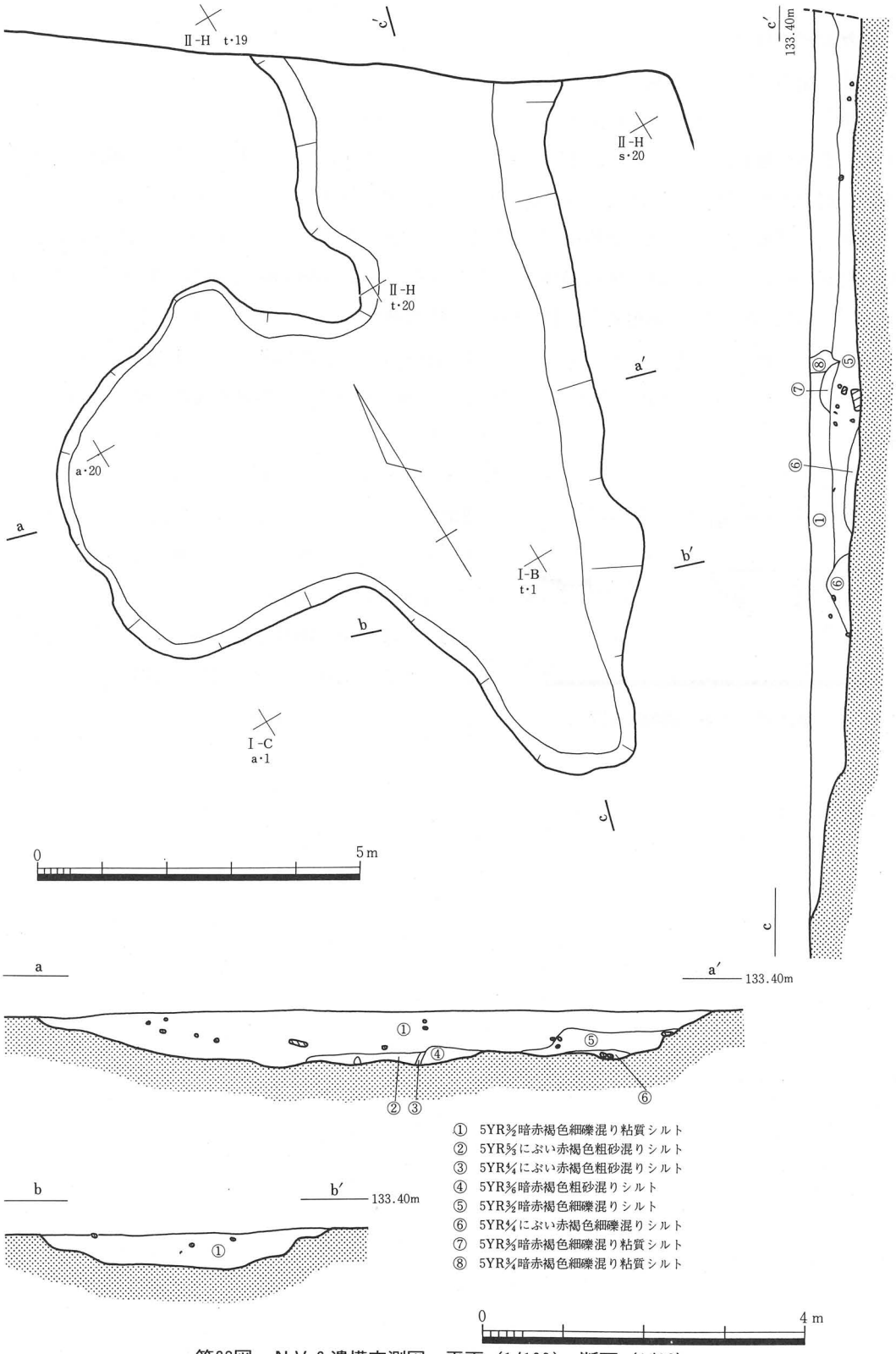
第25図　ＮＶ４遺構実測図（1/80）



第26図　ＮＶ４中層遺物実測図（２）



第27図　ＮＶ４中層遺物実測図（３）



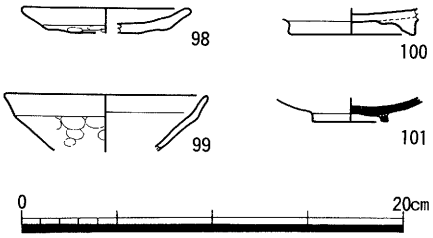
第28図　ＮＶ６遺構実測図　平面（1/100）・断面（1/80）

自然地形（ＮＶ）

ＮＶ４（第24～27図、図版７・87・88）

［遺構］　Ｉ－Ｄ－ｃ～ｅ－18～20・Ｉ－Ｄ－ｃ～ｅ－18～20・Ⅲ－Ｏ－ｒ～ｔ－４～13に位置する。北谷の延長部と考えられ、北西に向かってレベルを下げる。埋土は大きく３層に分層できる。上層はシルト層、中層は粘土質のシルト、下層は粘土層となっている。

［遺物］　遺物は中層では土師質小皿（67～74）、土師質大皿（76）、土師質台付皿（77）、瓦器皿（75）、瓦器埦（78～86）、青磁碗高台（87）、土師質羽釜（88・89）、砥石（90・91）、瓦質甕（92）、須恵質甕（93）、須恵質片口鉢（94）、須恵質練鉢（95）、木杭（97）、下駄（96）が出土している。下層からは土師質埦（51～53）、土師質杯（54）、土師質皿（55）、土師器甕（63・64）、土師質羽釜（65・66）、黒色土器埦（56～59）、瓦器埦（60・61）、須恵器底部（62）が出土している。



第29図　ＮＶ６遺物実測図

ＮＶ６（第28・29図、図版６）

［遺構］　Ⅱ－Ｈ－ｔ～ｓ－20に位置する。北側の石見川に開口する谷状地形である。検出長６ｍ、最大幅４ｍ、深さ0.6ｍ。一部ＳＴ１を削平している。

［遺物］　遺物は土師質小皿（98）、土師質埦（99）、土師質台付皿（100）、瓦器埦高台（101）が出土している。

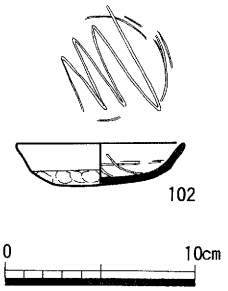
第３節　１地区

１．概略（付図５）

４地区と接するが４地区の北端とは約１ｍ低く、また、２地区とは南小谷を挟んで位置する。遺構は建物８と土壙、井戸が検出された。

２．遺構、遺物

建物（ＳＢ）



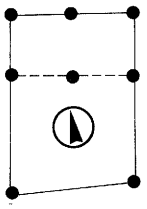
第30図　ＳＢ１遺物実測図

ＳＢ１（第30・35、図版８・89）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｎ～ｐ－17～18付近に位置する。主軸方向はＮ－81°－Ｗを示し、ＳＢ２と並列する。桁行６間（11ｍ）×梁行４間（９ｍ）で南側と北側に庇をもつ。南面庇は西から３間分が幅が狭くなり付け庇となっている。柱間は桁行2.25ｍ、梁行は2.15ｍ、庇幅1.25ｍ。柱穴径0.5ｍ、深さ0.03ｍ、柱痕径0.2ｍ。

東側には、梁行から1.25ｍに梁行柱間と同間隔でＳＡ１の柵列が８間分（17ｍ）平行に北にのびる。

［遺物］　遺物はＰ２から瓦器埦（102）が出土している。

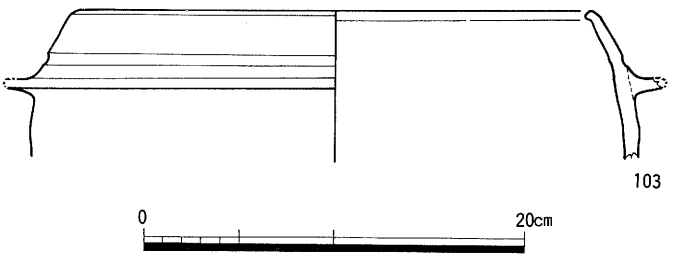


第31図　ＳＢ２遺構図

ＳＢ２（第31図、図版８）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｐ－19に位置する。主軸方向はＮ－８°－Ｅを示し、ＳＢ１とは1.2ｍ離れて直行する。桁行３間（６ｍ）×梁行２間（４ｍ）で南側は土壙によって撹乱を受けている。北から１間の梁行中央に柱穴を伴い北側と南側の２室に分けることが可能である。柱間は桁行２ｍ、梁行は２ｍ。柱穴の径0.3ｍ、深さ0.03ｍ、柱痕径0.1ｍ。

［遺物］　遺物は出土していない。

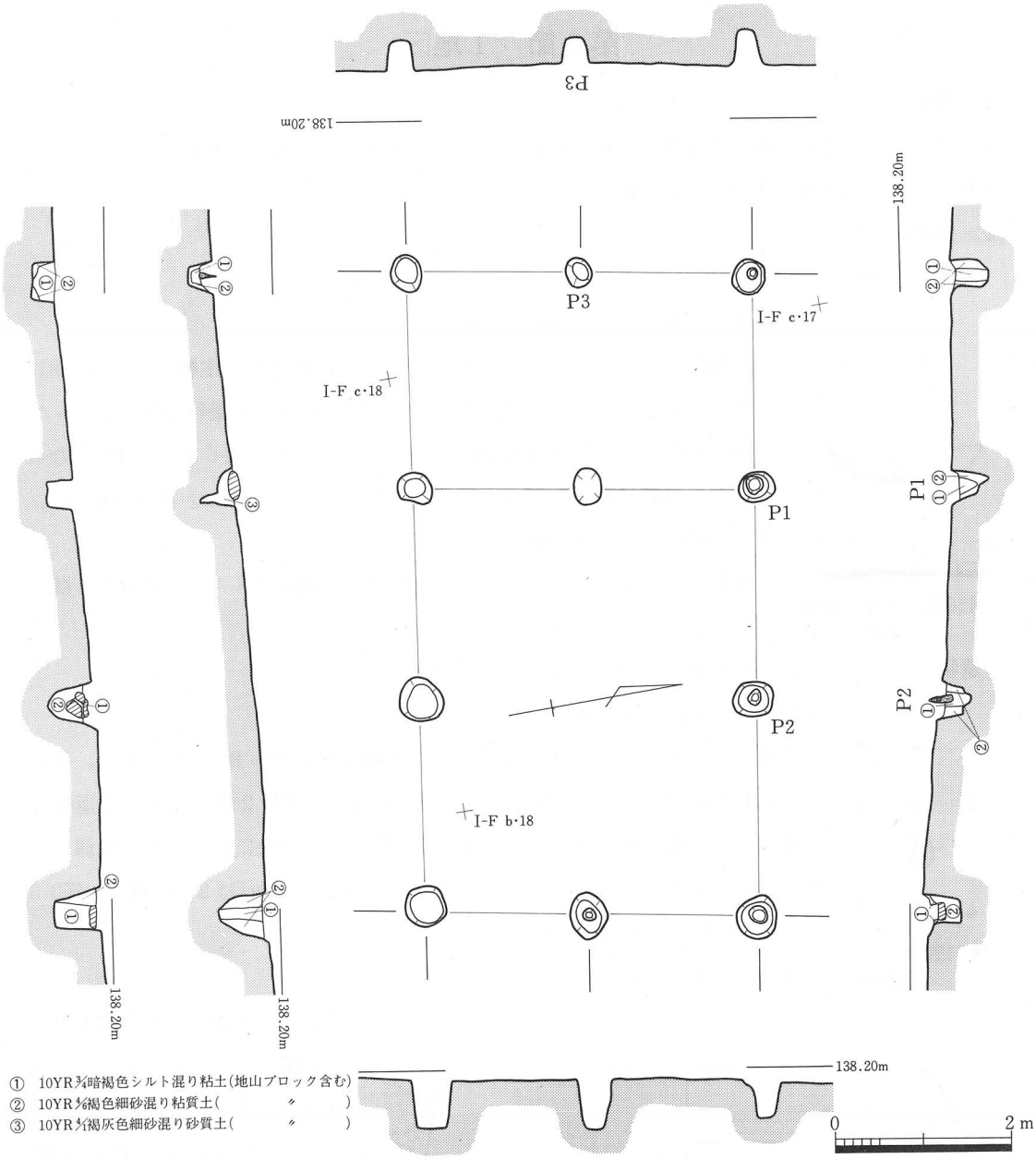


第32図　ＳＢ３遺物実測図

ＳＢ３（第32・33図、図版９）

［遺構］　Ｉ－Ｆ－ａ～ｃ－17付近に位置する。主軸方向はＮ－80°－Ｗを示す。桁行３間（7.3ｍ）×梁行２間（４ｍ）で西から１間の梁行中央に柱穴を伴い西側と東側の２室に分けることが可能である。柱穴埋土には焼土、炭化物を含まれていた。柱間は桁行2.35㎜、梁行は２ｍ。柱穴の径0.5ｍ、深さ0.03ｍ、柱痕径0.2ｍ。

［遺物］　遺物はＰ１から土師質羽釜（103）が出土している。

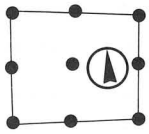


第33図　ＳＢ３遺構実測図（1/80）

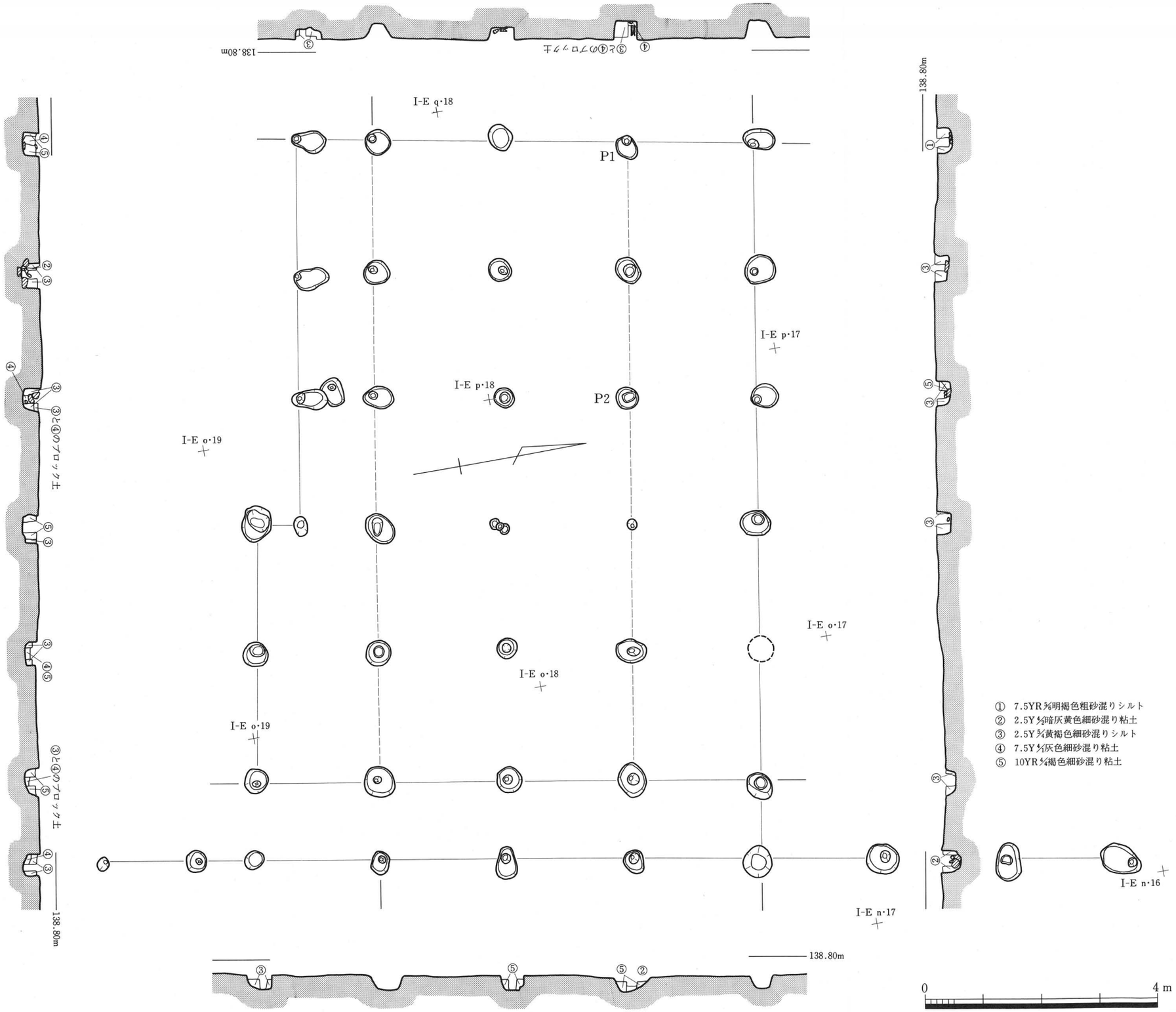
ＳＢ４（第34図、図版10）

［遺構］　Ｉ－Ｆ－ａ－20付近に位置する。主軸方向はＮ－83°－Ｗを示す。桁行２間（4.2m）×梁行２間（3.8m）の建物である。柱間は桁行２ｍ、梁行は1.85m。柱穴の径0.2m、深さ0.03m。

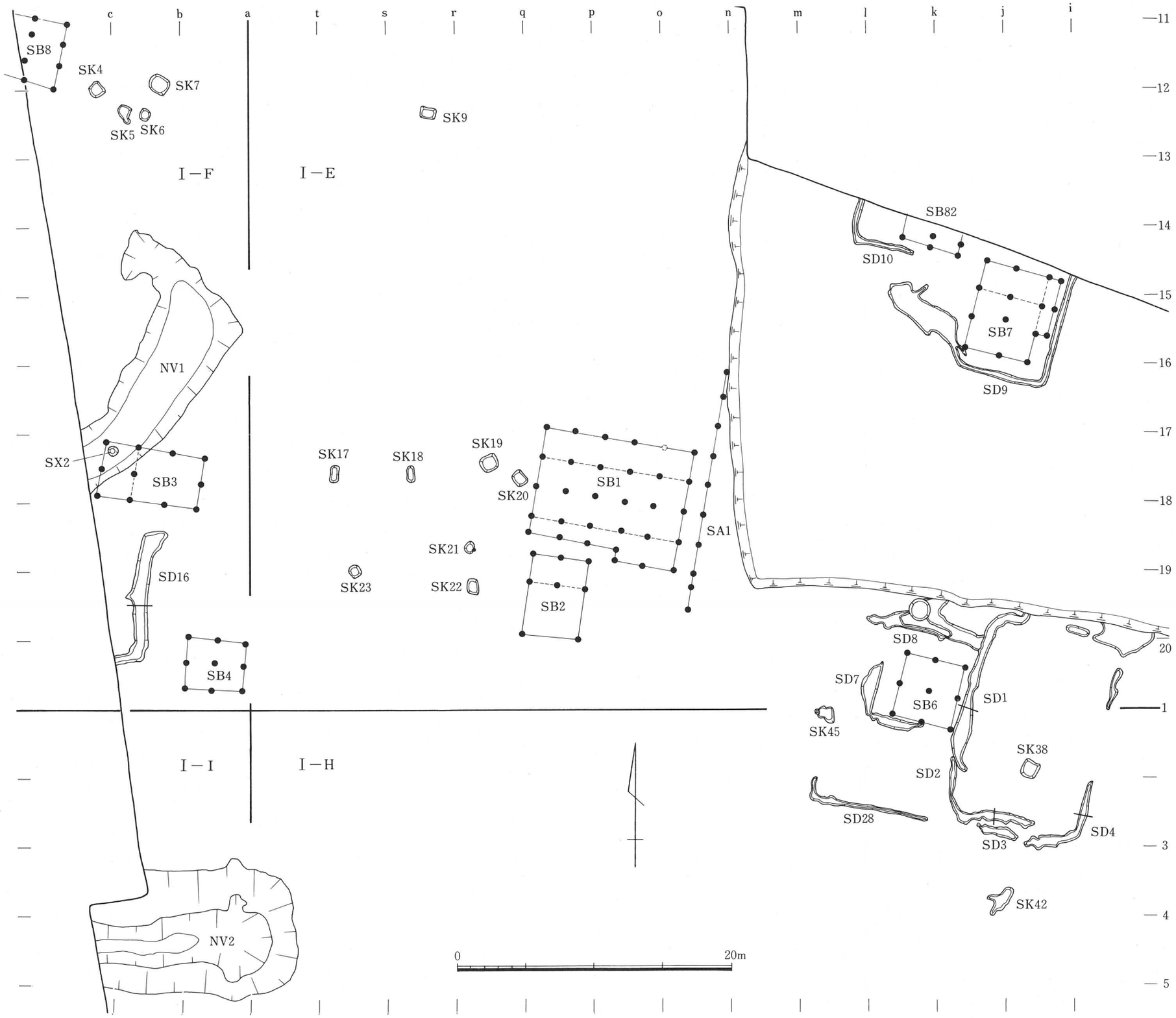
［遺物］　遺物は出土していない。



第34図　ＳＢ４遺構図



第35図　ＳＢ１遺構実測図（1/80）



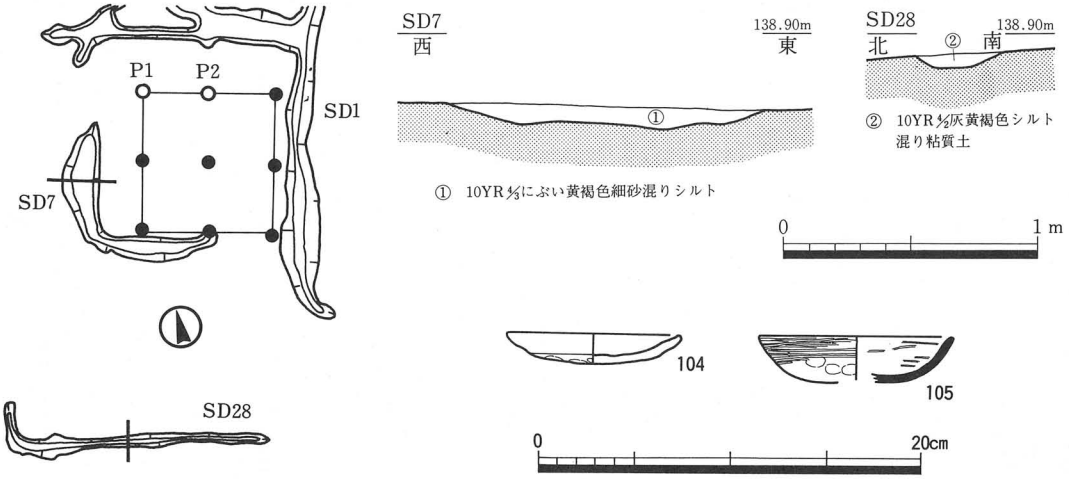
第36図　1地区建物配置図

ＳＢ６（第37図、図版10・89）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｊ～ｋ－20付近に位置する。主軸方向はＮ－13°－Ｅを示す。桁行２間（4.6ｍ）×梁行２間（4.4ｍ）で中央に柱穴を有する。柱間は桁行2.3ｍ、梁行は2.2ｍ。柱穴の径0.3ｍ、深さ0.03ｍ。

建物周囲にはＳＤ７，８が巡る。また、ＳＤ１～６と28が１つの屋敷を構成するものと考えられる。

［遺物］　遺物はＰ１から土師質皿（104）、Ｐ２から瓦器皿（105）が出土している。



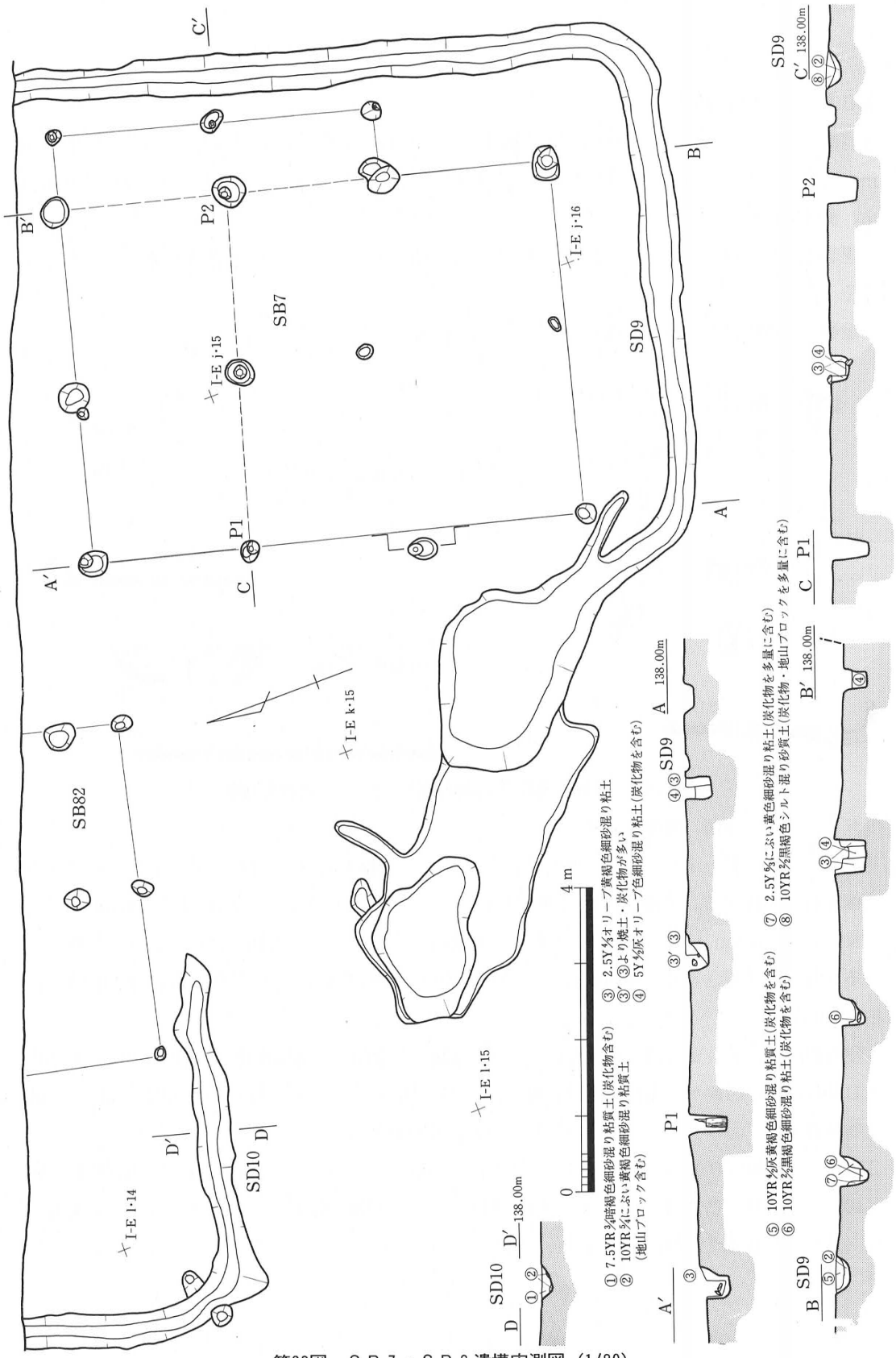
第37図　ＳＢ６遺構図・溝断面図（1/30）・遺物実測図

ＳＢ７（第38・39図、図版11・89）

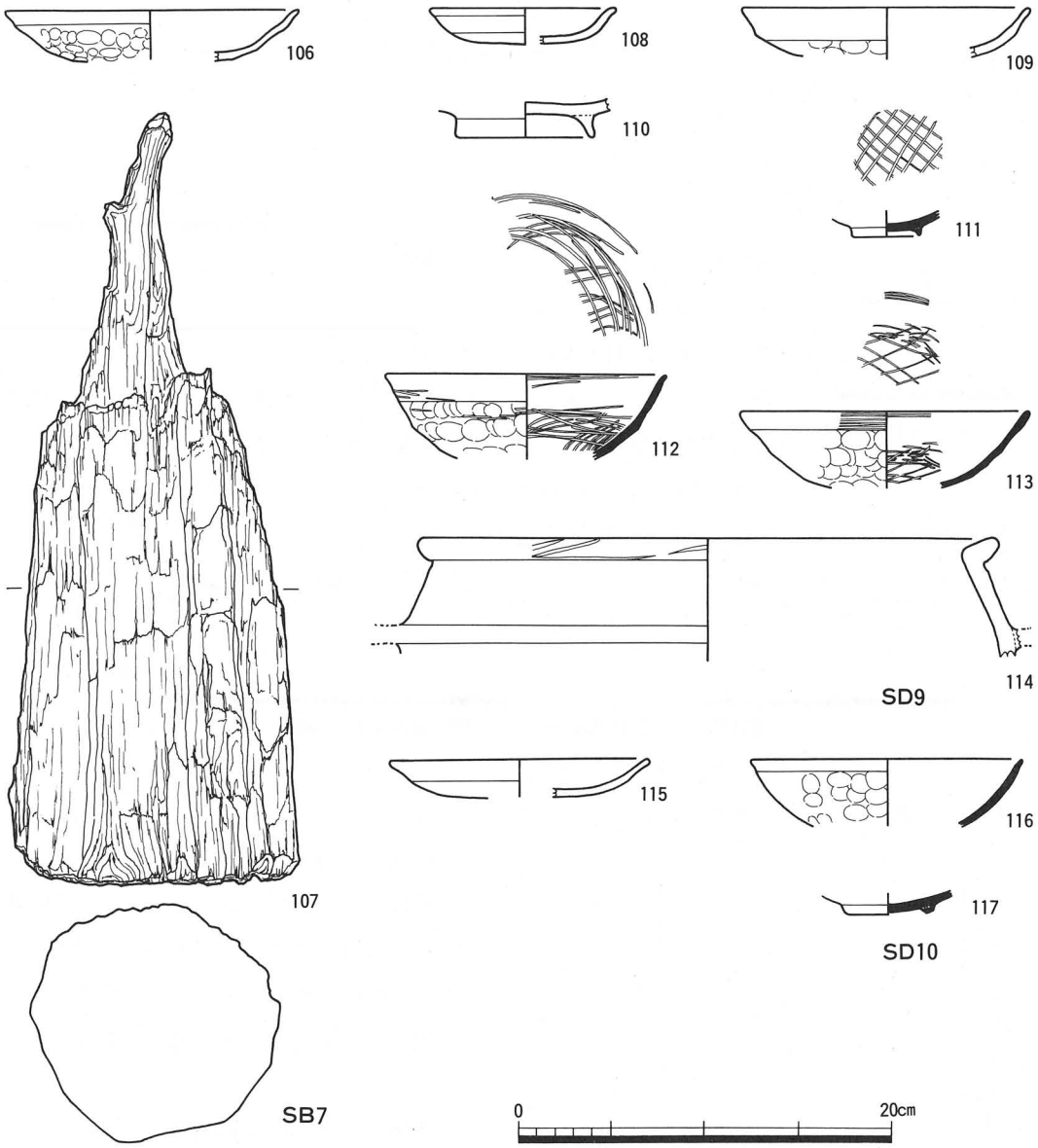
［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｉ～Ｉ－13～16付近に位置する。主軸方向はＮ－13°－Ｅを示し、ＳＢ６の北側20ｍに位置する。北側は後世の畑の開墾によって削平されている。桁行３間（6.5ｍ）以上×梁行３間（5.5ｍ）で、南側から２間目の東側に付け庇をもつ。西側に柱列があり、北側にのびるＳＢ82が予想される。桁行2.1ｍ、梁行は2.2ｍ、庇幅0.95ｍ。柱穴径0.4ｍ、深さ0.03ｍ、柱痕径0.3ｍ。

建物周囲にはＳＤ９と10の溝が巡る。ＳＤ９は建物の東側から南側を走り、幅0.5ｍ深さ0.3ｍ。ＳＤ10は建物の西側から南側を走り、幅0.5ｍ、深さ0.3ｍ。ＳＤ９と柱穴の埋土内には焼土と炭化物が含まれており、この建物は焼失家屋の可能性がある。

［遺物］　遺物はＰ１から柱痕（107）、Ｐ２から土師質皿（106）、またＳＤ９から土師質皿（108・109）、土師質土器高台（110）、瓦器埦（111～113）、土師質羽釜（114）、ＳＤ10からは土師質皿（115）、瓦器埦（116）、瓦器埦高台（117）が出土している。



第38図　ＳＢ７・ＳＢ８遺構実測図（1/80）

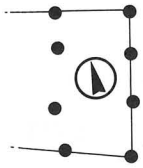


第39図　ＳＢ７及びＳＢ７に伴うＳＤ９・ＳＤ10遺物実測図

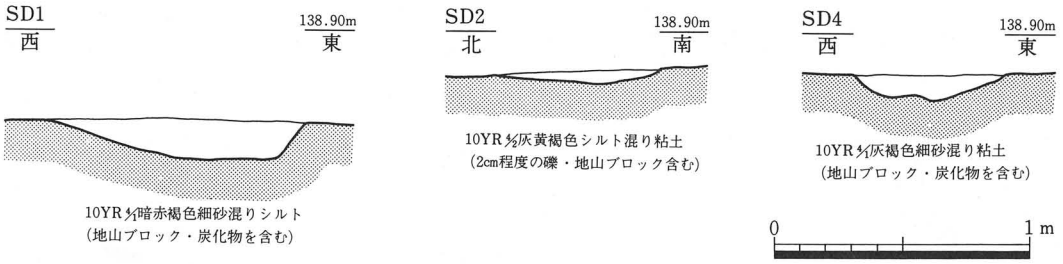
ＳＢ８（第40図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｆ－ｃ～ｄ－11付近に位置する。主軸方向はＮ－14°－Ｗを示し、半分以上は調査区外にのびる建物である。桁行３間（3.7m）×梁行２間（2.5m）以上。柱間は桁行1.5m、梁行は2.6m。柱穴の径0.4m、深さ0.3m。

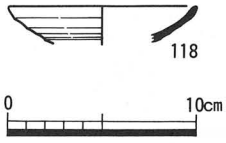
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



第40図　ＳＢ８
遺構図



第41図　ＳＤ１・ＳＤ２・ＳＤ４溝断面図（1/30）

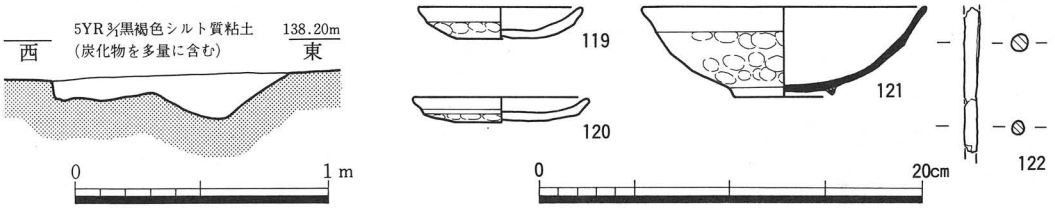


第42図　ＳＤ２遺物実測図

溝（ＳＤ）

ＳＤ１～５（第41・42図、図版10）

［遺構］　Ｉ－Ｅ～Ｈ－ｈ～ｊ－20～２付近に位置する。南北14m、東西８ｍの方形に断続的に巡る。特に東側はＳＤ４とＳＤ５とは離れている。最大幅1.2m、深さ0.54m。平面の形状から見て建物を巡る溝の様である



第43図　ＳＤ16溝断面図（1/30）及び遺物実測図

が、内側のピットでは建物に復元するまでは至っていない。

［遺物］　遺物は白磁皿（118）が出土している。

ＳＤ16（第43図、図版13・89）

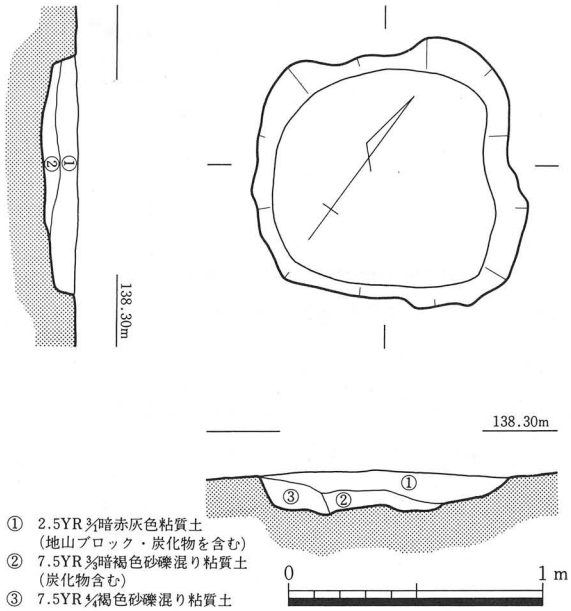
［遺構］　Ｉ－Ｆ－ｂ－18～20付近に位置する。調査区の西端、ＳＢ３の南に9.5m走り、西に屈曲する溝である。断面Ｖ字形を呈する。最大幅１ｍ、深さ0.3m、検出長10m。

［遺物］　遺物は土師質皿（119・120）、瓦器椀（121）、不明鉄製品（122）が出土している。

土壙（ＳＫ）

ＳＫ４（第44図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｆ－ｃ－12で調査区の北側、ＳＢ８の東2.5mに位置する。平面形は不定形な隅丸方形を呈する。主軸方向はＮ－33°－Ｗを示し、一辺１ｍ、深さ0.18m。



第44図　ＳＫ４遺構実測図（1/30）

埋土内には焼土のブロックと炭化物を含んでいた。壁面は火を受けている。

［遺物］　遺物は出土していない。

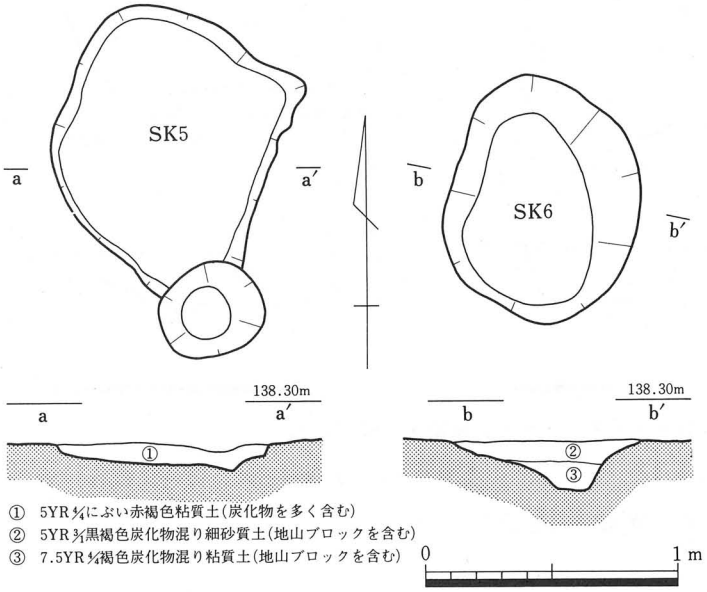
ＳＫ５（第45図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｆ－ｂ－12でＳＫ４の南東1.5mに位置する。平面形は不定形な方形を呈する。長軸１ｍ、短軸0.8m、深さ0.11m。埋土内には焼土のブロックと炭化物を含んでいた。壁面は火を受けている。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＫ６（第45図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｆ－ｂ－12でＳＫ５の東１ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。長径0.9ｍ、短径0.7ｍ、深さ0.2m。埋土内には焼土のブロックと炭化物を含んでいた。壁面は火を受けている。



第45図　ＳＫ５・ＳＫ６遺構実測図（1/30）

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＫ７（第46図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｆ－ｂ－12に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸方向はＮ－80°－Ｗを示し、長辺1.1m、短辺0.7m、深さ0.16m。埋土内には焼土のブロックと炭化物を含んでいた。壁面は火を受けている。

［遺物］　遺物は出土していない。

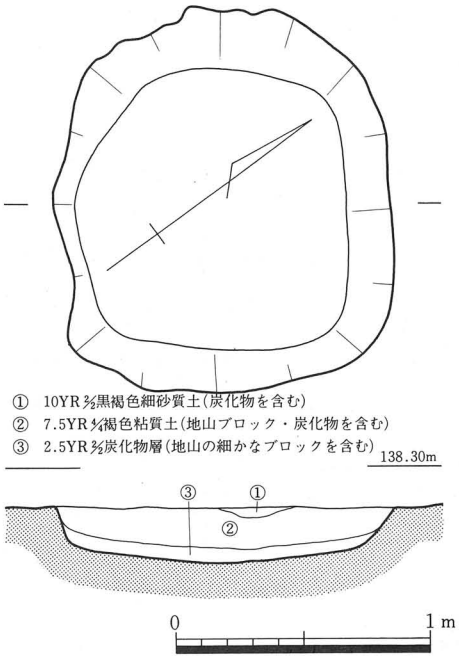
ＳＫ９（第47図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｒ－12に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸方向はＮ－77°－Ｗを示し、長辺1.14m、短辺0.75m、深さ0.14m。埋土内には地山のブロックと炭化物を含む。

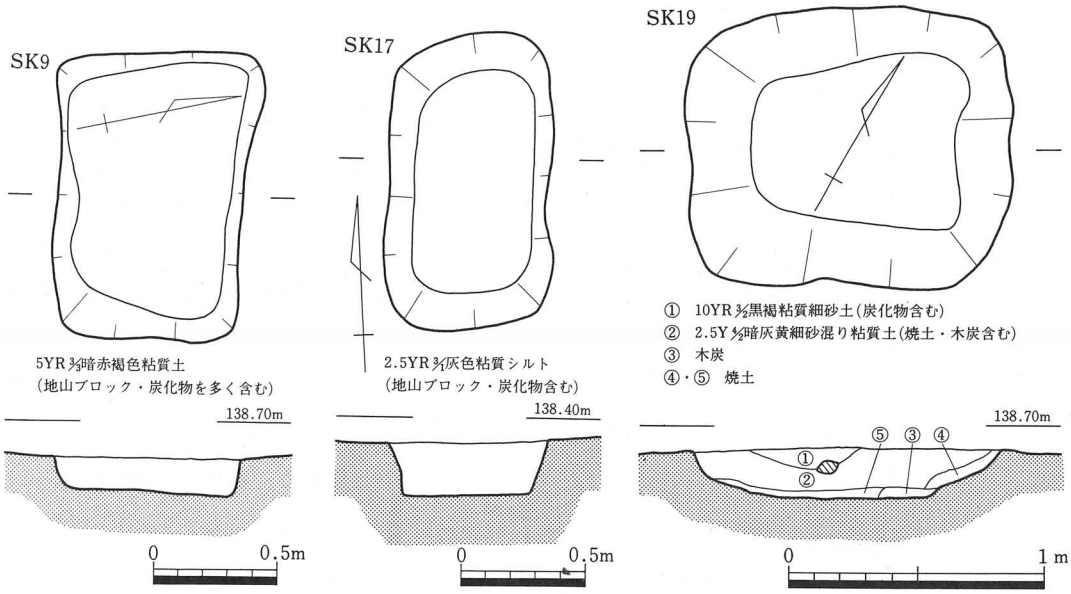
［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＫ17（第47図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｓ－17に位置する。平面形は隅



第46図　ＳＫ７遺構実測図（1/30）



第47図　ＳＫ９・ＳＫ17・ＳＫ19遺構実測図（1/30）

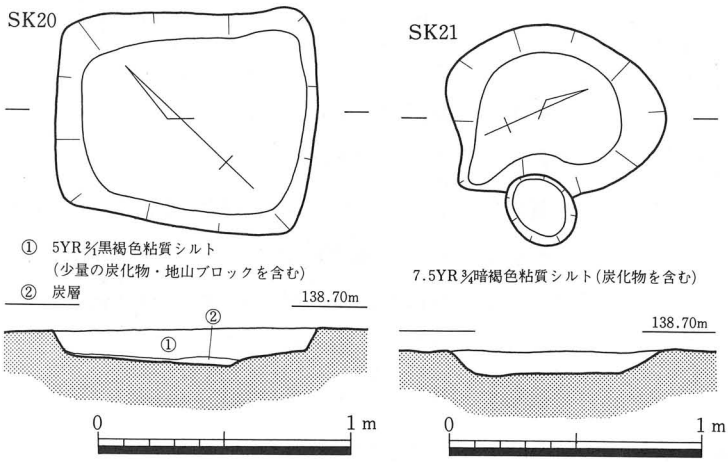
丸長方形を呈する。主軸方向はＮ－４°－Ｅを示し、長軸1.2m、短軸0.6m、深さ0.25m。埋土内は焼土のブロックと炭化物を含む。壁面は火を受けている。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＫ19（第47図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｑ－17でＳＫ18の東５ｍに位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方向はＮ－58°－Ｅを示し、長軸1.25m、短軸1.1m、深さ0.24m。埋土内は焼土のブロックと炭を含む。底面は約５㎝の層厚で赤褐色の酸化層となっている。

［遺物］　遺物は出土していない。

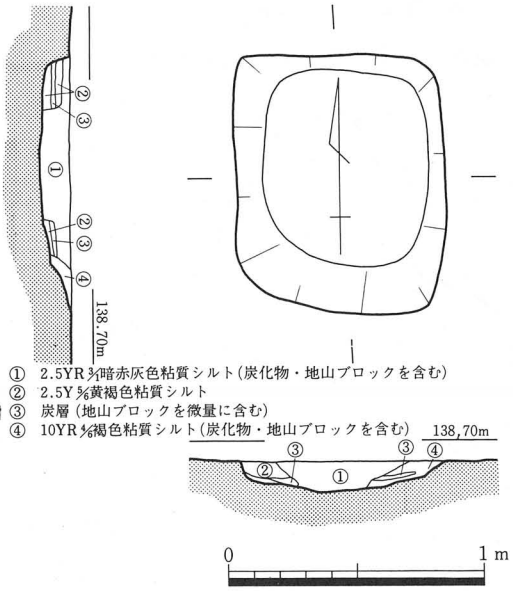


第48図　ＳＫ20・ＳＫ21遺構実測図（1/30）

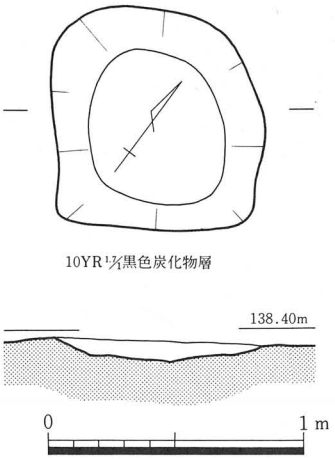
ＳＫ20（第48図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｑ－17でＳＫ19の南東１ｍに位置する。平面形は不定形な長方形を呈する。主軸方向はＮ－55°－Ｗを示し、長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.16m。埋土内は焼土のブロックと炭を含み最下層は層厚２㎝の炭層である。

［遺物］　遺物は出土していない。



第49図　ＳＫ22遺構実測図（1/30）



第50図　ＳＫ23遺構実測図（1/30）

ＳＫ21（第48図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｑ－17でＳＫ19の南５ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。長径0.9ｍ、短径0.7ｍ、深さ0.96ｍ。埋土内は焼土のブロックと炭を含む。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＫ22（第49図、図版12）

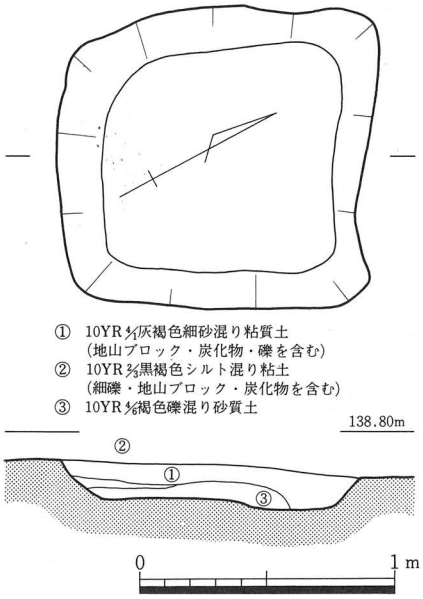
［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｑ－19でＳＫ21の南２ｍに位置する。平面形は長方形を呈する。主軸方向はＮ－２°－Ｗを示し、長軸１ｍ、短軸0.8ｍ、深さ0.12ｍ。埋土内は焼土のブロックと炭を含む。中層に層厚２㎝の炭層を狭在する。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＫ23（第50図、図版12）

［遺構］　Ｉ－Ｅ－ｓ－19でＳＫ17の南６ｍに位置する。平面形はやや丸味を帯た長方形を呈する。主軸方向はＮ－50°－Ｗを示し、長軸0.9ｍ、短軸0.8ｍ、深さ0.05ｍ。埋土内は焼土を含む炭層である。

［遺物］　遺物は出土していない。



第51図　ＳＫ38遺構実測図（1/30）

ＳＫ38（第51図、図版10）

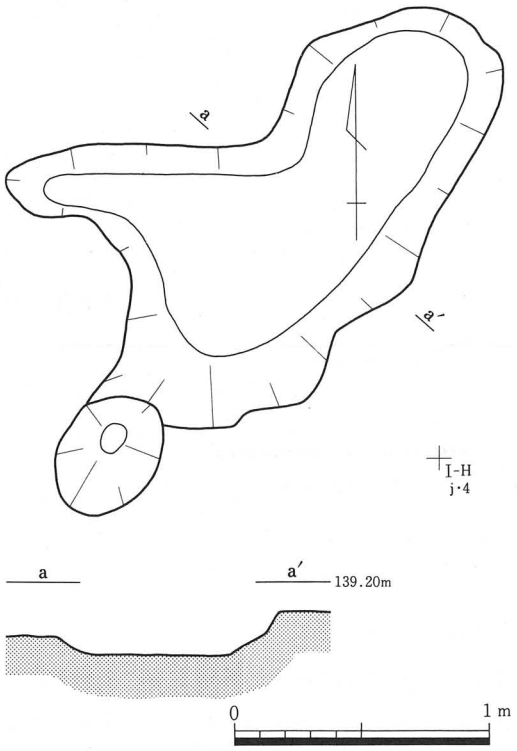
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｉ－１に位置する。平面形は方形を呈する。主軸方向はＮ－28°－Ｅを示し、一辺1.2ｍ、深さ0.2ｍ。埋土内は炭化物を含む。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＫ42（第52図）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｊ－３付近でＳＢ５の５ｍ南に位置する。平面形は不定形を呈する。一辺1.2ｍ、深さ0.2ｍ。埋土内は炭化物を含む。

［遺物］　遺物は出土していない。

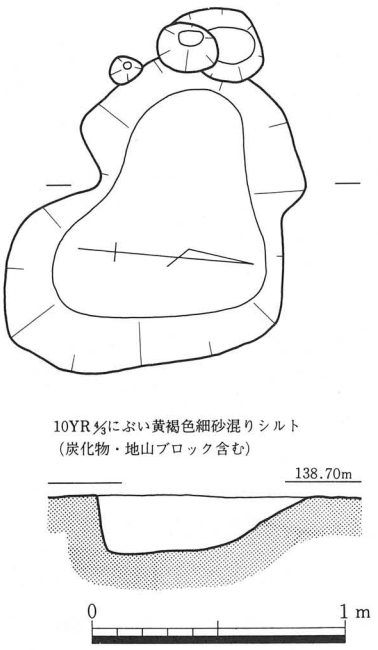


第52図　ＳＫ42遺構実測図（1/30）

ＳＫ45（第53図、図版10）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｉ－１でＳＢ６の３ｍ西に位置する。平面形は方形を呈する。主軸方向はＮ－10°－Ｗを示し、一辺1.1ｍ、深さ0.25ｍ。埋土内は炭化物を含む。

［遺物］　遺物は出土していない。



第53図　ＳＫ45遺構実測図（1/30）

土器溜め（ＳＸ）

ＳＸ２（第54図、図版13・89・90・91・93・150）

［遺構］　Ｉ－Ｆ－ｂ～ｃ－17付近のＮＶ２の堆積層の上層に位置する。径0.7ｍの範囲で土器が集中している。上層から切り込まれた土壙の可能性が高い。

［遺物］　遺物は土師質小皿（123～130）、瓦器皿（131～137）、瓦器埦（138～140）、青磁碗高台（141）、小型鉄刀（142）が出土している。

自然地形（ＮＶ）

ＮＶ１（第55・57図、図版13・91・92・93）

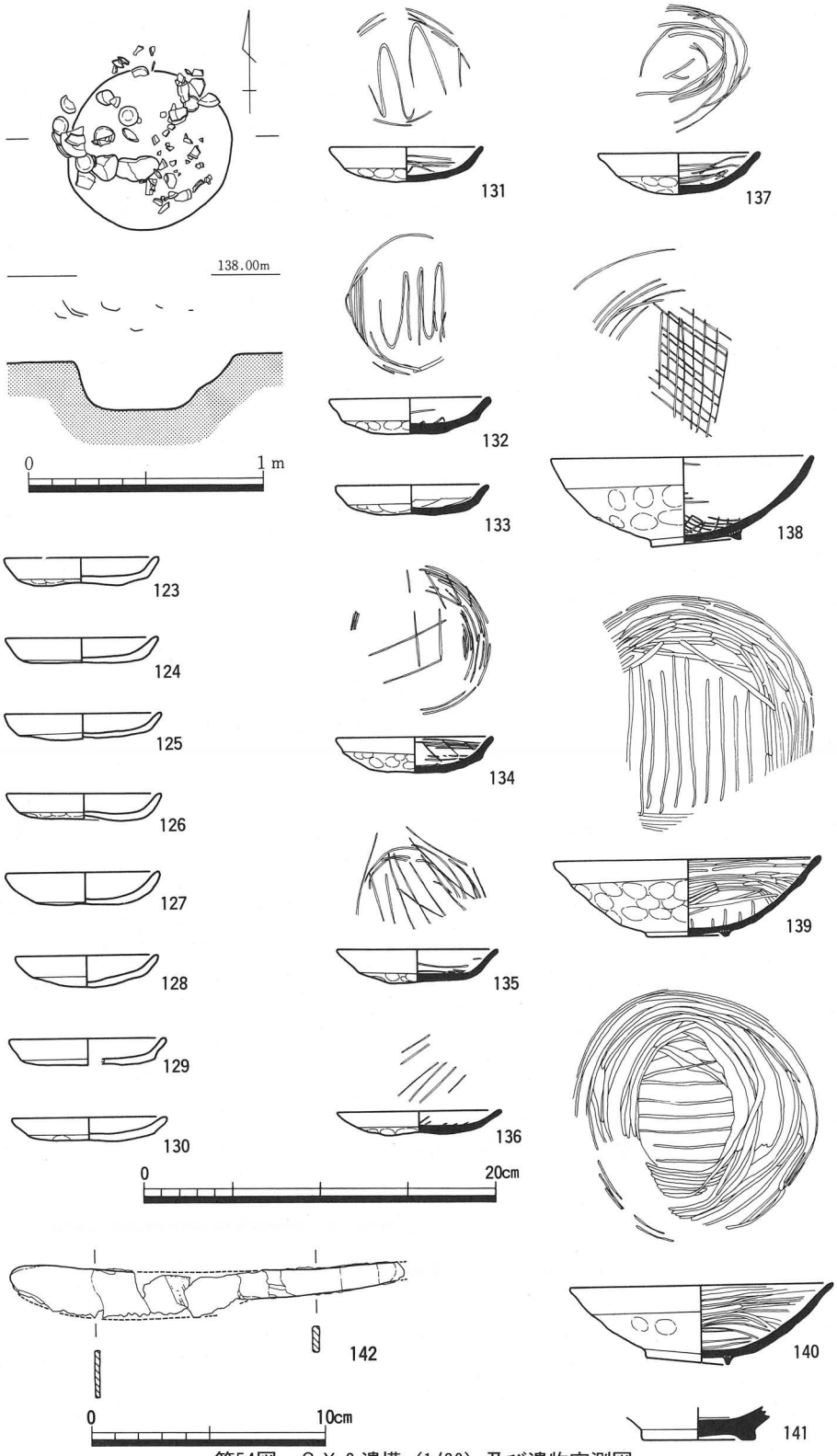
［遺構］　Ｉ－Ｆ－ａ～ｃ－14～16付近に位置する。西に出口をもち北東にのびる谷状地形である。検出長18ｍ、幅６ｍ、深さ５ｍ。埋土内は炭化物を含む。

［遺物］　遺物は土師質小皿（143～148）、土師質大皿（149）、瓦器皿（150～153）、瓦器埦（154～156）、瓦質羽釜（157）、青磁皿（158）、青磁碗高台（159）、白磁碗（160～162）が出土している。

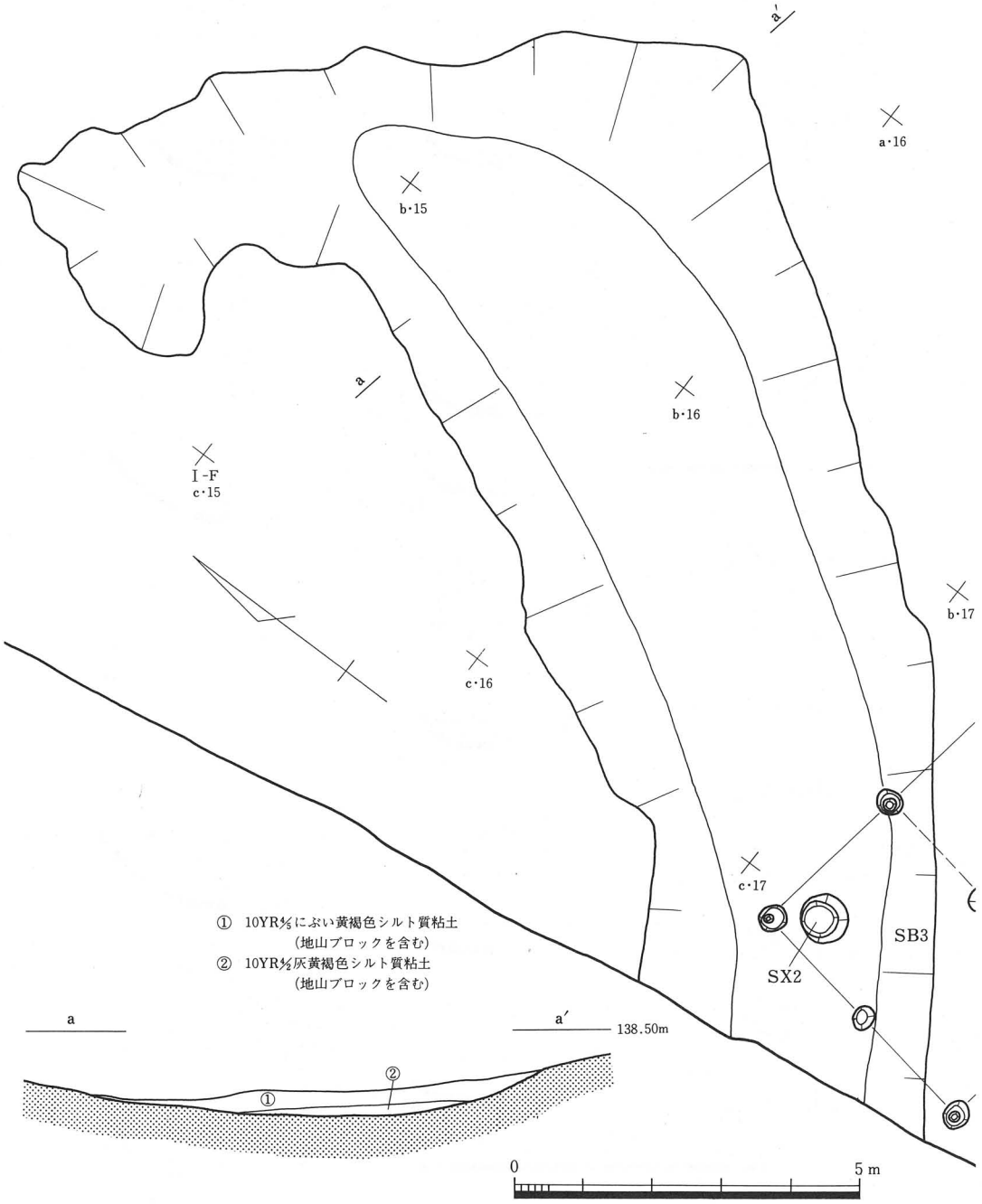
ＮＶ２（第56図・58図、図版92・93）

［遺構］　Ｉ－Ｉ－ｔ～ｃ－３～４付近に位置する。西に出口をもち東にのびる谷状地形である。検出長15ｍ、幅10ｍ、深さ５ｍ。埋土内は炭化物を含む。

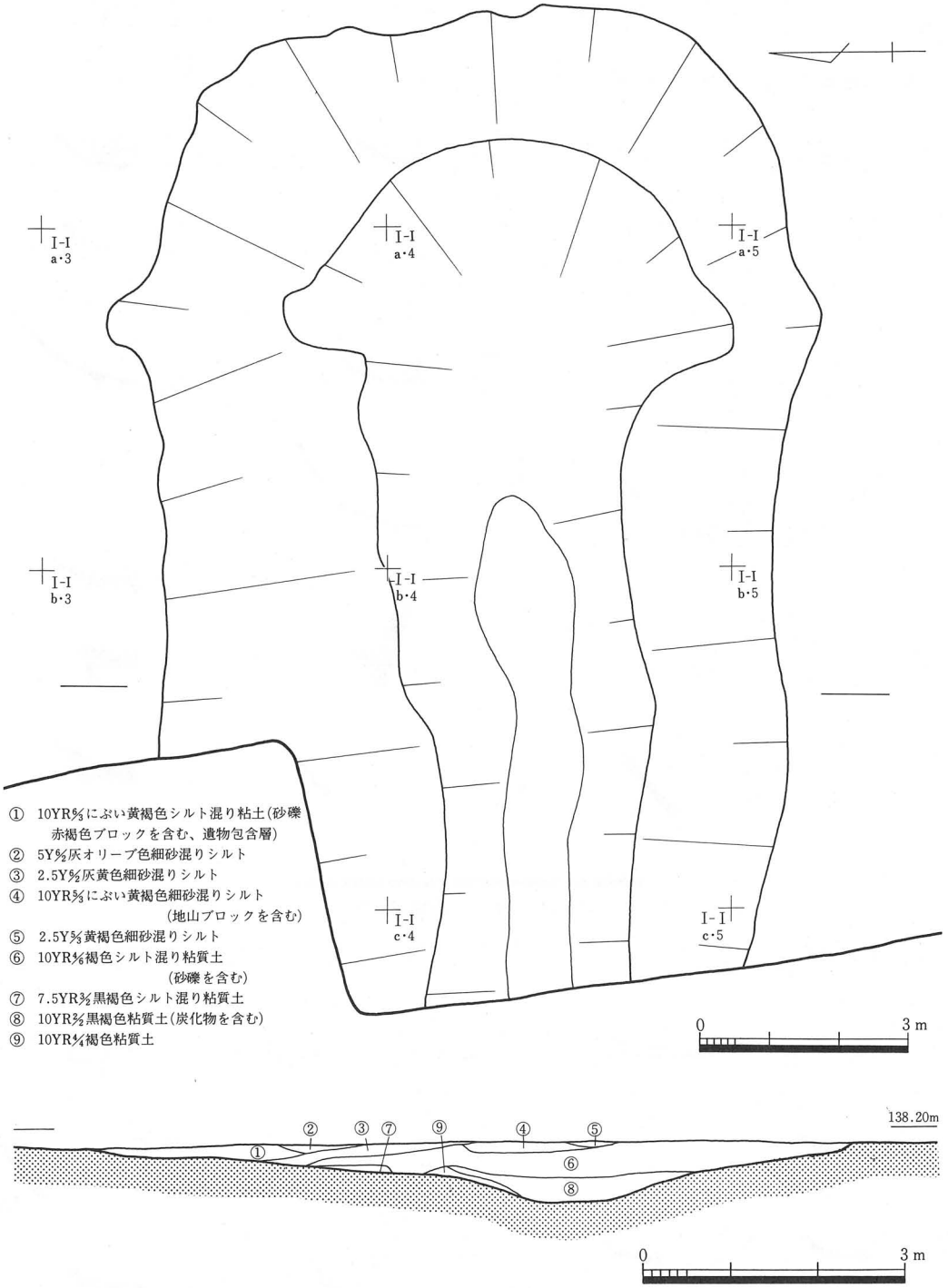
［遺物］　遺物は土師質小皿（163～172）、瓦器皿（173～175）、瓦器埦（176）、白磁碗（177）、白磁碗高台（178）、土師質甕（179）が出土している。



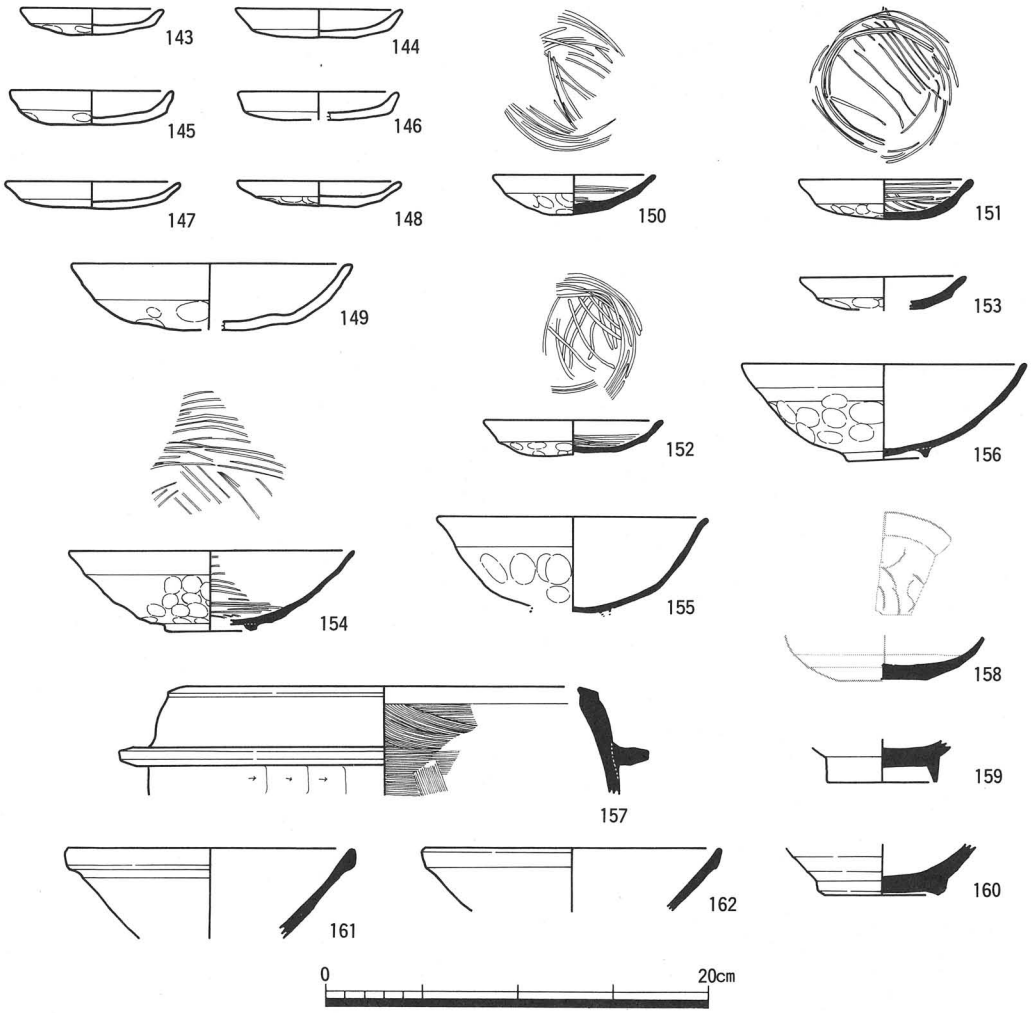
第54図　ＳＸ２遺構（1/30）及び遺物実測図



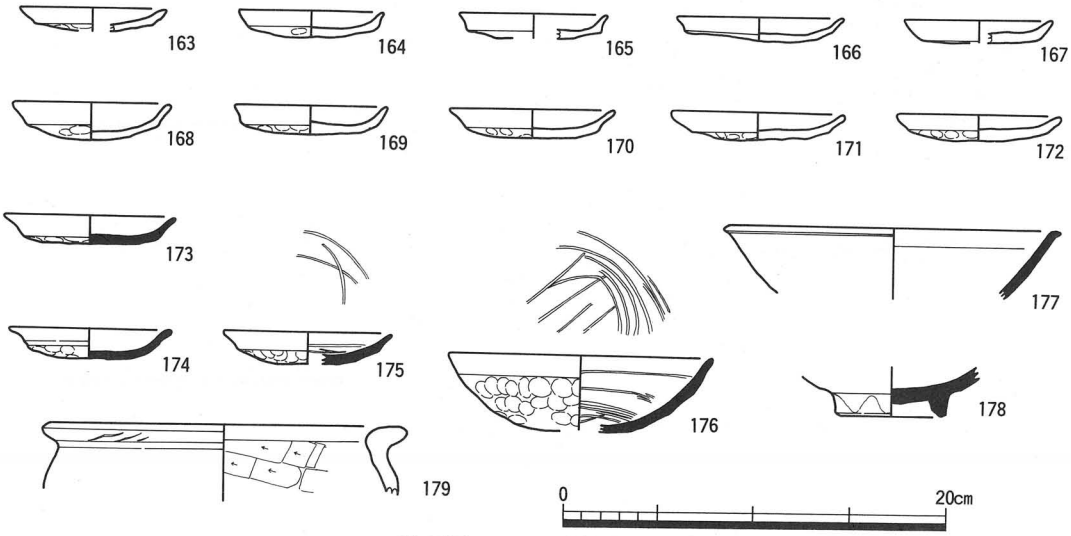
第55図　ＮＶ１遺構実測図（1/100）



第56図　ＮＶ２遺構実測図　平面（1/100）・断面（1/80）



第57図　ＮＶ１遺物実測図



第58図　ＮＶ２遺物実測図

第４節　４地区

１．概略（付図６・７）

１地区の南側の調査区で地形的には中央に北谷が入り、大きく南側と北側の２地区に分けることができる。建物、井戸等の遺構も調査区中では一番多く検出されている。この地区は古墳時代の遺構も多く複合している。

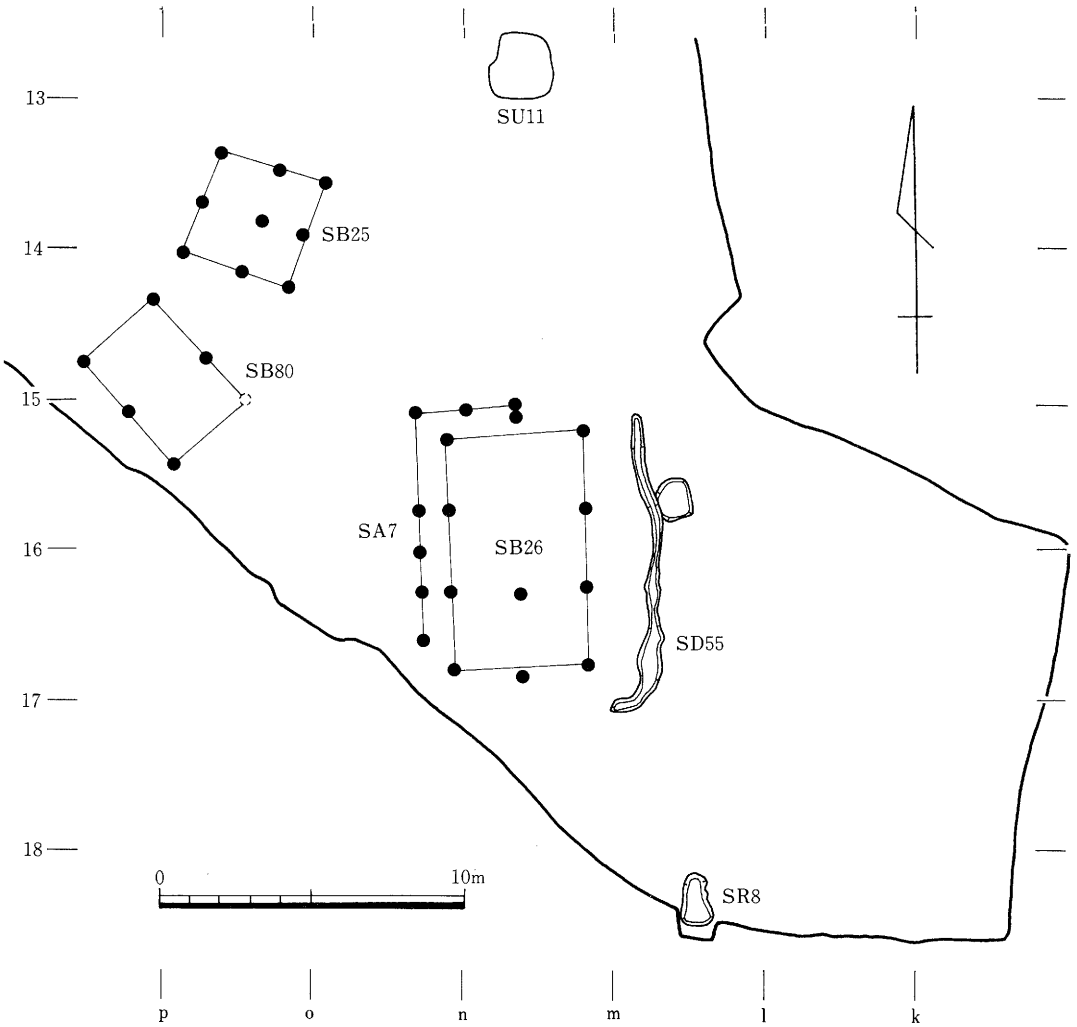
２．遺構・遺物

建物（ＳＢ）

ＳＢ25（第59図、図版14）

第59図　ＳＢ25遺構図

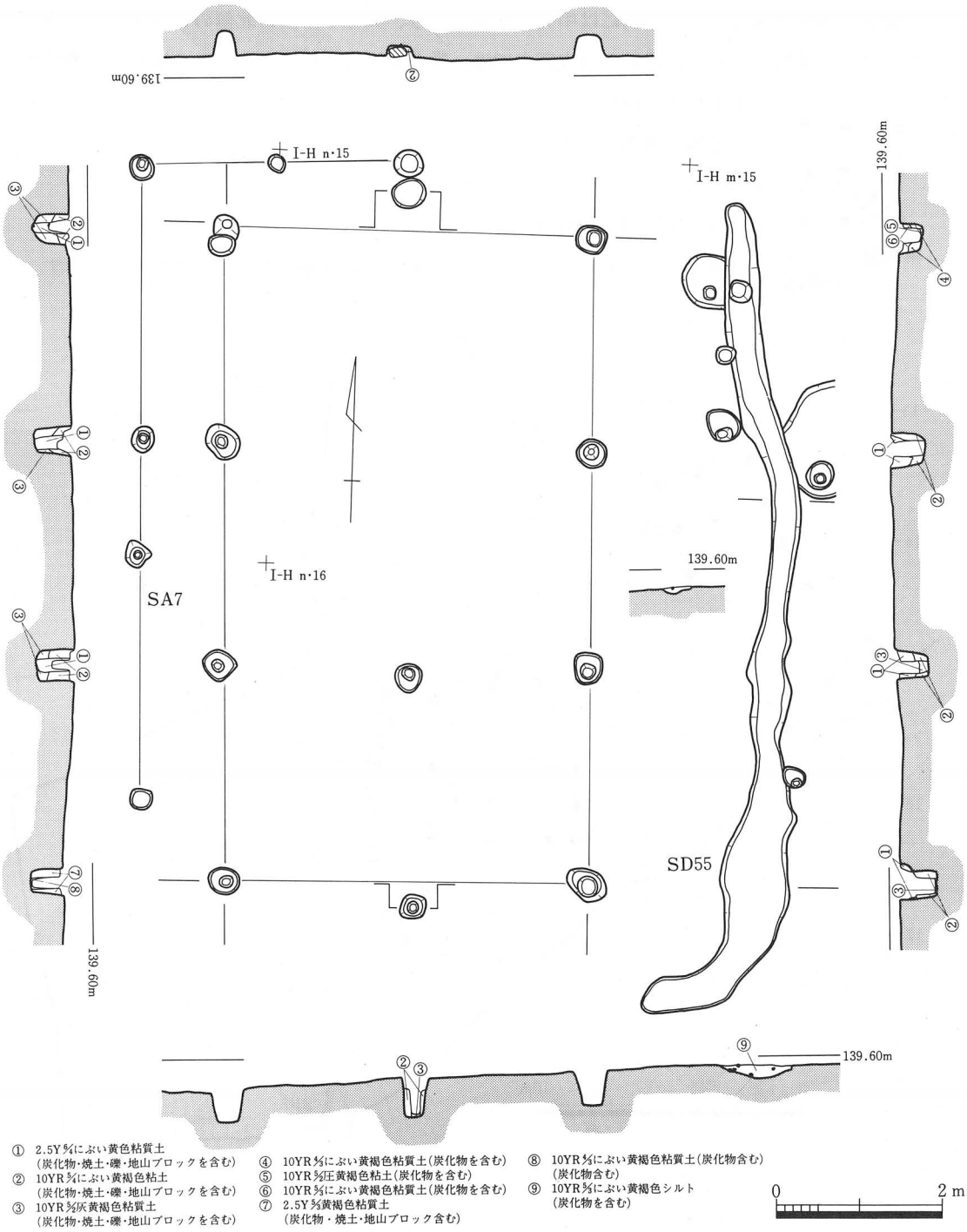
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｏ－13付近に位置する。主軸方向はＮ－19°－Ｅを示す。



第60図　４地区Ｉ－Ｈ建物配置図（１）　(1/250)

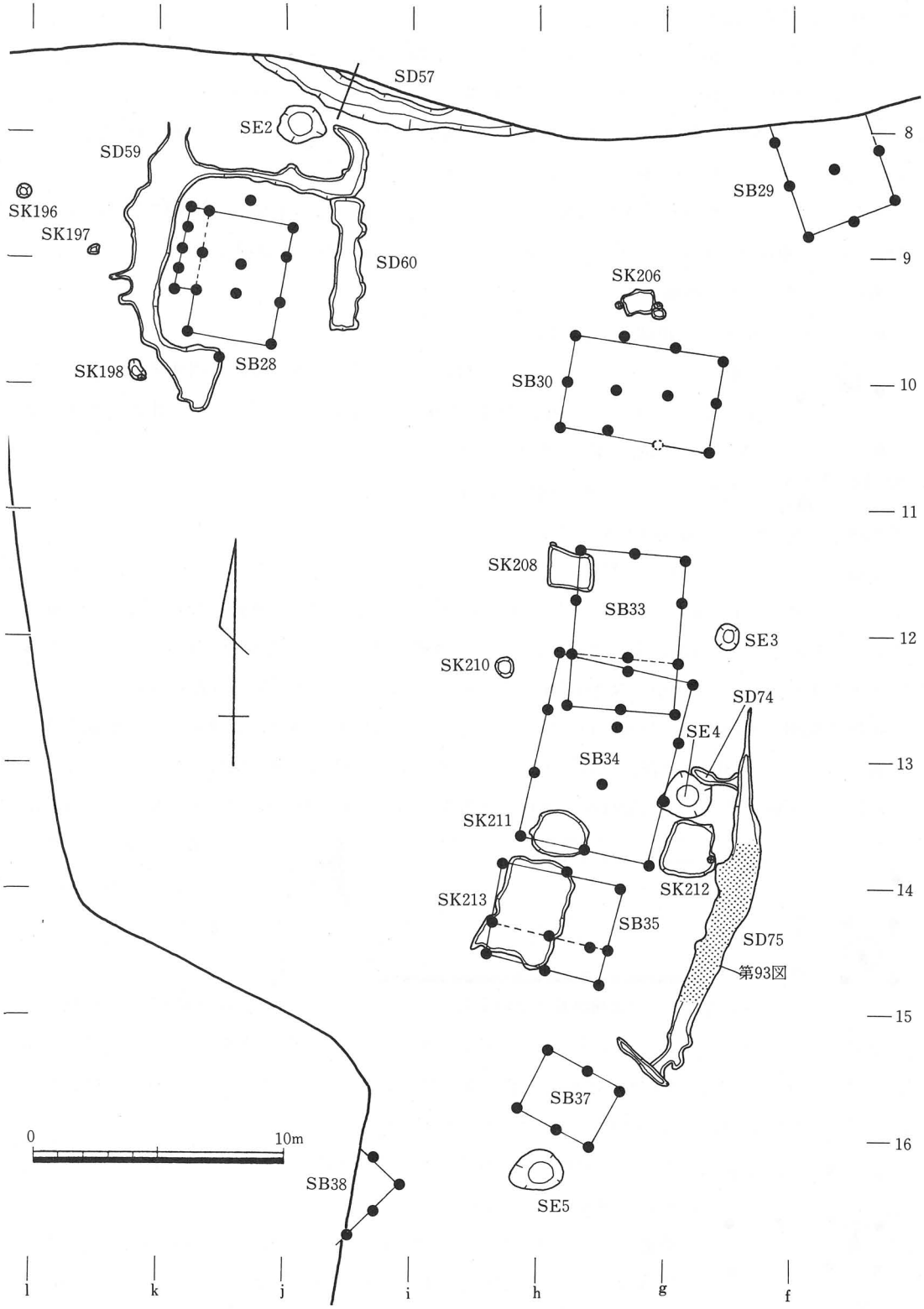
桁行２間（3.8m）×梁行２間（3.6m）の建物である。柱間は桁行1.9m、梁行は西側２m、1.6m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m、柱痕径0.15m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



① 2.5Y 5/4にぶい黄色粘質土（炭化物・焼土・礫・地山ブロックを含む）
② 10YR 5/4にぶい黄褐色粘土（炭化物・焼土・礫・地山ブロックを含む）
③ 10YR 5/3灰黄褐色粘質土（炭化物・焼土・礫・地山ブロックを含む）
④ 10YR 5/3にぶい黄褐色粘質土（炭化物を含む）
⑤ 10YR 5/3圧黄褐色粘土（炭化物を含む）
⑥ 10YR 5/3にぶい黄褐色粘質土（炭化物を含む）
⑦ 2.5Y 5/3黄褐色粘質土（炭化物・焼土・地山ブロック含む）
⑧ 10YR 5/3にぶい黄褐色粘質土（炭化物含む）
⑨ 10YR 5/3にぶい黄褐色シルト（炭化物を含む）

第61図　ＳＢ26遺構実測図（1/80）



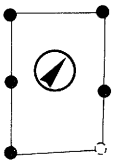
第62図　4地区Ⅰ－H建物配置図（2）　（1／250）

ＳＢ26（第61図、図版15）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｍ－15～16付近に位置する。主軸方向がＮ－２°－Ｗを示す。桁行３間（８ｍ）×梁行２間（4.4ｍ）の建物である。南北端の梁行中央で、0.3ｍ外側に棟持ち柱をもつ建物である。南から桁行１間目中央に柱穴を有し、２室に分割することが可能である。柱間は桁行2.6ｍ、梁行は2.2ｍ。柱穴の径0.4ｍ、深さ0.2ｍ、柱痕径0.2ｍ。

また、建物の北から西にＳＡ７の柵列を伴っている。北側２間（3.2ｍ）、西側５間（８ｍ）柱間が1.6ｍ。東側には桁行に平行して、幅0.7ｍ、深さ0.16ｍのＳＤ55が走る。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



第63図　ＳＢ80 遺構図

ＳＢ80（第63図、図版14）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｑ－14～15付近でＳＢ25の南側２ｍに位置する。主軸方向はＮ－41°－Ｗを示す。桁行２間（4.6ｍ）×梁行１間（3.1ｍ）の建物である。柱間は桁行2.3ｍ、梁行は3.1ｍ。

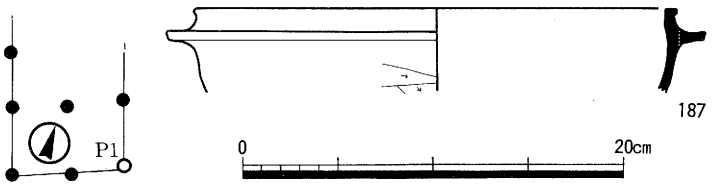
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ28（第66・67図、図版14・93・94）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｊ－８～９付近に位置する。主軸方向はＮ－７°－Ｅを示す。桁行３間（4.9ｍ）×梁行２間（4.1ｍ）の建物である。南北端の梁行中央で、0.7ｍ外側に棟持ち柱をもつ建物である。柱間は桁行2.4ｍ、梁行は1.7ｍ。また、西側には北から４間の幅0.7ｍ、柱間0.8ｍの付け庇を有する。柱穴径0.6ｍ、深さ0.5ｍ、庇の柱穴はやや小さく径0.2ｍ、深さ0.3ｍ。

建物の周囲はＳＤ59、ＳＤ60が巡る。ＳＤ59は建物の南側から西側、北側そして、東端で更に北側にのびる。ＳＤ60は東側に位置する。いずれも、最大幅２ｍ、深さ0.5ｍ。

［遺物］　遺物はＰ１から土師質椀（184）、瓦器椀（185）、須恵質練鉢（186）が出土し、ＳＤ59からは瓦器皿（180）、瓦器椀（181）、瓦器片口椀（182）、瓦質羽釜（183）が出土している。

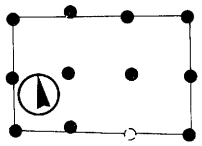


第64図　ＳＢ29遺構図及び遺物実測図

ＳＢ29（第64図、図版16）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｅ～ｆ－８付近に位置する。主軸方向がＮ－22°－Ｗを示す。桁行２間（4.1ｍ）以上×梁行２間（3.8ｍ）の建物で北側の調査区外にのびる可能性がある。柱間は桁行が２ｍ、梁行が1.9ｍ。柱穴の径0.6ｍ、柱痕径0.1ｍ深さ0.56ｍ。

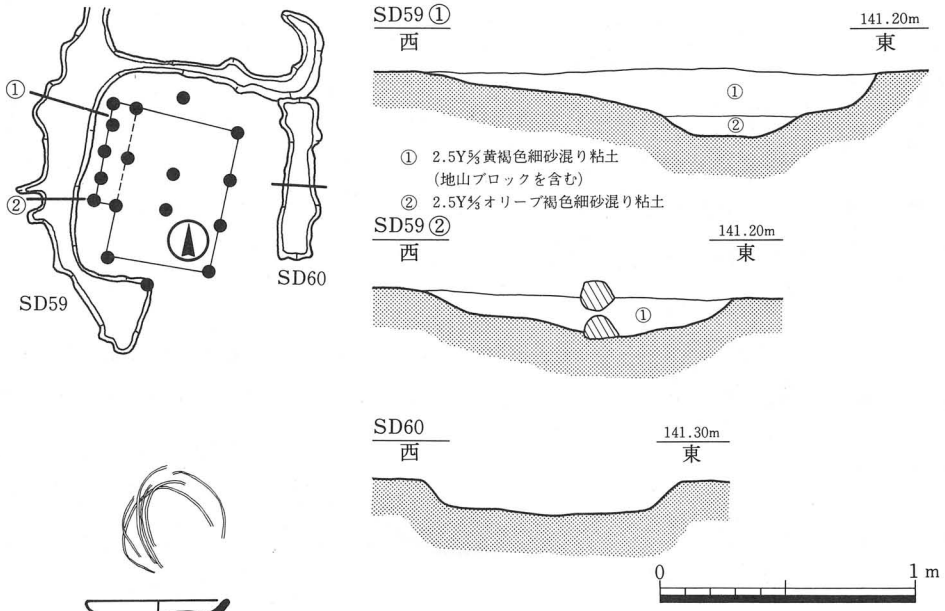
［遺物］　遺物はＰ１から瓦質羽釜（187）が出土している。



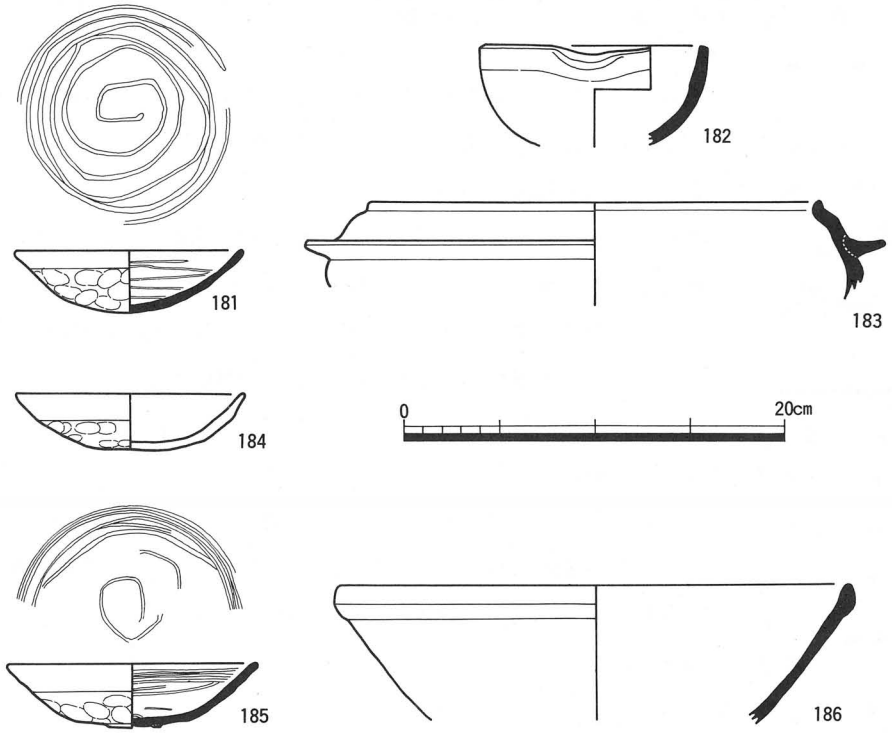
第65図　ＳＢ30 遺構図

ＳＢ30（第65図、図版16）

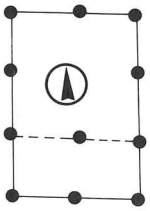
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｆ～ｇ－９～10付近でＳＢ29の南西６ｍに位置する。主軸方向はＮ－82°－Ｗを示す。桁行３間（5.9ｍ）×梁行２間（3.9ｍ）の建物である。柱間は桁行が２ｍ、梁行が２ｍ。柱穴径0.3ｍ、深さ0.5ｍ。



第66図　ＳＢ28遺構図及びＳＤ59・ＳＤ60断面図（1/30）



第67図　ＳＢ28及びＳＢ28に伴うＳＤ59遺物実測図



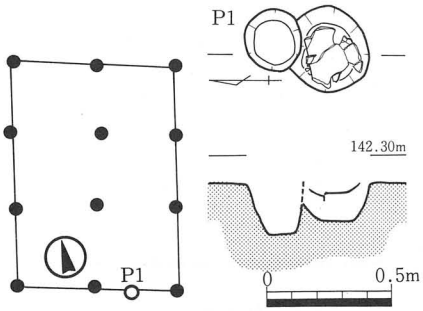
第68図　ＳＢ33
遺構図

［遺物］　遺物は出土していない。

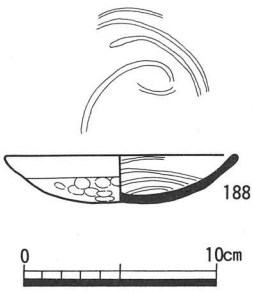
ＳＢ33（第68図、図版17）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｆ～ｇ－11～12付近でＳＢ30の南４ｍに位置し、ＳＢ34と重複する。主軸方向はＮ－３°－Ｅを示す。桁行３間（6.3m）×梁行２間（4.3m）の建物で、南側から１間目の中央に柱穴をもつ。柱間は桁行が2.2m、梁行が2.1m。柱穴径0.4m、深さ0.5m、柱痕径0.2m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



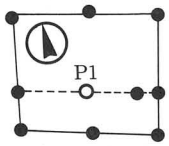
第69図　ＳＢ34遺構図及びピット１
遺物出土状況図（1/30）



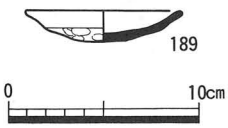
第70図　ＳＢ34遺物
実測図

ＳＢ34（第69図・70図、図版17・94）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｆ～ｈ－12～13付近でＳＢ33と重複している。主軸方向はＮ－13°－Ｅを示す。桁行３間（7.4m）×梁行２間（5.4m）の建物で、柱間は桁行が2.5m、梁行が2.4m。柱穴径0.58m、深さ0.5m、柱痕径0.2m。この建物はＳＢ33よりは先行する。



第71図　ＳＢ35
遺構図



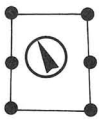
第72図　ＳＢ
35遺物実測図

［遺物］　遺物は建物の南から桁行１間目の東端柱穴と中央の柱穴の間にＰ１があり、瓦器椀（188）が出土している。

ＳＢ35（第71・72図、図版17）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｇ～ｈ－14付近でＳＢ34の南側2.5mに位置している。主軸方向はＮ－80°－Ｗを示す。桁行２間（4.8m）×梁行２間（4.0m）の建物で、柱間は桁行が2.5m、梁行が2.7m。南側部分は幅1.2mの庇となっている。柱穴径0.4m、深さ0.5m、柱痕径0.15m。

［遺物］　遺物はＰ１から瓦器皿（189）が出土している。

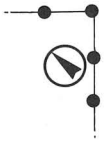


第73図
ＳＢ37遺構図

ＳＢ37（第73図、図版17）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｇ～ｈ－15付近でＳＢ35の南側３ｍに位置している。主軸方向はＮ－62°－Ｗを示す。桁行２間（3.2m）×梁行１間（2.6m）で、柱間は桁行が1.6ｍ、梁行が2.6m。柱穴径0.4m、深さ0.5m、柱痕径0.2m。

［遺物］　遺物は出土していない。

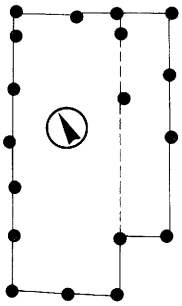


第74図
ＳＢ38遺構図

ＳＢ38（第74図）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｉ－16付近でＳＢ35の西南側６ｍに位置している。主軸方向はＮ－45°－Ｅを示す。桁行２間（３ｍ）×梁行１間（1.5m）以上の建物で、調査区外に伸びる。柱間は桁行が1.5m、梁行が1.5m。柱穴径0.6m、深さ0.5m。

［遺物］　遺物は出土していない。



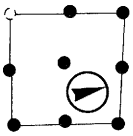
第75図　ＳＢ41
遺構図

ＳＢ41（第75図、図版18）

［遺構］　Ｉ－Ｋ－ｈ～ｉ－４～５付近に位置する。主軸方向はＮ－30°－Ｅを示す。桁行６間（9.4m）×梁行２間（3.6m）の建物で、東側に北から４間分の幅1.4mの庇が付く。柱間は桁行が1.8m、梁行が1.8m。柱穴径0.5m、深さ0.5m、柱痕径0.2m。この建物の柱穴の一部は暗渠によって削平を受けている。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＢ42（第76図、図版18）

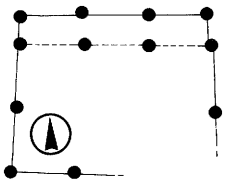


第76図　ＳＢ42
遺構図

［遺構］　Ｉ－Ｋ－ｊ～ｋ－６～７付近に位置する。主軸方向はＮ－75°－Ｗを示す。桁行２間（3.7m）×梁行２間（3.5m）の建物で、南西隅の柱穴は削平されている。柱間は桁行が1.8m、梁行が1.7m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ43（第77図、図版19）

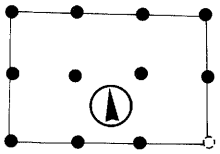


第77図　ＳＢ43遺構図

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｒ～ｓ－19～20付近に位置する。主軸方向はＮ－88°－Ｗを示す。桁行３間（6.4m）×梁行２間（4.4m）の建物で、北側に幅１ｍの庇が付く。柱間は桁行が2.2m、梁行が1.7m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。この建物南東側の柱穴の一部は調査区外に位置する。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ44（第78、図版19）

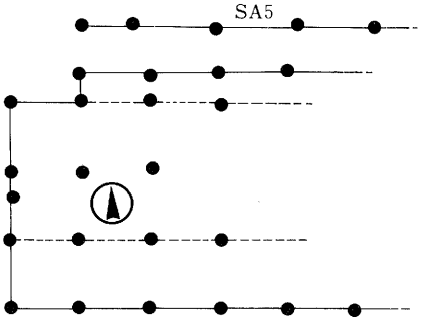


第78図　ＳＢ44遺構図

［遺構］　Ｉ－Ｊ～Ｋ－ｔ～ｓ－19～20付近でＳＢ43の西側３ｍに位置する。主軸方向はＮ－88°－Ｗを示す。桁行３間（6.4m）×梁行２間（4.4m）の建物で、柱間は桁行2.2m、梁行が1.7m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。この建物の南東側の柱穴の一部は調査区外に位置する。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

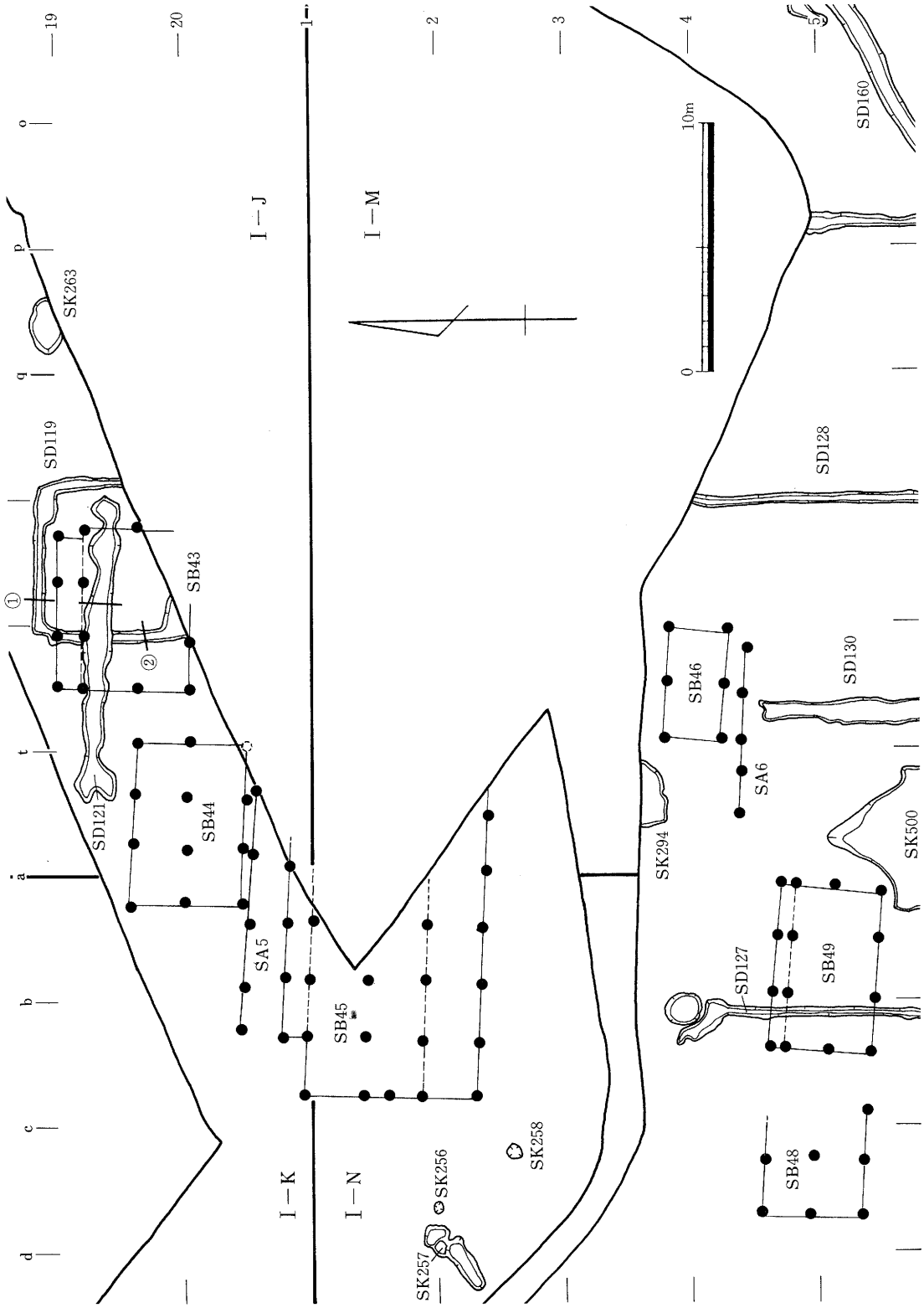
ＳＢ45（第79図）



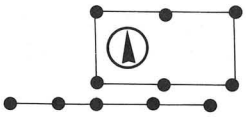
第79図　ＳＢ45遺構図

［遺構］　Ｉ－Ｋ～Ｎ－ａ～ｂ－20～21付近でＳＢ44の西側３ｍに位置する。主軸方向はＮ－87°－Ｗを示す。桁行５間（11.2m）以上×梁行２間（7.9m）の建物で、南側１間分が庇部分、北側は幅0.9mの付け庇に相当する。柱間は桁行2.2m、梁行が1.7m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。この建物の東側の柱穴の一部は調査区外に位置する。建物の北側1.6mには、桁行に平行して柵列ＳＡ５が走る。柱間は３ｍ、柱穴径0.2m、深さ0.3m。

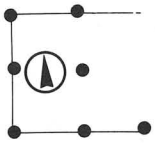
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



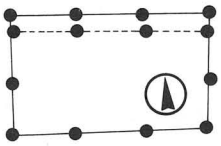
第80図　4地区Ⅰ－J・Ⅰ－K・Ⅰ－M・Ⅰ－N建物配置図（3）　(1/250)



第81図　ＳＢ46遺構図



第82図　ＳＢ48遺構図



第83図　ＳＢ49遺構図

ＳＢ46（第81図、図版19）

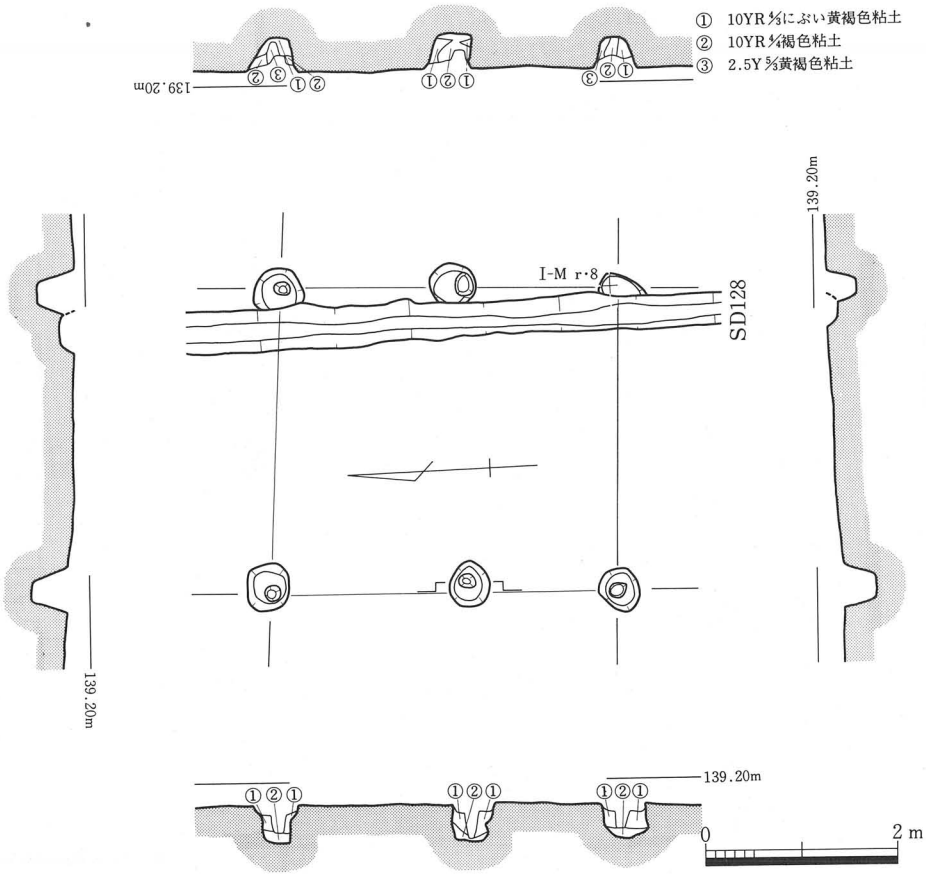
［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｓ－３～４付近に位置する。主軸方向はＮ－87°－Ｗを示す。桁行２間（4.5m）以上×梁行１間（2.4m）の建物で、柱間は桁行が2.2m、梁行が2.4m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。建物の北側0.8mに桁行に平行して４間分の柵列ＳＡ６が走る。柱間は1.8m、柱穴径0.2m、深さ0.3m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ48（第82図、図版20）

［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｂ～ｃ－４～５付近に位置する。主軸方向はＮ－87°－Ｗを示す。桁行２間（4.3m）以上×梁行２間（3.9m）で、柱間は桁行が2.1m、梁行が1.9m。柱穴径0.4m、深さ0.5m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



第84図　ＳＢ50遺構実測図（1/80）

ＳＢ49（第83図、図版20・34）

［遺構］　Ｉ－Ｎ－ａ～ｂ－４～５付近でＳＢ48の東側２ｍに位置する。主軸方向はＮ－87°－Ｗを示す。桁行３間（6.4m）以上×梁行３間（4.1m）で、梁行北側１間分は幅0.6mの付け庇になる。柱間は桁行が2.1m、梁行が1.9m。柱穴径0.4m、深さ0.5m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ50（第84図、図版21）

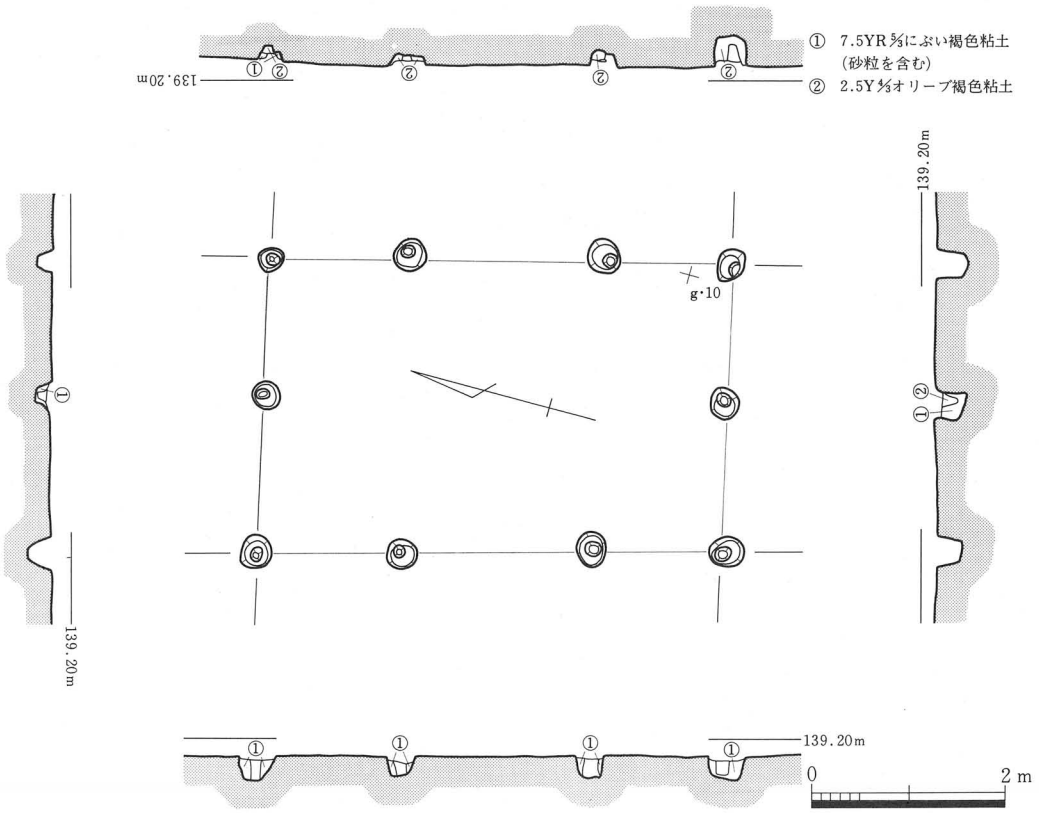
［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｒ～ｑ－７～８付近に位置する。主軸方向はＮ－３°－Ｅを示す。桁行２間（3.6m）×梁行１間（3.3m）で、柱間は桁行が1.8m、梁行が3.3m。柱穴径0.5m、深さ0.4m、柱痕径0.18m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

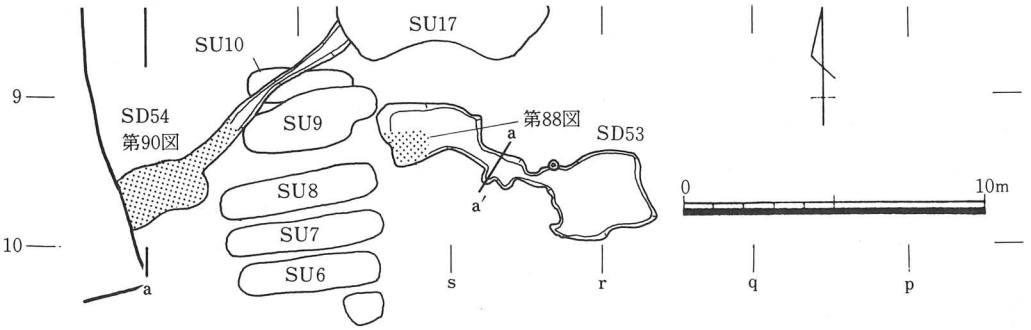
ＳＢ51（第85図、図版21）

［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｐ～ｑ－９～10付近でＳＢ50の南側６ｍに位置する。主軸方向はＮ－14°－Ｗを示す。桁行３間（５ｍ）×梁行２間（３ｍ）で、柱間は桁行が1.7m、梁行が1.5m。柱穴径0.3m、深さ0.3m、柱痕径0.1m。

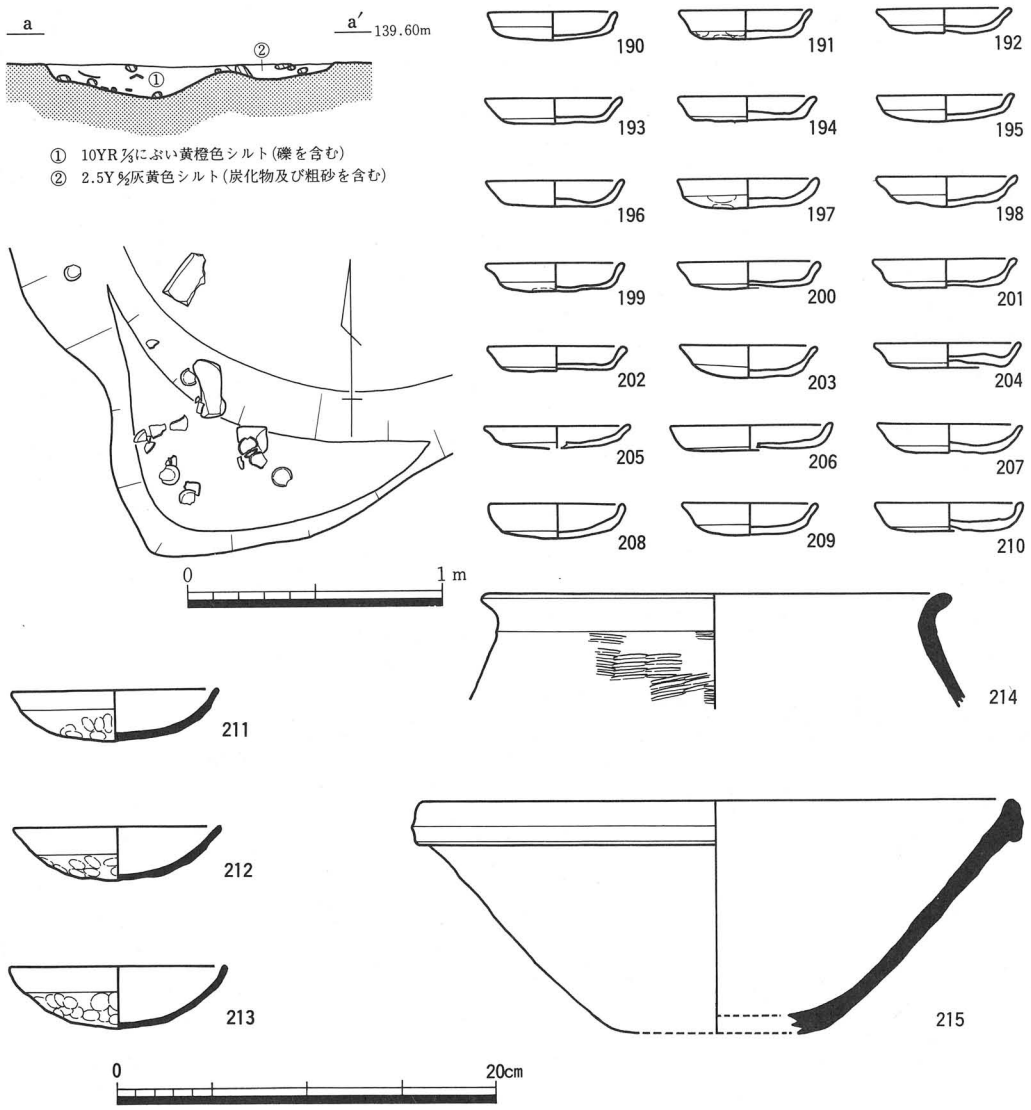
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



第85図　ＳＢ51遺構実測図（1/80）



第86図　ＳＤ53・ＳＤ54遺構配置図（1/250）



第87図　ＳＤ53断面実測図・遺物出土状況図（1/30）・遺物実測図

溝（ＳＤ）

ＳＤ53（第86・87図、図版22・94・95）

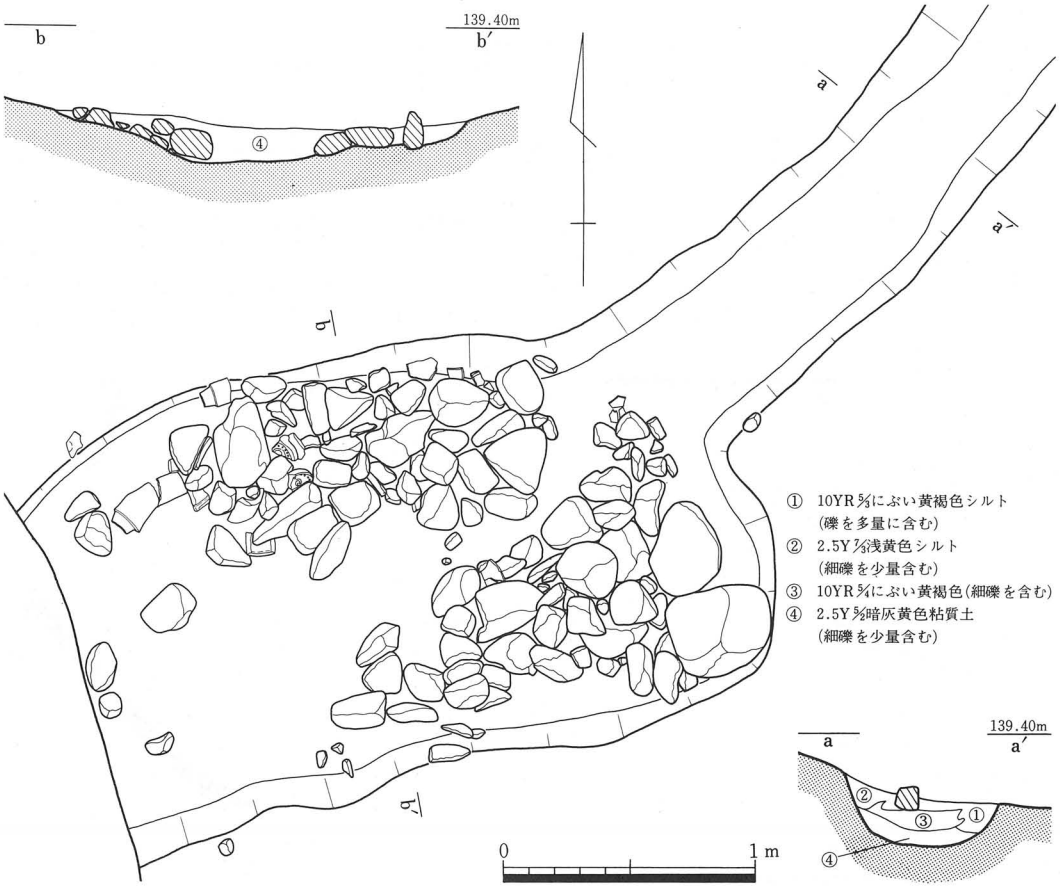
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｒ～ｓ－９付近に位置する。平面形は不定形な土壙が２基繋ったような形態を呈する。最大幅３ｍ、深さ0.2ｍ、検出長9.5ｍ。溝の北西側のテラス状部分から遺物が出土している。

［遺物］　遺物は土師質小皿（190～210）、瓦器椀（211～213）、瓦質甕（214）、須恵質練鉢（215）が出土している。

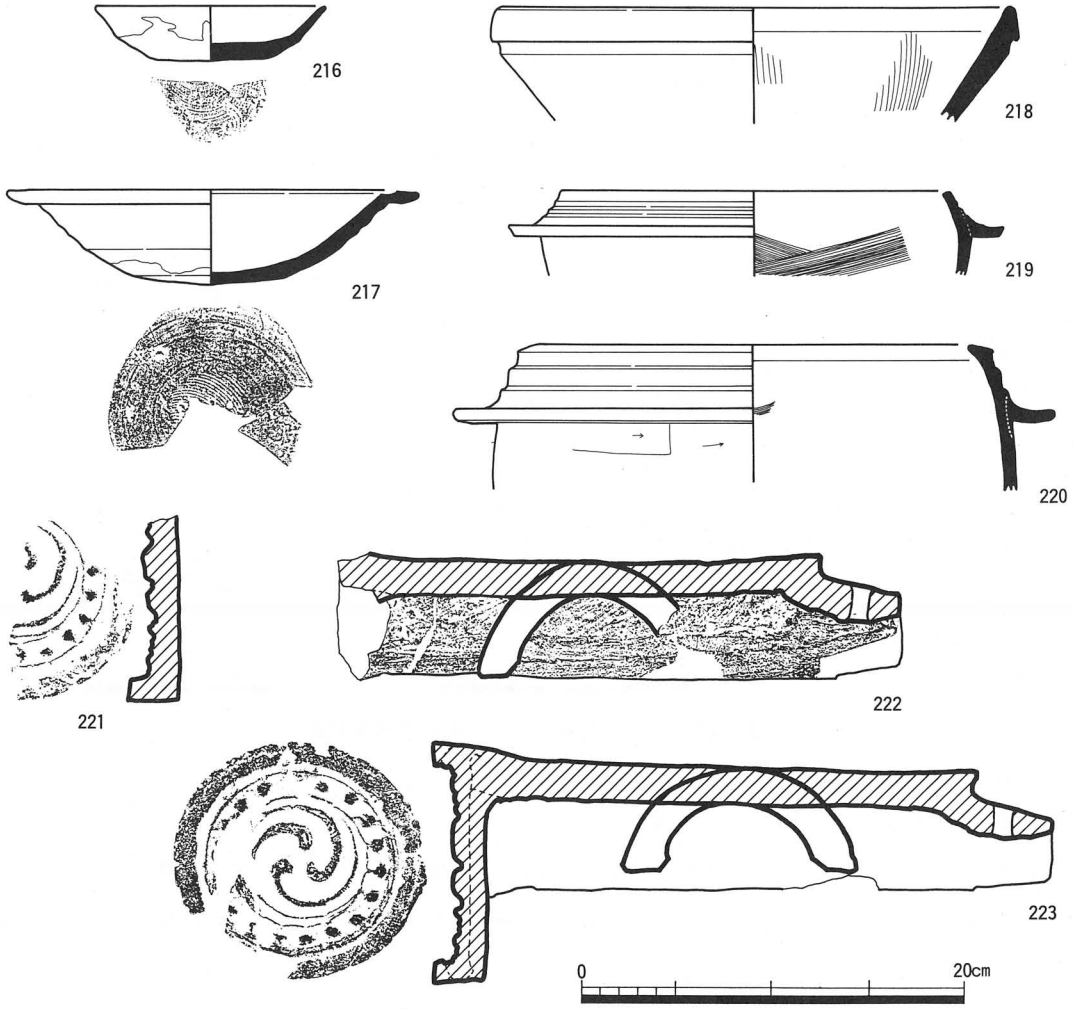
ＳＤ54（第88・89図、図版23・95）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｔ－８～９付近に位置する。平面形は南西側で幅を広げる。断面形はＵ字方を成す。幅0.4ｍ、深さ0.2ｍ、南西側最大幅2.9ｍ、深さ0.15ｍ、検出長11.3ｍ。南西側の拡張部から河原石と共に遺物が出土している。

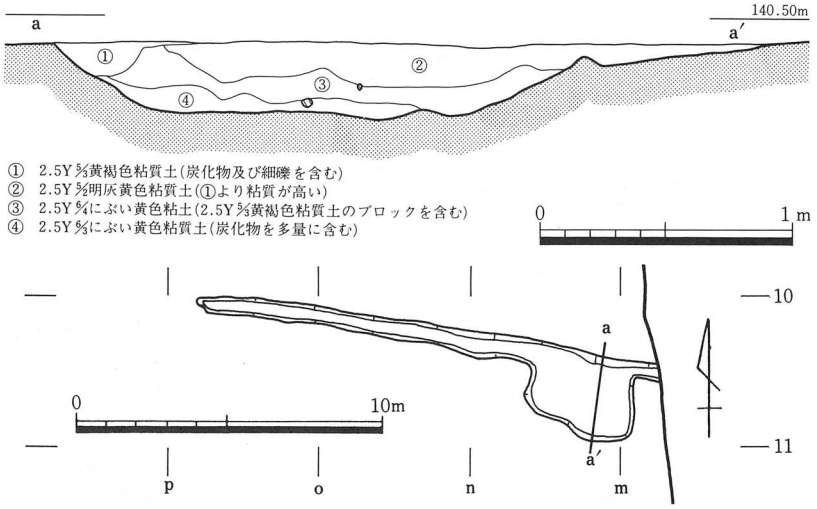
［遺物］　遺物は灰釉皿（216）、灰釉深皿（217）、瓦質摺鉢（218）、瓦質羽釜（219・220）、軒丸瓦（221～223）が出土している。



第88図　ＳＤ54遺構実測図（1/30）



第89図　ＳＤ54遺物実測図



第90図　ＳＤ56遺構実測図　平面（1/250）・断面（1/30）

ＳＤ56（第90図）

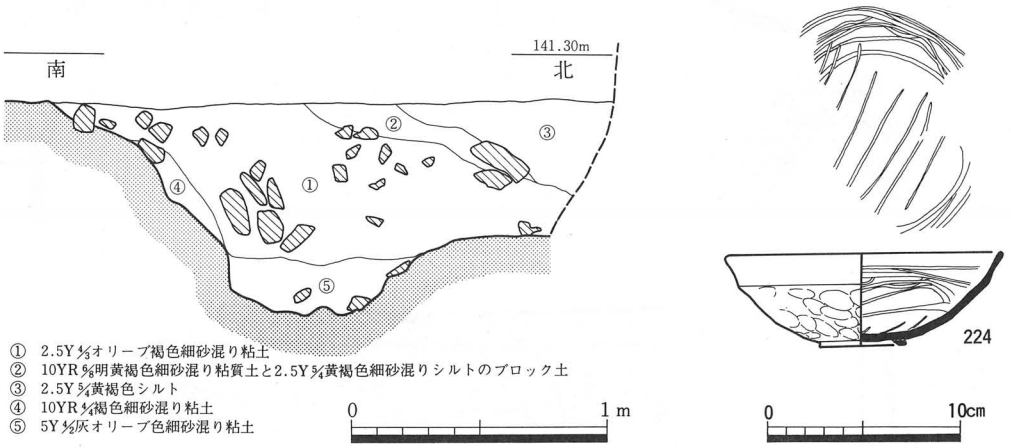
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｈ～ｊ－７付近に位置し、調査区の北端中央を走り、両端は削平され検出長11m。断面形はＵ字形を成すが、北側肩は南側肩より0.5mさがる。最大上端幅1.5m、

深さは南肩より0.85m、下端幅0.5m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ57（第91図、図版14・95）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－１～ｏ－10付近に位置し、やや北に降りながら東西に走る。東側は南側に土壙状に広がる。最大上端幅1.5m、深さは0.3m、下端幅1.1m。

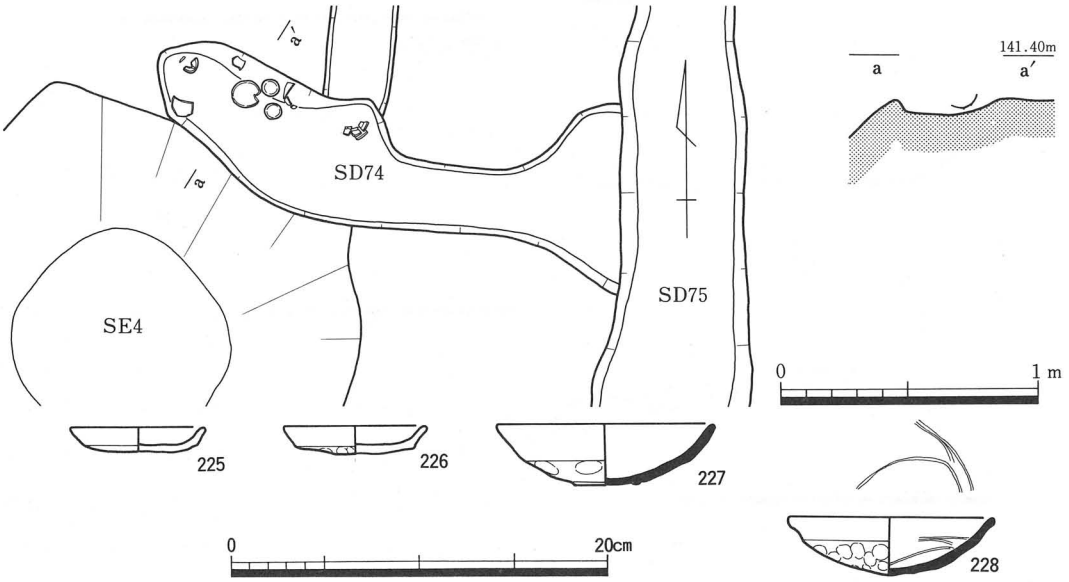


第91図　ＳＤ57遺構（1/30）及び遺物実測図

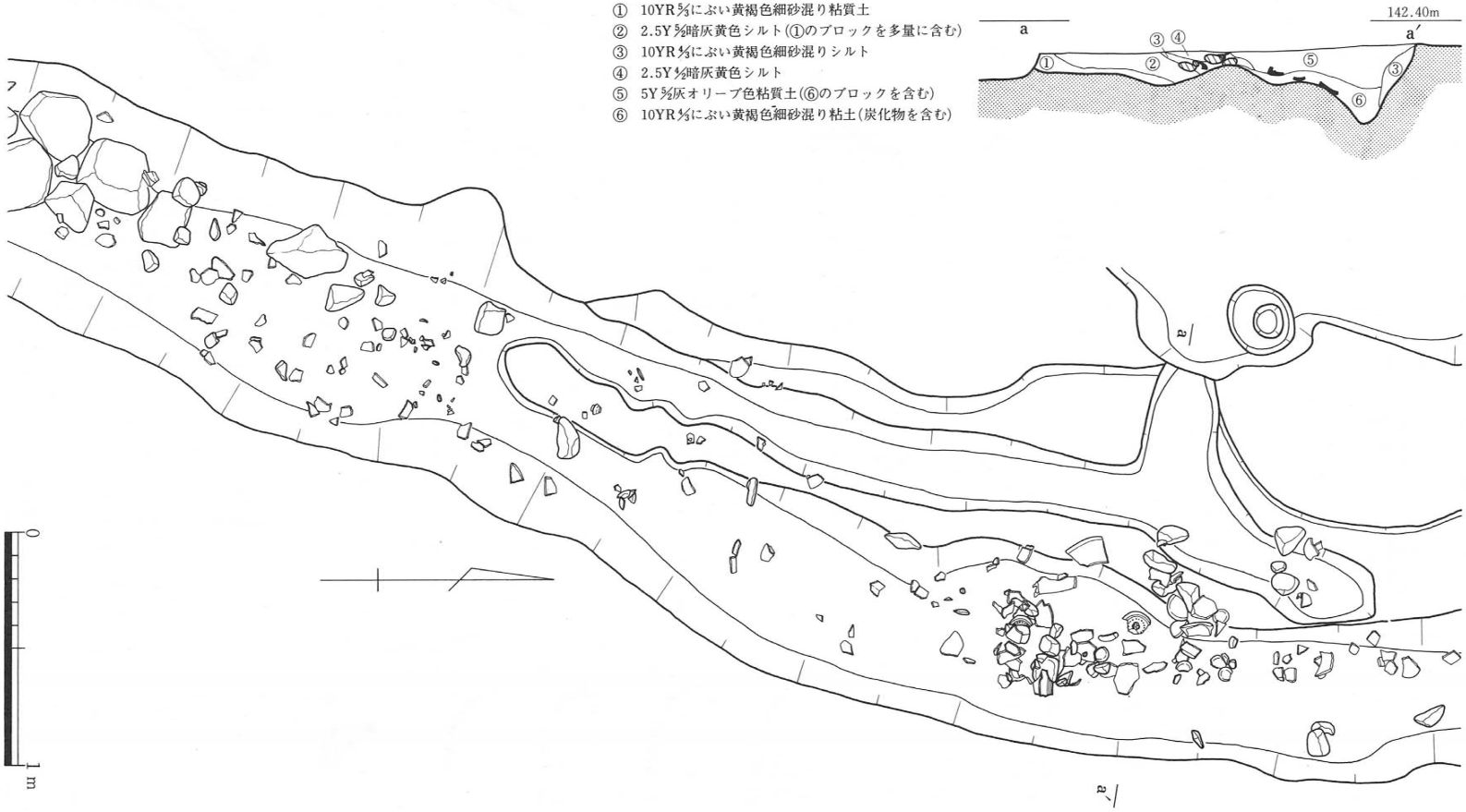
［遺物］　遺物は瓦器埦（224）が出土している。

ＳＤ74（第92図、図版17・23・95・96）

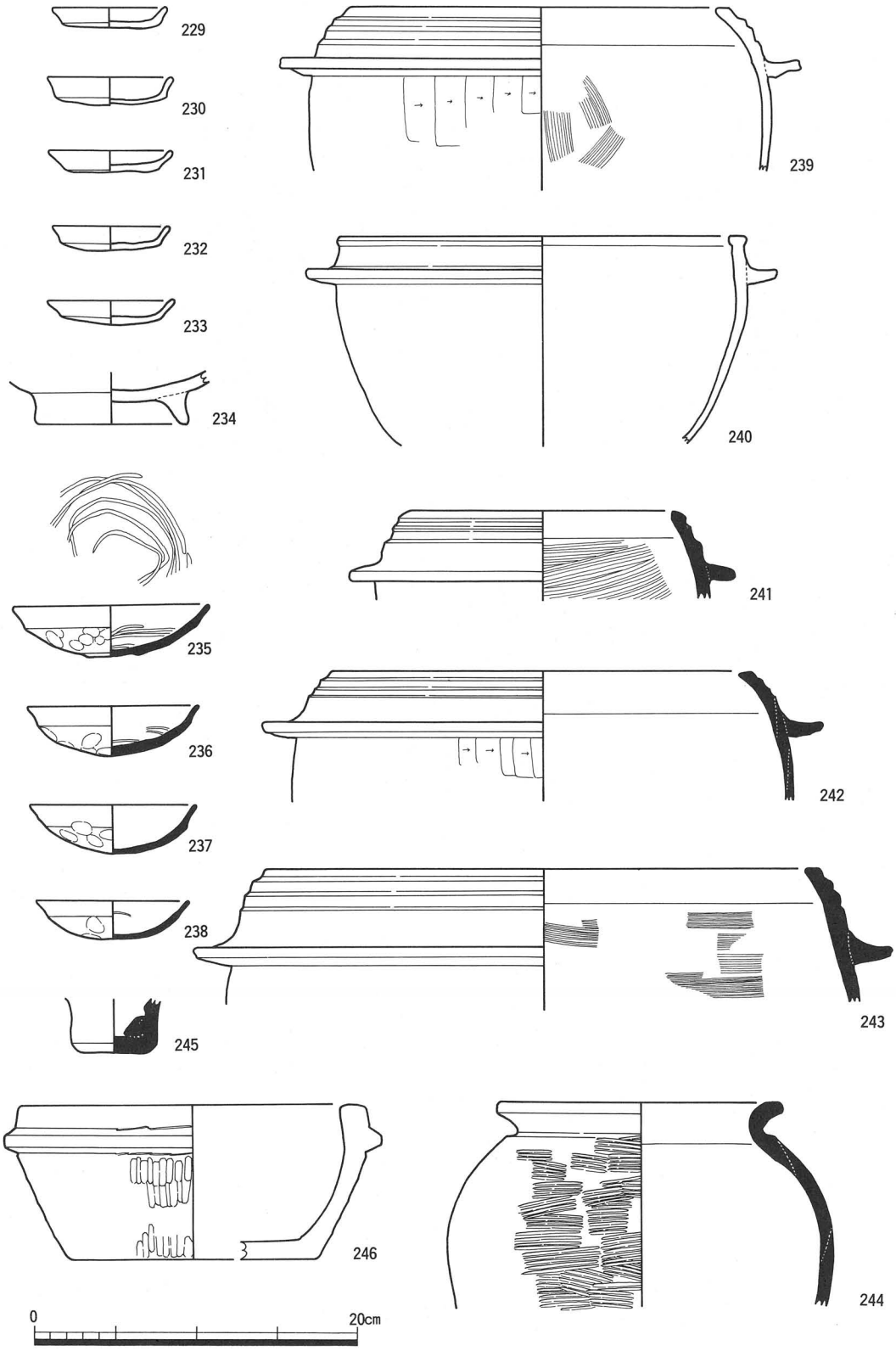
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｆ－13付近に位置し、ＳＤ75によって削平されて、ＳＥ４を切っている。検出長２ｍ。最大上端幅0.75m、深さは0.15m、下端幅0.6m。溝の西端より、遺物が出土している。



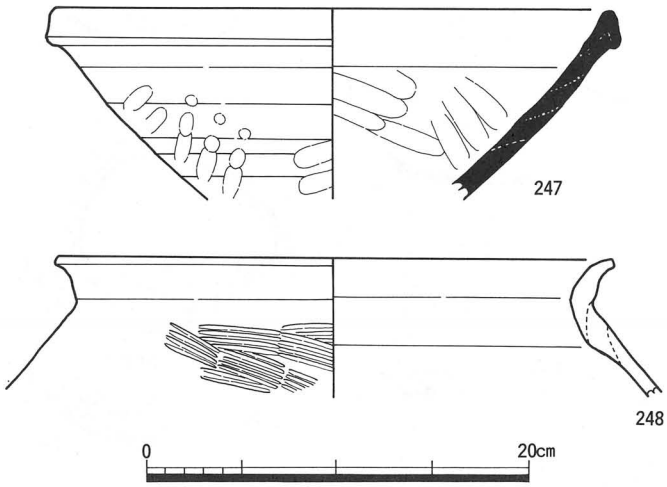
第92図　ＳＤ74遺構（1/30）及び遺物実測図



第93図　ＳＤ75遺構実測図（1/30）



第94図　ＳＤ75遺物実測図（１）



第95図　ＳＤ75遺物実測図（２）

［遺物］　遺物は土師質小皿（225・226）、瓦器椀（227・228）が出土している。

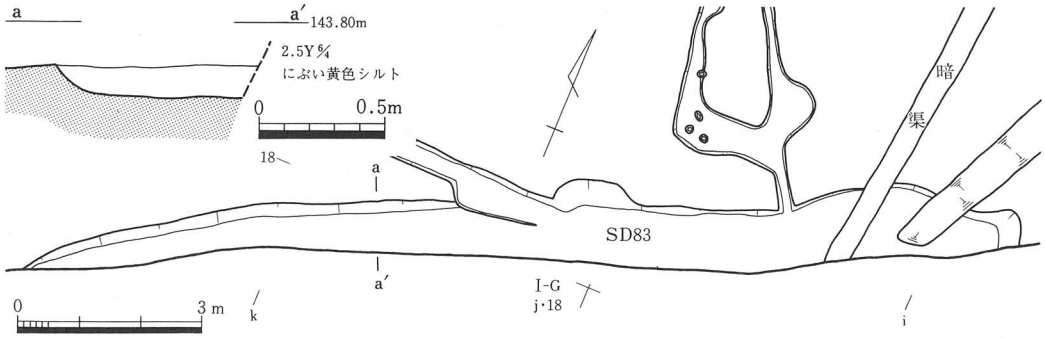
ＳＤ75（第93～95図、図版17・96）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｆ～ｇ－12～15付近に位置し、ＳＢ34・35の東側３ｍの桁行方向に平行に走る。検出長15.3ｍ。最大上端幅1.2ｍ、深さは0.32ｍ、下端幅0.7ｍ。溝の中央付近で河原石と共に遺物が出土している。

［遺物］　遺物は土師質小皿（229～233）、土師質椀底部（234）、瓦器椀（235～238）、瓦質小形鉢（245）、土師質羽釜（239・240）、瓦質羽釜（241～243）、瓦質甕（244）、石鍋（246）、須恵質練鉢（247）、土師質甕（248）が出土している。

ＳＤ83（第96図）

［遺構］　Ｉ－Ｇ－ｉ～ｇ－12～15付近に位置し、南方が調査区外の為、全容は判明しない。検



第96図　ＳＤ83遺構実測図（1/30）

出長16.5ｍ。最大上端幅1.37ｍ、深さは0.33ｍ、下端幅0.9ｍ以上。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

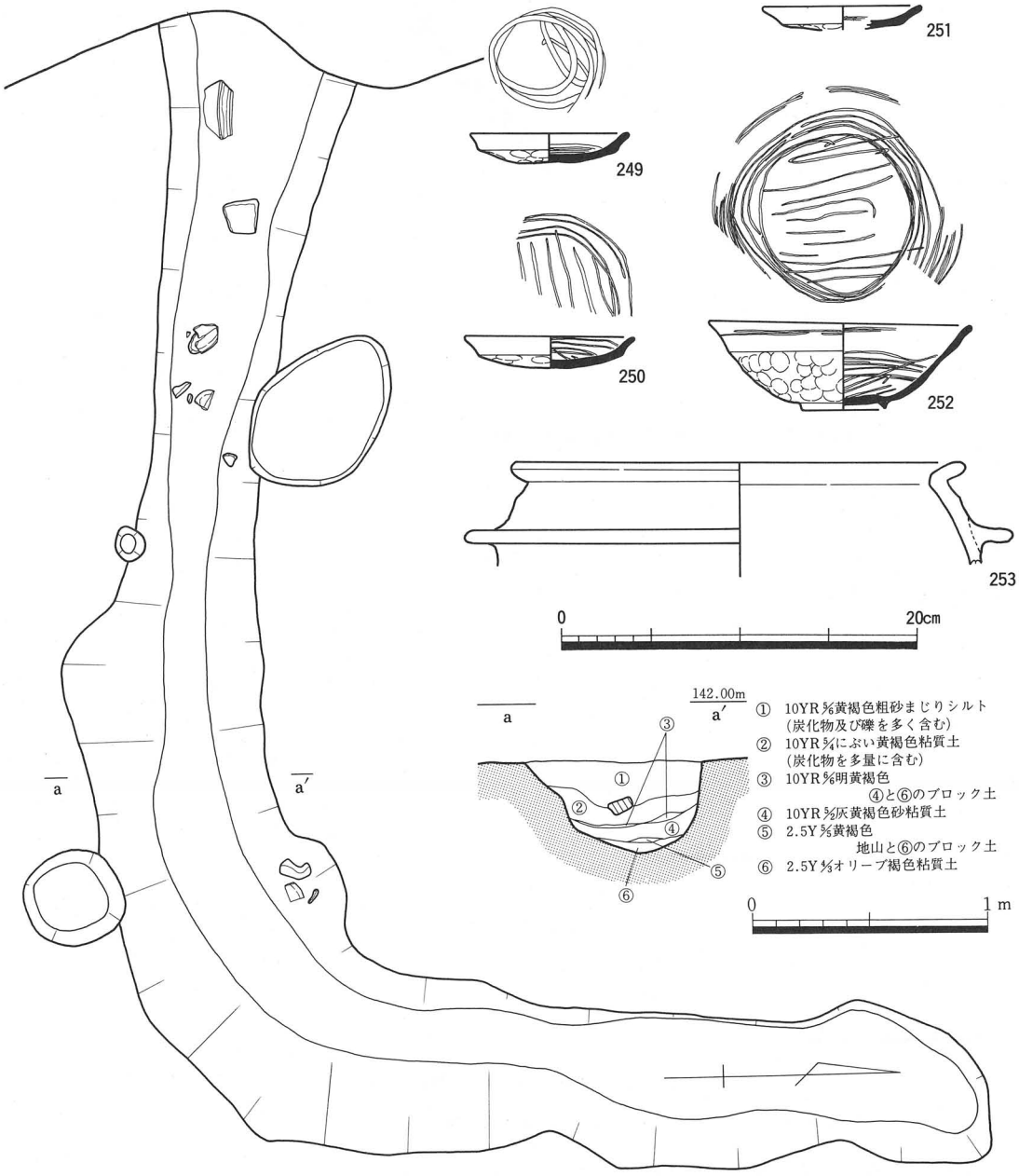
ＳＤ87（第97図、図版24、97）

［遺構］　Ｉ－Ｋ－ｂ－２付近に位置し、平面形は逆Ｌ字形を呈する。断面形はＵ字形を成す。検出長８ｍ。最大上端幅１ｍ、深さは0.39ｍ、下端幅0.55ｍ。溝西側部分から遺物が出土している。

［遺物］　遺物は瓦器皿（249～251）、瓦器椀（252）、土師質羽釜（253）が出土している。

ＳＤ100（図版24）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｎ～ｐ－11～13付近に位置し、直線的に伸びる溝である。北側部分では幅を



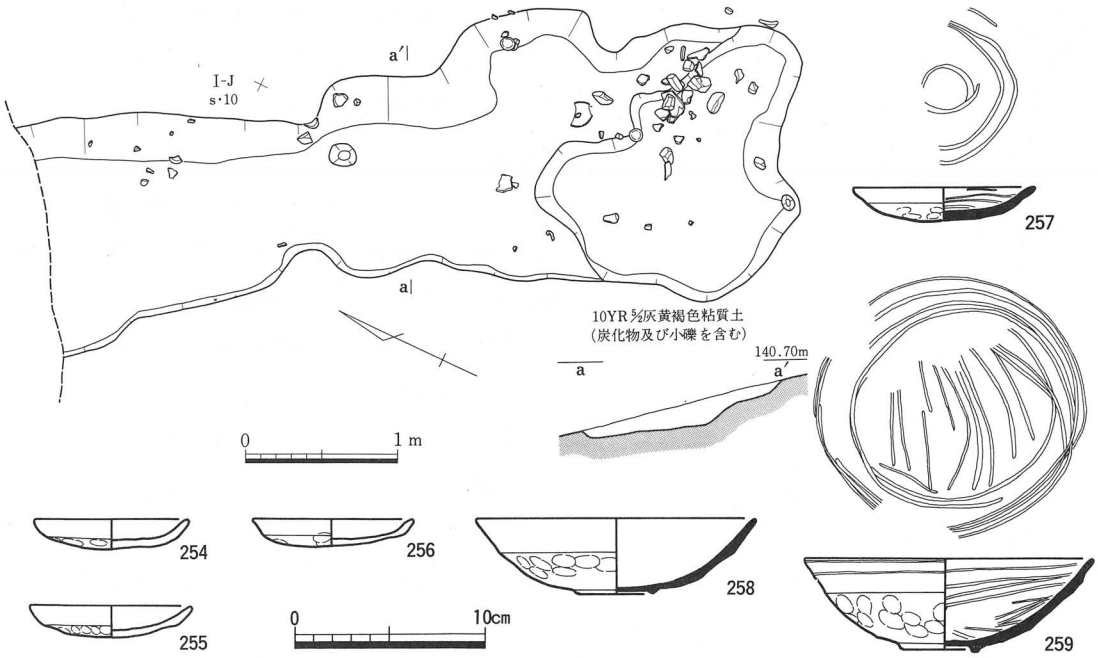
第97図　ＳＤ87遺構（1/30）及び遺物実測図

広げ、西側肩は調査区外に位置する。検出長20.7m。最大上端幅1.6m以上、深さは0.35m、荷端幅1.55m以上であるこの溝はＳＤ101と切り会い、ＳＤ101よりは新しい。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ101（図版24）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｍ～ｏ－12～15付近に位置し、北西側部分をＳＤ100と切り会いながら直線



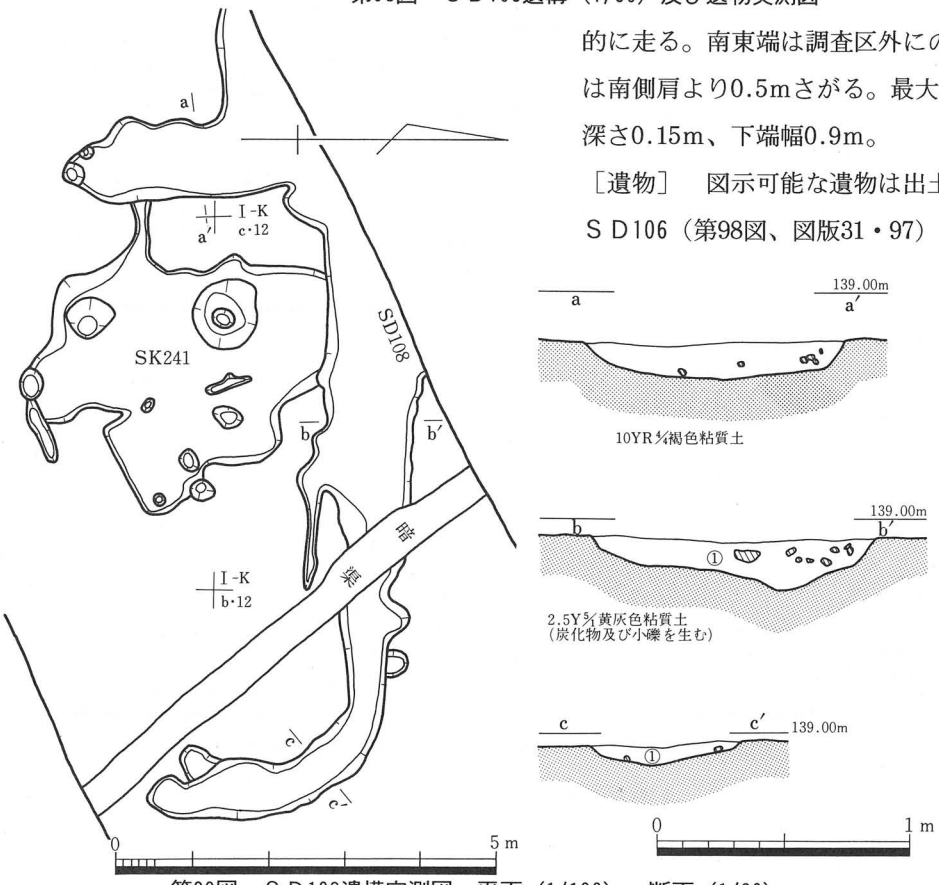
第98図　ＳＤ106遺構（1/50）及び遺物実測図

的に走る。南東端は調査区外にのびる。北側肩は南側肩より0.5mさがる。最大上端幅1.2m、深さ0.15m、下端幅0.9m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ106（第98図、図版31・97）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｒ～ｓ－９～10付近に位置し、検出長５ｍで北西部分は調査区外にのびる。南東端が径1.5ｍで落ち込み、遺物が出土している。最大上端幅1.9m、深さ0.22m、下端幅1.8m。



第99図　ＳＤ108遺構実測図　平面（1/100）・断面（1/30）

［遺物］　遺物は土師質小皿（254～256）、瓦器椀（258・259）、瓦器小皿（257）が出土している。

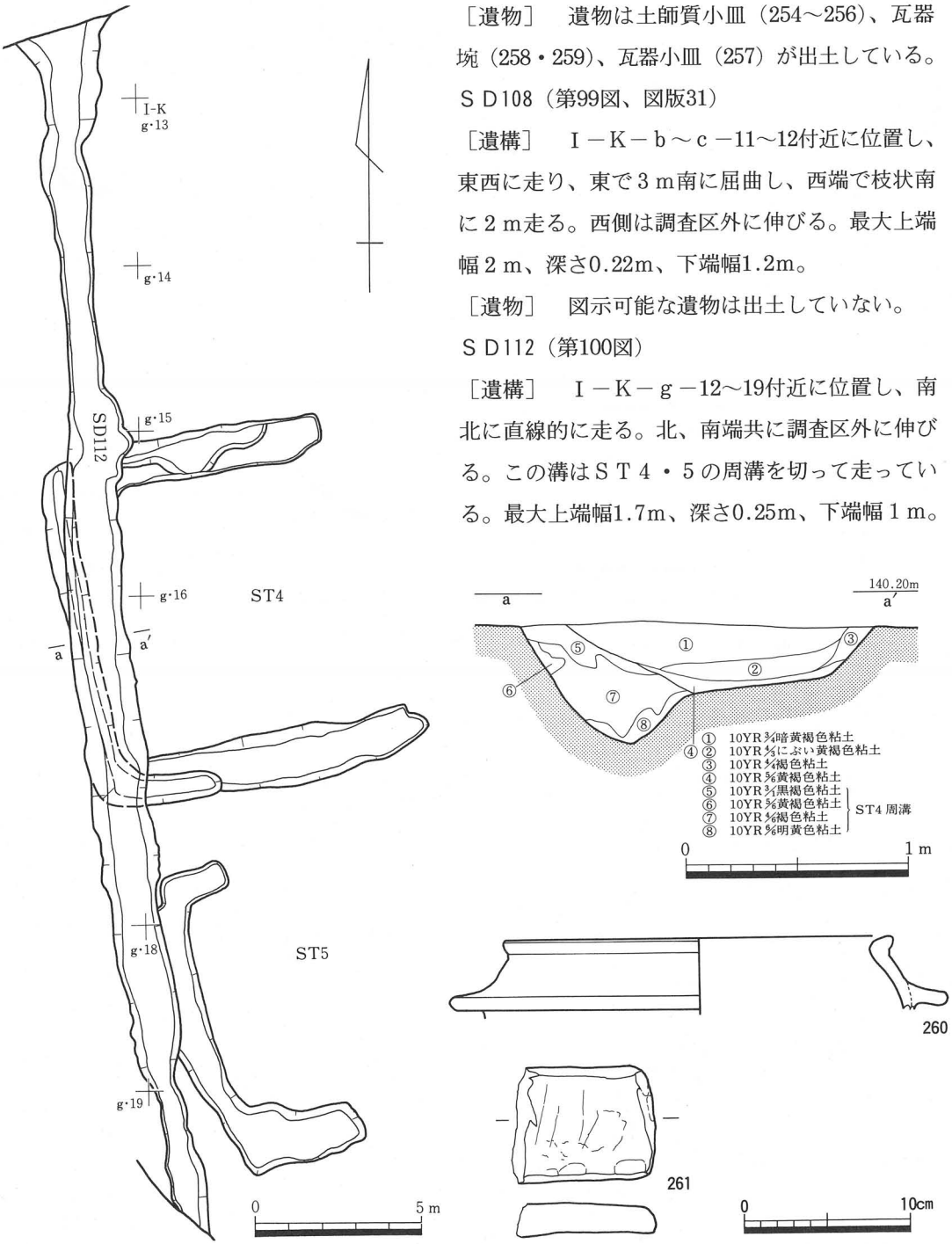
ＳＤ108（第99図、図版31）

［遺構］　Ｉ－Ｋ－ｂ～ｃ－11～12付近に位置し、東西に走り、東で３ｍ南に屈曲し、西端で枝状南に２ｍ走る。西側は調査区外に伸びる。最大上端幅２ｍ、深さ0.22m、下端幅1.2m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ112（第100図）

［遺構］　Ｉ－Ｋ－ｇ－12～19付近に位置し、南北に直線的に走る。北、南端共に調査区外に伸びる。この溝はＳＴ４・５の周溝を切って走っている。最大上端幅1.7m、深さ0.25m、下端幅１ｍ。

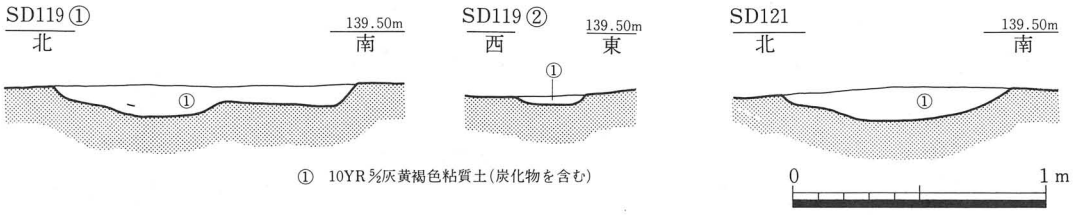


第100図　ＳＤ112遺構実測図　平面（1/200）・断面（1/30）及び遺物実測図

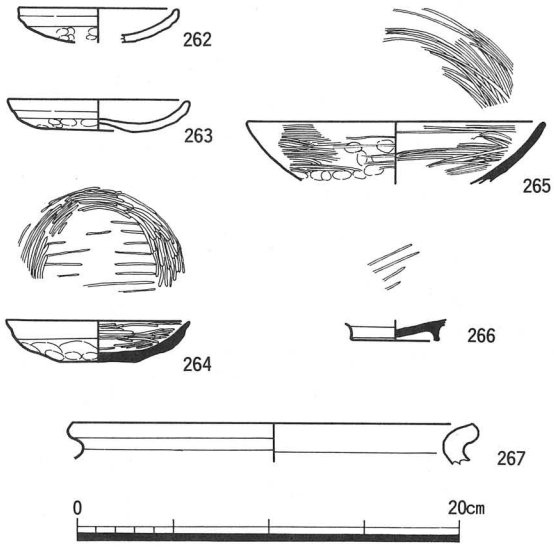
［遺物］　遺物は土師質羽釜（260）、不明瓦質製品（261）が出土している。

ＳＤ119（第101・102図、図版19・97）

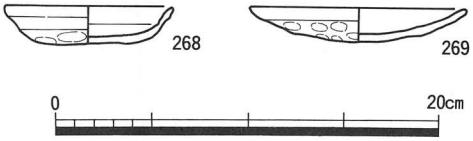
［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｑ～ｓ－18～20付近に位置し、長方形周溝状に巡るものと思われる。南東部



第101図　ＳＤ119・ＳＤ121断面実測図（1/30）



第102図　ＳＤ119遺物実測図



第103図　ＳＤ127遺物実測図

分は調査区外の為不明である。埋土中には炭化物を含んでいる。周溝の規模は東西北側７ｍ、南北西側6.5ｍ、最大上端幅1.7ｍ、深さ0.25ｍ、下端幅１ｍ。

［遺物］　遺物は土師質小皿（262・263）、瓦器椀（265・266）、瓦器小皿（264）、紀伊型の羽釜（267）が出土している。

ＳＤ121（第101図、図版19）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｒ～ｔ－19付近に位置し、東西に直線的に走り、ＳＤ119を切っている。埋土中に炭化物を含んでいる。検出長12ｍ、最大上端幅1.4ｍ、深さ0.13ｍ、下端幅１ｍ。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ127（第103・104図、図版34・97）

［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｂ－３～６付近に位置し、南北に直線的に走る。検出長17.7ｍ、最大上端幅0.6ｍ、深さ0.15ｍ、下端幅0.2ｍ。

［遺物］　遺物は瓦器小皿（268・269）が出土している。

ＳＤ128（第104図、図版34）

［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｒ－３～11付近に位置し、ｒラインに沿って南北に走り、ＳＢ50を切っている。両端は調査区外に伸びる。断面はＵ字形を成す。最大上端幅0.4ｍ、深さ0.13ｍ。

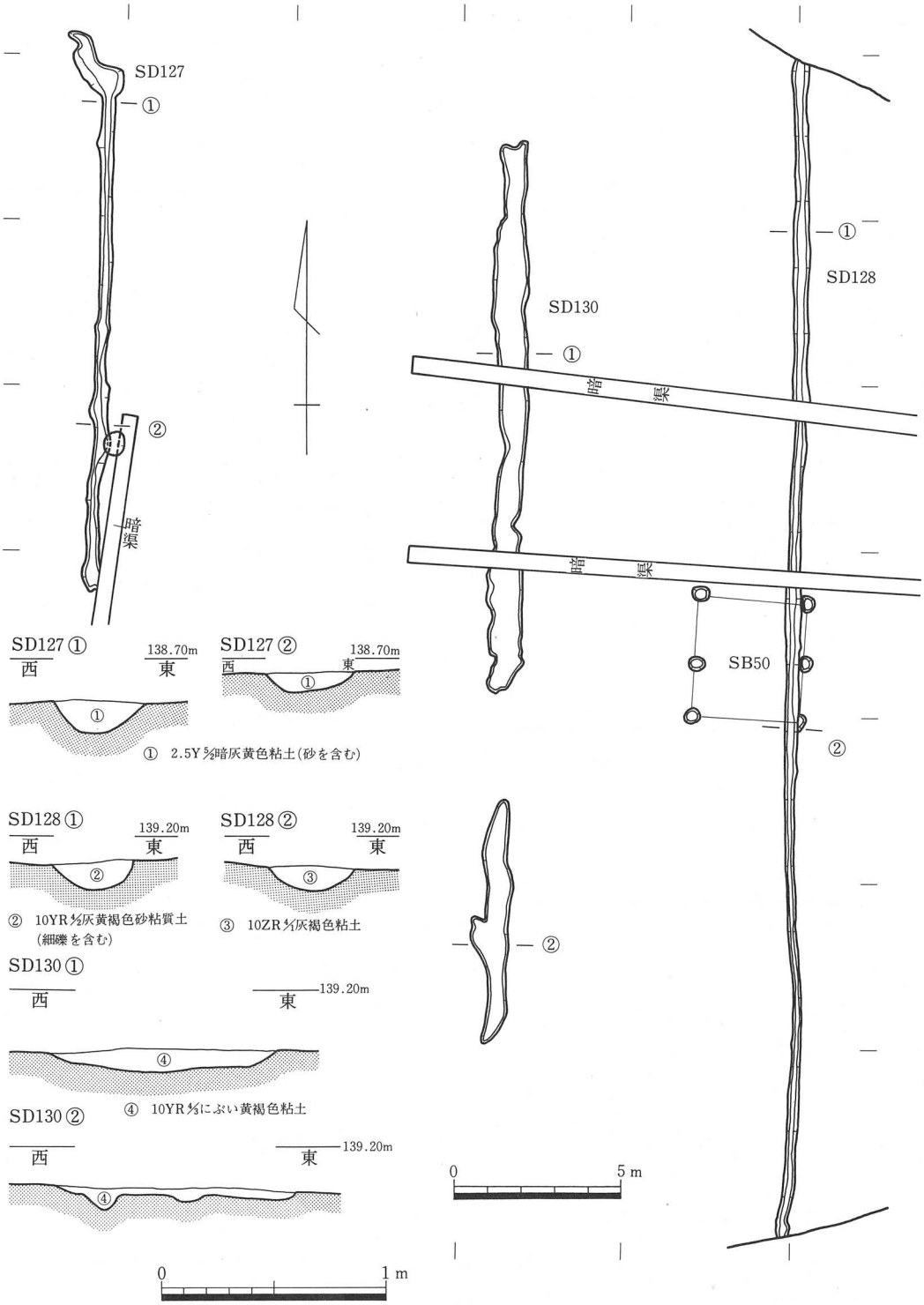
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ130（第104図、図版34）

［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｓ－４～９付近に位置し、南北に走り、ＳＤ128・127と並列する。検出長35.7ｍ、最大上端幅1.1ｍ、深さ0.1ｍ、下端幅0.95ｍ。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ160（図版35）



第104図　ＳＤ127・ＳＤ128・ＳＤ130遺構実測図　平面（1/200）・断面（1/30）

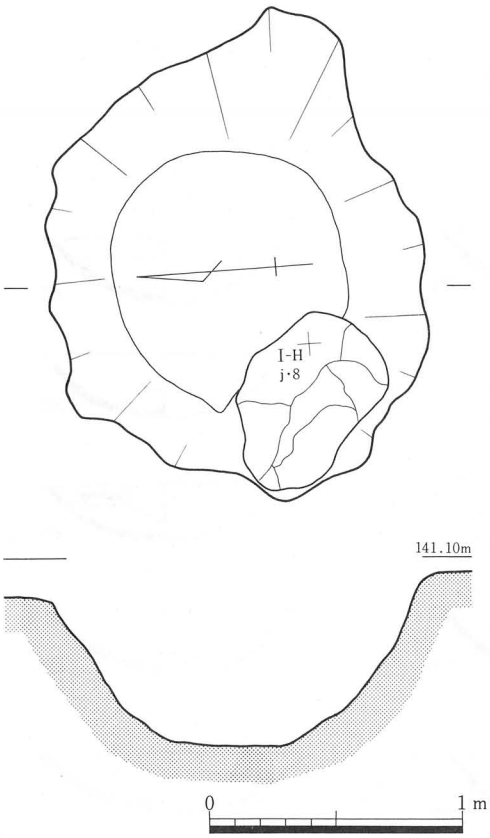
［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｍ～ｏ－４～６付近に位置し、ＳＫ523から流出し、ＳＤ161と合流する。検出長14ｍ、最大上端幅0.65ｍ、深さ0.2ｍ、下端幅0.4ｍ。

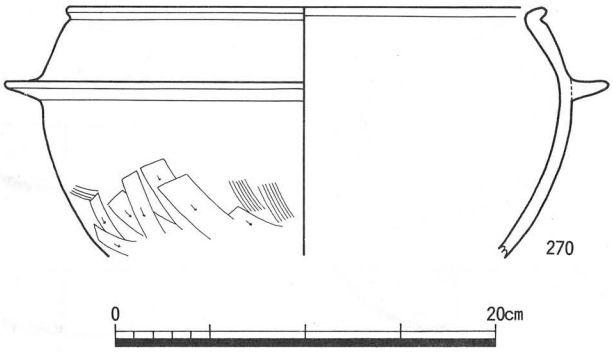
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ161（図版35）

［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｍ～ｏ－４～７付近に位置し、南北に走る。ＳＤ160と合流する。北端は調査区外に伸び、南端は削平を受けている。検出長11.7ｍ、最大上端幅0.55ｍ、深さ0.15ｍ、下端幅0.4ｍ。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。





第105図　ＳＥ２遺構（1/30）及び遺物実測図

井戸（ＳＥ）

ＳＥ２（第105図、図版14）

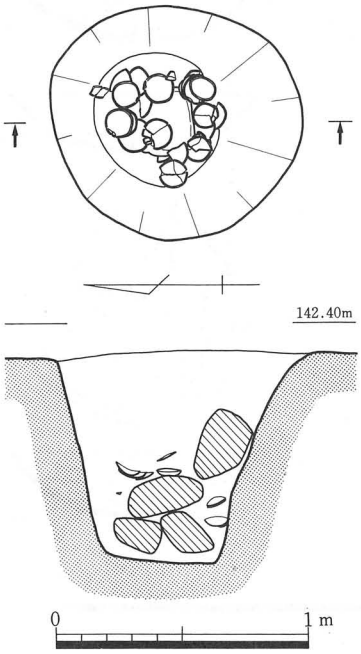
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｉ～ｊ－７～８付近で、ＳＢ33の東２ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。井戸の肩部、西側には50㎝×70㎝の石がある。埋土中より瓦器片、土師質土器片が出土している。長径1.9ｍ、短径1.5ｍ、深さ0.92ｍ。

［遺物］　図示できたのは土師質羽釜（270）だけである。

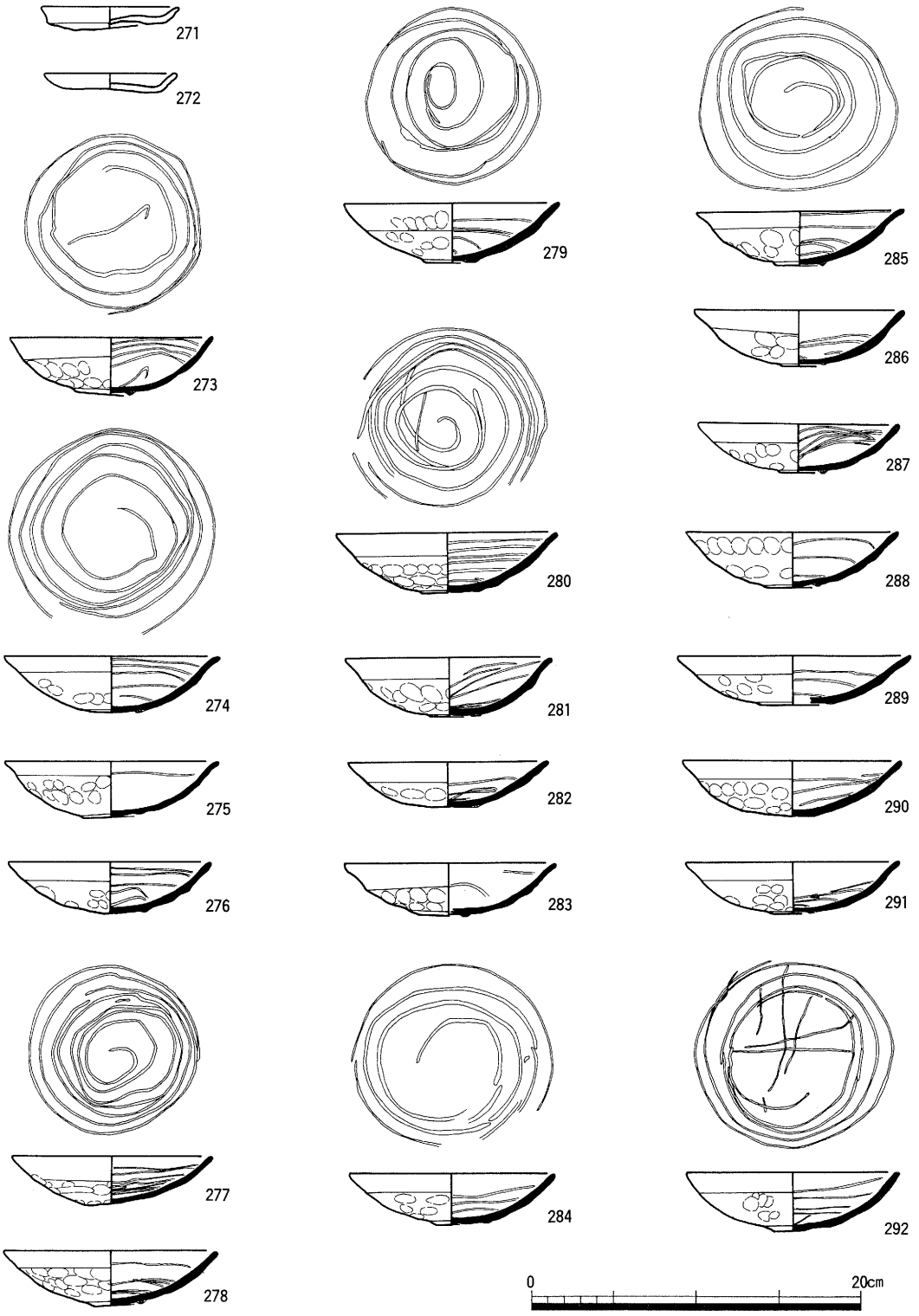
ＳＥ３（第106・107図、図版17・25・98・99）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｆ－11～12付近で、ＳＢ28の北５ｍに位置する。平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。井戸の底部には30㎝×15㎝の自然石４個が落ち込んでおり、石周囲から瓦器片、土師質土器片が一括で出土している。径0.9ｍ、底径0.45ｍ、深さ0.85ｍ。

［遺物］　遺物は土師質小皿（271・272）、瓦器埦（273～292）



第106図　ＳＥ３遺構実測図（1/30）



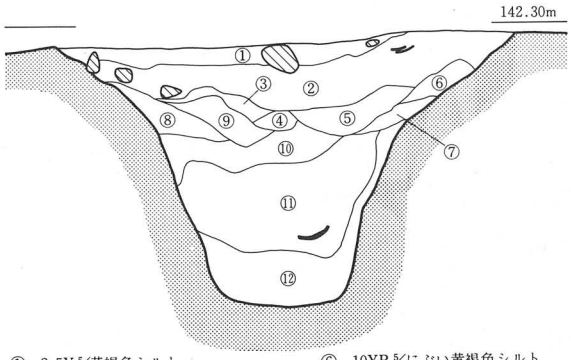
第107図　ＳＥ３遺物実測図

が出土している。

ＳＥ４（第108図、図版17・25・99・150）

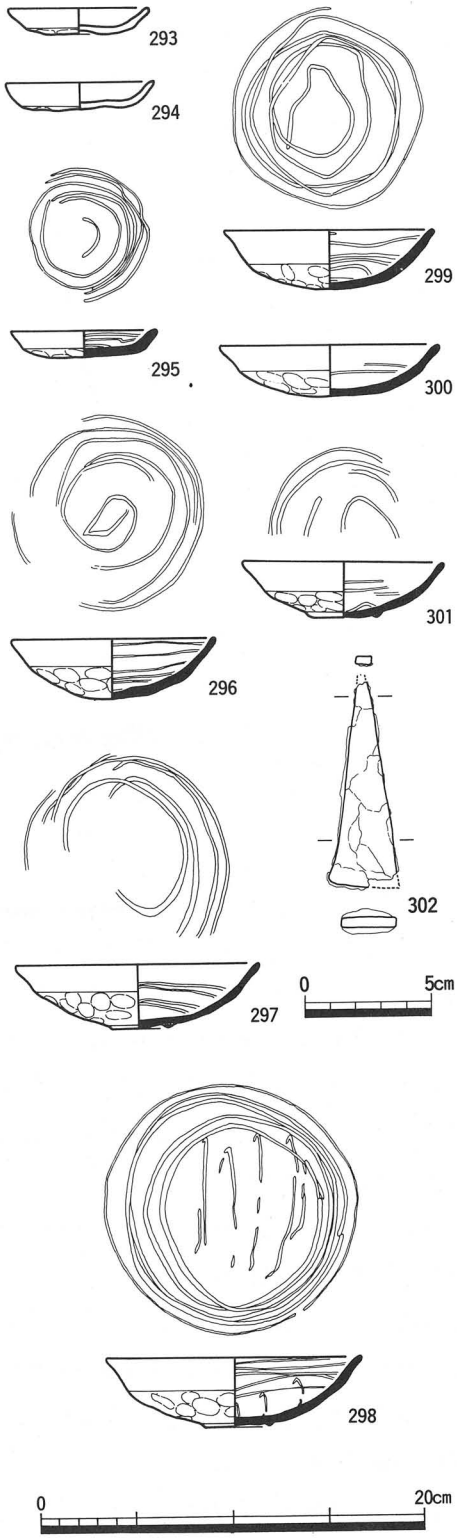
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｆ－13付近で、ＳＢ34に接し、ＳＥ３の南５ｍに位置する。平面形は不定円形を呈する。素掘りの井戸である。井戸は、一度埋まった後、土壙状に再掘削されており、瓦器類、土師質土器類、鉄器が出土し、埋土下層からも瓦器類が出土している。径1.82m、底径0.8m、深さ1.05m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（293・294）、瓦器埦（296～301）、瓦器皿（295）、楔状鉄製品（302）が

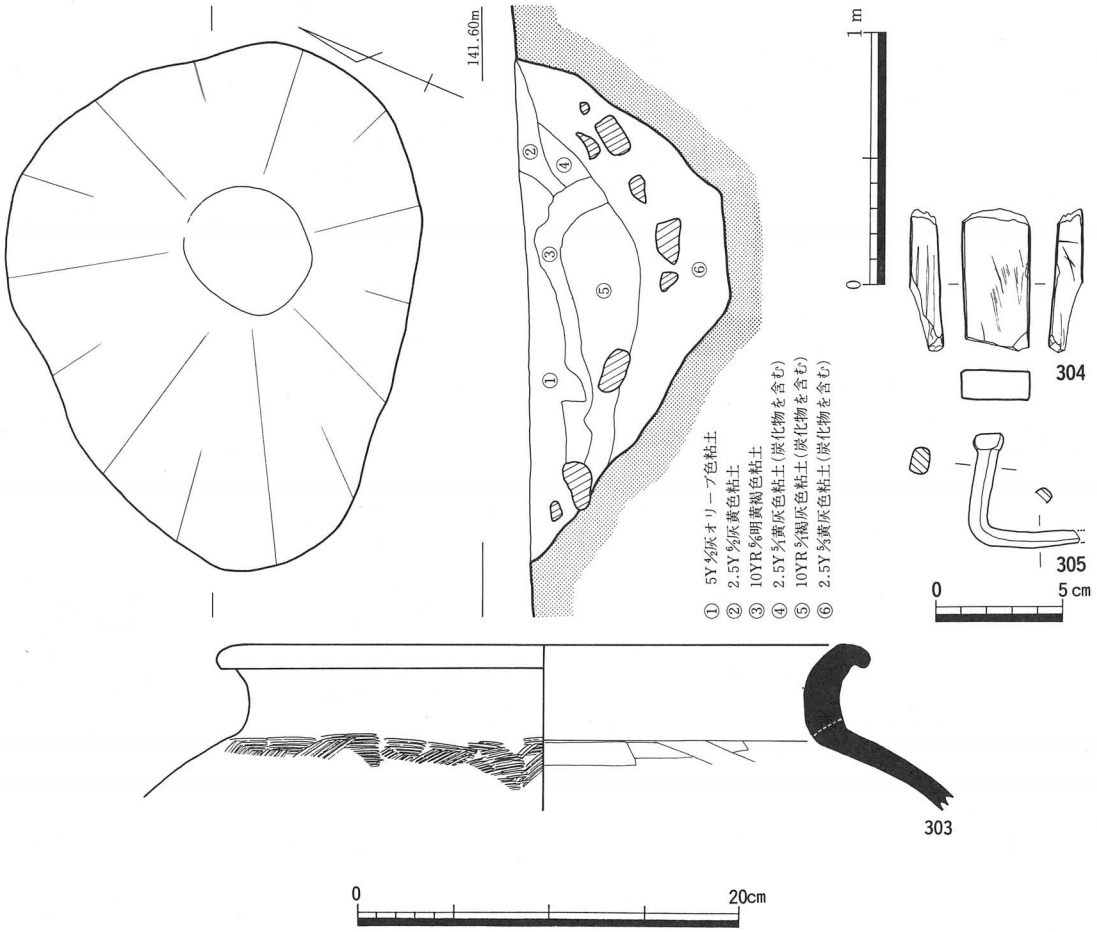


① 2.5Y 5/4黄褐色シルト
（砂粒を含む）
② ①に同じ
（砂粒および地山ブロック土を含む）
③ 2.5Y 5/4黄褐色粘質土
（オリーブ褐色ブロック土を含む）
④ 10YR 5/4にぶい黄褐色シルト混り粘質土
⑤ 10YR 5/4にぶい黄褐色シルト混り粘質土
⑥ 10YR 5/3にぶい黄褐色シルト
⑦ 10YR 4/4褐色シルト混り粘質土
⑧ 2.5Y 5/3灰黄色シルト混り粘質土
⑨ 10YR 5/3灰黄褐色粘質土
⑩ 10YR 4/3にぶい黄褐色粘質土
⑪ 2.5Y 5/3暗灰黄色細砂混り粘土
⑫ 10YR 5/6黄褐色粘土
（灰色粘土が混る）

0　1 m



第108図　ＳＥ４遺構（1/30）及び遺物実測図



第109図　ＳＥ５遺構（1/30）及び遺物実測図

出土している。瓦器埦（298）のみが埋土下位からの出土である。

ＳＥ５（第109図、図版17・26・150）

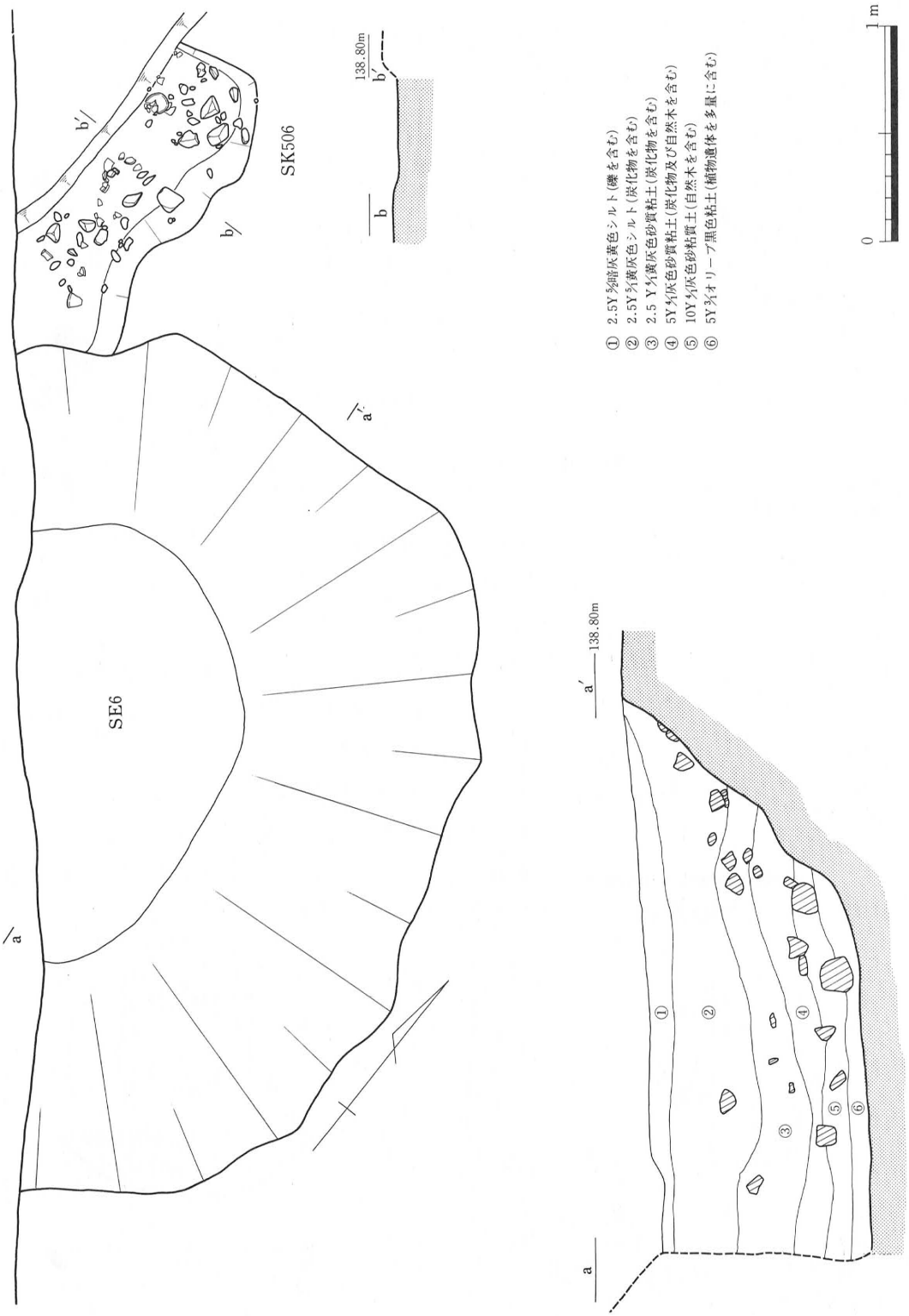
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｇ～ｈ－16付近に位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。井戸の内部には30㎝×15㎝の河原石が落ち込んでいる。埋土中位から下位の黄灰色から褐灰色の粘土には炭化物が含まれている。長径２ｍ、短径1.66ｍ、深さ0.89ｍ。

［遺物］　遺物は瓦質甕（303）、砥石（304）、鉄釘（305）が出土している。

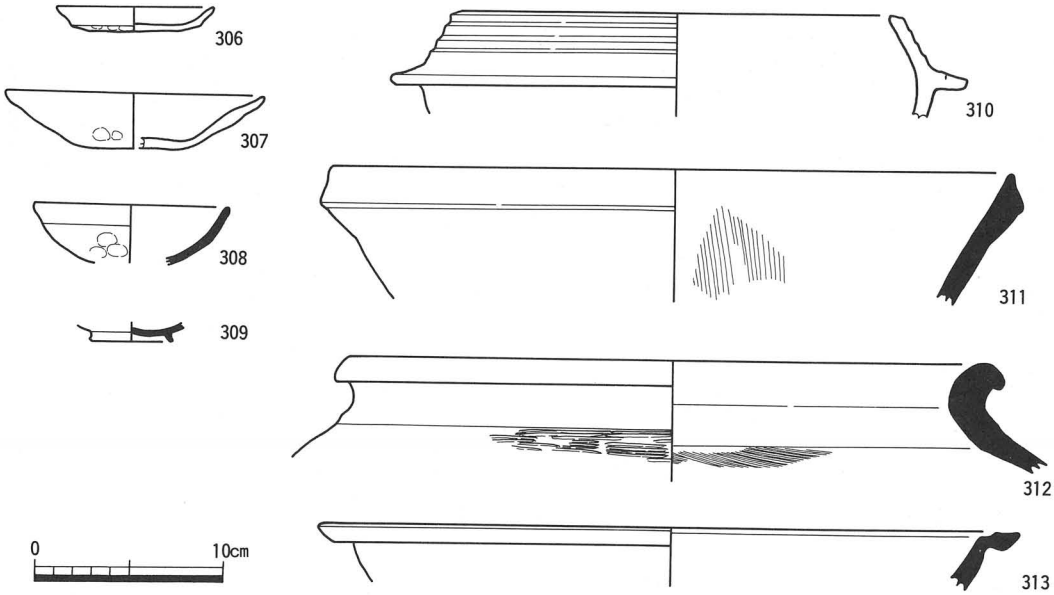
ＳＥ６（第110・111図、図版26）

［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｂ－８に位置し、ＳＫ506を切っている。西側は調査区外に広がる。平面形は楕円形を呈すると思われる素掘りの井戸である。井戸の内部には30㎝×15㎝の河原石が落ち込んでいる。埋土中位から下位の黄灰色から褐灰色の粘土には炭化物が含まれている。長径２ｍ、短径1.66ｍ、深さ0.89ｍ。

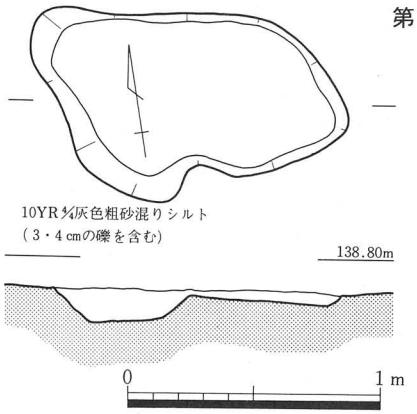
［遺物］　遺物は土師質小皿（306）、土師質鉢（307）土師質羽釜（310）、瓦器埦（308・309）、瓦質練鉢（311）、瓦質甕（312）、灰釉大皿（313）が出土している。



第110図　ＳＥ６・ＳＫ506遺構実測図（1/30）



第111図　ＳＥ６遺物実測図



第112図　ＳＫ173遺構実測図（1/30）

土壙（ＳＫ）

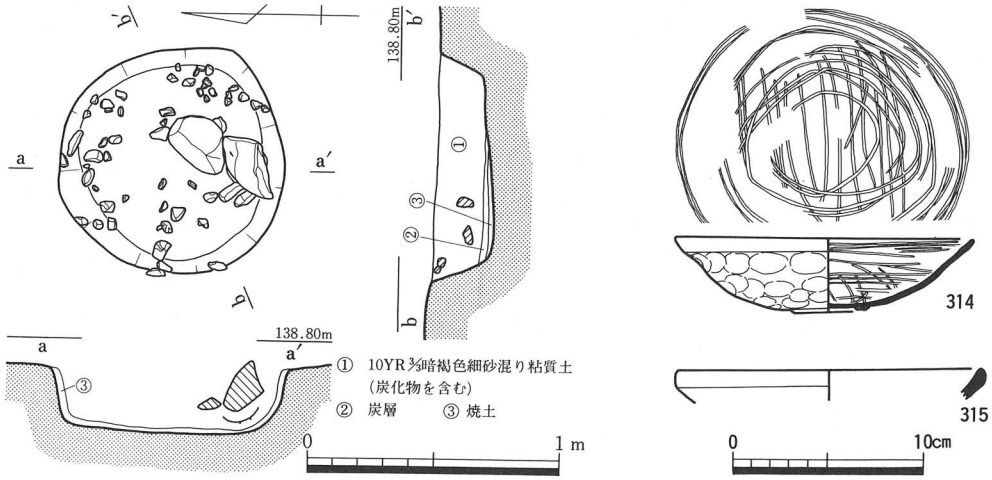
ＳＫ173（第112図）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｔ－12付近に位置し、平面形は不定円形を呈する。底面は西側半分がやや深い。長軸1.13m、短軸0.63m、深さ0.5m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＫ175（第113図、図版27・100）

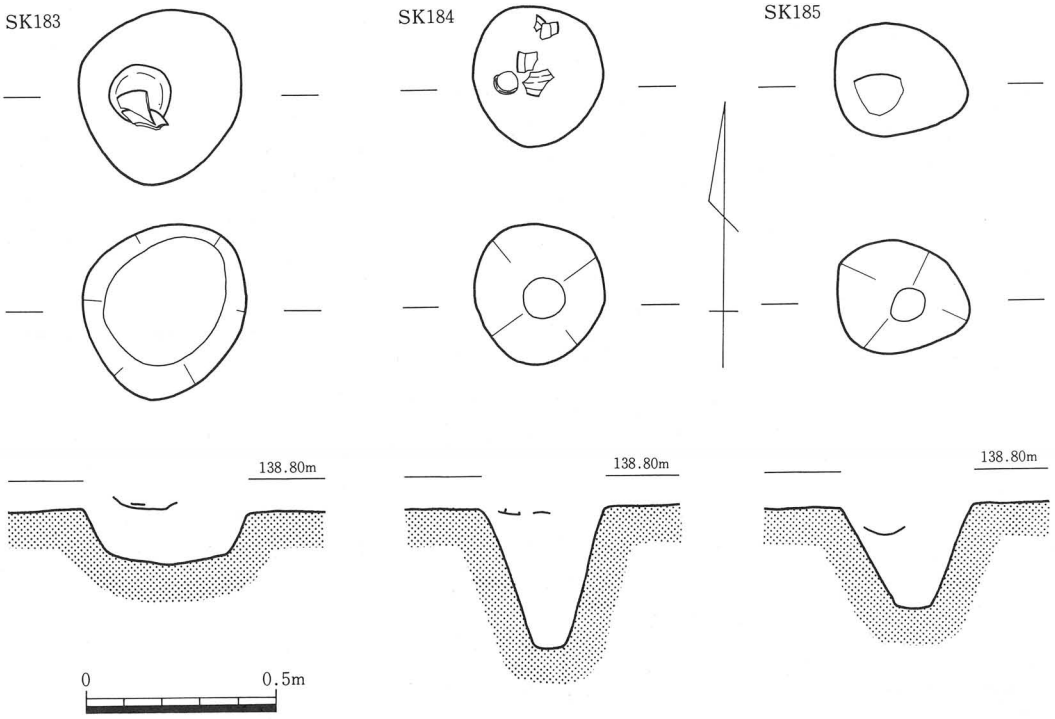
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｔ－12～13付近で、ＳＫ173の南側1.5mに位置する。平面形は円形を呈する。全体に火を受け断



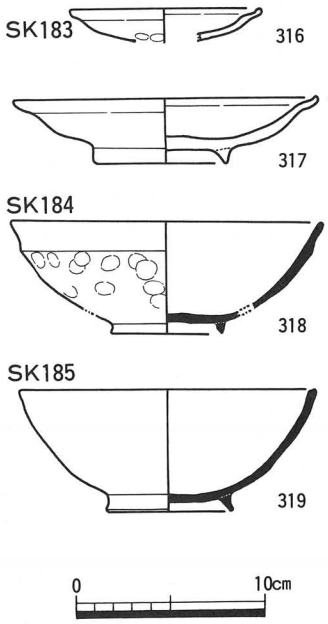
第113図　ＳＫ175遺構（1/30）及び遺物実測図

面では一部厚さ２㎝の焼土が見られ、更に炭化物が堆積し、埋土中にも炭化物が含まれている。埋土中には河原石と底面から瓦器埦が出土している。径0.9m、深さ0.26m。

［遺物］　出土遺物は瓦器埦（314）、白磁碗（315）が見られる。



第114図　ＳＫ183・ＳＫ184・ＳＫ185遺構実測図（1/20）



第115図　ＳＫ183・ＳＫ184・ＳＫ185遺物実測図

ＳＫ183（第114・115図、図版27・100）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｔ－13付近で、ＳＫ175の南東側３ｍに位置する。平面形は円形を呈する。埋土上位から土師質皿と台付皿が重複して出土している。径0.48m、深さ0.2m。

［遺物］　遺物は土師質皿（316）と土師質台付皿（317）が出土している。

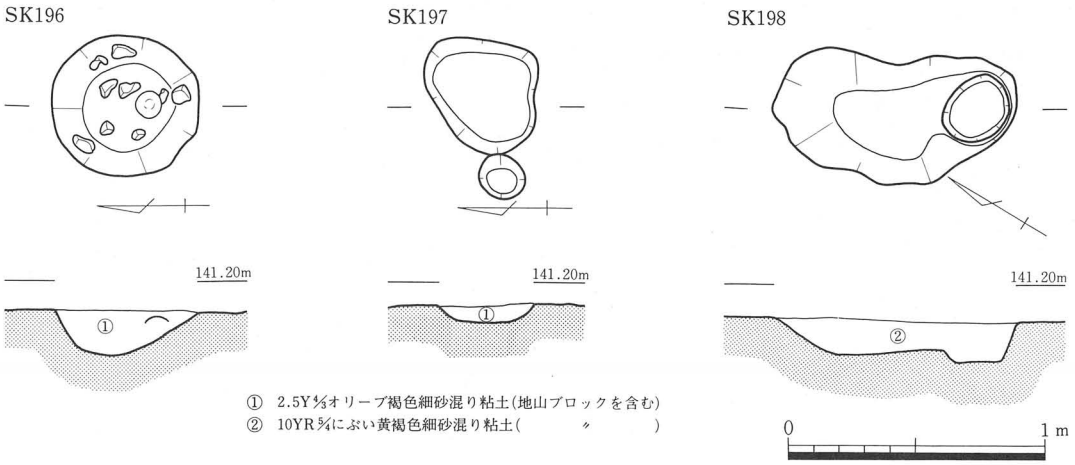
ＳＫ184（第114・115図、図版28・100）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｔ－13付近で、ＳＫ183の南側0.7mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土上位から瓦器埦が出土している。径0.38m、深さ0.38m。

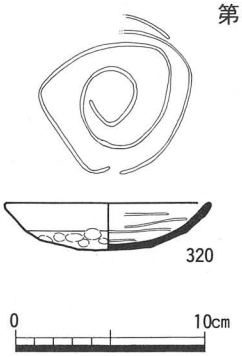
［遺物］　遺物は瓦器埦（318）が出土している。

ＳＫ185（第114・115図、図版28、100）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｔ－13付近で、ＳＫ184の南側1.5mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土上位から瓦器埦が出土している。径0.31m、深さ0.28m。



第116図　ＳＫ196・ＳＫ197・ＳＫ198遺構実測図（1/30）



第117図　ＳＫ196
遺物実測図

［遺物］　遺物は瓦器椀（319）が出土している。

ＳＫ196（第116・117図、図版14・29・100）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｌ－８付近で、ＳＢ28の西側６ｍに位置する。平面形は円形を呈する。埋土底面から河原石の小石と埋土上位から瓦器椀が出土している。径0.59m、深さ0.18m。

［遺物］　遺物は瓦器椀（320）が出土している。

ＳＫ197（第116図、図版14）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｋ－８付近で、ＳＢ28の西側３ｍに位置する。平面形は不定円形を呈する。長径0.45m、短径0.41m、深さ0.07m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

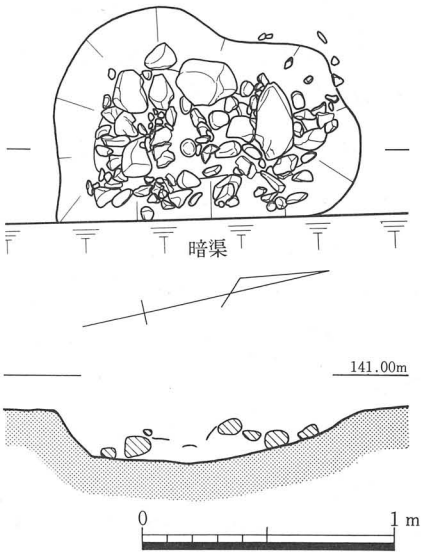
ＳＫ198（第116図、図版14）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｋ－９付近で、ＳＫ197の南側５ｍに位置する。平面形は不定長楕円形を呈する。南端は径0.5m、深さ0.04mに落ち込んでいる。長径0.96m、短径0.45m、深さ0.17m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

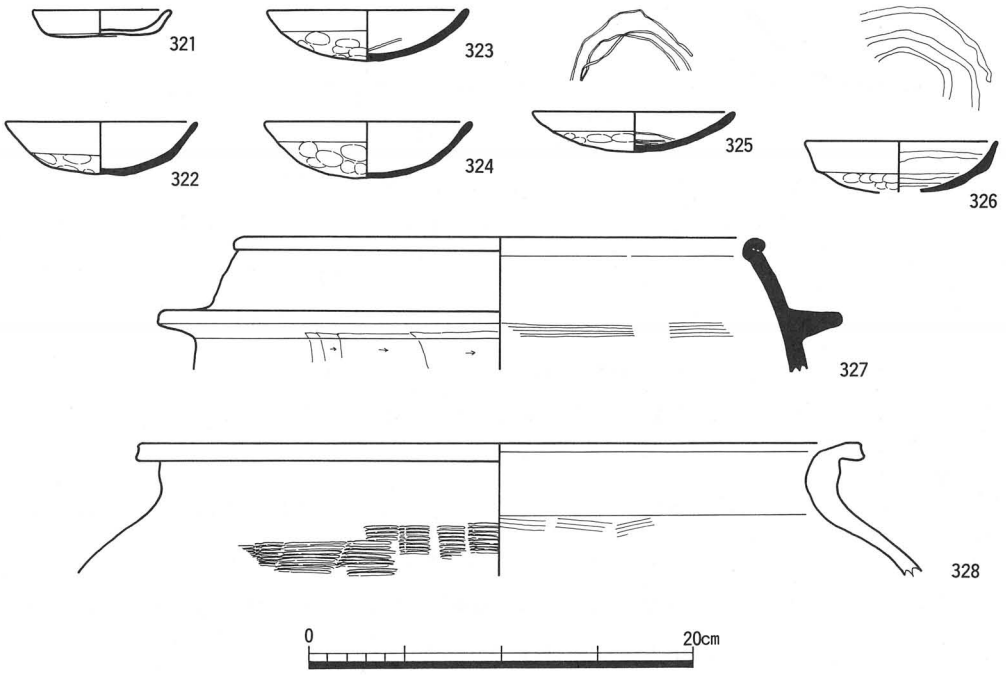
ＳＫ201（第118・119図、図版29・100）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｉ－14付近で、東側は暗渠によって削平されている。平面形は不定楕円形を呈する。土壙内には30㎝以上の河原石と小石がつまり、瓦器椀が出土している。長径1.2m、検出部分短径0.85m、深さ0.2m。

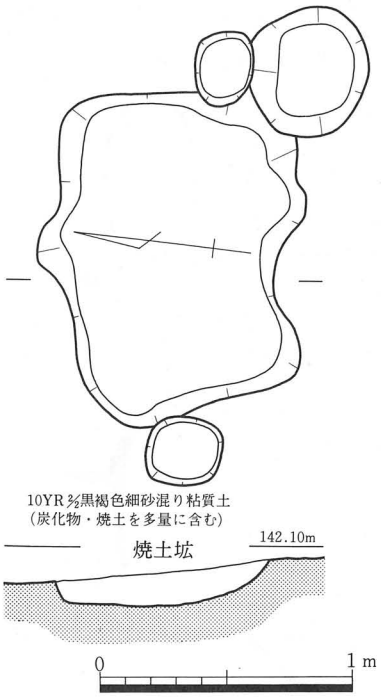


第118図　ＳＫ201遺構実測図（1/30）

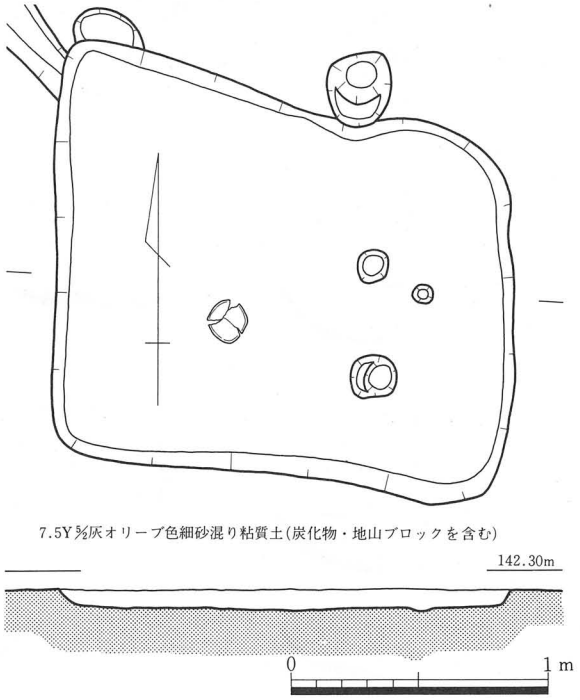
［遺物］　遺物は土師質小皿（321）、瓦器椀（322～326）、瓦質羽釜（327）、土師質甕（328）が



第119図　ＳＫ201遺物実測図



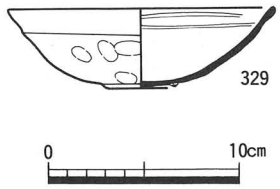
第120図　ＳＫ206遺構実測図（1/30）



第121図　ＳＫ208遺構実測図（1/30）

出土している。

ＳＫ206（第120図、図版16）



第122図　ＳＫ208遺物実測図

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｑ－９付近で、東側は暗渠によって削平されている。平面形は不定長方形を呈する。埋土中には炭化物と焼土が含まれている。長軸1.25m、短軸0.96m、深さ0.12m。

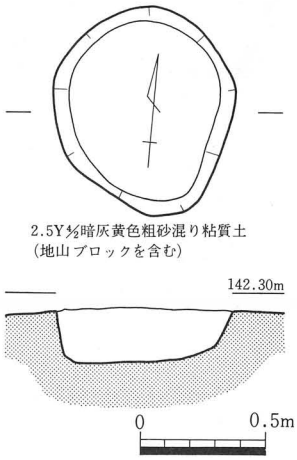
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＫ208（第121・122図、図版17・100）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｑ－11付近で、ＳＢ33と重複し、ＳＢ33に切られている。平面形はやや不定形な台形を呈する。埋土中には炭化物が含まれており、底面から瓦器椀が口縁部を上にして出土している。長軸1.8m、短軸1.4m、深さ0.13m。

［遺物］　遺物は瓦器椀（329）が出土している。

ＳＫ210（第123図、図版17）



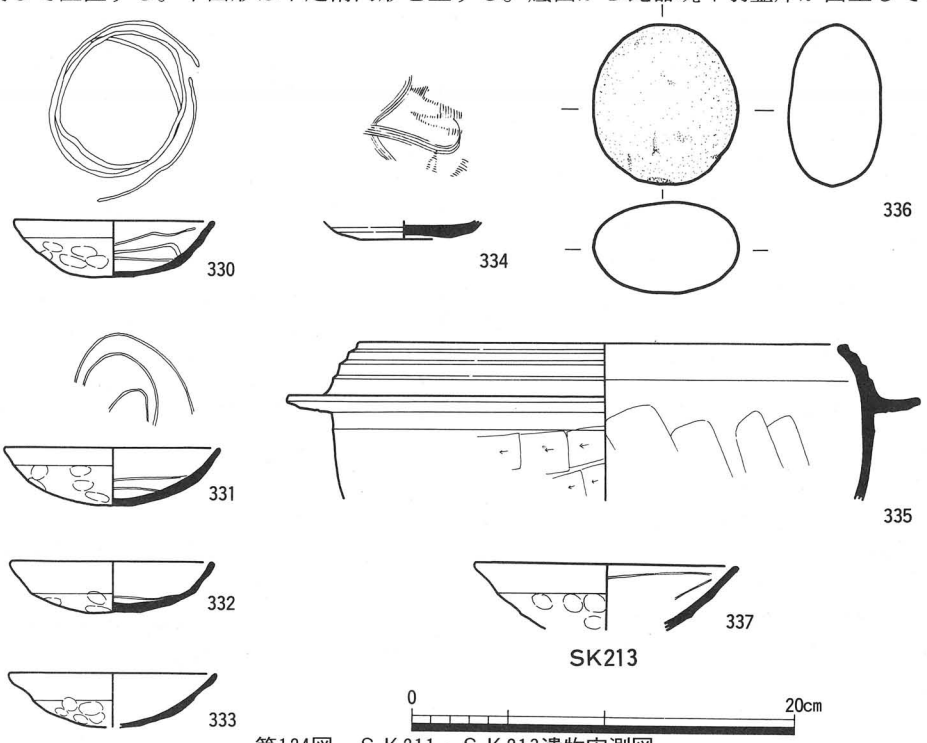
第123図　ＳＫ210遺構実測図（1/30）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｈ－12付近で、ＳＢ34の西２ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径0.82m、短径0.7m、深さ0.22m。

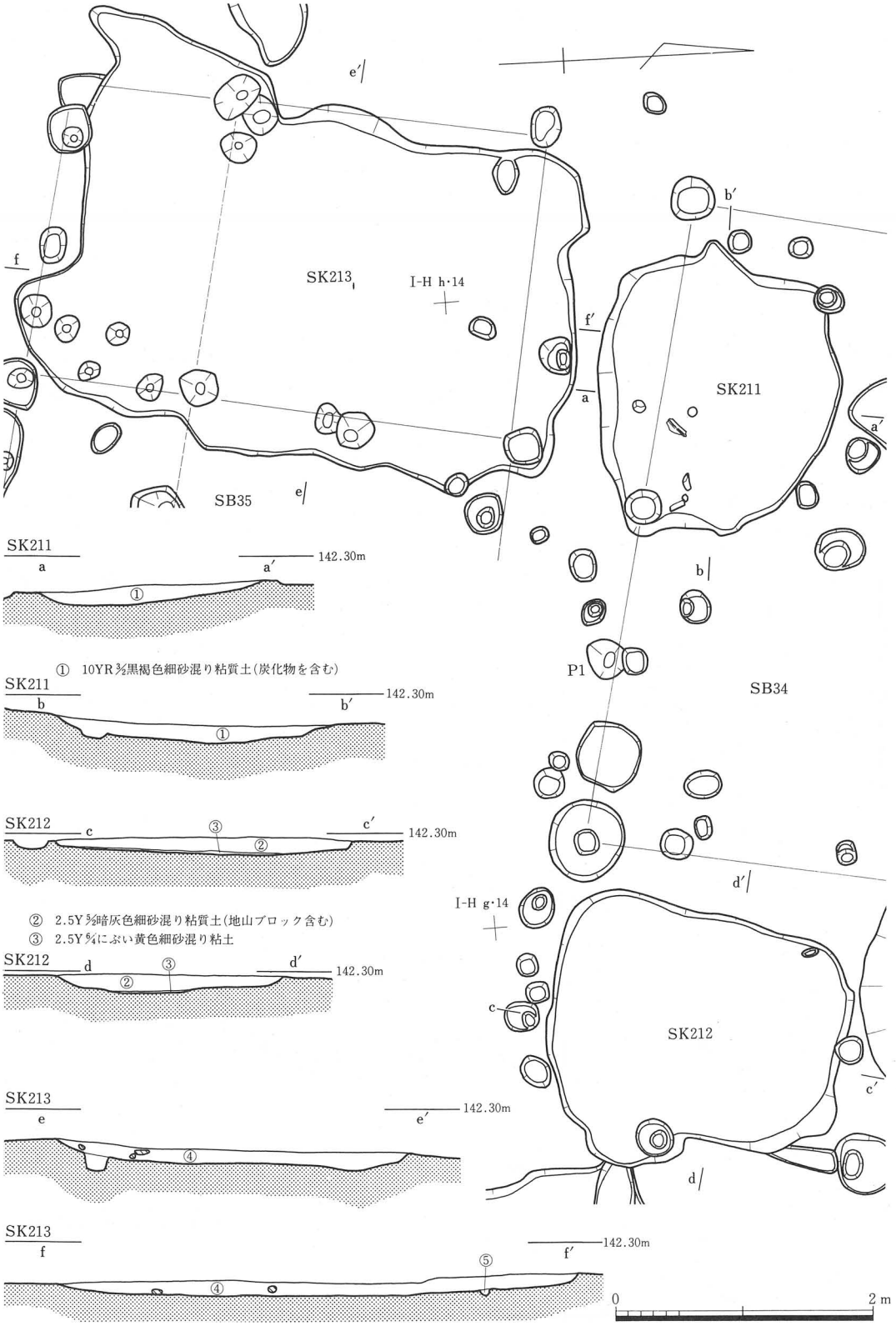
［遺物］　遺物は青磁碗や瓦器類、土師質土器が出土しているが、図示可能な遺物は出土していない。

ＳＫ211（第124・125、図版17・100・101）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｇ～ｈ－13付近で、ＳＫ213の北に隣接しＳＢ34と重複して位置する。平面形は不定楕円形を呈する。底面から瓦器椀や羽釜片が出土している。



第124図　ＳＫ211・ＳＫ213遺物実測図



第125図　ＳＫ211・ＳＫ212・ＳＫ213遺構実測図（1/50）

長径1.1m、短径0.93m、深さ0.26m。

［遺物］　遺物は瓦器埦（330～333）、瓦質羽釜（335）、青磁皿（334）、叩石（336）が出土している。

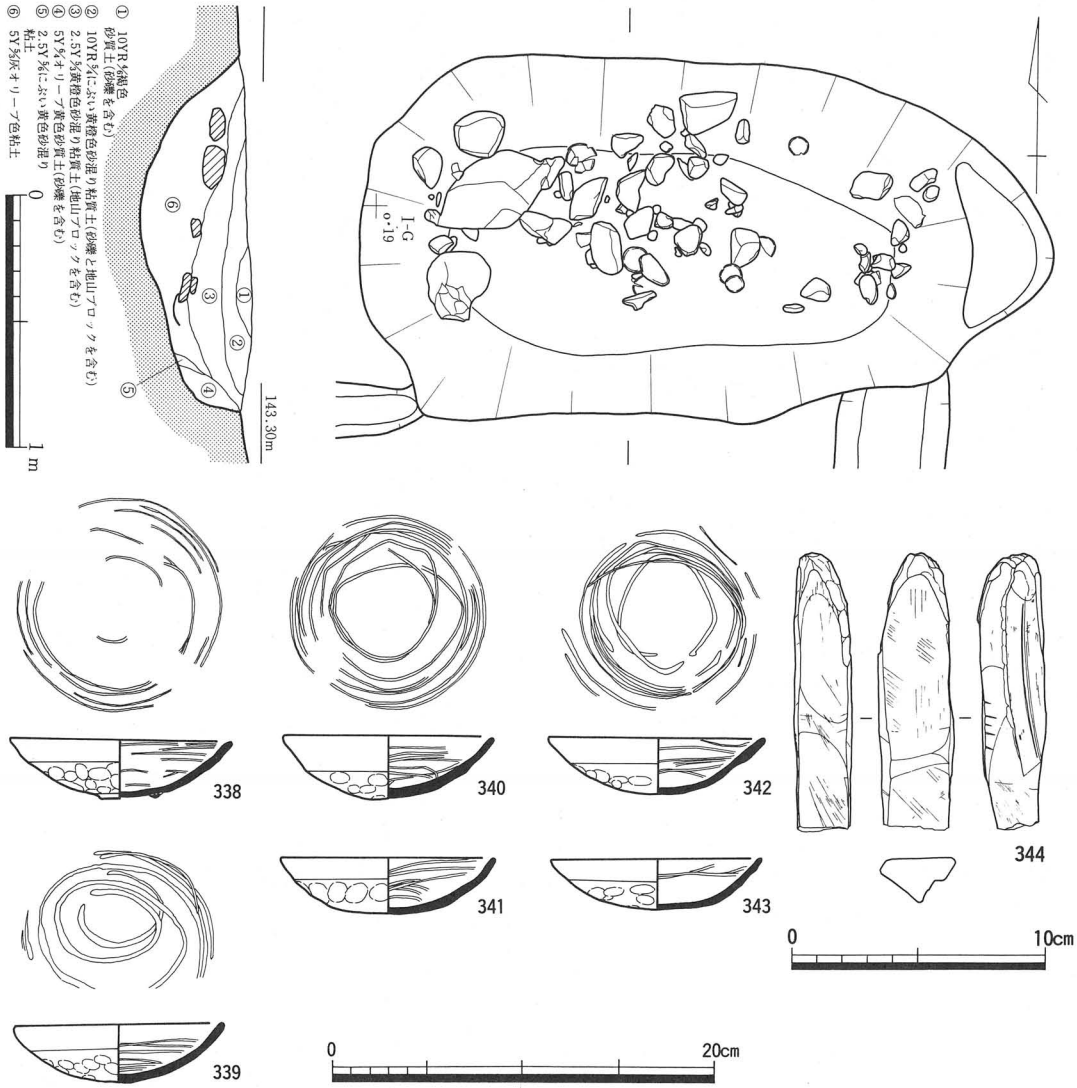
ＳＫ212（第125図、図版17）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｆ－13付近で、ＳＫ211の東３ｍに位置する。平面形は不定長方形を呈する。長軸2.33m、短軸1.78m、深さ0.15m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＫ213（第124・125図、図版17）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｇ～ｈ－13～14付近で、ＳＫ211に隣接しＳＢ35と重複して位置する。平面形は不定長方形を呈する。埋土中には炭化物が含まれている。長軸2.07m、短軸1.4m、深さ0.2m。



第126図　ＳＫ222遺構（1/30）及び遺物実測図

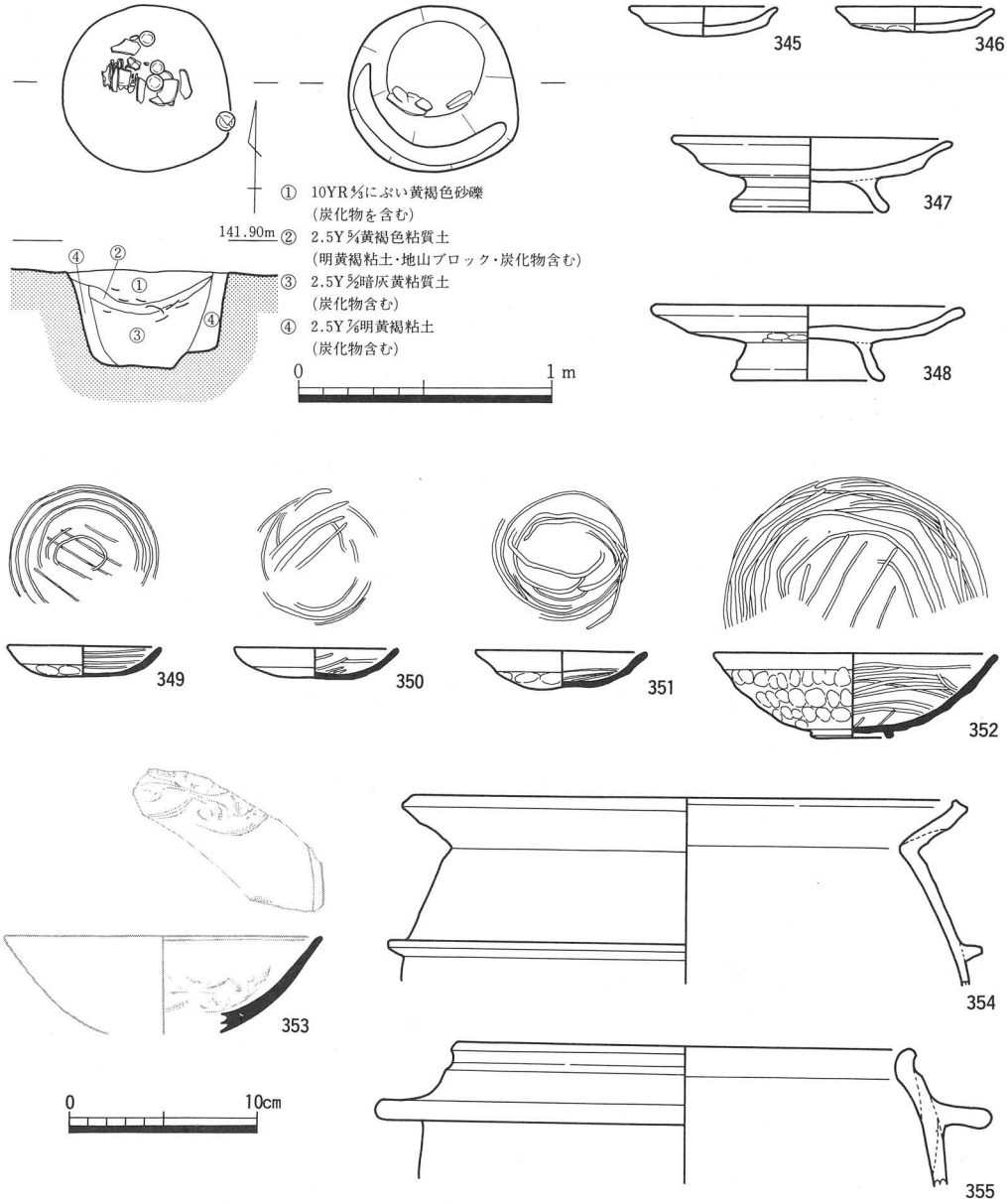
［遺物］　遺物は瓦器椀（337）が出土している。

ＳＫ222（第126図、図版30・101）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｎ－18～19付近に位置する。平面形は長楕円形を呈する。主軸方向は東西を示す。埋土の下位層からは最大50㎝の河原石と瓦器椀６点と砥石１点が出土した。長径2.75ｍ、短径1.41ｍ、深さ0.44ｍ。

［遺物］　遺物は瓦器椀（338～343）、砥石（344）が出土している。

ＳＫ228（第127図、図版30・101・102）



第127図　ＳＫ228遺構（1/30）及び遺物実測図

［遺構］　Ｉ－Ｋ－ａ－２付近のＳＤ87の東側に位置する。平面形は円形を呈する。断面からは再掘削された径0.5ｍの埋土の中位層から瓦器類、土師質土器類、羽釜類、青磁碗片が一括して出土している。又埋土中には炭化物が含まれている。径0.68ｍ、深さ0.52ｍ。

［遺物］　遺物は瓦器埦（352）、瓦器小皿（349～351）、土師質小皿（345・346）、土師質台付皿（347・348）、青磁碗（353）、土師質羽釜（354・355）が出土している。羽釜（354）は紀伊型である。

ＳＫ231（第128図、図版102）

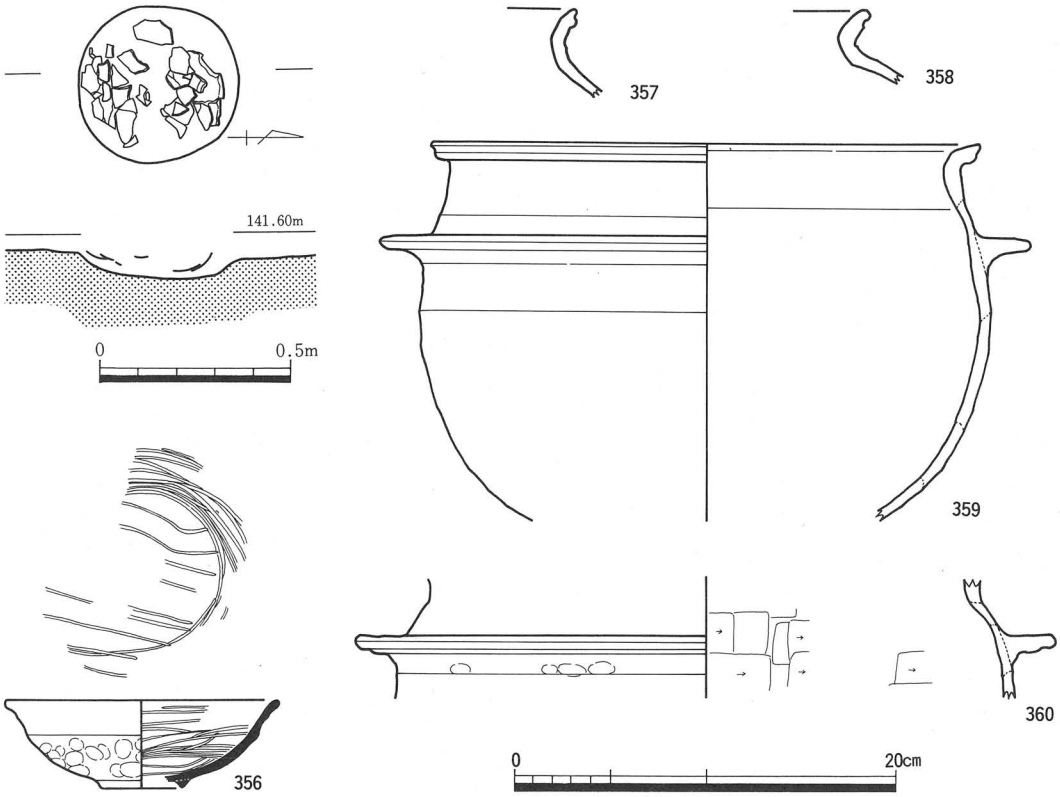
［遺構］　Ｉ－Ｋ－Ｆ－３付近に位置する。平面形は円形を呈する。削平を受けているが土壙内には羽釜が掘形一杯に納められている。羽釜内部には瓦器埦が埋納されている。径0.42ｍ、深さ0.08ｍ。

［遺物］　遺物は瓦器埦（356）、土師質甕（357・358）、土師質羽釜（359・360）が出土している。

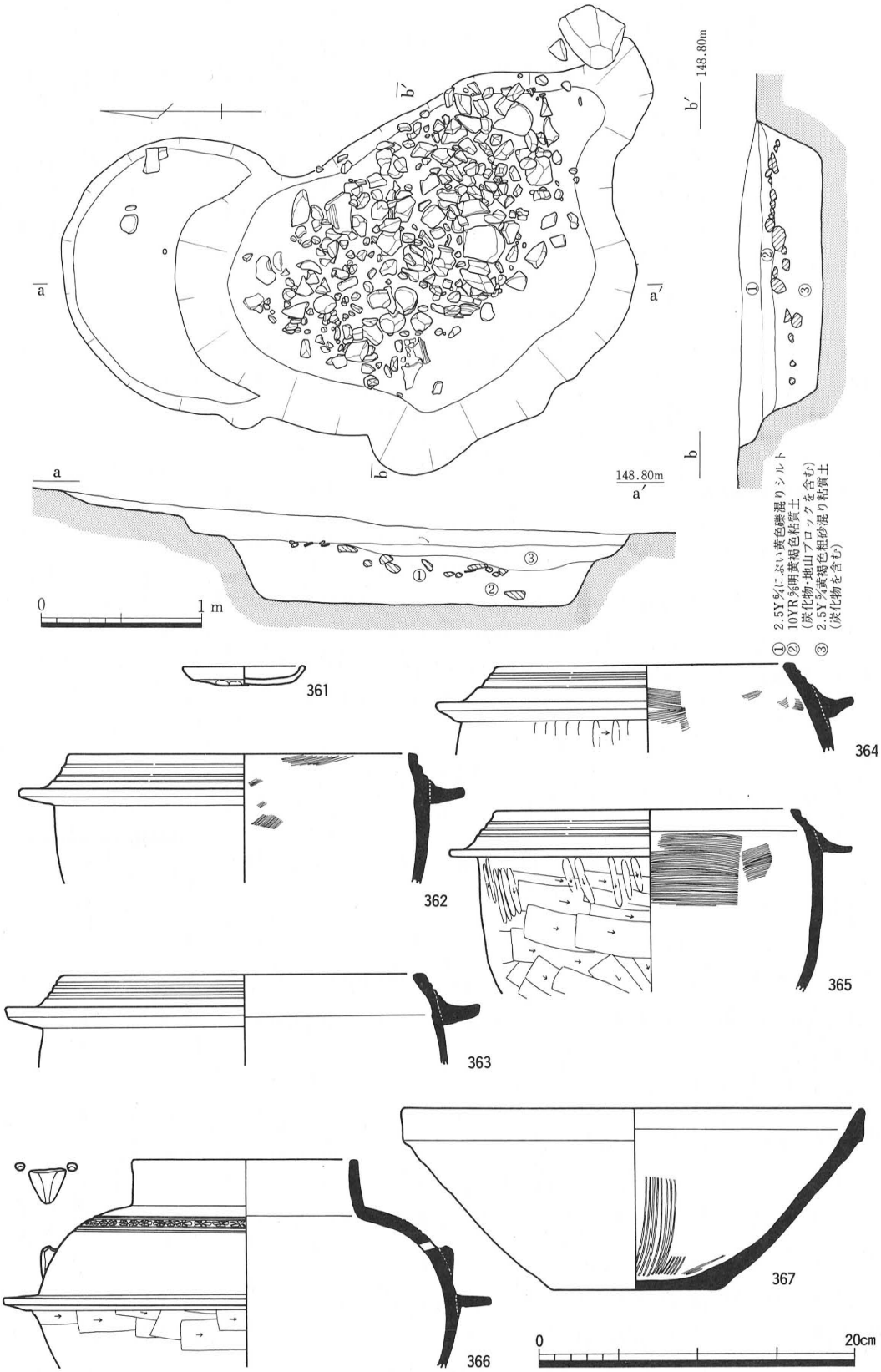
ＳＫ236（第129図、図版31・102）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－Ｋ－11付近に位置する。平面形は不定形楕円形を呈する。北側部分はテラス状を呈する。土壙内からは埋土中位に最大30㎝の河原石が充填されている。遺物は瓦質の羽釜片が出土している。長径3.62ｍ、短径2.2ｍ、深さ0.73ｍ。

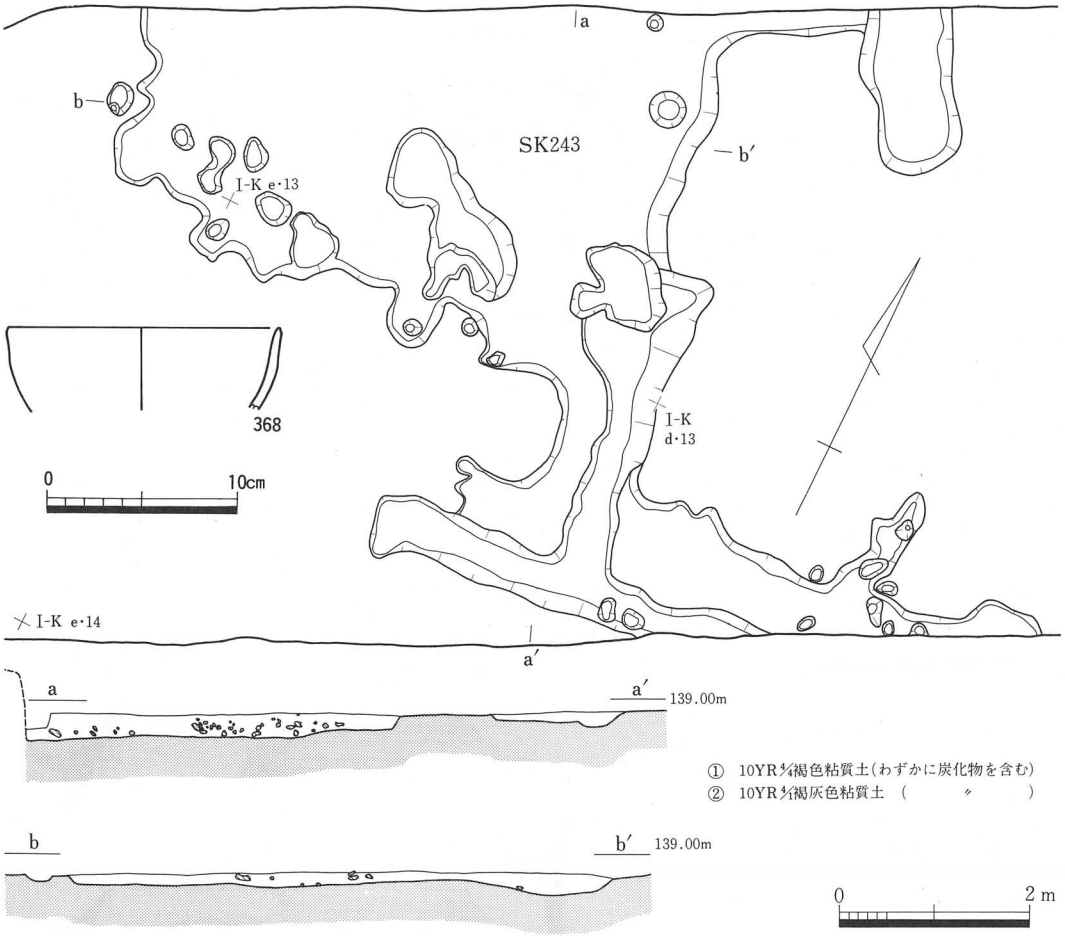
［遺物］　出土遺物は土師質小皿（361）、瓦質羽釜（362～365）、茶釜（366）、瓦質摺鉢（367）



第128図　ＳＫ231遺構（1/20）及び遺物実測図



第129図　ＳＫ236遺構（1/40）及び遺物実測図



第130図　ＳＫ243遺構（1/80）及び遺物実測図

が出土している。

ＳＫ243（第130図、図版31）

［遺構］　Ｉ－Ｋ－ｃ～ｅ－12～13付近に位置する。平面形は不定形を呈する。土壙というより自然地形的なものである。埋土内にはわずかに炭化物が含まれている。長軸６ｍ、短軸3.9ｍ、深さ0.28ｍ。

［遺物］　土師質の鉢（368）が出土している。

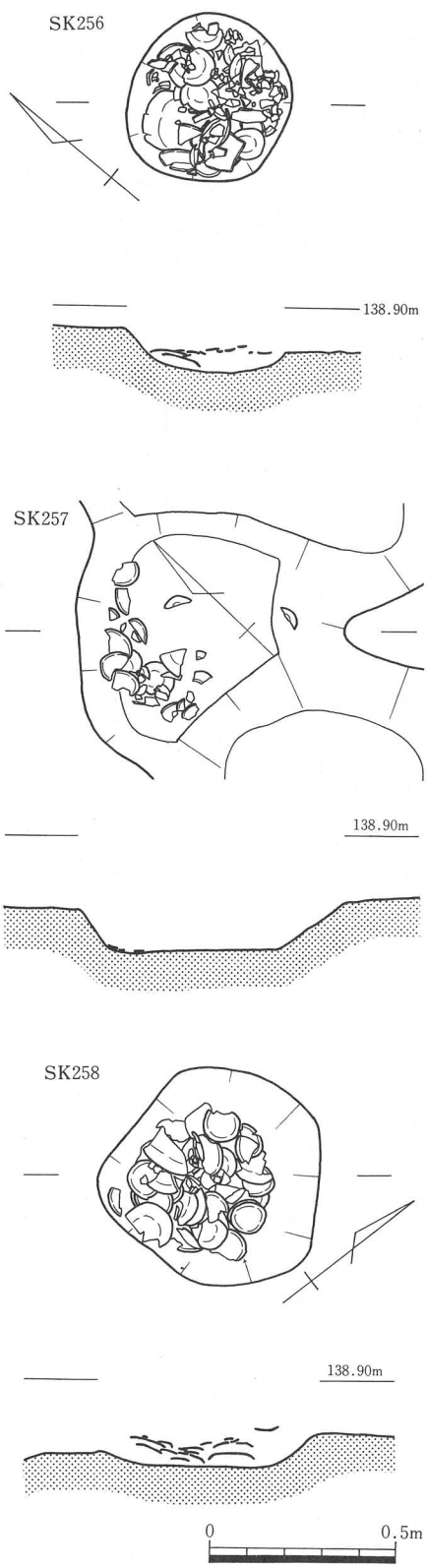
ＳＫ256（第131・132図、図版32・103・104）

［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｃ－１付近に位置する。ＳＴ７の墳丘を切り込んでいる。平面形は円形を呈する。上部分は削平を受けているが土壙内には土師質の皿類が42以上充塡されている。径0.46ｍ、深さ0.11ｍ。

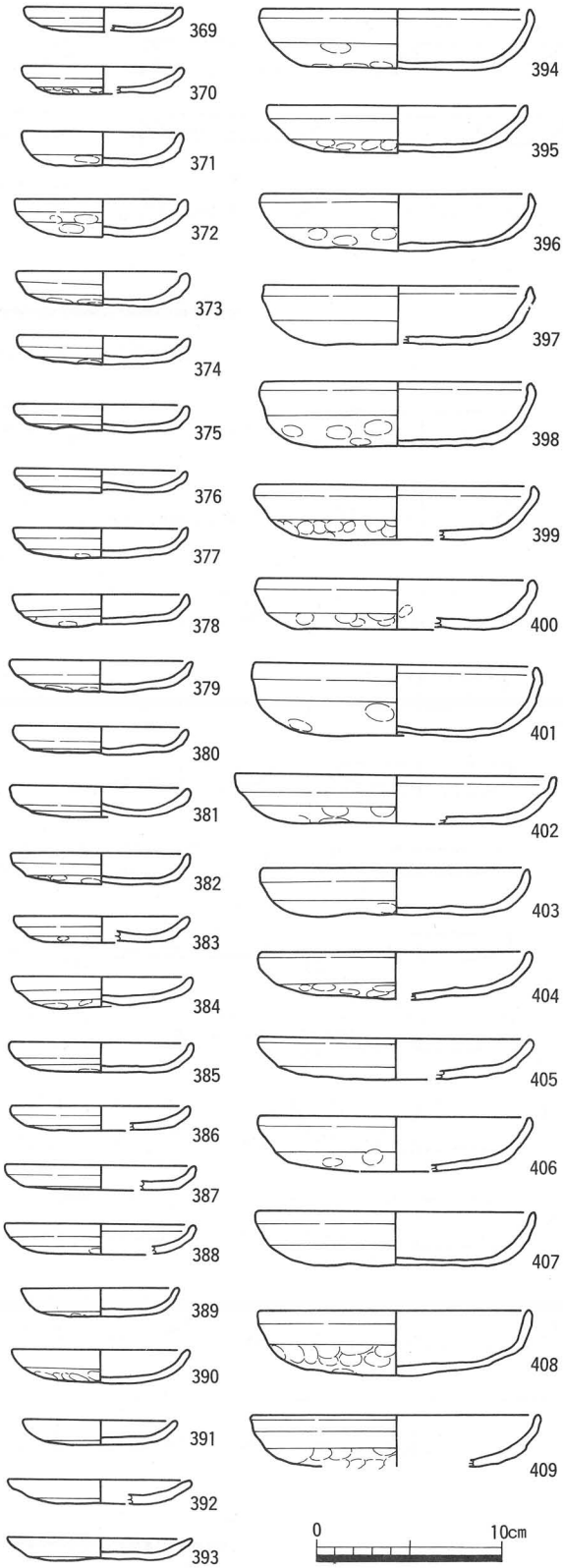
［遺物］　遺物は土師質小皿（369～393）、土師質大皿（394～409）が出土している。

ＳＫ257（第131・133図、図版104・105）

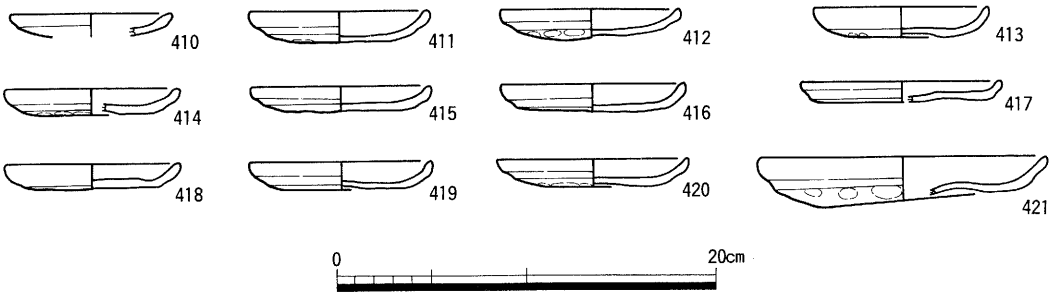
［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｃ－１付近のＳＫ256の西１ｍに位置し、ＳＫ256と同様にＳＴ７の墳丘を切



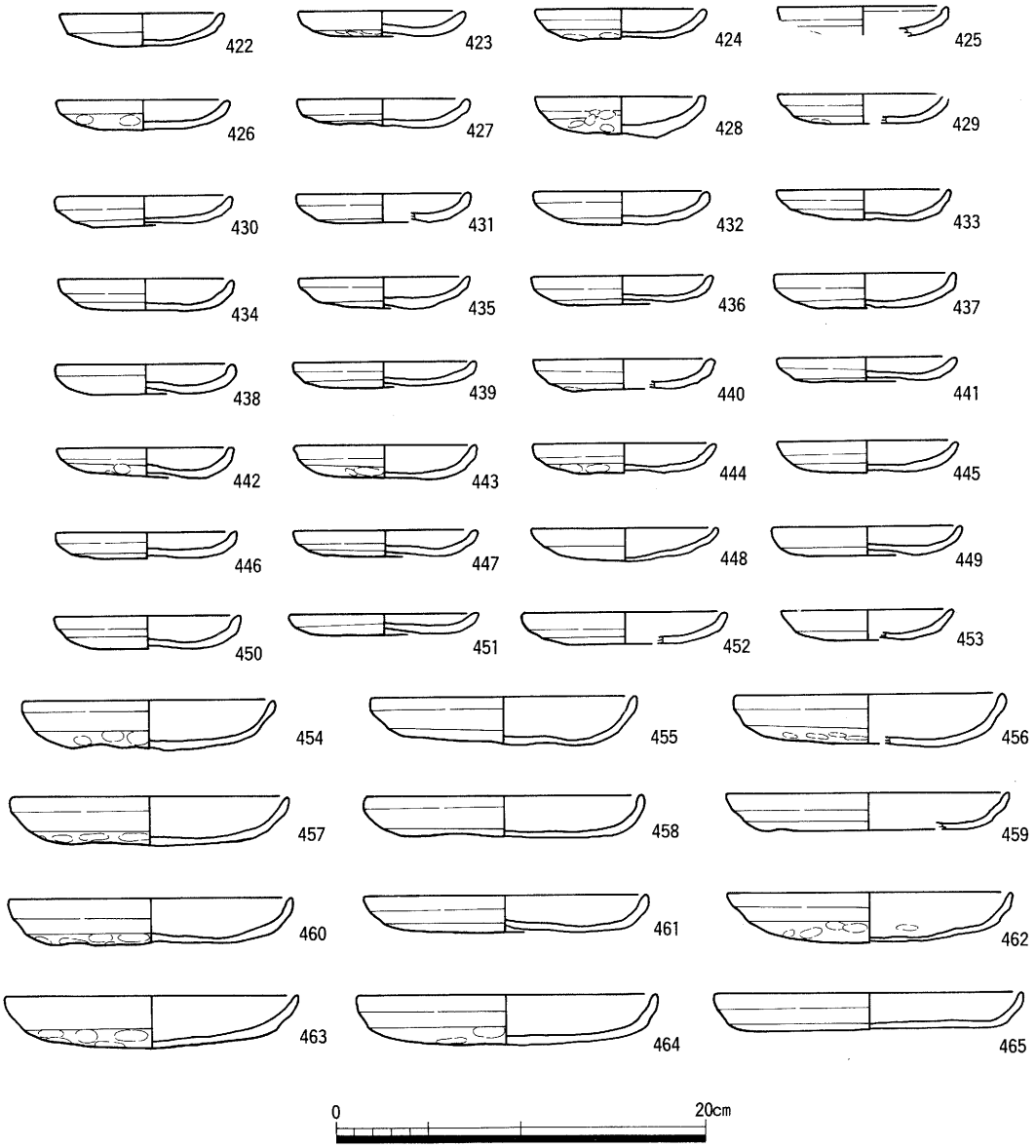
第131図　ＳＫ256・ＳＫ257・ＳＫ258遺構実測図（1/20）



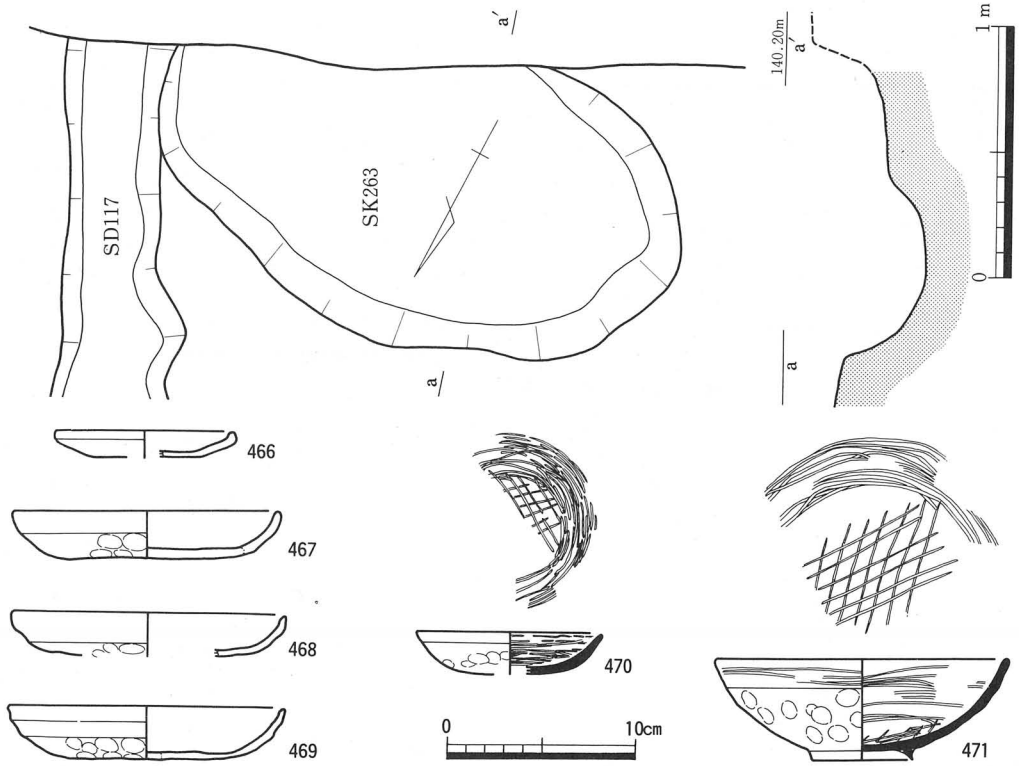
第132図　ＳＫ256遺物実測図



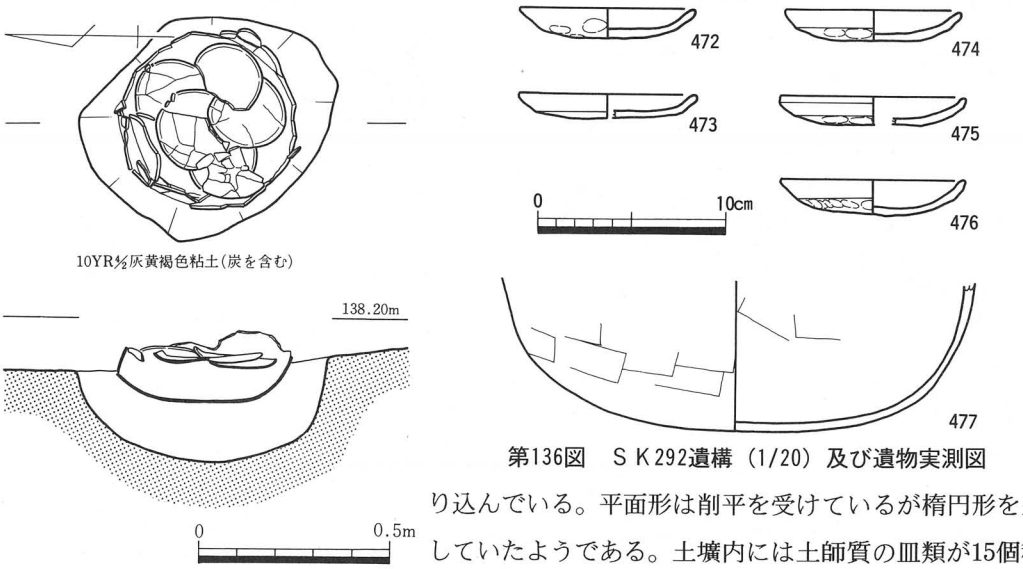
第133図　ＳＫ257遺物実測図



第134図　ＳＫ258遺物実測図



第135図　ＳＫ263遺構（1/30）及び遺物実測図



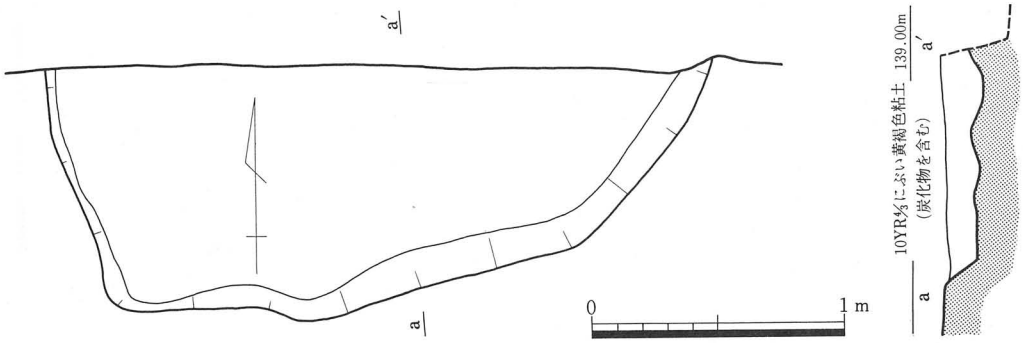
第136図　ＳＫ292遺構（1/20）及び遺物実測図

り込んでいる。平面形は削平を受けているが楕円形を呈していたようである。土壙内には土師質の皿類が15個程度残存していた。長径0.7m、短径0.5m、深さ0.12m。

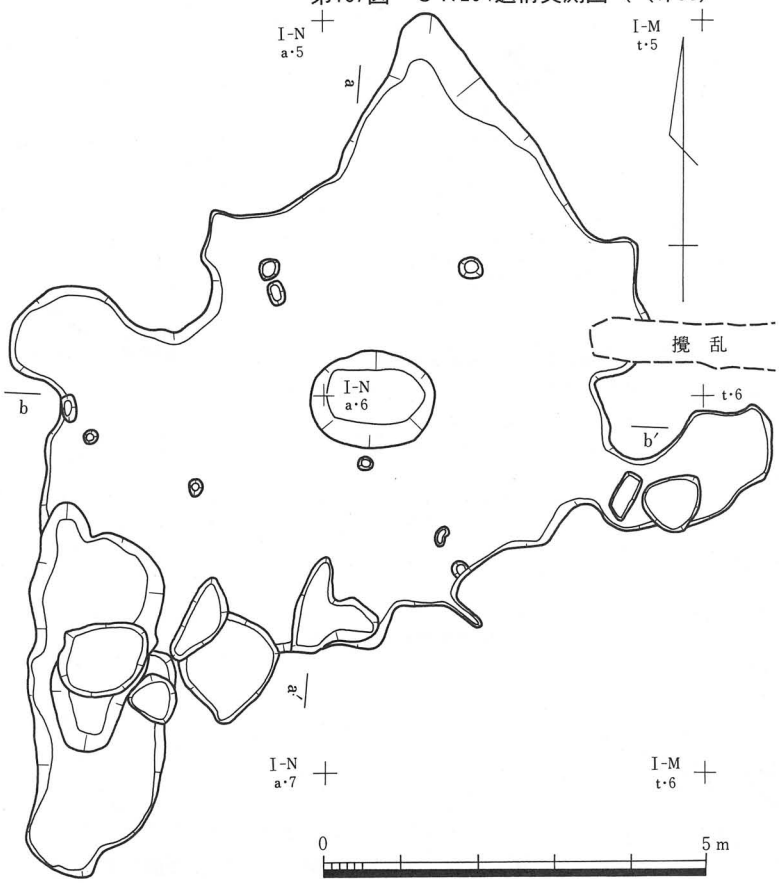
［遺物］　遺物は土師質小皿（410～420）、土師質大皿（421）が出土している。

ＳＫ258（第131・134図、図版32・105～107）

［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｃ－２付近のＳＫ256の南東３ｍに位置し、ＳＴ７の周溝を切り込んでいる。平面形は不定楕円形を呈している。上部分は削平を受けているが土壙内には土師質の皿類が41個



第137図　ＳＫ294遺構実測図（（1/30）



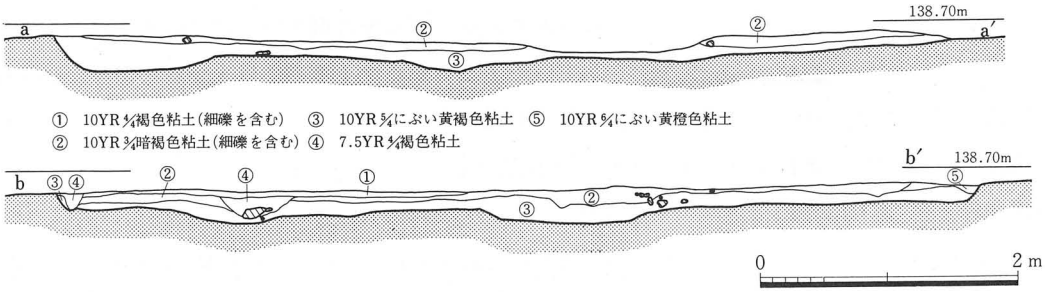
程度残存していた。径0.6m、深さ0.1m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（422～453）、土師質大皿（454～465）が出土している。

ＳＫ263（第135図、図版19・33・107・108）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｐ－18～19付近に位置する。平面形は楕円形を呈する。土壙内からは瓦器類、土師質土器類が出土している。検出長長径2.16ｍ、短径1.18m、深さ0.41m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（466）、土師質



第138図　ＳＫ500遺構実測図　平面（1/100）・断面（1/60）

大皿（467～469）、瓦器皿（470）、瓦器椀（471）が出土している。

ＳＫ292（第136図、図版33・108）

［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｄ－３付近に位置する。ＳＸ１の埋土上面を切り込んでいる。平面形は楕円形を呈する。土壙内からは上部を削平された羽釜と羽釜内部から土師質皿が出土している。長径0.32m、短径0.23m、深さ0.12m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（472～476）、羽釜（477）が出土している。

ＳＫ294（第137図、図版19）

［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｔ－３付近でＳＢ46の西１ｍに位置する。北側は調査区外となる。平面形は検出部分で長楕円形を呈するようである。土壙内からは土師質土器片、瓦器片が出土している。検出長2.67m、幅1.1m、深さ0.27m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＫ500（第138図、図版34）

［遺構］　Ｉ－Ｍ～Ｎ－ｔ～ａ－５～６付近に位置する。平面形は不定形な落ち込み状を呈する。土壙内からは土師質土器片、瓦器片が出土している。長軸10.3m、短軸9.7m、深さ0.27m。

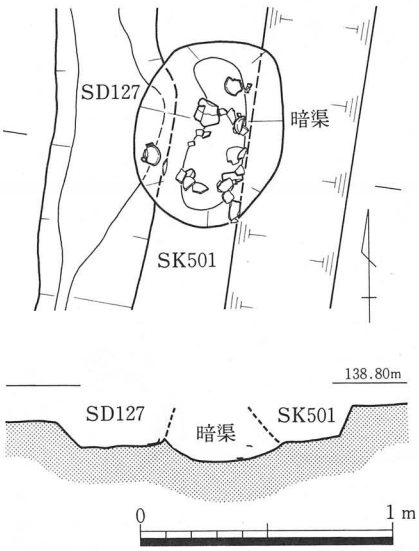
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＫ501（第139・140図、図版34・108）

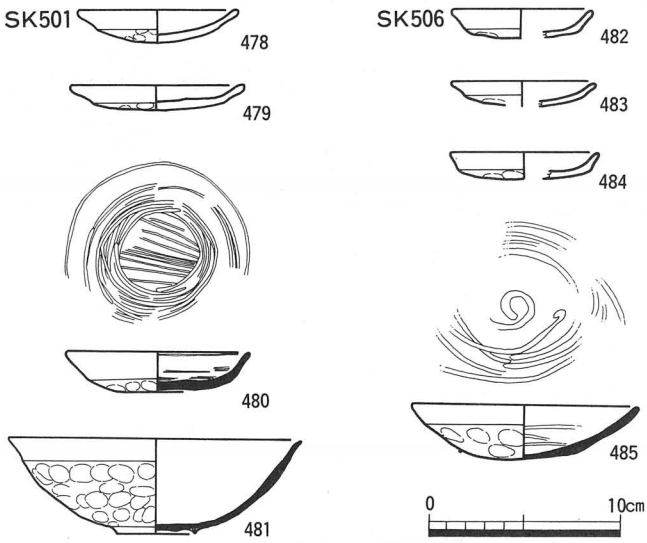
［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｂ－６付近に位置し、ＳＤ127と暗渠によって削平を受けている。平面形は楕円形を呈する。土壙内から瓦器類、土師質土器類が出土している。長径0.59m、短径0.45m、深さ0.22m。

［遺物］　遺物は土師質皿（478・479）、瓦器椀（481）、瓦器皿（480）が出土している。

ＳＫ506（第140図、図版34・108）



第139図　ＳＫ501遺構実測図（1/30）



第140図　ＳＫ501・ＳＫ506遺物実測図

［遺構］　Ｉ－Ｎ－ｂ－８付近に位置し、ＳＥ６によって削平を受け、西側は調査区外になる。土壙内から河原石の小石と共に瓦器類、土師質土器類が出土している。検出長1.7m、幅0.55m、深さ0.2m。

［遺物］　遺物は土師質皿（482～484）、瓦器埦（485）が出土している。

ＳＫ522（第141図、図版34・108）

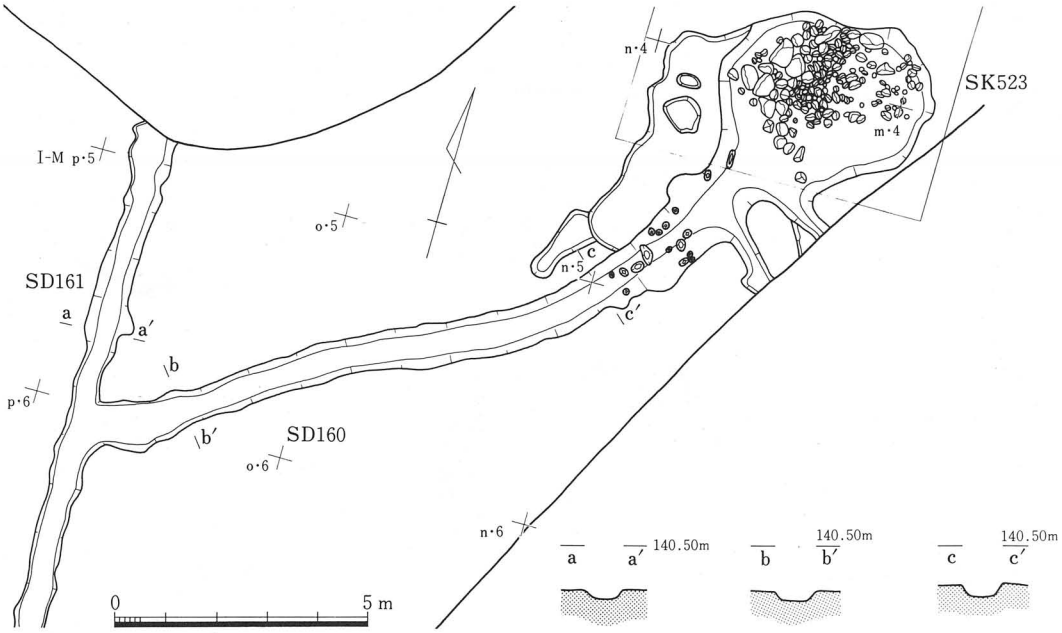
［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｏ－10付近に位置し、他の遺構によって東側は削平を受け、南側は調査区外になる。平面形は楕円形を呈していたと思われる。土壙内から最大30㎝位の河原石と共に瓦器類、土師質土器類が出土している。検出長3.75m、幅1.7m、深さ0.25m。

［遺物］　遺物は土師質皿（486）、瓦器皿（487・488）が出土している。

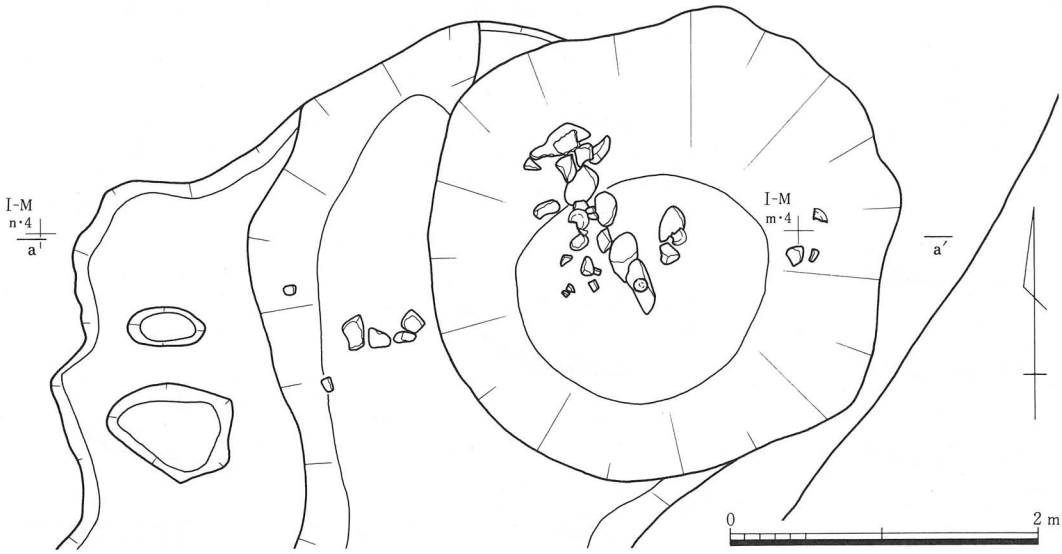
ＳＫ523（第142～144図、図版35・108～110）

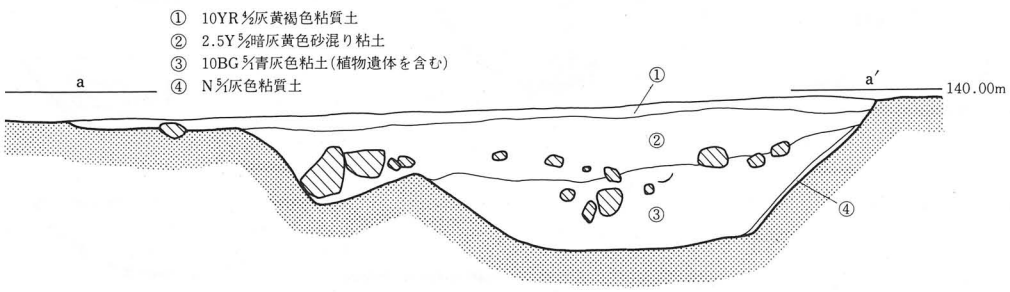
［遺構］　Ｉ－Ｍ－ｍ－３～４付近に位置する。平面形は楕円形を呈する。この土壙から南西に向かってＳＤ160がのびている。また、土壙内部には最大50㎝の河原石が詰まっており、水利関係遺構と思われる。河原石と共に瓦器類、土師質土器類が出土している。長径４ｍ、幅3.5m、

第141図　ＳＫ522遺構（1/30）及び遺物実測図

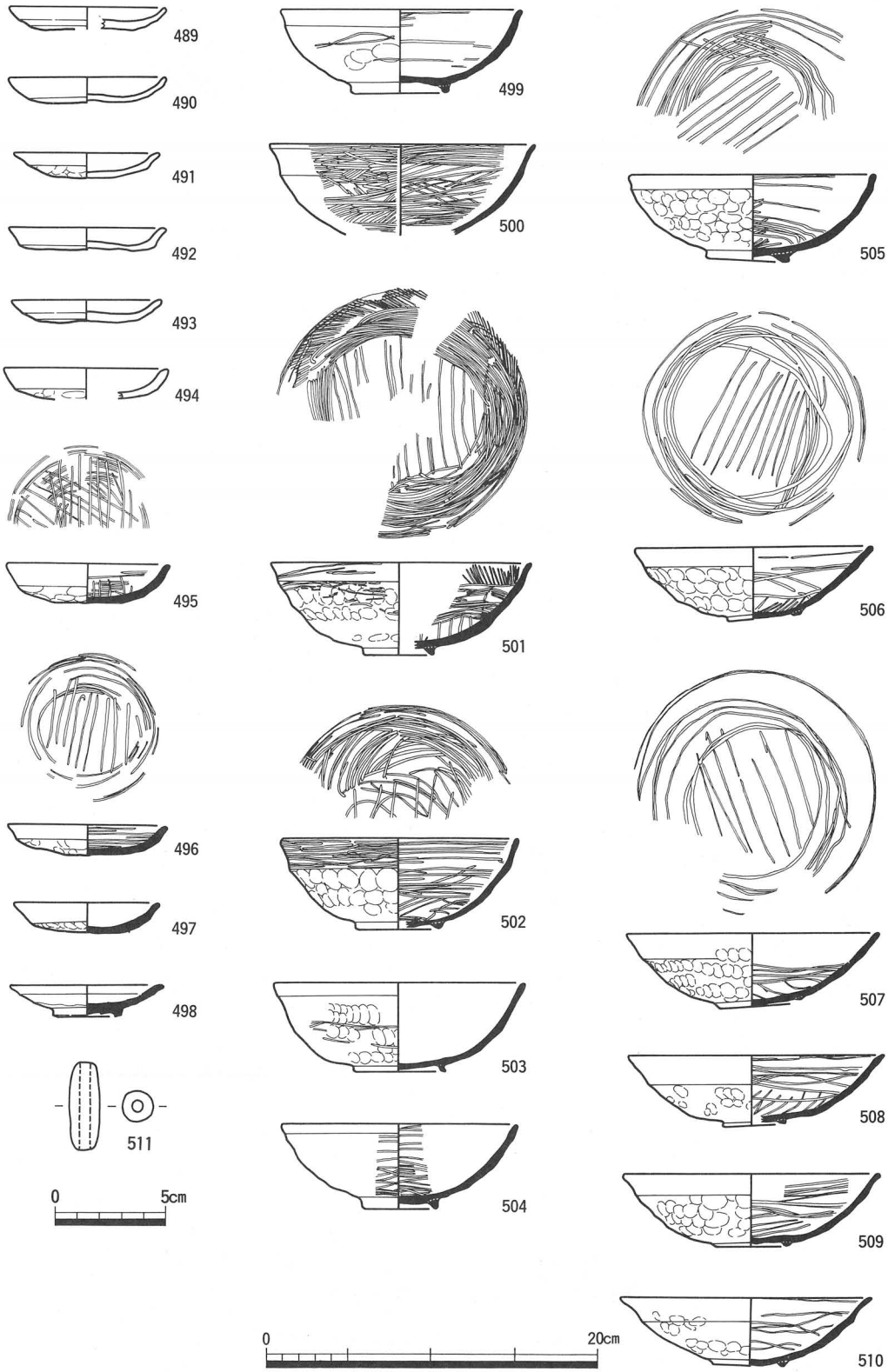


第142図　ＳＫ523・ＳＤ160・ＳＤ161遺構実測図（1/150）





第143図　ＳＫ523遺構実測図（1/50）



第144図　ＳＫ523遺物実測図

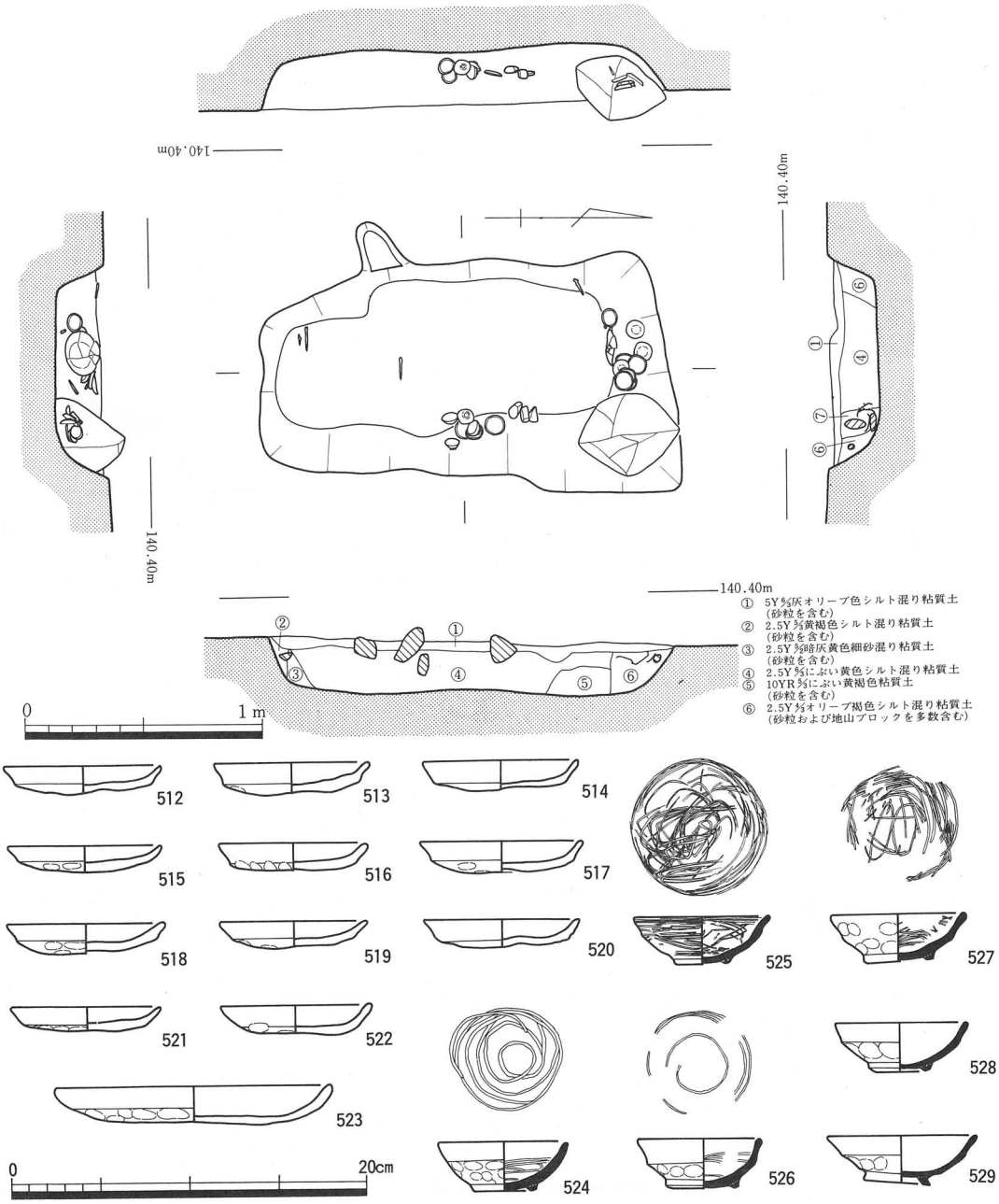
深さ0.3m。

［遺物］　遺物は土師質皿（489～494）、瓦器皿（495～498）、瓦器椀（499～510）、土錘（511）が出土している。

土壙墓（ＳＲ）

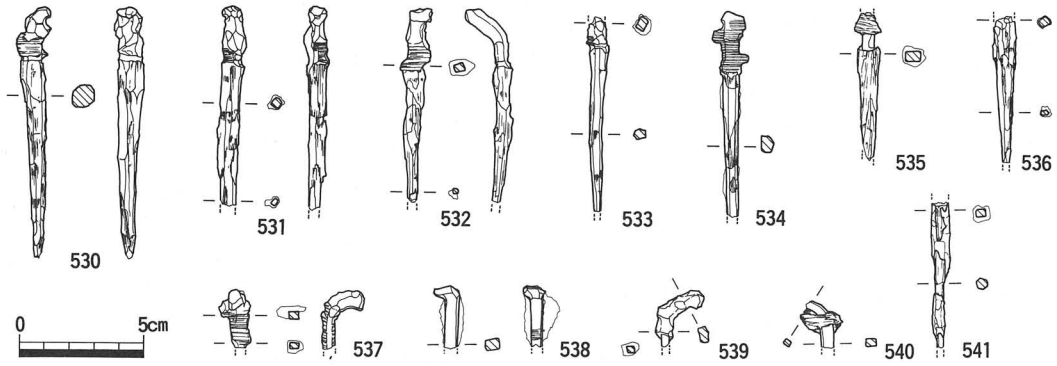
ＳＲ６（第145・146図、図版35・110・111）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｎ－９に位置し、ＳＲ７と並列する。断面と鉄釘の出土から木棺墓の可能性

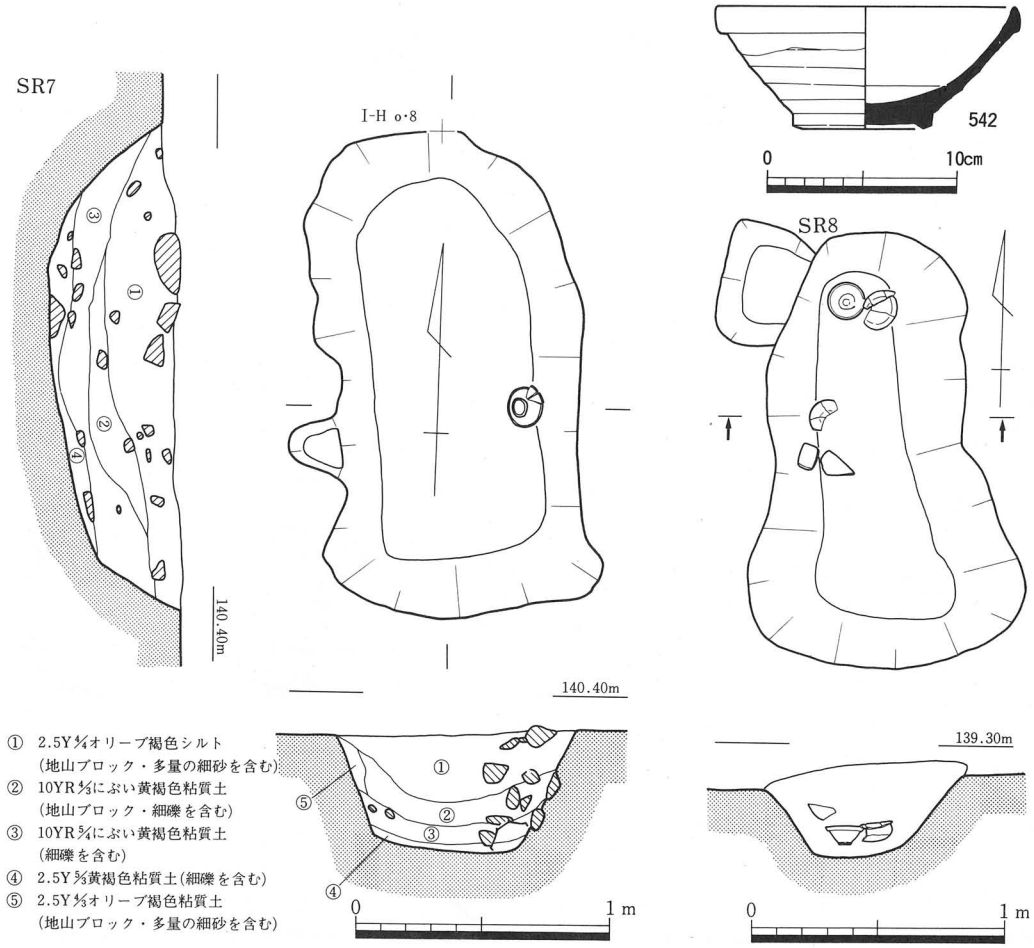


第145図　ＳＲ６遺構（1/30）及び遺物（１）実測図

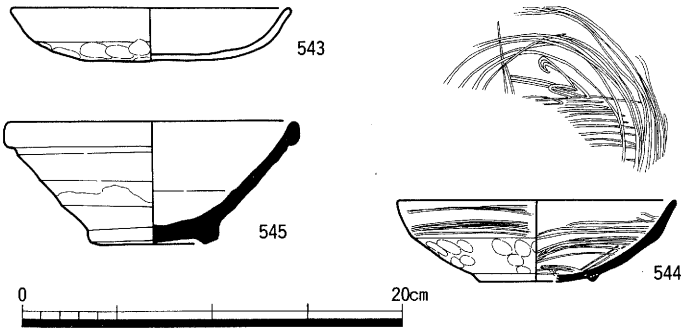
が高い。掘形平面は台形を呈する。棺外北側と西側に供献用の土器が出土している。北側からは土師質大皿と小皿、西側からは土師質小皿と小型瓦器椀がそれぞれ一括で出土している。主軸方向はＮ－Ｏを示す。掘形長1.8m、北側幅１m、南側幅0.65m、深さ0.21m。木棺復元長1.3m、小口幅0.55m。



第146図　ＳＲ６遺物実測図（２）



第147図　ＳＲ７・ＳＲ８遺構（1/30）及びＳＲ７遺物実測図



第148図　ＳＲ８遺物実測図

［遺物］　遺物は土師質小皿（512～522）、土師質大皿（523）、小型瓦器埦（524～529）、鉄釘（530～541）が出土している。

ＳＲ７（第147図、図版36・111）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｎ～ｏ－８に位置し、ＳＲ６の西側1.2mに並列する。平面形はやや丸味をもった長方形を呈する。埋土内には10cmの小石が含まれている。底面東側壁に接して、白磁碗が倒立して出土している。主軸方向はＮ－２°－Ｗを示す。長軸1.94m、短軸1.14m、深さ0.42m。

［遺物］　出土した遺物は白磁碗（542）のみである。

ＳＲ８（第147・148図、図版36・111・112）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｅ－18に位置する。平面形は長楕円形を呈する。底面北側壁に接して、白磁碗が正立して土師質皿と共に出土している。また、西側壁に接して土師質皿が出土している。主軸方向はＮ－２°－Ｗを示す。長径1.21m、短径0.89m、深さ0.3m。

［遺物］　遺物は白磁碗（545）、土師質皿（543）、瓦器埦（544）である。

集石（ＳＵ）

ＳＵ１（第149～156図、図版37・112～114）

Ｉ－Ｊ－ｅ～ｉ－４～５付近に位置する。平面形は河原石の集石が帯状を呈し、等高線にそってはしる。集石は東側と西側との大区画に分けることができる。東側は長さ6.15m、幅1.2m。西側は西端で広がる。長さ18.8m、最大幅３mである。これらの大区画をさらに石の構成の観察によって任意に小区画に分けて説明する。これらは、墳墓の可能性が高い。

ＳＵ１－１（東側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｅ－４付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。長辺１m、短辺0.9m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は土師質杯（555）、瓦器小皿（556、558、559、562）、瓦器埦（564、565）、須恵質鉢（582）、須恵質甕（588）が出土している。

ＳＵ１－２（東側大区画）

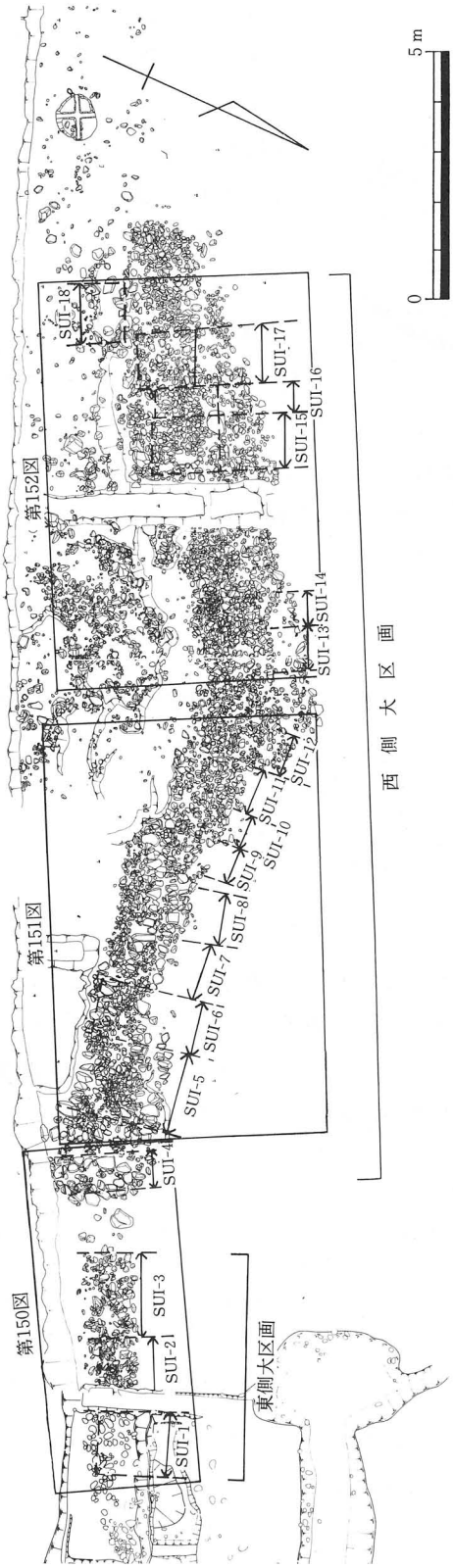
［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｅ－４付近に位置する。平面形は区画の東側が水道管によって削平されているが方形の区画と思われる。短辺0.7m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は鉄製品（587）が出土している。

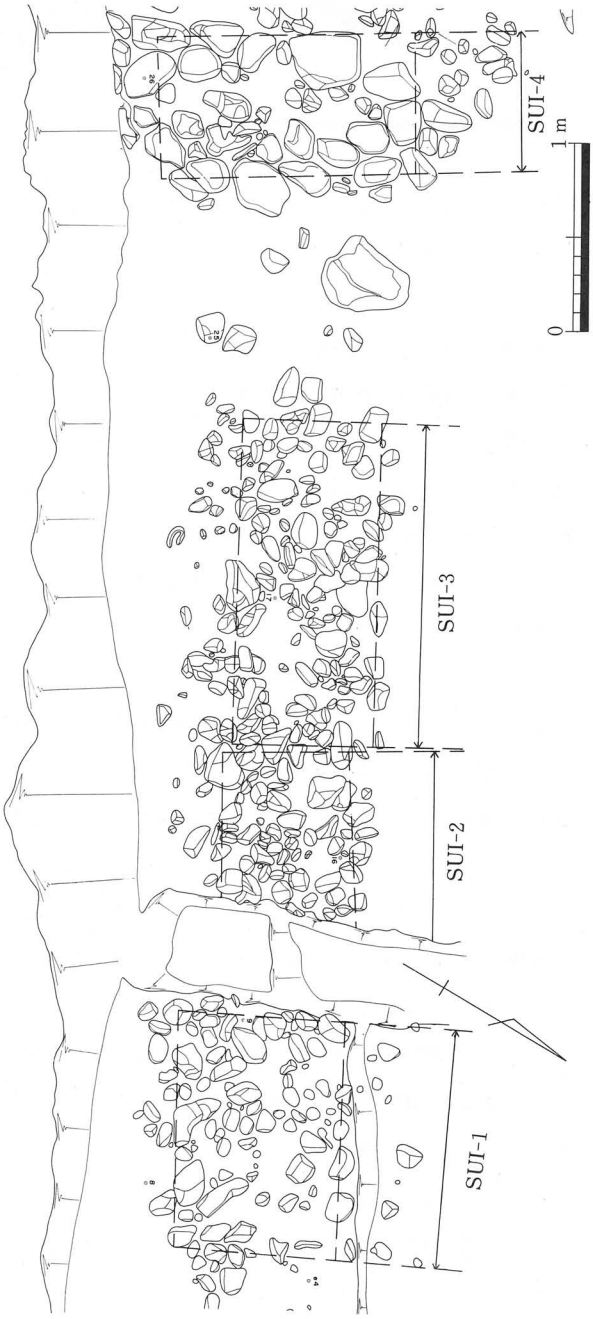
ＳＵ１－３（東側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｅ－４付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。東側以外は石の流失が激しい。長辺1.1m、短辺0.7m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は瓦器小皿（560）、瓦器椀（566）、



第149図　ＳＵＩ遺構実測図（1/150）



第150図　ＳＵＩ－１～ＳＵＩ－４遺構実測図（1/40）

土師質羽釜（576）が出土している。

ＳＵ１－４（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｆ－４付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。区画は南側の調査区外にのびるものと思われる。検出長1.7m、検出幅１ｍ。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は土師質土器高台部（554）、瓦質摺鉢（581）が出土している。

ＳＵ１－５（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｆ－４付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。区画内は拳大の石が充塡されている。長辺1.7m、短辺1.6m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は土師質小皿（550）、瓦器小皿（557）、瓦質摺鉢（584）、須恵質甕（589）が出土している。

ＳＵ１－６（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｆ－４付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈する。区画内は拳大の石が充塡されている。検出長1.3m、検出幅１ｍ。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は瓦器埦（561）が出土している。

ＳＵ１－７（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｆ－４付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈する。区画内は10～15㎝の石が充塡されている。長辺0.9m、短辺0.6m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は瓦器埦（563）、瓦質摺鉢（583）が出土している。

ＳＵ１－８（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｇ－４付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。区画の石は他の区画にくらべ大きい。下部にも人頭大の石が入っていた。長辺0.8m、短辺0.7m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＵ１－９（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｇ－４付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈する。北西と西南の区画は明確でない。区画内には拳大の石が充塡されている。長辺１ｍ、短辺0.6m。下部には施設は認められないが瓦質羽釜が意識的に破壊された状態で出土している。

［遺物］　遺物は土師質小皿（547・548）、瓦質羽釜（577・580）が出土している。

ＳＵ１－10（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｇ－４付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈すると思われるが明確な区画構成石は確認できない。長辺１ｍ、短辺0.8m。下部には施設は認められない。

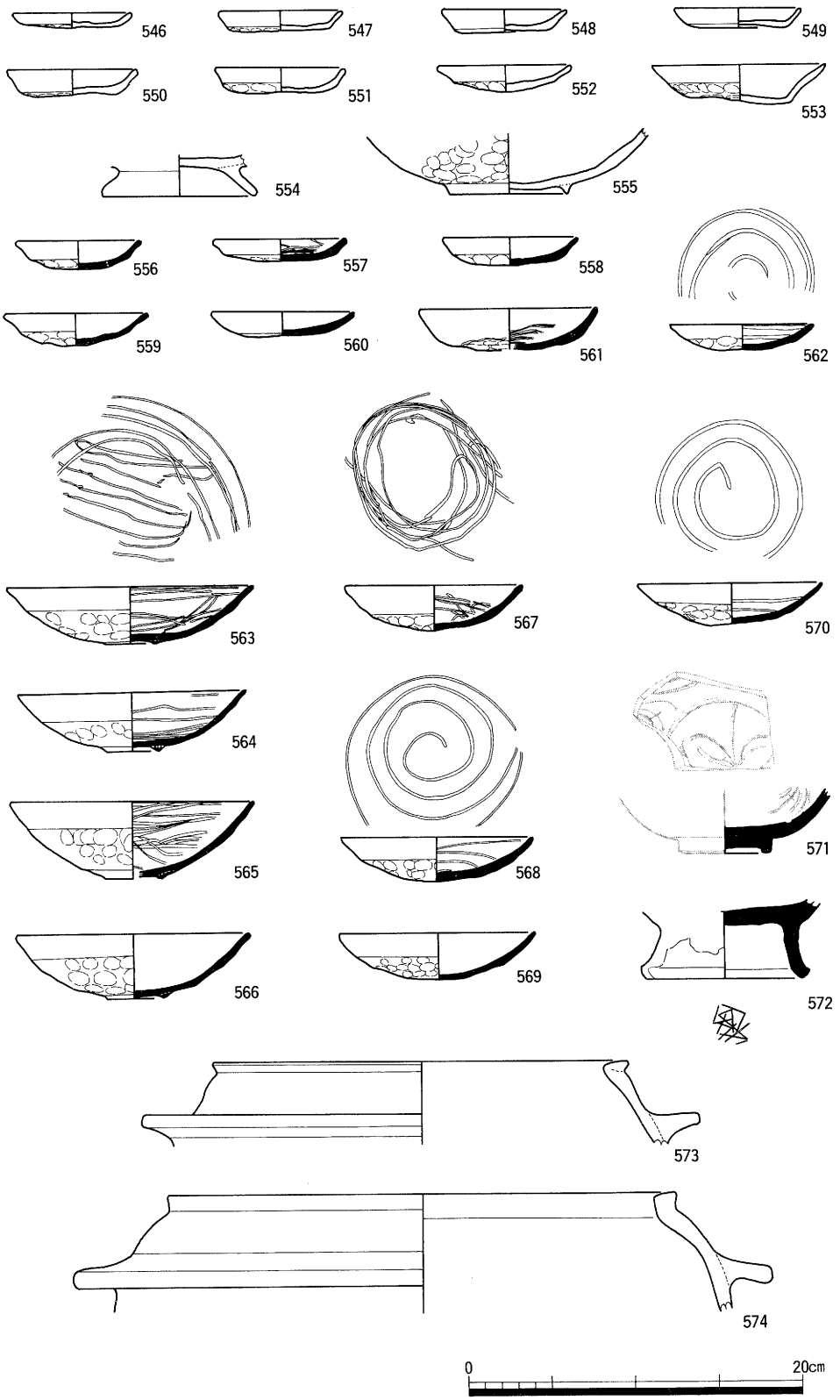
［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＵ１－11（西側大区画）

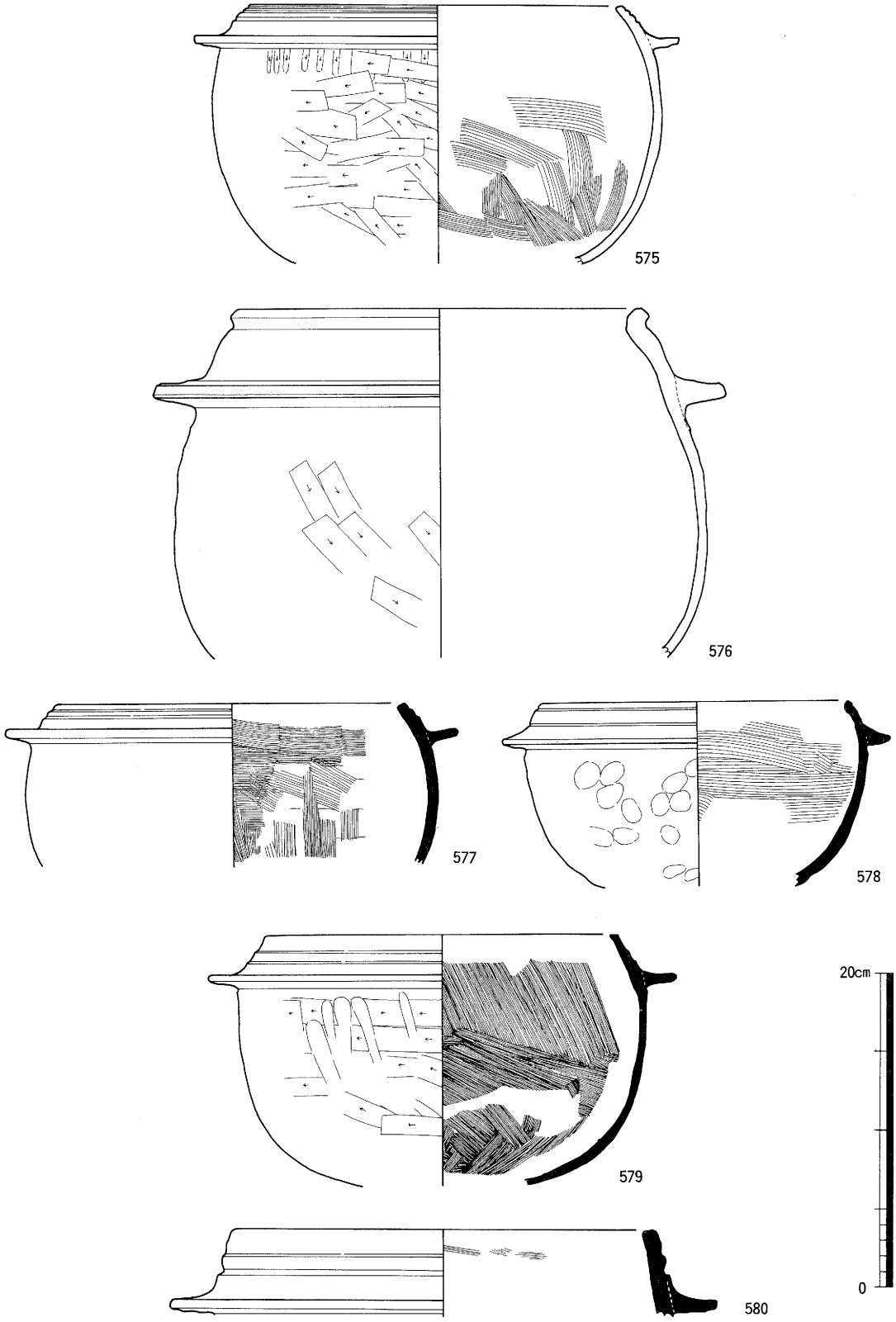
［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｇ－４付近に位置する。平面形は方形の区画を呈すると思われるが明確な区

第151図　ＳＵ１－５～ＳＵ１－12遺構実測図（1/40）

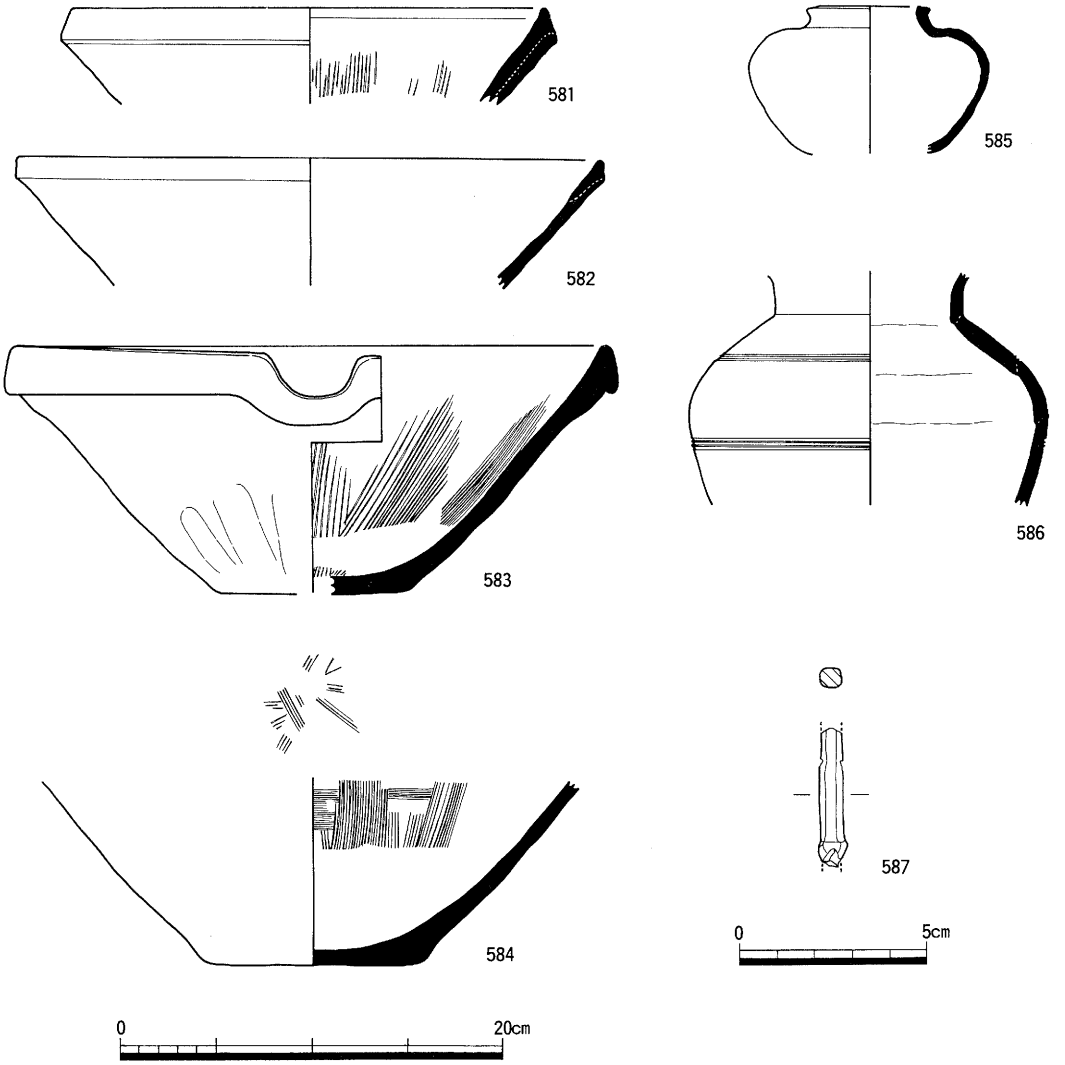
第152図　ＳＵ１－13～ＳＵ１－18遺構実測図（1/40）



第153図　ＳＵ１遺物実測図（１）



第154図　ＳＵ１遺物実測図（２）



第155図　ＳＵ１遺物実測図（３）

画構成石は確認できない。長辺0.95m、短辺0.85m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＵ１－12（西側大区画）

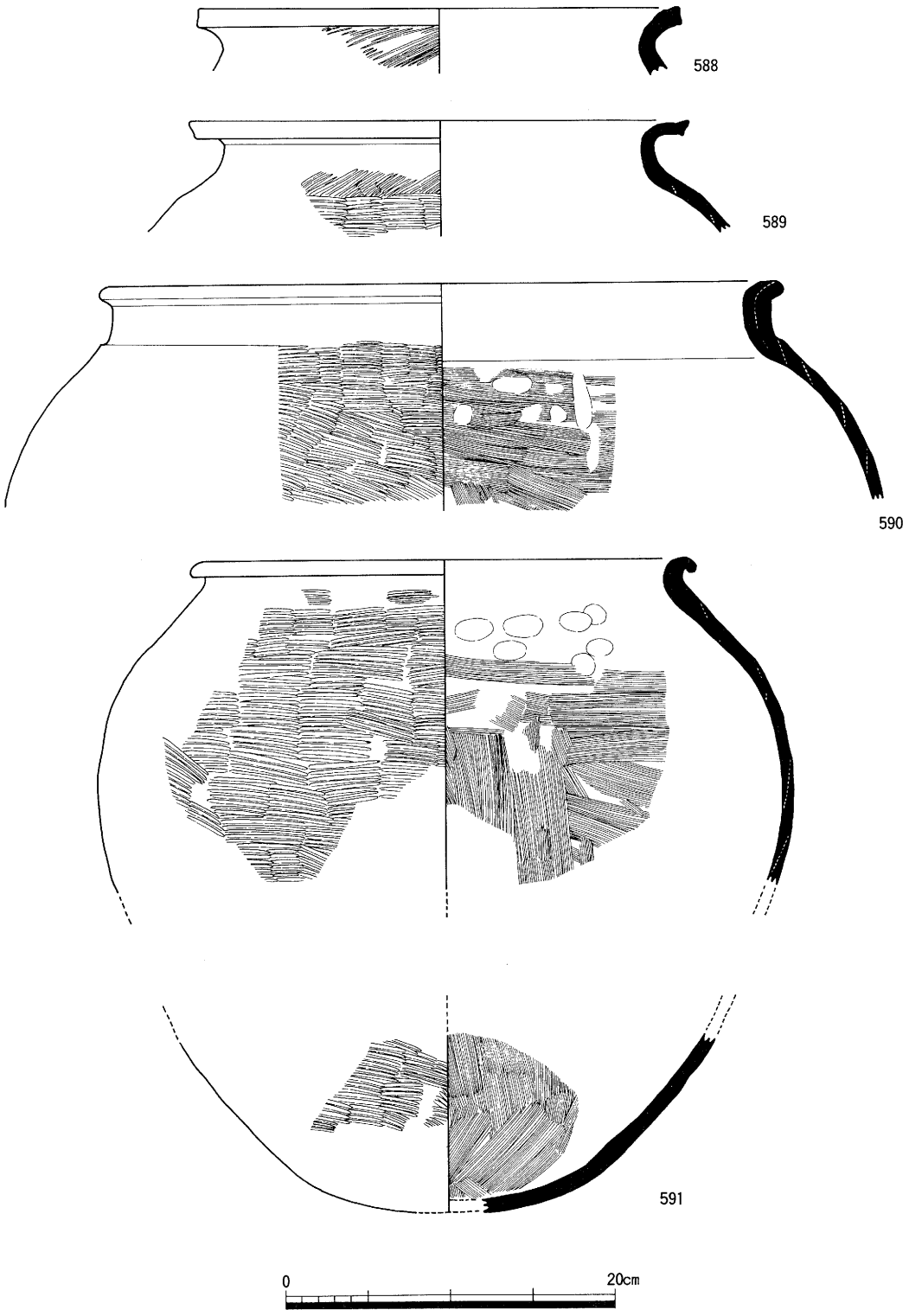
［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｇ－４付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈すると思われるが明確な区画構成石は一部流出がある。長辺0.75m、短辺0.45m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＵ１－13（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｈ－４付近に位置する。平面形は方形の区画を呈すると思われるが明確な区画構成石は確認できない。一辺0.8m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は出土していない。



第156図　ＳＵ１遺物実測図（４）

ＳＵ１－14（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｈ－５付近に位置する。平面形は方形の区画を呈すると思われるが明確な区画構成石は少ない。長辺0.8m、短辺0.7m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は土師質小皿（552）が出土している。

ＳＵ１－15（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｈ－５付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈する。北西隅には50×70㎝の石が置かれている。長辺1.4m、短辺1.1m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は土師質小皿（546・551）、土師質皿（553）、瓦器椀（568～570）、土師質羽釜（575）、瓦質羽釜（579）、瓦質壷（585）、瓦質甕（590・591）が出土している。

ＳＵ１－16（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｈ～ｉ－５付近に位置する。区画構成石は明確でないが、南北方向の石の並び方から長辺1.1m、短辺0.7mと考えられる。

［遺物］　遺物は土師質小皿（549）、土師質羽釜（573）、瓦質羽釜（578）、備前壷（586）が出土している。

ＳＵ１－17（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｉ－５付近に位置する。方形の区画を呈する。区画構成石は北側は流失している。一辺１mと考えられる。

［遺物］　遺物は青磁碗（571）、瀬戸施釉陶器脚部（572）が出土している。

ＳＵ１－18（西側大区画）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｉ－６付近に位置する。長方形の区画を呈する。長辺1.2m、短辺0.6m。下部からは施設等は検出されなかった。

［遺物］　遺物は瓦器椀（567）、土師質羽釜（574）が出土している。

ＳＵ６～10

いずれも、遺構面上層から検出された集石遺構である。東西に長方形に伸び、南北に並ぶ。

ＳＵ６（第157・161図、図版38）

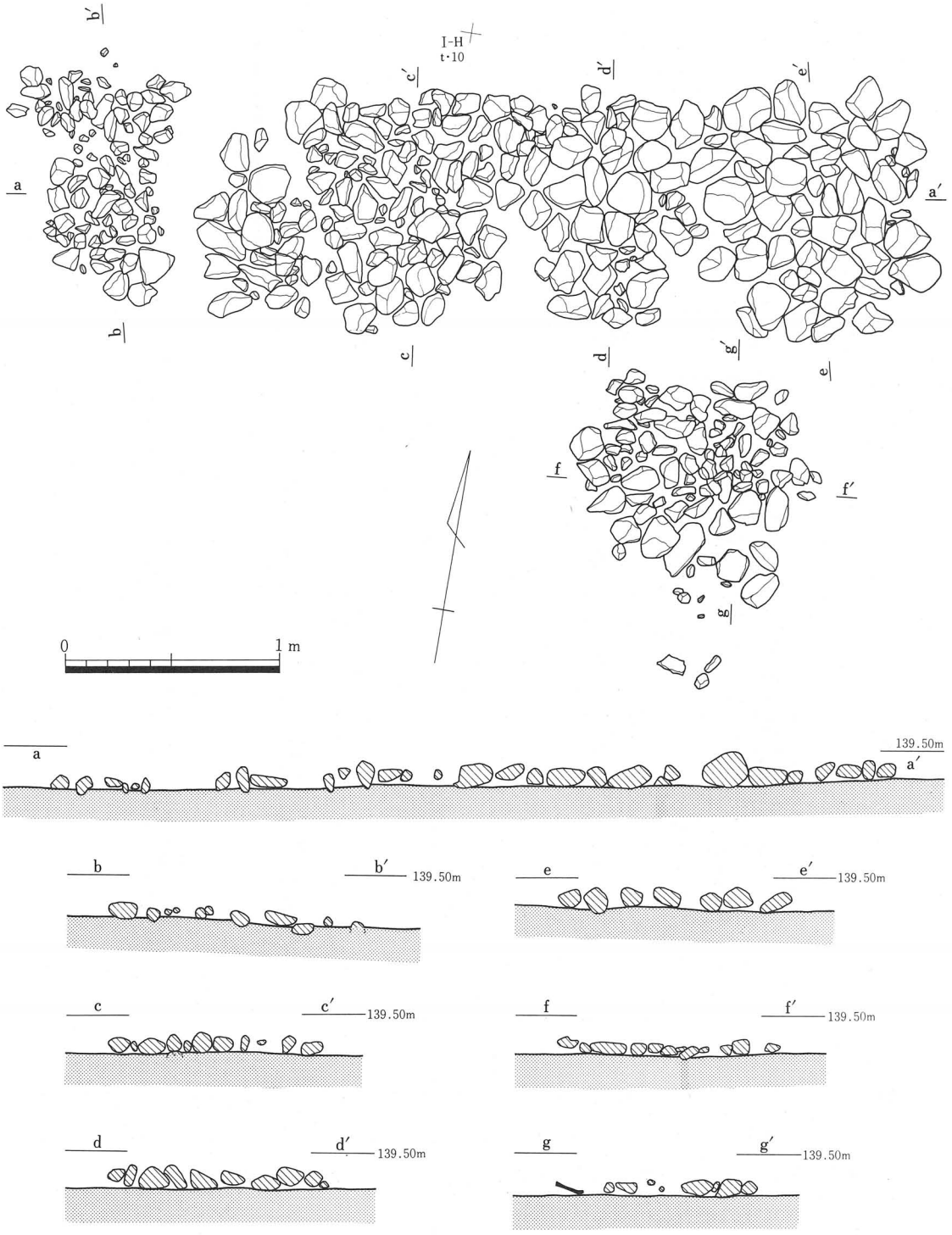
ＳＵ６－１

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｓ～ｔ－10付近に位置する。平面形は楕円形を呈する。石は一重で平らに敷かれている。南側にはやや大きめの石（15×20㎝）がある。長軸1.17m、短軸1.05m。下部には施設は認められない。

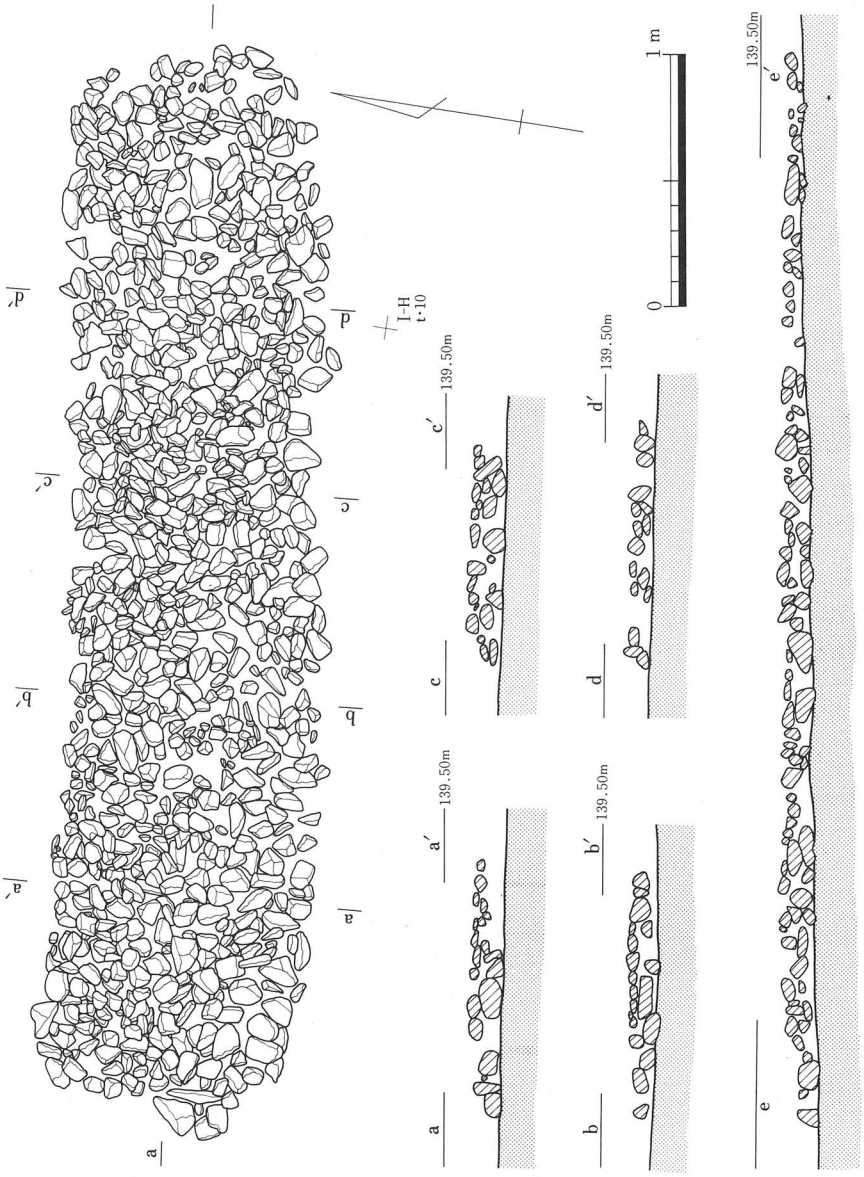
［遺物］　遺物は陶器摺鉢（592）が出土している。

ＳＵ６－２

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｓ～ｔ－10付近に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重でやや大きめの石（15×20㎝）が、ほぼ平らに敷かれている。この区画は更に５区画に細分できる可能性がある。長軸4.41m、短軸1.26m。下部には施設は認められない。



第157図　ＳＵ６遺構実測図（1/30）



第158図　ＳＵ７遺構実測図（1/30）

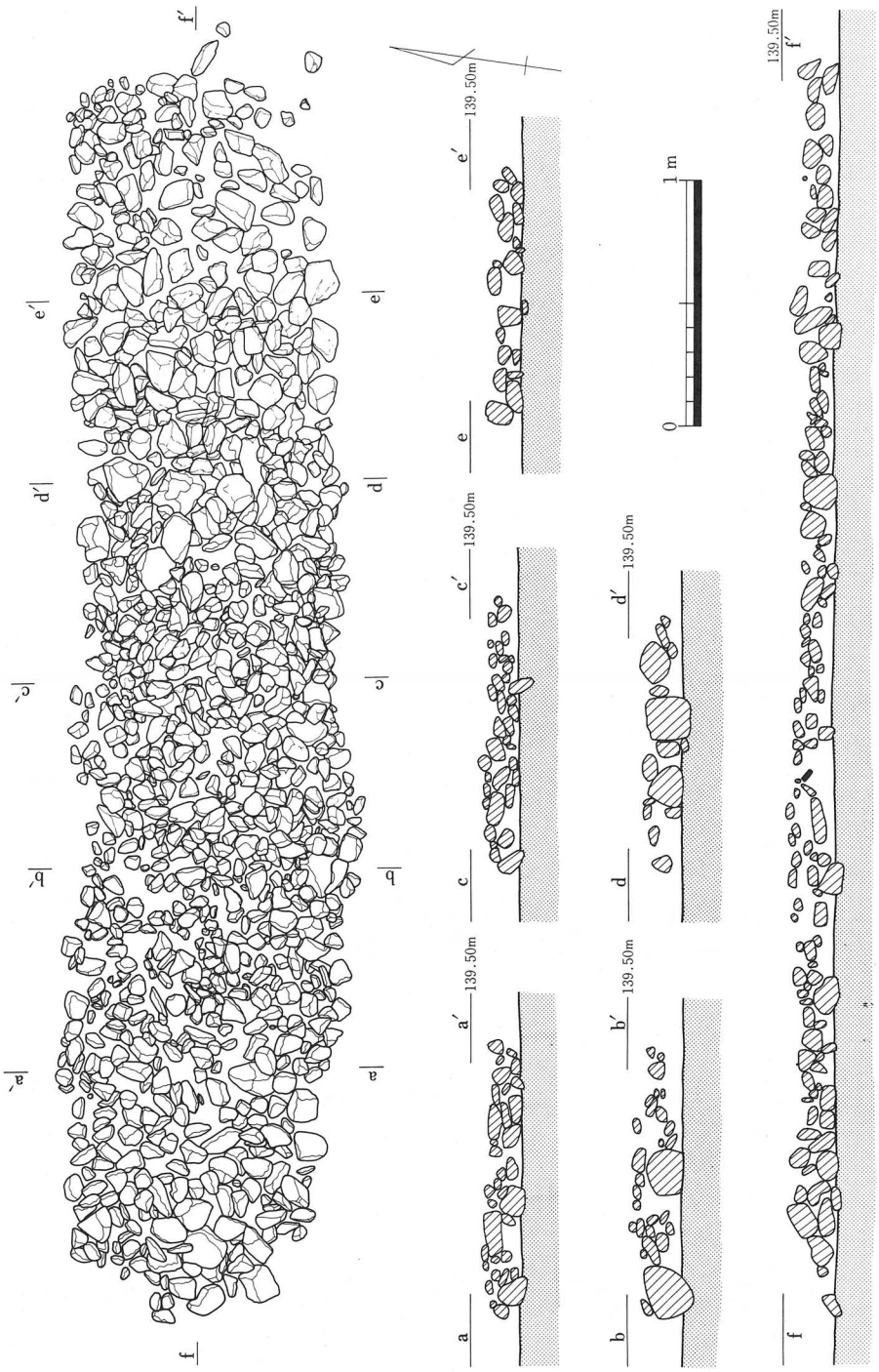
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｓ～ｔ－10付近に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重でやや大きめの石（15×20㎝）が、ほぼ平らに敷かれている。この区画は更に５区画に細分できる可能性がある。長軸4.41ｍ、短軸1.26ｍ。下部には施設は認められない。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＵ７（第158・161図、図版38）

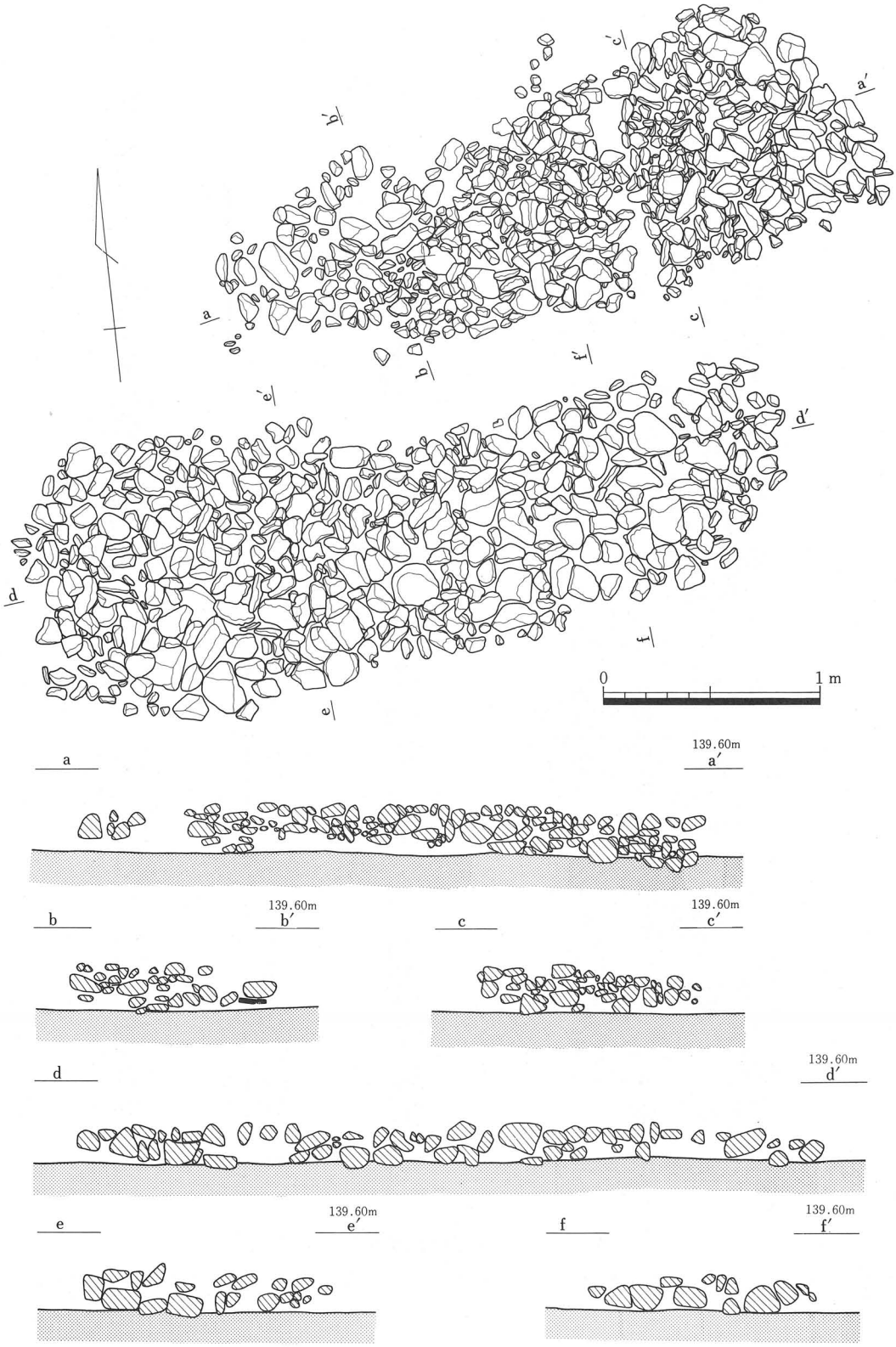
［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｓ～ｔ－９付近に位置し、ＳＵ６の北側に並列する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重で最大10×10㎝の石が、ほぼ平らに敷かれている。この区画



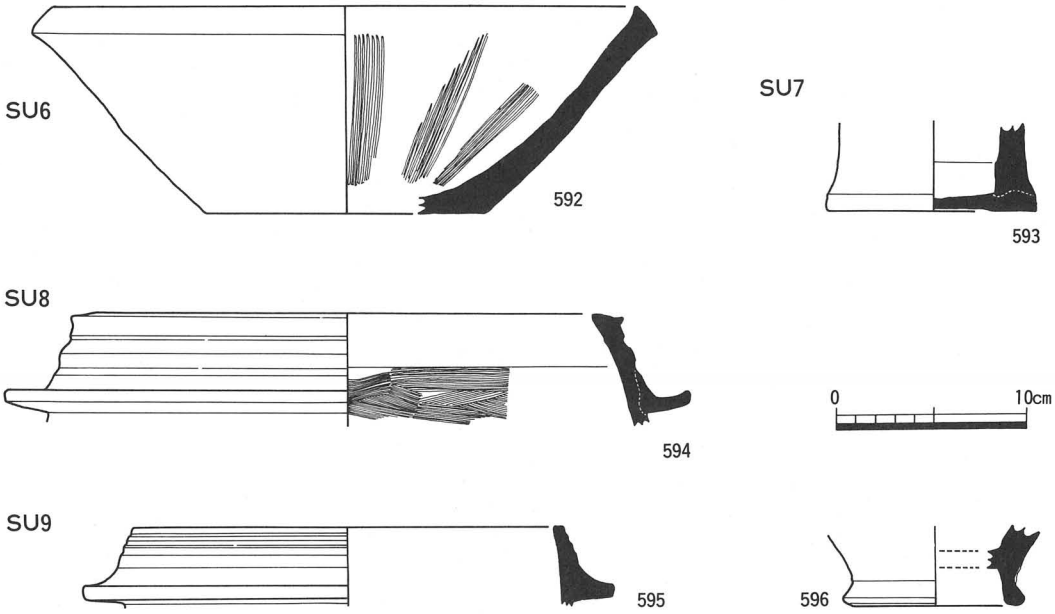
第159図　ＳＵ８遺構実測図（1/30）

も更に小区画に細分できる可能性がある。長軸4.13m、短軸1.08m。下部には施設は認められない。

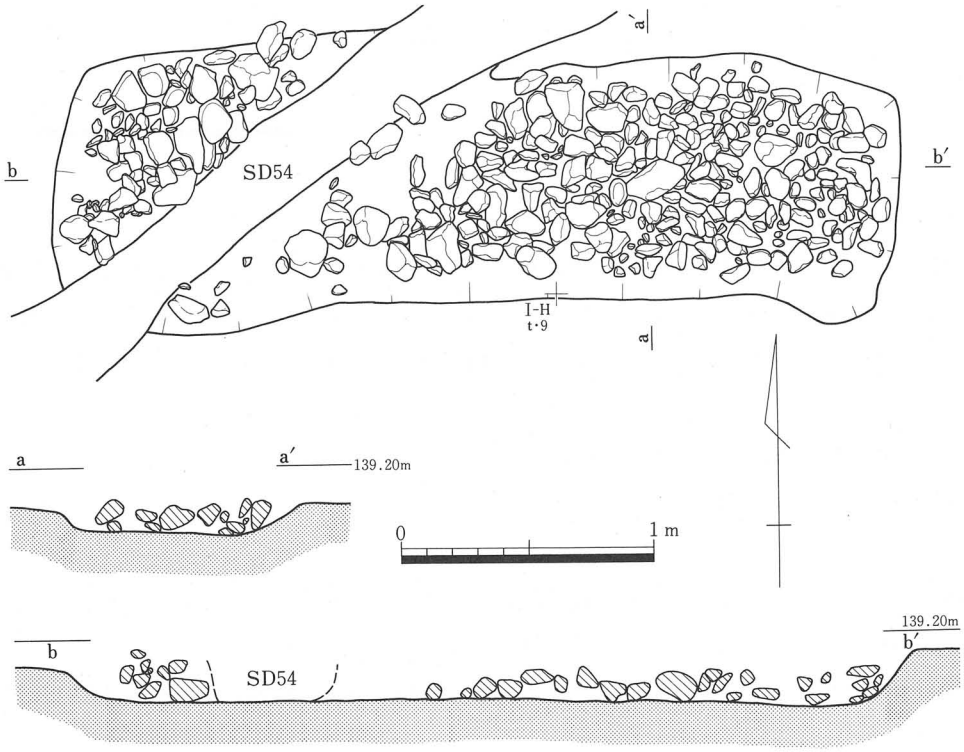
［遺物］　遺物は瀬戸瓶子底部（593）が出土している。



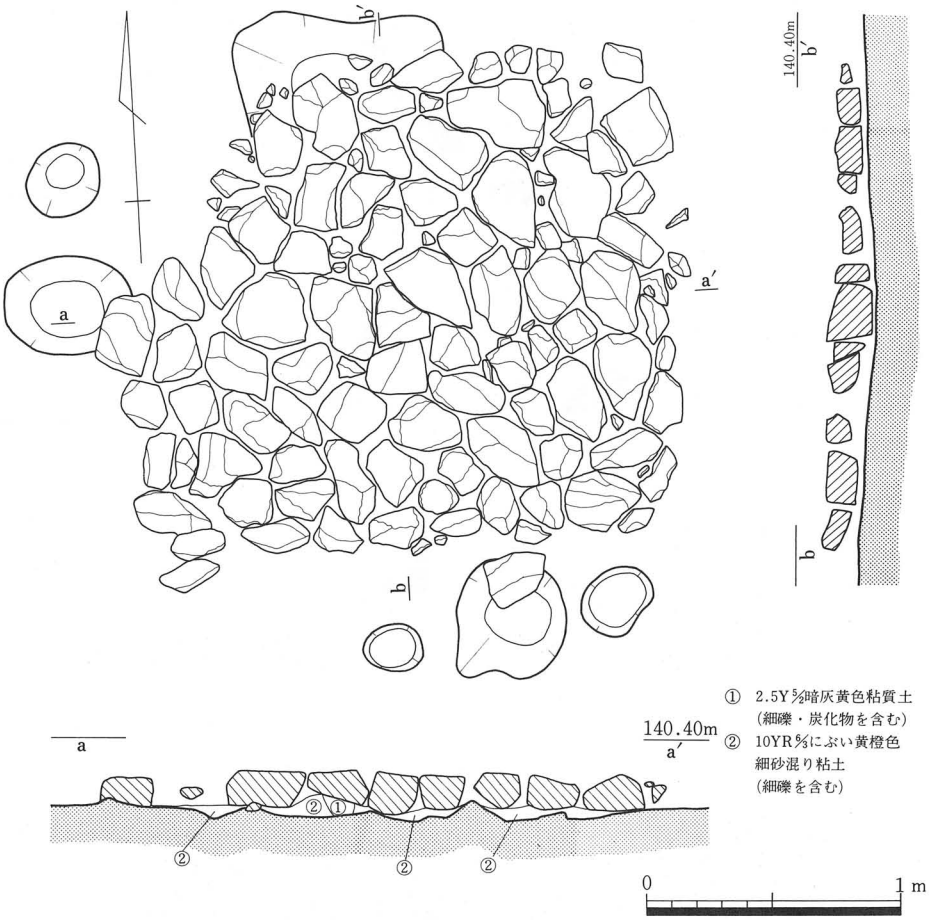
第160図　ＳＵ９遺構実測図（1/30）



第161図　ＳＵ６・ＳＵ７・ＳＵ８・ＳＵ９遺物実測図



第162図　ＳＵ10遺構実測図（1/30）



第163図　ＳＵ11遺構実測図（1/30）

ＳＵ８（第159・161図、図版38）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｓ～ｔ－９付近に位置し、ＳＵ７の北側に並列する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重で最大10×10㎝の石が、ほぼ平らに敷かれている。東、西端は石がやや大きく石の集石もやや粗である。長軸4.81ｍ、短軸1.11ｍ。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は瓦質羽釜（594）が出土している。

ＳＵ９（第161・161図、図版38）

ＳＵ９－１

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｓ～ｔ－８～９付近に位置し、ＳＵ８の北側に並列する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重で最大15×20㎝の石が、ほぼ平らに敷かれている。ＳＵ１～10の中では集石の状態は比較的やや粗である。長軸3.51ｍ、短軸1.34ｍ。下部には施設は認められない。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＵ９－２

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｓ～ｔ－９付近に位置し、ＳＵ８の北側に並列する。平面形は長楕円形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重で最大10×10㎝の石が、ほぼ平らに敷かれている。ＳＵ１～10の中では比較的やや粗である。この集石は土壙状を呈している。長軸3.28m、短軸1.88m、深さ0.16m。下部には施設は認められない。

［遺物］　遺物は瀬戸灰釉陶器高台部（596）、瓦質羽釜（595）が出土している。

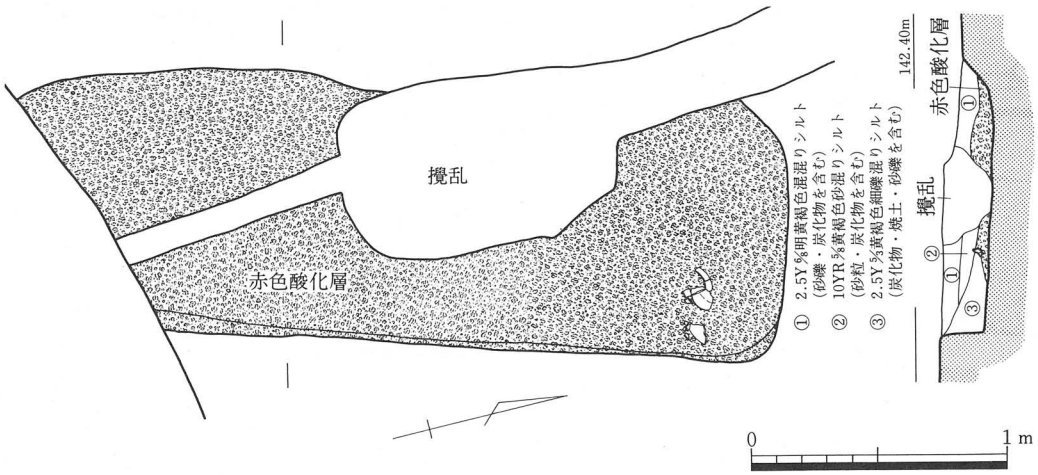
ＳＵ10（第162図・図版39）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｓ～ｔ－８付近に位置し、ＳＵ８の北側に並列する。ＳＵ９と暗渠によって一部削平を受けている。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は集石で薄い。最大15×10㎝の石が、ほぼ平らに敷かれている。西側は集石の状態がやや粗である。この集石も土壙状を呈している。長軸3.25m、短軸1.12m、深さ0.16m。下部には施設は認められない。

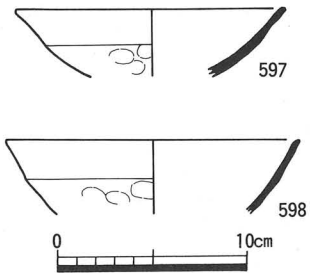
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＵ11（第163図、図版39）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｍ－12付近に位置する。平面形は方形を呈するが北西隅の部分は一部欠損している。主軸は南北を示す。石上面が平らなやや角ばった最大20×15㎝ものを選び敷かれており、上面は平らな状態に集石されている。一辺2.23m、高さ0.25m。下部には施設は認められない。



第164図　ＳＹ４遺構実測図（1/30）



第165図　ＳＹ４遺物実測図

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

窯状遺構（ＳＹ）

ＳＹ４（第164・165図、図版40）

［遺構］　Ｉ－Ｇ－ｓ－20付近に位置する。平面形は方形を呈するが南側の部分と中央部は暗渠によって削平されている。窯全体部全体は赤色を帯た酸化層が残存し、窯体内部床面は瓦器埦が残

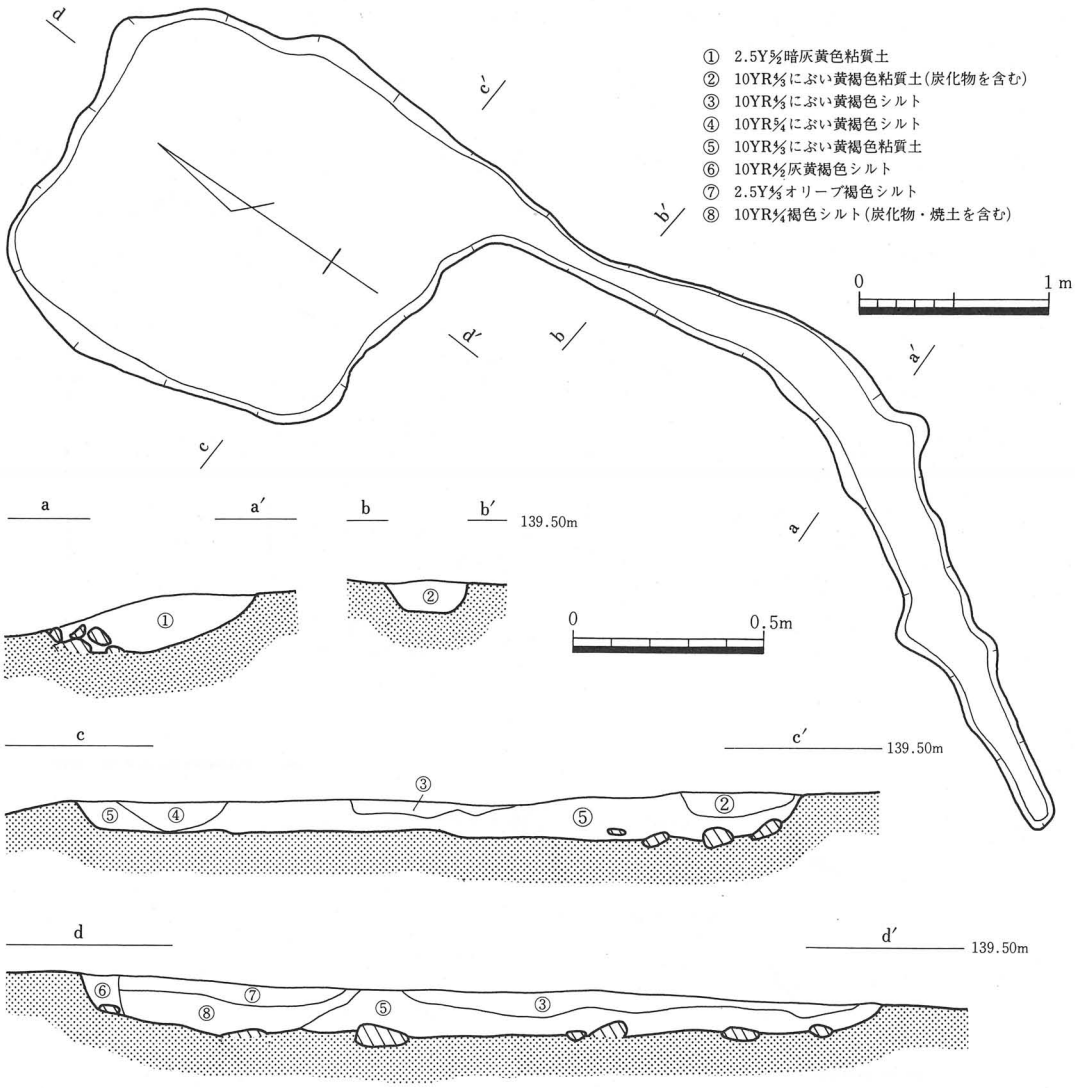
存していた。主軸方向N－18°－E、残存長3.1m、残存幅1.15m、壁の残存高0.17m、酸化層の層厚0.02～0.07m。

［遺物］　遺物は瓦器埦（597・598）が出土している。

ＳＹ10（第166図、図版40）

［遺構］　Ｉ－Ｈ－ｒ－10～11付近に位置する。平面形が不定方形を呈する北側部分と溝状遺構がセットとなっている。窯体と考えられる北側部分の西側壁は一部残存し、赤色を帯た酸化層が残存していた。埋土中には焼土、炭化物が含まれている。この南隅から検出長4.5mの溝がはしっている。窯体部長軸2.1m、短軸1.5m、壁の残存高0.17m、酸化層の層厚0.1m。溝の幅0.5m、深さ0.2m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



第166図　ＳＹ10遺構実測図　平面（1/40）・断面（1/20）

第５節　３地区

１．概略（付図９）

３地区と６地区は中位段丘の上段に位置する。３地区では中世と近世に属する遺構が集中している。特に、近世は３地区の北側から６地区に渡って分布している。

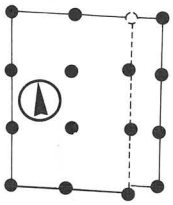
検出された遺構は建物、溝、土壙、井戸、集石などが検出されている。

２．遺構、遺物

建物（ＳＤ）

ＳＢ59（第167図、図版41）

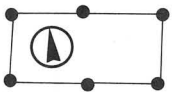
［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｈ－12～13付近に位置する。主軸方向はＮ－11°－Ｅを示す。桁行３間（5.8m）×梁行３間（4.9m）の建物である。東側は幅0.8mの付け庇と思われる。桁行2.0m、梁行は２m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m。



第167図　ＳＢ59遺構図

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ60（第168図、図版41）

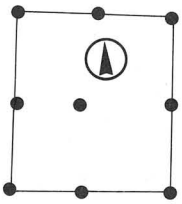


第168図　ＳＢ60遺構図

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｈ～ｉ－13～14付近でＳＢ59の南側1.5mに位置する。主軸方向Ｎ－79°－Ｗを示す建物で、桁行２間（５m）×梁行１間（2.3m）の建物である。この建物とＳＢ59とはセット関係を持つものと考えられる。桁行2.5m、梁行は2.3m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ61（第169図、図版41）

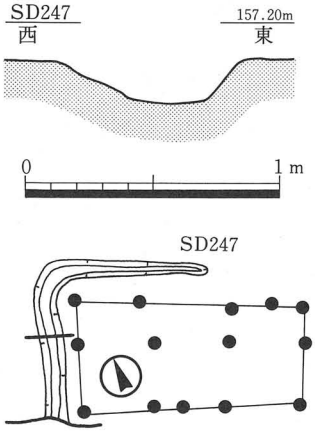


第169図　ＳＢ61遺構図

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｅ～ｆ－13～14付近でＳＢ60の東側8.5mに位置する。主軸方向はＮ－４°－Ｅを示す。桁行２間（6.2m）×梁行２間（5.3m）の建物である。中央に柱穴を有する。桁行2.5m、梁行は2.3m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

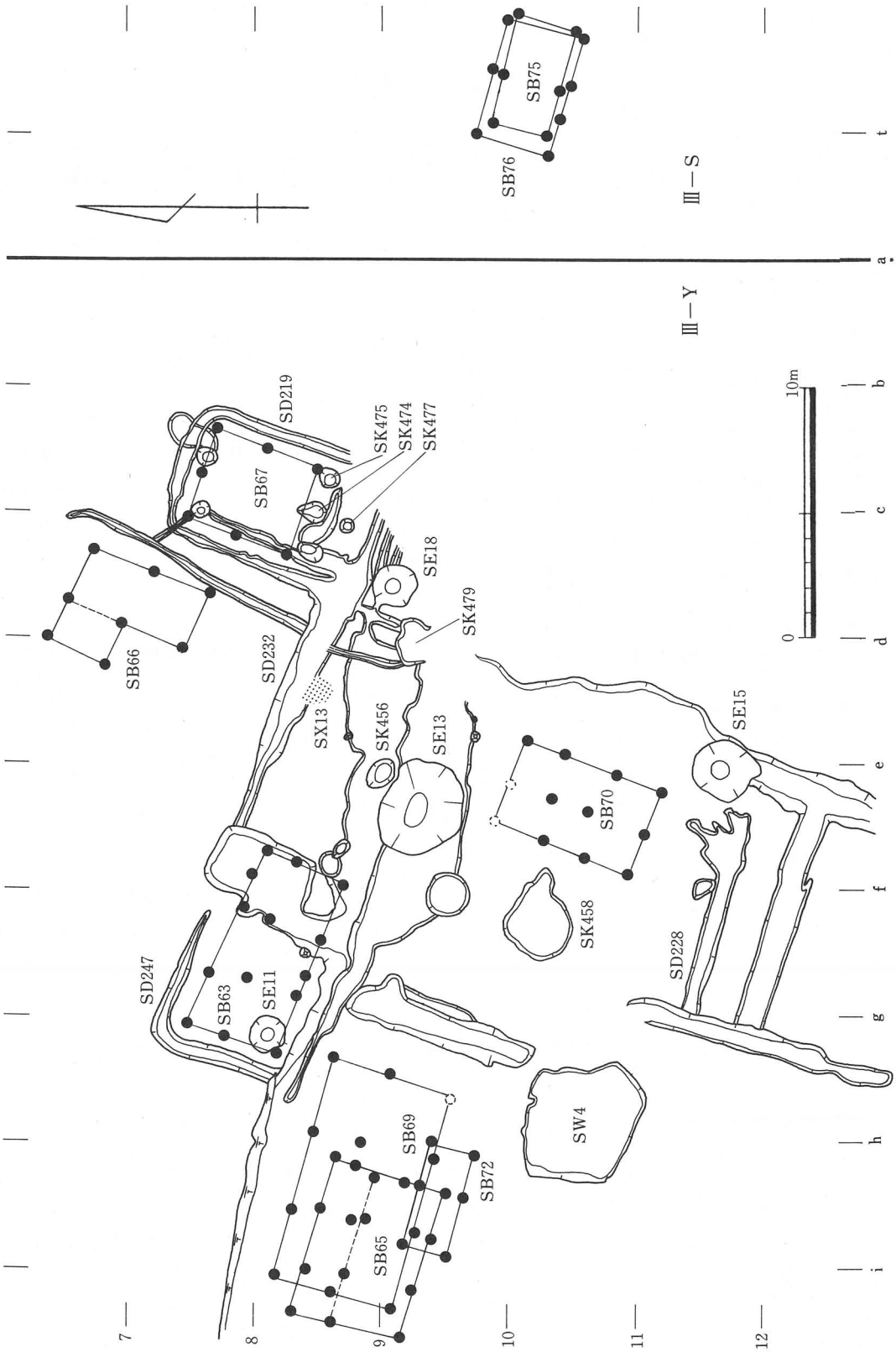
ＳＢ63（第170図、図版42）



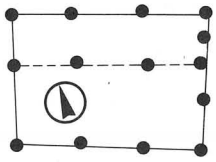
第170図　ＳＢ63遺構図及び溝断面図（1/30）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｅ～ｇ－７～８付近でＳＥ11を切っている。建物西側から北側には一部溝ＳＤ247が巡る。主軸方向はＮ－75°－Ｗを示す。桁行４間（7.4m）×梁行２間（3.4m）の建物である。この建物の柱並びは不規則で柱間は桁行南側の東端から2.5m、1.5m、１m、2.5m。桁行北側は1.1m、３m、1.6m、2.4m。梁行は北から1.6m、1.7m。柱穴の径0.7m、深さ0.2m。

ＳＤ247は幅0.38m、深さ0.16m。



第171図　3地区Ⅲ－S・Ⅲ－Y建物配置図（1/250）



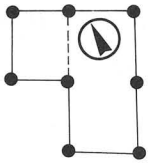
第172図　ＳＢ65遺構図

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ65（第172図、図版42）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｈ～ｊ－８～９付近でＳＢ69・72と重複する。主軸方向Ｎ－70°－Ｗを示す建物で、桁行３間（7.2m）×梁行２間（4.8m）の建物である。東側梁行は４間である。北側は幅２ｍの庇と考えられる。桁行1.7m、梁行は2.8m。東側の梁行は1.5m、1.5m、１ｍ、0.8m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



第173図　ＳＢ66遺構図

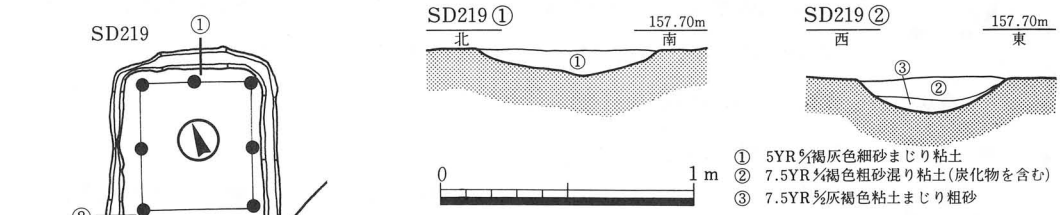
ＳＢ66（第173図）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｃ～ｄ－６～７付近に位置する。主軸方向Ｎ－20°－Ｅを示し、桁行２間（５ｍ）×梁行２間（４ｍ）の建物である。西側隅の柱穴は削平されているようである。柱間は桁行2.5m、梁行は２ｍ。柱穴の径0.3m、深さ0.2m。

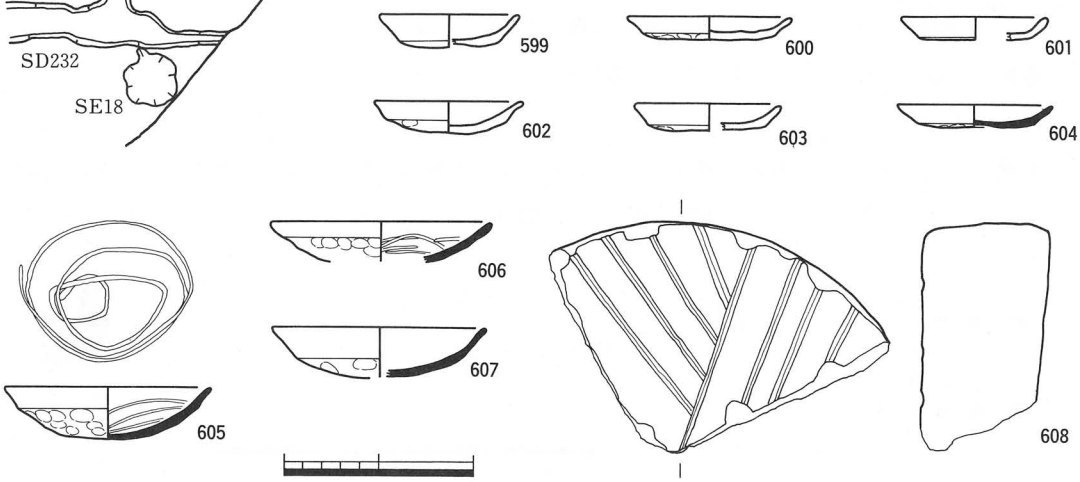
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＢ67（第174・175、図版43・114・115）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｂ～ｃ－７～８付近でＳＢ66の東2.5mに位置する。主軸方向Ｎ－20°－Ｅを示し、桁行２間（4.2m）×梁行２間（3.4m）の建物である。建物の周囲にはＳＤ219が巡る。柱間は桁行2.1m、梁行は1.7m。柱穴の径0.6m、深さ0.5m。



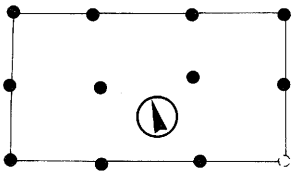
第174図　ＳＢ67遺構図及び溝断面図（1/30）



第175図　ＳＢ67に伴うＳＤ219遺物実測図

ＳＤ219は建物の外側0.7mで周囲を巡り、南西隅でＳＤ232と合流する。ＳＤ232は建物に対して直角に西に5.7mのびる。ＳＤ219は最大上端幅0.7m、下端幅0.6m、深さ0.15m。

［遺物］　建物からは図示可能な遺物は出土しなかったがＳＤ219からは土師質小皿（599～603）、瓦器皿（604）、瓦器椀（605～607）、石臼（608）が出土している。

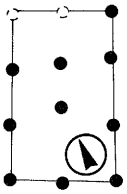


第176図　ＳＢ69遺構図

ＳＢ69（第176図、図版42）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｇ～ｉ－８～９付近でＳＢ65・72と重複する。主軸方向はＮ－75°－Ｗを示し、桁行３間（９ｍ）×梁行２間（５ｍ）の建物である。南東隅の柱穴は削平されている。柱間は桁行３ｍ、梁行は2.5m。柱穴の径0.3m、深さ0.3m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



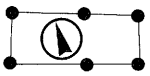
第177図　ＳＢ70遺構図

ＳＢ70（第177図、図版43）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｅ－10付近に位置する。主軸方向はＮ－20°－Ｅを示し、桁行３間（5.7m）×梁行２間（3.6m）の建物である。北西の柱穴は削平されている。柱間は桁行1.9m、梁行は1.8m。柱穴の径0.3m、深さ0.3m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

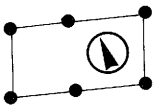
ＳＢ72（第178図、図版42）



第178図　ＳＢ72遺構図

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｇ～ｉ－８～９付近でＳＢ65・69と重複する。主軸方向はＮ－75°－Ｗを示し、桁行２間（4.2m）×梁行１間（1.8m）の建物である。柱間は桁行2.1m、梁行は1.8m。柱穴の径0.3m、深さ0.3m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



第179図　ＳＢ75遺構図

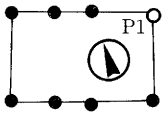
ＳＢ75（第179図）

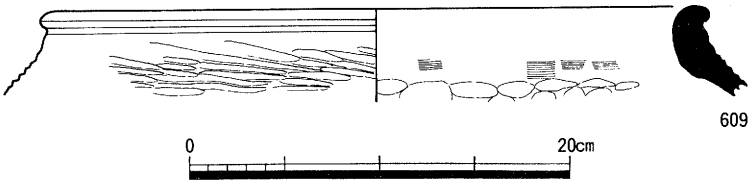
［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｓ－10付近でＳＢ76と重複する。主軸方向はＮ－75°－Ｗを示し、桁行２間（4.5m）×梁行１間（2.4m）の建物である。柱間は桁行2.3m、梁行は2.4m。柱穴の径0.2m、深さ0.3m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

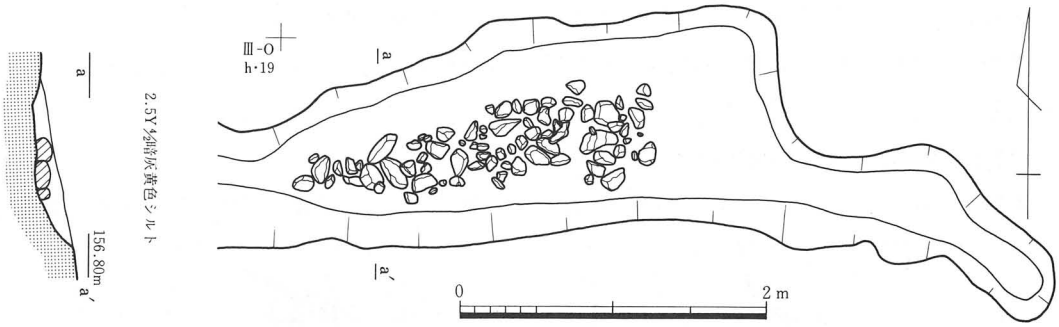
ＳＢ76（第180図）

［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｓ－10付近でＳＢ75と重複する。主軸方向はＮ－75°－Ｗを示し、桁行３間（５ｍ）×梁行１間（３ｍ）の建物である。柱間は桁行2.5m、梁行は３ｍ。柱穴の径0.5m、深さ0.3m。

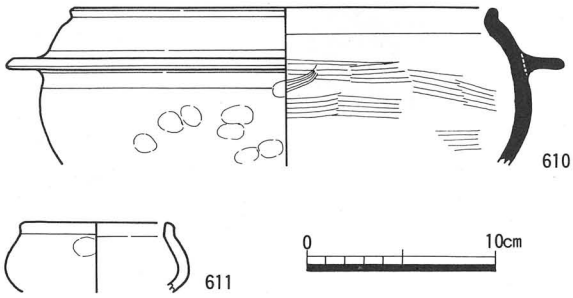




第180図　ＳＢ76遺構図及び遺物実測図



第181図　ＳＤ209遺構実測図（1/50）



第182図　ＳＤ209遺物実測図

［遺物］　遺物は瓦質甕（609）が出土している。

溝（ＳＤ）

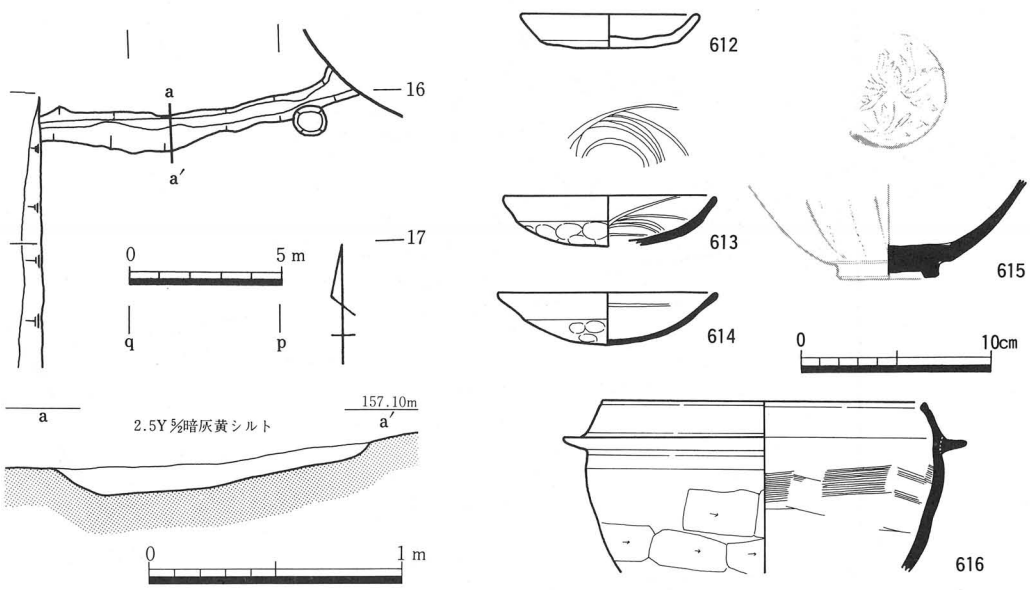
ＳＤ209（第181・182図、図版44）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｇ～ｉ－19付近に位置し、東西に走る溝である。東側溝底部には最大26×16㎝の河原石の集中がみられる。検出長14ｍ、最大上端幅1.4ｍ、下端幅1.1ｍ、深さ0.2ｍ。

［遺物］　遺物は土師質壺（611）と瓦質の羽釜（610）が出土している。

ＳＤ213（第183図、図版114・115）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｏ～ｑ－16付近に位置し、東西に走る溝である。西側は削平され、東側は調



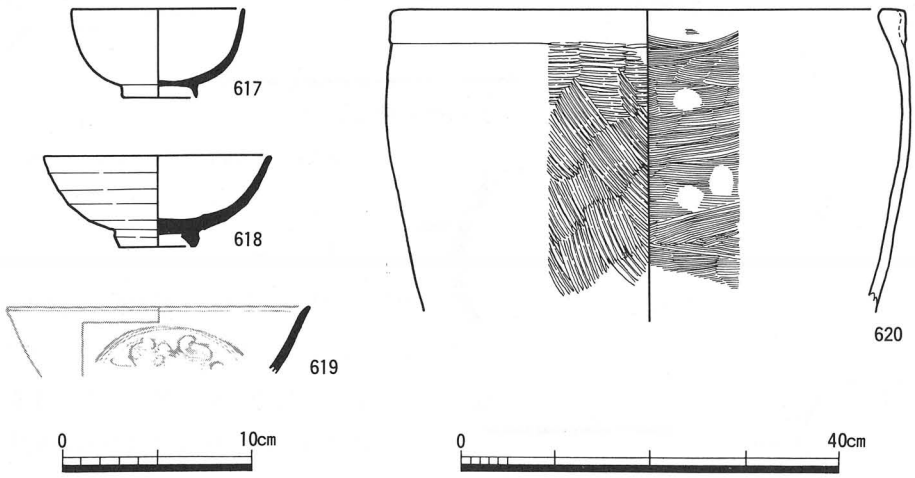
第183図　ＳＤ213遺構実測図　平面（1/250）・断面（1/30）及び遺物実測図

査区外にのびる。検出長10.3m、最大上端幅1.35m、下端幅0.45m、深さ0.17m。

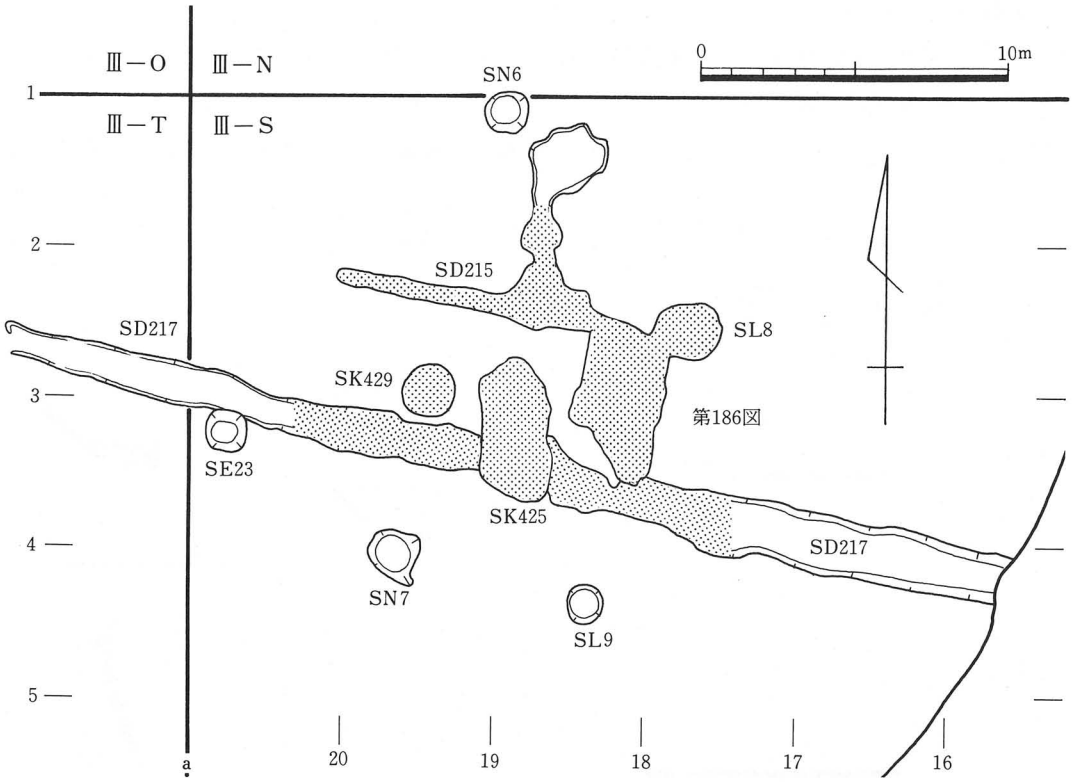
［遺物］　遺物は土師質小皿（612）と瓦器皿（613・614）、瓦質羽釜（616）、青磁碗（615）が出土している。

ＳＤ215（第184～186図、図版44・114）

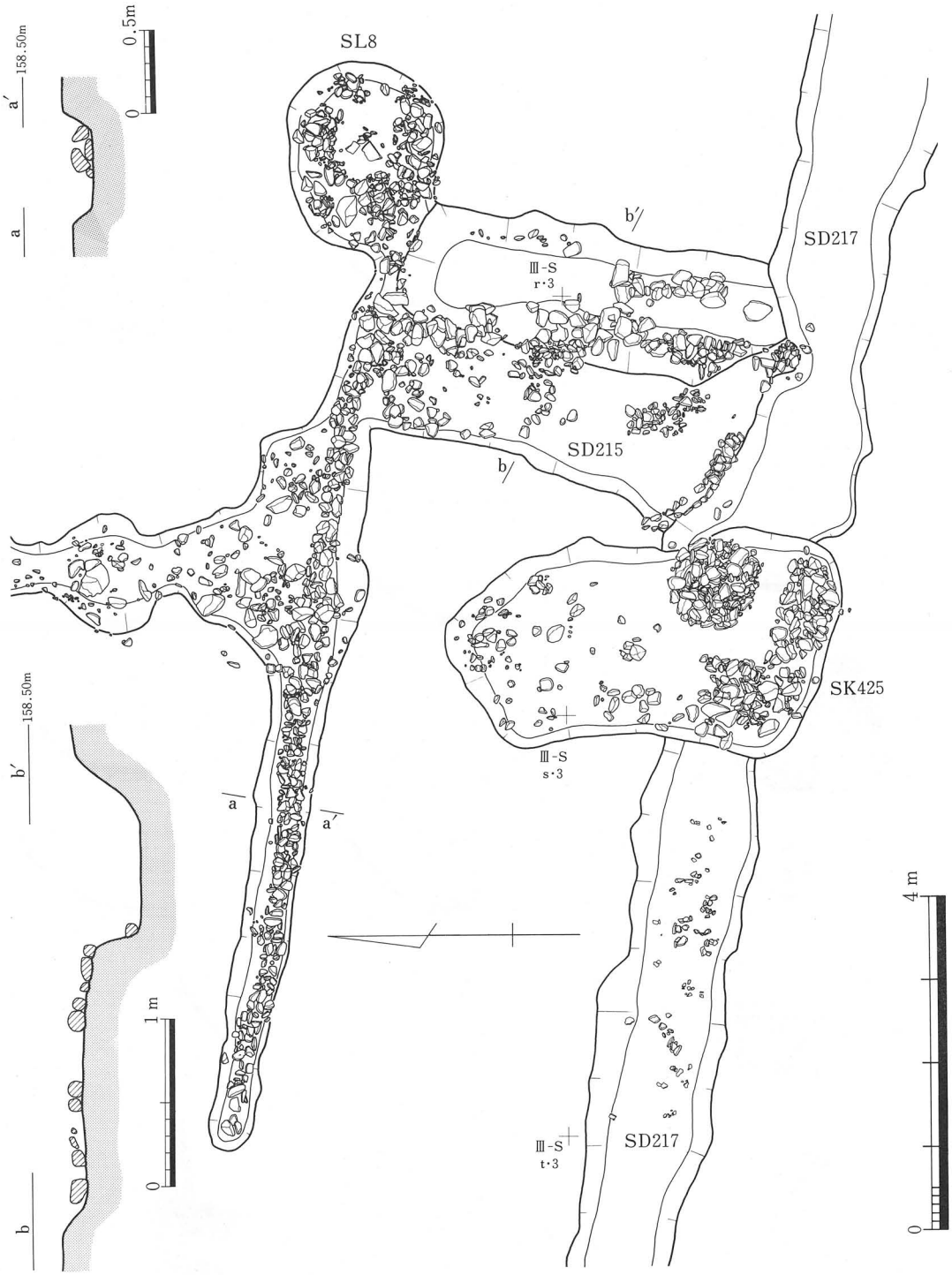
［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｑ～ｓ－１～３付近に位置し、東西に走り、東端で南側に屈曲する。溝底部



第184図　ＳＤ215遺物実測図



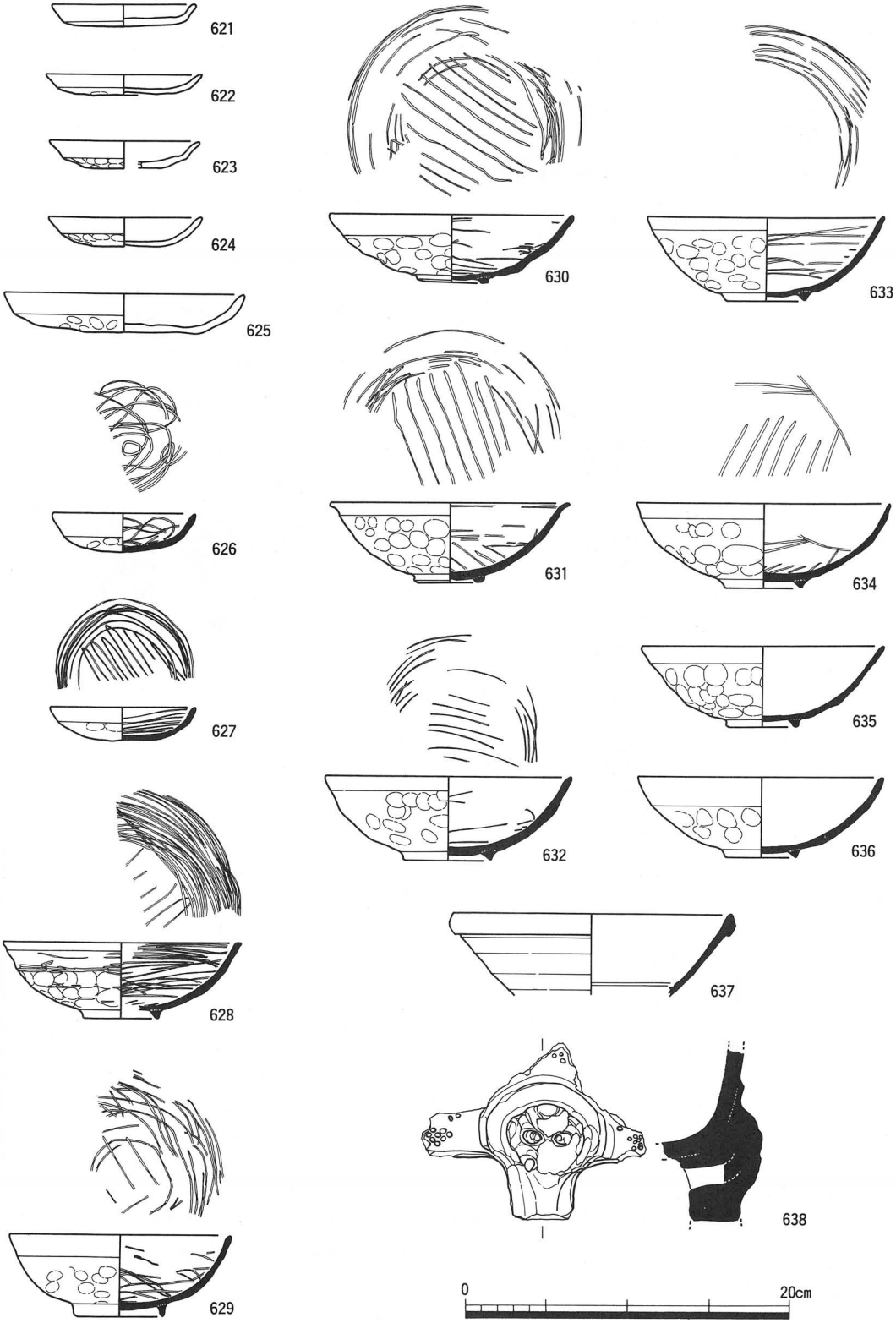
第185図　ＳＤ215・ＳＤ217遺構配置図（1/250）



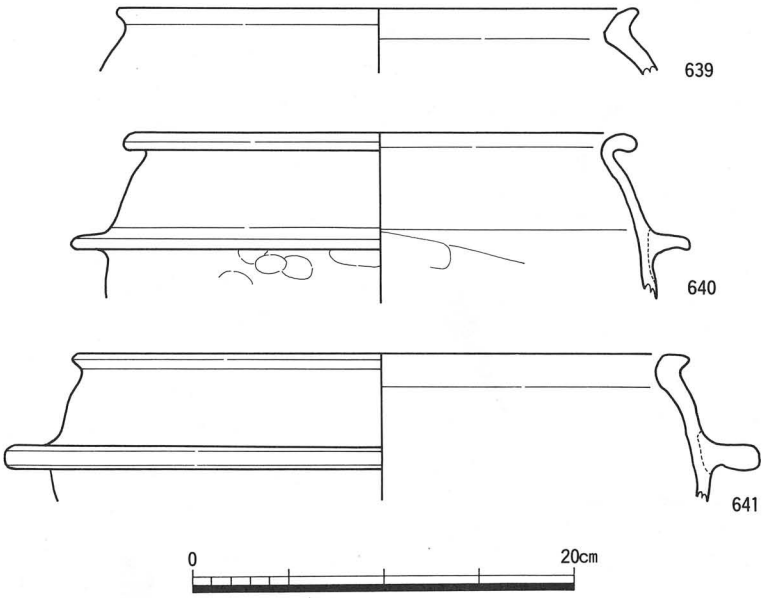
第186図　ＳＤ215・ＳＤ217遺構実測図　平面（1/80）・断面（1/40）

の南側には最大10×10㎝の河原石の集石がある。検出長27.2m、最大上端幅1.5m、下端幅1.1m、深さ0.2m。

［遺物］　遺物は土師質甕（620）、施釉陶器（617・618）、青磁碗（619）が出土している。



第187図　ＳＤ217遺物実測図（１）



第188図　ＳＤ217遺物実測図（２）

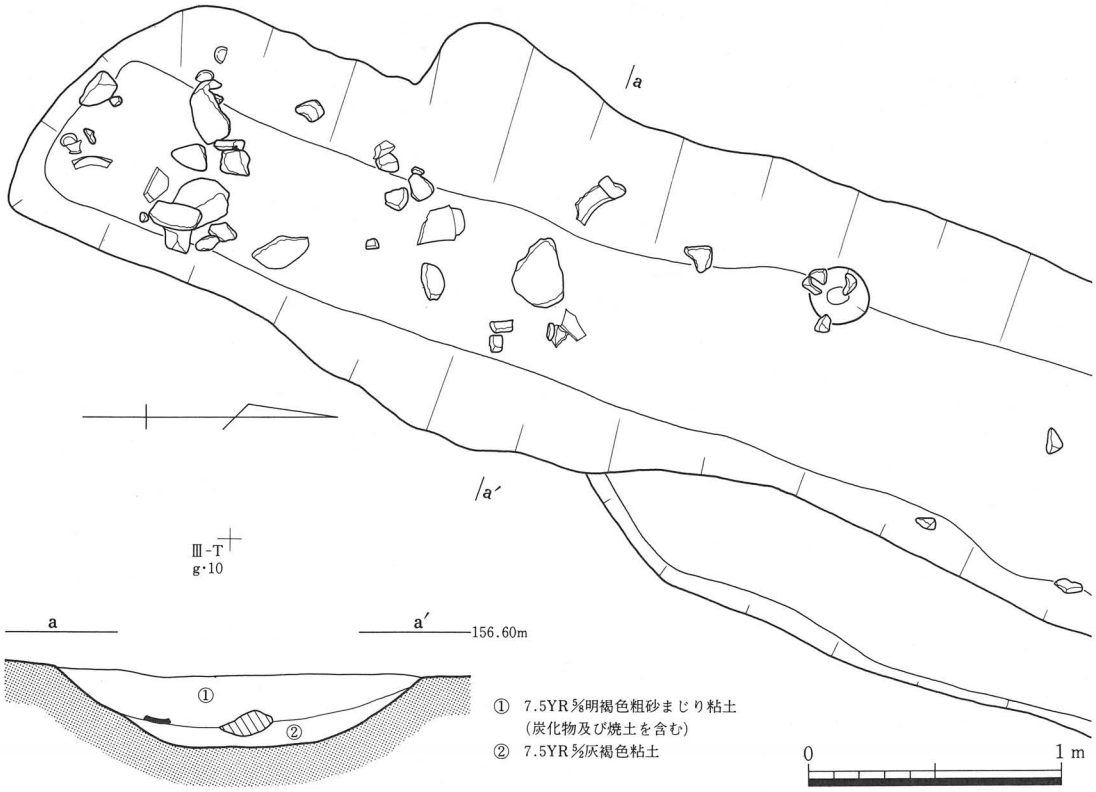
ＳＤ216

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｂ－18～19付近に位置し、南北に走る溝である。北側は削平されている。溝底部の南側には最大10×10㎝の河原石の集石がある。検出長6.31ｍ、最大上端幅2.35ｍ、下端幅0.7ｍ、深さ0.6ｍ。

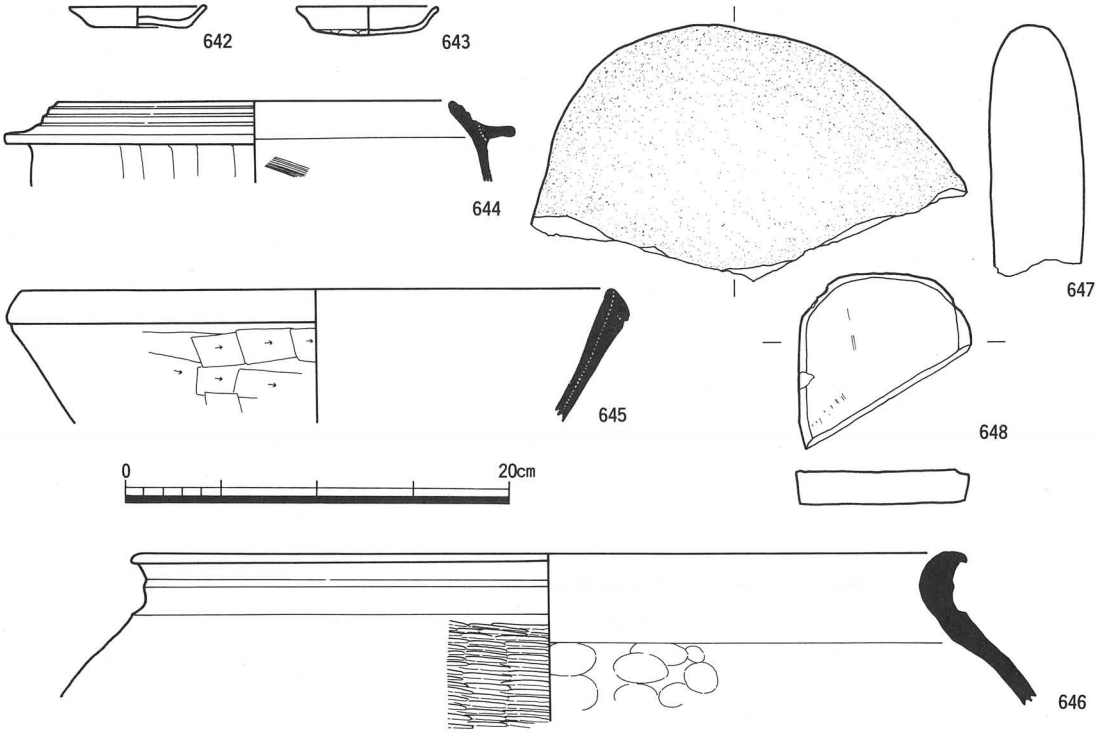
［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ217（第185～188図、図版44・115・116）

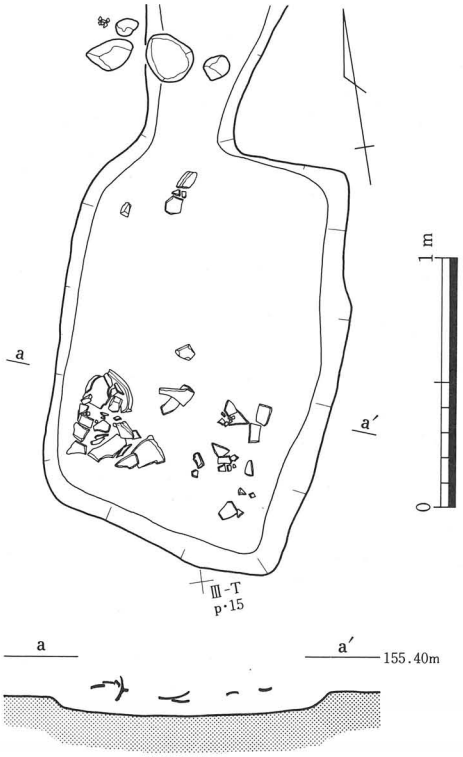
［遺構］　Ⅲ－Ｓ～Ｔ－ｏ～ａ－２～４付近に位置し、約20度北に振って東西に走る直線的な溝である。東側は調査区外に伸びる。ｓ－３付近とａ－２付近で遺物が出土している。検出長33.5



第189図　ＳＤ222遺構実測図（1/30）



第190図　ＳＤ222遺物実測図



第191図　ＳＤ226遺構実測図（1/30）

m、最大上端幅2.25m、下端幅1.4m、深さ0.1m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（621～624）、土師質大皿（625）、土師質羽釜（639～641）、瓦器皿（626・627）、瓦器埦（628～636）、白磁碗（637）、瓦質獣足（638）が出土している。

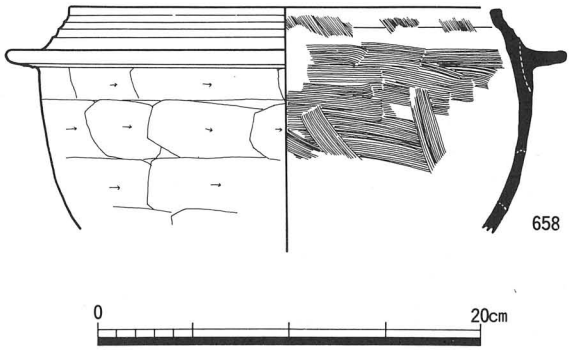
ＳＤ222（第189・190図、図版43・116）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｆ～ｇ－10付近に位置し、約20度東に降って南北に直線的に走る溝である。南端は削平されているがＳＷ４に接続する可能性がある。検出長7.6m、上端幅２m、下端幅1.2m、深さ0.32m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（642・643）と瓦質羽釜（644）、瓦質摺鉢（645）、瓦質甕（646）、砂岩製の自然石の砥石（647）、風字硯を転用した砥石（648）が出土している。

ＳＤ226（第191・192図、図版45・117）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｏ－14付近に位置し、南北に直



第192図　ＳＤ226遺物実測図

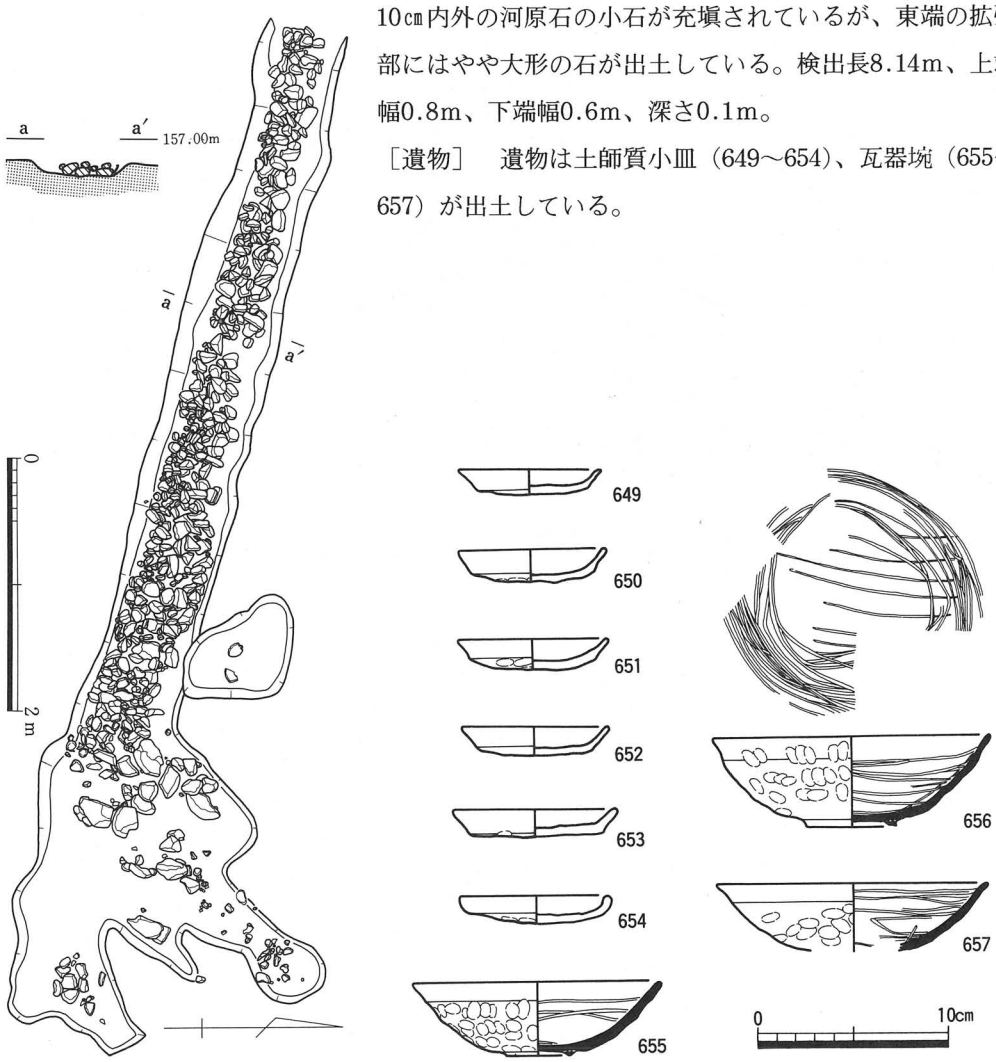
線的に走る溝である。南端長方形の土壙状に広がる。この土壙状の部分から遺物が出土している。検出長6.5m、上端幅１m、下端幅0.6m、深さ0.1m。

［遺物］　遺物は瓦質羽釜（658）が出土している。

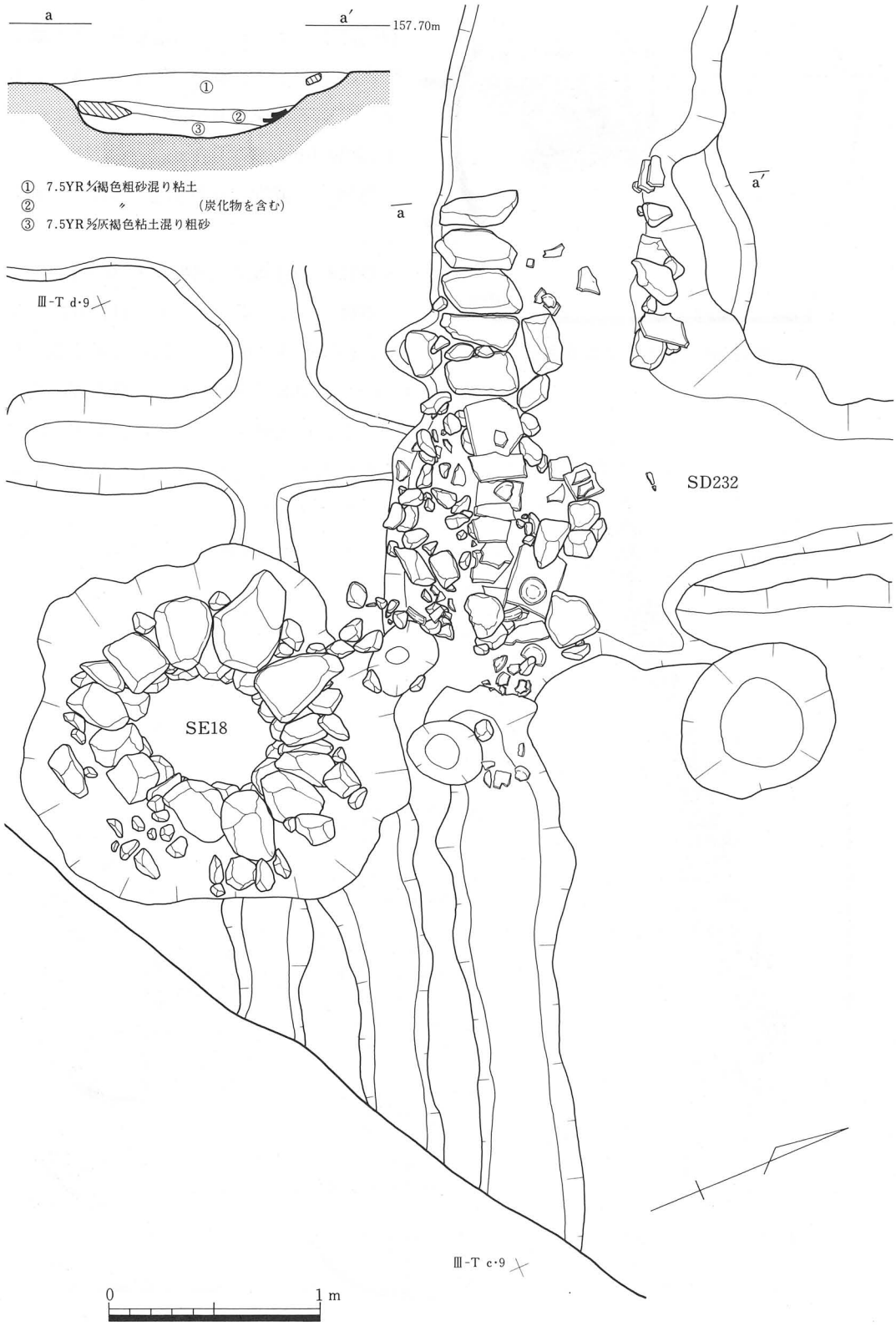
ＳＤ228（第193図、図版43・116・117）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｅ～ｆ－11付近に位置し、約75度西に振って直線的に走る溝である。東端が大きく広がり端部は明瞭でない。溝内部に最大10㎝内外の河原石の小石が充填されているが、東端の拡張部にはやや大形の石が出土している。検出長8.14m、上端幅0.8m、下端幅0.6m、深さ0.1m。

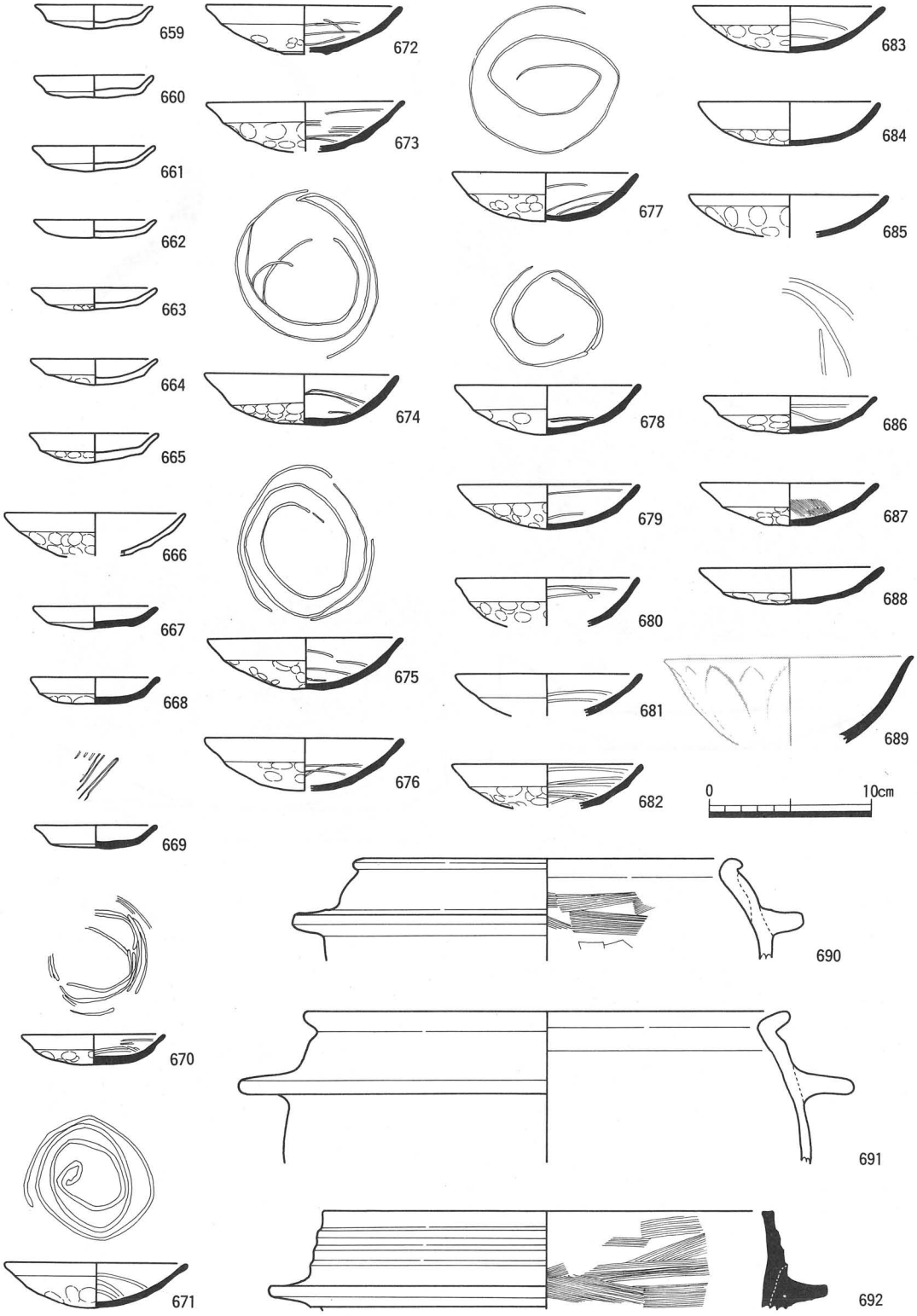
［遺物］　遺物は土師質小皿（649～654）、瓦器椀（655～657）が出土している。



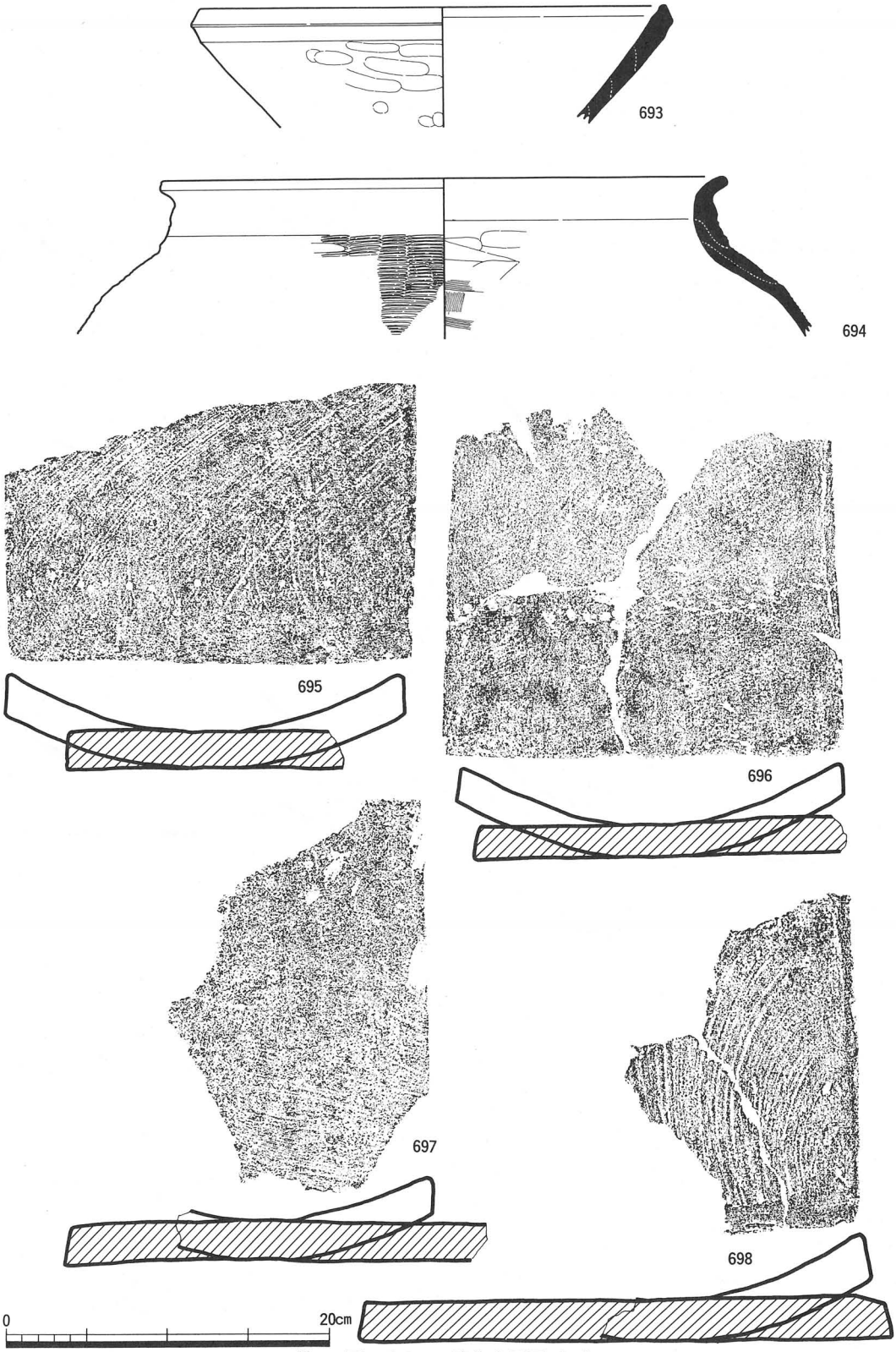
第193図　ＳＤ228遺構（1/60）及び遺物実測図



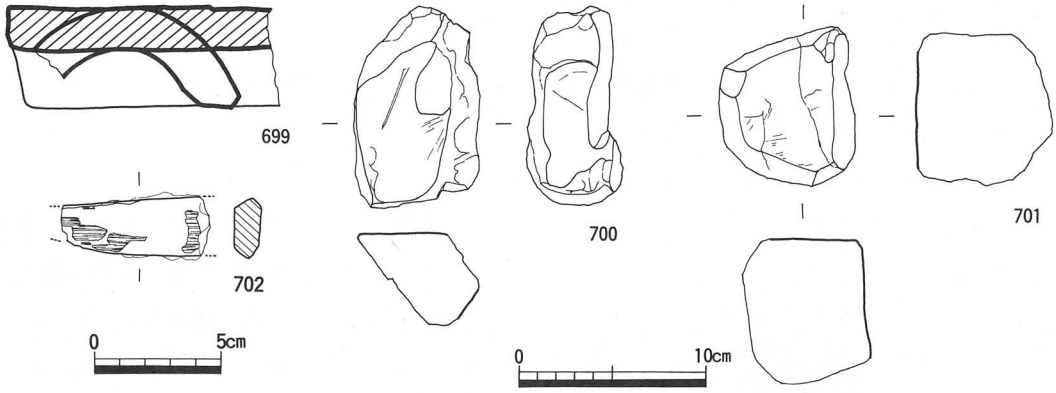
第194図　ＳＤ232・ＳＥ８遺構実測図（1/30）



第195図　ＳＤ232遺物実測図（１）



第196図　ＳＤ232遺物実測図（２）



第197図　ＳＤ232遺物実測図（３）

ＳＤ232（第194～197図、図版43・45・117～119）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｃ～ｄ－８付近に位置し、約65度西に振って直線的に走る溝である。溝はＳＢ67の周囲を巡るＳＤ219南西隅から始まり、約5.7m検出された。東端の南肩に約２ｍの長さに平瓦と河原石（40×20㎝）が暗渠状に付設されている。これらは、近接するＳＥ18と関連するものと思われる。上端幅1.4m、下端幅0.1m、深さ0.1m。

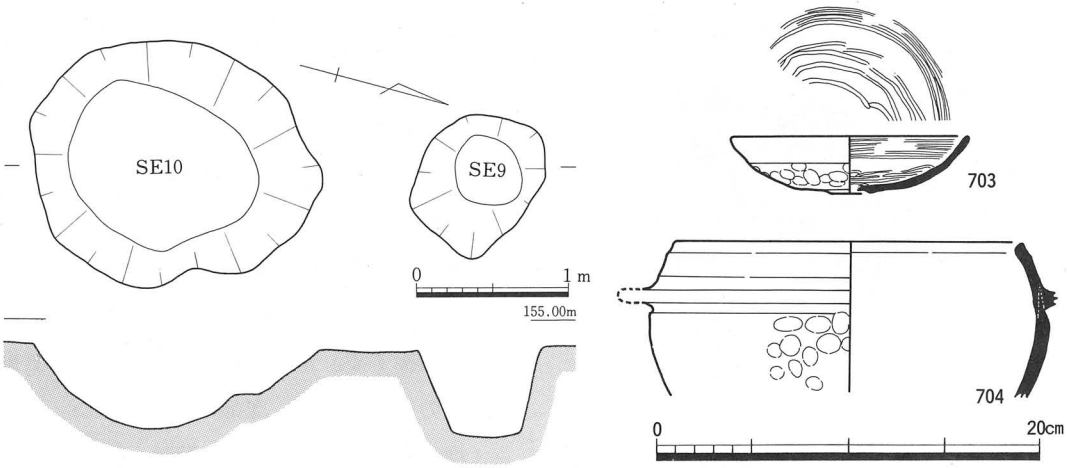
［遺物］　遺物は土師質小皿（659～665）、土師質埦（666）、瓦器皿（667～670）、瓦器埦（671～688）、土師質羽釜（690・691）、瓦質羽釜（692）、須恵質摺鉢（693）、須恵質甕（694）、青磁碗（689）、鉄製品（702）、平瓦（695～698）、丸瓦（699）、砥石（700・701）が出土している。

井戸（ＳＥ）

ＳＥ９（第198図、図版41・46）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｇ－14に位置し、平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。上端長径１ｍ、上端短径0.8m、下端長径0.5m、下端短径0.4m、深さ0.6m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



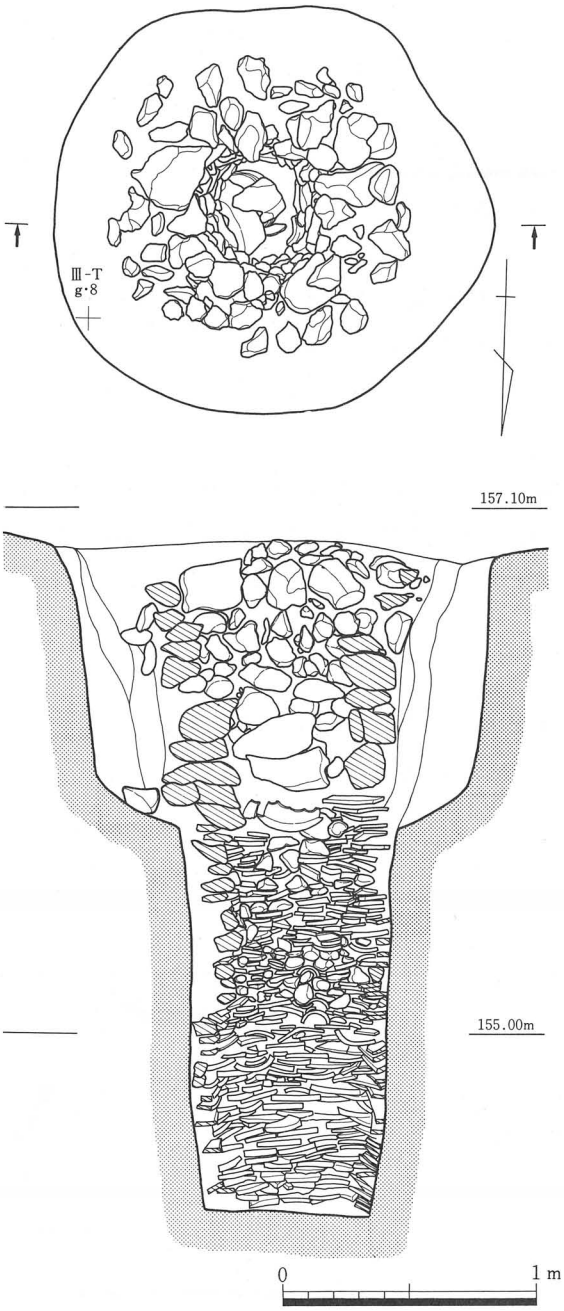
第198図　ＳＥ９・ＳＥ10遺構（1/50）及びＳＥ10遺物実測図

ＳＥ10（第198図、図版41・46）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｇ－14でＳＥ９の南側0.6mに位置し、平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。底部は丸味をもつ。上端長径２ｍ、下端長径1.7m、深さ0.6m。

［遺物］　遺物は瓦器皿（703）、瓦質羽釜（704）が出土している。

ＳＥ11（第199～202図、図版42・47・48・119・120）



第199図　ＳＥ11遺構実測図（1/30）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｇ－８でＳＢ63と重複する。掘方平面形は円形を呈する石積みと瓦積みを併用した内部構造をもつ井戸である。掘り方は断面を見ると上端から１ｍ下まで径1.75mで掘られ、更に1.75m下の底部まで径0.75mで掘りさげられている。井戸の深さは2.75mである。

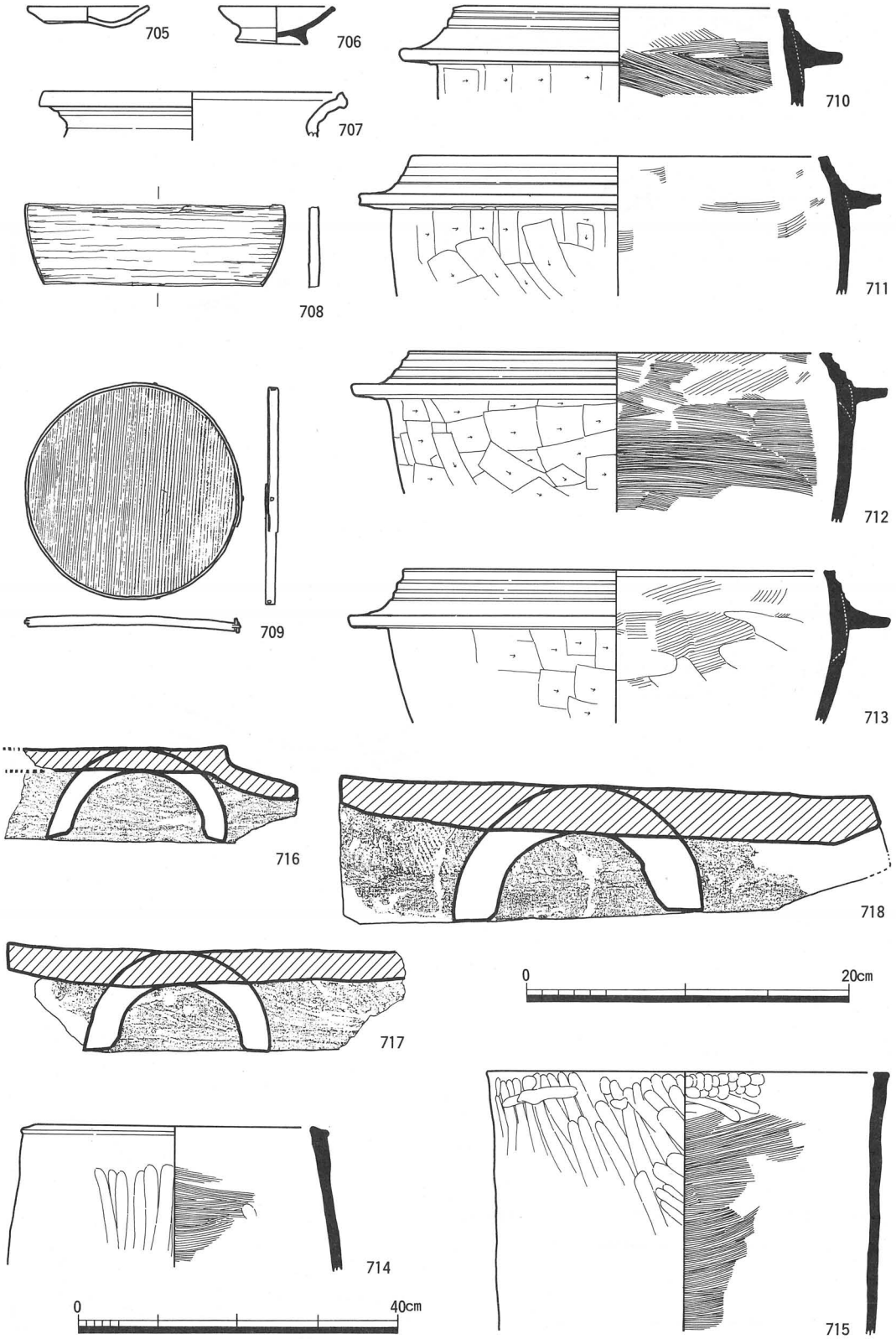
井筒部分は上端から下端まで径0.5mである。上端から1.5mは最大35×30㎝の河原石の石積みで、その下0.8mは河原石と平瓦によって積まれ、さらに、底部までは平瓦のみによって積まれている。また、底部には破損した瓦質の井筒が敷かれている。

使用されている平瓦は総数719枚で少量の丸瓦と軒平瓦が交わっている。

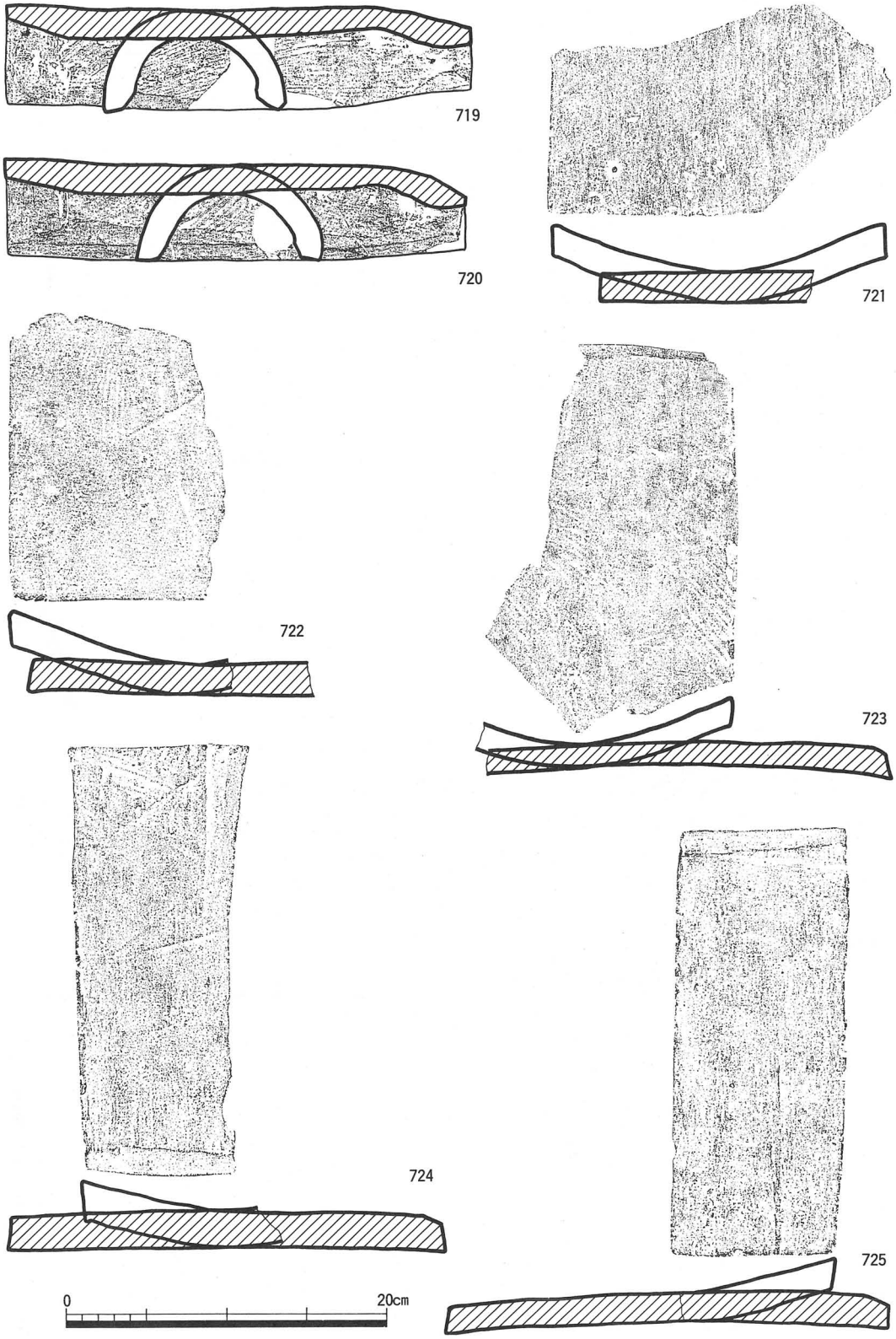
［遺物］　遺物は井戸埋土中より、土師質小皿（705）、瓦器台付皿（706）、紀伊型の土師質羽釜（707）、瓦質羽釜（710～713）、瓦質井筒（714・715）、丸瓦（716～718）、木製曲物底部（708・709）が出土している。また、井筒を構成している瓦には、丸瓦（719・720）、軒平瓦（726・727）、平瓦（721～725）がある。

ＳＥ12（第203・204図、図版48・119～122）

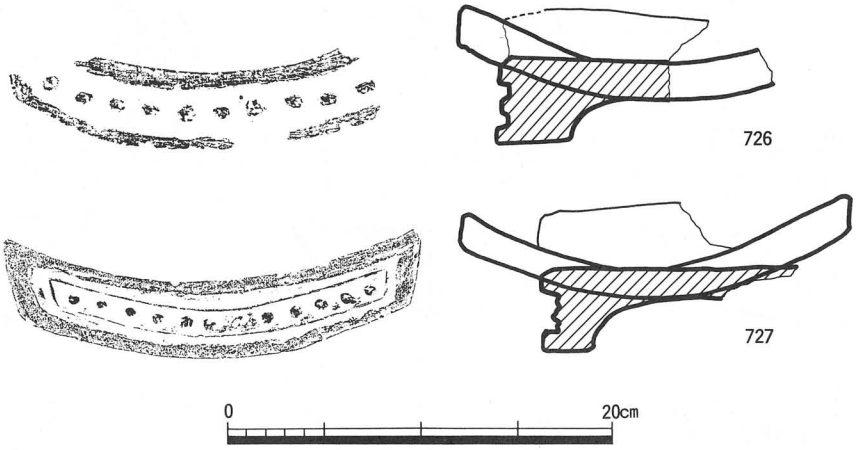
［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｇ－16でＳＥ14の北側に隣接する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。底部は丸味をもつ。井戸埋土上位東側に最大長150㎝、径25㎝の自然木が数本横たわっている。その下層から



第200図　ＳＥ11遺物実測図（１）



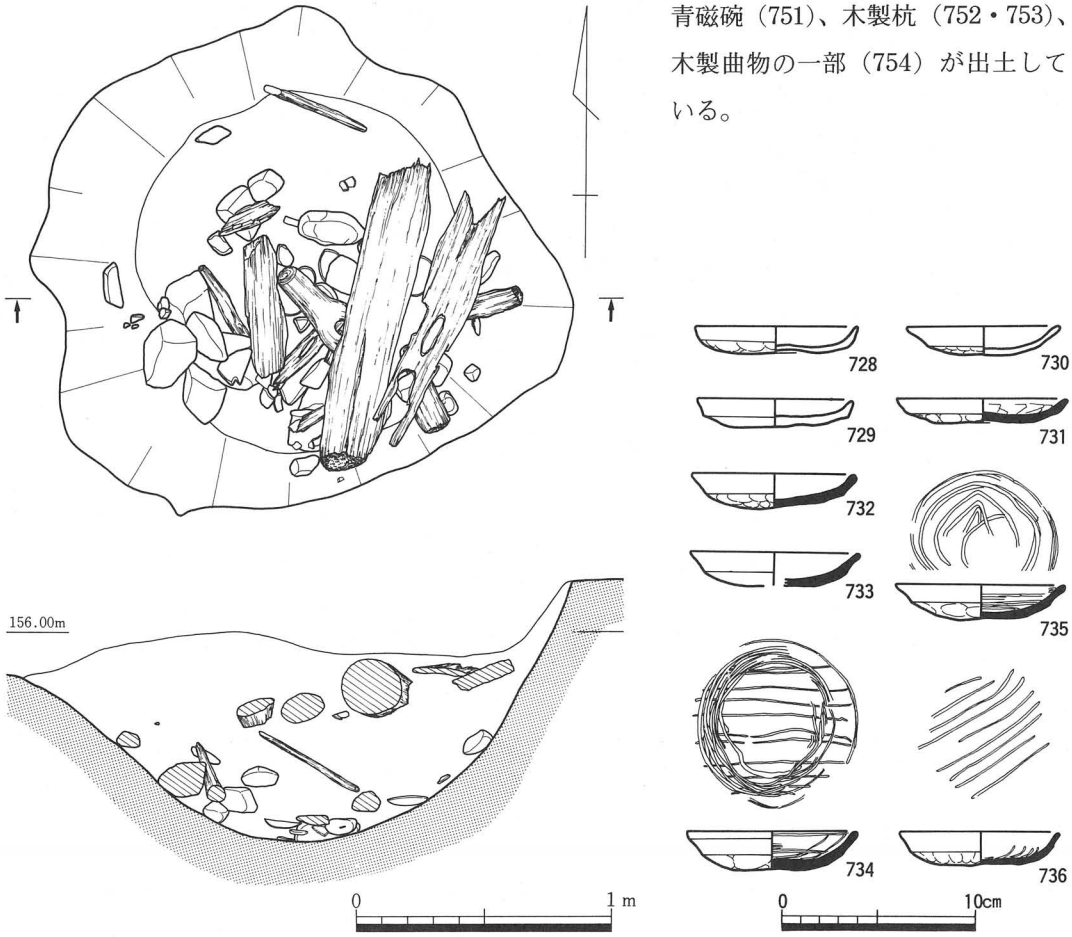
第201図　ＳＥ11遺物実測図（２）



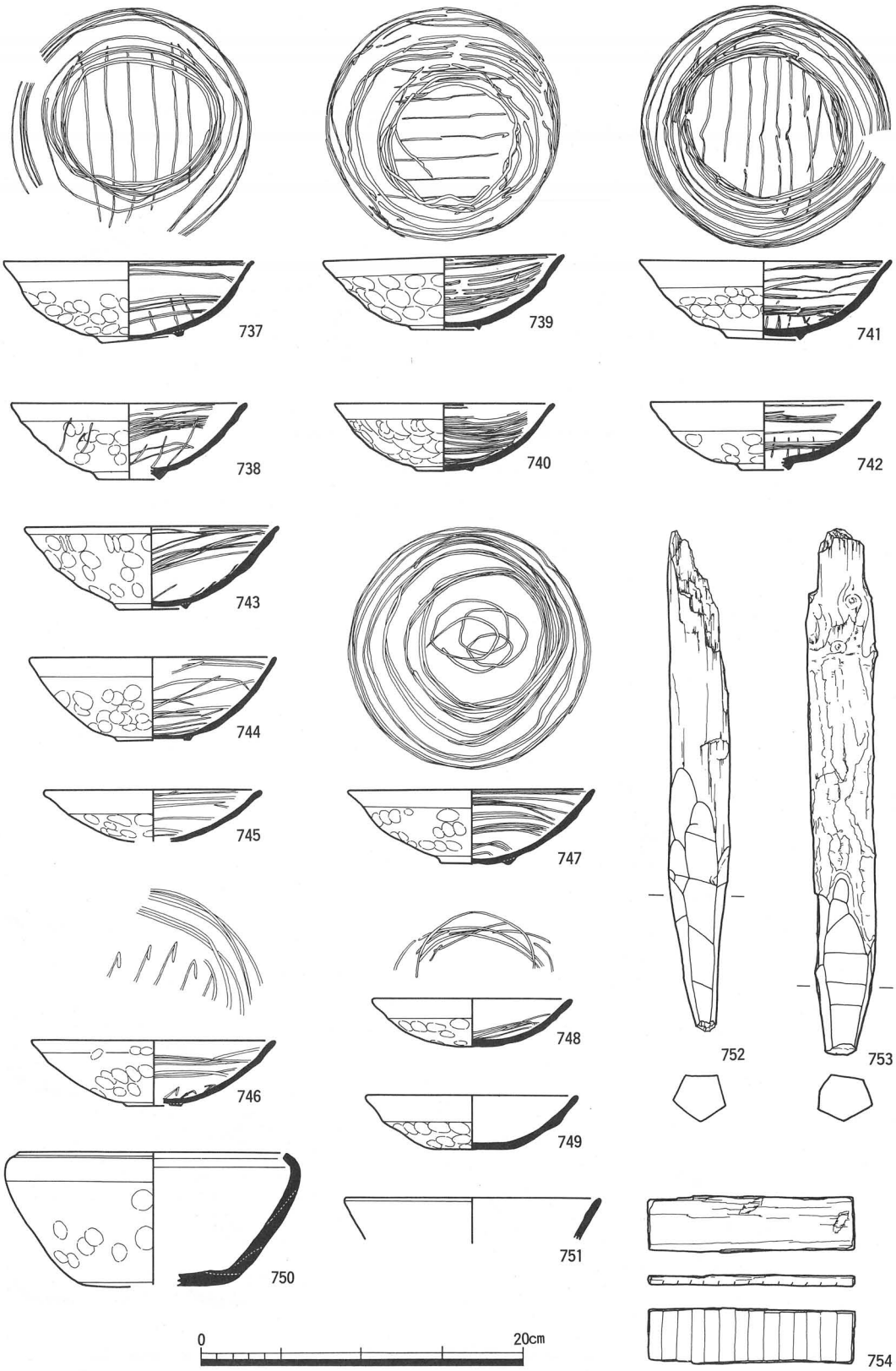
第202図　ＳＥ11遺物実測図（３）

部には最大25×20㎝の河原石が遺物とともに入っている。長径2.09m、短径1.93m、深さ0.75m。

［遺物］　遺物は土師質皿（728～730）、瓦器皿（731～736）、瓦器埦（737～749）、瓦質鉢（750）、青磁碗（751）、木製杭（752・753）、木製曲物の一部（754）が出土している。

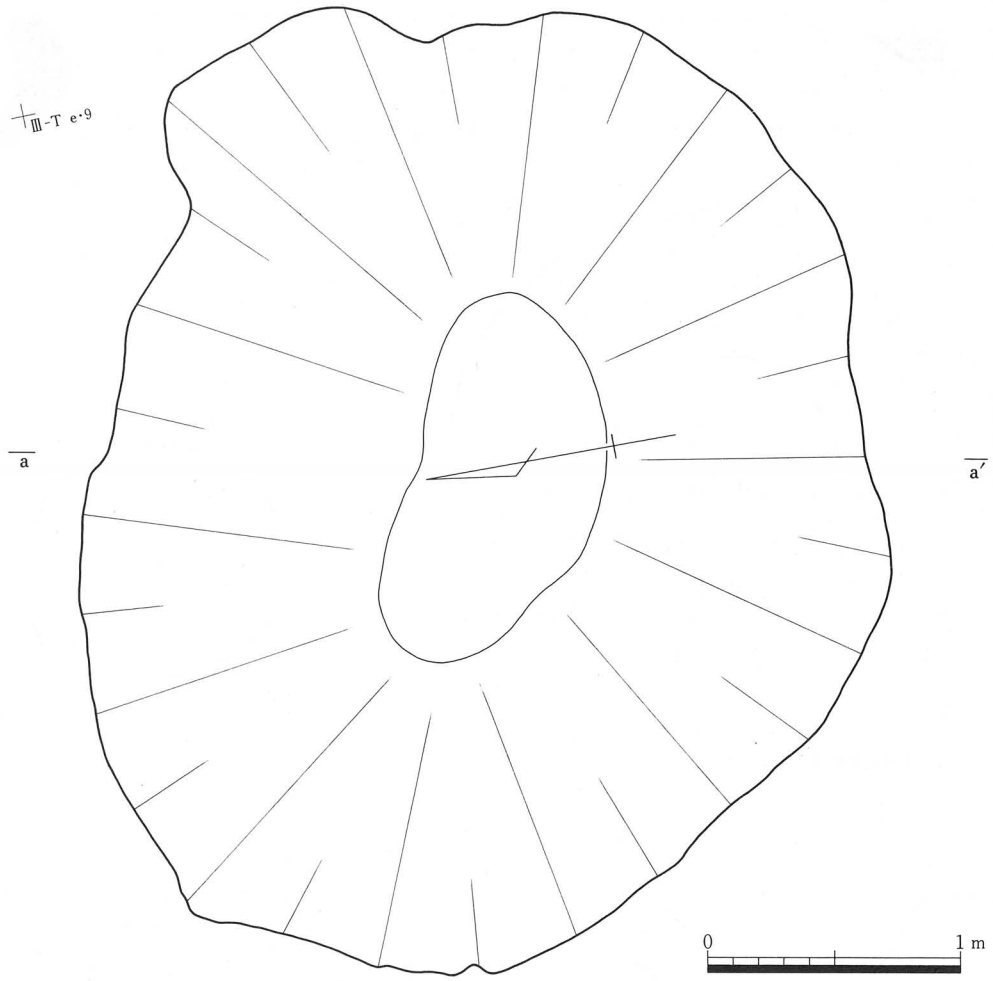


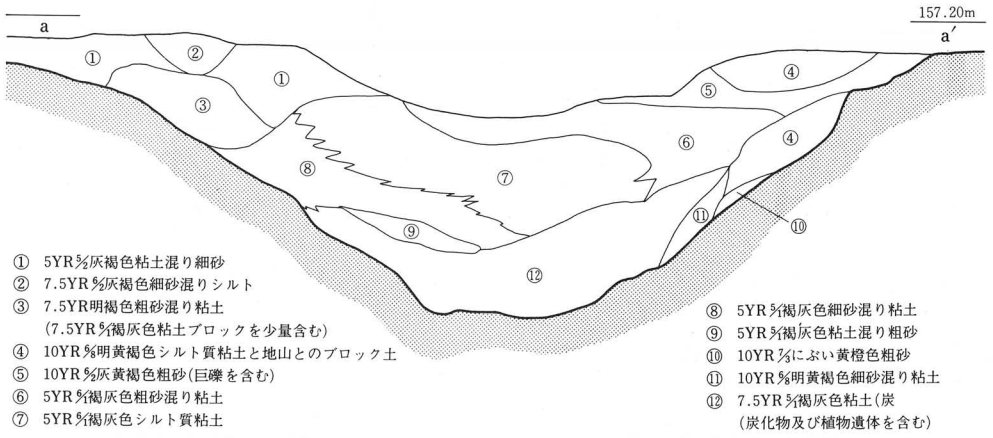
第203図　ＳＥ12遺構（1/30）及び遺物（１）実測図



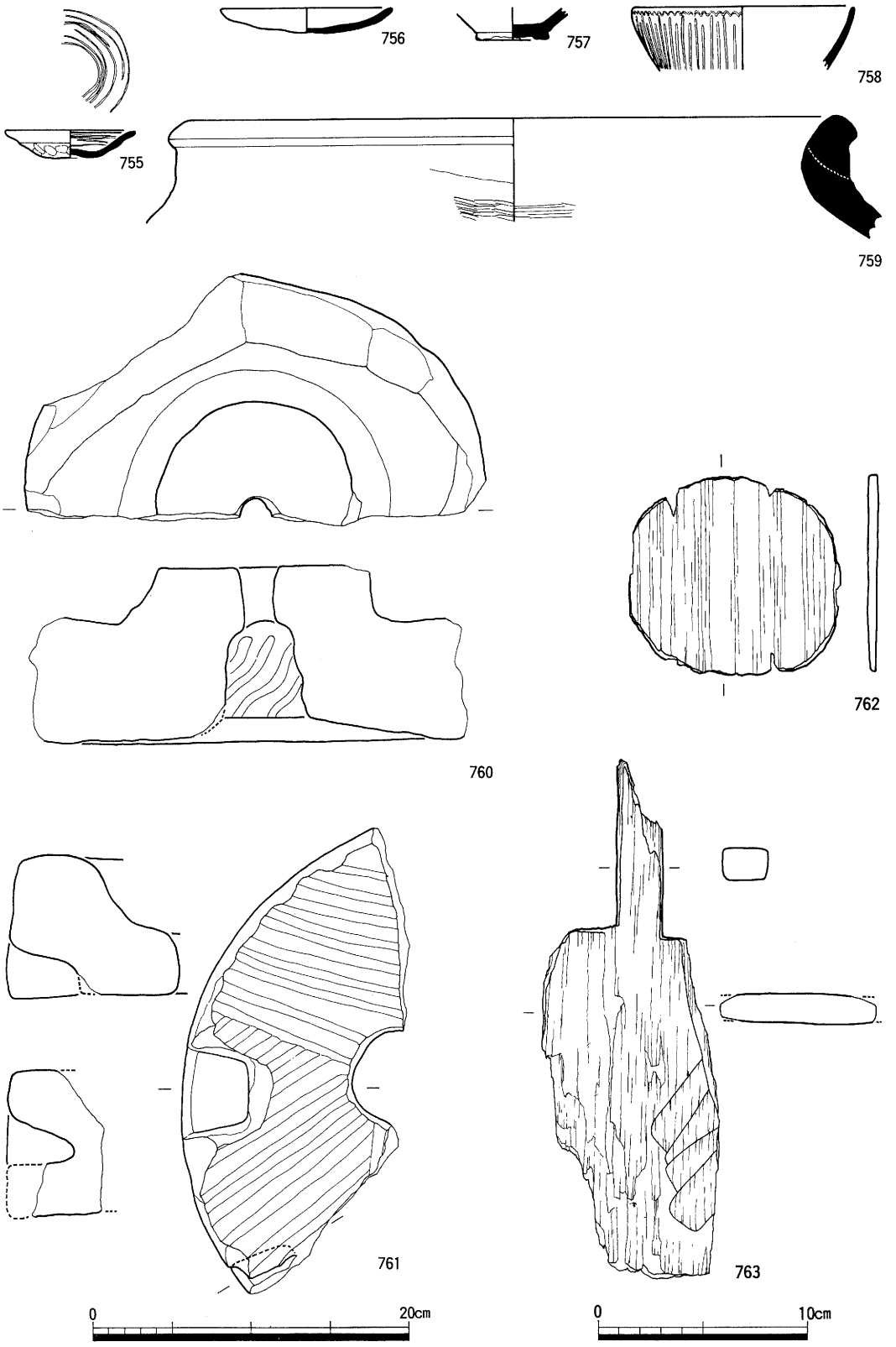
第204図　ＳＥ12遺物実測図（２）

ＳＥ13（第205・206図、図版43・49・121・122）





第205図　ＳＥ13遺構実測図（1/30）



第206図　ＳＥ13遺物実測図

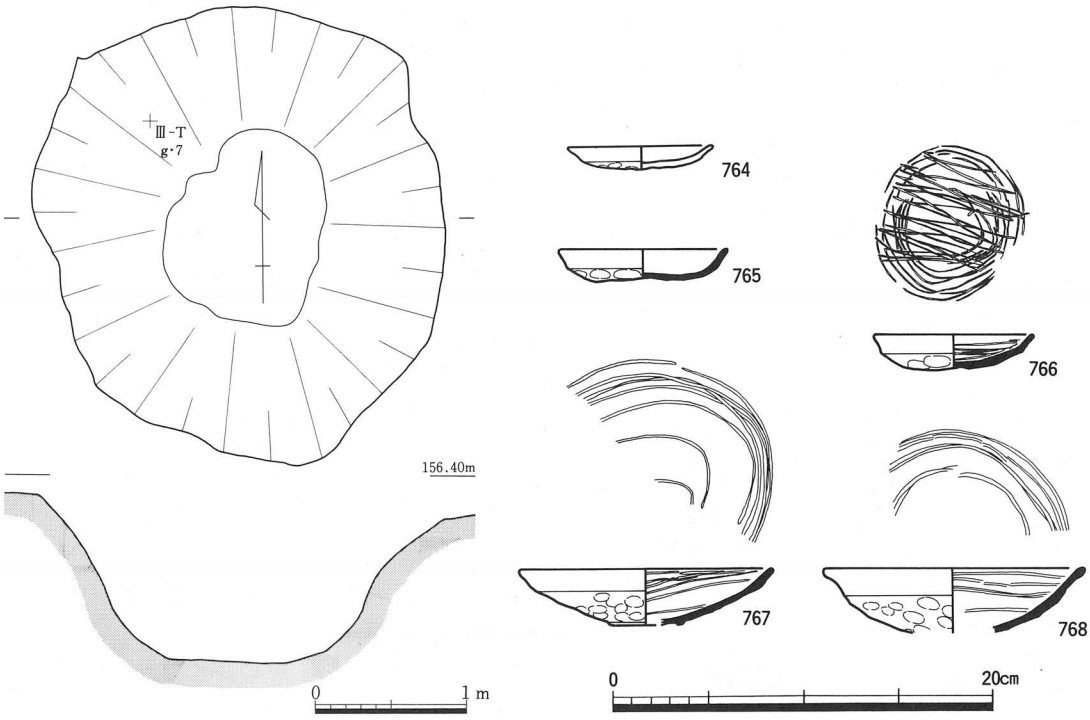
［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｅ－９でＳＢ70の北側１ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する大型の素掘りの井戸である。底部は丸味をもつ。井戸埋土は上位がシルトを中心に粗砂が交わっているが中位は砂が中心で、下位は粘土が中心となり植物遺体も含まれている。このことは、井戸の水の動きが激しいことをものがたっている。長径3.80m、短径3.20m、深さ0.92m。

［遺物］　出土遺物は瓦器皿（755・756）、瓦質甕（759）、天目茶碗（757）、青磁碗（758）、石臼（760・761）、木製曲物底部（762）、木製鋤の一部（763）が出土している。

ＳＥ14（第207図、図版49・121・122）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｆ－16～17でＳＥ12の南側１ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。長径3.00m、短径2.70m、深さ0.95m。

［遺物］　出土遺物は瓦器皿（765・766）、瓦器埦（767・768）、土師質小皿（764）が出土している。

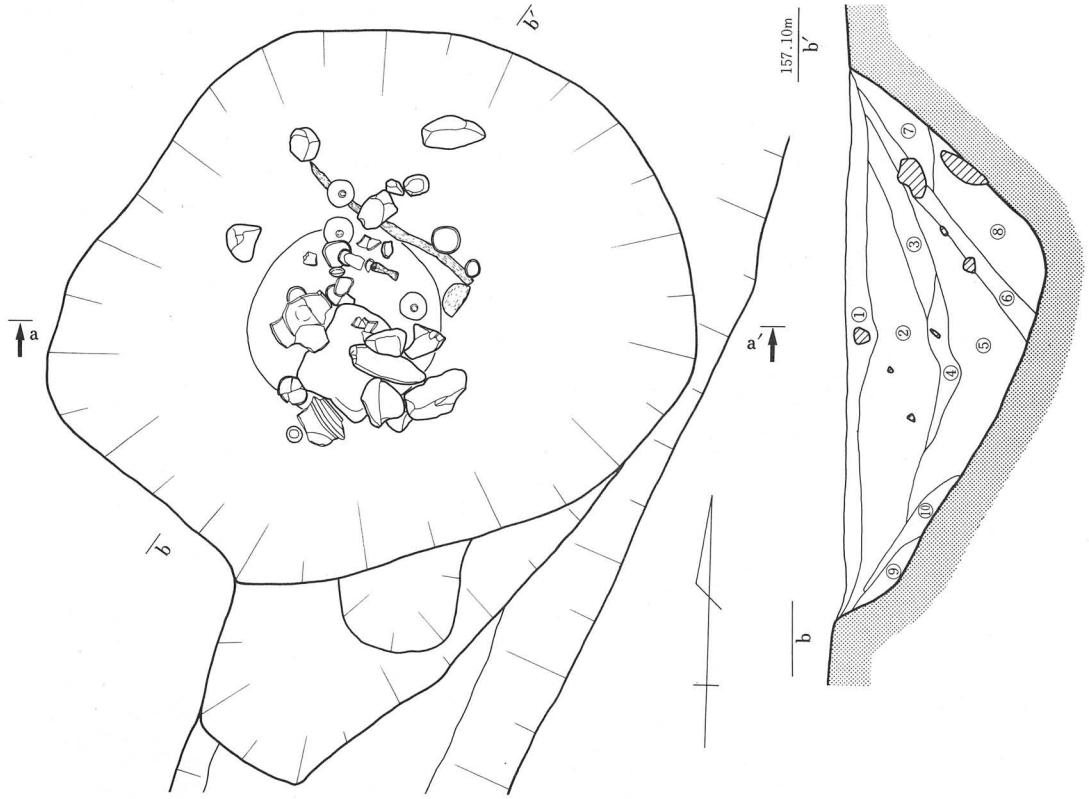


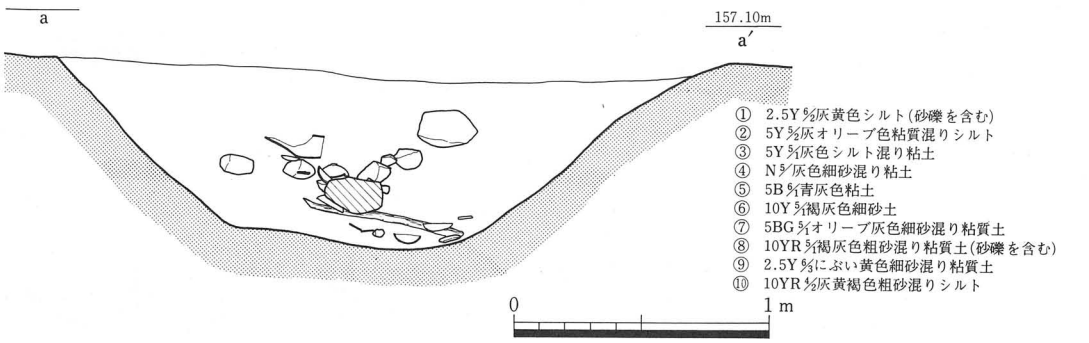
第207図　ＳＥ14遺構（1/50）及び遺物実測図

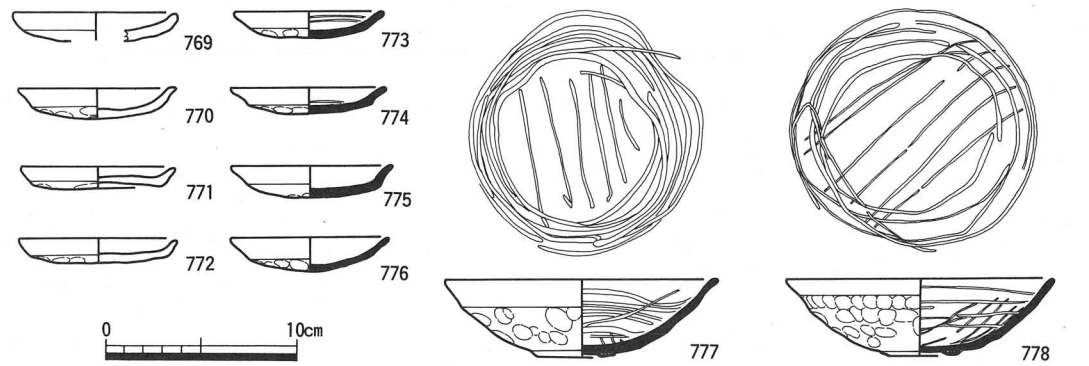
ＳＥ15（第208～210図、図版43・50・123・124）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｄ～ｅ－11でＳＢ70の南側1.5mに位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。井戸埋土中に最大30×15㎝の河原石と共に木器、および土器類が出土している。長径3.00m、短径2.54m、深さ0.75m。

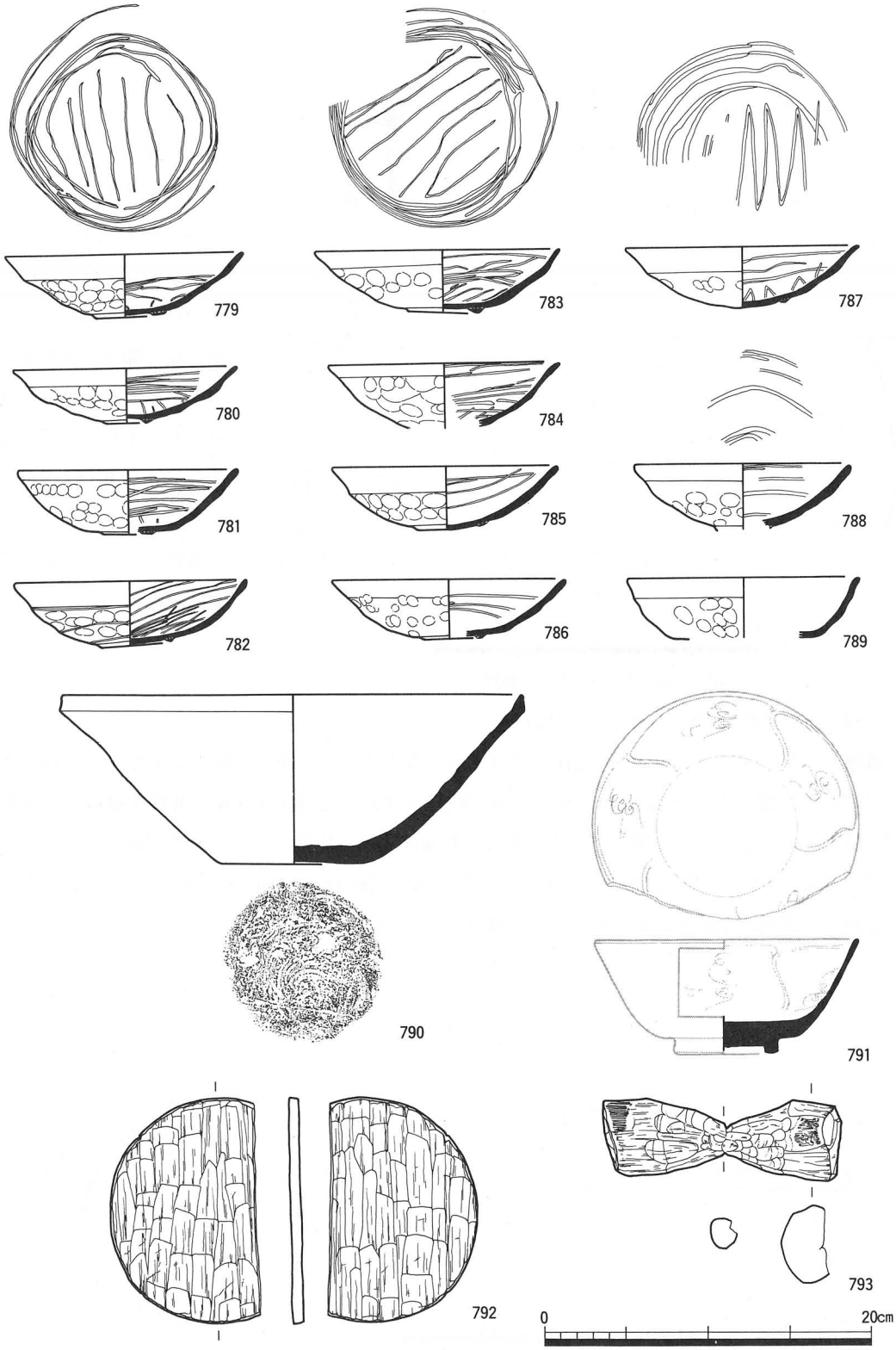
［遺物］　出土遺物は土師質小皿（769～772）、土師質羽釜（795）、瓦器皿（773～776）、瓦器埦（777～789）、瓦質羽釜（794）、須恵質練鉢（790）、青磁碗（791）、曲物底部（792）、木錘（793）







第208図　ＳＥ15遺構（1/30）及び遺物（１）実測図



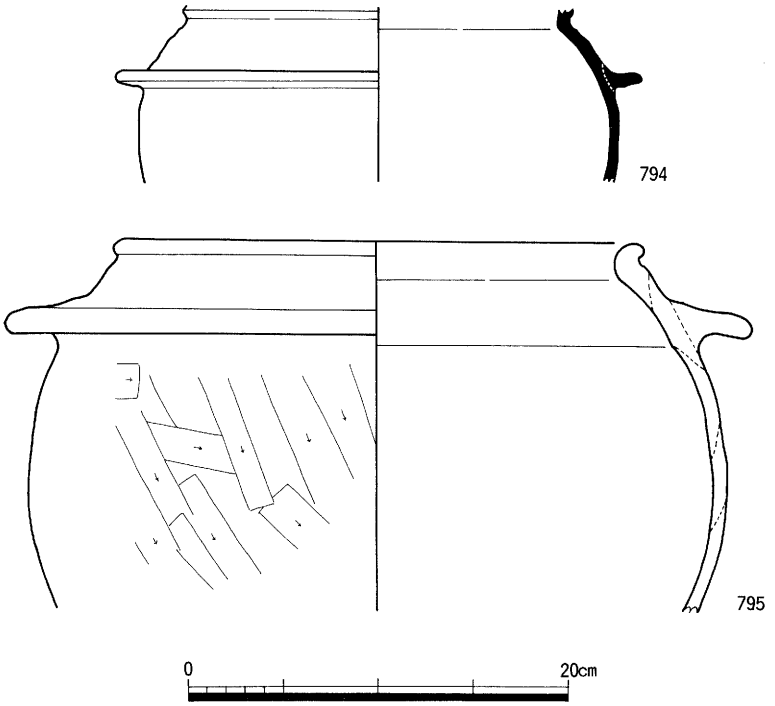
第209図　ＳＥ15遺物実測図（２）

が出土している。

ＳＥ17（図版50）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｅ－15に位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。井戸底部東側には長さ190㎝、径15㎝の自然木が横たわり、他に長さ50㎝の自然木が５本と最大30×10㎝の河原石が出土している。長径2.30ｍ、短径1.9ｍ、深さ0.45ｍ。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

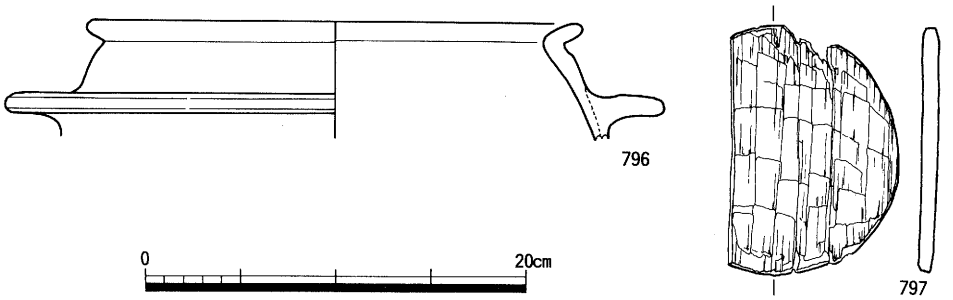


第210図　ＳＥ15遺物実測図（３）

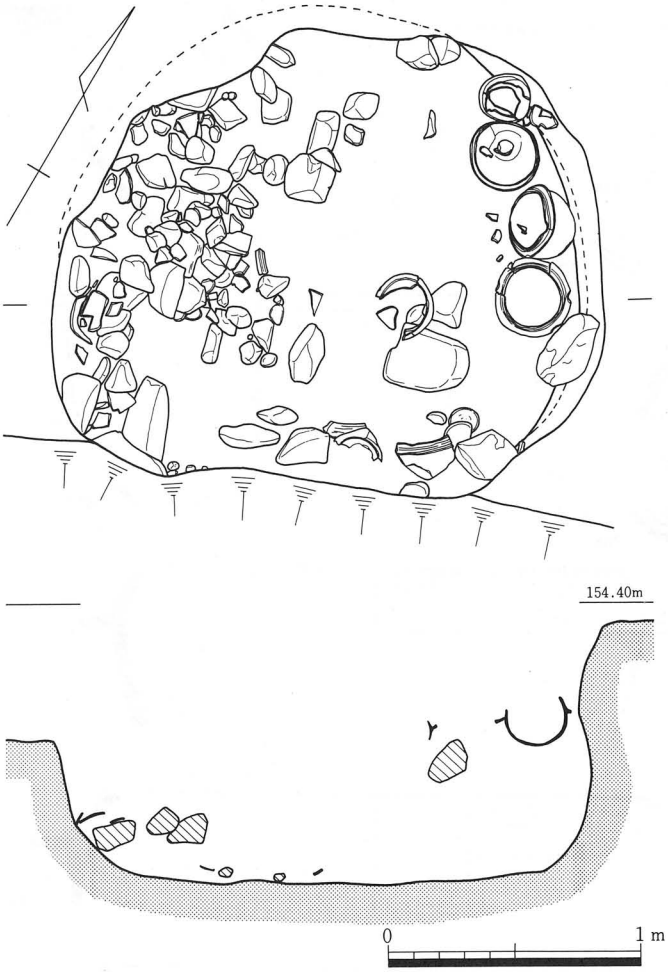
ＳＥ18（第211図、図版43・45・51・124）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｃ－９でＳＢ67の南側1.8ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する石積みの井戸である。掘り方は上端で径1.9ｍ、井筒の内径長径0.7ｍ、短径0.6ｍ、井筒を構成する河原石は最大50×30㎝のものを用いている。深さは断面調査中に崩壊した為、不明である。この井戸に接するＳＤ232には井戸に接して平瓦による暗渠状の遺跡が２ｍ西にのびる。

［遺物］　遺物は土師質羽釜（796）、曲物底部（797）が出土している。



第211図　ＳＥ18遺物実測図



第212図　ＳＥ22遺構実測図（1/30）

ＳＥ22（第212～215図、図版51・124・125）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ａ－16に位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。井戸埋土中位で、井戸東側からは羽釜が５点が出土し、下位の西側からは最大30×18㎝の河原石が集中して出土している。上端長径2.2m、短径1.8m、下端長径2.1m、短径1.9m、深さ0.95m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（798～804）、土師質大皿（805）、土師質鍋（817）、土師質羽釜（834）、瓦器皿（806～808）、瓦器椀（809～813）、瓦質鉢（816）、瓦質羽釜（818～833）、瓦質甕（836）、白磁（814）、青磁（815）、常滑甕（835）が出土している。

ＳＥ23（第216図、図版44・52・126）

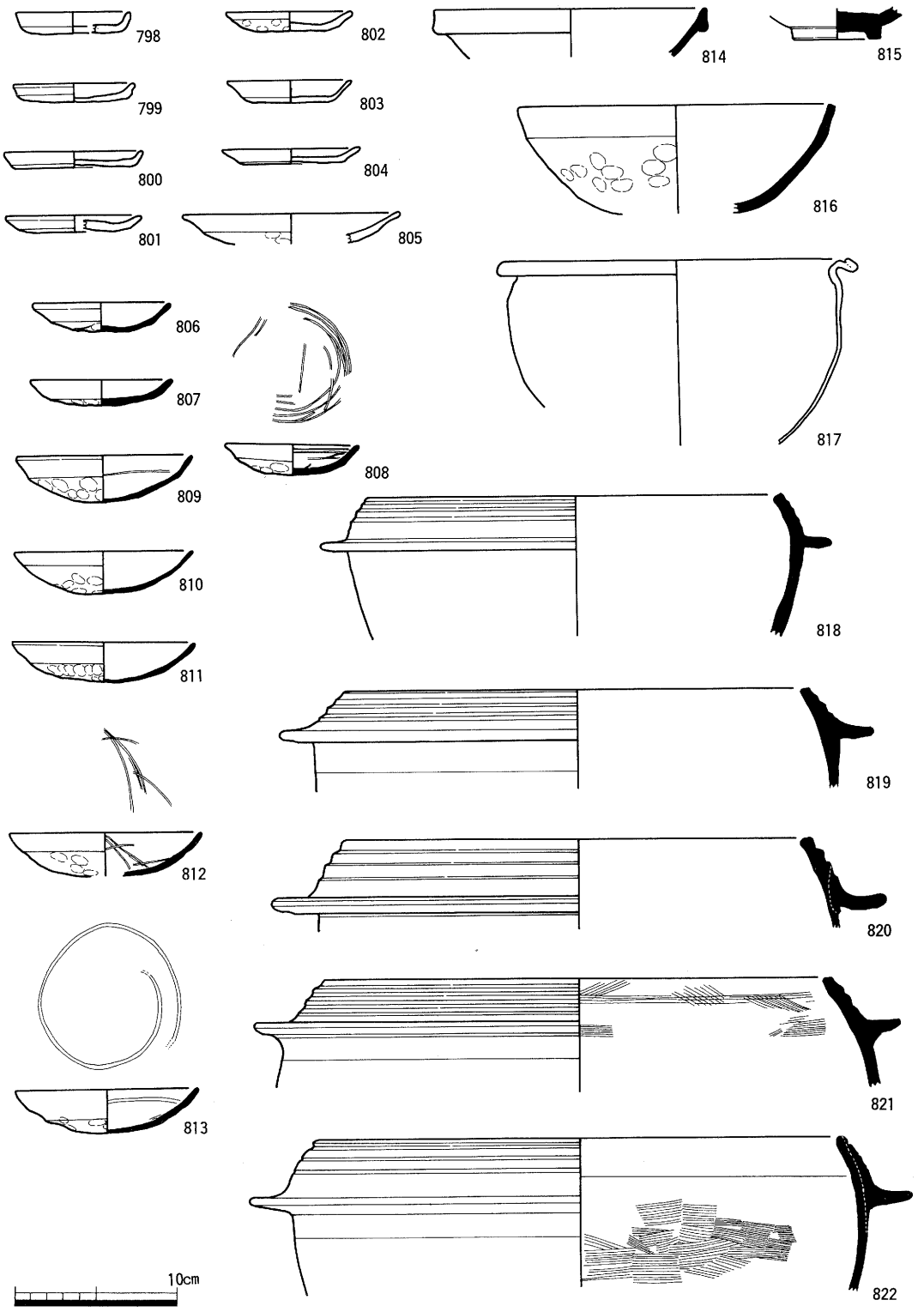
［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｔ－３に位置する。平面形は隅丸方形を呈する素掘りの井戸である。井戸内部に最大15×10㎝の河原石と長さ60㎝、径５㎝の自然木が３本組み合う様に出土している。長軸0.9m、短軸0.85m、深さ0.7m。

［遺物］　遺物は瓦器椀（837）が出土している。

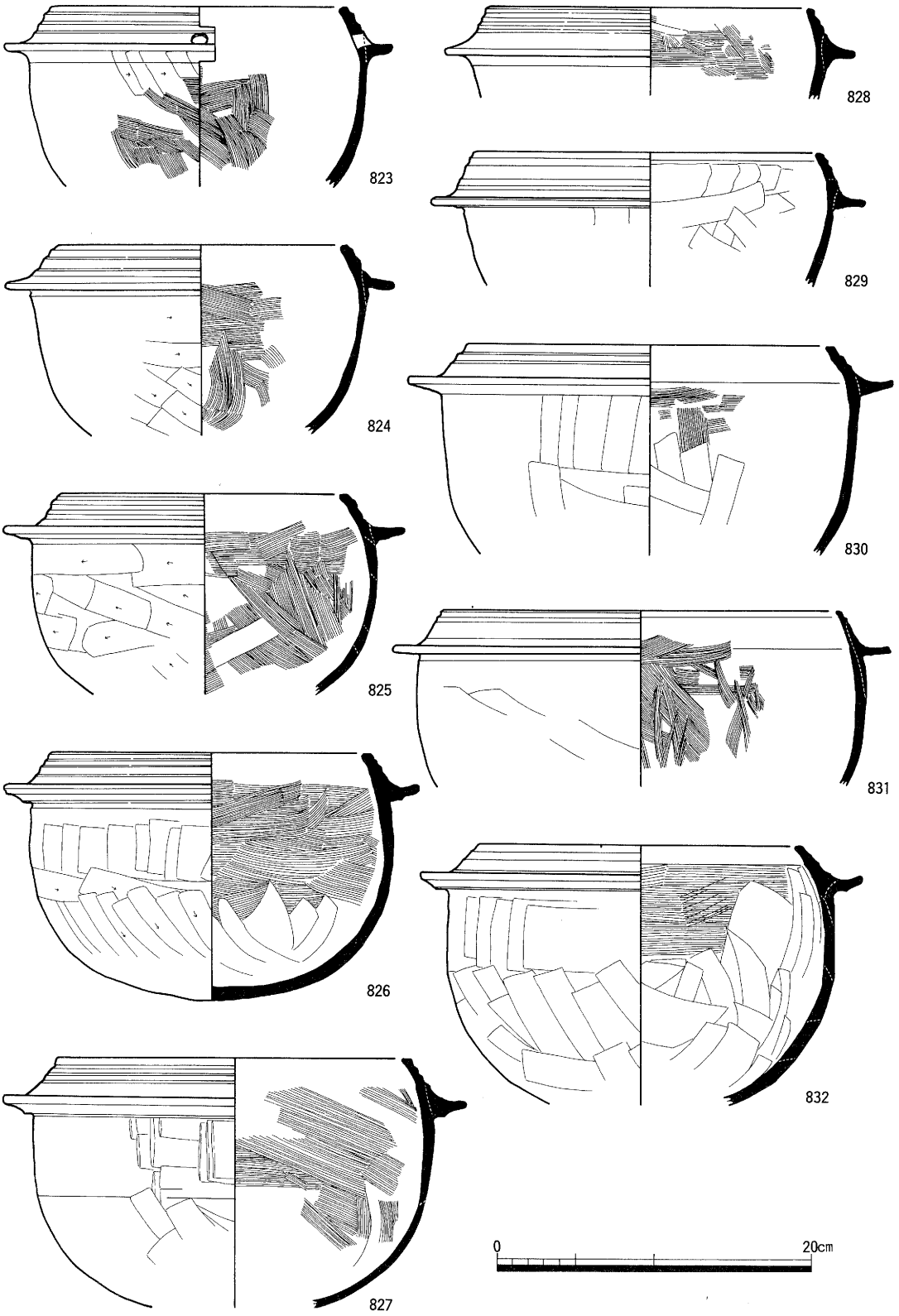
ＳＥ24（第217・218図、図版52・126・127）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｒ－16付近に位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。井戸底部からは瓦器椀等の土器類が出土している。上端長径1.3m、短径0.6m、深さ1.3m。

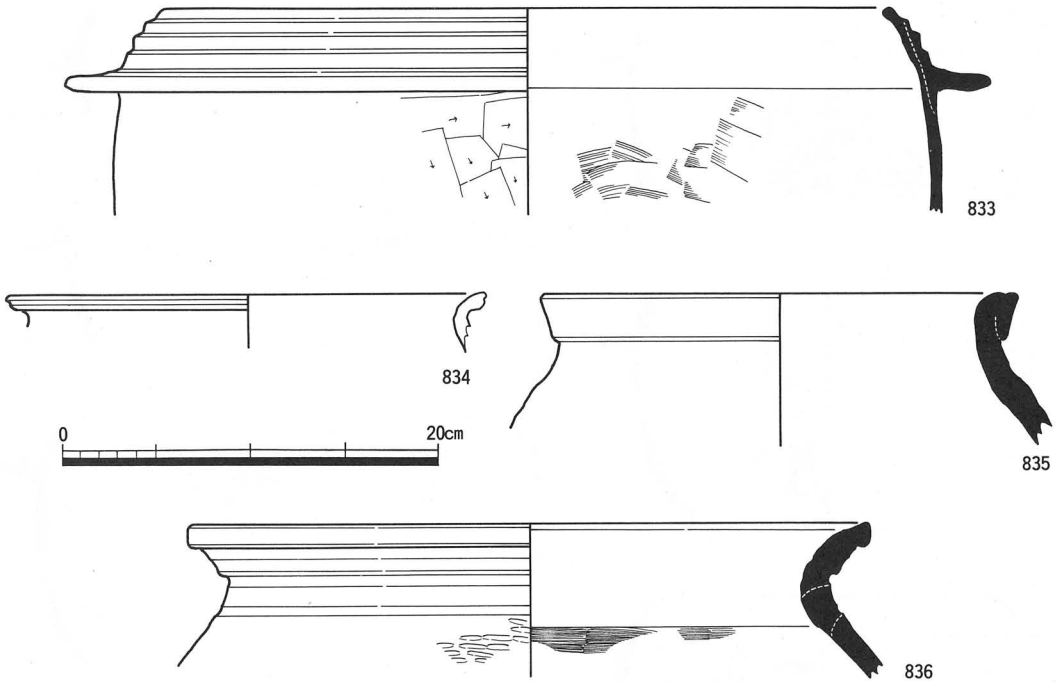
［遺物］　遺物は土師質小皿（838～840）、土師質羽釜（856・857）、紀伊型の土師質羽釜（858）、瓦器椀（845～853）、瓦器小皿（841～844）、青磁碗（855）、青磁皿（854）が出土している。



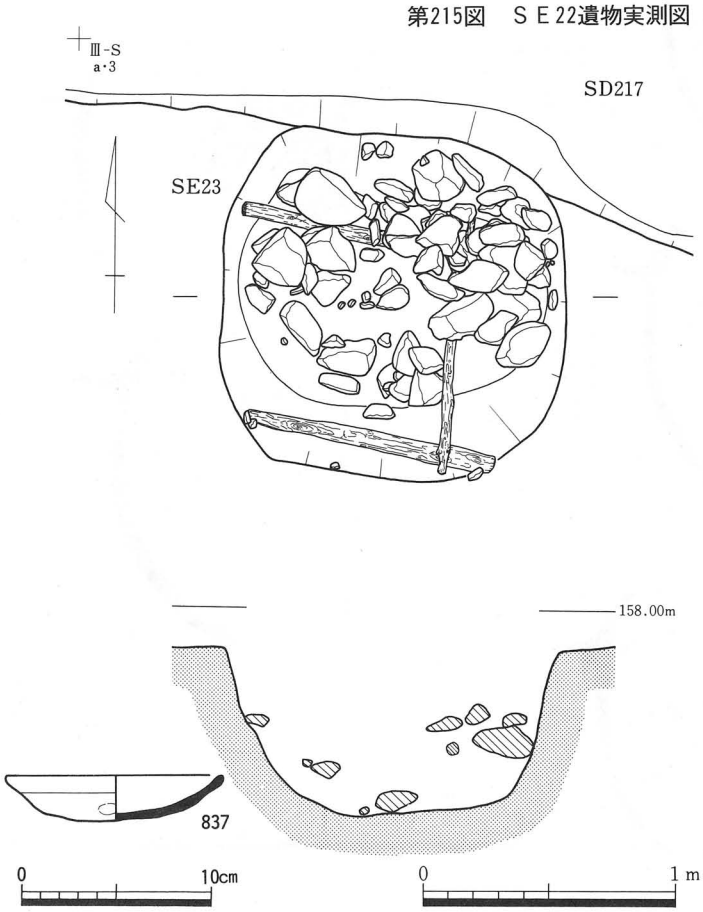
第213図　ＳＥ22遺物実測図（１）



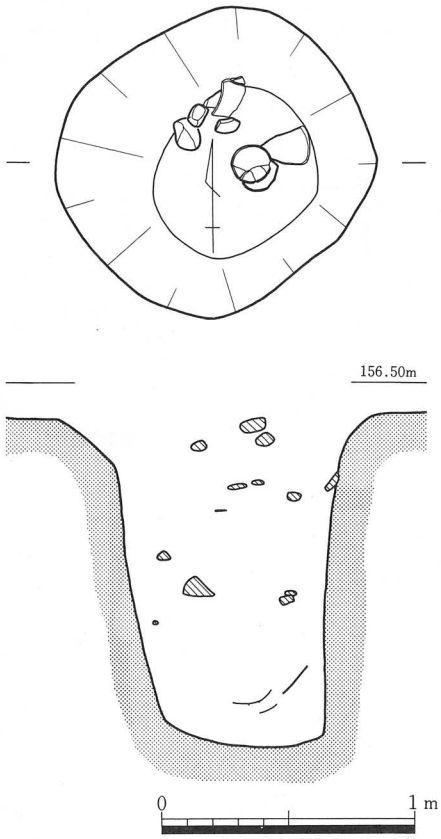
第214図　ＳＥ22遺物実測図（２）



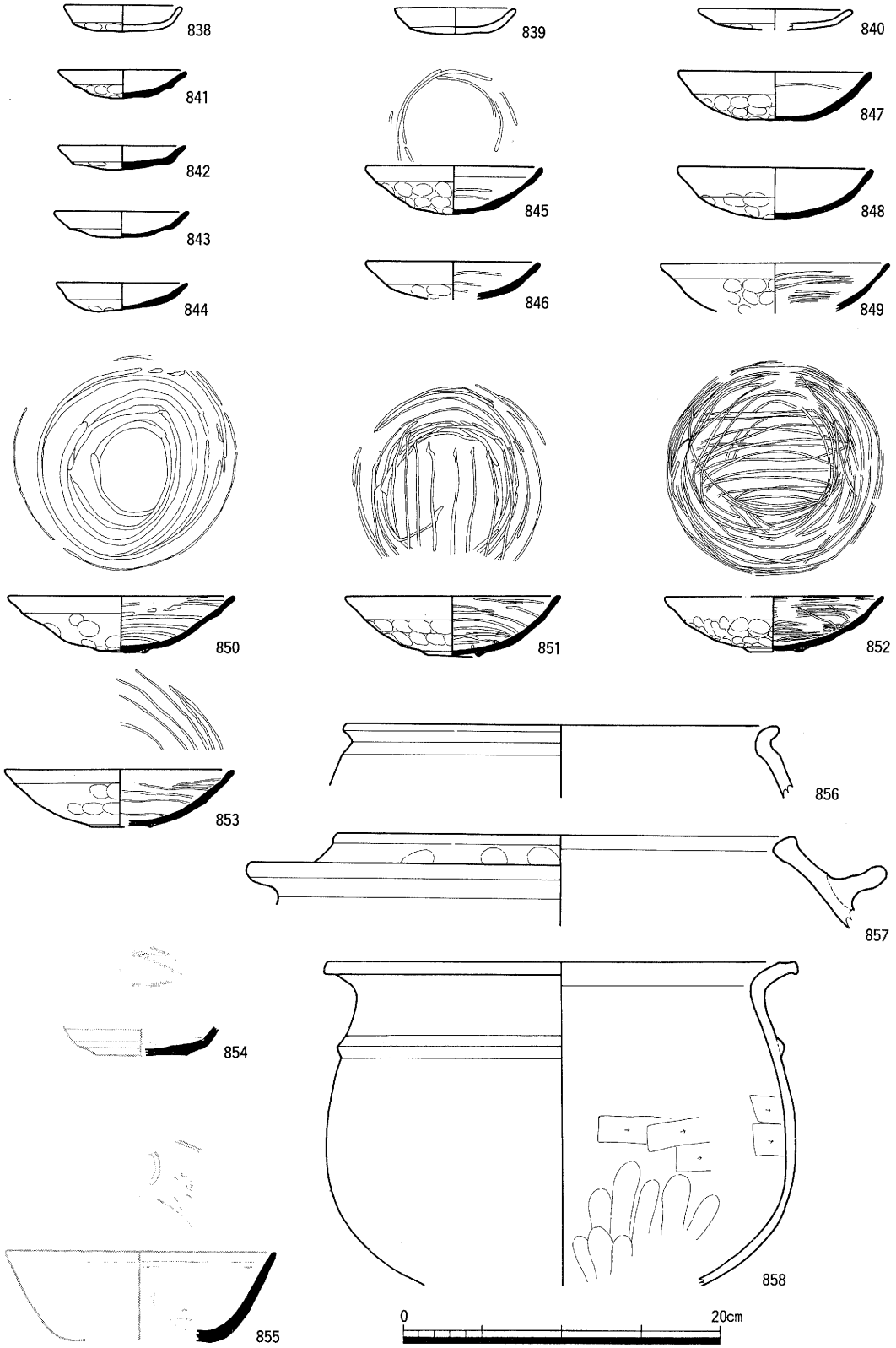
第215図　ＳＥ22遺物実測図（３）



第216図　ＳＥ23遺構（1/30）及び遺物実測図



第217図　ＳＥ24遺構実測図（1/30）



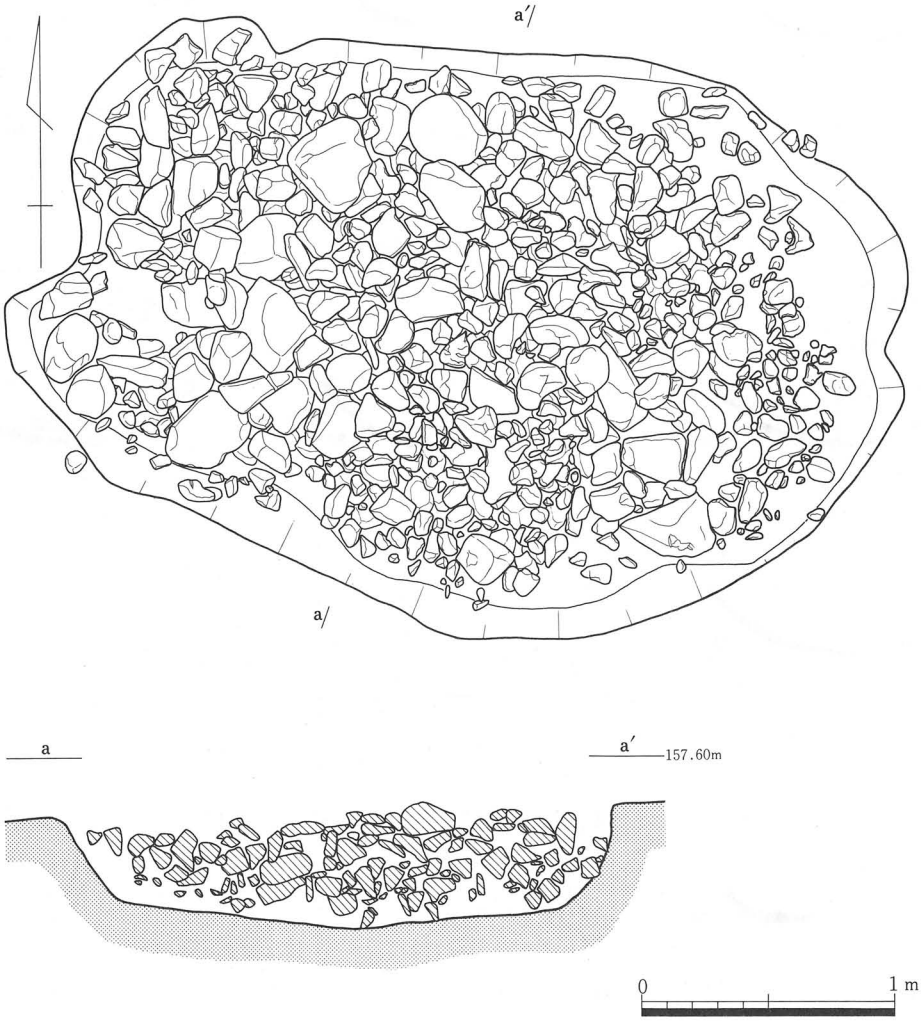
第218図　ＳＥ24遺物実測図

土壙（ＳＫ）

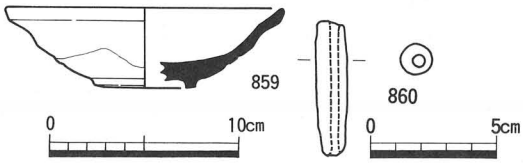
ＳＫ388（第219・220図、図版42・53）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｅ－５付近に位置し、平面形は不定形な楕円形を呈する。主軸方向は東西を示す。土壙内には最大40×30㎝の河原石が充塡されている。長径3.35ｍ、短径2.28ｍ、深さ0.5ｍ。

［遺物］　遺物は施釉陶器（859）と土錘（860）が出土している。



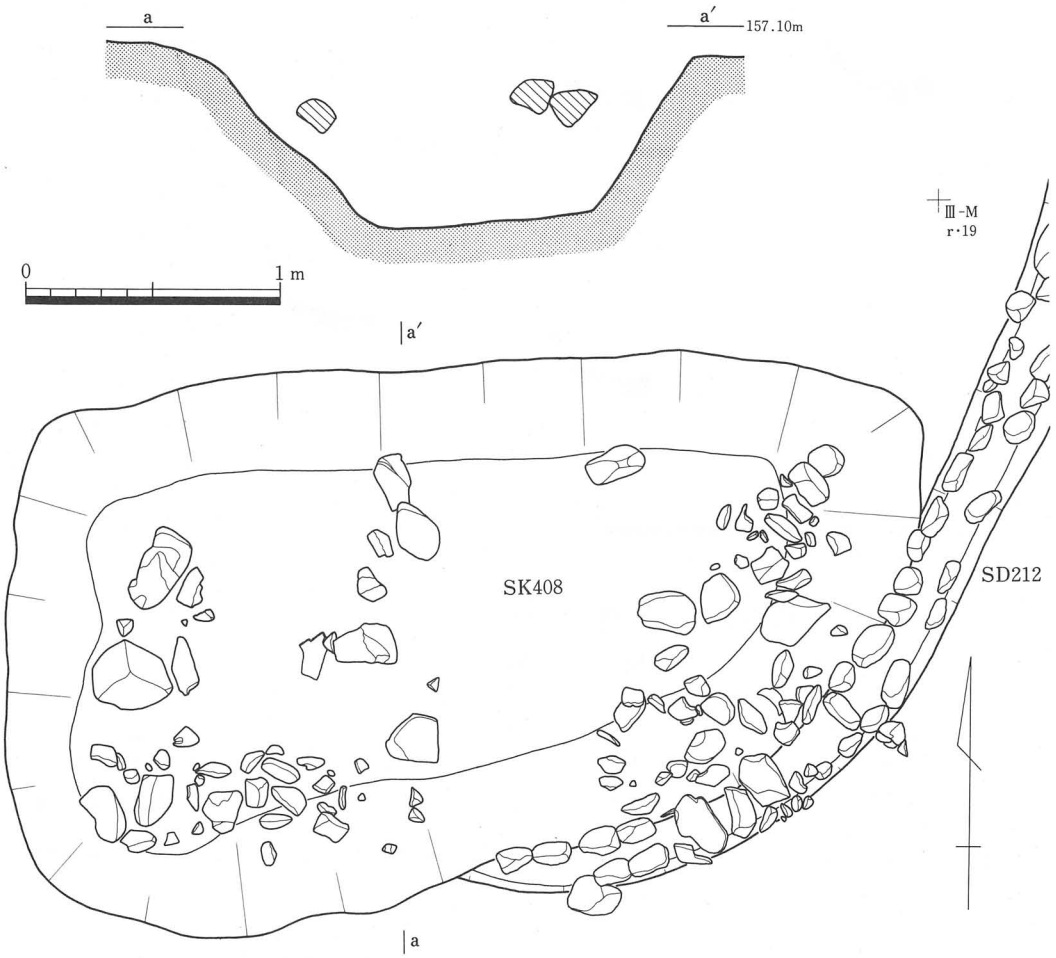
第219図　ＳＫ388遺構実測図（1/30）



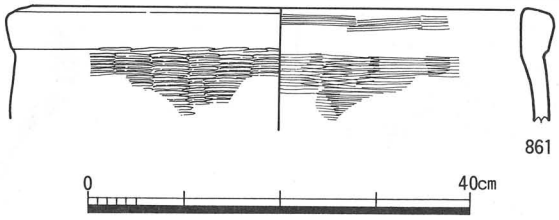
第220図　ＳＫ388遺物実測図

ＳＫ408（第221・222図、図版53）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｒ－19付近に位置し、平面形は不定形な楕円形を呈する。主軸方向は東西を示す。土壙内には最大40×30㎝の河原石が落ち込んでいる。長径3.65ｍ、短径2.1ｍ、深さ0.75ｍ。



第221図　ＳＫ408遺構実測図（1/30）



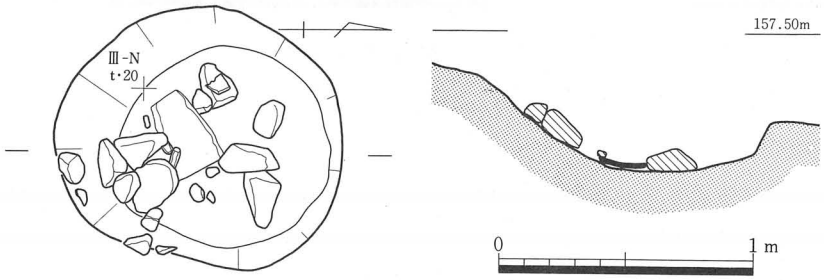
第222図　ＳＫ408遺物実測図

［遺物］　遺物は土師質甕（861）が出土している。

ＳＫ416（第223図、図版54）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｓ～ｔ－19～20付近に位置し、平面形は楕円形を呈する。土壙底部には最大20×10㎝の河原石が落ち込んでいる。長径1.14m、短径１m、深さ0.43m。

［遺物］　遺物は平瓦が一点出土し

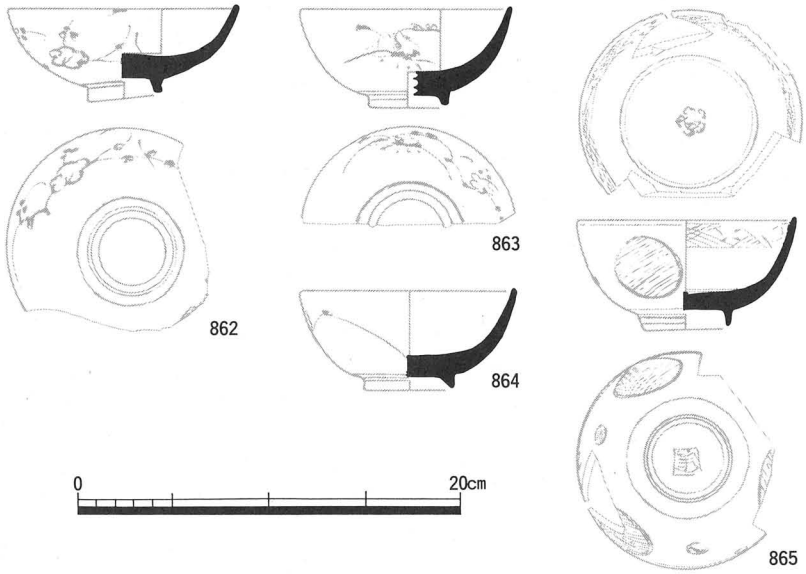


第223図　ＳＫ416遺構実測図（1/30）

ている。

ＳＫ425（第224図、図版44・127）

［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｒ－２～３付近に位置し、ＳＤ217を切っている。平面形は楕円形を呈する。土壙底部には最大20×10㎝の河原石が落ち込んでいる。長軸4.8ｍ、短軸2.62ｍ、深さ0.25ｍ。

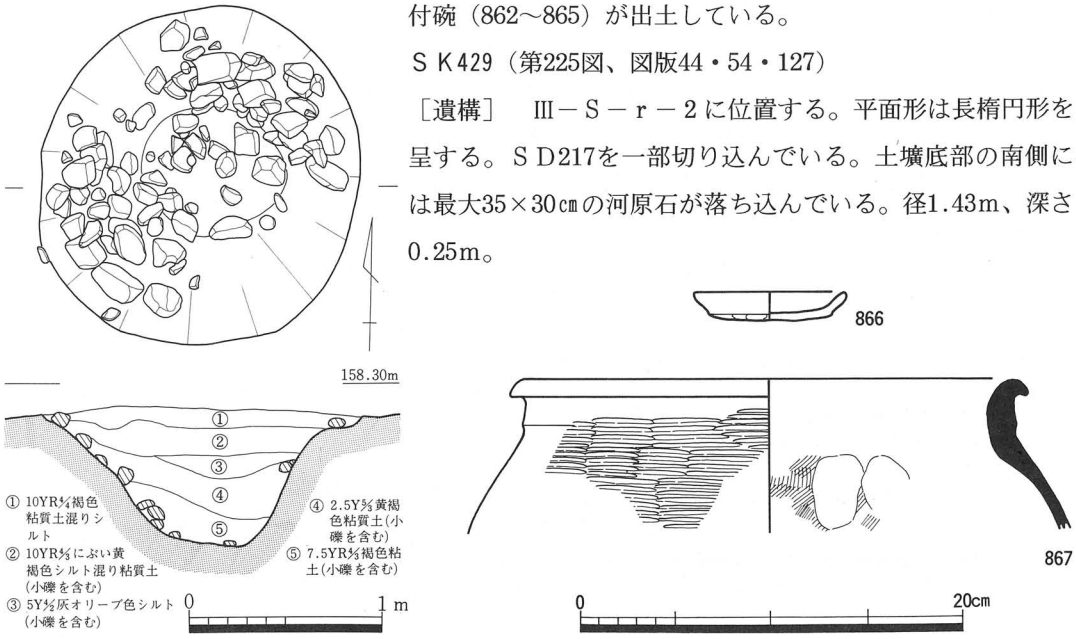


第224図　ＳＫ425遺物実測図

［遺物］　遺物は染付碗（862～865）が出土している。

ＳＫ429（第225図、図版44・54・127）

［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｒ－２に位置する。平面形は長楕円形を呈する。ＳＤ217を一部切り込んでいる。土壙底部の南側には最大35×30㎝の河原石が落ち込んでいる。径1.43ｍ、深さ0.25ｍ。



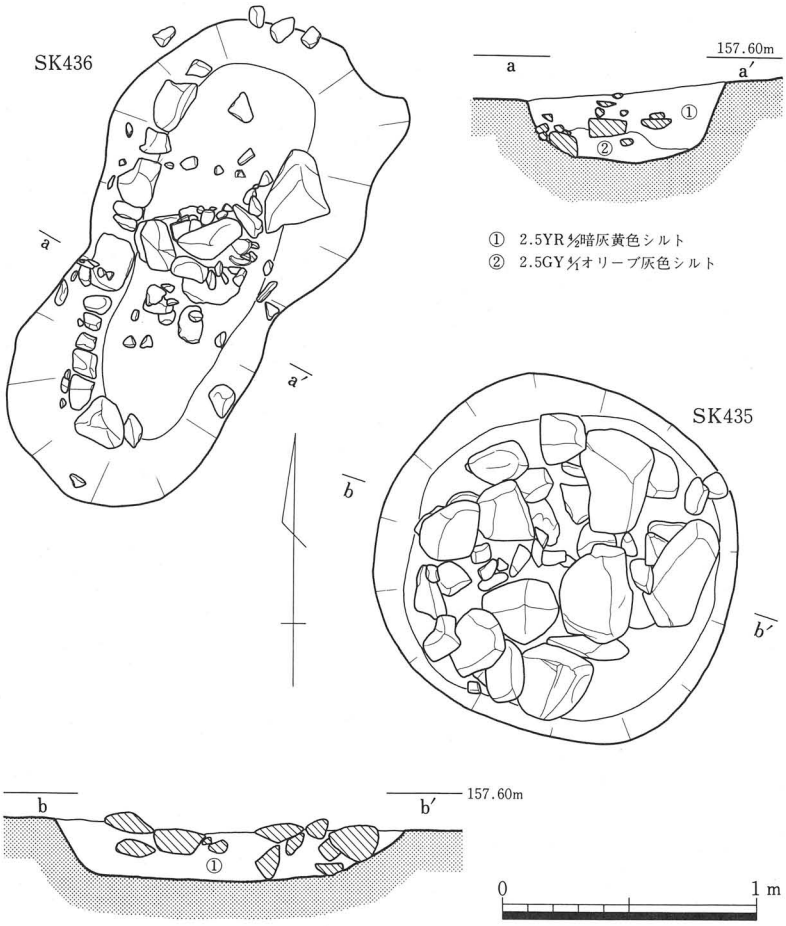
第225図　ＳＫ429遺構（1/40）及び遺物実測図

［遺物］　遺物は土師質小皿（866）と瓦質甕（867）が出土している。

ＳＫ435（第226図、図版42・55）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｄ－５に位置する。平面形は円形を呈する。土壙底部には最大35×30㎝の河原石が落ち込んでいる。径1.43ｍ、深さ0.25ｍ。

［遺物］　遺物は土師質甕（873）が出土している。



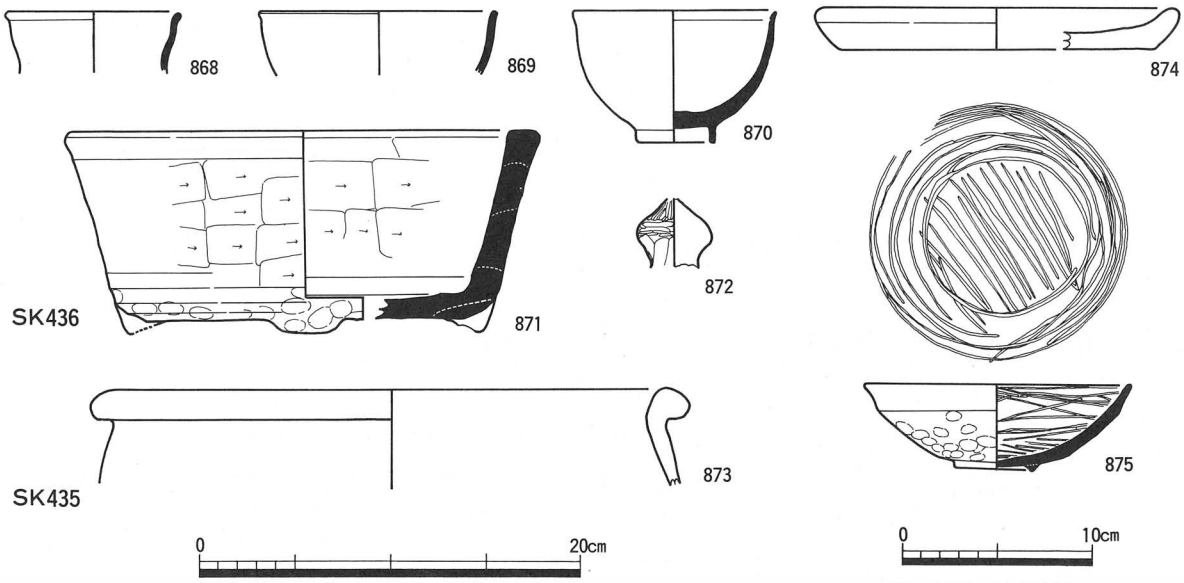
ＳＫ436（第226図、図版42・55）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｄ－５付近で、ＳＫ435の北西１ｍに位置する。平面形は長楕円形を呈する。土壙底部には最大35×30㎝の河原石が落ち込んでいる。長径2.05ｍ、短径1.12ｍ、深さ0.2ｍ。

［遺物］　遺物は施釉陶器碗（869・870）、青磁花瓶（868）、土師質宝珠（872）、瓦質火舎（871）が出土している。

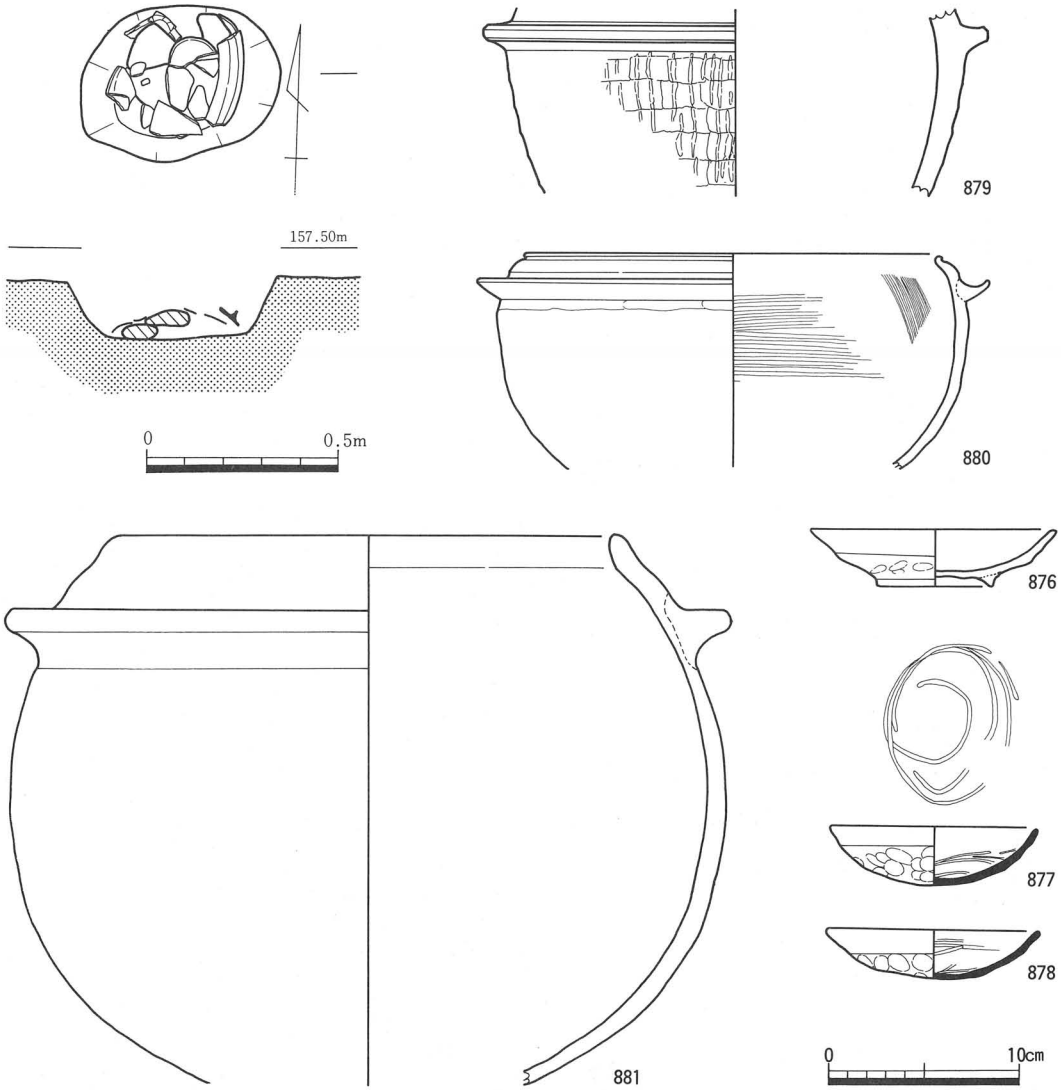
ＳＫ437（第227図、図版56・127）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｂ



第226図　ＳＫ435・ＳＫ436遺構（1/30）及び遺物実測図

第227図　ＳＫ437 遺物実測図



第228図　ＳＫ445遺構（1/20）及び遺物実測図

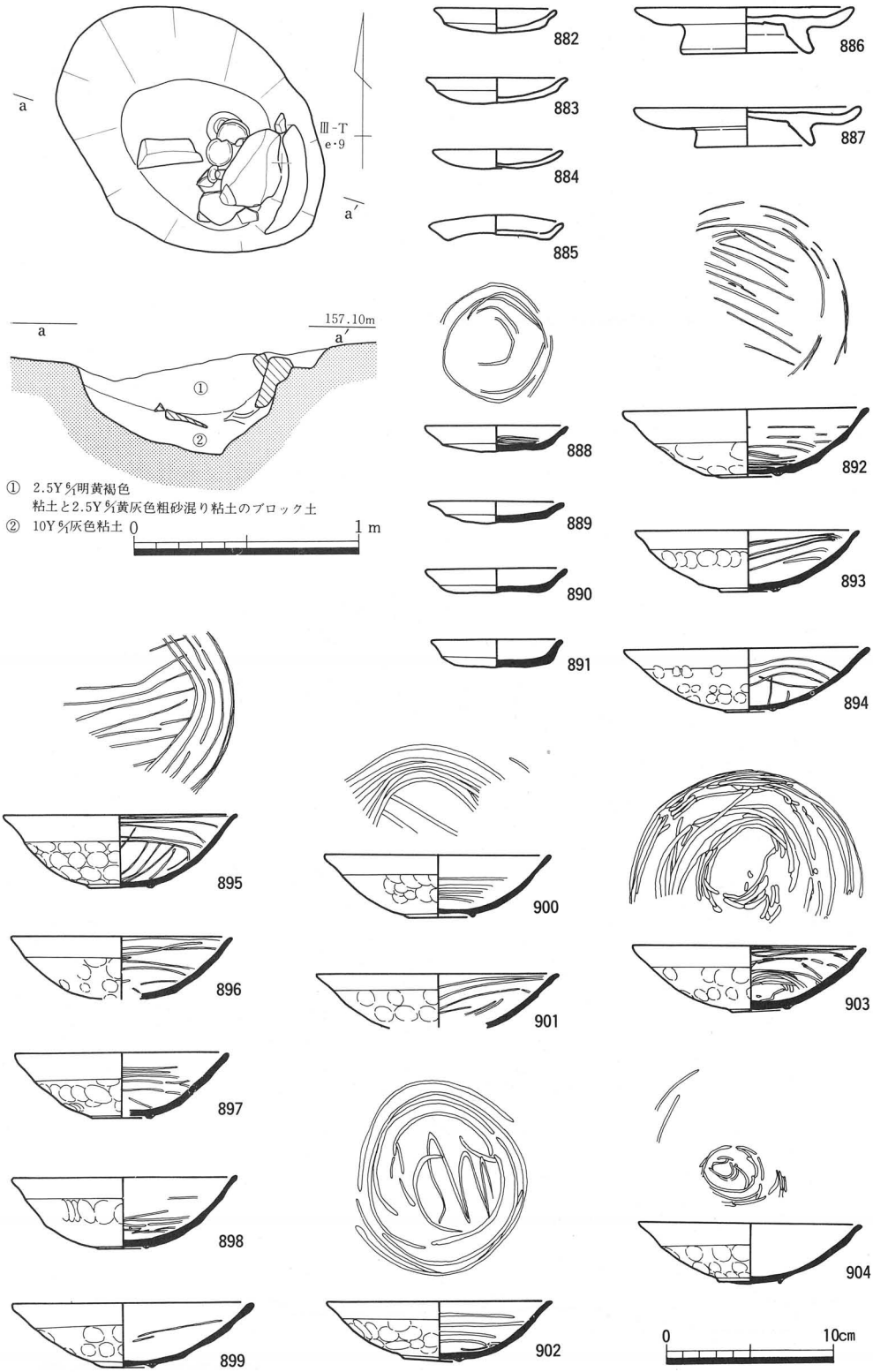
－５に位置する。平面形は円形を呈する。土壙底部中央に最大15×10㎝の河原石と遺物が集中している。径0.9m、深さ0.1m。

［遺物］　遺物は土師質大皿（874）、瓦器椀（875）が出土している。

ＳＫ445（第228図、図版56・127）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｑ－17に位置する。平面形は楕円形を呈する。土壙内には羽釜とその内部に入っていたと思われる河原石が３点、その他瓦器類が出土した。長径0.53m、短径0.4m、深さ0.15m。

［遺物］　遺物は土師質椀（876）、土師質羽釜（880・881）、瓦器椀（877・878）、滑石製石鍋（879）が出土している。



第229図　ＳＫ456遺構（1/30）及び遺物（１）実測図

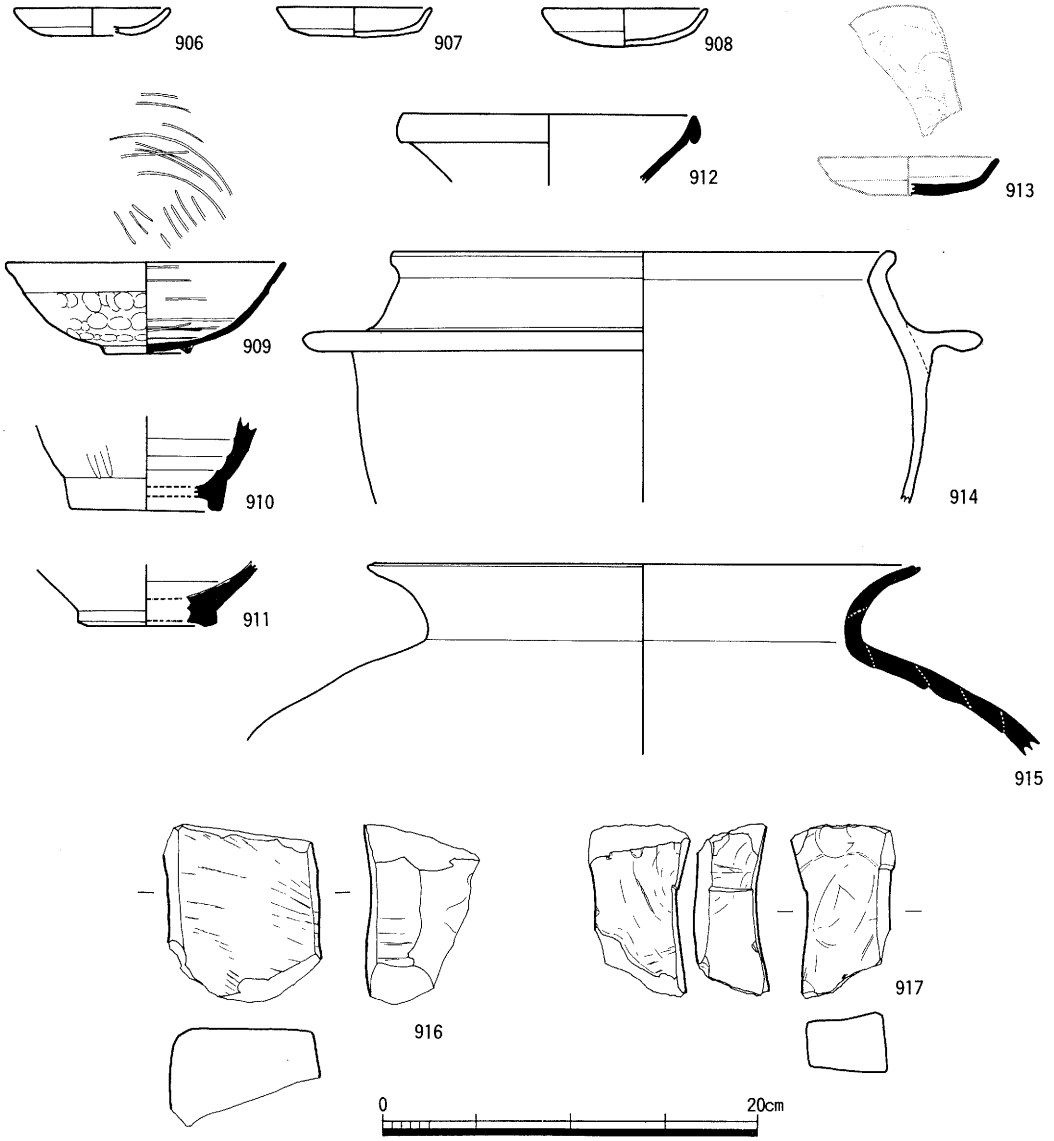
第230図　ＳＫ456遺物実測図（２）

ＳＫ456（第229・230図、図版43・57・127～129）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｅ－９付近で、ＳＥ13の北側に隣接して位置する。平面形は円形を呈する。主軸方向はＮ－53°－Ｗを示す。土壙内部の南東側に一部面取りした花崗岩と土師質土器類、瓦器類が出土している。長径1.34m、短径１m、深さ0.48m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（882～885）、土師質台付皿（886・887）、瓦器皿（888～891）、瓦

第231図　ＳＫ458遺構実測図（1/30）



第232図　ＳＫ458遺物実測図

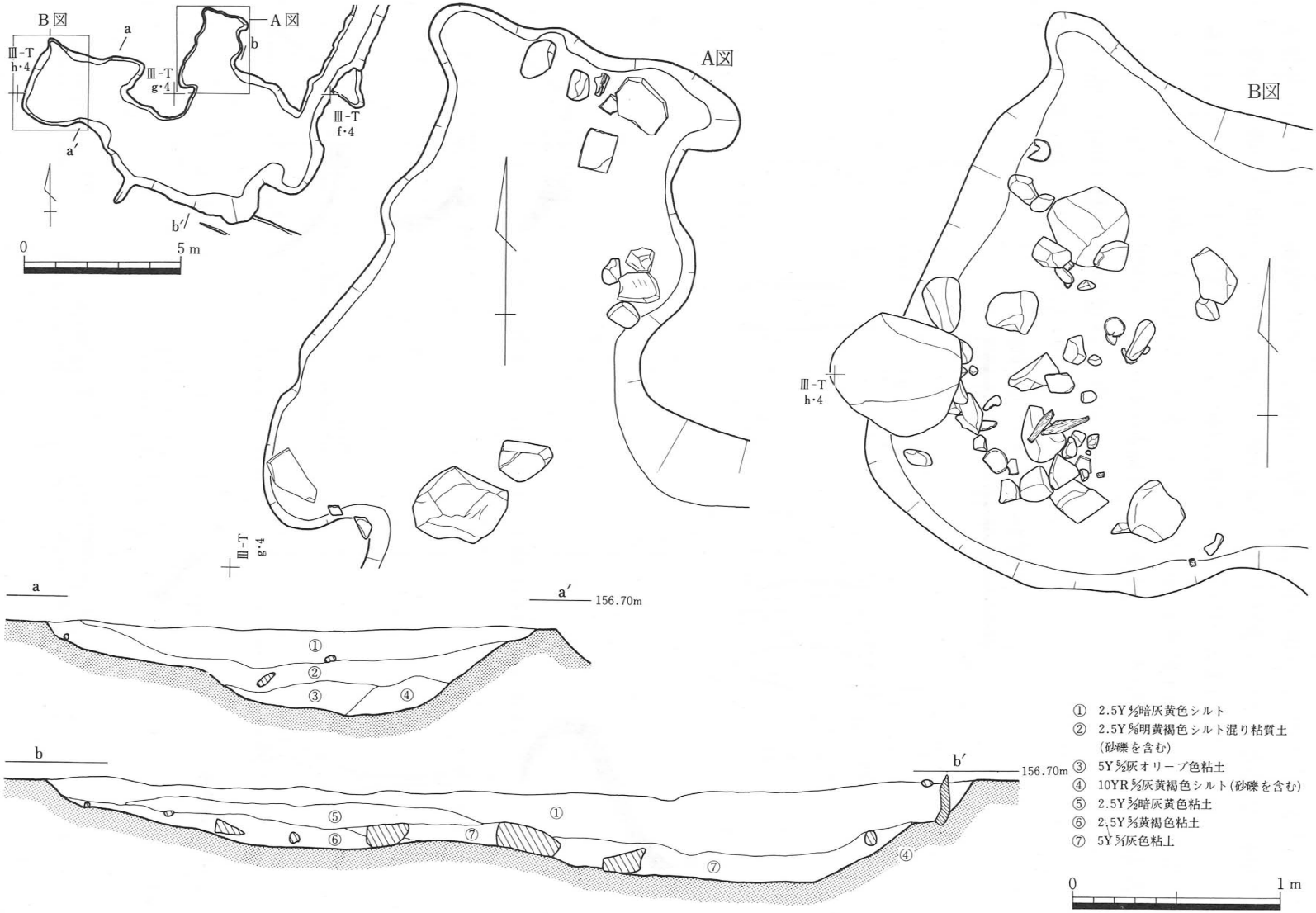
器埦（892～904）、面取り花崗岩（905）が出土している。

ＳＫ458（第231・232図、図版43・57・129）

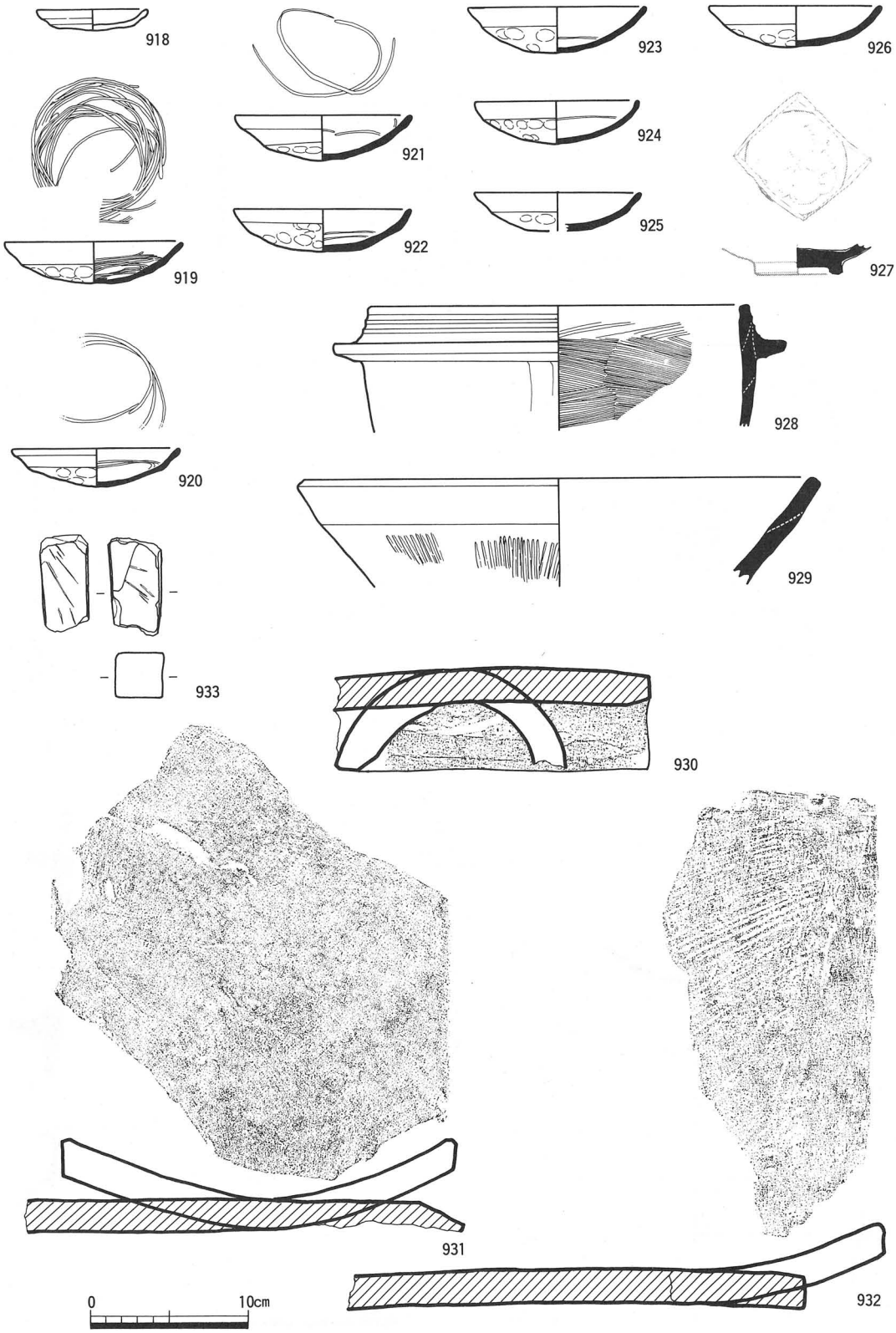
［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｆ－10付近で、ＳＷ４の東側４ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。土壙内部には河原石が充塡されている。これらの石には二次的に火を受けたものもある。埋土中にも炭化物や焼土が含まれている。長径3.08ｍ、短径2.7ｍ、深さ0.14ｍ。

［遺物］　遺物は土師質小皿（906～908）、土師質羽釜（914）、瓦器埦（909）、青磁小皿（913）、白磁碗（911・912）、灰釉底部（910）、灰釉甕（915）、砥石（916・917）が出土している。

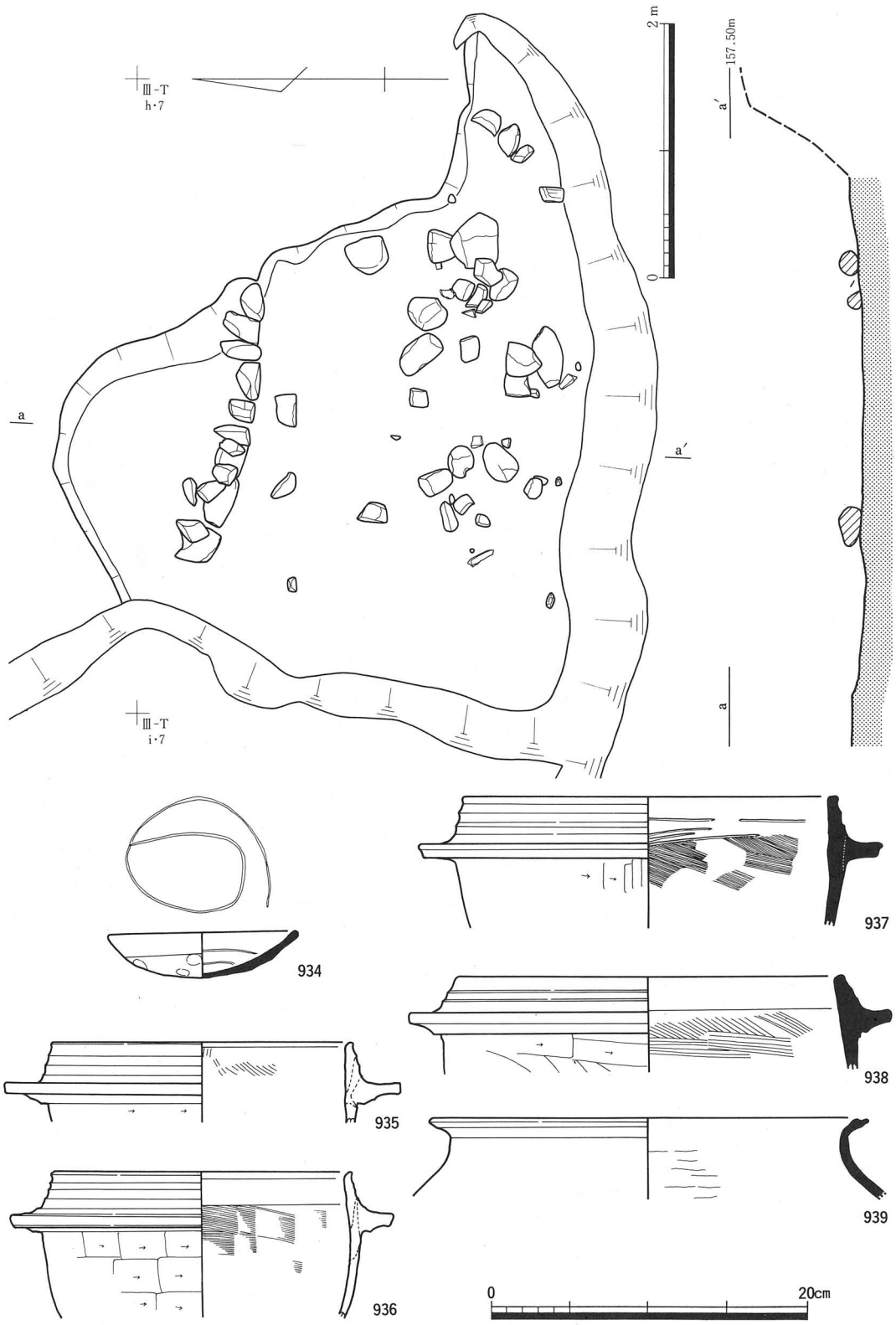
ＳＫ469（第233・234、図版129・130）



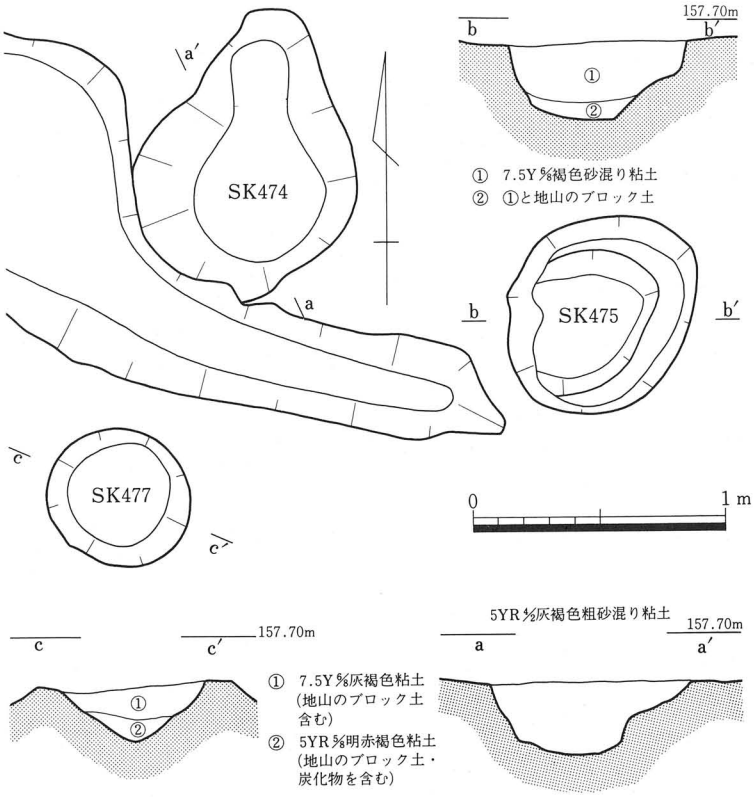
第233図　ＳＫ469遺構実測図（1/30）



第234図　ＳＫ469遺物実測図



第235図　ＳＫ470遺構（1/50）及び遺物実測図



第236図　ＳＫ474・ＳＫ475・ＳＫ477遺構実測図（1/30）

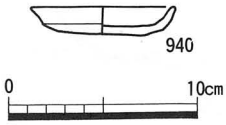
［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｆ～ｇ－13～14付近に位置する。平面形は不定形な大型の土壙である。土壙の西側と北側には河原石の集石が見られ、遺物も共伴している。長軸10m、短軸６m、深さ0.45m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（918）、瓦器埦（919～926）、青磁碗（927）、瓦質羽釜（928）、陶器練鉢（929）、丸瓦（930）、平瓦（931・932）、砥石（933）が出土している。

ＳＫ470（第235図、図版58・130）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｈ－16～17付近に位置する。土壙南側、西側は調査区外に広がる為、平面形は不明である。土壙内北側には東西に2.2mの石列があり、一種の護岸であったようである。検出長軸5.16m、短軸4.18m、深さ0.142m。

［遺物］　遺物は土師質羽釜（935・936）、瓦器埦（934）、瓦質羽釜（937・938）、陶器（939）が出土している。



第237図　ＳＫ475
遺物実測図

ＳＫ474（第236図、図版43）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｂ～ｃ－８に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径1.2m、短径0.9m、深さ0.25m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

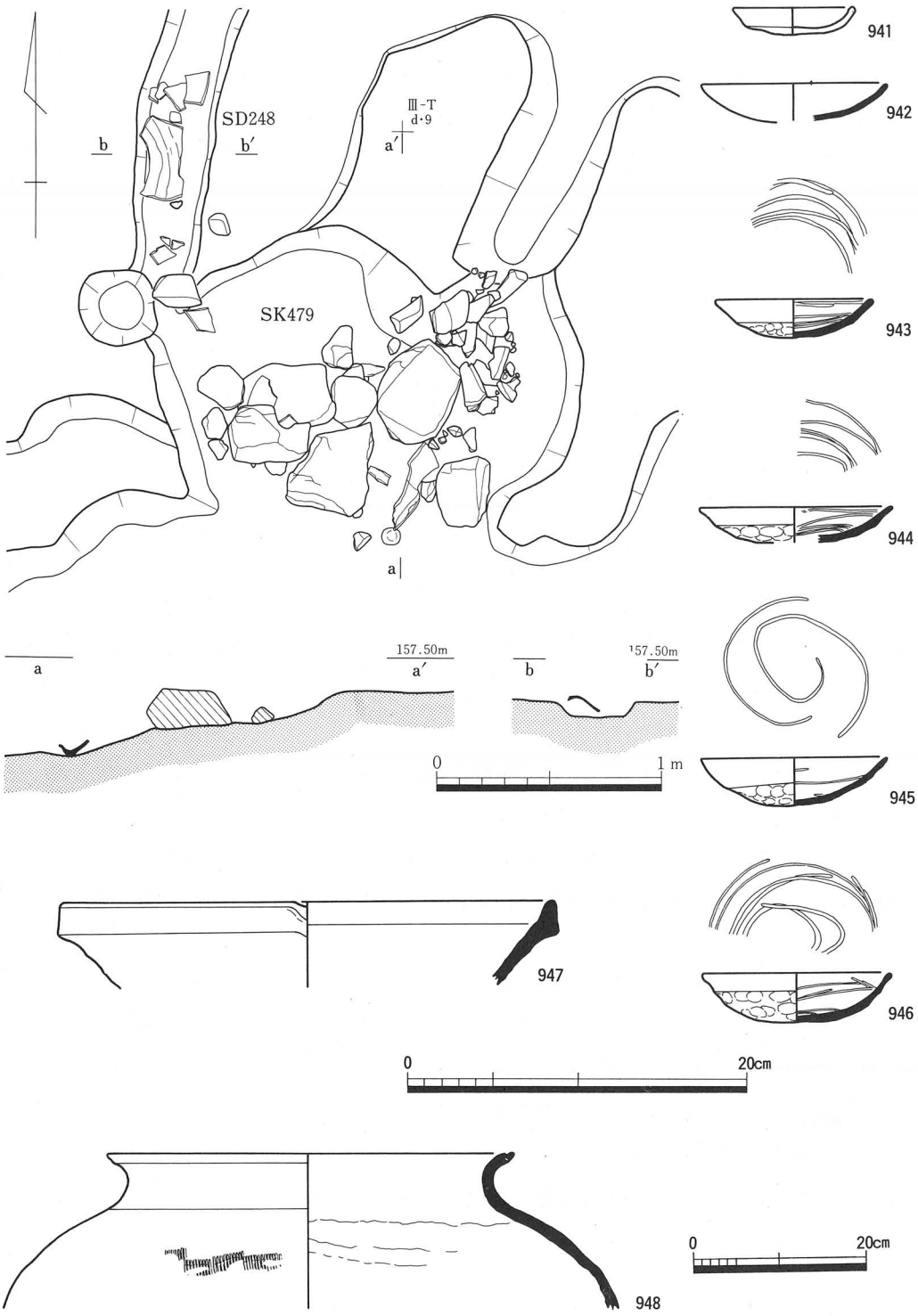
ＳＫ475（第236・237図、図版43・130）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｂ－８付近でＳＫ474の東側0.8mに位置する。平面形は円形を呈する。長径0.8m、深さ0.25m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（940）が出土している。

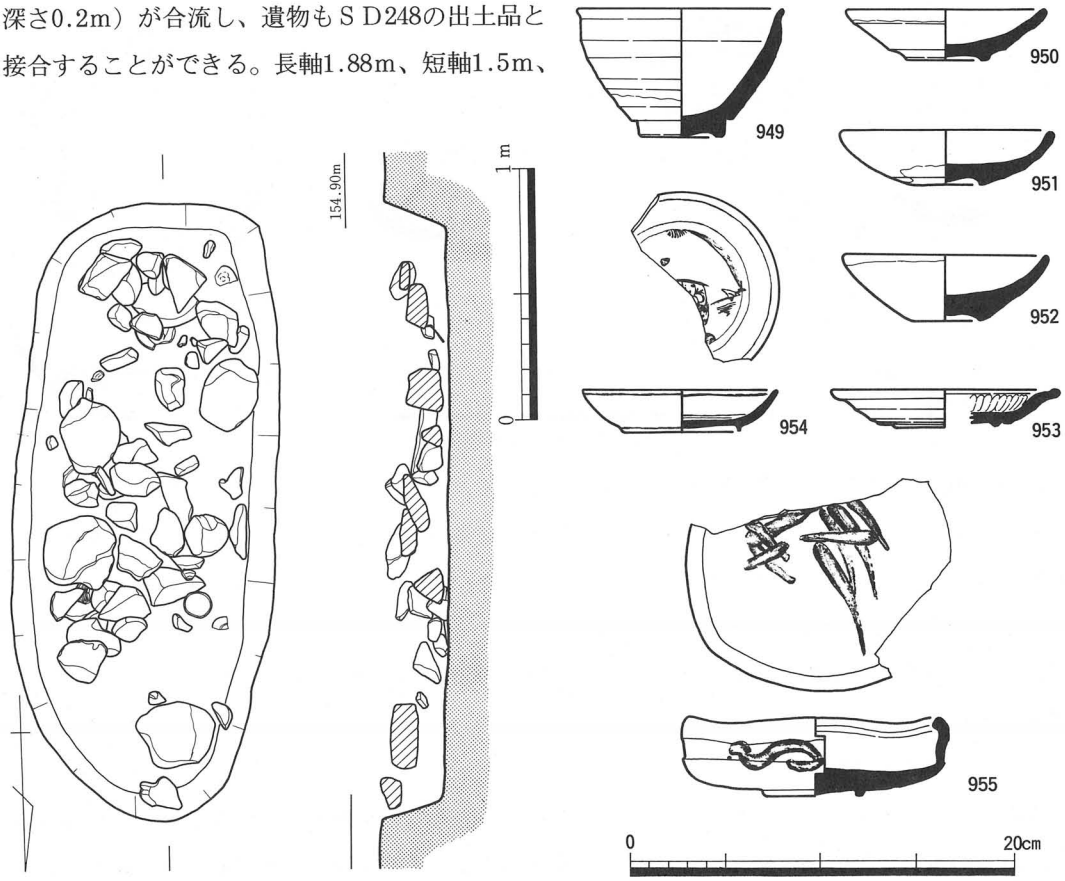
ＳＫ479（第238図、図版43・58・130）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｃ～ｄ－９付近に位置する。平面形は不定形を呈する。土壙内からは最大50×35㎝の河原石と遺物が出土している。この土壙にはＳＤ248（上端幅0.36m、下端幅0.25m、



第238図　ＳＫ479遺構（1/30）及び遺物実測図

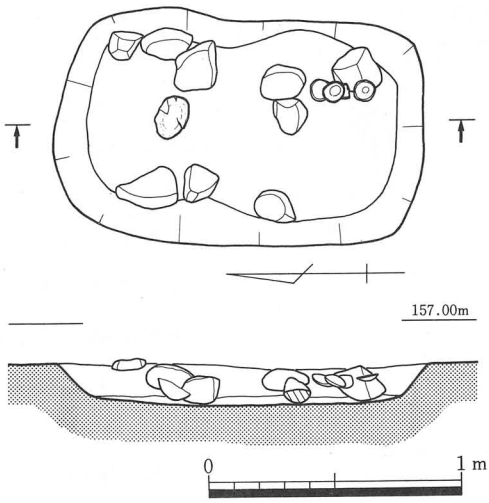
深さ0.2m）が合流し、遺物もＳＤ248の出土品と接合することができる。長軸1.88m、短軸1.5m、



第239図　ＳＲ９遺構（1/30）及び遺物実測図

深さ0.23m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（941）、瓦器皿（942）、瓦器埦（943～946）、瓦質片口鉢（947）、常滑大甕（948）が出土している。



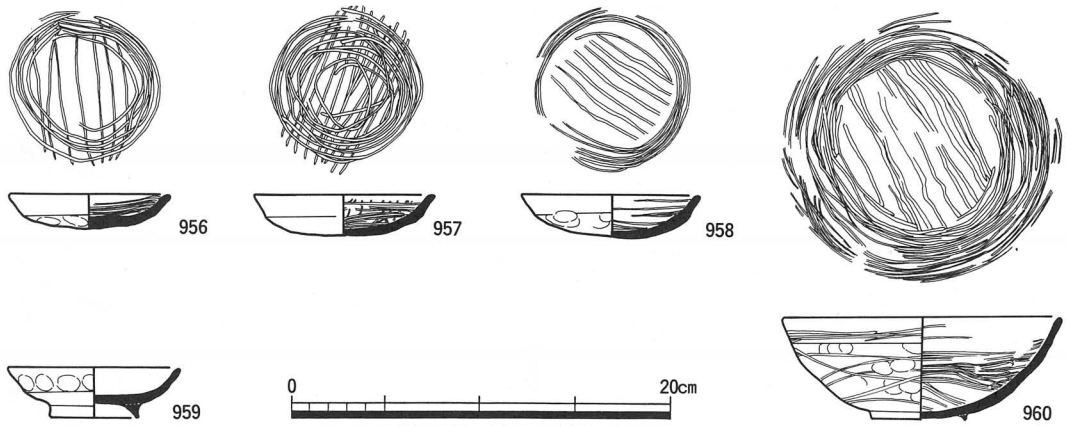
第240　ＳＲ10遺構実測図（1/30）

土壙墓（ＳＲ）

ＳＲ９（第239図、図版41・59・130）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｈ－12付近に位置する。平面形は長楕円形を呈する。主軸方向は南北を示す。土壙底部には最大35×25㎝の河原石と遺物が出土している。特に北側からは二次的に火を受けた天目茶碗が完形で正立した状態で出土している。長径2.4m、短径１m、深さ0.27m。

［遺物］　遺物は天目茶碗（949）、染付皿（954）、美濃折縁削ぎ菊皿（953）、織部鉢（955）、陶器皿（950～952）が出土している。



第241図　ＳＲ10遺物実測図

ＳＲ10（第240・241図、図版59・130・131）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｔ－16付近に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸方向は南北を示す。土壙底部には最大25×15㎝の河原石が東側長辺に５点、西側長辺に３点並び、東側長辺の南端に瓦器類が４点、北側中央に１点出土している。

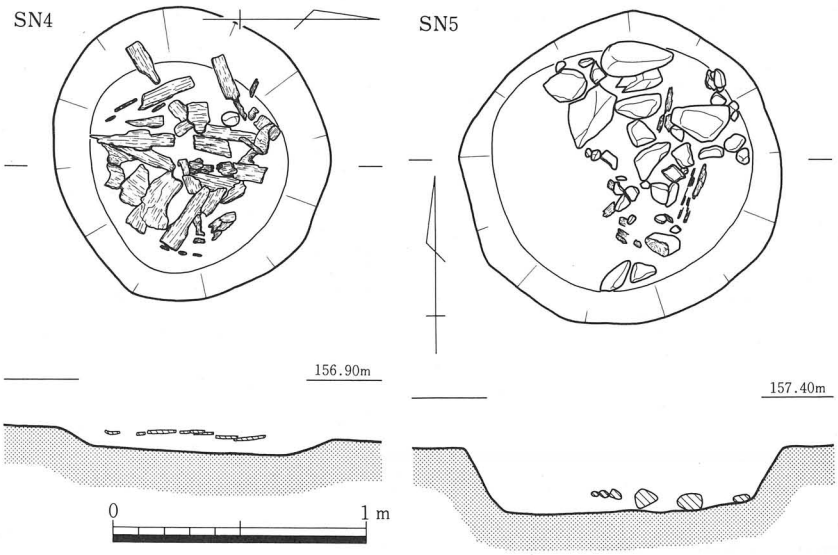
［遺物］　遺物は瓦器皿（956～958）、小型瓦器椀（959）、瓦器椀（960）が出土している。

埋桶（ＳＮ）

ＳＮ３（第248図、図版60）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｃ－18でＳＬ７と東西に並列して位置し、平面形は円形を呈する。土壙底部には桶底の木質が部分的に残存している。土壙内部には最大25×15㎝の河原石が数点落ち込んでいる。上端径1.33m、下端径0.95m、深さ0.26m。

［遺物］　遺物は出土していない。

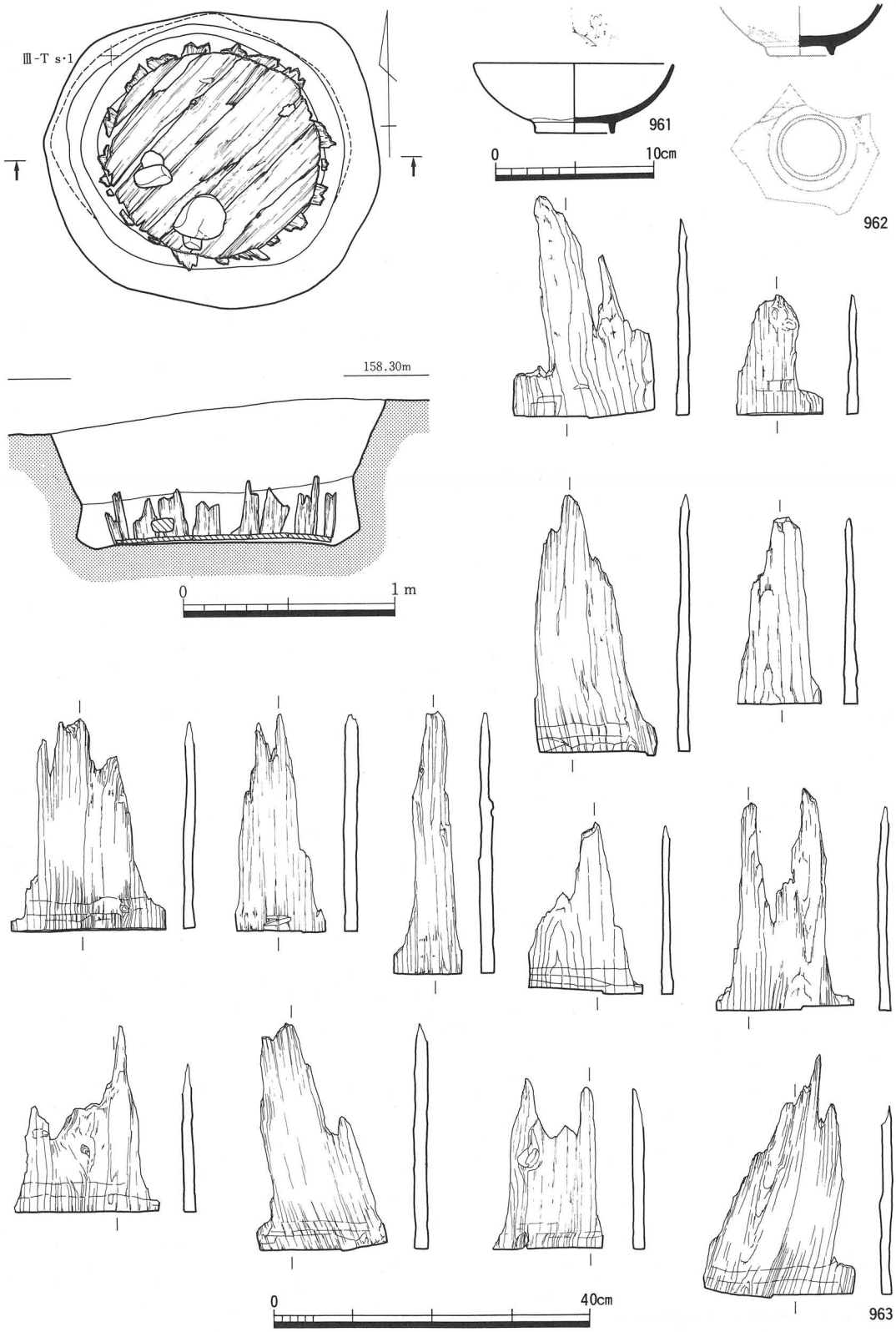


第242図　ＳＮ４・ＳＮ５遺構実測図（1/30）

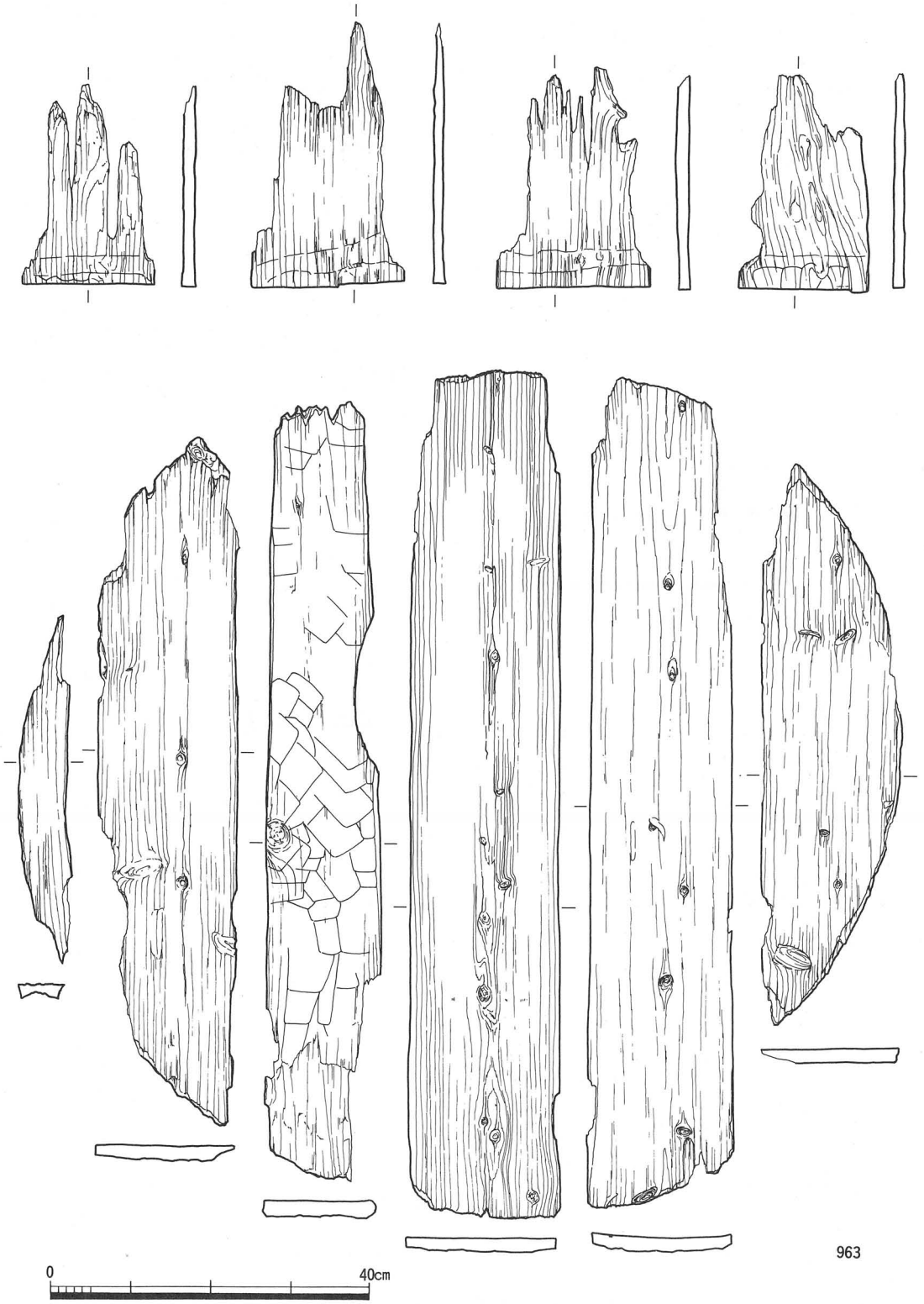
ＳＮ４（第242図、図版60）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｓ－16に位置し、平面形は円形を呈する。土壙はそのほとんどが削平を受けている。土壙底部には桶底部の木質が部分的に残存している。上端径1.1m、下端径0.75m、深さ0.1m。

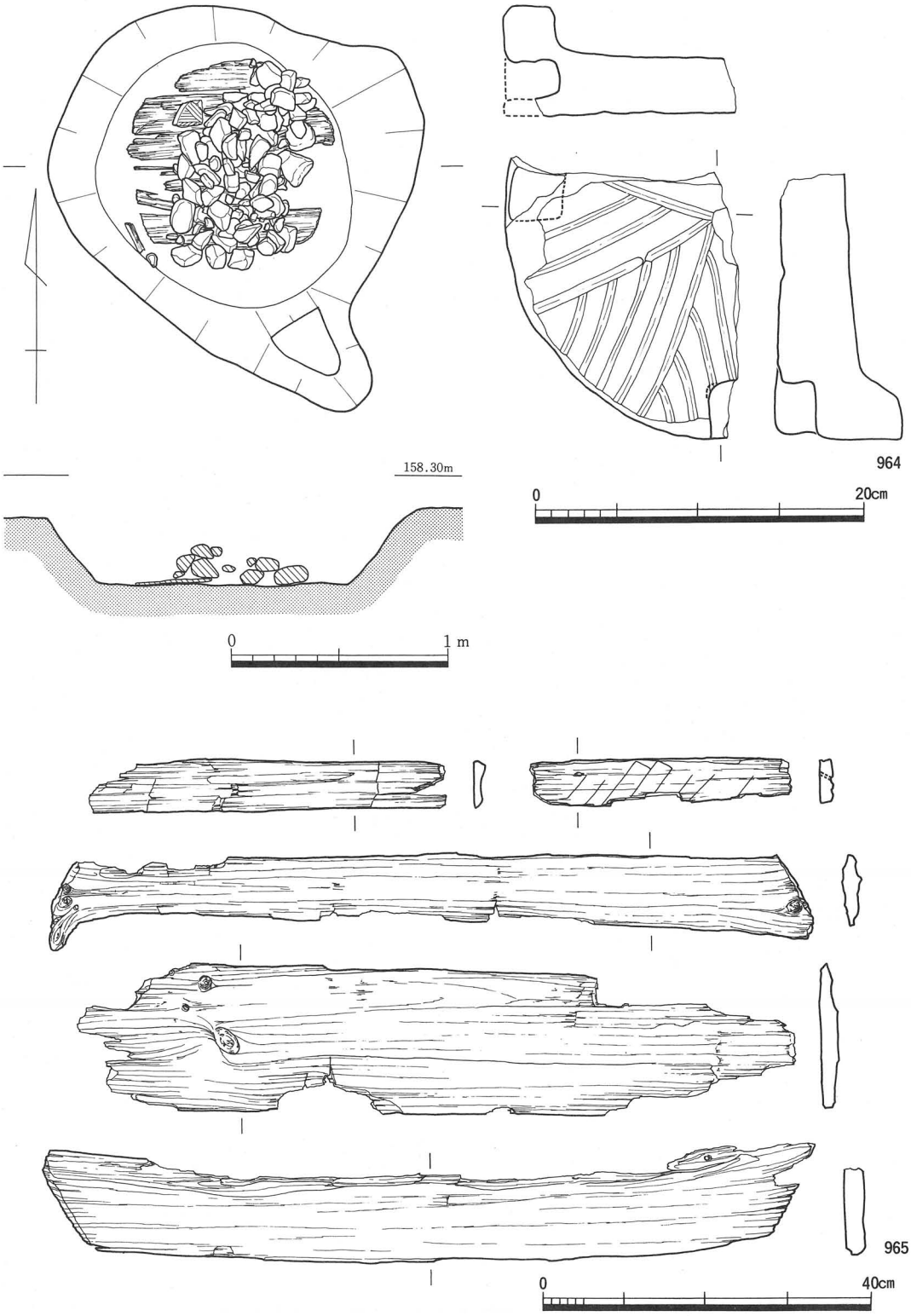
［遺物］　遺物は出



第243図　ＳＮ６遺構（1/30）及び遺物（１）実測図



第244図　ＳＮ６遺物実測図（２）



第245図　ＳＮ７遺構（1/30）及び遺物実測図

土していない。

ＳＮ５（第242図、図版61）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｉ－２に位置し、平面形は円形を呈する。土壙はそのほとんどが削平を受けている。土壙底部には桶底部の木質が部分的に残存し、土壙内部には最大25×15㎝の河原石が数点落ち込んでいる。上端径1.25m、下端径１m、深さ0.28m。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＮ６（第243・244図、図版44・61・131～133）

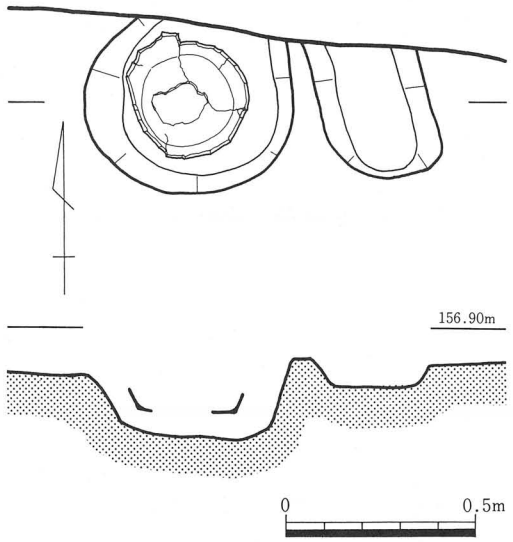
［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｒ－１付近に位置し、平面形は円形を呈する。土壙底部には桶底部と側板の下半部が残存している。桶底部径65㎝、側板残存長20㎝。上端径1.6m、下端径1.15m、深さ0.7m。

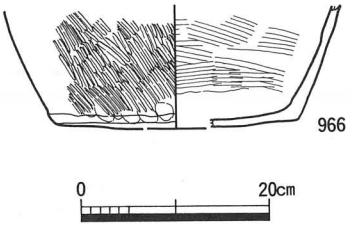
［遺物］　遺物は染付碗（961・962）、桶（963）が出土している。

ＳＮ７（第245図、図版44・62）

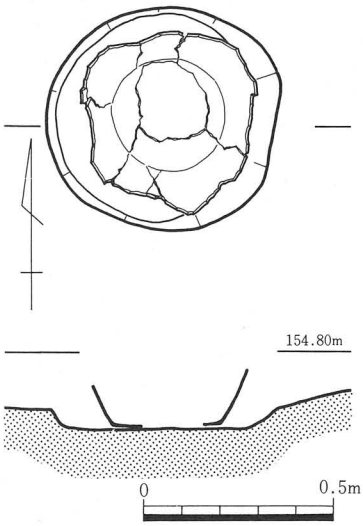
［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｓ－３～４付近に位置し、平面形はやや不定形な円形を呈する。土壙底部には桶底部が部分的に残存している。土壙内部には最大25×15㎝の河原石が数点落ち込んでいる。上端径1.3m、下端径1.05m、深さ0.25m。

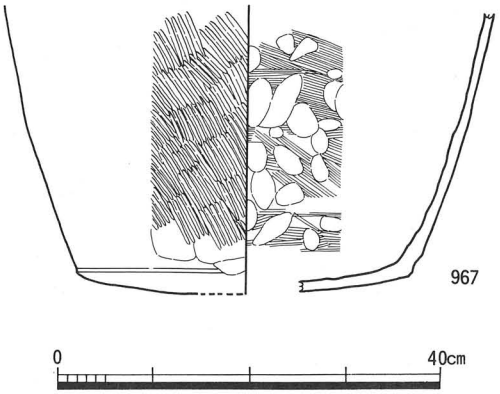
［遺物］　遺物は石臼（964）、桶（965）が出土している。





第246図　ＳＬ５遺構（1/20）及び遺物実測図



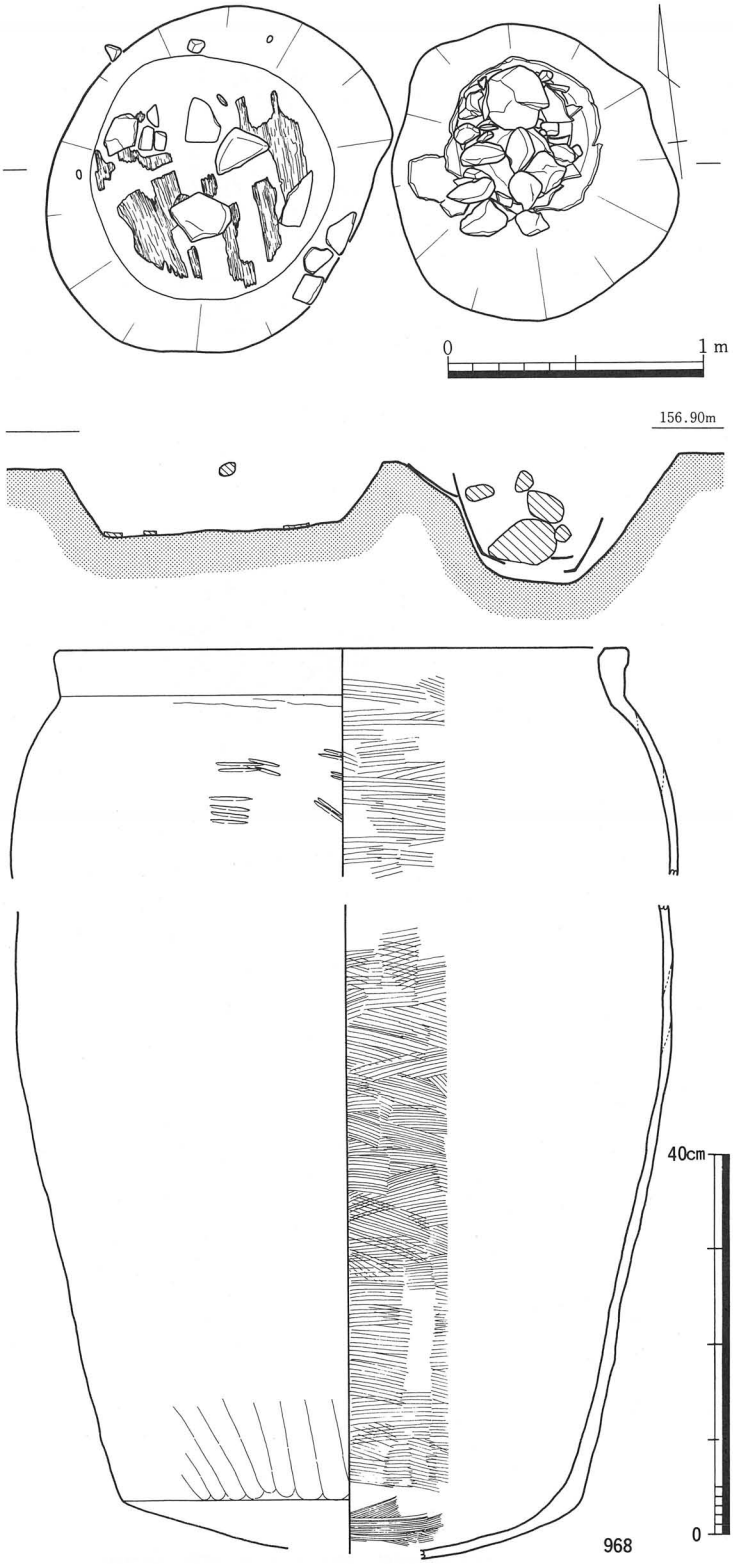


第247図　ＳＬ６遺構（1/20）及び遺物実測図

埋甕（ＳＬ）

ＳＬ５（第246図、図版41・62）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｇ－12付近でＳＲ９の東側１mに位置し、平面形は円形を呈



第248図　ＳＮ３・ＳＬ７遺構（1/30）及びＳＬ７遺物実測図

する。土壙中央に残存高８㎝の甕底部が残存している。掘方上端径0.55m、下端径0.4m、深さ0.15m。

［遺物］　遺物は土師質甕（966）が出土している。

ＳＬ６（第247図、図版41・63・134）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｉ－14付近に位置し、平面形は円形を呈する。土壙中央に残存高15㎝の甕底部が残存している。掘方上端径0.57m、下端径0.5m、深さ0.05m。

［遺物］　遺物は土師質甕（967）が出土している。

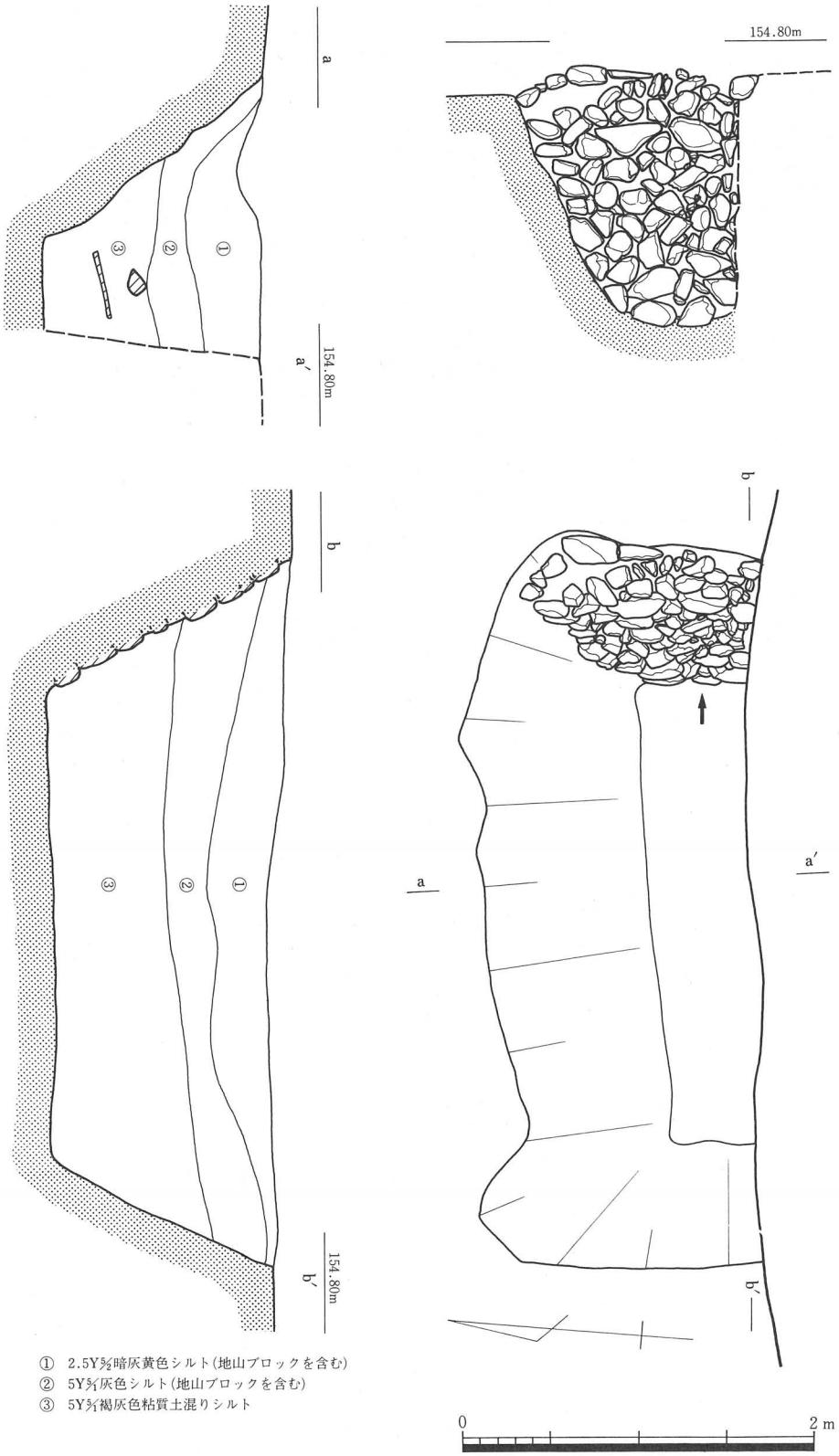
ＳＬ７（第248図、図版63・134）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｃ－18付近で、ＳＮ３の東側に接して位置し、平面形は円形を呈する。土壙中央に残存高36㎝の甕底部が残存している。甕の内部には最大35×25㎝の河原石が充塡されている。上端径1.0m、下端径0.35m、深さ0.5m。

［遺物］　遺物は土師質甕（968）が出土している。

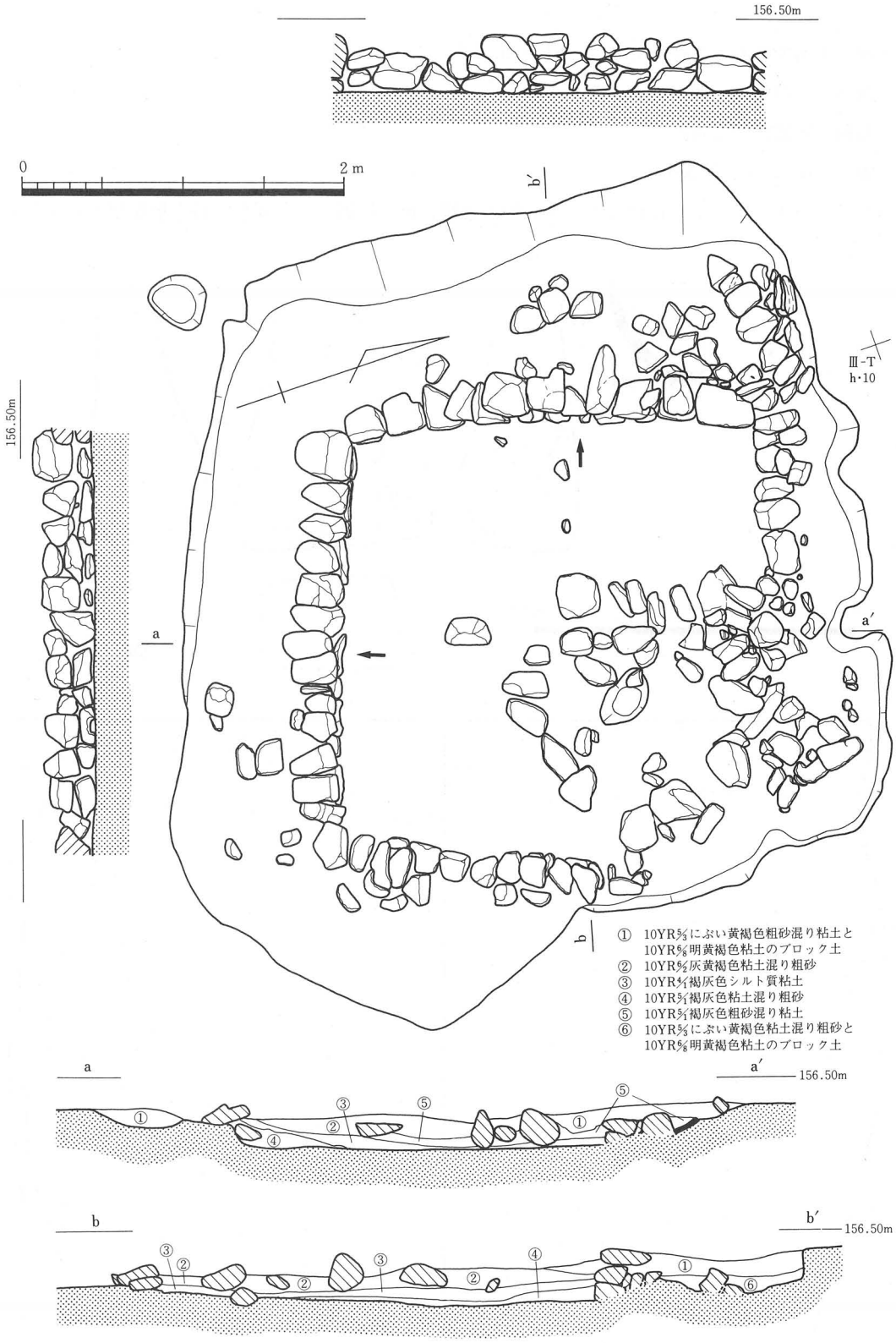
ＳＬ８

［遺構］　Ⅲ－Ｓ－ｑ－２付近でＳＤ215の北東側に位置し、平面形は不定円形を呈する。盗掘を受けた為、



① 2.5Y5/3暗灰黄色シルト(地山ブロックを含む)
② 5Y5/1灰色シルト(地山ブロックを含む)
③ 5Y5/1褐灰色粘質土混りシルト

第249図　ＳＷ３遺構実測図（1/40）



第250図　ＳＷ４遺構実測図（1/40）

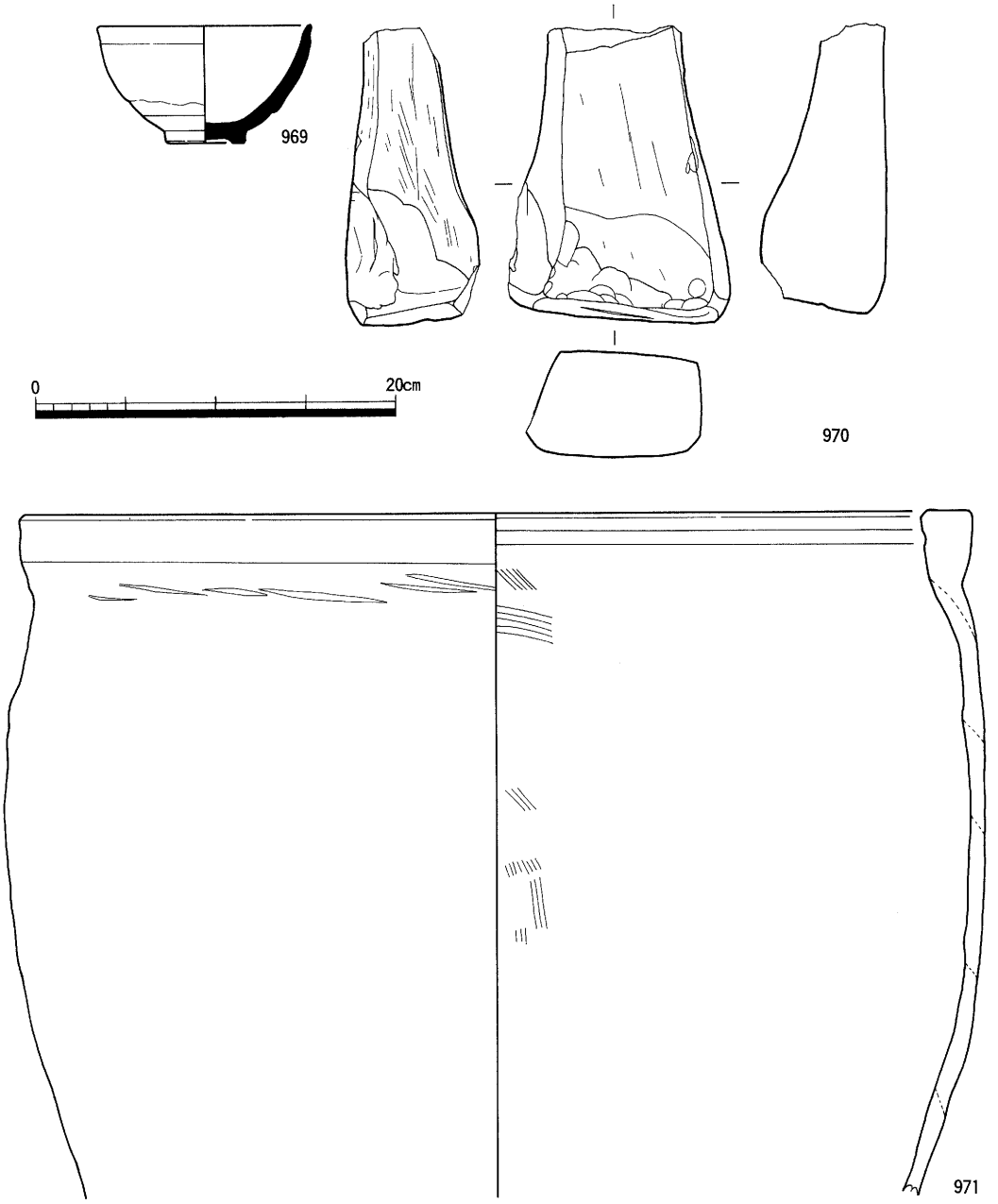
詳細は不明である。長径2.3m、短径1.85m、深さ0.26m。

［遺物］　遺物は不明である。

石列・石組み（ＳＷ）

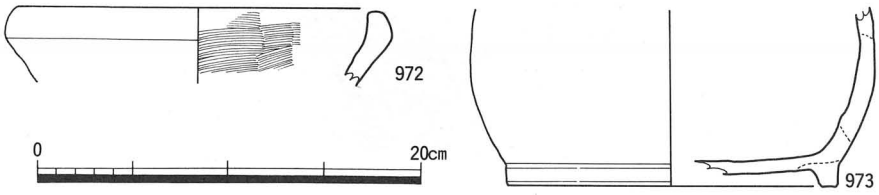
ＳＷ３（第249図、図版64）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｔ－16付近で、ＳＥ22の東側２ｍに位置し、平面形は長方形を呈する大型の



第251図　ＳＷ４遺物実測図

第252図　ＳＷ５遺構実測図（1/40）



第253図　ＳＷ５遺物実測図

土壙の東側方面に築かれている。南側は調査区外となる。土壙の規模は長軸4.2

第254図　ＳＷ６遺構実測図（1/40）

m、検出短軸1.72m、深さ1.55m。石組みは高さ1.5m、傾斜角度60度、最大40×20㎝の河原石により築かれている。

［遺物］　遺物は自然木が若干出土している。

ＳＷ４（第250・251図、図版43・64・134）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｇ～ｈ－10付近に位置し、平面形が方形を呈する石組の遺構である。北東隅は崩壊しているが、部分的に２段の石組が残存している。石組の内面は平面を成している。これは、河原石の面を成す方を意識して積まれているようである。掘方は不定形な方形を呈している。石組みの内法は一辺2.5m、掘方の長軸5.0m、短軸4.1m、深さ0.32m、石組みの高さは0.4m。

［遺物］　遺物は天目茶碗（969）、土師質甕（971）、砥石（970）が出土している。

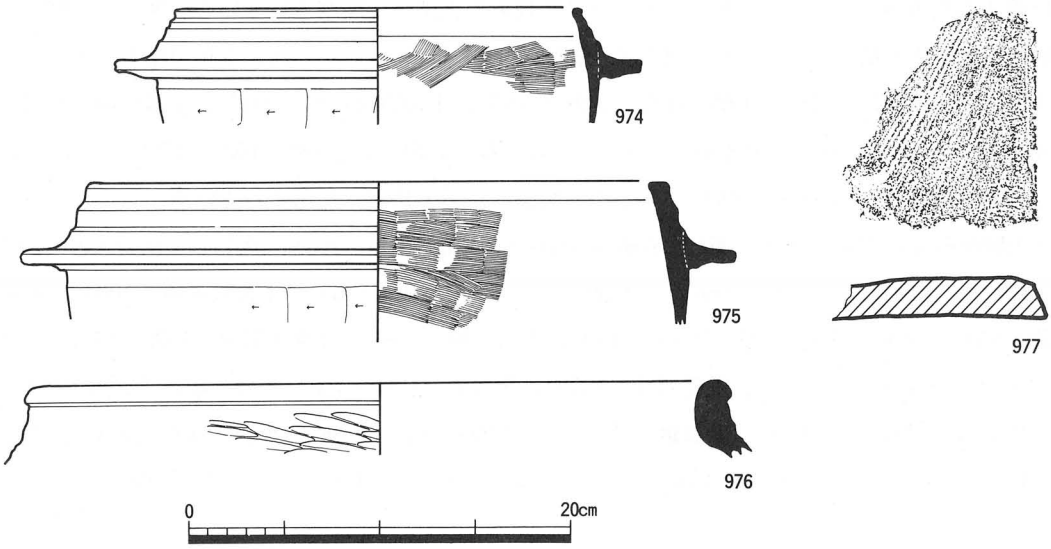
ＳＷ５（第252・253図、図版65）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｈ～ｉ－14付近に位置し、平面形が長方形を呈する土壙の東側・北側・南側の３面の法面に築かれている。いずれも最大50×30㎝のやや角ばった河原石の面を揃えて築かれている。また、北側・東面・南面の石組みの基礎には東面は長さ340㎝、径14㎝、南面は長さ80㎝、径16㎝の木材が置かれている。西側の上端には長さ500㎝、径15㎝の自然木が置かれている。土壙の規模は長軸が5.2m、短軸1.9m、深さ0.9m。東側石組みは上端長3.95m、下端長3.4m、高さ0.9m、傾斜角70度。南側上端長1.4m、下端長0.8m、高さ0.8m、傾斜角70度。北側上端長1.7m、下端長0.4m、高さ0.8m、傾斜角60度。

［遺物］　遺物は瓦質練鉢（972）、土師質火舎（973）が出土している。

ＳＷ６（第254・255図、図版65）

［遺構］　Ｉ－Ｊ－ｂ－16付近に位置し、平面形が不定形な長方形を呈する土壙の北側の東西に築かれている。土壙は南側は調査区外に広がる。一段しか残存していなかったがいずれも最大50



第255図　ＳＷ６遺物実測図

×30㎝のやや角ばった河原石の面を揃えて築かれている。長さ3.2m、高さ0.3m。

［遺物］　遺物は瓦質羽釜（974・975）、瓦質甕（976）、平瓦（977）が出土している。

窯状遺構（ＳＹ）

ＳＹ８（第256～258、図版66・134）

［遺構］　Ⅲ－Ｙ－ｄ－１付近に位置し、平面形が不定形な長方形を呈する登窯状の瓦窯と考えられるが、崩壊が激しく、詳細は不明である。長さ5.9m、幅2.8m、焼成部は3.8m、焼成部の傾斜角20度、主軸方向Ｎ－37°－Ｗである。

残存状態は悪く床面が若干残る程度である。また、窯内には近世瓦類や土器類が堆積しており、これらは二次的な廃棄で埋められたようである。

［遺物］　遺物は軒丸瓦（980）、軒平瓦（981・982）、丸瓦（983・984）、平瓦（988）、熨斗瓦（985～987）、桟瓦（989・990）、施釉陶器鉢（978）、土製ミニチュア人形（991）、曲物底部（979）が出土している。

その他（ＳＸ）

ＳＸ13（第259図、図版43・45・67・135・136）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ－ｄ－１付近に位置する土器溜である。土器類はＳＤ232の埋土上位に分布する。範囲は長径1.5m、短径１ｍである。

［遺物］　遺物は土師質小皿（992～1012）が中心で、瓦質小皿（1013・1014）、瓦器椀（1015～1022）、白磁皿（1023）が出土している。

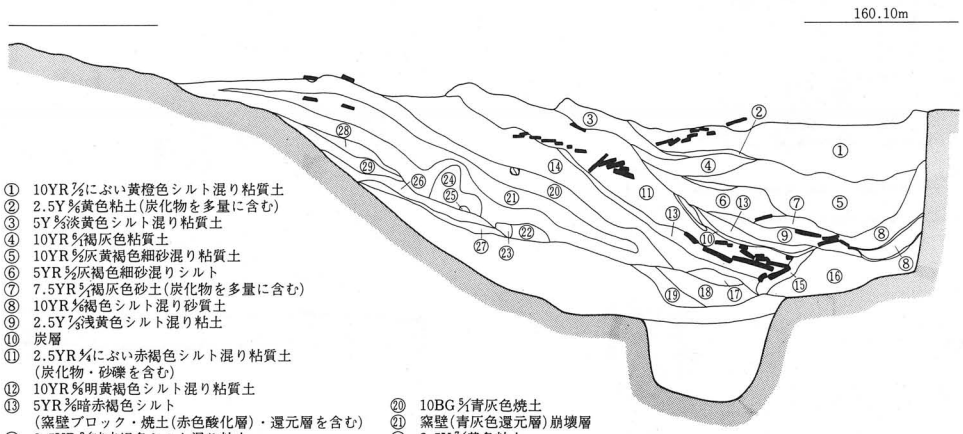
自然地形（ＮＶ）

ＮＶ５（第260～263図、図版66・136～138・150）

［遺構］　Ⅲ－Ｔ～Ｙ－ｃ～ｆ－16～１付近に位置する池状の遺構である。この遺構はＳＹ８の位置する当遺跡の内では最上段になるテラス状地形の裾部分に開削されている。埋土は上層と下層に分層でき上層（１～３）からは近世土器類、下層（４・５）からは瓦器類が出土している。

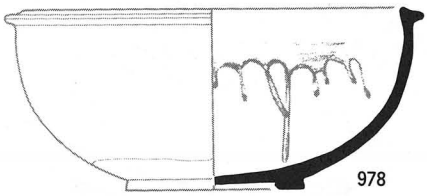
［遺物］　遺物は下層から土師質小皿（1024・1025）、土師質高台部（1026）、瓦器小皿（1027）、瓦器椀（1028・1029）、天目茶碗（1030）、瓦質羽釜（1031）、瓦質甕（1032・1033）、瓦質火舎（1034・1035）、木製把手（1036）、木製不明製品（1037・1038）が出土している。

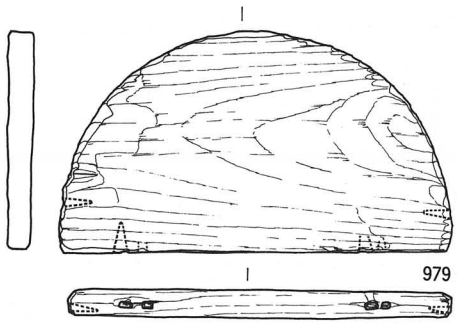
上層からは染付碗（1039～1051）、青磁碗（1052）、土師質炮烙（1055～1057）、土師質火舎（1053・1054）、土師質皿（1058～1060）、青磁皿（1061）、染付皿（1065）、染付筒茶碗（1064）、鉄釉蓋（1063）、施釉陶器碗（1062・1067～1071）、おろし皿（1066）、不明木製品（1072・1074・1075～1078）、曲物底部（1073）、木製荷札（1079）、陶器壷（1080・1081）、備前摺鉢（1082）、平瓦（1083）、鉄製五徳（1084）、鉄製鋤先（1085）、不明銅製品（1088）、きせる雁首（1089）、刃子（1090）、土製ミニチュア仏像（1086）、土製ミニチュア人形（1087）が出土している。



① 10YR 7/2にぶい黄橙色シルト混り粘質土
② 2.5Y 8/6黄色粘土(炭化物を多量に含む)
③ 5Y 8/3淡黄色シルト混り粘質土
④ 10YR 5/1褐灰色粘質土
⑤ 10YR 5/2灰黄褐色細砂混り粘質土
⑥ 5YR 5/3灰褐色細砂混りシルト
⑦ 7.5YR 5/1褐灰色砂土(炭化物を多量に含む)
⑧ 10YR 4/4褐色シルト混り砂質土
⑨ 2.5Y 7/3浅黄色シルト混り粘土
⑩ 炭層
⑪ 2.5YR 4/4にぶい赤褐色シルト混り粘質土
(炭化物・砂礫を含む)
⑫ 10YR 5/6明黄褐色シルト混り粘質土
⑬ 5YR 3/6暗赤褐色シルト
(窯壁ブロック・焼土(赤色酸化層)・還元層を含む)
⑭ 2.5YR 3/3暗赤褐色シルト混り粘土
(炭化物・焼土塊を含む)
⑮ 7.5YR 5/3褐色シルト(炭化物を含む)
⑯ 10YR 5/2灰黄褐色シルト
⑰ 5YR 4/1褐灰色シルト
⑱ N 5/1灰色シルト(窯壁)(砂礫を含む)
⑲ 10BG 5/1窯壁(青灰色還元層)(砂礫を含む)
⑳ 10BG 5/1青灰色焼土
⑳ 10BG 5/1青灰色焼土
㉑ 窯壁(青灰色還元層)崩壊層
㉒ 2.5Y 7/6黄色粘土
㉓ 2.5Y 8/1灰白色粘土(青灰色焼土を含む)
㉔ 2.5Y 4/3にぶい赤褐色シルト(焼土)
㉕ 10YR 5/8明黄褐色シルト
㉖ 2.5Y 8/3灰白色シルト
㉗ 5B 3/1暗青灰色焼土(炭化物を含む)
㉘ 2.5Y 3/3暗赤褐色シルト
㉙ 10YR 5/6明黄褐色シルト

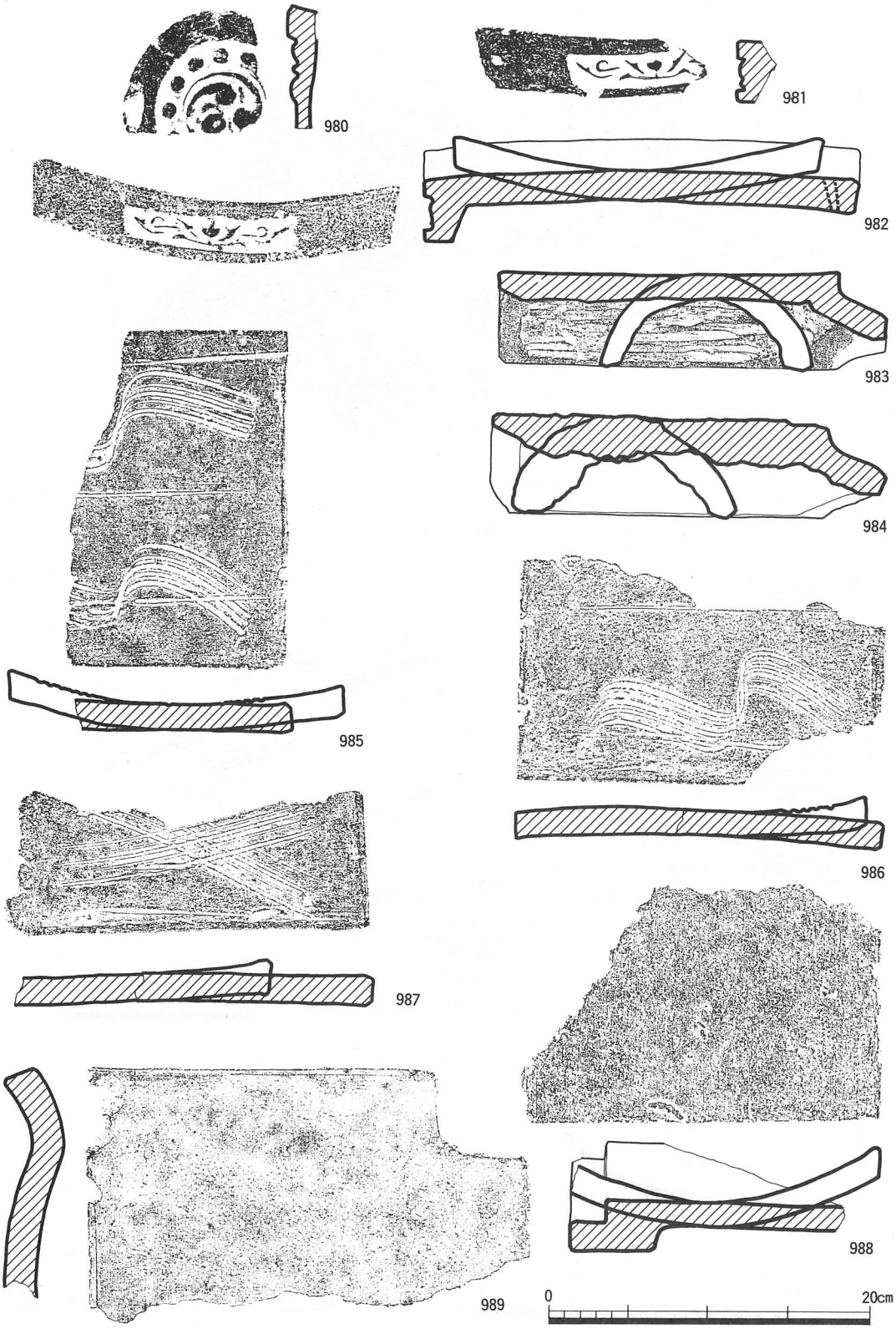
0 1.5m



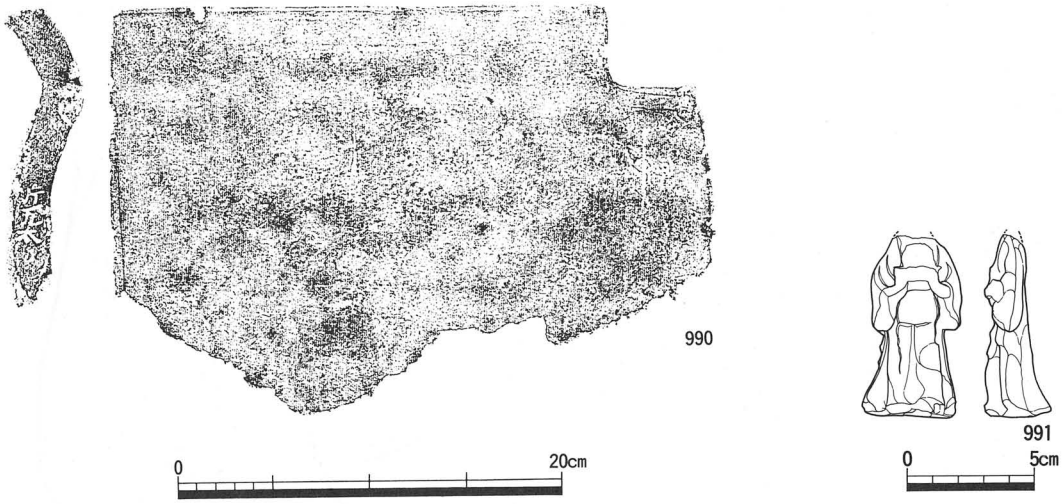


0 20cm

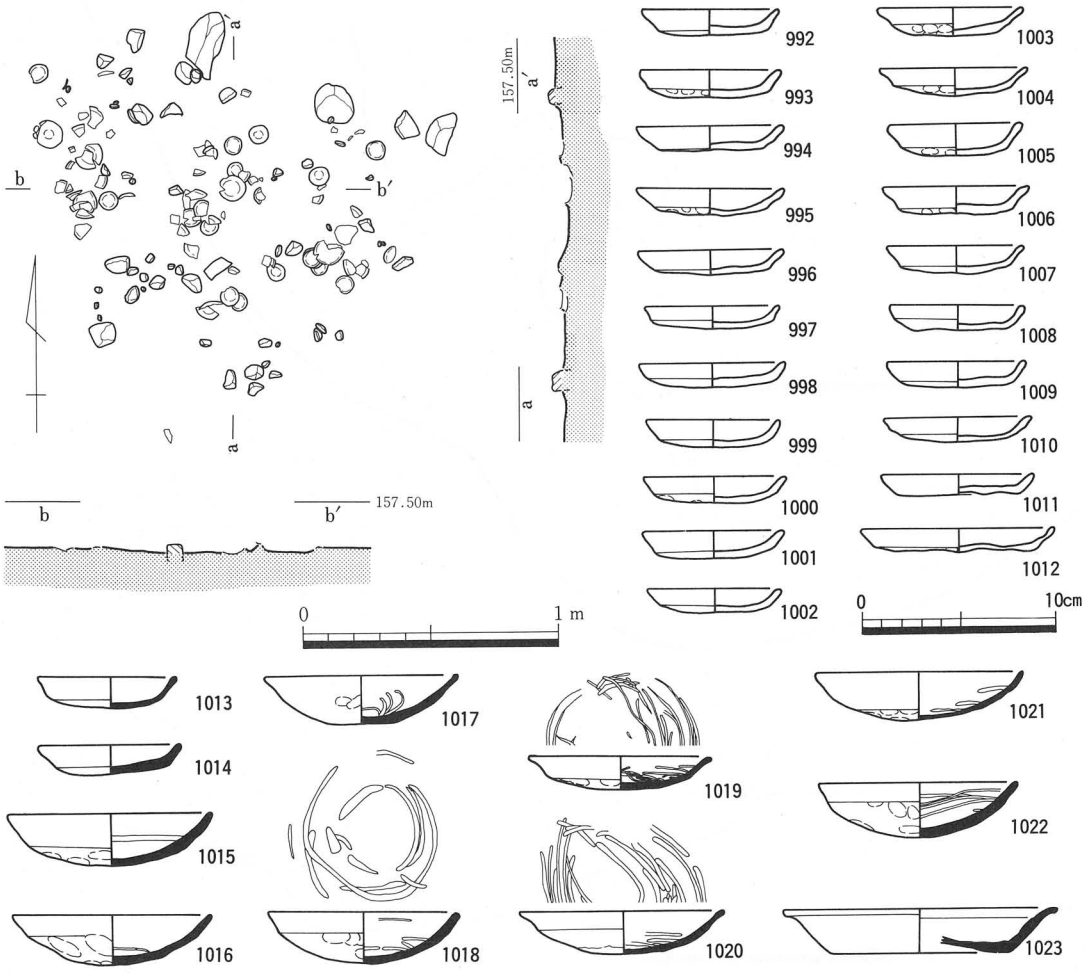
第256図　ＳＹ８遺構（1/50）及び遺物（１）実測図



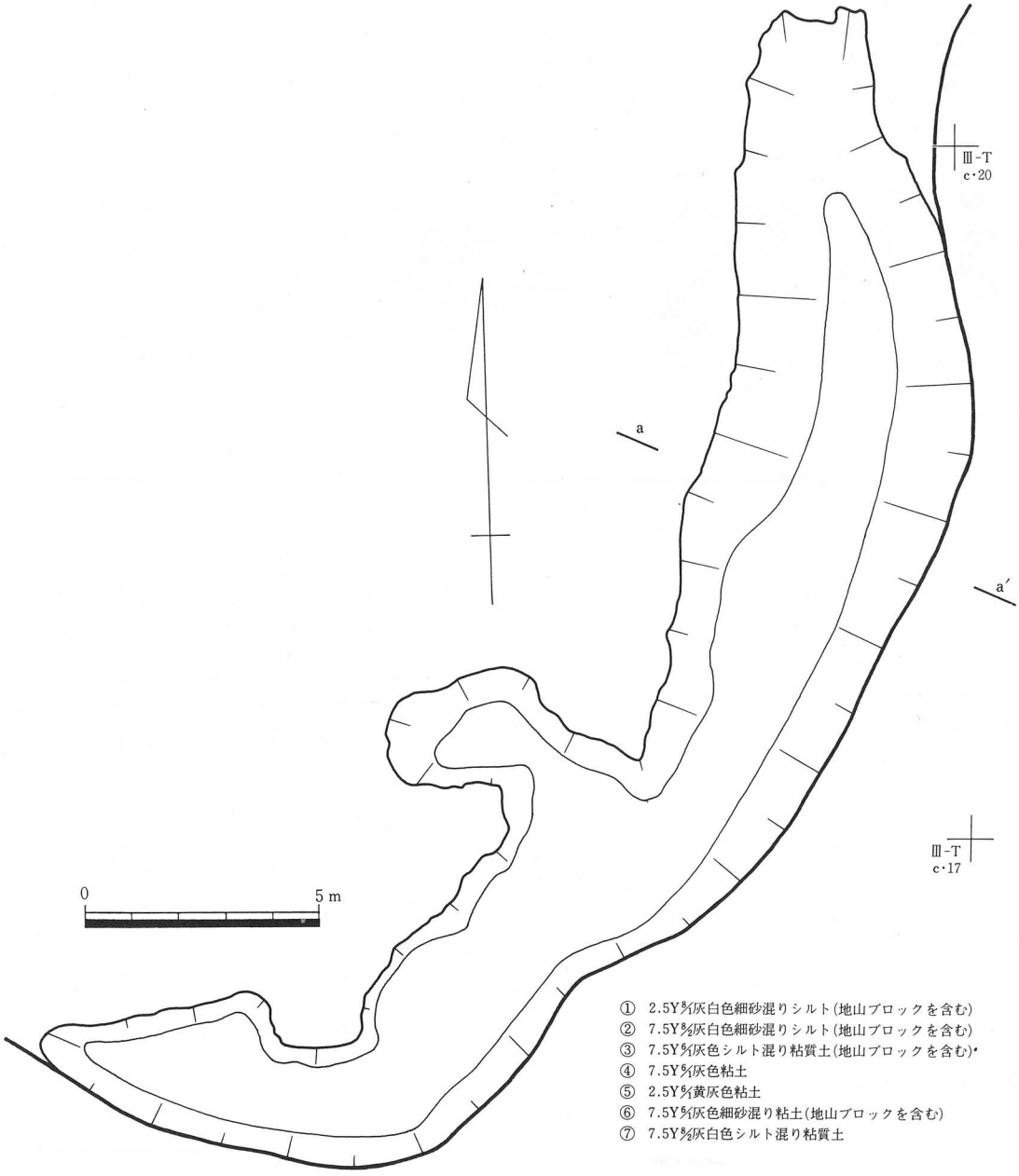
第257図　ＳＹ８遺物実測図（２）

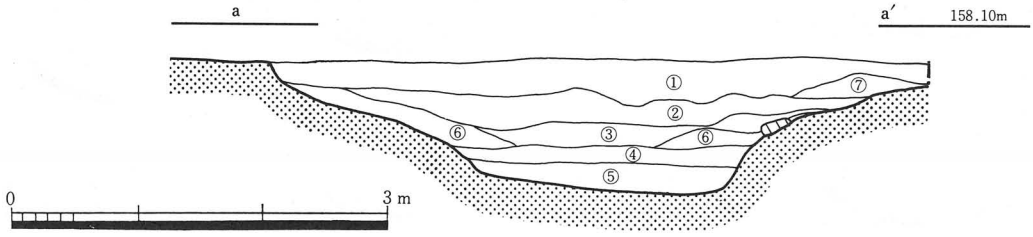


第258図　ＳＹ８遺物実測図（３）

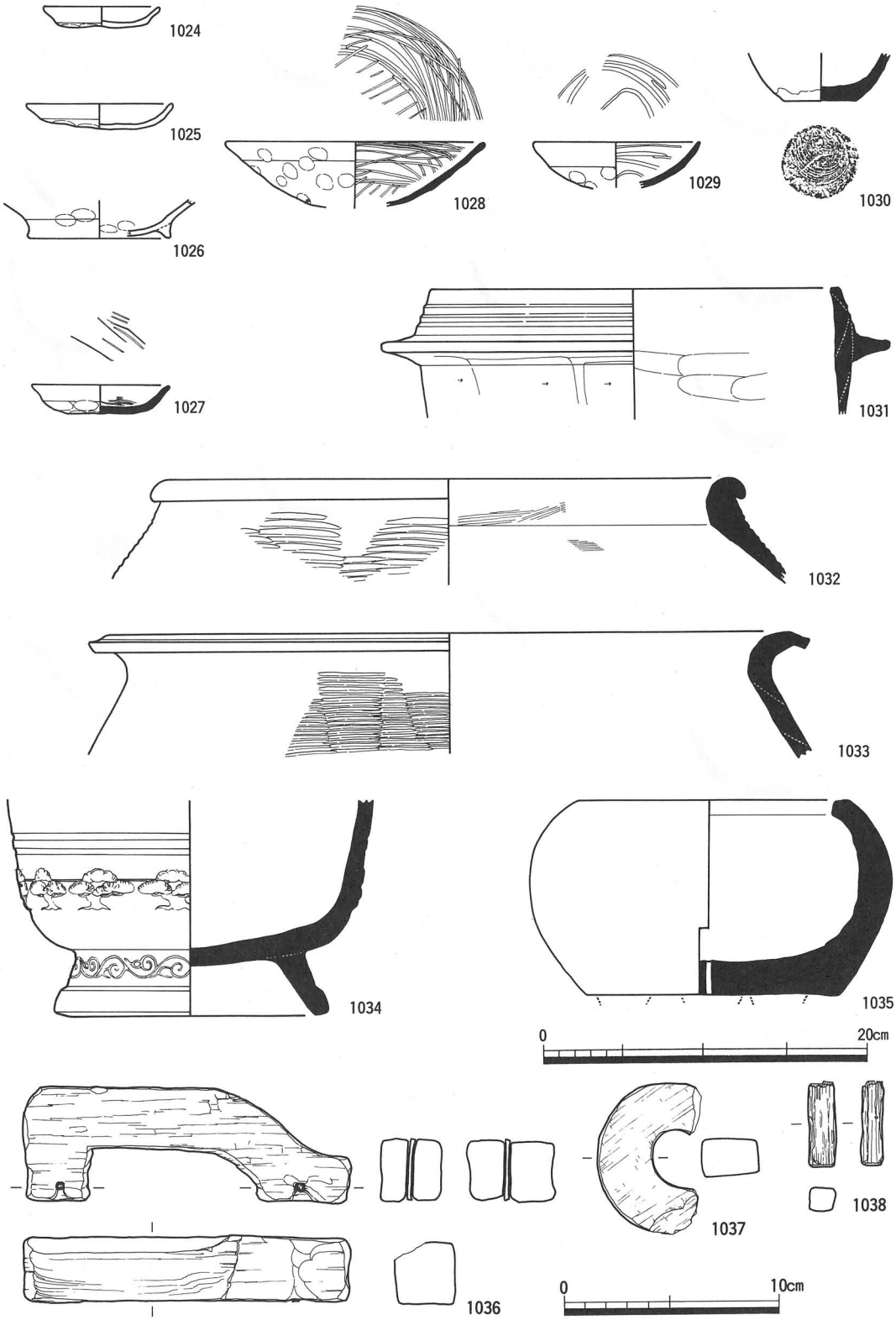


第259図　ＳＸ13遺構（1/30）及び遺物実測図

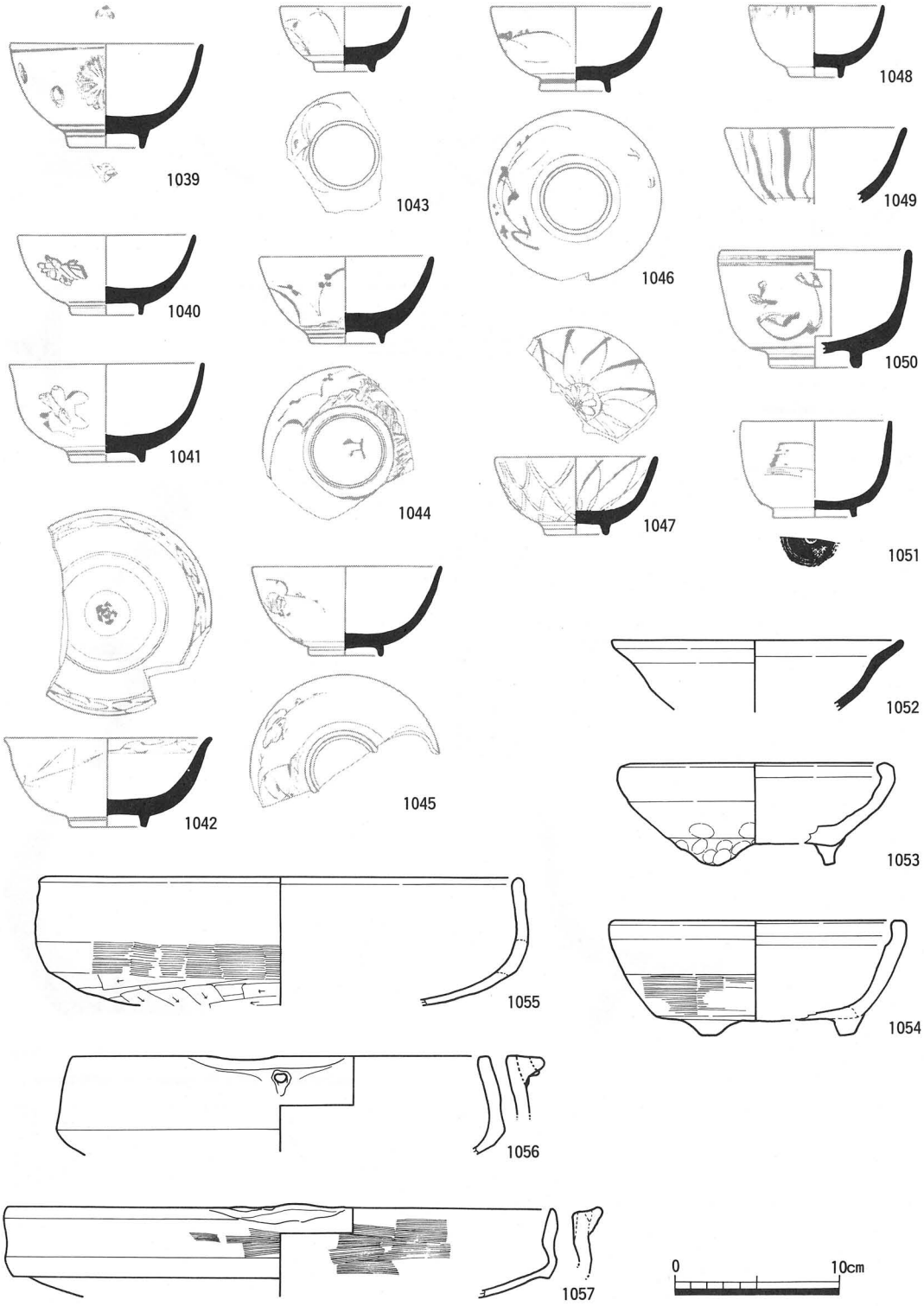




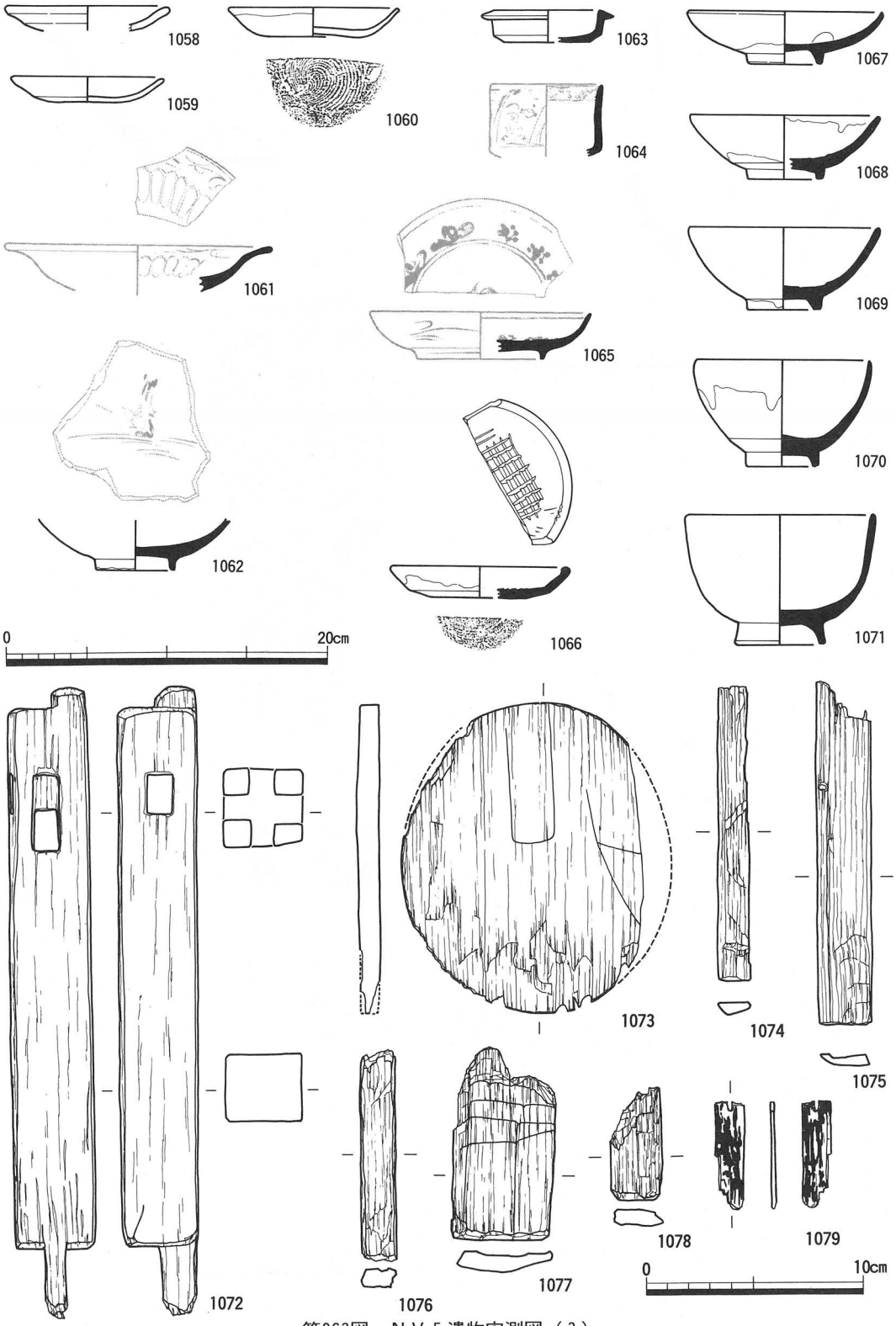
第260図　ＮＶ５遺構実測図　平面（1/150）・断面（1/60）



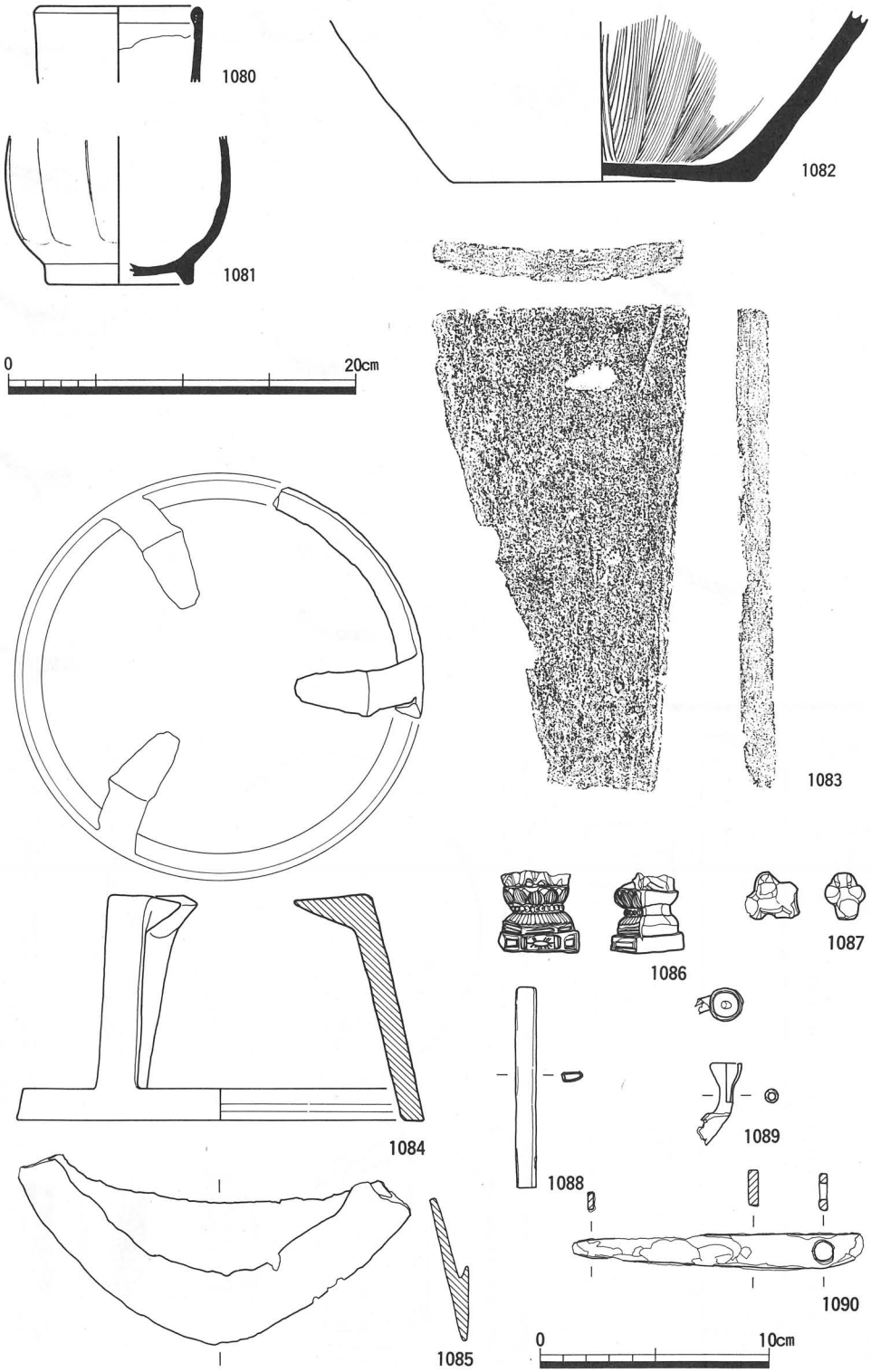
第261図　ＮＶ５遺物実測図（１）



第262図　ＮＶ５遺物実測図（２）



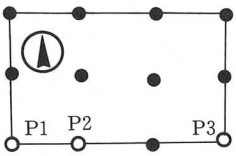
第263図　ＮＶ５遺物実測図（３）



第264図　ＮＶ５遺物実測図（４）

第６節　６地区

１．概略（付図８）



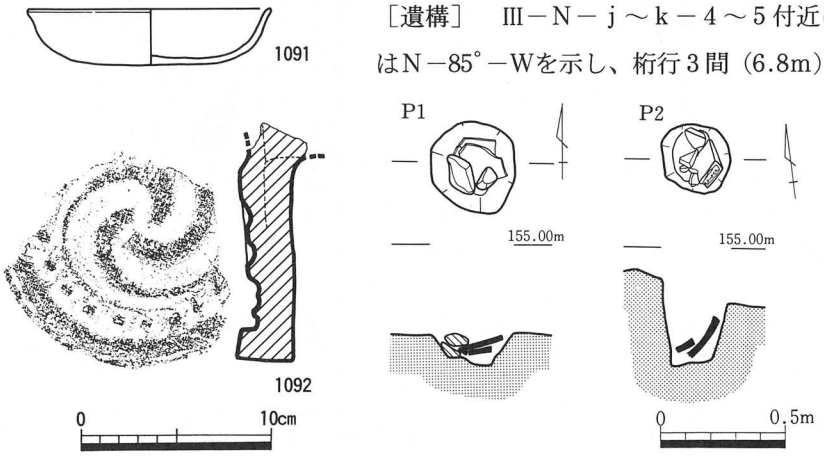
３地区の東側に接する調査区で大きくは３地区に隣接する部分と一段さがった中世から近世の寺院跡とに分けることができる。

２．遺構、遺物

建物（ＳＢ）

ＳＢ53（第265図、図版67）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｊ～ｋ－４～５付近に位置する。主軸方向はＮ－85°－Ｗを示し、桁行３間（6.8m）×梁行２間（4.8m）の建物である。柱穴のＰ１～３内には平瓦が詰っている。柱間は桁行2.3m、梁行は2.4m。柱穴の径0.3m、深さ0.2m、柱痕径0.1m。

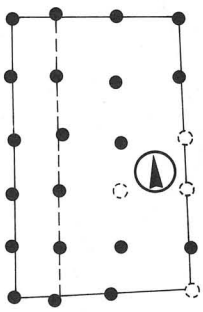


第265図　ＳＢ53遺構図・ピット内遺物出土状況図・遺物実測図

［遺物］　遺物は土師器埦（1091）、軒丸瓦（1092）が出土している。

ＳＢ57（第266図、図版68）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｊ～ｋ－４付近に位置する。主軸方向Ｎ－３°－Ｅを示し、桁行５間（9.3m）×梁行２間（4.8m）に、西側に幅1.5mの庇が付く。南東隅の柱穴は削平されており、更に南側桁行中央の柱穴が若干西側にずれている。柱間は桁行1.7m、梁行は2.2m。柱穴の径0.5m、深さ0.3m。

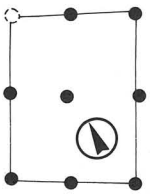


第266図　ＳＢ57遺構図

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

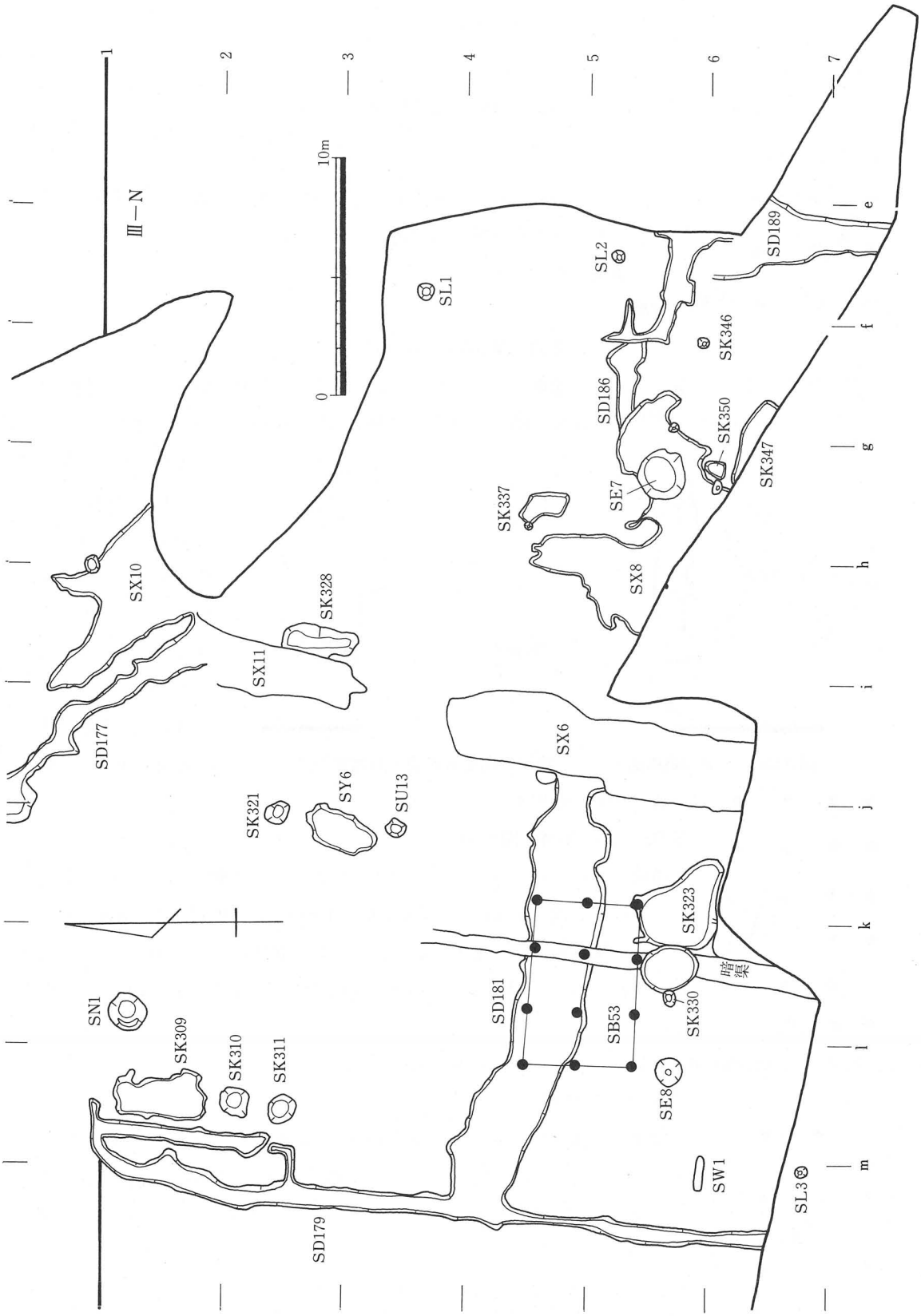
ＳＢ78（第267図）

［遺構］　Ⅲ－Ｍ－ｈ～ｉ－18～19付近に位置する。主軸方向Ｎ－27°－Ｅを示し、桁行２間（5.4m）×梁行２間（4.2m）である。北西隅の柱穴は削平されている。柱間は桁行2.7m、梁行は2.1m。柱穴の径0.5m、深さ0.3m。

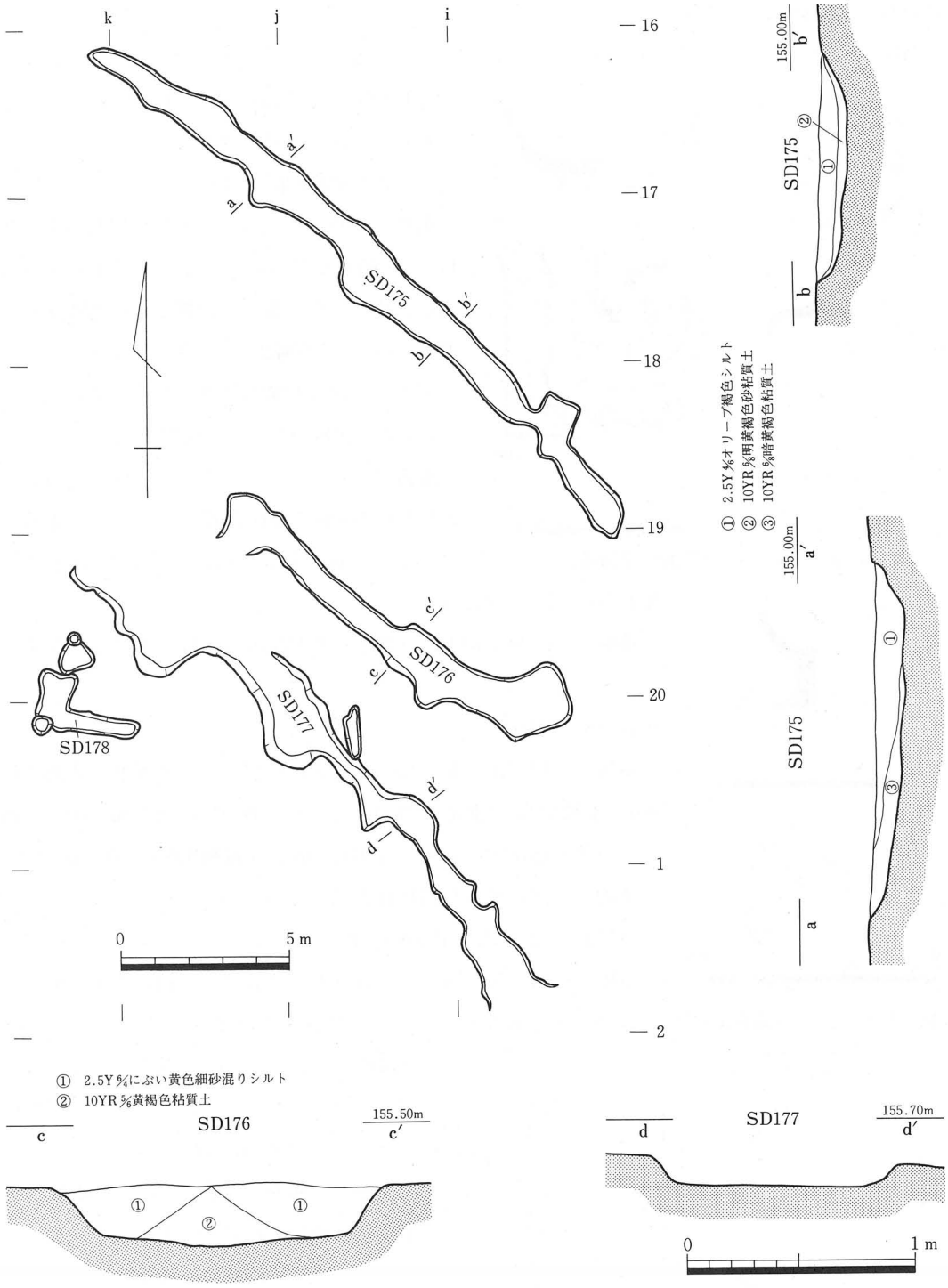


第267図　ＳＢ78遺構図

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。



第268図　6地区Ⅲ－N遺構配置図（1/250）



第269図　ＳＤ175・ＳＤ176・ＳＤ177遺構実測図　平面（1/200）・断面（1/30）

ＳＤ175（第269図、図版68）

［遺構］　Ⅲ－Ⅰ－ｈ～ｊ－16～18付近に位置する。約45度西に振って直線的に約21.4m走る。最大1.85m、下端幅1.5m、深さ0.16m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

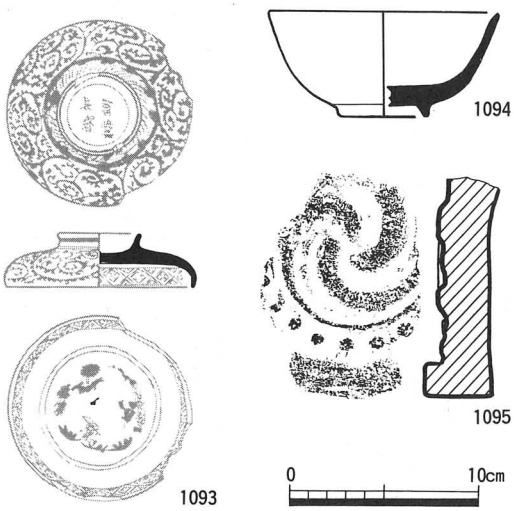
ＳＤ176（第269図、図版68）

［遺構］　Ⅲ－Ⅰ－ｈ～ｊ－18～20付近でＳＤ175の南側６ｍに位置し、平行して走るようである。約45度西に振って直線的に約12m走る。最大2.6m、下端幅2.3m、深さ0.16m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ177（第269・270図、図版68）

［遺構］　Ⅲ－Ⅰ～Ｎ－ｈ～ｉ－20～１付近でＳＤ176の南側３ｍに位置し、平行して走るようである。検出長13.4m、上端幅2.3m、下端幅1.5m、深さ0.13m。



第270図　ＳＤ177遺物実測図

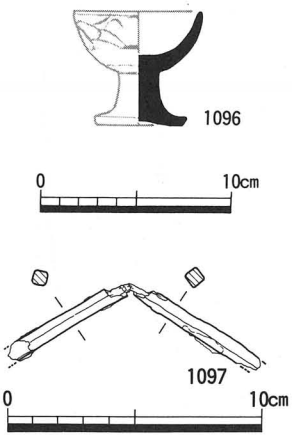
［遺物］　遺物は染付蓋（1093）、施釉陶器（1094）、軒丸瓦（1095）が出土している。

ＳＤ178（図版68）

［遺構］　Ⅲ－Ⅰ－ｋ－19～20付近に位置する。平面形が北側へ1.9mと東側3.3mに曲るＬ型の溝である。溝内には最大50×30㎝の河原石が落ち込んでいる。上端幅1.15m、下端幅0.6m、深さ0.35m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＤ179（第271図、図版68・140・150）

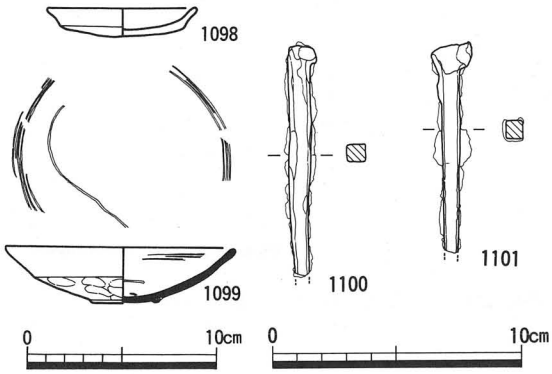


第271図　ＳＤ179遺物実測図

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｍ－１～６付近に位置する。約５度西に振って直線的に走る溝である。ｍ－５付近でＳＤ181を切っている。一部２段掘りの部分もあり、溝内には最大50×40㎝の河原石が落ち込んでいる。上端幅1.15m、下端幅0.4m、深さ0.15m。

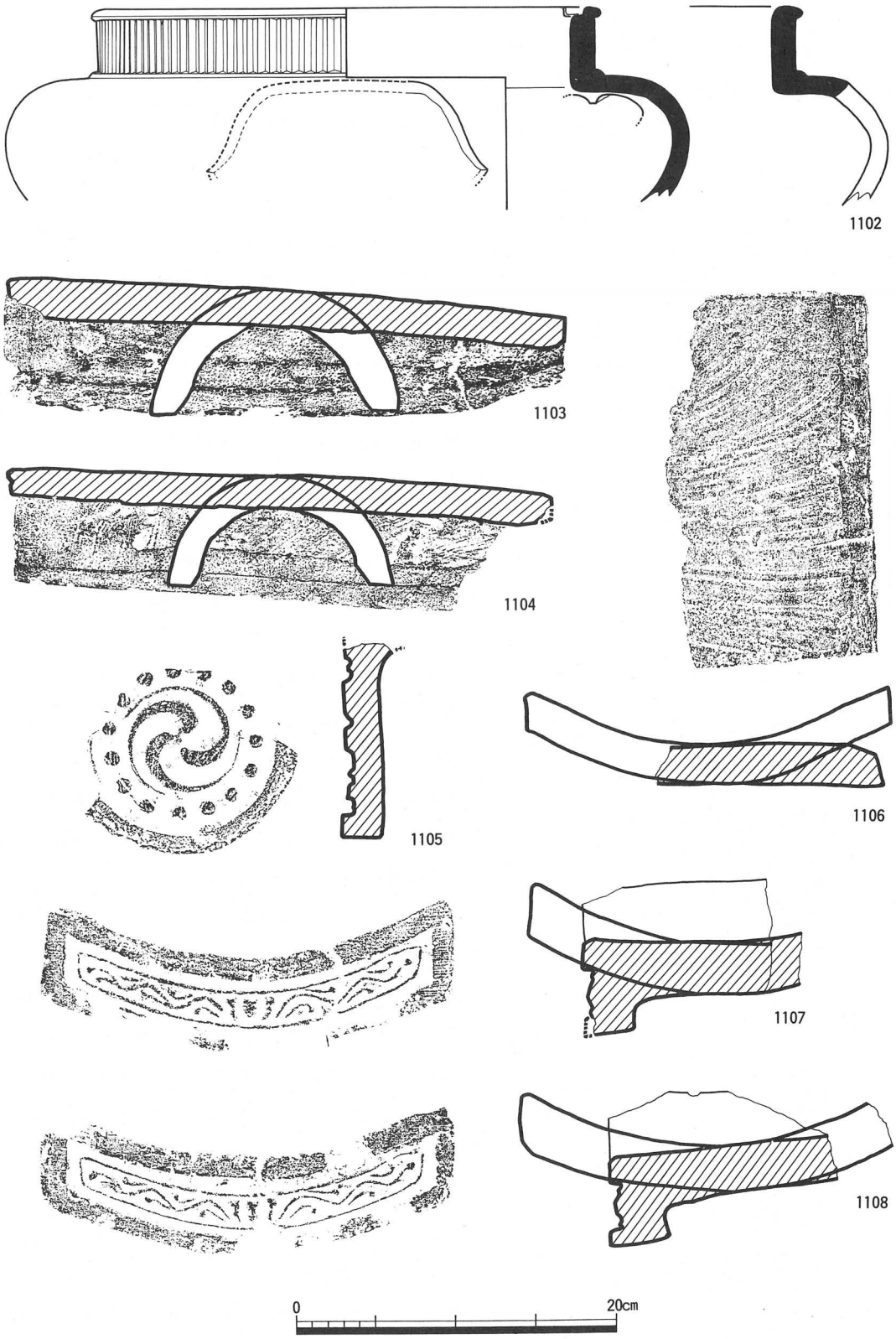
［遺物］　遺物は染付の仏具（1096）、不明角状鉄製品（1097）が出土している。

ＳＤ181（第272・273図、図版67・69・140・150）



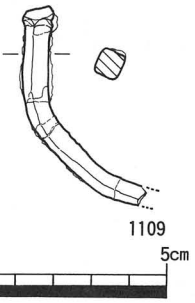
第272図　ＳＤ181遺物実測図（１）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｊ～１－４付近に位置する。約20度北に振って東西に直線的に走



第273図　ＳＤ181遺物実測図（２）

る溝である。この溝はＳＢ53を切っている。ｉ～ｋ付近では長さ7.9m、幅2.3m、深さ0.25mに一段落ち込んでおり、付近には瓦が多数埋まっている。また、一部、焼土も見られる。上端幅3.2m、下端幅３m、深さ0.3m。



第274図　ＳＤ186遺物実測図

［遺物］　遺物は土師質小皿（1098）、瓦器椀（1099）、鉄釘（1100・1101）、瓦質風炉（1102）、軒丸瓦（1105）、軒平瓦（1107・1108）、丸瓦（1103・1104）、平瓦（1106）が出土している。

ＳＤ186（第274図、図版69・150）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｆ－５付近に位置し、東西に直線的に走る溝である。この溝の西側と東側は他の遺構によって削平されている。溝内部から瓦が出土している。検出長3.17m、上端幅1.54m、下端幅0.9m、深さ0.14m。

［遺物］　遺物は鉄釘（1109）が出土している。

ＳＤ200（第275図）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｍ～ｎ－14～15付近に位置する。約50度東に振って直線的に走る溝である。溝内には最大70×50㎝の河原石が埋まっている。上端幅1.3m、下端幅1.1m、深さ0.15m。

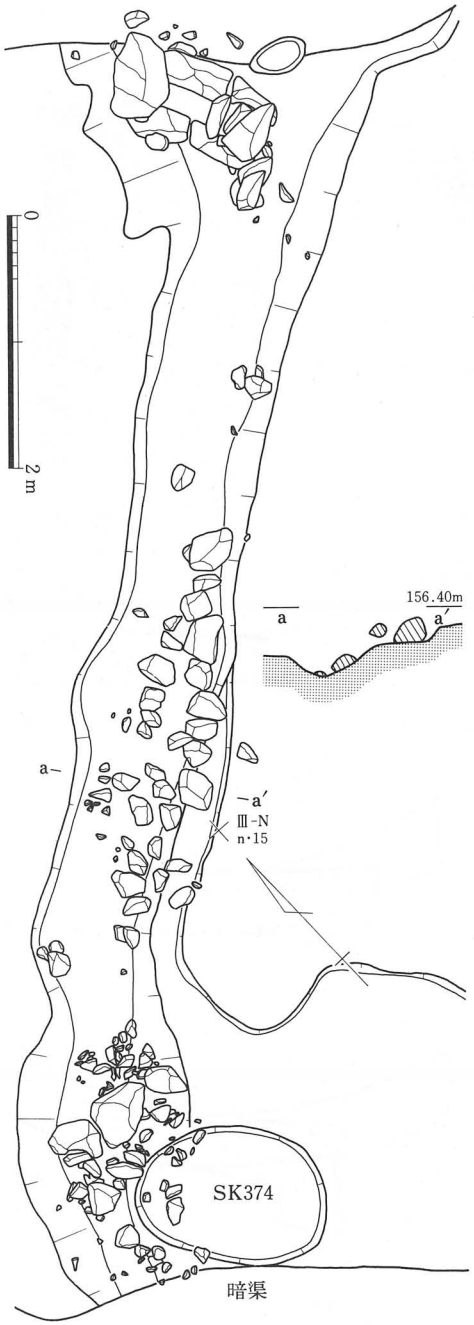
［遺物］　実測可能な遺物は出土していない。

井戸（ＳＥ）

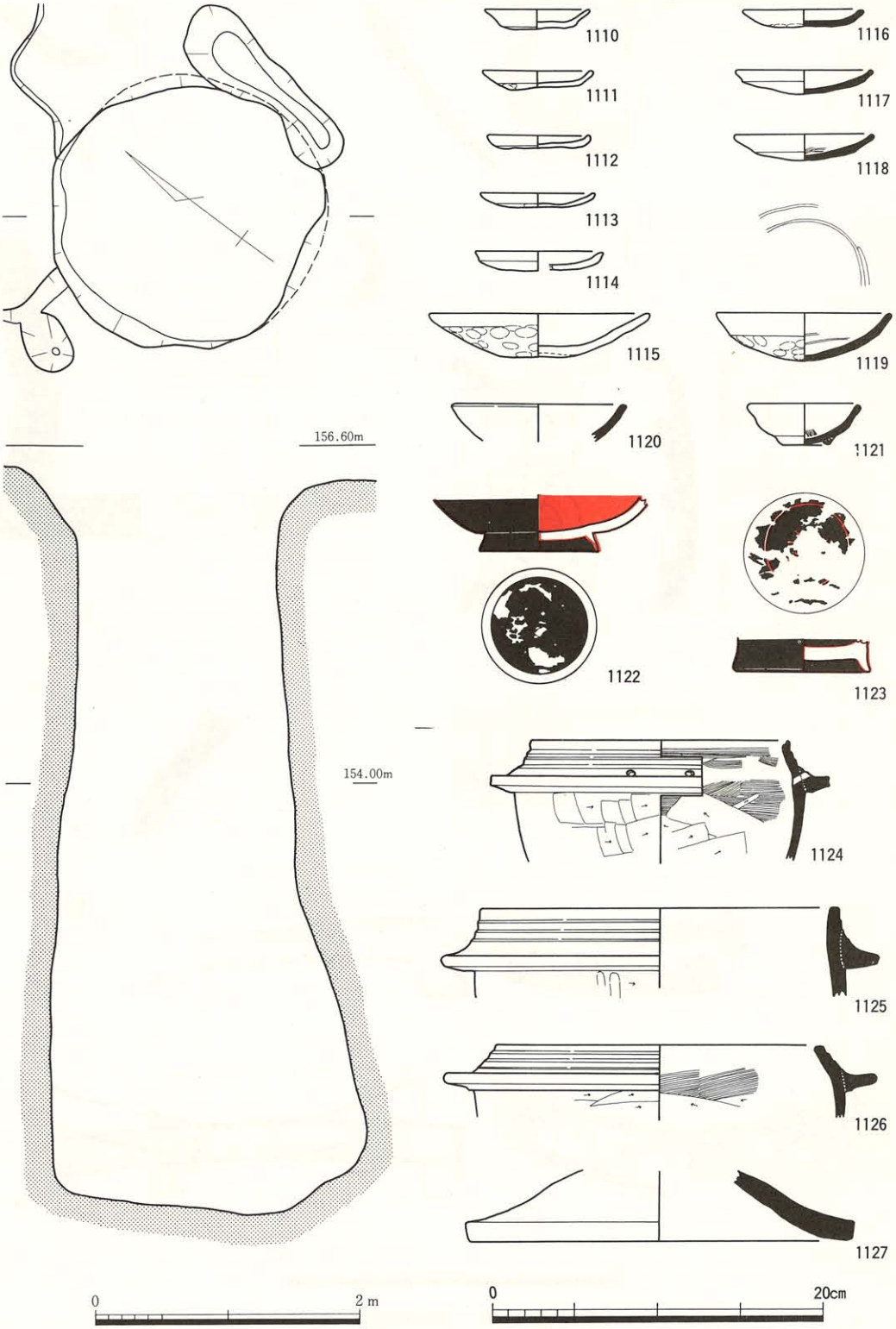
ＳＥ７（第276～281図、図版69・70・139～144・150）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｑ－５付近に位置する。平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。素掘りの井戸としては当遺跡の中では最大規模のものである。埋土中には焼土、炭化物、焼木、二次的に火を受けた土器類、瓦類、更に木製品などが多量に出土し、火災を受け、物を埋めたようである。上端径2.15m、下端径2.4m、深さ5.65m。

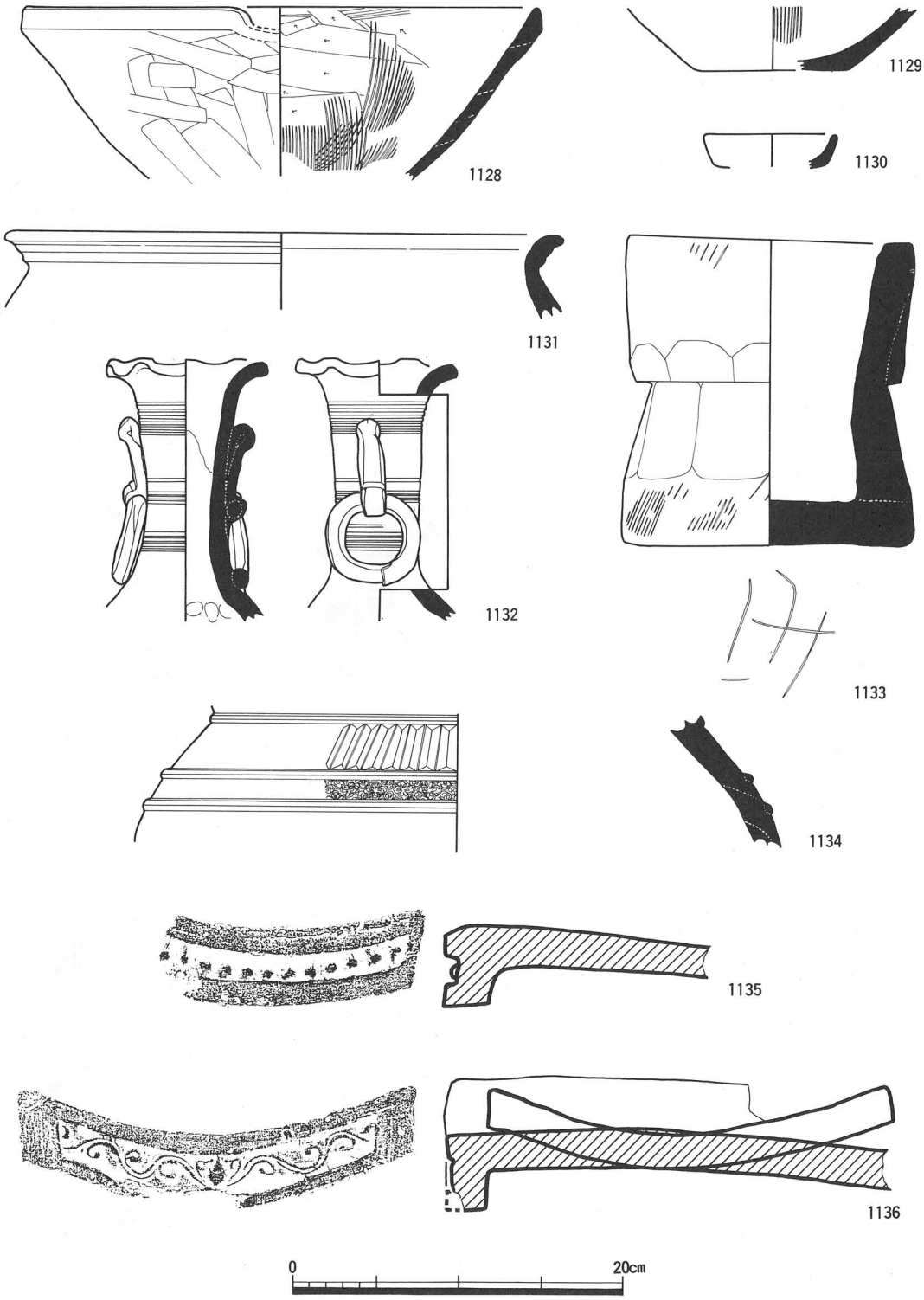
［遺物］　遺物は土師質小皿（1110～1114）、土師質皿（1115）、瓦器皿（1116～1118・1130）、瓦質小



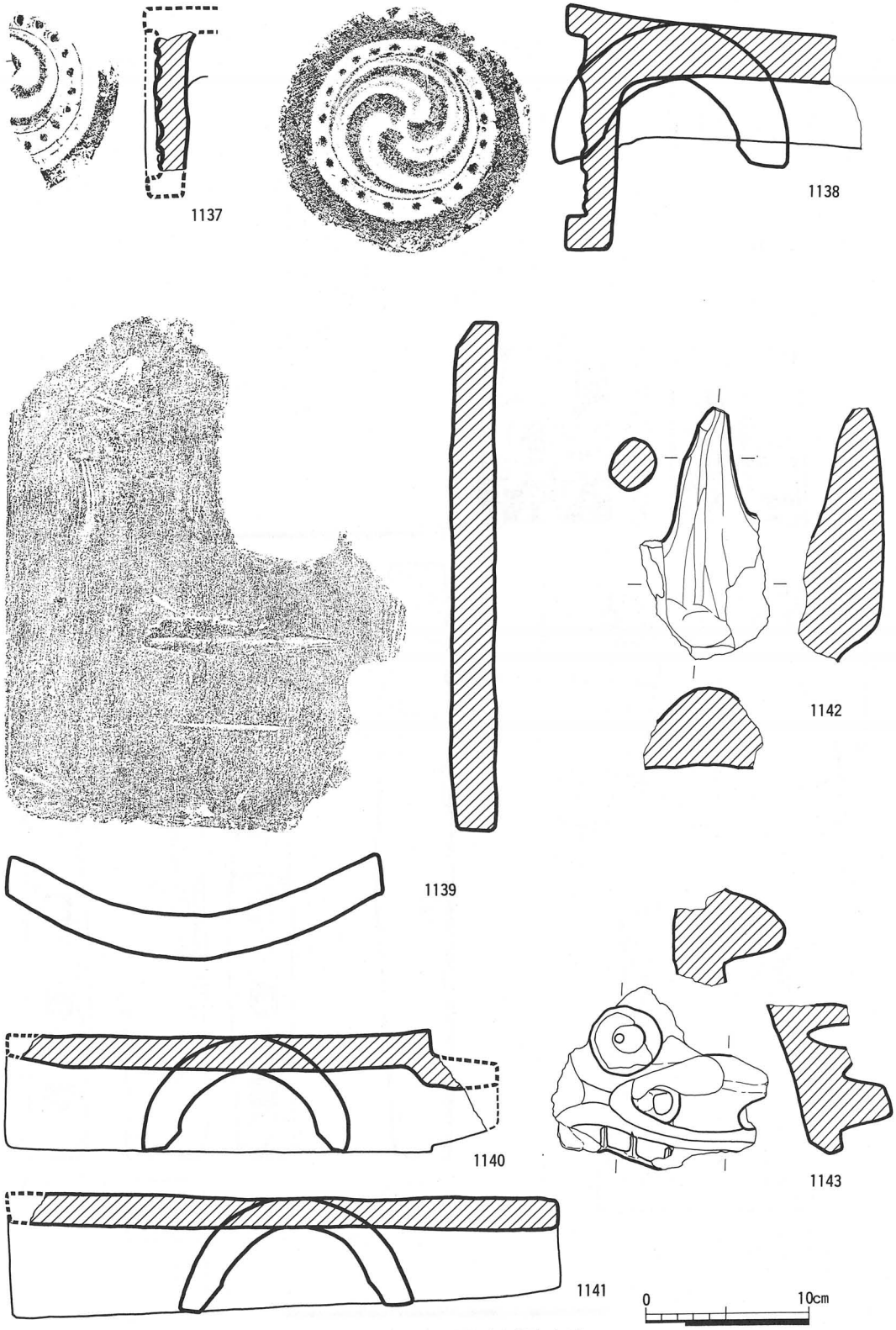
第275図　ＳＤ200遺構実測図（1/60）



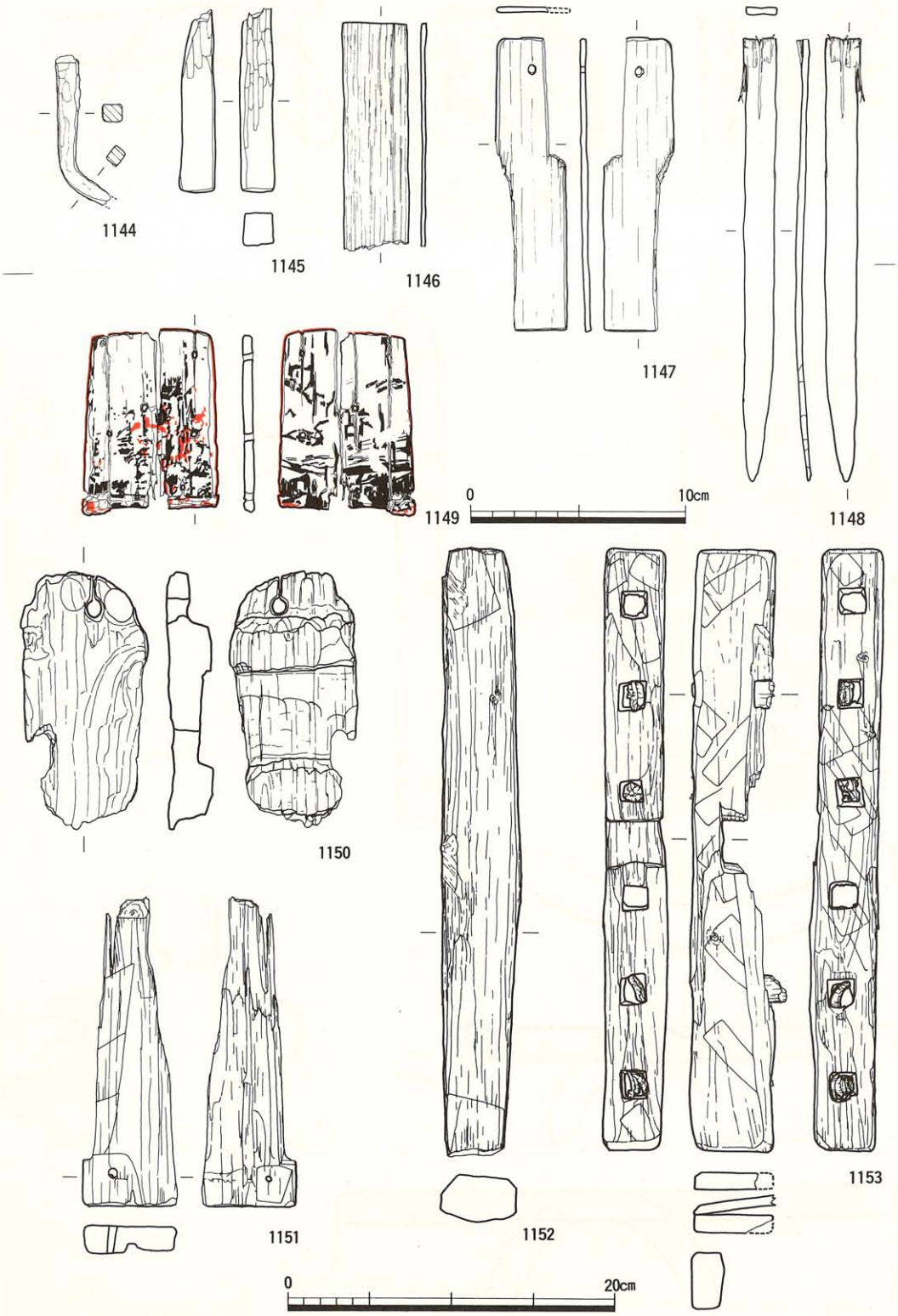
第276図　ＳＥ７遺構（1/50）及び遺物（１）実測図



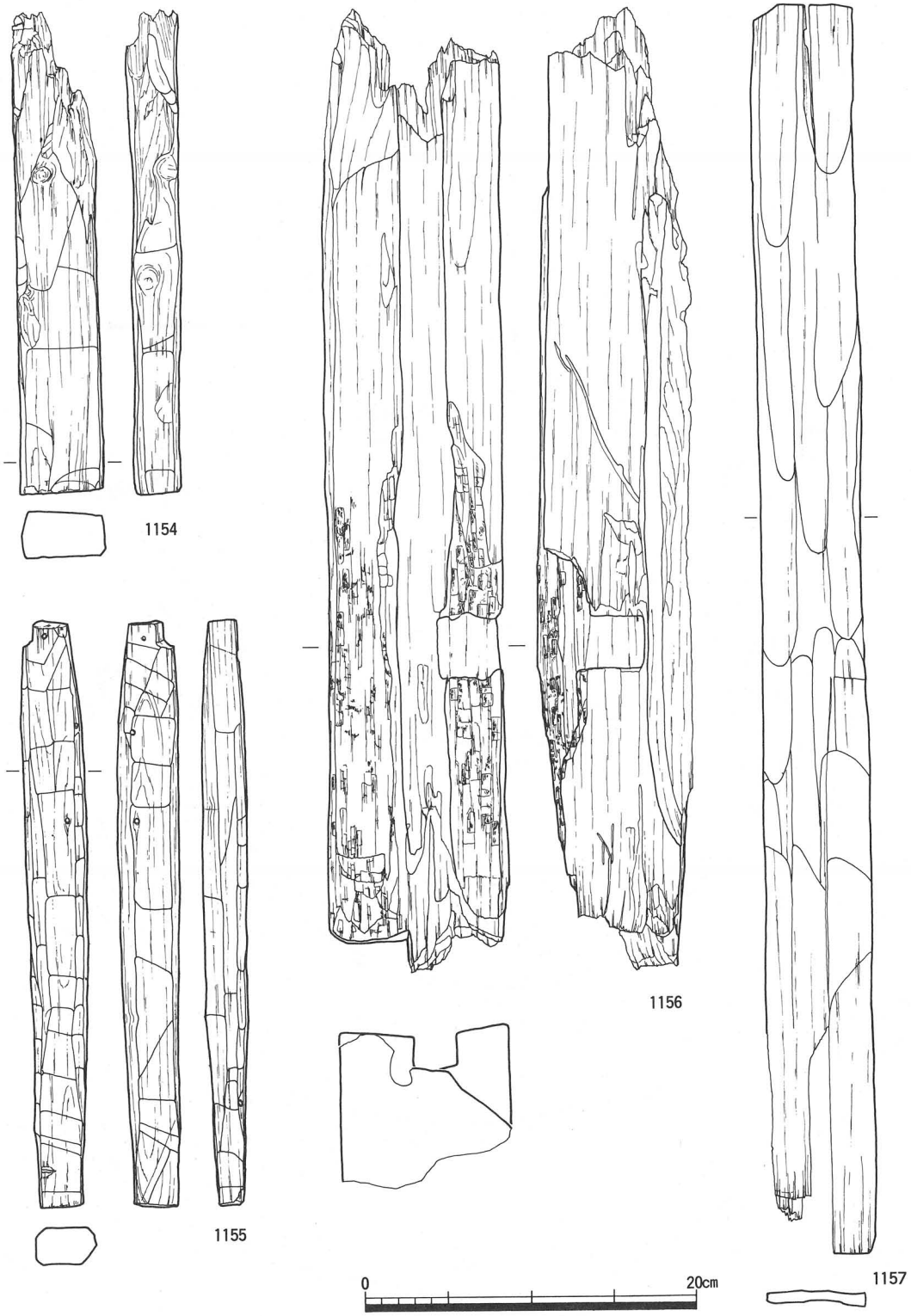
第277図　ＳＥ７遺物実測図（２）



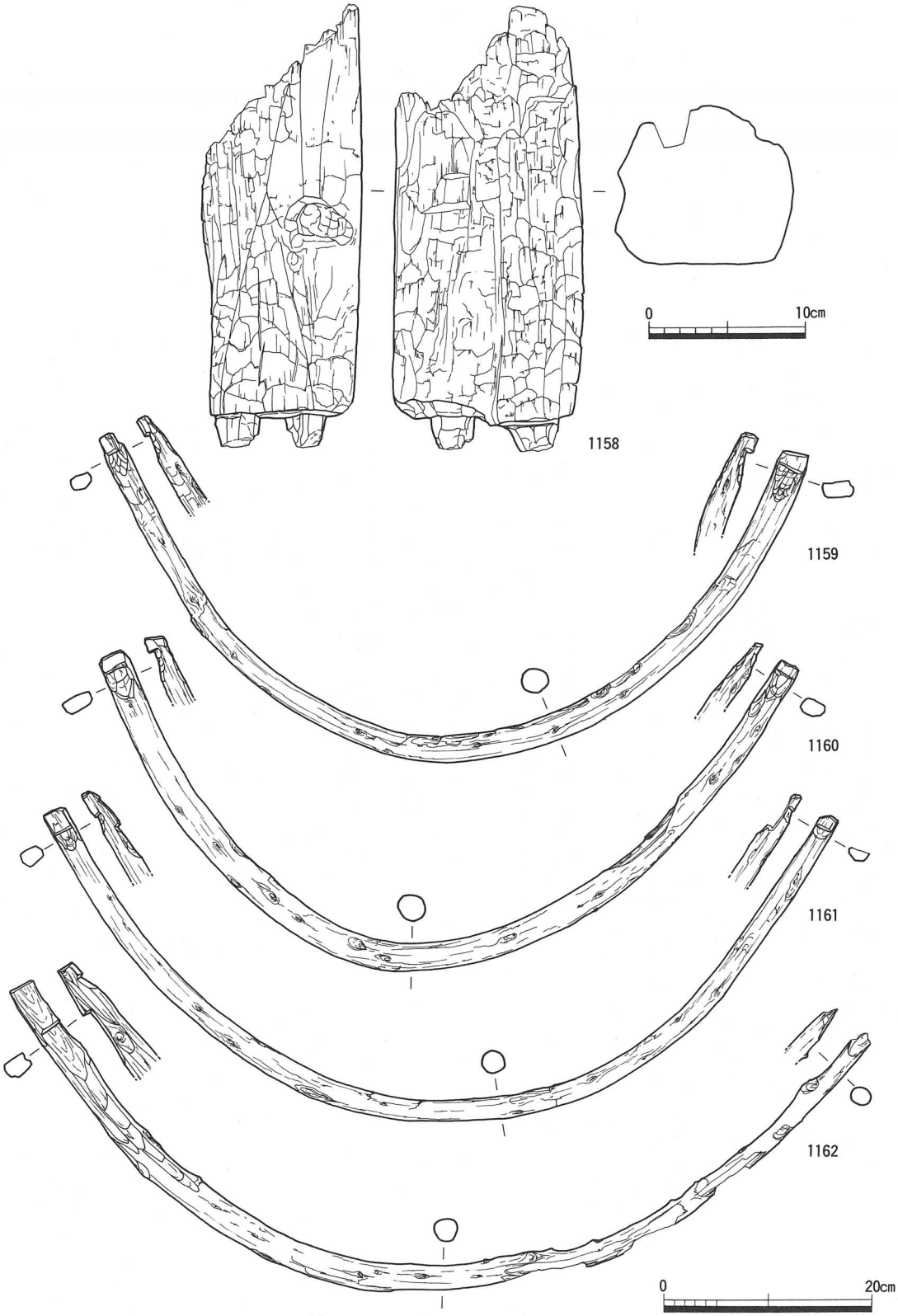
第278図　ＳＥ７遺物実測図（３）



第279図　ＳＥ７遺物実測図（４）



第280図　ＳＥ７遺物実測図（５）

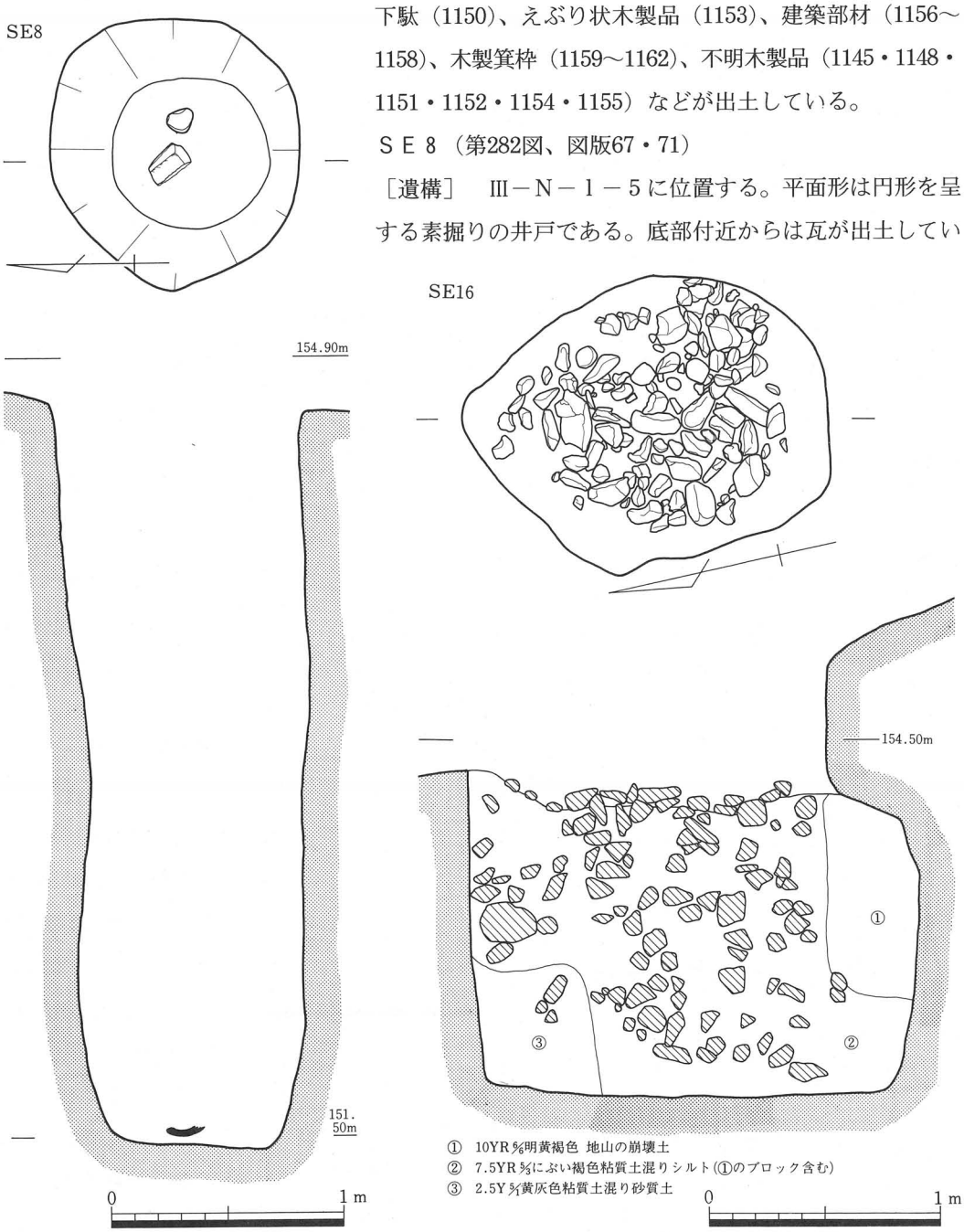


第281図　ＳＥ７遺物実測図（６）

型埦（1121）、瓦器埦（1119）、白磁碗（1120）、瓦質羽釜（1124～1126）、瓦質摺鉢（1128・1129）、備前甕（1131）、瓦質不明製品（1127）、瀬戸花瓶（1132）、瓦質火舎（1133・1134）、軒平瓦（1135・1136）、軒丸瓦（1137・1138）、平瓦（1139）、丸瓦（1140・1141）、鬼瓦（1142・1143）、鉄釘（1144）、木製品では漆器椀（1122・1123）、漆塗り板状製品（1149）、板状製品（1146・1147）、下駄（1150）、えぶり状木製品（1153）、建築部材（1156～1158）、木製箕枠（1159～1162）、不明木製品（1145・1148・1151・1152・1154・1155）などが出土している。

ＳＥ８（第282図、図版67・71）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－１－５に位置する。平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。底部付近からは瓦が出土してい



第282図　ＳＥ８・ＳＥ16遺構実測図（1/30）

る。上端径1.7m、下端径0.6m、深さ3.23m。

［遺物］　遺物は丸瓦が出土している。

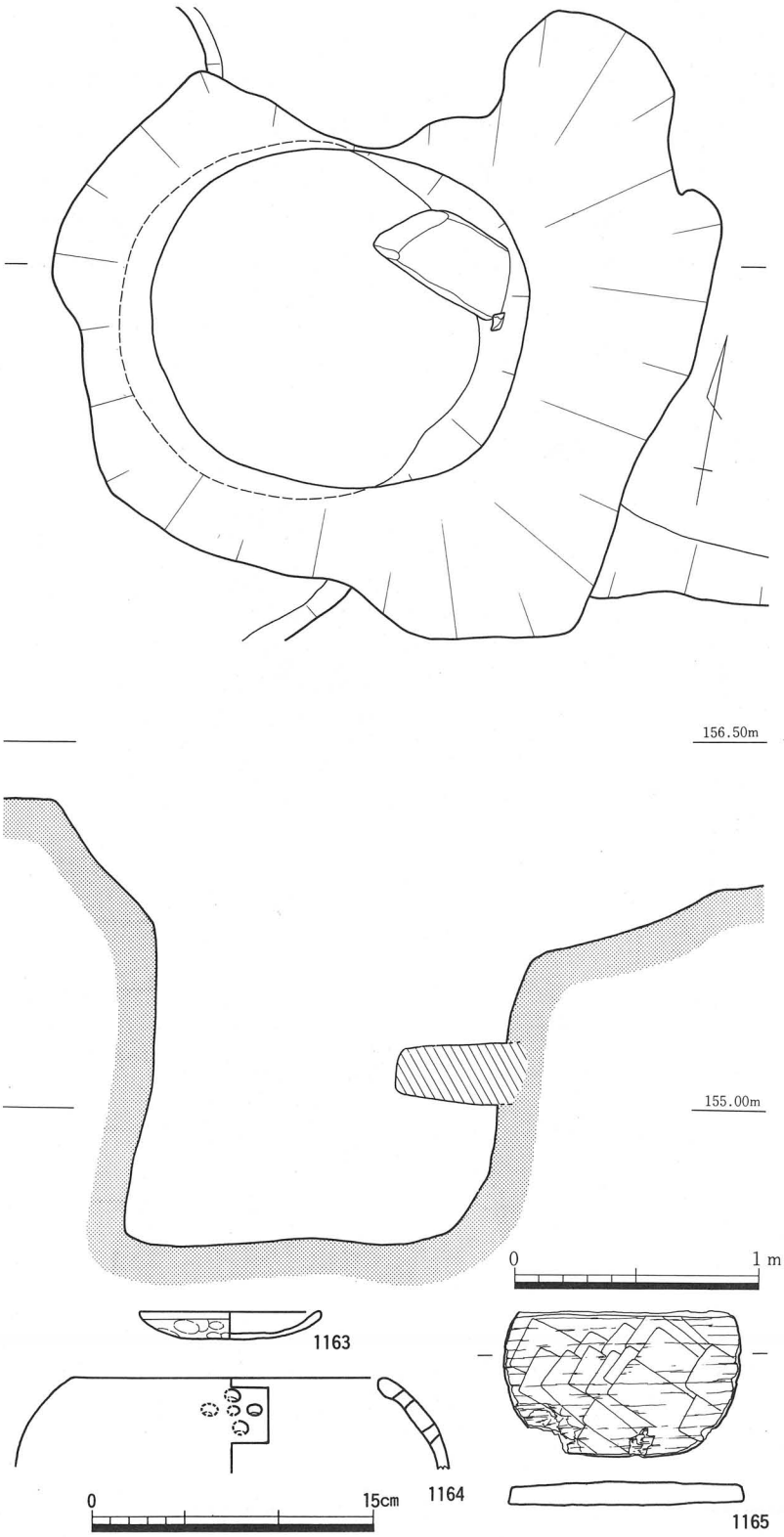
ＳＥ16（第282図、図版72）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｅ－11に位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。内部に最大20×10㎝の河原石が入っている。井戸東側は一部、側面が崩壊している。長径1.59m、短径1.31m、深さ1.34m。

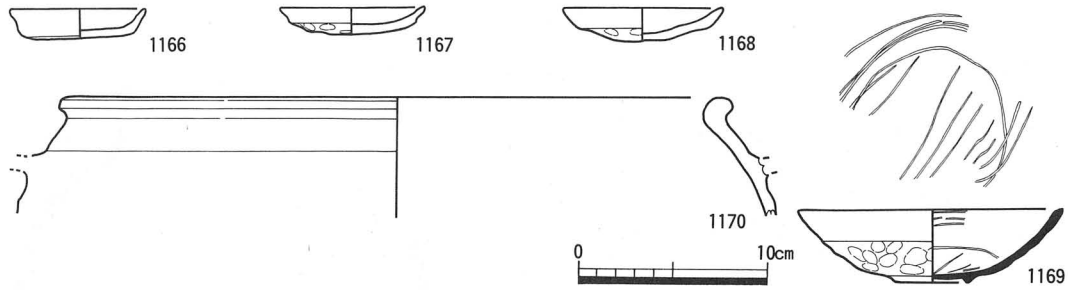
［遺物］　実測可能な遺物は出土していない。

ＳＥ25（第283図、図版72・144）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｈ～ｏ－15に位置する。平面形は不定円形を呈する素掘りの井戸である。平面形は不定円形であるが、上端より0.5m下で径1.5mの円形の掘方となっている。井戸中位に地山から40×20㎝の石が露呈している。長軸2.8m、短軸1.8m、下端径1.45m、深さ1.85m。



第283図　ＳＥ25遺構（1/30）及び遺物実測図



［遺物］　遺物は土師質皿（1163）、土師質有孔鉢（1164）、曲物底板状品（1165）が出土している。

ＳＥ26（第284図、図版73・144）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－Ｏ－16付近でＳＥ25の南1.8mに位置する。平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。上端より0.7m下で径1.1mに幅を狭めている。井戸底部には40×30㎝の石が落ち込んでいる。上端径軸1.7m、下端径0.9m、深さ1.8m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（1166～1168）、瓦器椀（1169）、土師質羽釜（1170）が出土している。

土壙（ＳＫ）

ＳＫ301（図版73）

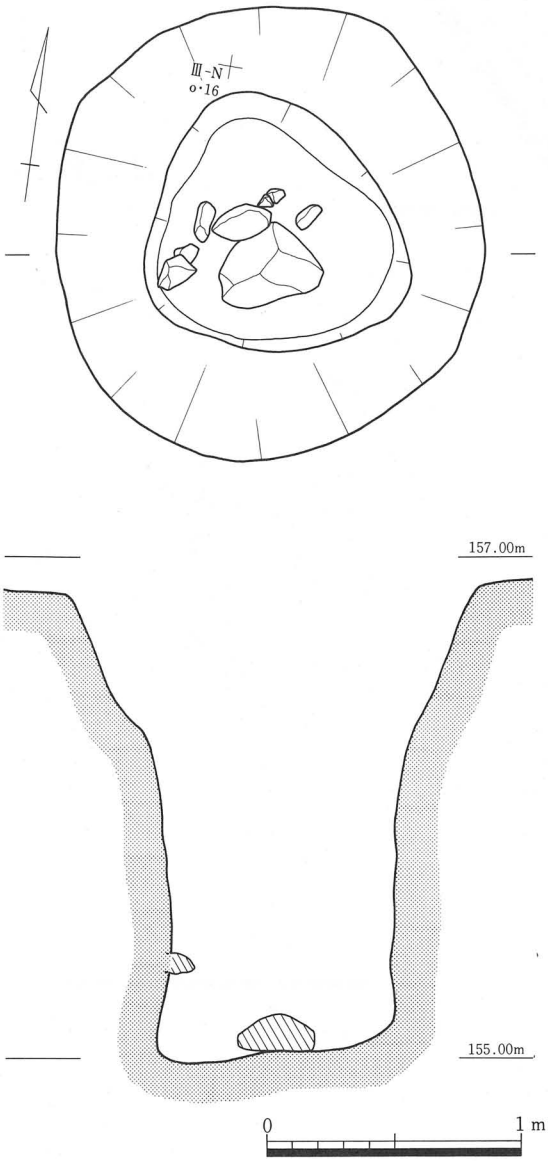
［遺構］　Ⅲ－Ｉ－ｏ－20付近でＳＹ７の南側２mに位置する。平面形は楕円形を呈する。主軸方向は東西を示す。土壙内床面には瓦が充填されている。長径1.52m、短径1.04m、深さ0.13m。

［遺物］　遺物は丸瓦などが出土している。

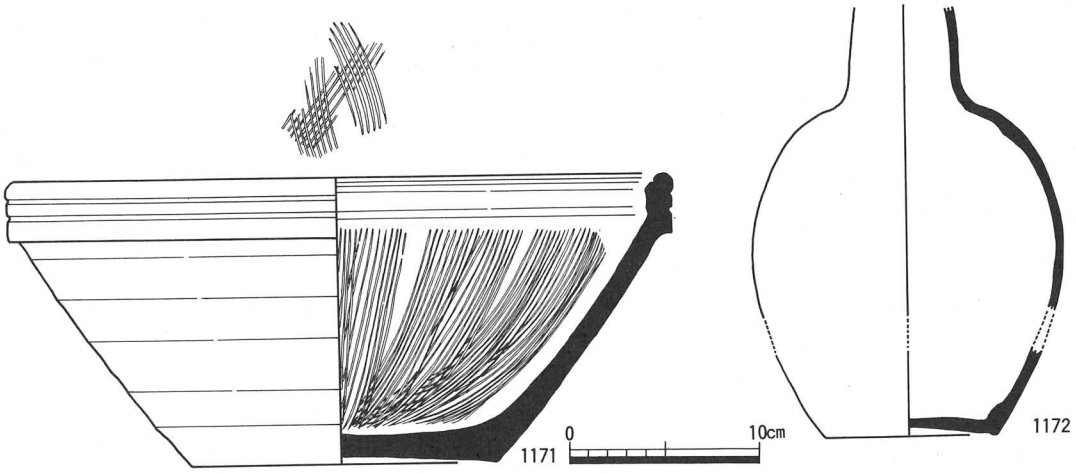
ＳＫ305（第285・286図、図版73・144）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｏ－１付近で、ＳＫ301の南側２mに位置する。平面形は不定形を呈するが、西側は一辺2.5mの方形で0.25mの深さに一段落ちている。東側も不定形で0.1mの深さに落ち込んでいる。いずれも瓦が充填されている。長軸6.5m、短軸4.35m、深さ0.29m。

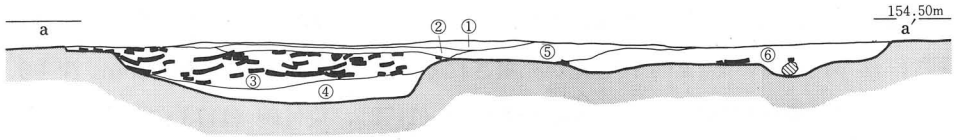
［遺物］　遺物は備前摺鉢（1171）、施釉陶器徳利（1172）、染付碗（1173・1174）、瓦質不明製品（1175）、軒丸瓦（1177）、軒平瓦（1178）、桟瓦（1176）などが出土している。



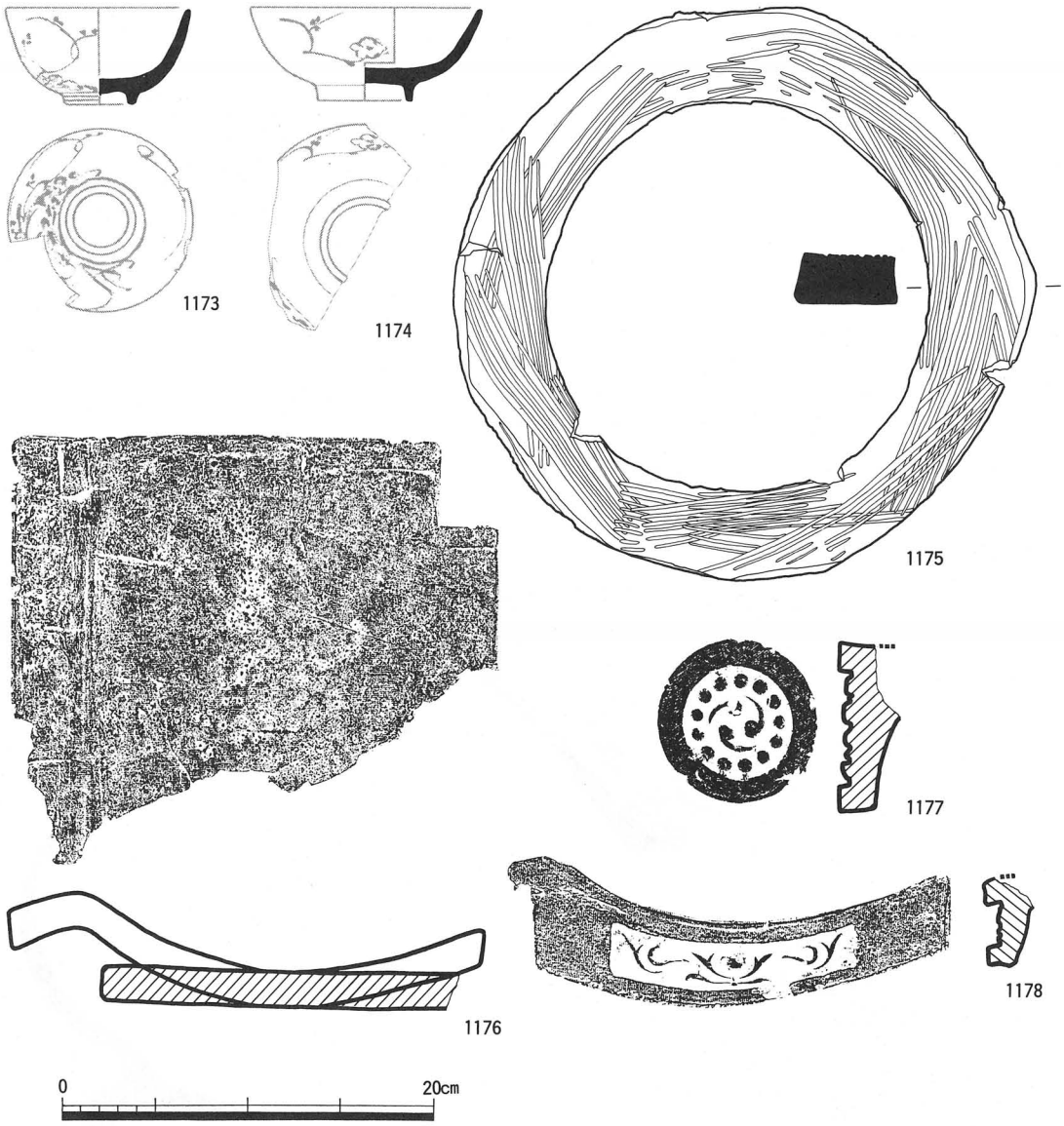
第284図　ＳＥ26遺構（1/30）及び遺物実測図



① 5YR 4/4にぶい赤褐色シルト(焼土を含む)
② 2.5Y 5/3黄褐色粘土
③ 2.5Y 4/3オリーブ褐色シルト(炭化物を含む)
④ 10YR 4/3にぶい黄褐色粗砂混りシルト(炭化物を多量に含む)
⑤ 7.5GY 3/1暗緑灰色粘質土
⑥ 7.5YR 4/6褐色粗砂混りシルト(⑤のブロックを含む)



第285図　ＳＫ305遺構（1/50）及び遺物（１）実測図



第286図　ＳＫ305遺物実測図（２）

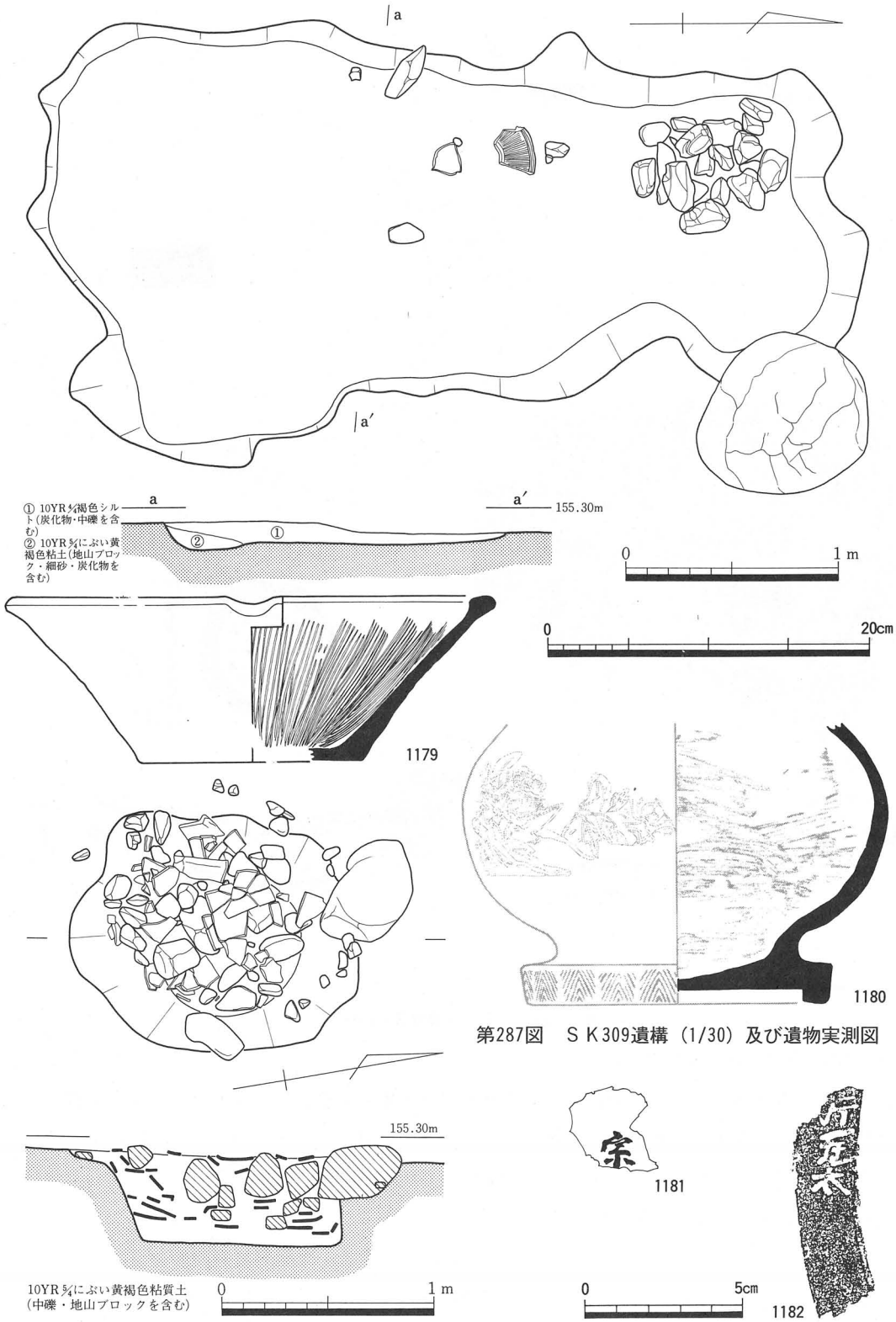
ＳＫ309（第287図、図版68・74・144）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－１－１に位置する。平面形は不定形な長楕円形を呈する。土壙の北側からは河原石とともに摺鉢、施釉陶器などが出土している。長径3.9m、短径1.62m、深さ0.27m。

［遺物］　遺物は緑釉花瓶（1180）、備前摺鉢（1179）などが出土している。

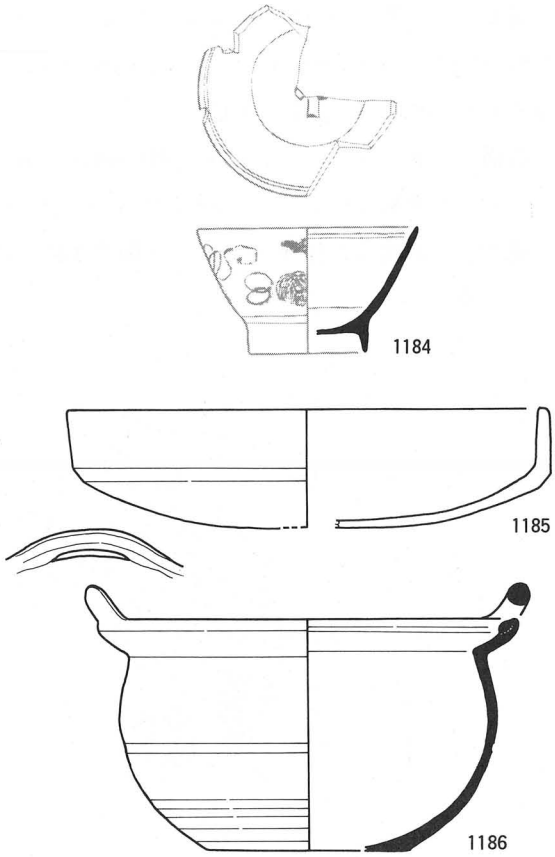
ＳＫ310（第288・289図、図版68・74・144）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－１－２でＳＫ309の南側１mに位置する。平面形は楕円形を呈する。土壙内には最大55×35㎝の河原石とともに瓦片が充塡されている。長径1.31m、短径1.15m、深さ0.2m。

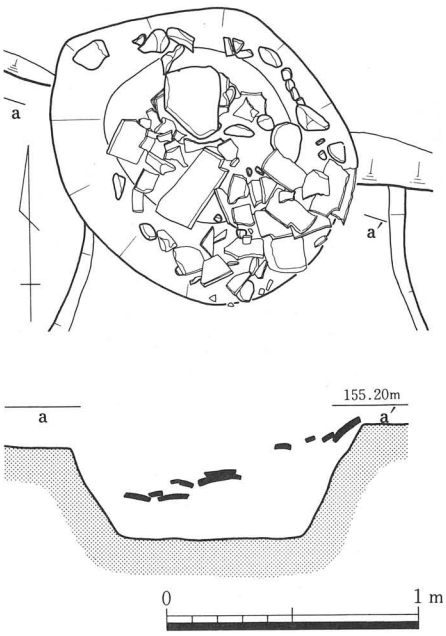


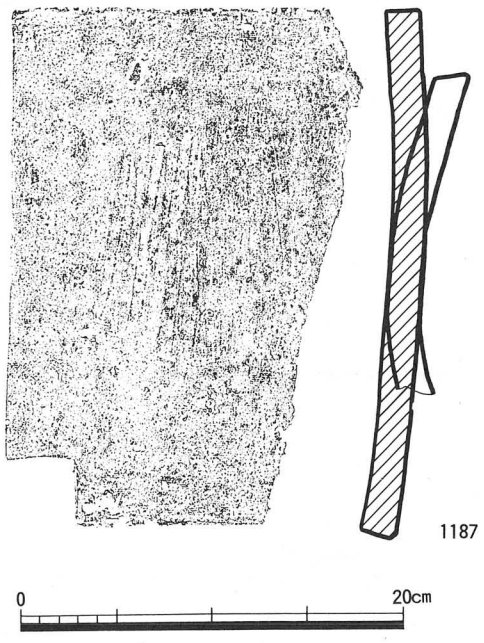
第287図　ＳＫ309遺構（1/30）及び遺物実測図

第288図　ＳＫ310遺構（1/30）及び遺物（１）実測図



第289図　ＳＫ310遺物実測図（２）





第290図　ＳＫ311遺構（1/30）及び遺物実測図

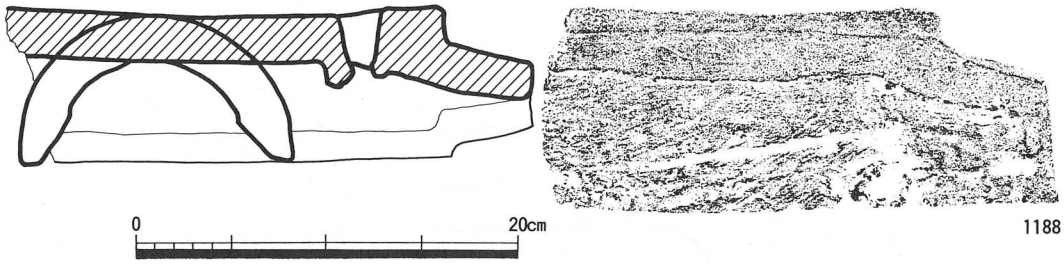
［遺物］　遺物は刻印で『片瓦太』と入った道具瓦（1182）、漆器椀の底部に『宗』と読める字が残存している漆器椀（1181）、染付大鉢（1183）が出土している。

ＳＫ311（第290図、図版75・144）

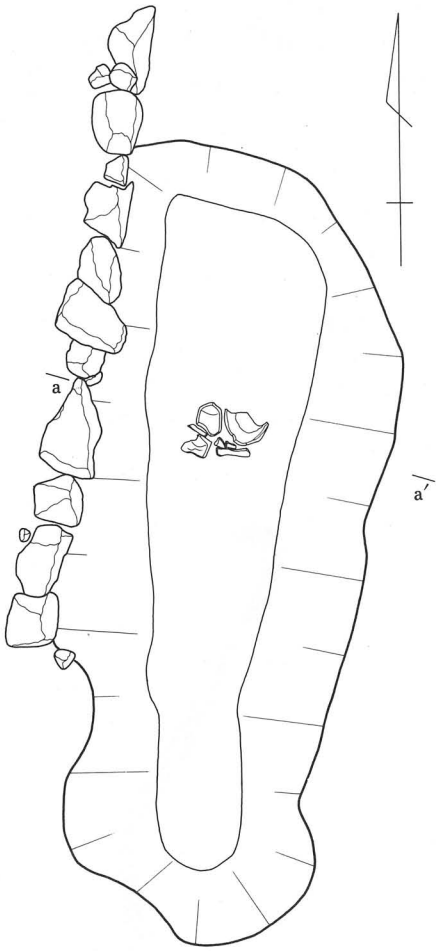
［遺構］　Ⅲ－Ｎ－１－２でＳＫ310の南側１ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。土壙内には瓦片が充填されている。長径1.29ｍ、短径1.08ｍ、深さ0.46ｍ。

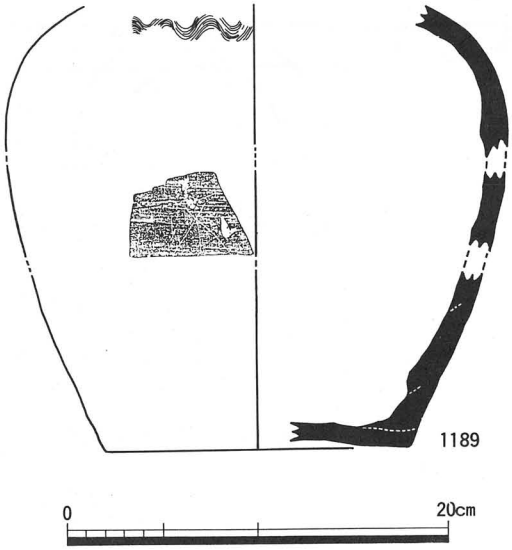
［遺物］　遺物は染付碗（1184）、土師質浅鉢（1185）、把手付鍋（1186）、桟瓦（1187）が出土している。

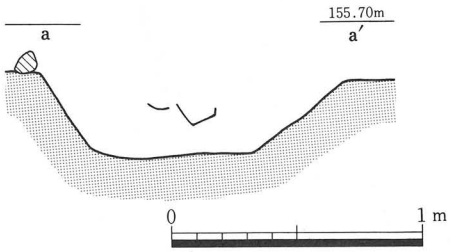
第291図　ＳＫ323遺構実測図（1/30）



第292図　ＳＫ323遺物実測図







第293図　ＳＫ328遺構（1/30）及び遺物実測図

ＳＫ323（第291・292図）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｊ－５付近に位置する。平面形は不定形を呈する。土壙内に北側には瓦片と焼土が検出されている。長軸4.45m、短軸2.2m、深さ0.45m。

［遺物］　遺物は丸瓦（1188）などが出土している。

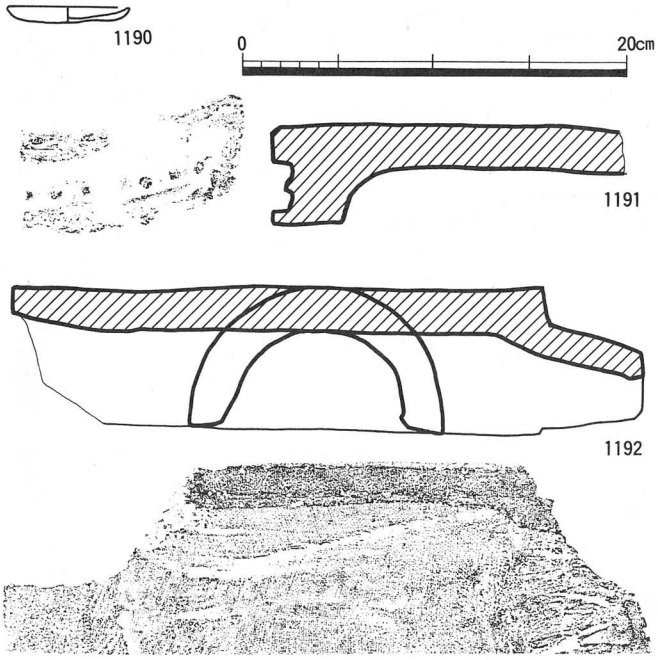
ＳＫ328（第293図、図版68・75）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｈ－２付近で、ＳＸ11の東側に接して位置する。平面形は長楕円形を呈する。土壙内床面からは陶器の甕が検出されている。長径3.2m、短径1.2m、深さ0.3m。

［遺物］　遺物は陶器甕（1189）が出土している。

ＳＫ330（第294図、図版144）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｋ－５付近で、ＳＢ53の南側に接して位置する。平面形は円形を呈する。土壙内床面からは陶器の甕が検出されている。長径0.65m、深さ0.6m。



第294図　ＳＫ330遺物実測図

［遺物］　遺物は土師質小皿（1190）、軒平瓦（1191）、丸瓦（1192）が出土している。

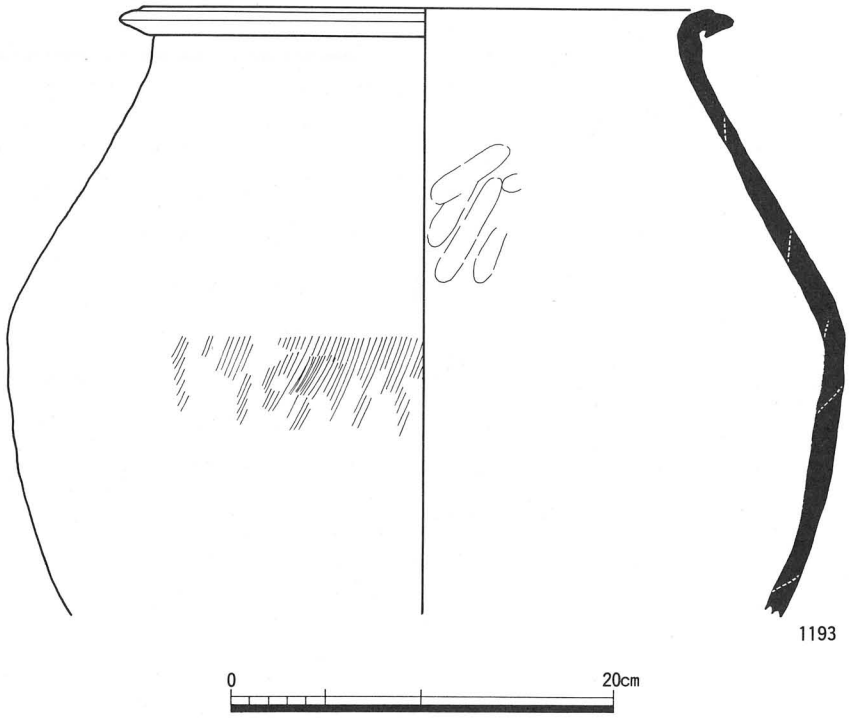
ＳＫ337（第295図、図版69・76・144）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｇ－４付近に位置する。平面形は不定形を呈する。土壙内からは甕の口縁部が出土している。長軸2.15m、短軸0.95m、深さ0.1m。

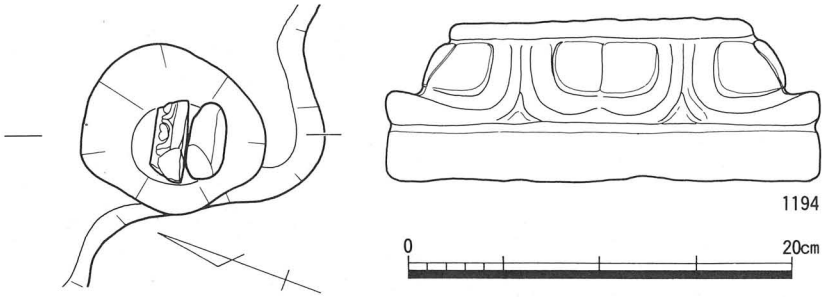
［遺物］　遺物は甕（1193）が出土している。

ＳＫ346（第296図、図版76）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｆ－５付近に位置する。平面形は楕円形を呈する。土壙内からは墓石の基底部が落ち込んだ状態で検出されている。



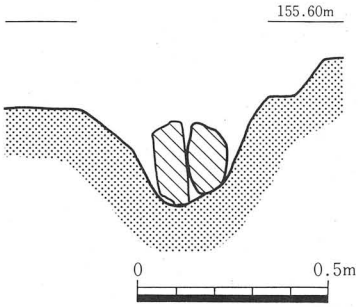
第295図　ＳＫ337遺物実測図



長径0.49m、短径0.42m、深さ0.3m。

［遺物］　遺物は墓石（1194）が出土している。

ＳＫ347（第297・298図、図版69・77・145）



第296図　ＳＫ346遺構（1/20）及び遺物実測図

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｆ～ｇ－６付近に位置する。平面形は楕円形を呈すると思われるが半分以上は調査区外にのびる。土壙内から最大35×25㎝の河原石と土器が出土している。検出長軸3.8m、検出幅0.83m、深さ0.21m。

［遺物］　遺物は紀伊型の羽釜（1195）が出土している。

ＳＫ350（第297・298図、図版69・77・145）

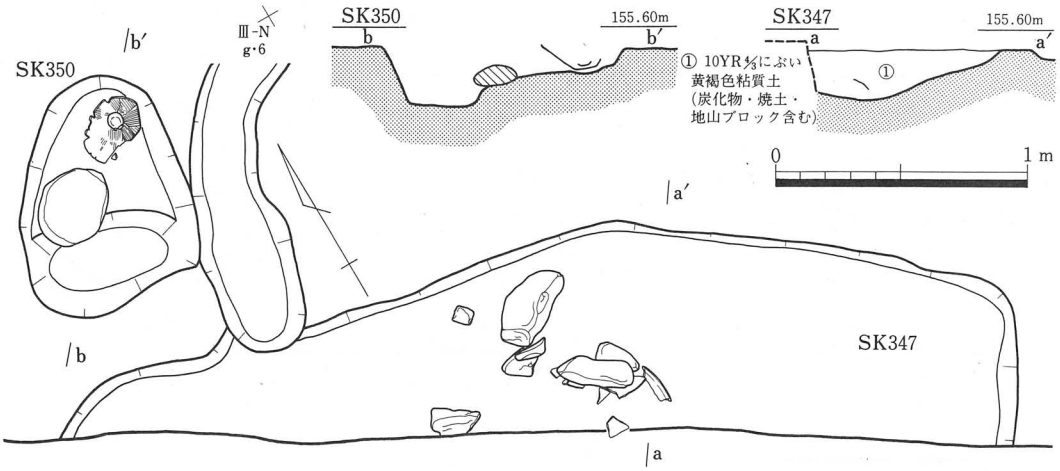
［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｇ－６付近でＳＫ347の北側に隣接し位置する。平面形は楕円形を呈する。土壙内から最大35×30㎝の河原石と摺鉢が出土している。長径0.79m、短径0.73m、深さ0.15m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（1196）、瓦質摺鉢（1197）、不明鉄製品（1198）が出土している。

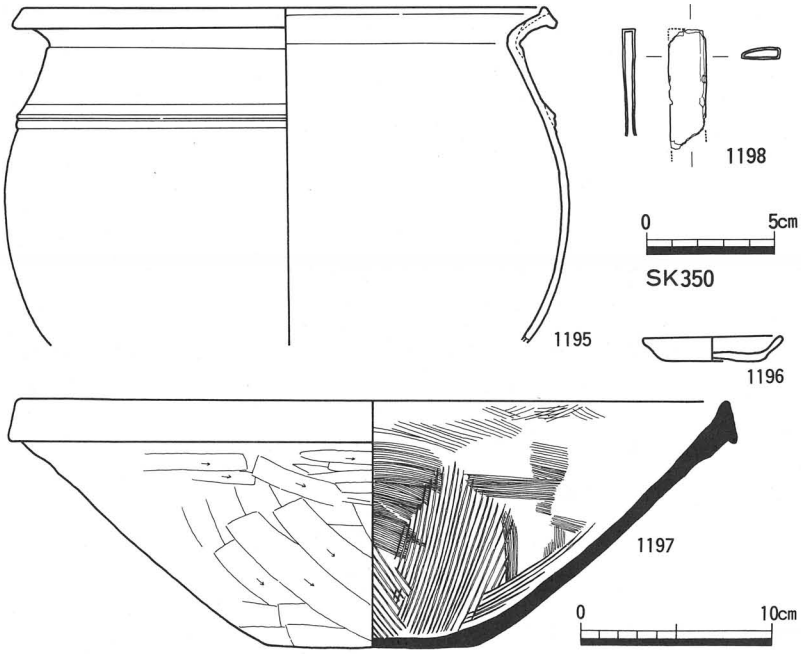
ＳＫ357（第299図、図版78）

［遺構］　Ⅲ－Ｏ－ｅ－７付近に位置する。平面形は楕円形を呈する。土壙東側は0.2mの深さに一段さがる。土壙埋土上位には最大35×25㎝の河原石が挾在している。長径3.76m、短径2.58m、深さ0.5m。

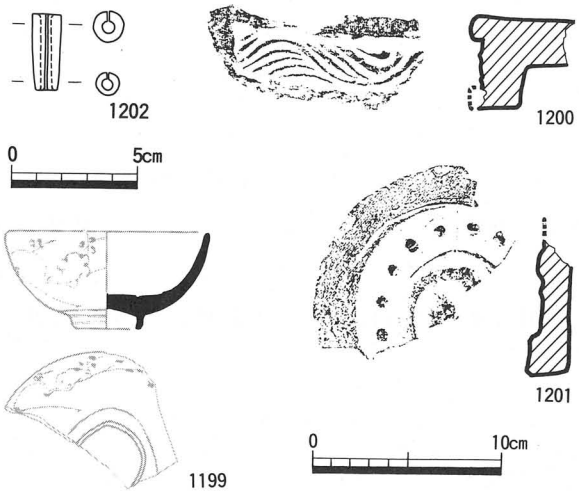
［遺物］　遺物は染付碗（1199）、軒丸瓦（1201）、軒平瓦（1200）、不明銅製品（1202）が出土している。



第297図　ＳＫ347・ＳＫ350遺構実測図（1/30）



第298図　ＳＫ347・ＳＫ350遺物実測図



第299図　ＳＫ357遺物実測図

ＳＫ374（図版78）

［遺構］　Ⅲ－,Ｎ－ｎ－15付近で、ＳＤ200と重複している。平面形は長楕円形を呈する。土壙周囲には一部木枝が巡っている。長径1.65m、短径1.1m、深さ0.04m。

［遺物］　図示可能な遺物は出土していない。

ＳＫ496（第300図、図版145）

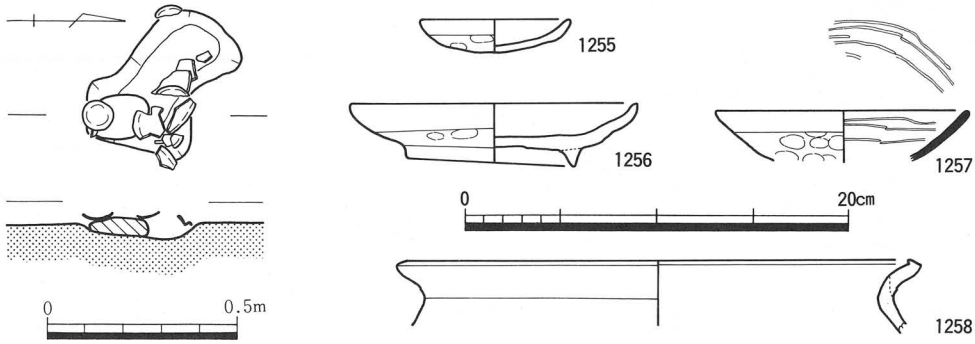
［遺構］　Ⅲ－Ｍ－ｈ－18付近で、ＳＢ78の南側に位置する。土壙は削平を受け浅いが遺物が出土している。長軸0.42m、短軸0.4m、深さ0.2m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（1255）、高台付皿（1256）、瓦器椀（1257）、土師質羽釜（1258）が出土している。

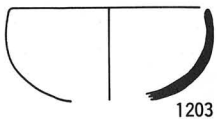
埋桶（ＳＮ）

ＳＮ１（第301・303図、図版68・79）

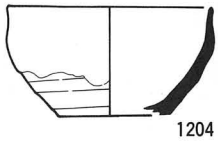
［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｋ－１に位置している。掘方は円形を呈する。土壙の西側は一部テラスを持つ。底部には底板の一部



第300図　ＳＫ496遺構（1/20）及び遺物実測図



第301図　ＳＮ１
遺物実測図



第302図　ＳＮ２
遺物実測図

が残存している。掘方上端径1.48m、下端径0.7m、深さ0.5m。

［遺物］　遺物は桶を構成する木質の一部と施釉陶器碗（1203）が出土している。

ＳＮ２（第302・303図、図版79・145）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｓ－14に位置している。掘方は円形を呈する。土壙には30×20㎝程度の河原石が落ち込んでいる。底部には底板の一部が残存している。掘方上端径1.3m、下端径1.05m、深さ0.25m。

［遺物］　遺物は桶を構成する木質の一部と天目茶碗（1204）が出土している。

埋甕（ＳＬ）

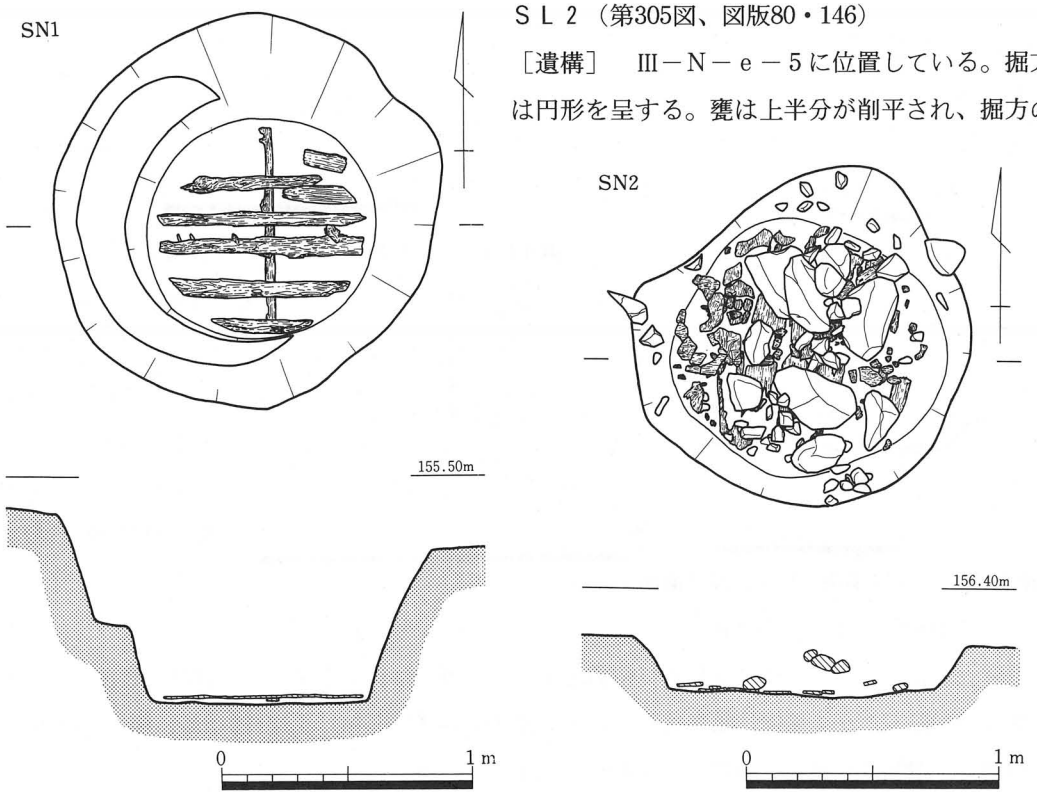
ＳＬ１（第304図、図版80・146・150）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｅ－３に位置している。掘方は円形を呈する。甕は上半分が破損しているが、底部から遺物が出土している。掘方上端径0.7m、下端径0.4m、深さ0.2m。

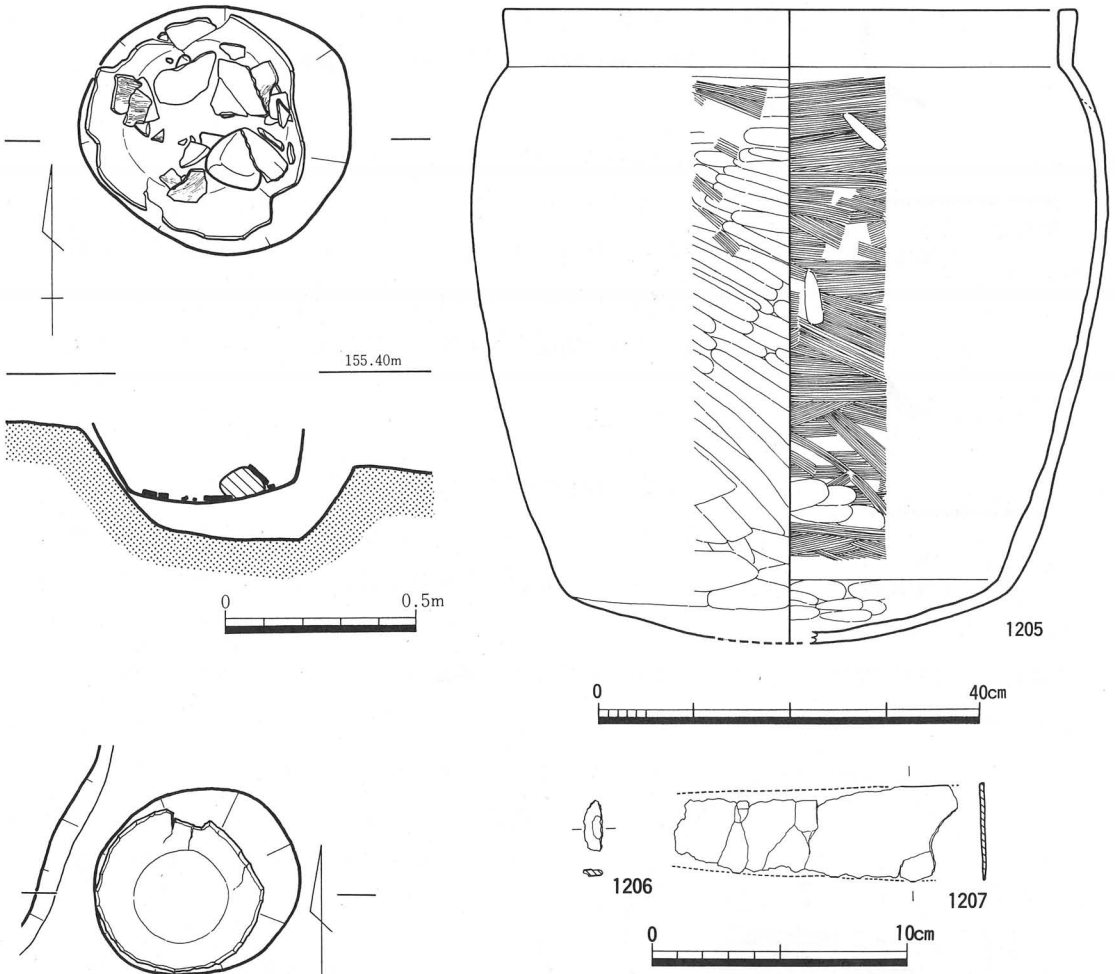
［遺物］　遺物は埋甕の土師質甕（1205）と底部から鉄鎌（1207）、不明鉄製品（1206）が出土している。

ＳＬ２（第305図、図版80・146）

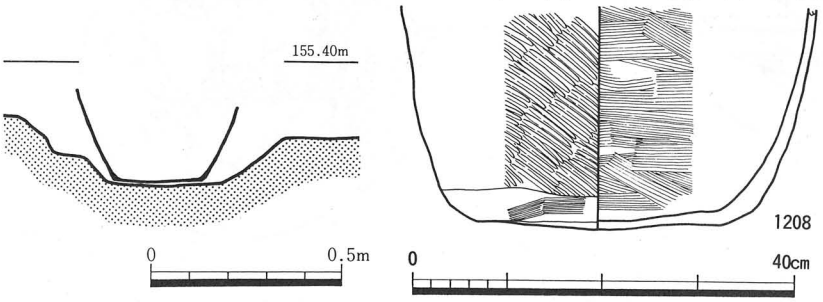
［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｅ－５に位置している。掘方は円形を呈する。甕は上半分が削平され、掘方の



第303図　ＳＮ１・ＳＮ２遺構実測図（1/30）



第304図　ＳＬ１遺構（1/20）及び遺物実測図



第305図　ＳＬ２遺構（1/20）及び遺物実測図

西側にやや偏っている。掘方上端径0.5m、下端径0.3m、深さ0.1m。

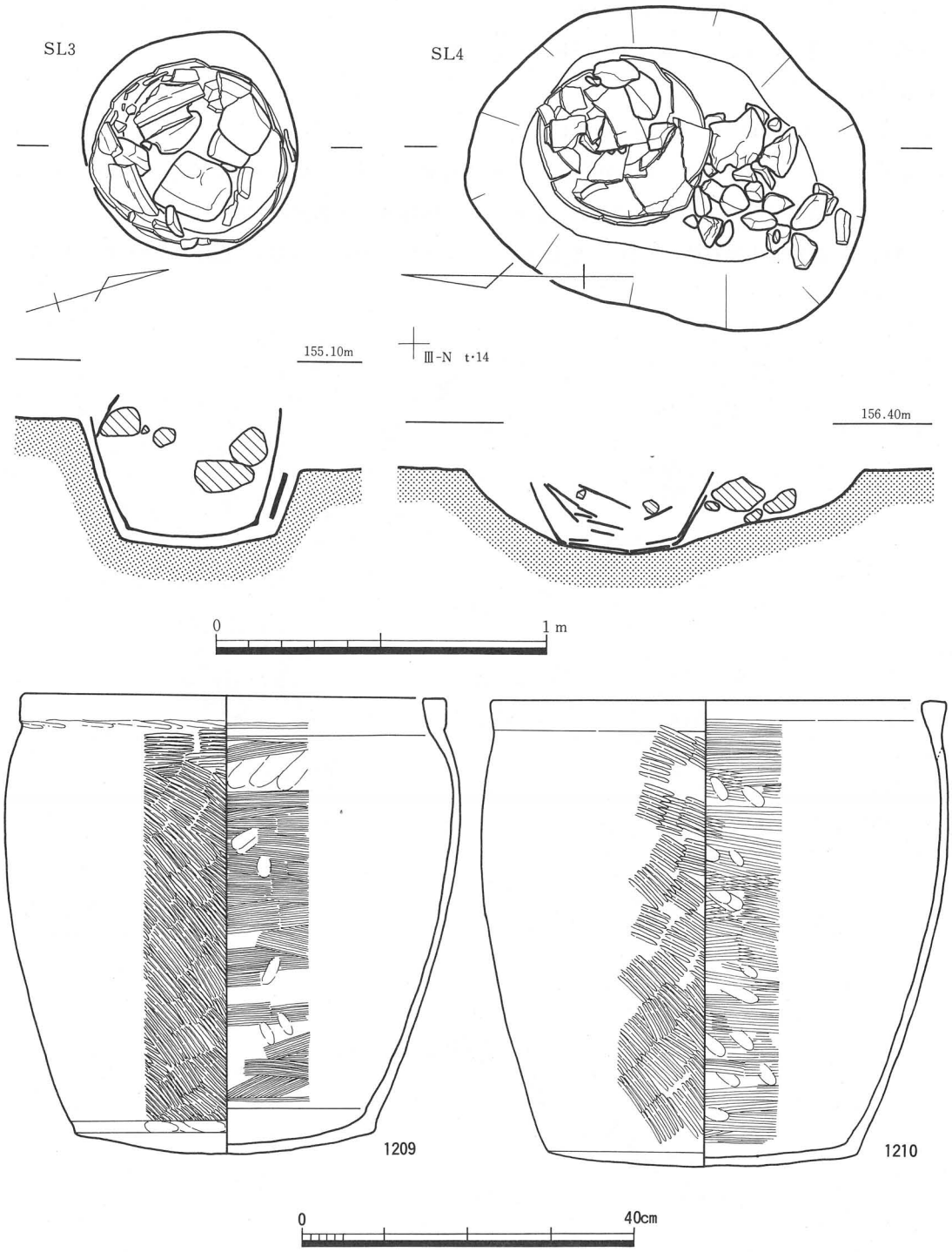
［遺物］　遺物は埋甕の土師質甕（1208）が出土している。

ＳＬ３（第306図、図版81・146）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－１～ｍ－６付近に位置している。掘方は円形を呈する。甕は上半分と最大20×20㎝の河原石とが土壙内に落ち込んでいる。掘方上端径0.66m、下端径0.5m、深さ0.38m。

［遺物］　遺物は埋甕の土師質甕（1209）が出土している。

ＳＬ４（第306図、図版81・146）



第306図　ＳＬ３・ＳＬ４遺構（1/20）及び遺物実測図

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｓ－14付近に位置している。掘方は円形を呈する。埋桶の掘方としては広く甕の南側には最大20×15㎝の河原石が集石している。上端長径1.2m、上端短径0.95m、下端長

径0.9m、下端短径0.6m、深さ0.35m。

［遺物］　遺物は埋甕の土師質甕（1210）が出土している。

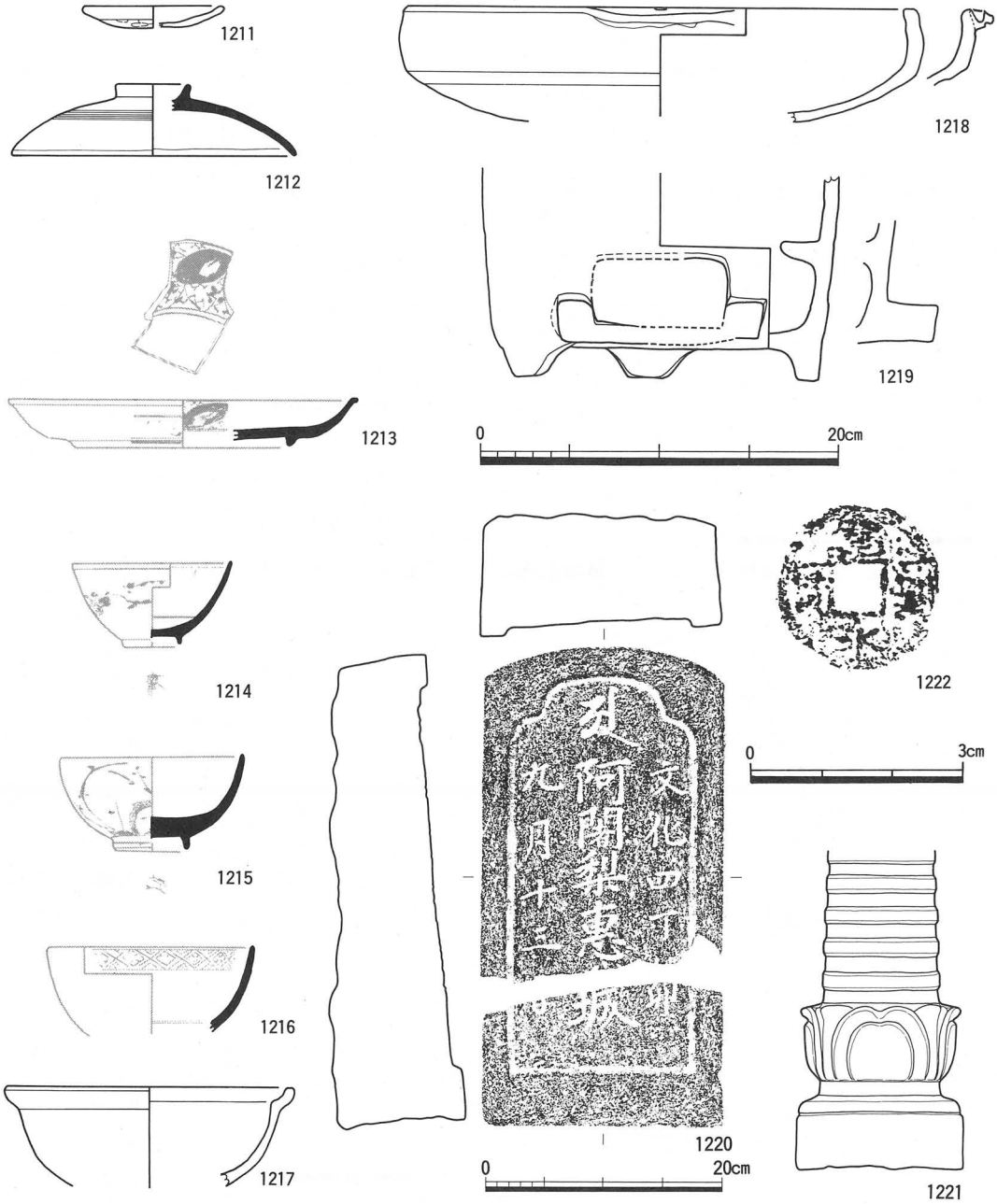
集石（ＳＵ）

ＳＵ12（第307・308図、図版68・82・145）

［遺構］　Ⅲ－Ⅰ－ｋ～ｌ－18～19付近に位置する集石である。集石の中に墓石、石塔片などがあり、近世墓が撹乱を受けた様である。長軸12m、短軸８ｍの範囲に広がっている。

［遺物］　遺物は土師質皿（1211）、施釉陶器蓋（1212）、染付碗（1214～1216）、染付皿（1213）、

第307図　ＳＵ12遺構実測図（1/30）

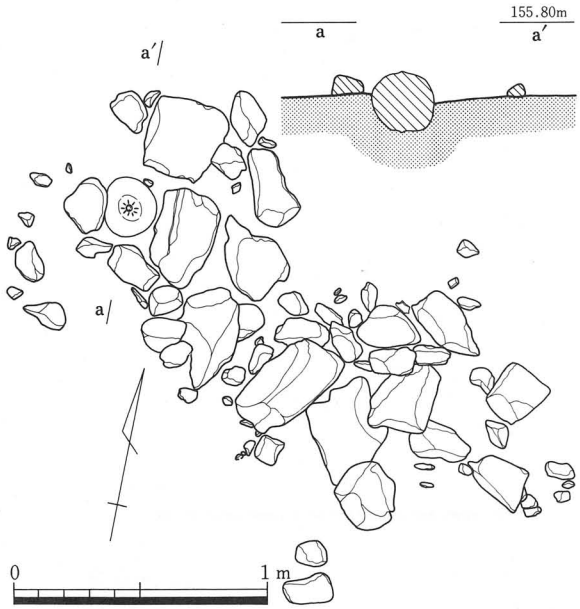


第308図　ＳＵ12遺物実測図

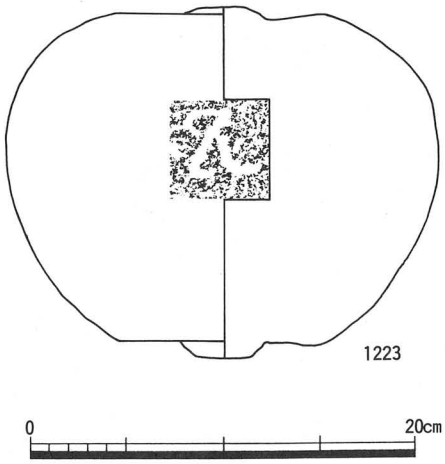
土師質炮洛（1218）、土師質風炉（1219）、土師質鉢（1217）、文化４年（1807年）銘の墓石（1220）、五輪塔（1221）、寛永通宝（1222）が出土している。

ＳＵ13（第309図、図版68・82）

［遺構］　Ⅲ－Ⅰ－ｊ－３付近に位置する集石である。集石は最大45×25㎝の自然石が集中し、五輪塔の一部も出土している。長軸2.4m、短軸１ｍの範囲に広がっている。



第309図　ＳＵ13遺構（1/30）及び遺物実測図

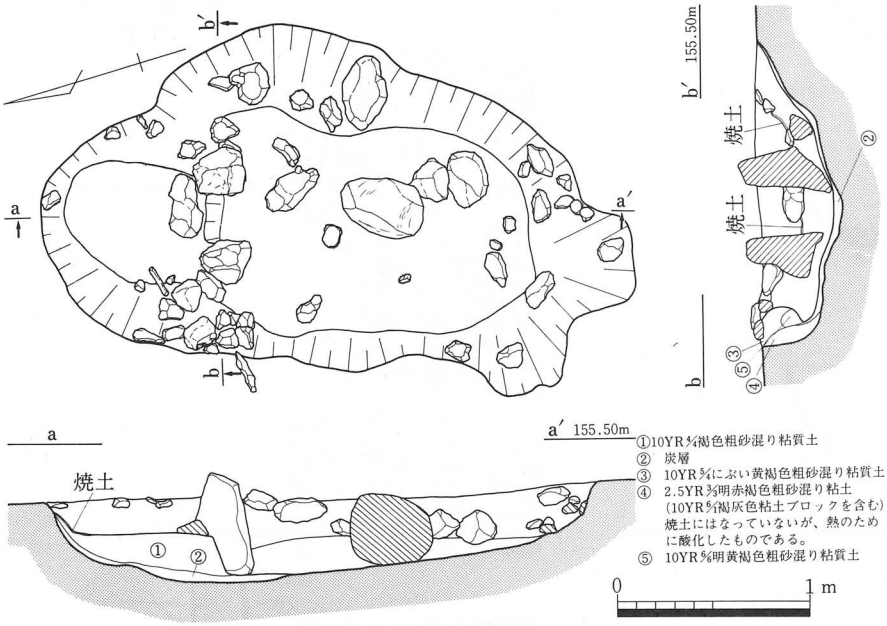


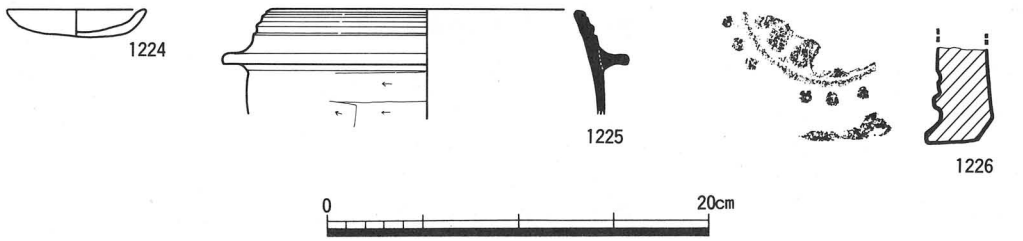
［遺物］　遺物は桟瓦、軒丸瓦、軒平瓦、五輪塔（1223）が出土している。

窯状遺構（ＳＹ）

ＳＹ６（第310図、図版68・83・145）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｊ－２～３付近に位置している。平面形は楕円形を呈する。内部は燃焼部と前庭部とに分けることができる。燃焼部の上判部は削平されているが、焚口部は両側面に高





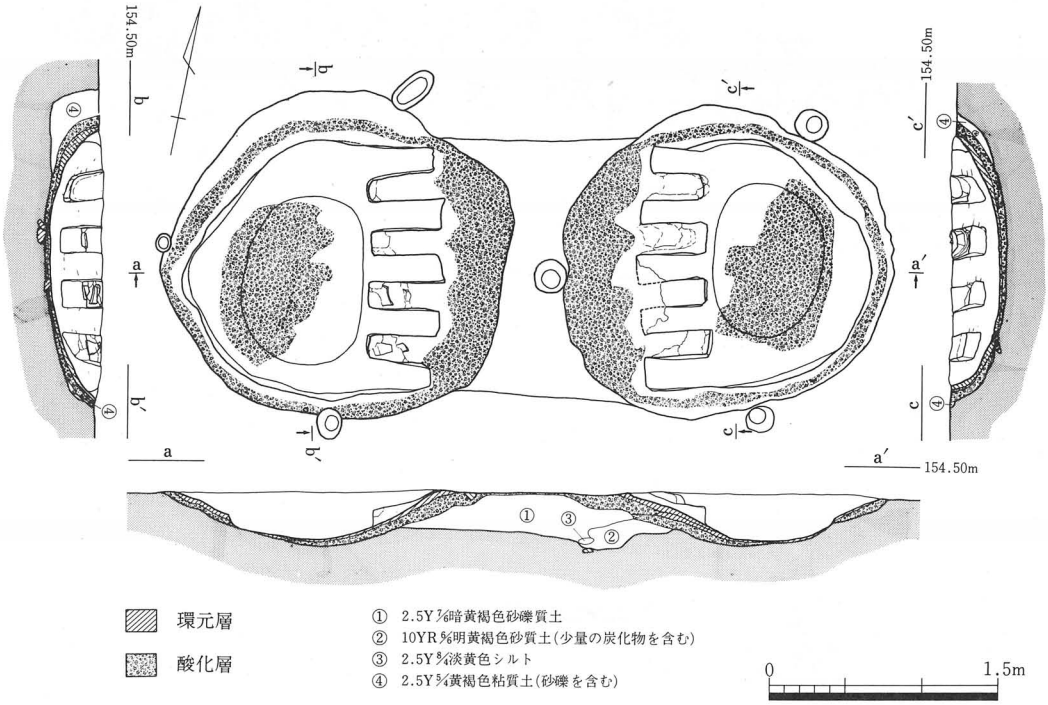
第310図　ＳＹ６遺構（1/40）及び遺物実測図

さ45㎝の石を建て、前庭部より0.2m一段高くなっている。埋土には炭・灰が多量に混り表面は赤色の酸化層に変化している。焚口の幅は0.25m、燃焼部の長さ1.3m、幅1.4m、深さ0.2m。前庭部に最大40×30㎝の自然石が落ち込み、埋土には炭・灰が混じっている。長さ2.1m、幅1.8m、深さ0.4m。

［遺物］　遺物は土師質小皿（1224）、瓦質羽釜（1225）、軒丸瓦（1226）が出土している。

ＳＹ７（第311図、図版83）

［遺構］　Ⅲ－Ｉ－ｎ～ｏ－20付近に位置している。平面形は双円形を呈し、いわゆるダルマガマと称され瓦窯である。２つの焼成部には長さ0.4m、幅0.2mのロストルをそれぞれ４本有している。窯は高温の焼成の為、表面は還元層を成している。窯の全長は4.85m、焼成部はそれぞれ径2.25m、深さ0.3mで残存している。



第311図　ＳＹ７遺構実測図（1/50）

［遺物］　遺物は桟瓦、軒丸瓦、軒平瓦が出土しているが実測可能なものは出土していない。

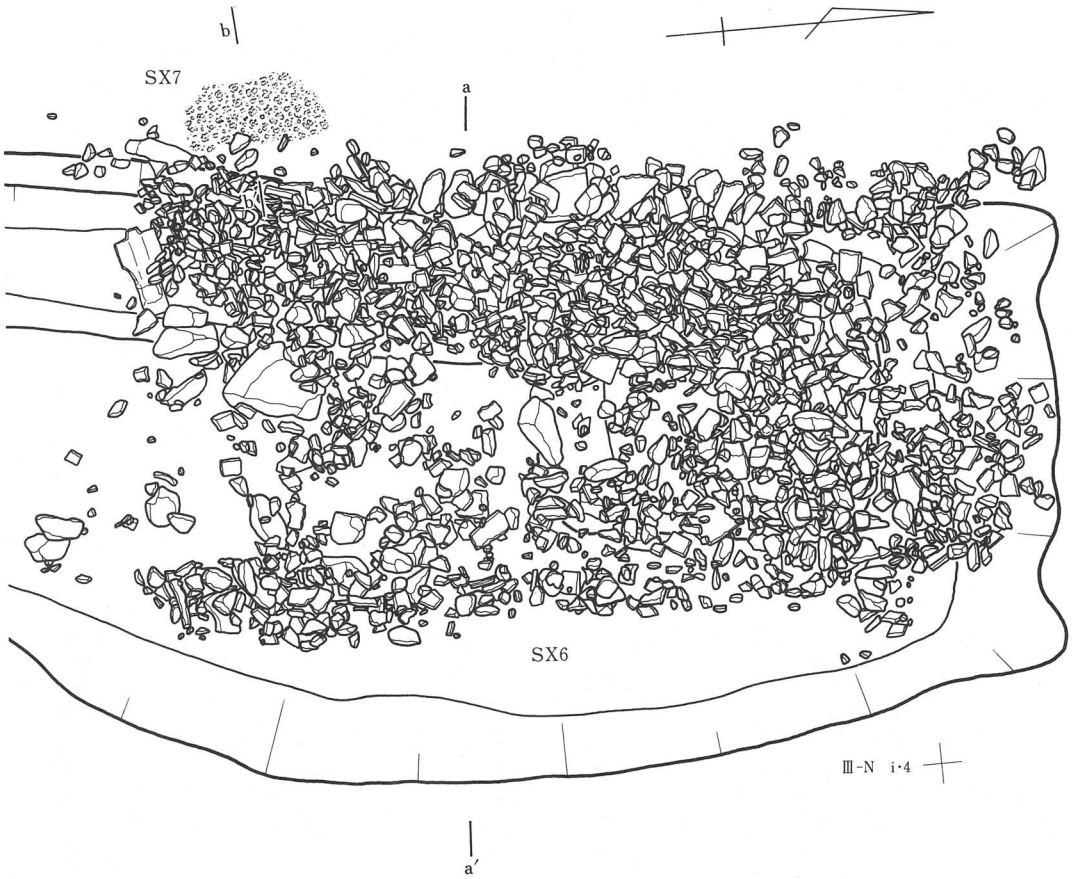
その他の遺構（ＳＸ）

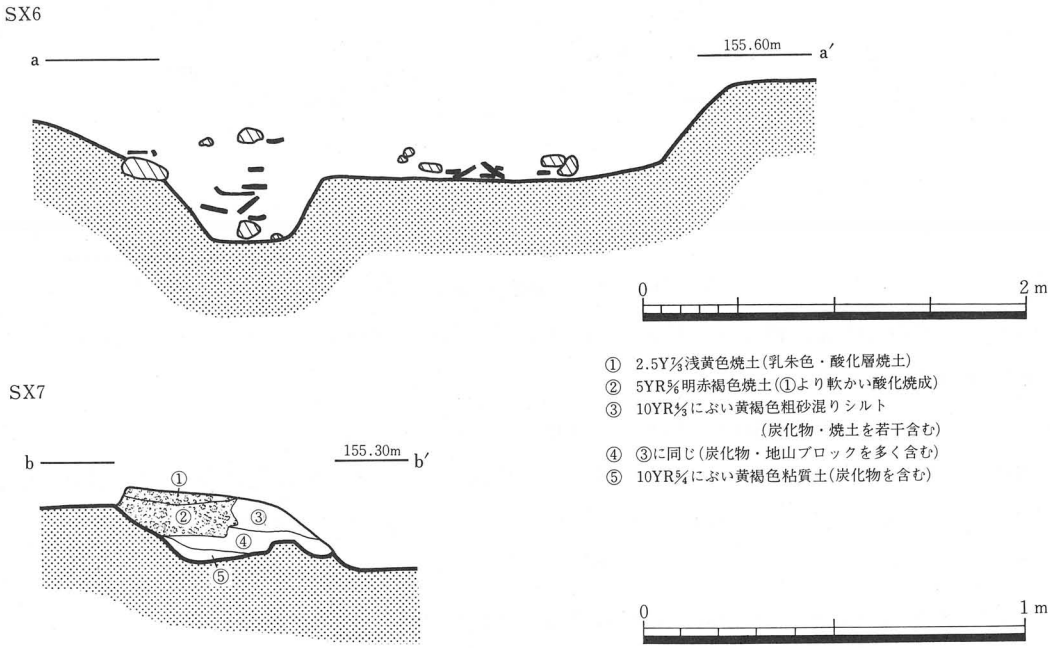
ＳＸ６（第312～315図、図版68・84・147～149）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｉ－３～６付近に位置している瓦溜めである。検出長12.5m、最大幅1.3m、深さ0.4m溝状遺構の中に瓦が廃棄された状態で出土している。特に北側部分に集中している。

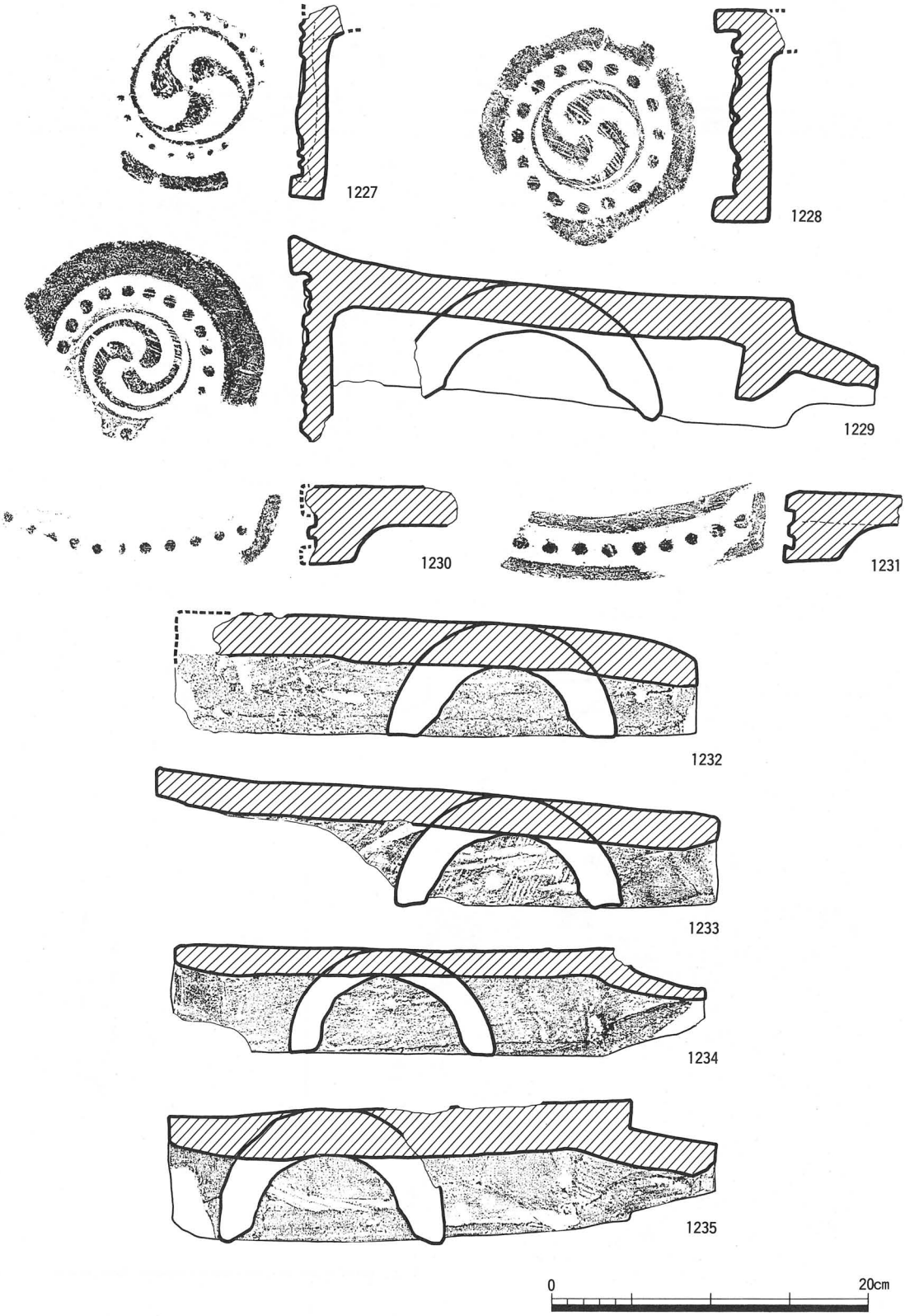
［遺物］　遺物は軒丸瓦（1227～1229）、軒平瓦（1230・1231）、丸瓦（1232～1235）、平瓦（1236・1237）、雁振瓦（1238）、鳥衾瓦（1243）、鬼瓦（1239～1242）が出土している。

ＳＸ７（第312図、図版68）

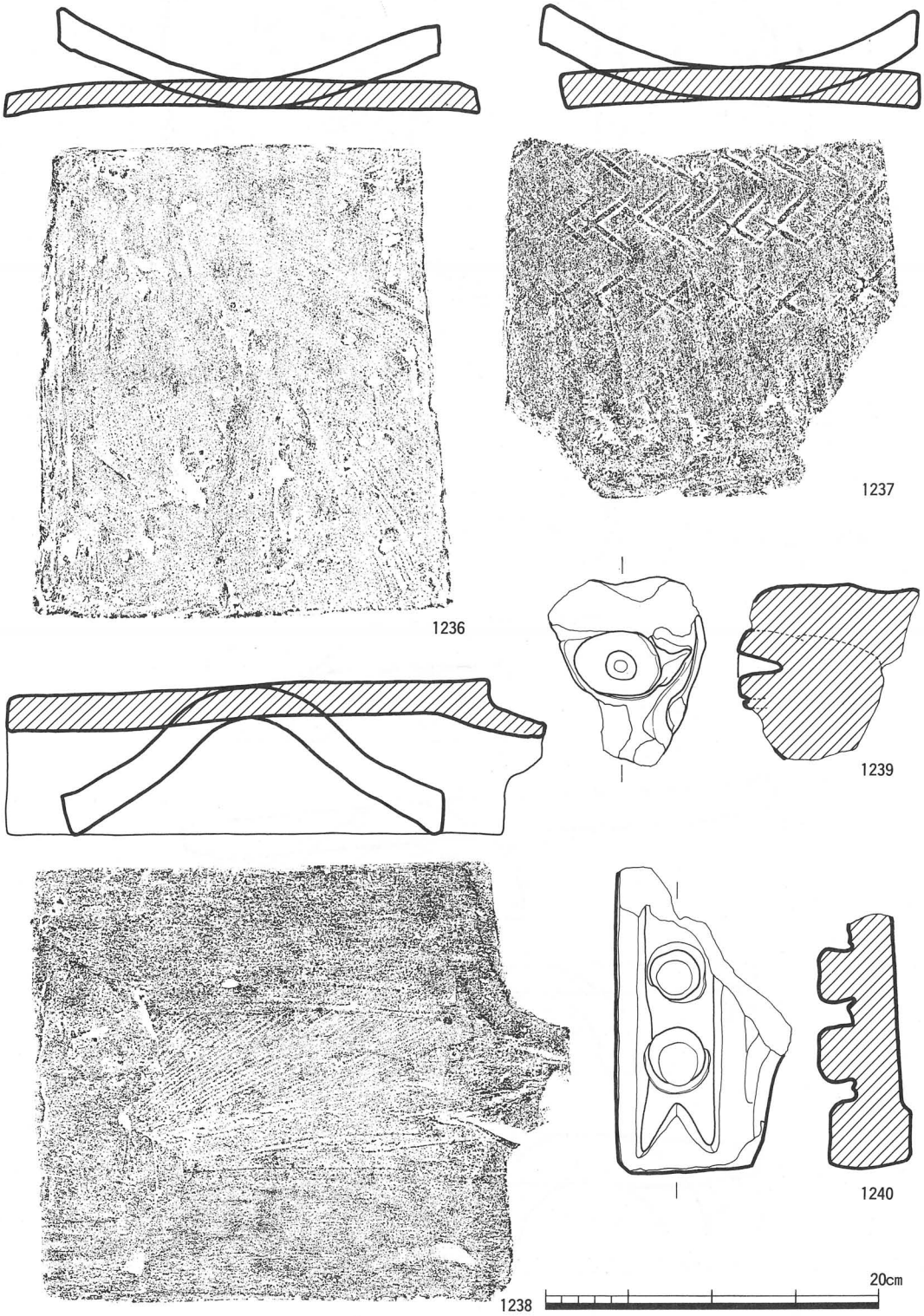




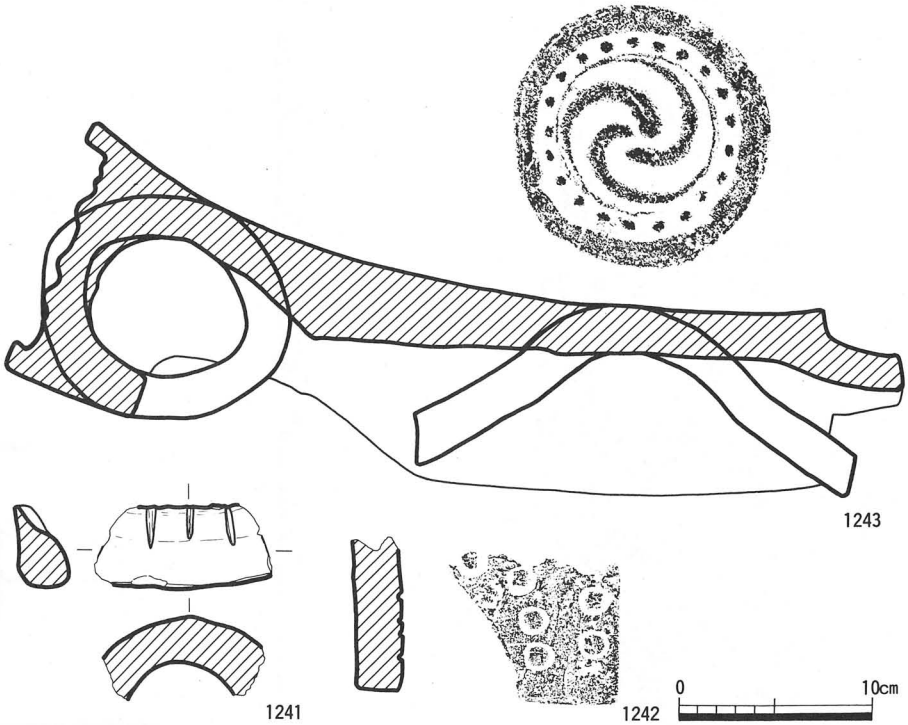
第312図　ＳＸ６・ＳＸ７遺構実測図　平面（1/40）・ＳＸ７断面（1/20）



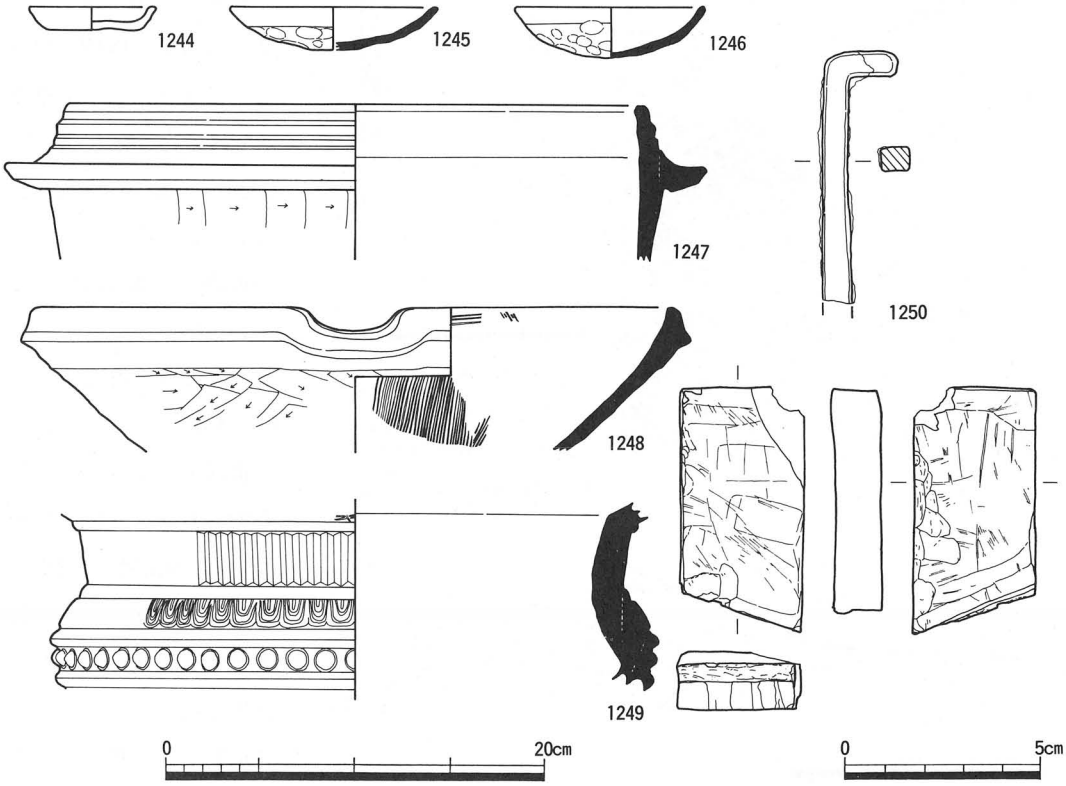
第313図　ＳＸ６遺物実測図（１）



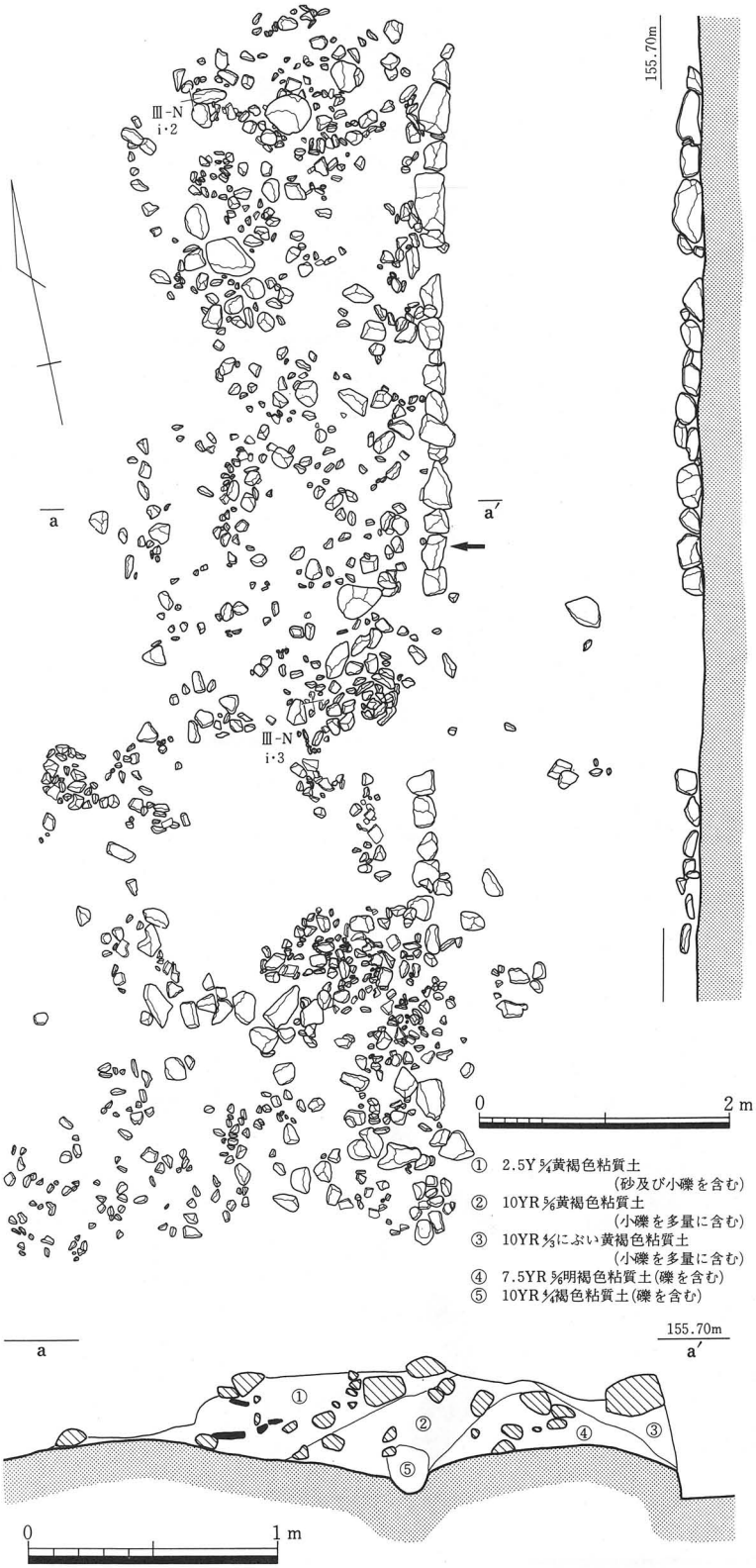
第314図　ＳＸ６遺物実測図（２）

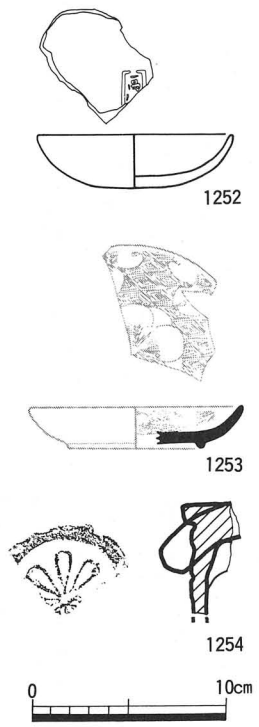


第315図　ＳＸ６遺物実測図（３）



第316図　ＳＸ８遺物実測図





第317図　ＳＸ11遺構実測図　平面・立面(1/60)・断面(1/30)及び遺物実測図

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｉ－４でＳＸ６の西側に位置し、ＳＸ６によって削平を受けている焼土である。0.35×0.2ｍの範囲で残存している。

［遺物］　遺物は出土していない。

ＳＸ８（第316図、図版69・150）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｈ－５でＳＥ７の西側に位置しする土器溜状の遺構である。長軸5.9ｍ、短軸４ｍの土壙状の西側から検出されている。

［遺物］　遺物は土師質Ⅲ（1244）、瓦器埦（1245

・1246）瓦質羽釜（1247）、瓦質片口鉢（1248）、瓦質火舎？（1249）、砥石（1251）、鉄釘（1250）が出土している。

ＳＸ11（第317図、図版68・84）

［遺構］　Ⅲ－Ｎ－ｈ－２付近に位置する基壇状の遺構である。東側は１段しか残存していないが石積みによって画され、西側は石混りの粘質土によって築かれている。残存長５ｍ、幅2.5ｍ。

［遺物］　遺物は土師質埦（1252）、染付皿（1253）、軒丸瓦（1254）が出土している。

第4章　遺　　物

三日市遺跡の出土遺物は、数量的には古墳時代前期～中期のものと、中世～近世のものが多い。古墳時代迄の遺物については前回の報告でその概要を述べた。今回は中世～近世の遺物について述べる事とする。

中・近世の遺物は数量的にも多く、また種類も多様である。それらの中から代表的なものを抽出し、時代を追って並べた表を作成した。（第２表）　また包含層から出土した中・近世の遺物については、各地区別に数量を測り、その割合を計算した結果（第３表）のようになった。

なお、当遺跡においても他の畿内の遺跡同様、中世において遺物の大半を占めるのは瓦器である。それらは三日市という土地柄からやはり和泉型の瓦器椀が大部分で、他に若干の他地域からの搬入と思われる瓦器椀が混じる。和泉型の瓦器椀に関しては、尾上実氏による瓦器椀の変遷におおむねあてはまる。その為、いささか瓦器椀に頼り過ぎるという心配もあるが、次表の時期区分も瓦器に重点を置き、その存続期間の時期区分は尾上氏の年代を基準に型式名を受用させていただいた。それによると、当遺跡で一括した瓦器椀の出土が見られるのはⅢ－１型式のもの以降で、それ以前にはⅠ－２型式に属すると考えられるものを最古としⅡ－１型式のものも出土しているが、いずれも極めて少量である。Ⅲ－１型式以降は徐々に増える傾向にあるが、一括した出土の見られる遺構はⅣ－３・Ⅳ－４型式に最も多く、Ⅳ－５型式には再び減少する。以下、各時期の遺物の傾向について説明を加える。

〔Ⅰ－３以前〕

ＮＶ４の下層より土師質椀・皿・羽釜、黒色土器椀、Ⅰ－２に属する瓦器椀が出土している。

ＳＫ183の土師質小皿（第115図316）は口縁部が屈曲し、端部を肥厚するもので、台付皿（317）も同様の口縁部を有する。いずれも口縁部の形態よりⅠ－３以前のものと考えられる。

黒色土器は内黒の（第24図56・57）と両黒の（58・59）などがある。いずれも肉厚でよく焼きしまっている。またＳＫ185の（第115図319）は、口径16.0㎝、容高6.4㎝で、口縁部内面に沈線を一条有し、高台は幅広く八の字型に広がる。外面に黒斑が見られるものの炭素の吸着はないが、黒色土器の類ではないかと思われる。

瓦器椀は厚味のあるしっかりとした高台を有し、内外面とも丁寧なヘラミガキが施されている。（第24図61）

〔Ⅱ－１〕

ＳＢ９より土師質皿・杯、黒色土器皿、瓦器椀・皿などが出土している。

この時期迄の土師質小皿は形態に一貫性がなく、大きさも様々である。

黒色土器皿（第８図11・12・13）はいずれも両黒である。平底で、口縁部は内弯し、端部内面には沈線を施す。この時期の瓦器小皿（14）の口縁部が外反して上外方へ広がるのに対し、はっ

きり区別できる形態である

瓦器椀は高台がやや薄く小型化する。（第８図18）　ヘラミガキは外面に分割性があるものの、条線間には隙間がみられる。

〔Ⅱ－２〕

ＳＫ263・ＳＤ119などがこの時期に属する。土師質皿、瓦器椀・皿がある。

土師質皿はＳＫ256・ＳＫ257・ＳＫ258に一括した出土がみられ、形態や法量に一貫性が認められる。口径10㎝前後の小皿と14㎝以上の大皿があり、いずれも口縁部に二段のヨコナデを施し、端部はやや内傾する。底部内面は全て不定方向のナデ、外面は指圧痕を残すものと丁寧にナデ消したものがある。（第132図・第133図・第134図）

瓦器椀は高台の小型化が進み、断面は三角形を呈する。外面のヘラミガキは特に粗略になり、ＳＫ263の（第135図471）は上部にのみ施され、下部は指圧痕の凸凹がはっきりとわかる。内面は見込みに格子状のヘラミガキが施されている。瓦器小皿は口縁部がやや内弯する。ヘラミガキは椀同様粗略になり、外面のヘラミガキは施されないものが大部分である。内面の見込みには、椀と同様ヘラミガキが施されている。（470）

〔Ⅱ－３〕

ＳＲ10より瓦器椀・皿が出土している。この時期にあたる瓦器椀の出土はわずかであるため、遺物の時期決定には前後の時期との比較によるところが大きい。

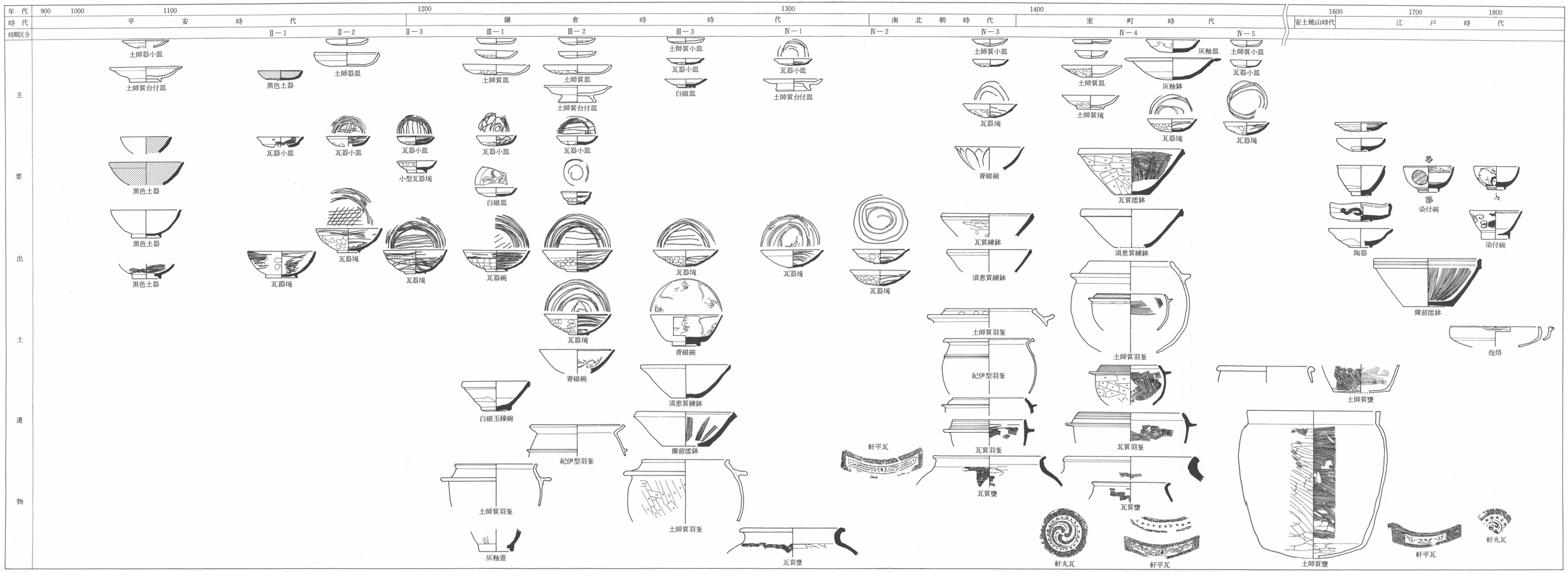
瓦器椀（第243図960）は前期よりもさらに高台が小さくなる。外面のヘラミガキはまばらで、内面見込みには条線間の狭い平行線状のヘラミガキが施されている。また口径9.1㎝、器高2.7㎝の小型の椀が一点出土している。土壙墓からの出土ということから、祭祀用であると考えられる。（959）　瓦器小皿は前期に比べやや小型で、外面にヘラミガキは全く施されていない。内面は椀と同様見込みに平行線を施し、その周囲に螺旋状のヘラミガキをめぐらす。（956）

〔Ⅲ－１〕

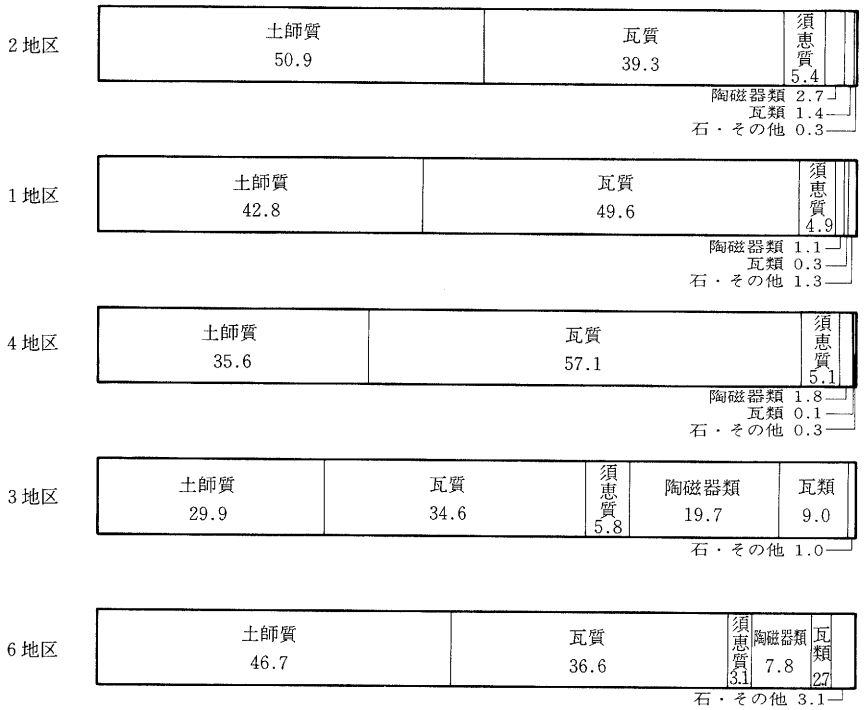
ＳＲ８・ＳＤ217などがこの時期に属する。この時期より遺物の種類が増え、数量的にも多くなる。土師質皿はやはり小皿と大皿がある。（第187図621～625）　前期の資料が見あたらなかったためその推移は確認できないが、Ⅱ－２期と比較すると小皿の口径が平均１㎝程小さくなっている。口縁部はヨコナデを一段しか施さないため、外反して上外方へ広がり、端部は自然におさめた状態を呈する。大皿はやや浅型になり、やはり口縁部が上外方へ広がる形態を呈する。

瓦器椀は高台が押し潰されたような台形を呈し、器高はやや低くなる。外面のヘラミガキは施されないものがほとんどで、施されていても数条である。内面見込みのヘラミガキは平行線条が大部分で格子状は極めて少ない。（628～636）　瓦器小皿は、前期とあまり変化がないが、内面のヘラミガキに螺旋状のものがみられる。（626）

羽釜は全て土師質で、胎土は粗く肉厚である。口縁部は屈折して上外方へ伸びる形態のものである。（第188図・第232図914）



第 2 表　主要出土遺物時代区分表



第3表　地区別包含層出土遺物割合表

白磁は皿と碗が出土している。皿は平底で、内面見込みに花文を有する。（第232図913）碗はＳＲ８から完形で出土している。口縁部は丸味のある大きな玉縁で、体部外面中位まで施釉されているが、内面に不定形の釉薬がかかっていない部分がある。（第148図545）　ＳＲ７から出土している玉縁碗（第147図542）は、口縁部がやや鋭いものの時期的には大差はないと思われる。

ＳＫ458の（第232図910）は灰釉陶器で壷の底部であると思われる。

〔Ⅲ－２〕

ＳＥ12・ＳＫ228などがこの時期にあたる。土師質皿・羽釜、瓦器埦・皿と磁器類が出土している。

土師質皿は小皿と大皿、台付皿がある。小皿は口縁部と底部の境が肥厚するタイプが主流で、内面見込みにヘラ状工具による花弁状の圧痕を残すものがみられる。特にＳＲ６より出土している11点の土師質小皿（第145図512～522）は口径が8.4～9.0㎝で、内面の圧痕は形6.8㎝前後にわたるもので、規格性が認められる。またＳＸ２の土師質小皿（第54図123～130）もこの規格にあてはまる。大皿は前期よりもさらに浅型になっている。（523）台付皿は、八の字型に広がる長い脚台部をもち、皿部は口縁部が外弯して外上方に広がる。（第127図347・348）

瓦器埦は、断面が三角形か押し潰したような台形を呈する高台をもつ、器高は低く５㎝未満である。しかしＳＥ12出土の（第204図741）は器高がやや高く、また（747）は、他の埦が見込みに平行線状のヘラミガキを施すのに対し、螺旋状のヘラミガキをもつ、この井戸から出土してい

る土器群は、胎土が緻密で焼成も堅い。ＳＲ６からは祭祀用であると思われる小型の埦が六点出土している。（第145図525～529）Ⅱ－３期の小型瓦器埦よりもさらに小さく胎土が粗いが、ヘラミガキは細かく施されている。瓦器小皿は前期よりもやや小さくなり、ヘラミガキは従来の平行線状と、螺旋をめぐらしただけのものがある。（第203図731～736）

青磁碗は、ＳＫ228の（第127図353）がある。内面は片彫りの花文を三方向に施すと思われる。

羽釜（354）は土師質であるが胎土に緑色片岩を含む。口縁部が大きく上外方に屈折し端部は上内方へつまみあげておさめる。鍔は小さい。紀伊型の羽釜である。

〔Ⅲ－３〕

ＳＥ15出土の遺物がこの時期に属する。土師質小皿・羽釜、瓦器埦・皿、須恵質練鉢と陶磁器類などが出土している。

土師質小皿は口縁部が短く浅型のものが主流である。（第208図769～772）大皿はみられなかった。

瓦器埦は口径・器高ともに前期よりも小さくなっている。内面の見込みは平行線状のヘラミガキが施されているが、全体に前期よりも粗い。（第208図777～789）　瓦器小皿は平行線状のヘラミガキを施すものは少なく螺旋状が主流となる。また、ヘラミガキを施さないものもみられる。（第208図773～776）

青磁碗はＳＥ15の（第209図791）がある。龍泉窯系のもので内面には５つの区画に分けて飛雲文を施す。ＳＫ523の（第144図498）は白磁の皿で、内面見込みに沈線を一条めぐらし、蛇の目形に釉を掻き取っている。外面は高台の少し上まで施釉されている。

ＳＵ６の（第161図592）備前焼の摺鉢で、口縁部の形態から鎌倉時代後期頃のものと思われる。ＳＥ15の（第209図790）の須恵質練鉢は、おそらく片口であろうと思われる。口縁部はやや肥厚し、底部は回転糸切り、他は回転ナデ調整である。東播系須恵器で、神出古窯址群に類似した鉢が出土しており13世紀に比定されている。

羽釜は土師質で、ＳＥ15の（第210図795）などがある。

〔Ⅳ－１〕

ＳＫ456・ＳＥ14などがこの時期に属する。土師質皿、瓦器埦・皿、瓦質甕などかある。

この時期の土師質小皿は形態に一貫性が認められなかった。（第229図882～885）　台付皿はⅢ－２期に比べ粗製で皿部は浅く、脚台部も短くなる。（886・887）

瓦器埦は高台の断面が小さな半円形を呈する。内面見込みに平行線状のヘラミガキを施すものと螺旋状のヘラミガキのものがある。（892～904）　瓦器小皿は前期とほぼ同じ形態で螺旋状のヘラミガキを施すものと、全く施さないものがある。（888～891）

ＳＥ５出土の（第109図303）の瓦質甕は、和泉の湊焼の初期のものと考えられる。口縁部は外反し、端部は肥厚する。体部外面に細かい平行叩きが施され、内面はハケ目をヘラ状工具で消している。堺環濠都市遺跡に類似例が見られ、13世紀末頃に比定される。

〔Ⅳ－2〕

ＳＥ３より一括した瓦器埦の出土がみられる。口径・器高ともに前期よりさらに小型化し、高台は粘土紐をなで付けた程度で途切れているものや、まったく高台を付けないものもある。ヘラミガキは粗い螺旋状である。（第107図273～292）

またＳＤ181からは瓦類が出土している。軒平瓦（第273図1107・1108）は唐草文で瓦当厚６㎝前後、平瓦部の厚さ３㎝前後のものである。唐草文の周囲には一条の郭線がめぐらされている。

〔Ⅳ－3〕

ＳＤ232から出土している遺物がこの時期に属する。土師質小皿・羽釜、瓦器埦・皿、瓦質練鉢・羽釜・甕、須恵質練鉢と青磁などが出土している。

土師質小皿は口縁部と底部の境が肥厚するタイプが主流である。（第195図659～665）

瓦器埦は前期よりも小型化し、高台はまったく無い。ヘラミガキは粗い螺旋状である。（671～688）瓦器小皿はⅣ－１頃よりも小さくなっている。ヘラミガキを施さないものが主流で、施されていても粗いものである。（667～670）

ＳＤ232の（689）は龍泉窯系の埦で、外面に連弁文を有する。

瓦質練鉢（693）は、口縁部に強いヨコナデを施す。体部外面もナデ調整によるが指圧痕も残る。須恵質練鉢は、ＳＢ28（第67図186）のように口縁部がやや肥厚し玉縁状を呈するようになる。

この頃より瓦質の羽釜の一括した出土がみられる。ＳＫ470の（第235図937・938）などで、口縁部は短く直立したものが主流である。ＳＤ59の（第67図183）のように口縁部が内弯し、端部を上外方に折り返す土師質羽釜の形態を踏襲したものもあるが、口縁部の直立するタイプとの前後関係は明確ではない。一方、土師質羽釜は口縁部の折り返しが著しく退化し、端部を肥厚させたような形態を呈する。胎土はやはり粗く肉厚である。（第218図857）

またＳＫ347の（第298図1195）は紀伊型の羽釜であるが、Ⅲ－２期のものに比べると鍔部は著しく退化する。

瓦質甕は前期とほぼ同じ形態であるが、口縁部がやや短く、肩部の張りが弱くなっている。外面は細かい平行叩き、内面はハケ目をナデ消している。（第196図694）

〔Ⅳ－4〕

ＳＫ201・ＳＤ53などがこの時期に属する。土師質皿・埦・羽釜、瓦器埦、瓦質摺鉢・羽釜・甕、須恵質練鉢、瓦、陶器類などが出土している。

土師質皿は小皿と大皿があり、ともに口径が小さくなる。小皿は８㎝以下のものが主流で、口縁部が短く立つ浅型のものと、外反して上外方へ伸びる深型のものがある。（第87図190～210）大皿は口径が12.5㎝前後で口縁部が内弯するもの（第23図43～45）と、口径が13.5㎝前後で口縁部が大きく上外方に広がるものがある。（第111図307・第276図1115）　埦は、断面が三角形の幅広い高台を有する。（第228図876）

瓦器埦は前期よりも口径が小さく、底部が若干平らになり安定感のある形態となる。ヘラミガキは螺旋状、または施されないものもある。（第119図322～326）

ＳＤ54より灰釉陶器の皿と鉢が出土している。（第89図216・217）　いずれも釉色は灰オリーブ色を呈し、底部は回転糸切り、内面見込みに胎土目が残る。

瓦質擂鉢は口縁部が下外方に肥厚し玉縁状になる。体部外面は上半はヨコ方向、下半はタテ方向にヘラケズリを施す。（第22図36）　須恵質練鉢は口縁部の玉縁が大きくなる。（第87図214）

土師質羽釜は口縁端部の折り返しがなくなりやや肥厚する程度のものである。胎土は粗く肉厚である。（第228図881）　また他に、精製された胎土をもつ小型の羽釜（880）もあり、先述の土師質埦と同じＳＫ445から出土している。前期の瓦質羽釜（第67図183）と形態は似ているが器壁はさらに薄い、瓦質羽釜は口縁部が内弯する。口径は約20㎝・30㎝・40㎝と規格があったようである。（第213図818～第215図833）　また小型の羽釜には口縁部に径１㎝程の小孔を有するものがある。（823）　同様の羽釜が包含層から出土しており、口縁部破片には紐状のものが、通されていたものがあり、この小孔には紐を通して使用していたと思われる。

甕は口縁部がさらに大きくなり、外面の叩きは粗く、内面のハケ目を残す。（第87図214・第206図759）

瓦はＳＥ７から軒平瓦（第277図1135・1136）、軒丸瓦（1137・1138）、平瓦（1139）、丸瓦（1140・1141）などが出土している。軒平瓦は連珠文と唐草文のものがある。いずれも瓦当厚は５㎝未満で、平瓦部の厚さも２㎝前後と薄くなり紋様の周囲に郭線はない。また（1136）は瓦当の側縁部がⅣ－２期の瓦よりもやや広くなっている。軒丸瓦は瓦当径15.4㎝の巴文で、周囲に珠文帯を配する。巴の尾の長さは1/2回転分程度で、珠文は21個圏線はない。丸瓦部の内面は布目である。

〔Ⅳ－５〕

ＳＸ13とＳＸ８より、この時期の遺物が出土している。土師質小皿、瓦器埦・皿などである。

土師質小皿は前期と大差はみられない。（第259図992～1011）

瓦器埦は口径が10㎝前後で、ヘラミガキは螺旋状または乱方向に数条の線を描いたものや、まったくヘラミガキを施さないものも多い。（1015～1022）　小皿はⅣ－３期から変化はないようである。（1013・1014）

16世紀以降

瓦器埦の終末を15世紀中葉とし、土師質甕を堺環濠都市の編年に対応させて考えれば、16世紀後半の土師質甕が出土するＳＫ435迄の間の遺物は見当たらない。

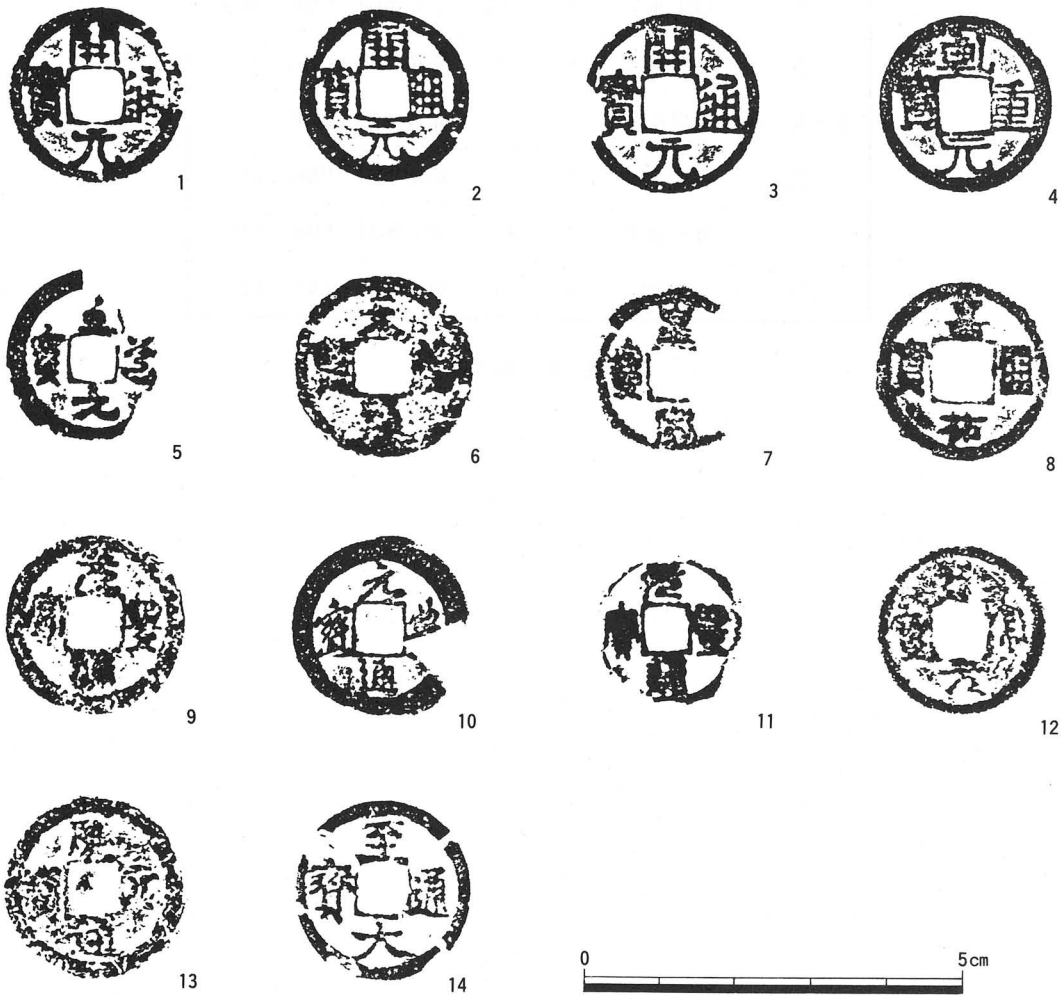
土師質甕はＳＬ１～７とＳＫ408、ＳＤ215、ＳＷ４、ＳＫ435で出土しているが、口縁端部を有するＳＬ１の（第304図1205）や、底部が平らで内面のハケ目が粗いＳＬ５の（第246図966）がやや新しいと考えられる程度で、その差は半世紀程である。

陶磁器類は国内産のものがほとんどである。江戸時代初めの頃は唐津・美濃の埦・皿（第220

図・第239図）が主流で、後半から伊万里の染付（第224図・第262図・第308図）が主流となる。また備前摺鉢は口縁部が厚く、数条の沈線をめぐらす形態のものである。（第285図1171）

炮烙は土師質のもので、口縁部に舌状の取手を２方向に有し径５㎜前後の小孔を１～２個ずつ穿つ。小孔は貫通しないものもある。底部はヘラケズリのもの（1055）もあるが、型づくりのものが多く、体部との境が突出した形態を呈する（1056・1057・11218）（第308図1218・第262図1056・1057）

瓦は、江戸時代末期から明治時代初期に瓦屋があったという地元の伝承通り、瓦窯がいくつか確認されている。ＳＹ８から各種の瓦が出土している。（第257図）軒丸瓦は巴文で、巴の頭部が丸く尾は1/3回転程の長さになっている。珠文も大きく数少なくなる。軒平瓦は瓦当側縁部が広くなっている。また側面に「片瓦太」という刻印のある平瓦が出土している。（第228図・第258図）



第318図　出土輸入銭拓影

輸入銅銭について

包含層からの出土遺物のなかで、輸入銅銭を取り上げる。初鋳年代は621年の開元通宝から、1311年の至大通宝まで総数14枚が出土している。各銭の詳細は第4表の通りである。

番　号	名　称	材質	時代	鋳　造　年　代
①・②・③	開元通宝	青銅	唐	武徳4（621）初鋳
④	乾元重宝	〃	〃	乾元2（759）
⑤	至道元宝	〃	北宋	至道年間（995～997）
⑥	元槧通宝	〃	宋	（1017）
⑦	皇宋通宝	〃	北宋	宝元年間（1038～1040）
⑧	嘉祐通宝	〃	〃	嘉祐年間（1056～1063）
⑨・⑩・⑪	元豊通宝	〃	〃	元豊元年（1078）
⑫	紹聖元宝	〃	〃	紹聖年間（1094～1097）
⑬	慶元通宝	〃	南宋	慶元年間（1196～1200）
⑭	至大通宝	〃	宋	至大年間（1308～1311）

第4表　出土輸入銭一覧

第５章　木器の保存処理

第１節　出土木製品の保存科学的処理について

大阪文化財センター　山口誠治

１．はじめに

三日市遺跡から出土した木製品（下駄２点、板18点、漆器２点、鋤１点、柱根７点、たも４点）の保存科学的処理を行ったので、ここに報告する。

出土した木製品は水分に保護された状態で埋蔵されていた。しかし、発掘されたあと空気中にさらされ水分が蒸発し、形状をくずし崩壊が進行してきた。そのため、その崩壊を防止するために保存依頼があり、次に記述するような保存科学的処理を行った。

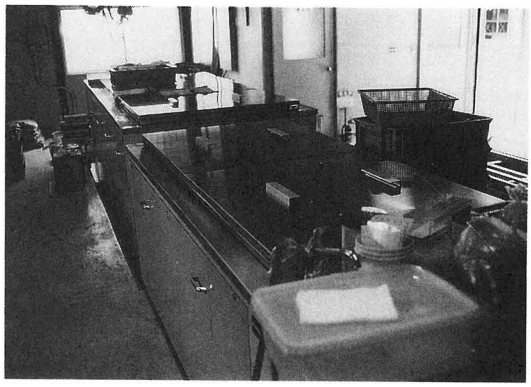
２．保存科学的処理方法

木製品は含水された水が蒸発すると、木製品の表面と内部に含水量の差が生じることになり、収縮や変形がおこる。その収縮や変形を防止するために恒久的な保存方法を行った。それは、含有されている水分を他の物質に置き換えるひとつの方法として、高分子化合物のポリエチレングリコール（以下ＰＥＧと略する。）に置換する方法をとった。なお、完全に含有水分をＰＥＧと置換することが出来ないので、水分を強制的に除去する方法として、木製品中の水分を凍結したのち、真空舌で昇華させる真空凍結乾燥法をも併用した。以上の２法について処理過程を説明する。

（１）ＰＥＧ含浸処理方法

まず、ＰＥＧ含浸を開始する前に木製品内部にまで混入している土壌を水洗により除去した。その際、加工痕などが観察される木製品については、充分に注意して筆やスポンジなどを使用して洗浄した。その後、出土地点や製品別に袋につめ、第319図に示したＰＥＧ含浸処理槽に入れて含浸を開始した。特に、脆弱な製品は保護材による保持を行ったうえで含浸槽に入れた。

ＰＥＧは常温では固形を呈しているが、55℃以上になると液体に変化する。その性質を利用した保温可能な含浸槽でＰＥＧを液状に保ち、木製品を漬けておき木製品中の水を少しずつＰＥＧ溶液に置換した。ＰＥＧ濃度は、５％からはじめ60％まで上昇させ木製品にしみこませてこの処理は終了した。

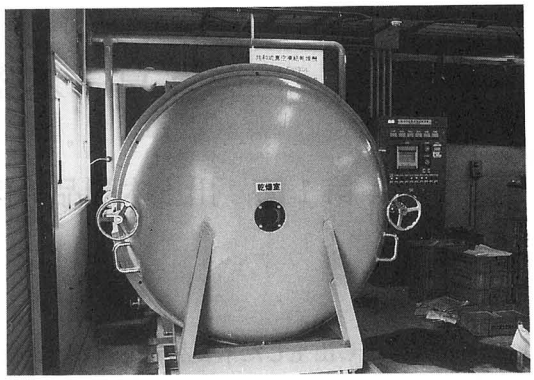


第319図　ＰＥＧ含浸処理槽全景

（2）真空凍結乾燥処理方法

60％ＰＥＧ溶液がしみこんだ木製品をＰＥＧ含浸槽から取り出し、第320図に示した真空凍結乾燥機にて木製品に残留する含有水分を凍結した。その後高真空下で昇華させて処理を終了した。

以上の２法を併用することによって、木製品の収縮や変形などをおこす要因になる水分を除去し水分に比べて分子量がはるかに大きいＰＥＧを真空凍結乾燥後、木製品内部に残留させ木製品を強化した。



第320図　真空凍結乾燥機全景

３．まとめ

出土木製品は通常水に漬けて保管されている。しかし、今回のように恒久的な保存科学的処理をすることにより取り扱いも容易になり、展示がしやすくなる。また、処理済の木製品の保管上の注意としては、高温多湿の場所を避けることおよび日光による局部的照射がないことである。

さて、近年保存科学的処理が実用化されて数十年たっているが、今回の処理方法は従来のＰＥＧ法より一歩進んだものだと思っている。処理済の木製品の状態は、収縮や変形もなく木質感もよく処理できた。処理後の調査においては、充分な保存処理効果が認められたものである。

補助作業においては、魚島純一、西野真司、宮北一郎、辻合久仁子、内藤慈子、太田祥江以上の諸氏に協力を得た。

〔参考文献〕

木製遺物の保存化学『埋蔵文化財ニュース31』奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター発行（1981）

第2節　三日市遺跡出土木製遺物の樹種について

大阪文化財センター　山口誠治

1．はじめに

三日市遺跡から出土した木製遺物について樹種鑑定を行なったので、ここに報告する。鑑定方法としては木製遺物の木口・柾目・板目方向の徒手切片を作製して生物顕微鏡によって観察し、樹種の識別を行った。このとき注意した点は、加工痕の部分を傷つけずに徒手切片を作製したことである。尚、その観察結果は顕微鏡写真にとって記録した。このうち代表的なものについては、第321図に載せている。

2．鑑定結果

結果については、第5表に揚げているが、以下に示す8科10属10種を鑑定した。

裸子植物（針葉樹）

イチイ科	Taxaceae	カヤ	Torreya nucifera
マツ科	Pinaceae	モミ	Abies firma
		マツ属	Pinus sp.
スギ科	Taxodiaceae	コウヤマキ	Sciadopitys verticillata
		スギ	Cryptomeria japonica
ヒノキ科	Cupressaceae	ヒノキ	Chamaecyparis obtusa

被子植物（広葉樹）

ヤナギ科	Salicaceae	ヤナギ属	Salix sp.
ブナ科	Fagaceae	クリ	Castanea crenata
トチノキ科	Hippocastanaceae	トチノキ？	Aesculus turbinata
ツバキ科	Theaceae	ヤブツバキ	Camellia japonica

鑑定した木製遺物は39点で、そのうち針葉樹は30点で残り9点が広葉樹であった。その内訳は、カヤ4点、モミ2点、マツ属3点、コウヤマキ1点、スギ16点、ヒノキ4点の針葉樹とヤナギ属1点、クリ6点、トチノキ？1点、ヤブツバキ1点の広葉樹である。このなかで常緑の樹種はカヤ、モミ、マツ、コウヤマキ、スギ、ヒノキ、ヤブツバキで残りが落葉樹である。

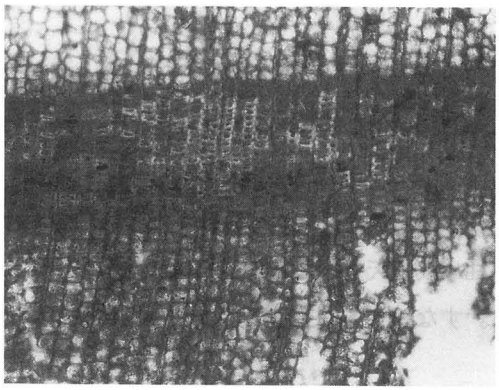
なお、トチノキの鑑定については腐朽度がはげしいために識別する特徴が不鮮明なためにクエッションマークを種名の末尾に付けた。

3．まとめ

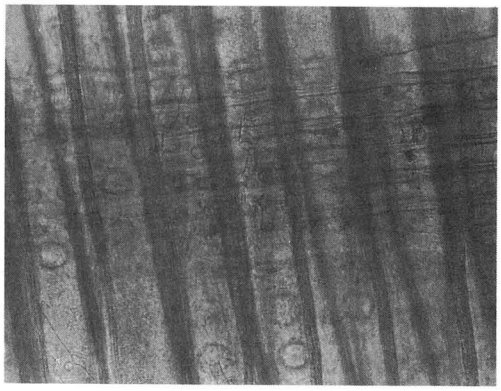
三日市遺跡から出土した木製遺物の用材の利用状況を調べてみると41％がスギ材であり、残りはカヤが10％、モミ5％、マツ7％、コウヤマキ3％、ヒノキ10％、ヤナギ3％、クリ15％、トチノキ、ヤブツバキがそれぞれ3％であった。この結果から古代の生活とスギの深い関係が明ら

試料番号	出土遺構	遺物番号	木製遺物種類名	樹種名
1	ＳＥ７	1150	下駄	スギ
2	ＳＥ７	1146	板状製品	スギ
3	ＳＥ７	1148	不明木製品	スギ
4	ＳＥ７	1122	漆器椀	クリ
5	ＳＥ７	1123	漆器椀	トチノキ？
6	ＳＥ７	1147	板状製品	コウヤマキ
7	ＮＶ４	96	下駄	スギ
8	ＮＶ５	1079	木製荷札	スギ
9	ＳＥ７	1149	漆塗り板状製品	スギ
10	ＳＥ13	763	木製鋤の一部	スギ
11	ＳＥ13	762	木製曲物底部	スギ
12	包含層	／	柱痕	ヤナギ属
13	包含層	／	柱痕	ヒノキ
14	ＳＢ７	107	柱痕	スギ
15	ＮＶ４	／	柱痕	クリ
16	ＳＢ３	／	柱痕	スギ
17	ＮＶ４	／	建築部材	マツ属
18	ＳＥ７	／	不明木製品	モミ
19	ＳＥ７	／	柱痕	マツ属
20	ＳＥ７	／	板状製品	クリ
21	ＳＥ７	1154	不明木製品	スギ
22	ＳＥ７	1152	不明木製品	スギ
23	ＳＥ７	1153	えぶり状木製品	スギ
24	ＳＥ７	／	不明木製品	スギ
25	ＳＥ７	1151	不明木製品	ヒノキ
26	ＮＶ５	1072	不明木製品	ヒノキ
27	ＳＥ７	1158	建築部材	クリ
28	ＳＥ７	／	板状製品	モミ
29	ＳＥ７	1157	建築部材	スギ
30	ＳＥ７	1160	木製箕枠	カヤ
31	ＳＥ７	1162	木製箕枠	カヤ
32	ＳＥ７	1161	木製箕枠	カヤ
33	ＳＥ７	1159	木製箕枠	カヤ
34	ＳＥ７	1156	建築部材	クリ
35	ＳＥ15	793	木錘	ヤブツバキ
36	ＳＥ12	754	木製曲物の一部	ヒノキ
37	ＮＶ５	／	下駄	マツ属
38	ＳＥ11	709	木製曲物底部	スギ
39	ＳＥ７	／	漆器片	クリ

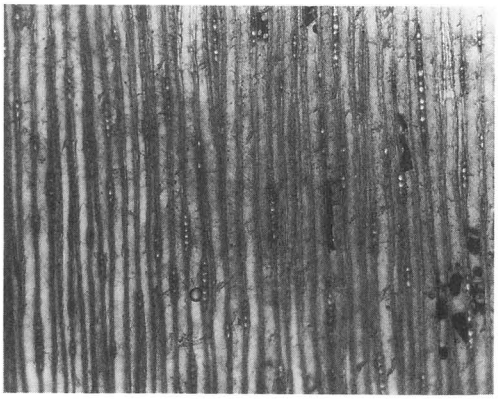
第５表　出土木製遺物の鑑定結果一覧



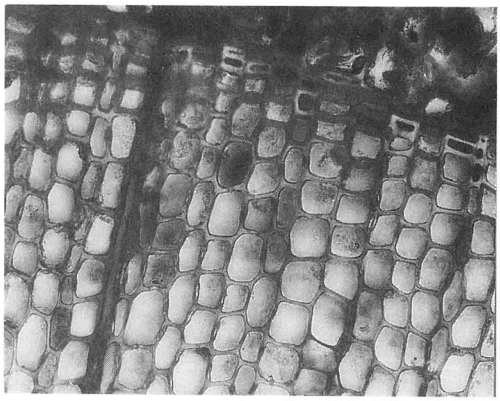
1．スギ　木口面　20×（試料No.38）



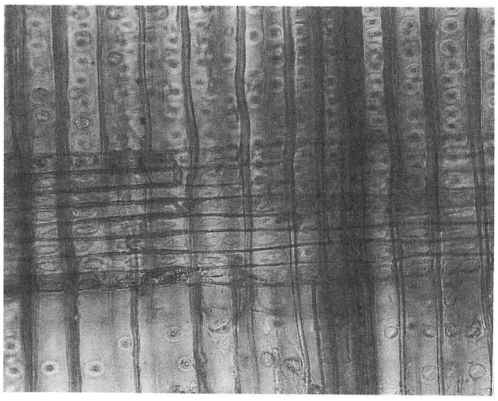
柾目面　100×



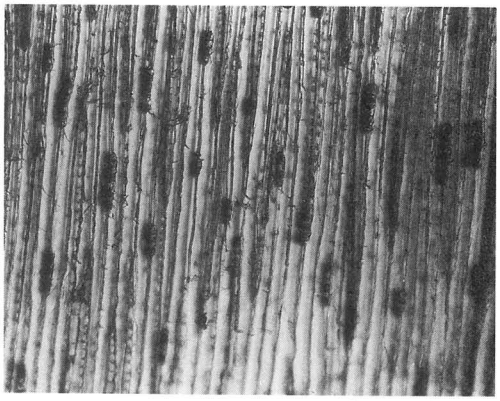
板目面　20×



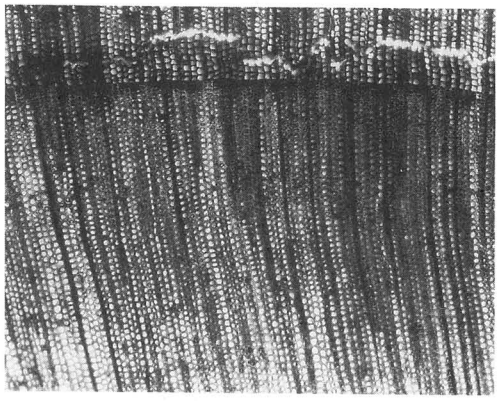
2．コウヤマキ　木口面　50×（試料No.6）



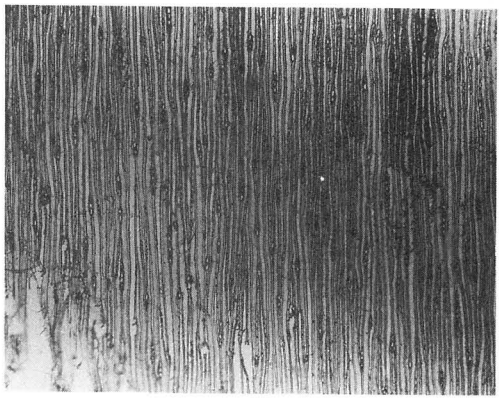
柾目面　50×



板目面　20×



3．カヤ　木口面　20×（試料No.31）



板目面　20×

第321図　出土木製遺物の顕微鏡写真

かにできるものと考える。また、用材の選定に関しては、非常に合理的に材を選んでいたことが考えられる。

もっとも多く出土したスギ材は樹高40mにたっする本州、四国、九州の温帯から暖帯に分布する林業上重要な樹種である。用途はきわめて広く、柱や板、天井板などの建築材、建具材、土木材、家具材、桶樽材、下駄材などとして用いられる。すなわち本調査にて出土した木製品についても同様な用途が考えられる。

〔参考文献〕

島地謙著　1964　「木材解剖図説」　地球社

大井次三郎著　1983　「新日本植物誌　顕花篇」　至文堂

第6章　まとめ

第1節　遺跡の変遷

古墳時代までの当遺跡の変遷については、調査報告書Ｉで記述したので割愛する。ただ、調査整理において、当遺跡では奈良時代の遺構は皆無であり、平安時代においても後期に至って遺構が確認されている状況である。

1．古代末から中世

1．建物群について

建物についてはある程度グルーピングすることができる。

［Ａグループ］２地区のＳＢ14・15・16・17である。これらは、時期的には差があり、ＳＢ17が10世紀、ＳＢ14が10世紀後半、ＳＢ15・16が12世紀前半の遺物が出土している。これらは瓦器の出現以前の建物である。付属する他の遺構は検出されていない。

［Ｂグループ］５地区のＳＢ９、10の２棟である。この建物は他の建物群とは位置的にも離れ、また、ＳＢ９と10とは時期差があり、ＳＢ９が先行する。これらの建物は大型でＳＢ９が91㎡、ＳＢ10が100㎡である。これらの建物以外は検出されず、周辺は撹乱を受けており、他に建物が存在するかは不明である。また、付属するような他の遺構も検出されていない。時期としては、黒色土器が出土しており、12世紀後半頃と考えられる。

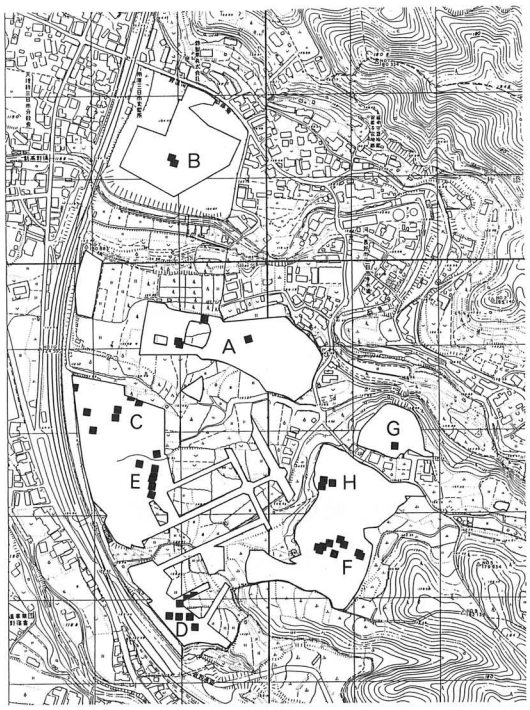
［Ｃグループ］１地区のＳＢ１・２・３・４・７・８・82、４地区のＳＢ29の８棟である。時期的には、ＳＢ１・７・82がⅢ－１の瓦器を出土している。ＳＢ１はこのグループでは最大の規模をもち（119㎡）、ＳＢ２とＳＡ１の柵列を伴っている。また、ＳＡ７とＳＢ82はセット関係を持ち、周囲に溝が見られる建物と考えられる。同地区内のＳＢ６は他の建物と比較して、柱穴内の遺物から時期が遡りⅡ－２の瓦器が出土していることから、時期的には、他の建物とはグループとして別のものである。

このＣグループの南側に近接して、４地区には、土壙墓ＳＲ６・７が位置し、さらに距離的にはやや離れるがＳＲ８が位置している。また、墳墓と考えられる集石ＳＵ６・７が位置する。

［Ｄグループ］４地区のＳＢ43・44・45・48・49・50である。いずれも、主軸方向がほぼ同一である。柱穴内からは図示可能な遺物は出土していないが、時期的にはⅢ－１～３のようである。この中で、ＳＢ43・44は主軸が同一方向、他は１度違いで、同一方向を示している。このことから、２つの小グループに分けることが可能である。しかし、時期的な前後関係は不明である。

また、ＳＢ45は大型の建物（88㎡以上）で、北側にＳＡ５の柵列を伴っている。また、ＳＢ46の南側にもＳＡ６の柵列が走っている。

［Ｅグループ］４地区のＳＢ28・30・33・34・35・37の６棟であり、時期的にはⅣ－２からⅣ－



第322図　掘立柱建物配置模式図

4の間である。各建物を時期的に細分してみると、ＳＢ34・30が先行し、ＳＢ28・33、ＳＢ35と続くようである。ＳＢ34にはＳＥ３がＳＢ28にはＳＥ２が付属するようである。

また、ＳＢ28には周囲に溝が巡っている。

［Ｆグループ］３地区のＳＢ63・65・66・67・69・70・72・75・76の建物で、主軸方向が同方向でほぼ同規模建物で形成されている。すべてが同一時期ではなく時期差はあるようである。ただ、遺物を出土したＳＢ67・76からⅣ－４の時期頃と考えられる。また、ＳＢ65・69・72は重複している。

これらの建物に付属する遺構では、ＳＥ11・13及びＳＤ222が該当すると思われる。

［Ｇグループ］６地区のＳＢ53のみが復元されているが、ＳＸ６やＳＥ７など周囲の遺構からは瓦やＳＹ６の窯状遺構が検出されており、他の建物の存在が予想される。また、出土遺物から寺院の可能性が高い。時期的にはⅣ－１～４にかけて存在していたと考えられる。

［Ｈグループ］３地区のＳＢ59・60・61の３棟である。時期的には明確には判明していない。しかし、主軸方向から３棟はセット関係を有すると考えられる。更に接近するＳＥ９・10も付属する井戸と考えられる。

２．各建物群の変遷

これらのグループを時期的なながれで観察すると１期がＡ、２期がＢ、３期がＣ・Ｄ、４期がＥ・Ｆ・Ｇという順で大別できる。これらを１期から観察すると、１期と２期は遺跡の北側（北谷の北側）に位置し、３期と４期は北谷から南側に移り、更に、４期では中位段丘の上段にも移行する。特に４期は一番遺構の集中する時期であり、また、寺院と集落、更に、墳墓と考えられるＳＵの集石が配置され、ひとつの村落形態を代表する遺構配置である。

２．安土桃山～江戸時代

この時期の遺構は３地区から６地区に分布している。遺構は大別すると、ＳＷ４・５や池地と考えられるＮＶ５など農業用の水利施設と考えられるもの。ＳＵ12やＳＬ、ＳＮなどの墳墓と考えられるもの。そして、ＳＸ11は基段状と考えられる。更に、生産関係遺構であるＳＹ７・８の瓦窯が検出されている。

水利施設は中位段丘下段が農地と開発されることにより、構築されたものであろう。遺構の分

年代	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900
時代	平安時代			鎌倉時代		南北朝時代	室町時代		安土桃山	江戸時代	
時期区分	Ⅰ－1	Ⅰ－2	Ⅰ－3	Ⅱ－1	Ⅱ－2	Ⅱ－3	Ⅲ－1	Ⅲ－2	Ⅲ－3	Ⅳ－1	Ⅳ－2
地区別遺構分布 5地区				SB9							
2地区	SB17	SB14	SB15 SB16--NV4下層-- --NV6				NV4中層				
1地区					SB6		SB1 SB7(SD9) SB82(SD10)	SD16 SX2 --NV1-- NV2			
4地区	SK185	SK183			SD119 SD127 SK184 SK256 SK257 SK258 SK263 SK292 SK522		SD87 SR7 SR8	SD57 SD112 SK228 SK231 SK501 SR6 SU7	SB29 SD106 SK208 SK213 SK523 SU6 SY4	SK175	SB34 SE3
3地区						SR10	SD217 SE18 SK458	SE12 SK437	SE15		SE5 SE14 SK456 --NV5下層--
6地区								SK337	SE26		SB53 SD181 SE8(?)

年代	1500	1600	1700	1800	1900
時代	室町時代	安土桃山	江戸時代		
時期区分	Ⅳ－3	Ⅳ－4	Ⅳ－5		
地区別遺構分布 5地区					
2地区	SK164 SX3				
1地区					
4地区	SB28 (SD59・60) SE2 SE4 SK506 SU9	SB35 SD53 SD54 SD74 SE6 SK196 SK201 SK211 SK222 SK236 SU1～3 SU8	SD75		
3地区	SD209 SD232 SE24 SK429 SK470	SB67 (SD219) SB76 SD213 SD222 SD226 SE11 SE13 SE22 SE23 SK445 SK469 SK479 SU17 SW6	SD215 SK388 SK408 SN6・7 SL5～7 SW4	SK416 SK425 --SY8-- --NV5上層-- SW5	
6地区	SK347	SE7 SK301 SK330 SK350 SY6 SX6	SD179 SL1～4	SD177 SK357 SU12 SU14 SX12	SK305 SK310 SK311 SX11

年代	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900
時代	平安時代			鎌倉時代		南北朝時代	室町時代		安土桃山	江戸時代	
時期区分	Ⅰ－1	Ⅰ－2	Ⅰ－3	Ⅱ－1	Ⅱ－2	Ⅱ－3	Ⅲ－1	Ⅲ－2	Ⅲ－3	Ⅳ－1	Ⅳ－2
地区別遺構分布 5地区				SB9							
2地区	SB17	SB14	SB15 SB16--NV4下層--				NV4中層				
1地区					SB6		SB1 SB7(SD9) SB82(SD10)	SD16 SX2 --NV1-- NV2			
4地区	SK185	SK183			SD119 SD127 SK184 SK256 SK257 SK258 SK263 SK292 SK522		SD87 SR7 SR8	SD57 SD112 SK228 SK231 SK501 SR6 SU7	SB29 SD106 SK208 SK213 SK523 SU6 SY4	SK175	SB34 SE3
3地区						SR10	SD217 SE18 SK458	SE12 SK437	SE15		SE5 SE14 SK456 --NV5下層--
6地区								SK337	SE26		SB53 SD181 SE8(?)

年代	1500	1600	1700	1800	1900
時代	室町時代	安土桃山	江戸時代		
時期区分	Ⅳ－3	Ⅳ－4	Ⅳ－5		
地区別遺構分布 5地区					
2地区	SK164 SX3				
1地区					
4地区	SB28 (SD59・60) SE2 SE4 SK506 SU9	SB35 SD53 SD54 SD74 SE6 SK196 SK201 SK211 SK222 SK236 SU1～3 SU8	SD75		
3地区	SD209 SD232 SE24 SK429 SK470	SB67 (SD219) SB76 SD213 SD222 SD226 SE11 SE13 SE22 SE23 SK445 SK469 SK479 SU17 SW6	SD215 SK388 SK408 SN6・7 SL5～7 SW4	SK416 SK425 --SY8-- --NV5上層-- SW5	
6地区	SK347	SE7 SK301 SK330 SK350 SY6 SX6	SD179 SL1～4	SD177 SK357 SU12 SU14 SX12	SK305 SK310 SK311 SX11

第6表　時期別遺構分布表

布からみ、１・２・４地区の現水田は江戸初期頃に開発され、３・６地区は明治以降に耕地として開発されたようである。

また、６地区のＳＵ12や基段、更に近世瓦の出土と小字から寺院を想起させる。更に埋甕ＳＬ、埋桶ＳＮは墳墓と考えられ、寺院周辺に墓域が設定されていたようである。この墓域は現大塚墓地の前身と考えられる。

これら以外に瓦窯が検出されているが、特にＳＹ８からは『片瓦太』と刻印されている瓦が出土していることにより、片添村に瓦屋が存在していたという伝承を裏付けている。

第2節　総括

本遺跡の調査結果を簡略にまとめると以下の通りである。

1．縄文時代　石川流域では最上流部に位置する中期末から後期にかけての遺跡で、早期の押型文土器も出土している。

2．弥生時代　中期の住居跡が検出され、他市域においても小河川域に小集落の存在が予想される。

3．古墳時代　前期から後期までの各遺構、遺物が検出されている。特に中期の集落からの韓式系土器の出土は渡来系の人々との関係を想起させる。また、従来、市域では古墳の確認数はすくなかったが、削平された古墳の検出により、今後の市内での調査によって、未確認の古墳が発見されることが予想される。

4．古代末から中世

平安時代後期から室町時代前半にかけて、建物群が変遷していることが判明している。しかし、15世紀後半には遺構が確認されず、この時期、集落の再編があったようである。

検出された遺構の内、4期では寺院、集落、そして、墓域というひとつの集落パターンが明示されている。

5．近世

集落遺構はなく、寺院と墓域、水利関係の遺構、そして、生産遺跡である瓦窯が検出されている。これは、この時期の集落が現集落と合致し、その集落の後輩地つまり、生産の場、あるいは非日常的な場として利用されるようになった結果である。

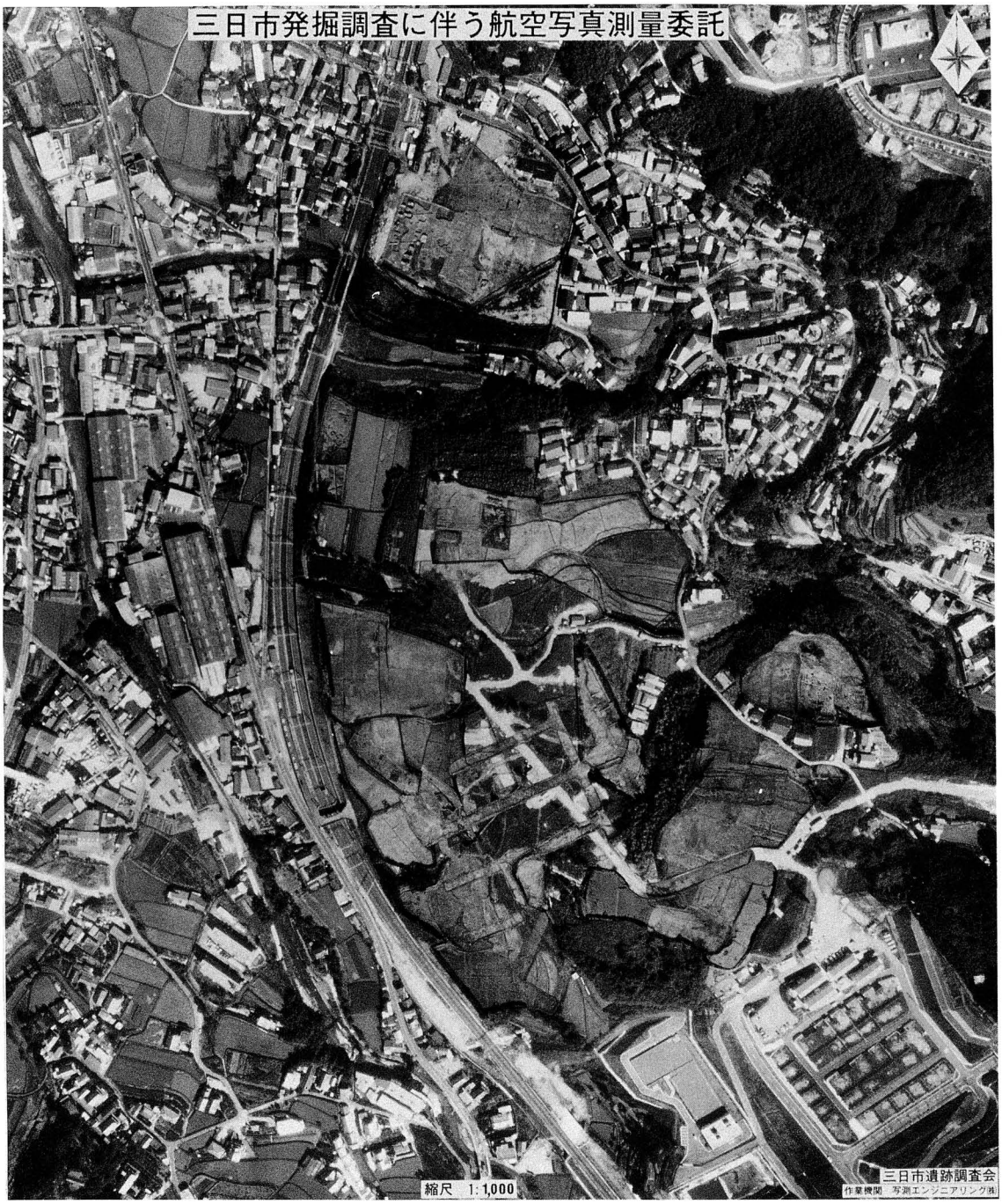
このように、当遺跡の立地が段丘上に立地していることにより、当調査以降の市内の調査においても、段丘上に注目を置き、古墳時代から中世にかけての遺跡が発見されるようになっている。

最後に本調査は昭和59年度より開始し、約61,000㎡の範囲を調査し一部地区を残して終了した。この調査結果は本報告書を含め、2冊の報告書と3冊の概報により、成果を公表することができた。

この調査で発見された多くの資料については、報告書の刊行とともに広く市民の方々、研究者の方々に活用していただくことを望むものである。

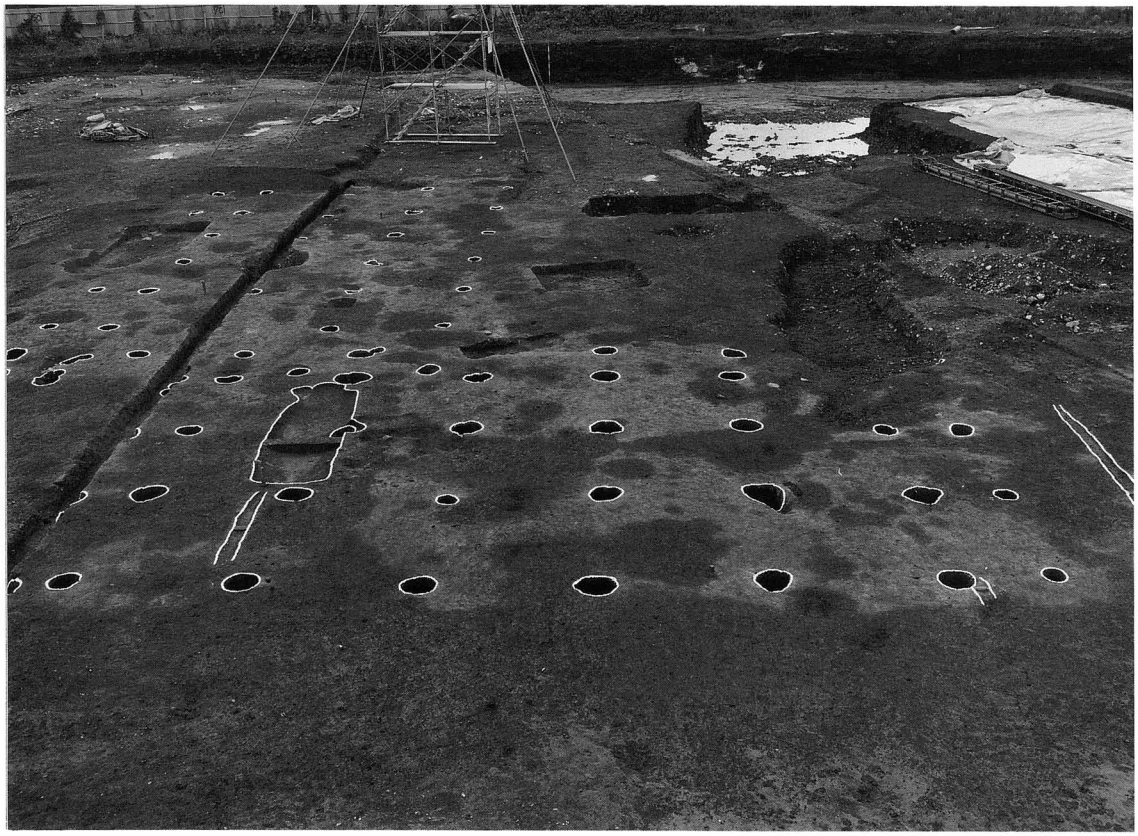
本調査報告書は、調査担当者の未熟から多くの間違いをおかしている可能性は高く、ご批判を請うものである。

図　　版

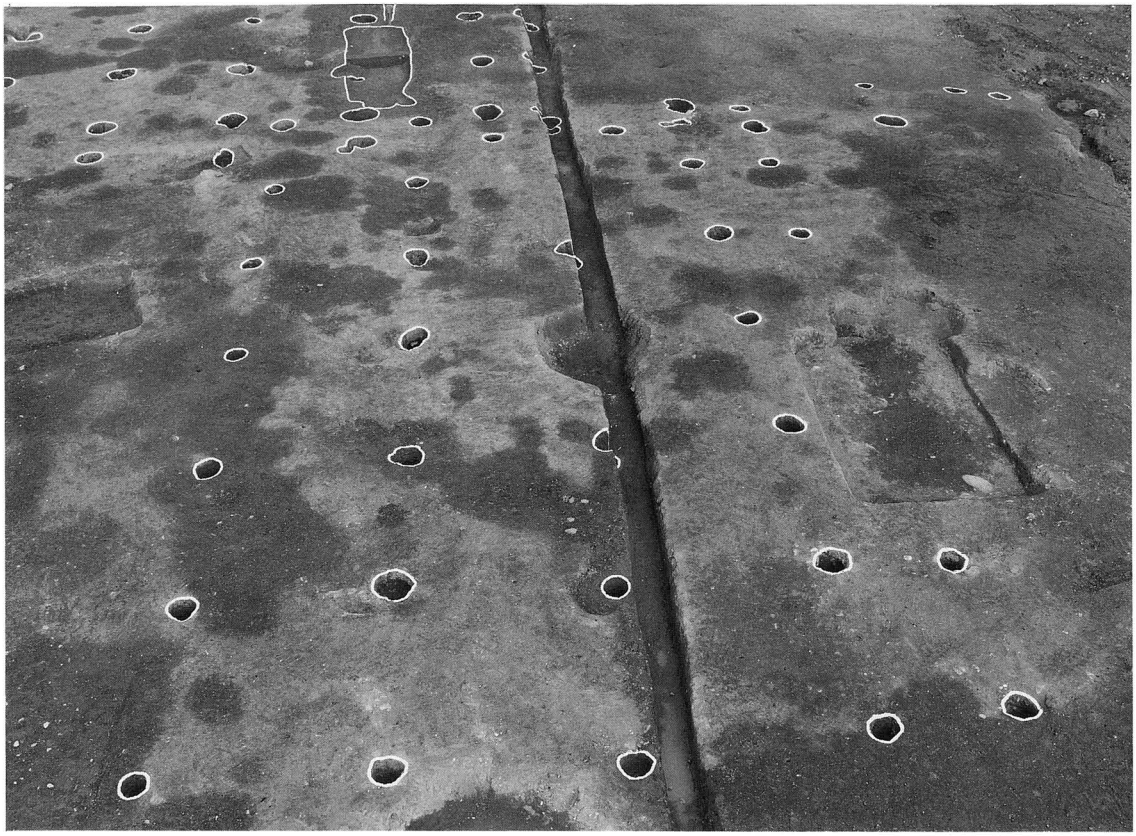


遺跡全景写真

図版2　遺構　5地区

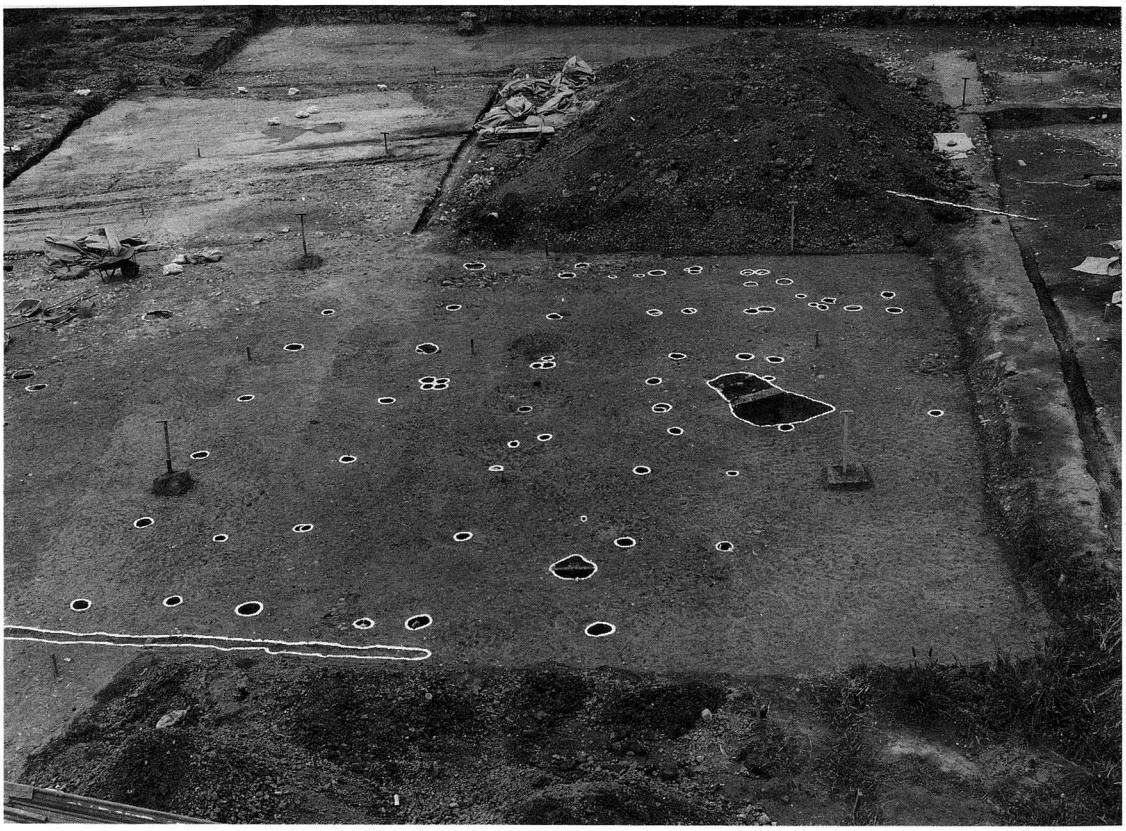


SB 9 全景（北東から）



SB10全景（南西から）

図版3　遺構　2地区



SB15・16全景（東から）

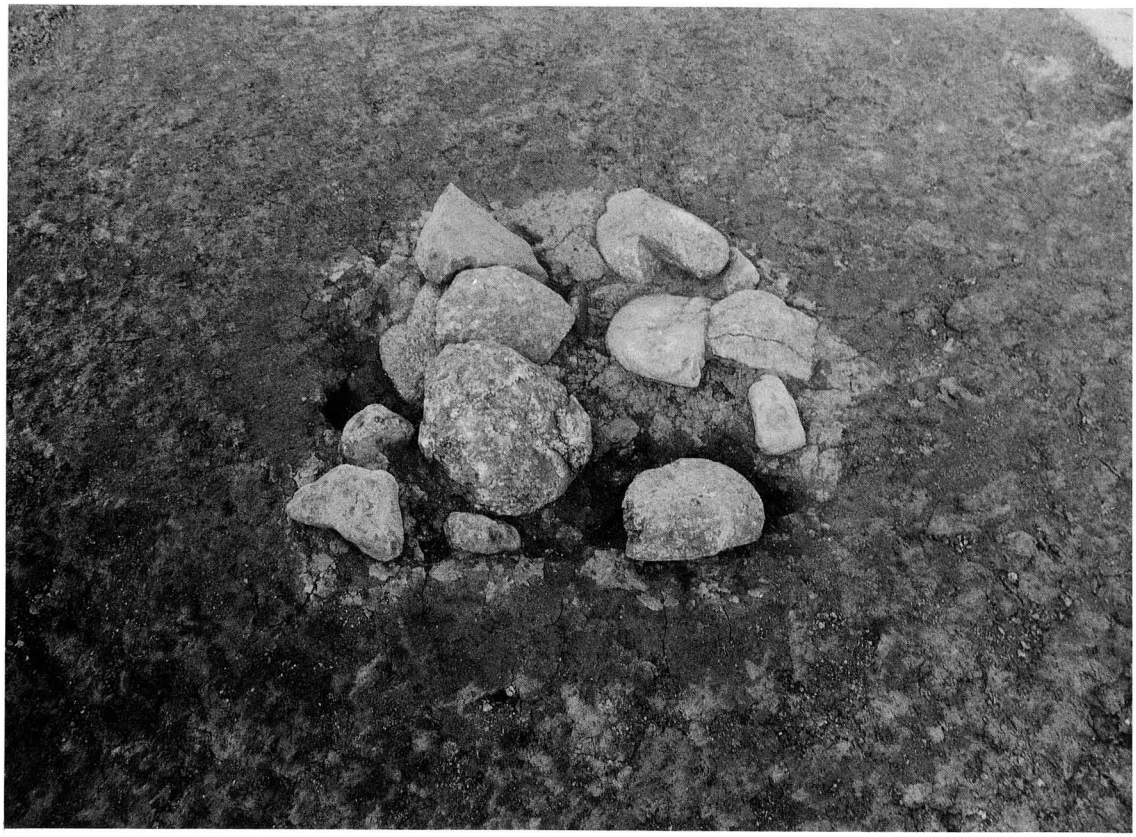
SB17全景（西から）

SB18全景（東から）

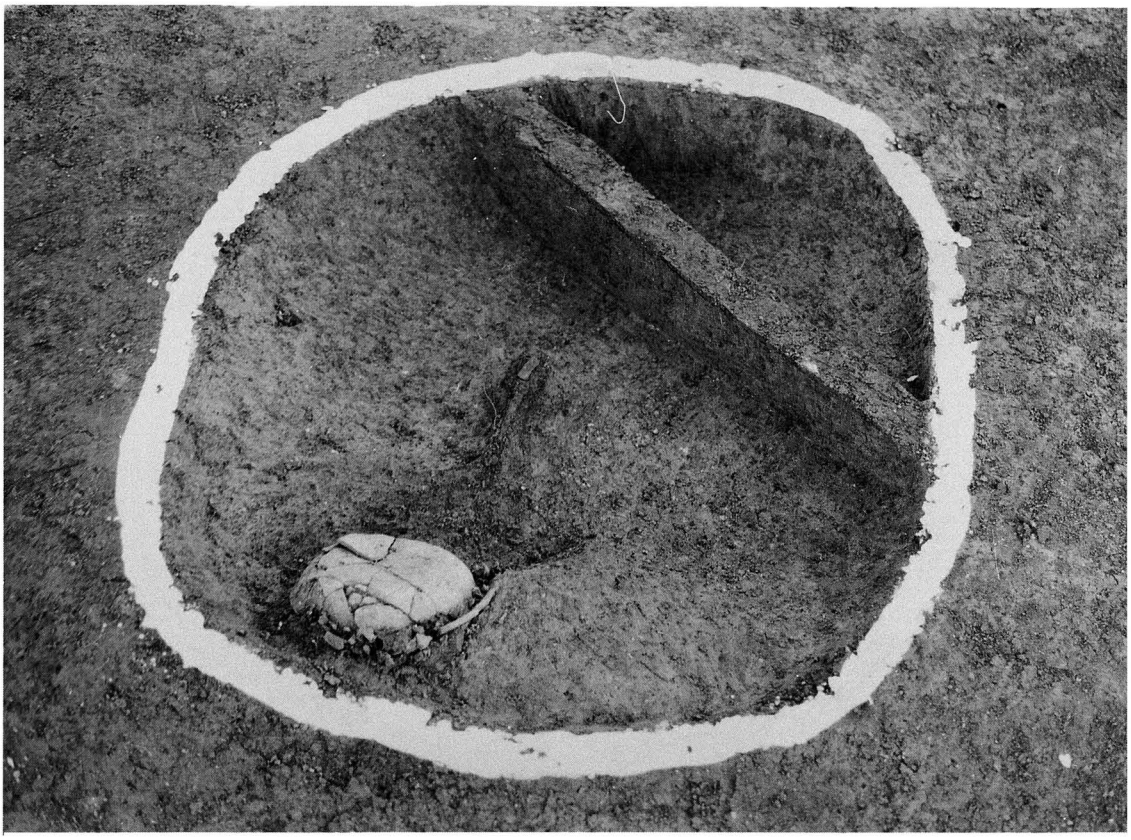
SB19全景（上が北）

図版5　遺構　2地区

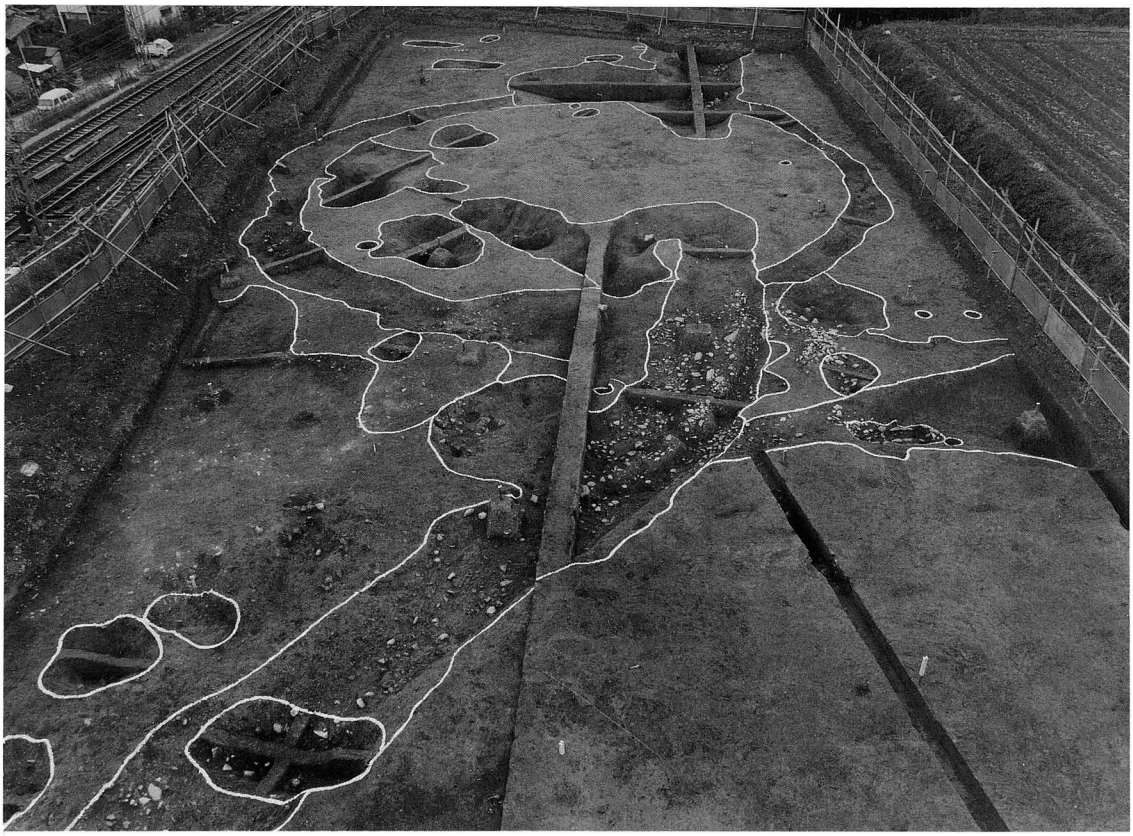
SB20・21全景（上が北）



SK158全景（南から）

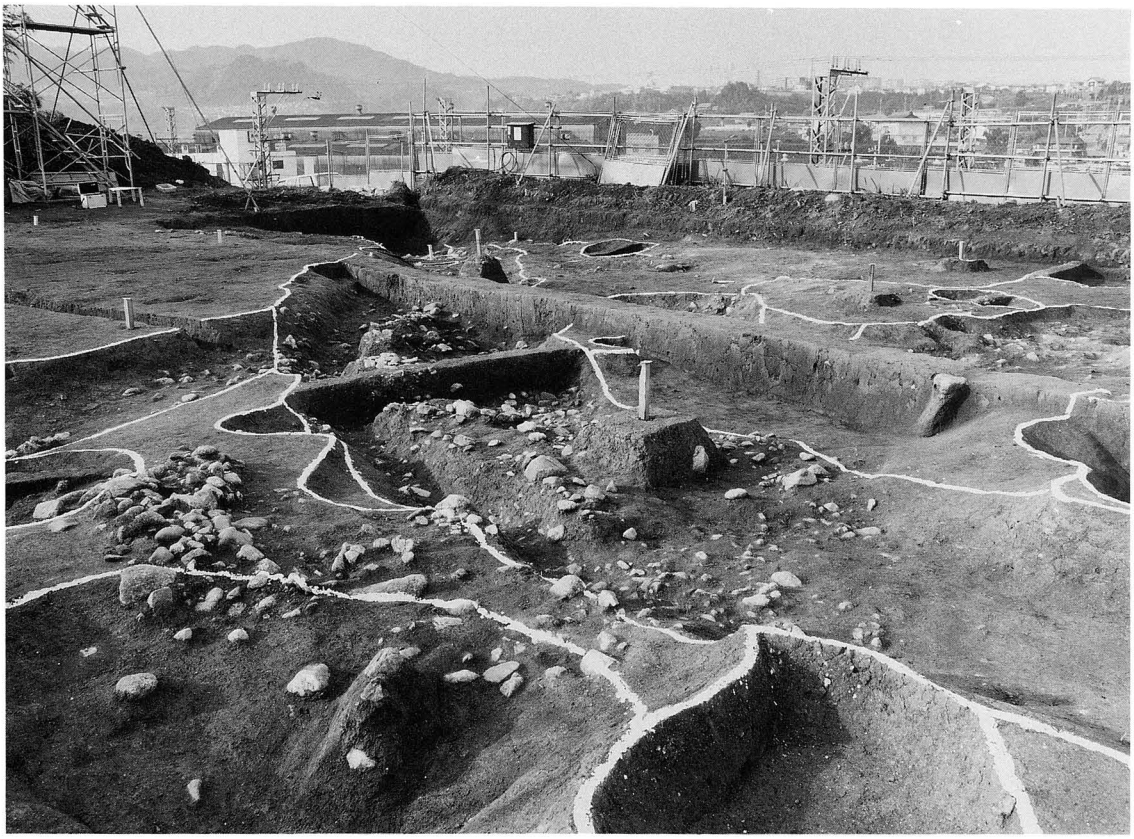


SK161全景（北西から）



SK164、SX３、NV６全景（南から）

図版7　遺構　2地区

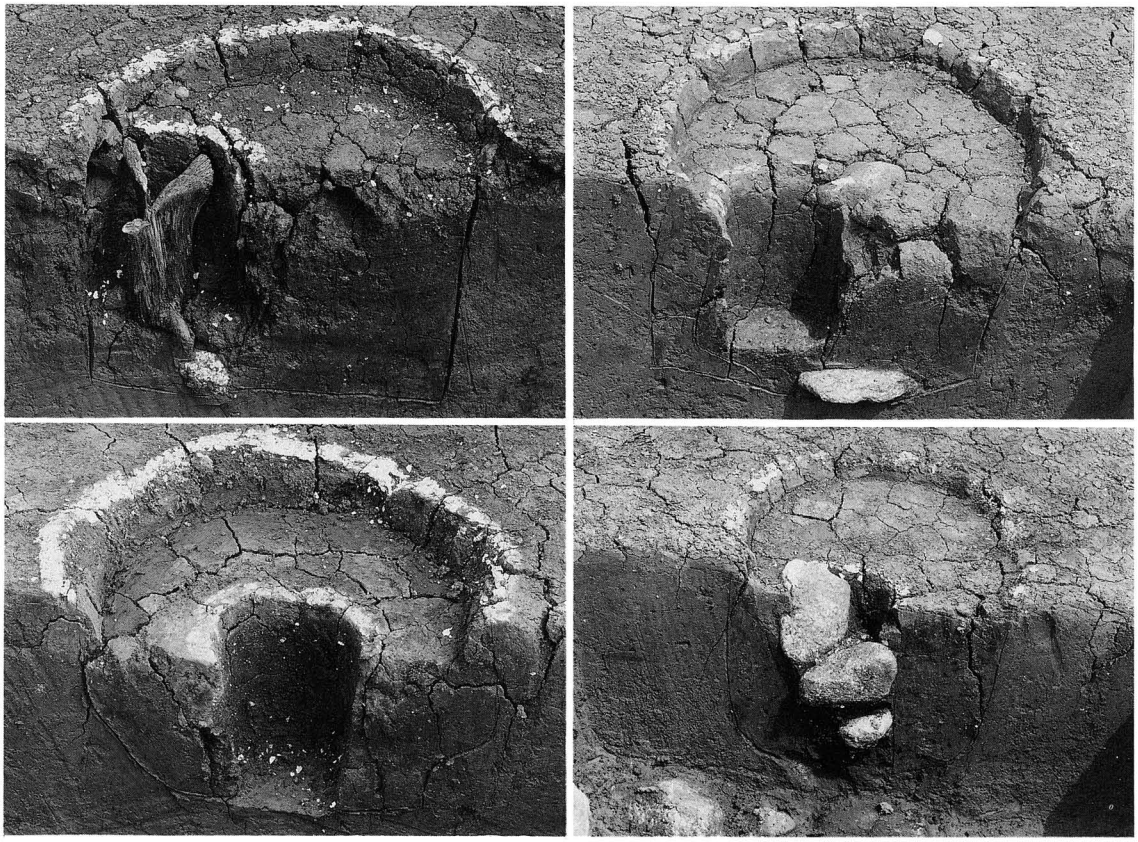


SX 3 全景（北東から）

NV 4 全景（南東から）

図版8　遺構　1地区

SB１・SB２全景（南西から）



SB１柱穴断面

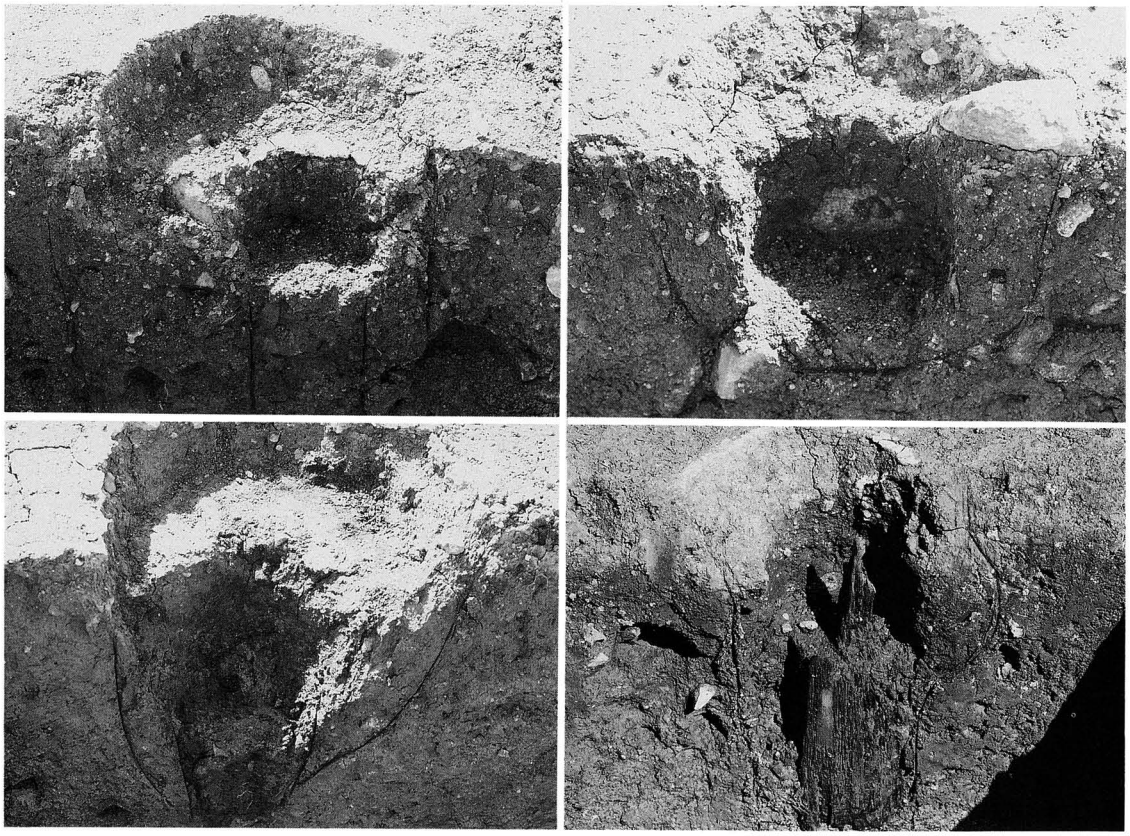
SB 3 全景（北西から）

SB 3 柱穴断面

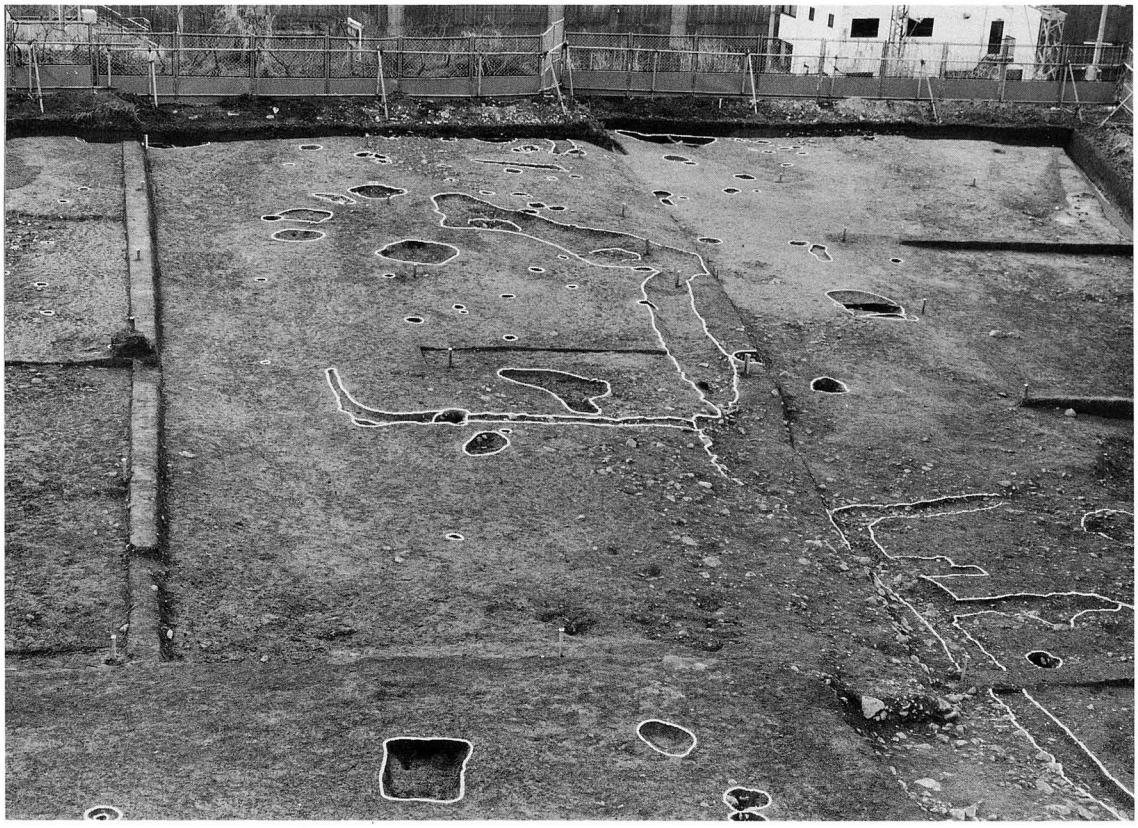
SB４全景（南から）

SB６、SD１～８・28、SK38・45全景（南から）

SB 7 ・82、SD 9 ・10全景（南西から）



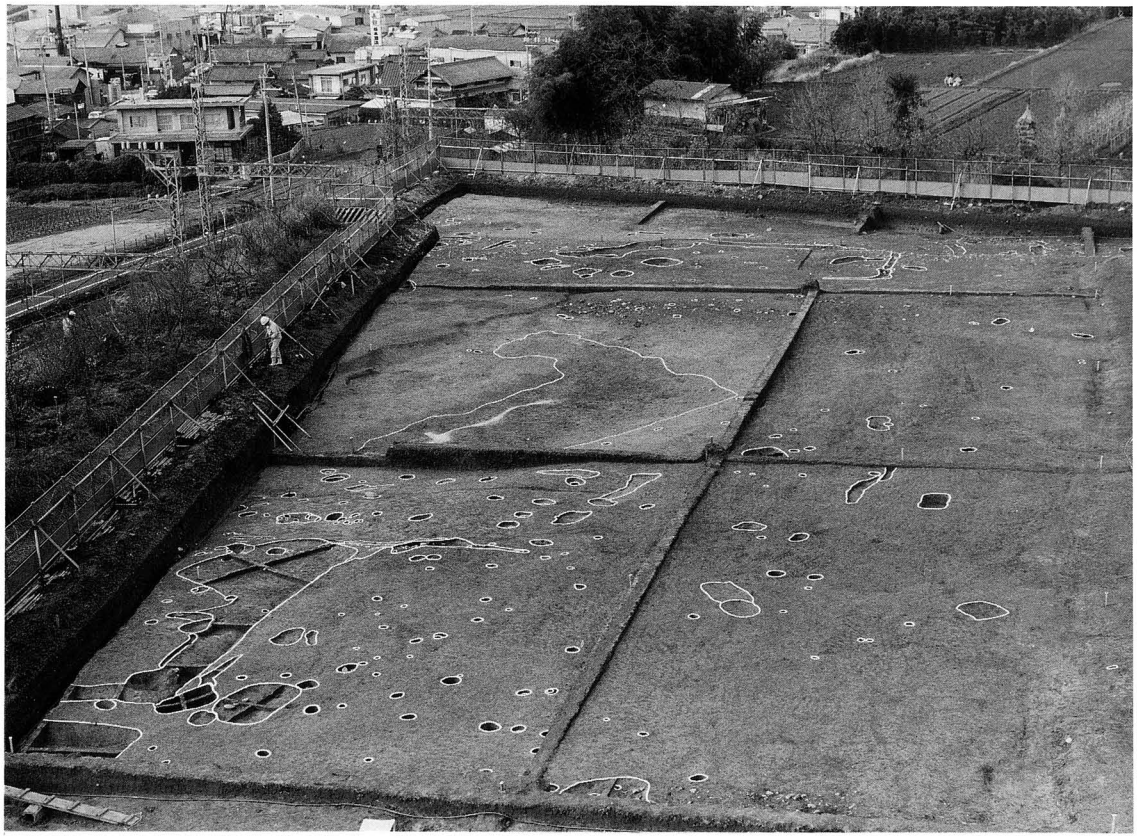
SB 7 柱穴断面



SB８、SK４～９全景（東から）

SK17～23全景（東から）

SX 2 遺物出土状況（南西から）



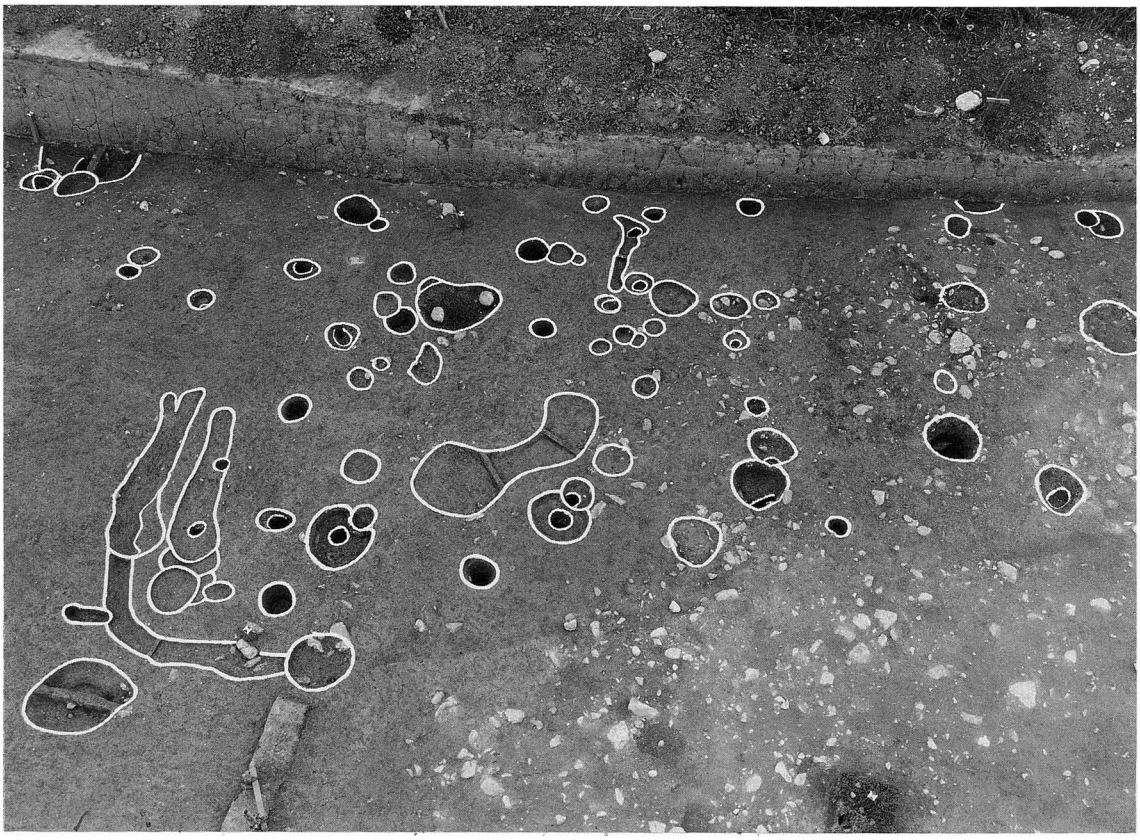
SD16、NV 1 全景（南から）

SB25・80全景（北東から）

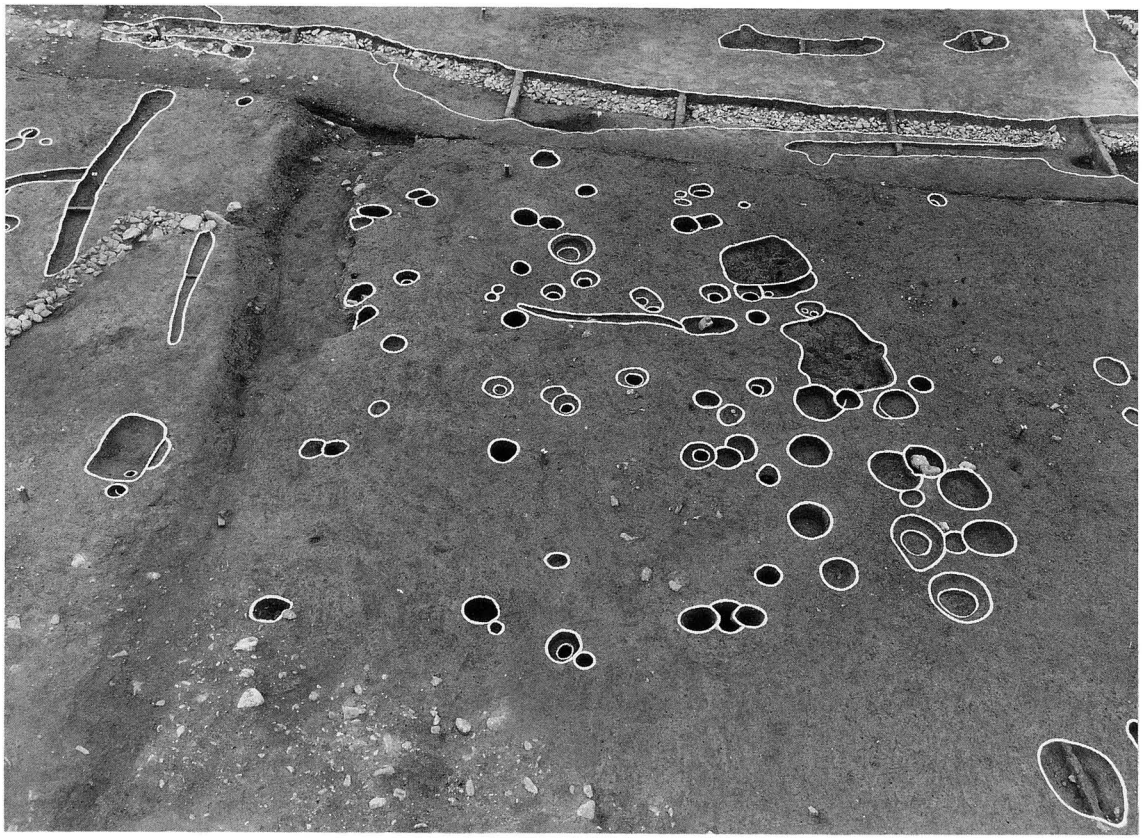
SB28、SD57・59・60、SE２、SK196～198全景（東から）

SB26全景（北から）

SB26柱穴断面



SB29全景（南東から）



SB30、SK206全景（東から）

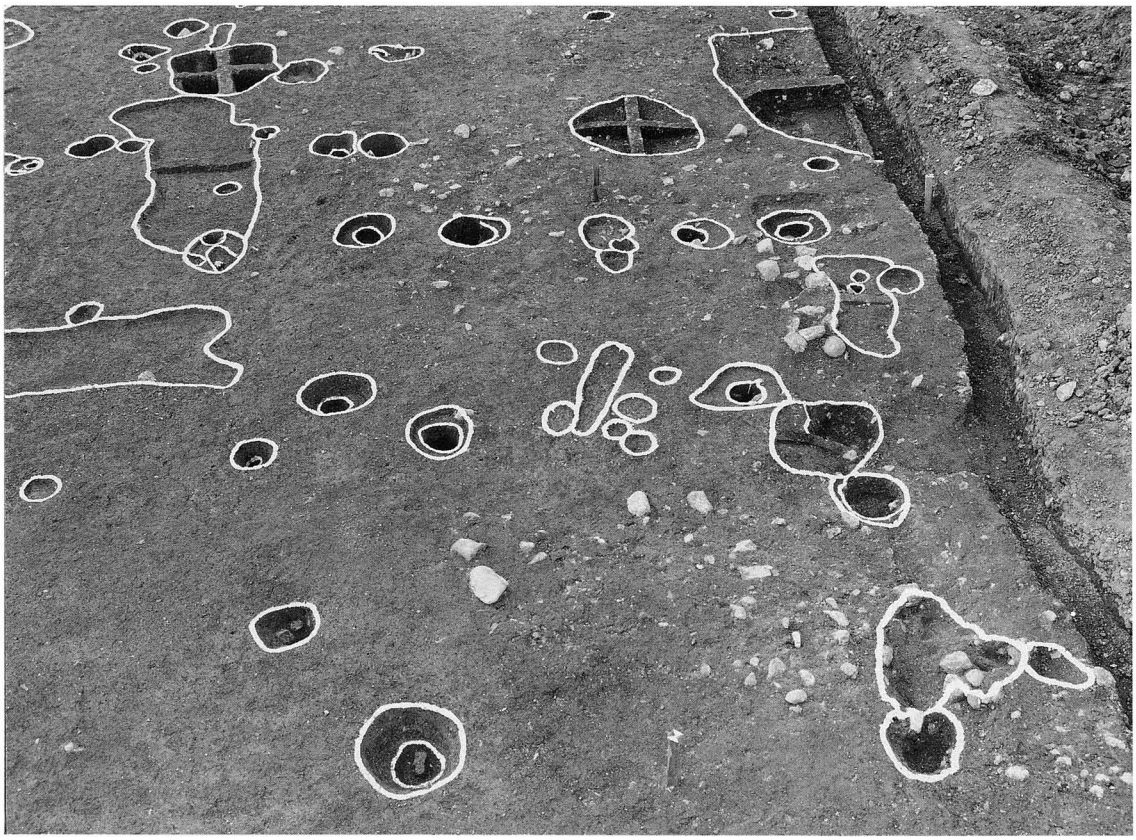
SB33～35・37、SD74・75、SE３～５、SK208・210～213全景（北東から）

SB34－Ｐ１土器出土状況

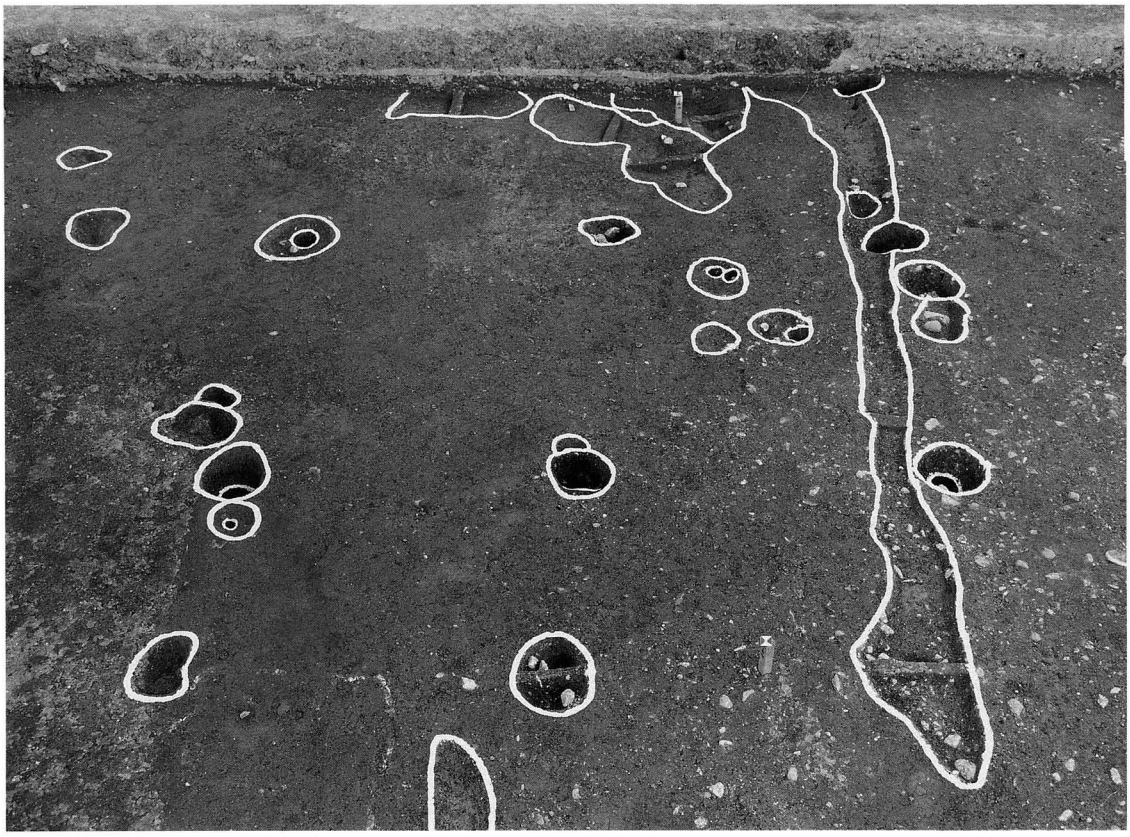
SB41全景（北東から）

SB42全景（北から）

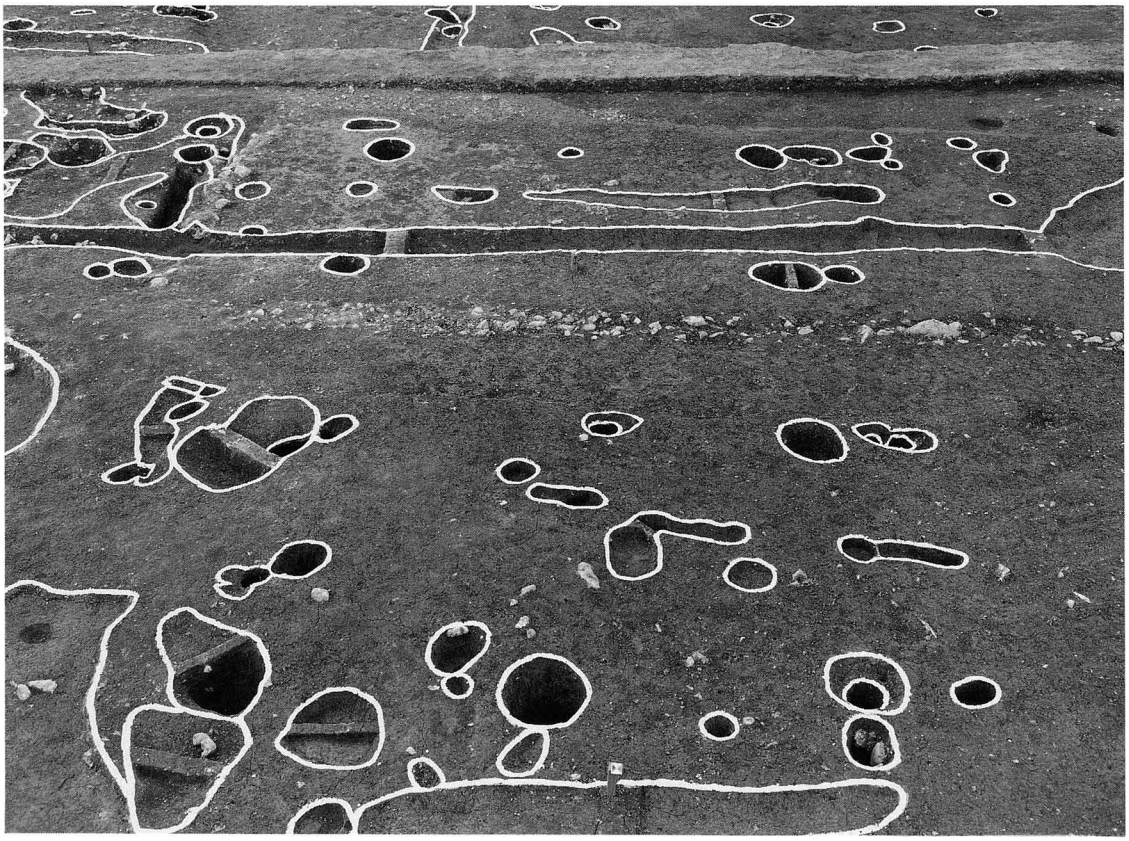
SB43・44、SD119・121、SK263全景（南西から）



SB46、SK294全景（東から）



SB48全景（西から）



SB49全景（東から）